

2019年度（平成31年度）

履修の手引き 授業概要（シラバス）

首都大学東京 大学院

人間健康科学研究科

（博士前期課程・博士後期課程）

(目 次)

| | | |
|-----|---------------------------|----|
| I | 人間健康科学研究科の概要 | |
| 1 | 研究科設置の理念・目的 | 3 |
| 2 | 組織構成 | 4 |
| 3 | 修了要件 | 5 |
| 4 | 修業年限及び在学期間 | 5 |
| 5 | 長期履修制度 | 5 |
| 6 | 授与する学位 | 6 |
| 7 | 履修方法 | 6 |
| 8 | 休学/復学/退学/除籍/出席停止及び授業料の取扱い | 7 |
| 9 | 試験と不正行為について | 8 |
| 10 | 単位の認定及び学修の評価 | 9 |
| 11 | 成績問合せ | 9 |
| 12 | 院生室 | 9 |
| 13 | 諸規定の確認 | 9 |
| 14 | 交通機関運休の場合の取扱い | 9 |
| 15 | 分野横断プログラム | 10 |
| 16 | 大学院全学共通科目（大学院キャリア開発プログラム） | 10 |
| 17 | その他（各種届出・証明書関係） | 10 |
| II | 教育課程の方針・編成 | |
| 1 | 研究科の特色 | 15 |
| 2 | 各学域の理念・特色 | |
| 1) | 看護科学域 | 19 |
| 2) | 理学療法科学域 | 21 |
| 3) | 作業療法科学域 | 23 |
| 4) | 放射線科学学域 | 24 |
| 5) | フロンティアヘルスサイエンス学域 | 25 |
| 6) | ヘルスプロモーションサイエンス学域 | 27 |
| 3 | 研究・履修の進め方 | 28 |
| III | 各課程各学域別教育内容 | |
| 1 | 首都大学東京大学院全学共通科目 | |
| | 全学共通科目 | 33 |

| | | |
|----------------------|-----------|-----|
| | a) 授業概要 | 34 |
| 2 博士前期課程人間健康科学専攻 | | |
| 専攻共通科目 | | 37 |
| 1) 看護科学学域 | a) 授業科目一覧 | 41 |
| | b) 履修モデル | 43 |
| | c) 授業概要 | 46 |
| 2) 理学療法科学域 | a) 授業科目一覧 | 77 |
| | b) 履修モデル | 79 |
| | c) 授業概要 | 81 |
| 3) 作業療法科学域 | a) 授業科目一覧 | 102 |
| | b) 履修モデル | 104 |
| | c) 授業概要 | 105 |
| 4) 放射線科学域 | a) 授業科目一覧 | 128 |
| | b) 履修モデル | 129 |
| | c) 授業概要 | 132 |
| 5) フロンティアヘルスサイエンス学域 | a) 授業科目一覧 | 148 |
| | b) 履修モデル | 149 |
| | c) 授業概要 | 150 |
| 6) ヘルスプロモーションサイエンス学域 | a) 授業科目一覧 | 161 |
| | b) 履修モデル | 162 |
| | c) 授業概要 | 163 |
| 3 博士後期課程人間健康科学専攻 | | |
| 1) 看護科学学域 | a) 授業科目一覧 | 177 |
| | b) 履修モデル | 178 |
| | c) 授業概要 | 179 |
| 2) 理学療法科学域 | a) 授業科目一覧 | 189 |
| | b) 履修モデル | 190 |
| | c) 授業概要 | 191 |
| 3) 作業療法科学域 | a) 授業科目一覧 | 200 |
| | b) 履修モデル | 201 |
| | c) 授業概要 | 202 |
| 4) 放射線科学域 | a) 授業科目一覧 | 211 |

| | | |
|----------------------|-------------|-----|
| | b) 履修モデル | 212 |
| | c) 授業概要 | 213 |
| 5) フロンティアヘルスサイエンス学域 | a) 授業科目一覧 | 222 |
| | b) 履修モデル | 223 |
| | c) 授業概要 | 224 |
| 6) ヘルスプロモーションサイエンス学域 | a) 授業科目一覧 | 229 |
| | b) 履修モデル | 230 |
| | c) 授業概要 | 231 |
| IV | 教員一覧 (担当科目) | 237 |
| V | 関係諸機関 | 261 |

I 人間健康科学研究科の概要

I 人間健康科学研究科の概要

1 研究科設置の理念・目的

1) 大学院設置の理念・目的

首都大学東京が立地する大都市東京は、人口の稠密性などアジアの諸都市に共通する特徴を有するとともに、「大都市」が抱える様々な問題が世界に類を見ない規模で先鋭的に現れている。

「大都市」に着目した高度な教育研究を推進し、「大都市における人間社会の理想像の追求」を実現することが、首都大学東京大学院の使命である。「大都市」が抱える課題に取り組み、高度な専門性を活かして大都市で活躍する人材を育成することは、アジアをはじめとする世界の諸都市の課題解決に貢献するばかりでなく、都市問題の影響が地球規模で急速に拡大している今日において、人類全体が抱える諸問題の解決に貢献することにもなる。また、このことが、大都市東京を象徴する大学としての特徴と存在意義を世界に示すこととなる。

とりわけ、「都市環境の向上」「ダイナミックな産業構造を持つ高度な知的社会の構築」「活力ある長寿社会の実現」という3つの課題に、大学院の教育研究活動を通じて、重点的に取り組む。

一方、大学院という教育研究機関として、これらの取組の成果を、アジアをはじめとする世界に発信するとともに、次の世代へ継承していくためには、学術の体系化に取り組むことが不可欠である。これまで培われてきた人文科学、社会科学及び自然科学の各学術分野における基礎的基盤的な教育研究をさらに深化・発展させることは、「大都市における人間社会の理想像の追求」という大学の使命実現に向けた取組を強固な土台として支えることにもなる。

そのため、首都大学東京の大学院は、大学の使命と3つの重点課題に対応した視点と、学術の体系化の視点とを有機的に結合させることで、総合大学としてのメリットを生かす構成となっている。

2) 人間健康科学研究科の位置づけ

首都大学東京の大学院は、時代に適合した教育研究を展開しその使命を実現するために、常に社会のニーズを意識し、その変化や要請に弾力的に答えながら教育研究活動を展開していく。また、これまでの学問領域を超えた先端的・学際的な教育研究分野に対応するとともに、社会のニーズに応じて教育研究分野の見直しに取り組んでいく。

そのため、本学大学院の研究科組織の構築にあたっては、従来の教育研究分野の枠組みを超えて、機動的・弾力的に教育研究活動を展開することができるよう、学部とのつながりや社会的通用性に配慮しながらも、専攻組織をできるだけ大括り化することとした。

特に、本学が取り組む使命と課題に最も密接に対応した研究科である人間健康科学研究科については、社会状況の変化によりフレキシブルな対応を行うため、教育面でも研究面でも分野間の緊密な連携・融合が可能であり、弾力的に教育研究領域の改編が可能な1専攻構成とし、その中に教育課程・研究分野の括りとして「学域」を置くこととした。

3) 人間健康科学研究科の教育研究上の理念・目的

① 基本理念

人間健康科学研究科は、大都市で生活する人々の「健康」をテーマとし、その研究・教育を通じて「健康」に寄与し、活力ある長寿社会の実現を目指す。

② 目的

ア 博士前期課程

人間健康科学研究科博士前期課程は、実践的及び研究的な観点から人間健康科学を教授研究し、基礎的な研究遂行能力と幅広い教養、深い専門知識を培い、高度実践的専門家及び研究者を育成することを目的とする。

イ 博士後期課程

人間健康科学研究科博士後期課程は、多角的な観点から人間健康科学を教授研究し、高度専門知識と国際的にも通用する自立した研究能力を培い、先端的研究者及び各分野の指導的人材を養成することを目的とする。

修了後の進路としては、大学等の教育研究者、企業・研究機関等における研究者、医療現場における指導者・管理者、行政機関における専門管理職等が考えられる。また、本研究科では、社会人特別選抜を実施し、荒川キャンパスでは昼夜にわたる開講を行うなど、社会人が勤務を継続しながら研究できる環境を提供し、当該勤務先でリーダーとして活躍することも充分期待される。

2 組織構成

人間健康科学研究科は、学際・融合的な教育研究に柔軟に取り組むとともに、社会のニーズにフレキシブルに対応するため、1専攻構成とする。

人間健康科学専攻には、別表のとおり「人間健康科学」を構成する6つの学域を設け、各学域の深化と融合により、実践分野と基礎研究分野の両面から人間健康科学にアプローチする。

これにより、身体及び精神の健康に関する研究の一貫性を確保し、教育研究を通じて、都民生活に対し、効率的に様々な貢献を行うことができる。また、この弾力的組織形態により、異なる学域・分野間の意思疎通を図り有機的・融合的な教育研究活動を推進することが期待できる。さらに、大学院への進学を希望する学部生や社会人に対しては、幅広い選択肢を示すことにもなる。

また、上記に加え、ヘルスプロモーションサイエンス学域では、学部教育における当該分野の副専攻や、オープンユニバーシティの各種プログラムの学術的背景を支え、履修学生や受講者の大学院進学先として、その教育研究の機会を提供することにも貢献することができる。

カリキュラムの編成においては、専攻内の多様な学域・分野を学生のニーズにあわせて分野横断的に組み合わせ、社会的ニーズにも即応できるようにする。

<別表>

| 学域 | 開講 キャンパス | 入学定員 | | 収容定員 | |
|-------------------|-------------|--------|--------|--------|--------|
| | | 博士前期課程 | 博士後期課程 | 博士前期課程 | 博士後期課程 |
| 看護科学域 | 荒川 | 10名 | 4名 | 20名 | 12名 |
| 理学療法科学域 | | 17名 | 5名 | 34名 | 15名 |
| 作業療法科学域 | | 10名 | 4名 | 20名 | 12名 |
| 放射線科学域 | | 21名 | 6名 | 42名 | 18名 |
| フロンティアヘルスサイエンス学域 | | 4名 | 2名 | 8名 | 6名 |
| ヘルスプロモーションサイエンス学域 | 南大沢 | 8名 | 4名 | 16名 | 12名 |
| 合計 | | 70名 | 25名 | 140名 | 75名 |

3 修了要件

1) 博士前期課程の修了要件

人間健康科学専攻に2年以上在学し、所定の授業科目について30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格しなければならない。

(1単位は、講義では15時間、演習・特別研究では30時間とする。)

ただし、在学期間に関しては、特に優れた研究業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。

なお、人間健康科学専攻前期課程のうち、看護科学域の専門看護師(CNS)コースを選択する者については、上記の修了要件に代えて、2年以上在学し、所属教育研究分野が指定する科目について34単位以上を修得し、さらに特定の課題についての研究の成果を提出し、かつ、審査及び最終試験に合格することを修了要件とする。

2) 博士後期課程の修了要件

人間健康科学専攻に3年以上在学し、所定の授業科目について14単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格しなければならない。

(1単位は、講義では15時間、演習・特別研究では30時間とする。)

ただし、在学期間に関しては、特に優れた研究成績を上げたものについては、1年以上在学すれば足りるものとする。

4 修業年限及び在学期間

博士前期課程の標準修業年限は2年とし、博士後期課程の標準修業年限は3年とする。

博士前期課程の在学期間は4年を、博士後期課程の在学期間は6年を、超えることができない。

5 長期履修制度

学生が、職業を有している等の事情により、大学院学則が定める標準修業年限(博士前期

課程は2年、博士後期課程は3年)内での修業が困難と大学が認める者で一定の期間にわたる計画的な履修計画を持つ者に対し、その計画的な履修を認める制度である。長期履修の在学期間は、入学時から起算して博士前期課程は3, 4年のいずれか、博士後期課程は4, 5, 6年のいずれかとする。申請の時期は4月入学の者については2月上旬、10月入学の者については7月上旬を予定しており、翌年次からの適用となる。詳細は別途掲示する。

1) 在学生の適用申請

在学生においても、入学後の職場事情の変化等、特別な事情がある場合に中途の申請を認める。申請の時期は4月入学の者については2月上旬、10月入学の者については7月上旬を予定しており、翌年度(ただし、年度とは、毎年当該学生の入学月の初日から起算した1年間とする)からの適用となる。在学生の申請は、博士前期課程1年次、博士後期課程1, 2年次において行う。詳細は別途掲示する。

2) 入学時に長期履修を認められた者の履修計画の変更(長期在学期間の短縮)

申請後の状況改善により、当初の計画よりも学修が進捗する見込みが生じた場合は、審査の上、1回に限り履修計画変更(長期在学期間の短縮)を認める。

なお、期間を短縮できるのは1年単位であり、適用を希望する年度の前年度(ただし、奇数期の休学をした者については、前々年度)までに申請する必要がある。このため、期間短縮と同時に修了というケースは認められない。

また、短縮が認められた場合、申請年度内に短縮後の年間授業料との差額を支払う必要がある。

6 授与する学位

各課程を修了した者には、専門とする学域によって次表のとおり学位を授与する。

| 学域 | 博士前期課程 | 博士後期課程 |
|-------------------|---|---|
| 看護科学域 | 修士(看護学) Master of Science in Nursing | 博士(看護学) Doctor of Philosophy in Nursing Science 博士(学術) Doctor of Philosophy |
| 理学療法科学域 | 修士(理学療法学) Master of Science in Physical Therapy | 博士(理学療法学) Doctor of Philosophy in Physical Therapy 博士(学術) Doctor of Philosophy |
| 作業療法科学域 | 修士(作業療法学) Master of Science in Occupational Therapy | 博士(作業療法学) Doctor of Philosophy in Occupational Therapy 博士(学術) Doctor of Philosophy |
| 放射線科学域 | 修士(放射線学) Master of Science in Radiological Science | 博士(放射線学) Doctor of Philosophy in Radiological Science 博士(学術) Doctor of Philosophy |
| フロンティアヘルスサイエンス学域 | 修士(健康科学) Master of Health Science 修士(学術) Master of Science | 博士(健康科学) Doctor of Philosophy in Health Science 博士(学術) Doctor of Philosophy |
| ヘルスプロモーションサイエンス学域 | 修士(健康科学) Master of Health Science | 博士(健康科学) Doctor of Philosophy in Health Science 博士(学術) Doctor of Philosophy |

7 履修方法

1) 学生は、毎年度、その学年に履修しようとする授業科目につき、予め指定された方法に従い受講を申請し、その承認を得なければならない。

2) 申請は原則として、前期(4月)と後期(10月)の2回に分けて行う。

| 申請時期 | 申請科目 |
|------------------|--|
| 前期(4月)に履修申請するもの | (1)前期(4月～9月)に開講する科目 (2)通年(4月～3月)で開講する科目 |
| 後期(10月)に履修申請するもの | (1)後期(10月～3月)に開講する科目 |

3) 履修手続きは原則としてWebにより申請する。アクセスするには、ID・パスワードが必要となる。IDは学修番号(8ケタ)、パスワードは入学手続き時に「誓約書兼学生原簿」に記入した数字(4ケタ)である。詳細は、「首都大学東京事務情報システムHP」で確認すること。

URL <http://www.comp.tmu.ac.jp/joho/>

Web申請を行わない科目がある場合には、別途掲示により周知する。

4) 次に掲げる事項は重複履修とされ、禁止されている。

① 既に単位修得した授業科目を再び履修申請すること

② 同じ授業科目を同じ年度に複数申請すること

例えば、本研究科では「昼夜開講制」を導入しているため、同一の授業科目を昼・夜の時間帯に1コマずつ配置している。どちらか一方のみ履修申請をすること。

5) 学生は原則として専攻科目を履修するが、指導教員が必要と認めるときは、その指定する授業科目を学生に履修させることができる。

授業科目は次の二種類に区別される。

・「専攻に準ずる科目」…対象は博士前期課程のみ。指導教員が必要と認めるときは、10単位以内に限り、修了要件に充当することができる。

・「関連科目」…修了要件に充当できない。博士後期課程の学生が、本専攻の博士前期課程科目を履修する場合もこれに該当する。

これらの科目の履修申請は、窓口申請とする。(「大学院生の他研究科・学部授業科目履修」)申請の時期は、前期及び通年科目は4月上旬、後期科目は10月上旬となる。詳細は別途掲示する。

6) 大学院生が教員免許状申請のために学部の授業を受講する場合は、上記5)とは別の所定の手続きが必要である。毎年4月上旬に手続方法を掲示するので、受講希望者は手続きもれないように注意すること。

8 休学/復学/退学/除籍/出席停止及び授業料の取扱い

休学・復学・退学の申請は、原則として休学・復学・退学しようとする日の1ヶ月前までに窓口にて、保証人・指導教員連署捺印の様式を提出し、申請すること。

1) 休学

① 疾病その他の理由により、引き続き6カ月以上修学することができない者は、「休学願」(本人・保証人・指導教員の署名捺印要)を提出して許可を得て休学することができる。

② 病気を理由とする休学願には医師の診断書を添付しなければならない。

- ③ 休学は1年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、1年の範囲内で休学期間の延長を認めることができる。
- ④ 休学期間は、課程ごとに通算して3年を超えることができない。
- ⑤ 休学期間は、修業年限により在学すべき年数に算入しない。
- ⑥ 休学期間は、在学期間に算入しない。
- ⑦ 休学者は原則として留年となるが、次の要件を満たしている場合は、進級となる。

| | | |
|------------|---------------|-------------------------|
| 年次 在学期間 | 1年次 12ヶ月以上 | 2年次 ※博士後期課程のみ 24カ月以上 |
|------------|---------------|-------------------------|

2) 復学

休学期間が満了したとき又は休学期間中にその理由がなくなったときは、「復学願」(本人・保証人・指導教員の署名捺印要)を提出して許可を得て復学することができる。

3) 退学

- ① 退学しようとする者は、「退学願」(本人・保証人・指導教員の署名捺印要)を提出して許可を得て退学することができる。
※「博士後期課程に3年間在学し、専攻の授業科目について14単位以上修得する見込だが、論文の提出を見送り、満期退学を希望する」場合も同様。
- ② 在学年限を超えた者、休学期間を超えてなお復学できない者、著しく非違行為を行った者については、教授会の議を経て、退学を命ずる。

4) 除籍

授業料の納付を怠り、督促してもなお納付しない者は、教授会の議を経て、学長が除籍する。

5) 出席停止

- ① 授業料を定められた期日までに納付しない者
- ② 伝染病若しくは伝染性の疾病にかかったり、かかっている疑いがある場合、又はかかるおそれのある者。

6) 授業料の取扱い

- ① 休学期間中の授業料は免除する。ただし、前期又は後期の途中において休学又は復学する場合は、休学又は復学した日の属する期分の授業料を納付しなければならない。
- ② 退学を許可され、又は命じられた者及び除籍された者は、その日の属する期分の授業料は納付しなければならない。

9 試験と不正行為について

試験受験にあたっては、厳正に受験しなければならない。万一不正行為があった場合は、規則に基づき処分の対象となる。

また、レポート等を作成する場合は、資料として使用したものの出典を明記すること。明記せず大半を引用した場合は、不正行為と同等の処分となるので、注意すること。

10 単位の認定及び学修の評価

履修授業科目の単位の認定は、毎学期又は毎学年末に行うものとする。学修の評価は、原則として5段階評定とし、上位4段階までを合格とする。

| 成績表示 | 成績証明書の表示 | | 単位 | 程度 |
|------|----------|-------|----|--------------------------------------|
| | (和文) | (英文) | | |
| 5 | 優(秀*) | A(S*) | ○ | 非常に優れている |
| 4 | 優 | A | ○ | 優れている |
| 3 | 良 | B | ○ | 普通 |
| 2 | 可 | C | ○ | やや劣る |
| 1 | 表示せず | 表示せず | × | 劣る |
| 0 | 表示せず | 表示せず | × | 評価の対象にならない (既修得単位認定等で) 認定されている |
| 6 | 認 | AP | ○ | |

*平成28年度入学生から対象

11 成績問合せ

人間健康科学研究科提供科目を履修している在籍学生及び科目等履修生は、成績評価について問い合わせを行うことができる。問い合わせを行う者は成績通知公布日から2週間以内に所定の様式に記入し、所属キャンパスの人間健康科学研究科教務係窓口に提出すること。回答は1カ月以内に当該教務係から伝えられる。

12 院生室

院生室は共同利用であることを認識し、学内ルールに従って利用すること。

13 諸規定の確認

以下リンクを参考に、常に最新のもの参照すること。

<http://education.joureikun.jp/tmu/>

14 交通機関運休の場合等の取扱い

1) 荒川キャンパスの場合

- ① 6:00から8:50までの間で、ストライキ、天候等により、次の交通機関のいずれかが運休している場合には、第2時限まで(8:50～12:00)休講とする。
 - ・JR山手線(内回り及び外回り)並びに京浜東北線の都区区間
 - ・東京メトロ千代田線の全線
 - ・京成本線の上野～京成八幡
 - ・日暮里・舎人ライナーの全線
- ② 前項に定めるほか、通学に著しい支障をもたらす状況が生じている場合、又は生じることが予想される場合には、次に掲げるところにより休講等を決定し、掲示等により周知する。

<休講を決定する時間>

第1時限～第2時限については、6:00までに決定する。なお、前日中に翌日の休講を決定する場合がある。
- 第3時限については、10:30までに決定する。
- 第4時限については、正午までに決定する。

第5時限以降については、14:00までに決定する。

＜休講の周知方法＞

構内掲示板に掲示し、首都大学東京Twitter(https://twitter.com/tmu_pr)及び健康福祉学部のホームページ(<http://www.hs.tmu.ac.jp/>)等で周知する。

③ 定期試験等についても、授業と同じ扱いとする。事後措置については、別途措置することがある。

2) 南大沢キャンパスの場合 ※主に、ヘルスプロモーションサイエンス学域学生が対象。

① 午前6時現在、京王相模原線・京王線、JR横浜線、小田急小田原線のいずれかが運休している場合は、第1時限～第2時限(8:50～12:00)を休講とする。

② 前項に掲げる各路線及び小田急多摩線、JR南武線・中央線・山手線、多摩モノレールのいずれかの全部又は一部の運休など、通学に著しい支障をもたらす状況が生じている場合、若しくは生じることが予想される場合には、その都度休講等を決定する。

＜休講を決定する時刻＞

第1時限～第2時限(8:50～12:00)については、午前6時までに決定する。

第3時限～第4時限(13:00～16:10)については、午前10時までに決定する。

第5時限～第6時限(16:20～19:30)については、午後1時までに決定する。

③ 定期試験等についても、授業と同様の扱いとする。別途、事後措置を行うことがある。

(注)「運休」とは、テレビ及びラジオ等により当該路線の全線の運転休止が確認されているものをいう。

15 分野横断プログラム

2019年(平成31年)4月1日以降にヘルスプロモーションサイエンス学域博士前期過程に入学する正規学生は、分野横断プログラムを履修することが可能である。詳細は、4月に行われる「分野横断プログラム」の履修ガイダンスで説明される。

16 大学院全学共通科目(大学院キャリア開発プログラム)

大学院生のキャリア開発を目的として、大学教育センターにより提供される科目であり、履修対象者は全研究科の大学院生(博士前期課程・博士後期課程)である。

ただし、このプログラムの科目履修により修得した単位は、課程修了に必要な単位数に含めることはできない。授業内容等の詳細はシラバスを参照すること。

17 その他(各種届出・証明書関係)

- 学生証は、常に携帯すること。
- 学生への連絡は、全て掲示により行うので、掲示板を常に確認すること。また、一部の情報はメールにより伝達する場合もあるため、大学から付与されたメールアドレスは、自宅でも受信可能とし、パスワードも180日毎に変更して管理すること。
- 氏名・住所・電話番号・本籍地・保証人氏名・保証人住所・保証人電話番号が変わったとは、学務課に届出ること。(内容により、戸籍抄本等が必要な場合がある。)
- 証明書や公印受領の手続については以下の通り。

| 証明書等 | 発行手続先 | 受取 |
|--|--|------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・在学証明書(和文) ・成績証明書(和文) ・修了見込証明書(和文) ・学生旅客運賃割引証 *1 ・健康診断証明書(和文) *2 | <p>学務課前 自動発行機で各自発行 *3 発行機稼働時間(土日祝は使用できません) 荒川学務課前:8時30分から20時00分 理系学務課前:授業期間)9時00分から18時15分 授業期間外)9時00分から17時30分 ※学生証と、キャンパススクエアのパスワード(180日毎に変更管理要)が必要です</p> | 即時 |
| <p>自動発行機で発行出来ないもの全般</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英文の証明書 ・各種公印受領 *4 ・推薦書・紹介状等 *4 ・授業料納入済証明書 ・授業料金額証明書 ・学部の卒業証明書(和英) *5 ・学部の成績証明書(和英) *5 ・前期課程の修了証明書(和文) *6 ・前期課程の成績修了書(和文) *6 | <p>荒川キャンパス 学務課にて「証明書交付願」「推薦状等交付願」「施設見学等依頼文申請書」「大学院実習依頼文申請書」等の該当する用紙を受取り、指導教員等の確認印を得た上で、学生証を添えて窓口に依頼 *7</p> <p>※ヘルスプロモーションサイエンス学域院生の証明書等も発行は荒川キャンパスで行います。申請書は荒川キャンパス学務課の他、理系学務課ヘルスプロモーションサイエンス学域担当でも受付及び受取が可能です。証明書の到着までに3~7日程度を要します。お急ぎの場合は切手を貼付した返信用封筒を併せて提出してください。 (参考)1通当たりの重さ 証明書・・・5g / 厳封する証明書用封筒・・・6g</p> | 証明内容により、2日~7日 *8 |

*1:一人当たりの発行枚数に制限あり(超過する場合は荒川キャンパス学務課窓口に出ること)

*2:学内で実施する健康診断を受診した場合のみ発行可能

*3:自動発行機で発行した証明書類の厳封(封入)が必要な場合は窓口に出ること

*4:提出先から様式・書式を提示されている場合は必ず添付すること

*5:首都大学東京(保健科学大学、医療技術短期大学を含む)の卒業生が学部在学時の卒業証明書等の発行を申請する場合、1部400円の発行手数料がかかります

*6:前期課程から引き続き後期課程に進んだ学生が前期課程の証明書等を申請する場合に限り発行手数料無料

*7:成績証明書、修了(見込)証明書等の申請には教員の確認印は不要

*8:特殊な証明書を申請する場合、更に時間を要する場合がありますので早めに申請すること

Ⅱ 教育課程の方針・編成

Ⅱ 教育課程の方針・編成

1 研究科の特色

1) 本学大学院の教育研究の特色

〔1〕大学院における教育機能の強化

大学院における教育の主な目的は、学術の理論及び応用を教授研究して、創造性豊かな研究者を養成することと、高度な専門的知識・能力を有する人材を育成することにある。このうち、近年その重要性が指摘されているのは、後者の人材育成機能である。例えば、最近の学校基本調査によれば、大学院修士課程修了者のうち、人文科学系で3割、社会科学系で5割、理学系で6割、工学系で8割の者が就職をしている。社会・経済の複雑化・専門化や、大学院の多様化・一般化により、課題解決力と専門的知識を有する職業人、技術者、経営者など、高度な知的社会の基盤を支える幅広い人材が求められている。

首都大学東京が立地する大都市東京では、これらの人材育成に対する要請は一層強いものとなっている。加えて、社会人のリカレント教育や留学生受入、人材育成のグローバル化に対応した取組など、大都市、国際都市としての多様な人材が求められている。首都大学東京大学院は、こうした人材育成ニーズに応えるため、教育機能の強化に取り組む。

一方、研究者養成の面でも、体系的な教育プログラムと高度な教育研究活動を行うことにより、世界に通用する拠点となることを目指すことが求められている。

① 教育課程の体系化

各研究科・専攻においては、育成する人材像・主な進路、博士前期・後期各課程の趣旨・目的に照らし、課程修了までのプロセスを明確にし、体系的な知識の修得と専門分野の訓練、技術の修得とのバランスのとれた教育課程編成に取り組む。

② 魅力ある教育プログラムの展開

大学院全体の教育課程の体系化により、総合大学としてのメリットを生かすとともに、各研究科・専攻において、実践的な研究プロジェクトに学生を参加させるプロジェクト型演習、幅広い視野を養うための他専攻科目の履修の推奨、科学的な思考法や研究の方法論を身につけさせるための共通科目や学際的な共通科目の設定など、工夫を凝らして魅力ある教育プログラムを展開する。

また、連携大学院や大学間協定等に基づく単位認定など、東京に集積する多様な教育研究機関等や都政との連携により、学外資源も積極的に活用しながら、東京のメリットを活かした教育プログラムを構築する。

なお、各研究科・専攻の特性にあわせて、学部の早期卒業制度や大学院における修業年限の短縮なども組み合わせながら、学部の学士課程から大学院博士前期課程まで一貫して体系的に履修できる仕組みを順次導入していく。

③ 社会人の受入

各研究科・専攻の特性にあわせて、大学院設置基準第14条による教育方法の特例を実施し、社会人のリカレント教育ニーズに応える。

〔2〕首都大学東京の大学院としての特色ある教育研究の推進

I-1-1) で述べた大学院の設置の趣旨、教育研究上の理念に基づく教育研究活動に重点的に取り組むことで、特色ある教育研究を推進する。

特に、大学の使命に関わって「都市環境の向上」「ダイナミックな産業構造を持つ高度な知的社会の構築」「活力ある長寿社会の実現」を3つの重点課題として掲げ、各研究科の教育研究活動を展開する。

これらの課題には、対応する研究科（都市環境科学研究科、システムデザイン研究科、人間健康科学研究科）のみが取り組むものでなく、学問体系に沿った3つの研究科（人文科学研究科、法学政治学研究科、経営学研究科、理学研究科）にあっても、基盤的な学問分野における教育研究を推進する中で、取り組んでいく。

① 先端的・学際的教育研究の展開

大都市の現実の課題は、研究科・専攻の構成や従来の学問体系とは無関係に複雑かつ多面的に発生する。「大都市における人間社会の理想像を追求」し、教育研究の効果をより高いものとしていくためには、これらの枠組にとらわれることなく、社会のニーズ、時代の変化に応じて、機動的・弾力的に対応することが求められる。

このため、首都大学東京大学院は、人文科学、社会科学、自然科学など、幅広い分野を備える総合大学としてのメリットを活かし、研究科を超えて戦略的に、先端的・学際的な教育研究を推進する。また、専攻横断的な時限的研究プロジェクトを設定し研究科全体で支援するなど、構造的に専攻横断的な先端的・学際的な教育研究を展開できる仕組みを導入する。

② 実践的教育研究手法の導入

大都市東京を壮大なひとつの実験場と捉え、常に現場を意識し、実用・実践からの学術の発展を図る。このため、東京に集積する企業、試験研究機関等との連携により、実際の課題を対象とした共同研究・共同プロジェクトを積極的に推進する。

また、学生教育の面においても、問題発見能力や企画・立案・マネジメントなどの実践能力を涵養する上で、実際の課題解決に即した教育研究を体験することは有効である。このため、各専攻において、共同研究プロジェクトへの参加やテーマに沿ったプロジェクトベースの実験・演習等を積極的に取り入れる。

③ 産学公連携及び都政との連携の推進

東京都が設立団体である公立大学法人の大学として、研究成果を積極的に社会に還元することは、首都大学東京に課せられた大きな役割の一つである。また、東京都と連携し、都庁が持つ組織基盤を活用できることは、他の大学にはない大きな強

みとなる。加えて、医療や健康行政の現場が抱える課題に直に触れることによる大学の教育研究自体の活性化など、様々な点で産学公連携や都政との連携を推進するメリットは大きい。

産業界等との連携については、首都大学東京の産学公連携センターの「コーディネーター」を中心に、大学の研究シーズと企業のニーズをマッチングさせる機会を増やすことにより、大学と企業だけでなく試験研究機関を含めた産学公連携による共同研究を推進し、新産業の創出や新技術の開発等に取り組む。

また、東京都各局と首都大学東京及び都の試験研究機関との具体的な連携を実現するために設置する「連携施策推進会議」を通じて、都民の健康増進や疾病予防、環境問題、治安、まちづくりなどの都政が抱える様々な課題を解決するためのシンクタンクとしての役割を果たす。

これらの活動を大学院における教育研究にフィードバックすることで、教育研究を活性化するとともに、試験研究機関、博物館、美術館等の施設・資源を積極的に活用していく。

2) 人間健康科学研究科の特色

〔1〕教育課程編成の考え方及び特色

専攻内の6つの「学域」が提供する教育課程を学生のニーズに応じて分野横断的に組み合わせることで、各学域の交流を活発にしながら、多角的な視点から「人間健康科学」を理解し、多様な考え方や手法を修得させる。これにより、柔軟な発想と幅広い教養、深い専門知識、総合的な判断力を身につけることができるようにする。

〔2〕その他教育研究上の特色

① 連携大学院等

連携大学院協定に基づき、東京都が設置する各研究機関や都立病院をはじめとする保健・医療・福祉関連施設と臨地教育研究協力体制を築き、東京における健康科学分野における教育研究環境を活用する。

② 高度実践専門家の育成

高度実践専門家の育成には、研究科全体で取り組むが、その一環として、特に看護科学域において専門看護師育成コース（CNSコース）を、理学療法科学域において国際徒手理学療法コースを、作業療法科学域においては福祉用具プランナーコースを、放射線科学域において理工系学部又は大学院出身者等も視野に入れた医学物理士養成のための医学物理士コースを併設する。

③ 昼夜開講制等

保健医療福祉従事者のキャリアアップまたは生涯教育への志向は極めて高い。また、健康科学の研究は実践に関連し、研究結果を実践にフィードバックしながら研究が深化する学問領域である。本研究科においては、実務経験が豊富で鋭い問題意識を有する社会人の旺盛な研究意欲に応えるため、その受け入れを積極的に推進する。

また、これら職業を持つ社会人に十分な教育研究の機会を提供できるよう、大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例を導入し、講義や演習を、昼夜を通じて開講する。また、一部の学域では夜間や土曜日の開講も行う。

〔3〕 大学院設置基準第14条による教育方法の特例の実施について

高度・先進医療の進展に伴い、保健医療の現場で活躍する看護師等並びに専門学校等の教員にとっても、これに対応するための新しい知識や技術の再教育とともに新しい課題を、自立して研究できる能力が求められており、大学院への進学を希望するものが多い。

こうした中で、本研究科の前身である大学院保健科学研究科においては、生涯教育的な機能を重視した「開かれた大学院」としてリカレント教育の推進を挙げ、現に就業中の看護師等の「仕事と勉学の両立」という大学院への進学に際しての希望に応えるため、講義や演習を、昼夜を通して開講した。

本研究科においても、荒川キャンパス開講科目については、保健医療現場の看護師等にとって必要な分野であることを踏まえ、従来の保健科学研究科と同様に昼夜を通して開講する。なお、そのために次のような条件を整えている。

① 授業の実施方法並びに履修指導及び研究指導

授業は、6時限（18:00～19:30）及び7時限（19:40～21:10）の夜間にも、昼間の時間帯と同様に開講し、昼間、夜間いずれの授業のみの選択でも修了できるようにする。また、履修指導及び研究指導についても学生の便宜を配慮し、授業時間と同様に昼間・夜間を通じ指導できるようにする。

② 図書館等施設の利用

図書館荒川館の主な開館時間は、授業期間中の平日は9:30から21:30、土曜、日曜（7月、1月、2月）は9:30から17:00までとなっている。館内には静謐な閲覧席、グループ利用が可能なコミュニケーションスクエア等がある。また、無線LANの使用が可能で、ノートPCの貸出サービスも提供している。大学全体の蔵書は、インターネットから蔵書検索システム（OPAC）で検索することができる。インターネット上のサービス“マイライブラリ”から、自身の利用状況の確認や、他キャンパス及び他大学の資料の取り寄せなどのサービスを利用することができる。医療系に特化した視聴覚資料や電子ジャーナル、データベースを提供しており、リモートアクセスが可能な電子ジャーナル等もある。（開館時間を含む利用の詳細は荒川館HPを参照のこと。）

2 各学域の理念・特色

人間健康科学研究科は、学域ごとに次のような理念をもって特色ある教育研究に取り組む。

1) 看護科学域

〔1〕理念および特色

ア 理念

大都市で生活する人々及び地域の「健康」をテーマとし、看護科学の研究・教育を通じて個人と集団の「健康」に寄与し、生活の質の向上と活力ある長寿社会の実現を目指す。

イ 目的

- ① 看護科学の探究
- ② 高度実践専門家の育成
- ③ 看護学の教育者・研究者の育成

ウ 特色

大都市における「健康」をテーマとする点で他の看護学研究科にない特色がある。特に、看護倫理学の高度な専門的知識の創出と判断能力の育成、地域及び医療施設における小児および認知症高齢者等へのケアに関する理論と方法の開発、行政と連携したケアシステムの開発を行う能力の育成などのプログラムが、他の大学院にはない特色である。

特に、博士前期課程においては、看護倫理・管理学分野（看護倫理学、看護管理学）、育成期看護学分野（助産学、リプロダクティブヘルス看護学、小児看護学）、成熟期看護学分野（成人看護学、高齢者看護学）、広域看護学分野（在宅看護学、公衆衛生看護学、地域精神看護学、国際看護／医療人類学）のうち、いずれかの分野で修士論文を作成する。なお、小児看護学、及び在宅看護学の分野では、専門看護師を目指すためのプログラム（CNS養成プログラム）を設けている。CNS養成プログラムでは、特定の課題についての研究成果の審査をもって修士論文の審査に代えることができることとする。

また、昼夜開講制を実施することにより、昼間は病院などに勤務しながら夜間に本学で看護科学を研究できることの意義は大きく、本研究科看護科学域の特色といえる。

エ 育成する人材

博士前期課程においては、教育者・研究者の育成とともに高度な看護科学の知識・技術を有する高度実践専門家（専門看護師など）を育成する。修了後の進路としては、高等教育機関（大学、短期大学）及び看護専門学校の教員、保健・医療施設における中間管理職、専門看護師、及び医療・看護・福祉関係行政職などが挙げられる。

博士後期課程においては、看護科学の発展に寄与し、保健医療・福祉の分野で人々の「健康」に寄与する研究者、教育者のリーダーを育成する。修了後の進路

としては、高等教育機関、研究所、行政機関などが挙げられる。

〔2〕教育研究の柱となる分野

① 博士前期課程

ア 成熟期看護学

成熟期看護学の分野は、成人看護学及び高齢者看護学の内容を含む。即ち、成人期にある人々に対し、高度な知識と技術を用い倫理的な配慮を行いながら質の保証やシステムの解決を理解し、組織的に活動できる能力を有する高度実践専門家を養成する。また、看護実践の科学的基盤となる知識を創出する研究者・教育者の養成を行う。更に、高齢者看護学では、活力ある長寿社会の創出を目的とした高齢者の健康の保持・増進と各種の健康課題に対して効果的・効率的に対応できる高度実践専門家の養成と看護実践の科学的基盤となる知識を創出する研究者・教育者の養成を行う。特に介護予防を推進するために良質な認知症高齢者へのケア実践能力及びケアの質保証のためのリスクマネジメント能力を備えた看護専門職のリーダーとなる人材を養成する事を目指す。

イ 育成期看護学

この分野は、助産学、リプロダクティブヘルス看護学及び小児看護学を含む領域として、周産期の母子の健康と、女性のライフサイクル全体の健康問題に対応できる優れた教育・研究者を育成するとともに、施設内及び地域における看護専門職のリーダーとなれる看護実践専門家を育成する。特に大都市で生活する母子の健康問題を論理的に分析でき、倫理的判断や社会状況に応じたケアの開発を創出できる人材の育成を目指す。また、小児看護学は、研究者コースと小児CNSコースとの2本立てであるが、どちらも基礎として質的研究方法のトレーニングを行う点では一致している。看護学の発展に寄与できるような質的研究者、及び研究に秀で、臨床の場の看護現象を適切に把握し分析できるCNSを育成する。

ウ 広域看護学

広域看護学分野は、在宅看護学、公衆衛生看護学、地域精神看護学及び国際看護／医療人類学の内容を含む。在宅看護学では、研究課題をコミュニティ・ケアに焦点を当て、課題に関連する諸理念、理論、研究方法を学習し、課題解決のプロセス、及び実践と評価方法についても探求し、その成果を研究としてまとめる能力を養成する。またCNS（在宅看護）では、専門看護師として高度の看護実践能力を有する人材を育成する。公衆衛生看護学では、行政機関、事業所、教育機関等で展開されている公衆衛生看護実践の課題を明確にし、課題の解決に向けた実践の知見を探求する。また、根拠に基づく実践の知識や技術を創造し、リーダーシップを発揮できる人材を育成する。地域精神看護学では、科学的かつ精神看護に特有な方法を用いて、高度で効果的な実践能力を持ち、実践現場においてリーダーとなれる看護実践者や、教育・研究者としての人材を育成する。国際看護／医療人類学では、健康や病の諸問題を文化的・社会的側面から考察することを通して、看護の対象となる人びとへの多面的な視点を身に付けるとともに、フィールドワークに関する基礎知識を身に付けながら、国内外の保健医療システム、

保健医療制度、看護/医療文化の違いをまなび、看護専門職者としての役割や機能について考えることができる。

エ 看護倫理・管理学

看護倫理学では、看護学の高度な知識と技術を統合し、倫理的な配慮に基づく良質な看護サービスを効率的に提供するための基盤をなす分野として、看護倫理、看護の質保証及び看護提供システムの在り方を探究する教育研究者としての能力、及び看護実践現場において、倫理的判断能力を備え、安全を含めて看護の質を保障できる管理能力を備えた人材の育成を目指す。

看護管理学では、看護学の高度な知識と技術を統合し、良質な看護サービスを効率的に提供するための基盤をなす分野として、看護の質保証及び看護提供システムの在り方を探究する教育研究者としての能力、及び看護実践現場で、戦略的に安全を含めて看護の質を保証できる管理能力、さらには質の高い看護サービスを提供する制度・政策の確立に参画できる能力を備えた人材の育成を目指す。

② 博士後期課程

ア 成熟期看護学

成人期及び高齢期にある対象者に対する健康課題について、現象解明のための諸理念の開発及び理論構築を行う能力の育成をする。また、看護実践の科学的基盤となる知識を創出する研究者として国際的なレベルでリーダーシップを取れる人材の養成を目指す。

イ 育成期看護学

女性及び小児期にある対象者に関わる健康課題について、現象解明のための諸理念の開発及び理論構築を行う能力を育成する。また、看護実践の科学的基盤となる知識を創出する研究者として国際的なレベルでリーダーシップを取れる人材の養成を目指す。

ウ 広域看護学

地域で生活する人々の全レベルの健康問題を地域集団の視点から探究し、現象解明のための諸理念の開発及び理論構築を行う能力の育成をする。また、看護実践の科学的基盤となる知識を創出する研究者として国際的なレベルでリーダーシップを取れる人材の養成を目指す。

エ 看護倫理・管理学

医療を受ける対象者に対して、その尊厳や権利を保証するために必要なケアの特徴を明らかにし、看護における倫理的概念の開発や倫理的実践のためのマネジメント能力を育成する。また、看護実践の科学的基盤となる知識を創出する研究者として国際的なレベルでリーダーシップを取れる人材の養成を目指す。

2) 理学療法科学域

〔1〕理念および特色

ア 理念

加速的な高齢化に伴い増加する慢性疾患、生活習慣病、今後さらに必要性が増

大していく地域医療や福祉サービス、小児・成人のための各種の健康・福祉施策などに対応できる高度な専門技術を開発する。同時に、運動障害分析理学療法学・身体機能回復理学療法学・地域理学療法学に関する研究について国際生活機能分類（世界保健機関）を基に展開し、すべての人々が等しく社会参加できるように、身体の障害予防や機能回復などに関する研究の実践を目指す。さらに、国際徒手理学療法学コースにて、運動器徒手理学療法認定士(Orthopaedic Manual Physical Therapy：OMPT)を養成する。

イ 目的

- ① 理学療法科学の探究
- ② 高度実践専門家の育成
- ③ 理学療法学の教育者・研究者の育成

ウ 特色

理学療法科学域の博士後期課程を設置する大学のうち、学位記名を「博士（理学療法学）」として学位を授与する大学院は数少ない。多くは、「博士（保健学）」などの学位記名で学位授与するのが一般的である。最終的に理学療法学を目指して研究活動を展開している多くの理学療法士にとって、「博士（理学療法学）」の学位を取得できることの意義は大きい。

また、昼夜開講制を実施することにより、昼間は医療機関などに勤務しながら、夜間に本学で研究できることの意義は大きく、本研究科理学療法科学域の特色である。

エ 育成する人材

博士前期課程では主として高度専門職業人を養成し、博士後期課程では理学療法科学に関わる研究者を養成する。

博士前期課程修了者は、既に理学療法士養成校や医療機関などに勤務していることが多く、この場合、同一の職場（理学療法士養成校や医療機関・施設等）でより高度な理学療法業務に携わることができる。その後、大学教員や医療機関・施設の管理職への進路が期待できる。

博士後期課程修了者では、前期課程修了者と同様に同一の職場でより高度な理学療法業務を継続できるだけでなく、大学教員や理学療法科学に関わる研究機関への新たな進路が期待できる。

〔2〕教育研究の柱となる分野

ア 運動障害分析理学療法学

発達障害理学療法学・障害予防理学療法学・内部障害理学療法学・認知運動科学理学療法学・神経系障害理学療法学の5領域で構成され、各種疾患、各ライフステージで起こる身体運動障害を科学的に分析し、妥当性のある理学療法的評価の開発につなげる。

イ 身体機能回復理学療法学

固有受容性神経筋促通学・筋骨格系理学療法学・徒手理学療法学の3領域で構成され、小児から高齢者までの理学療法学の治療法を研究・開発する。

ウ 地域理学療法学

大都市の特異性を反映した地域理学療法学の理論・治療法を研究・開発する。

エ 国際徒手理学療法学コース

世界理学療法連盟（World Confederation for Physical Therapy；WCPT）の下部組織の1つである Federation of Orthopaedic Manipulative Physical Therapists（IFOMPT：国際徒手理学療法連盟）が認定する整形徒手理学療法認定士（Orthopaedic Manual Physical Therapist：OMPT）を養成する。その過程で徒手理学療法の基礎と治療法を研究する。また、アジアからの留学生も加え、幅広く徒手理学療法を学び、OMPT取得後それぞれの母国で徒手理学療法の普及に努める。

3) 作業療法科学域

〔1〕理念および特色

ア 理念

大都市で生活する人々の「健康」をテーマとし、その研究・教育を通じて「健康」に寄与し、活力ある長寿社会の実現を目指す本研究科の基本理念を踏まえ、心身機能、作業行動、作業生活環境といった幅広い分野の理論と実践的知見について確立された作業療法学の体系を教授するとともに、更にそれらを深化させ、これまでの学問領域にとらわれることなく、作業療法学を取り巻く学際的・融合的な教育と研究体制を構築することで、総合的な作業療法学を探究する。

イ 目的

大都市に生活する人々の「健康」に寄与するため、人の心身諸機能と個人的要因及び生活環境といった多角的で最新の知見に基づく作業療法学の知識と実践を教授することで「高度実践専門家」及び「先端的研究者」の育成をはかる。

ウ 特色

変化を続ける社会状況に対応し、新たに出現してきた健康上の問題(健康増進・障害予防)や障害構造の変化(老年期障害、特に認知症高齢者、発達障害、特に学習障害児などの軽度障害児・者の増加、及び、地域で生活する障害者の増加)に対処できる教育課程を編成している。特に、作業に焦点を当てた教育と研究を充実させて、子どもから高齢者に至るまでの多様な人々の地域参加を促進するような教育課程に重点を置いている。

エ 育成する人材

自ら問題を発見して新たな治療や援助の手法を開発研究する能力を持ち、専門職の発展のために、さらには保健医療福祉サービスの充実のために貢献する行動力を備えた高度実践専門家を育成するとともに、科学的な思考と探究力を備えた作業療法科学の教育・研究者を育成する。

修了後の進路は、病院・施設等の場でリーダーシップを発揮し中核となる職員や管理者、及び、大学・短期大学・専門学校の教員（教育に関する科目4単位を配置）や研究所の研究員となることを想定している。

〔2〕教育研究の柱となる分野

ア 心身機能作業療法科学分野

本分野は、認知作業療法学、脳機能障害支援学、児童青年発達期作業療法学、老年心理行動分析学の4領域で構成され、人間を構成する身体、精神・心理、発達の領域研究とそれぞれの学際性ならびに統合研究を行うことを目的としている。

イ 作業行動科学分野

本分野は、作業行動学、作業科学、精神作業療法学、老年地域参加支援学の4領域で構成され、臨地実践への応用やエビデンスの産出、および作業の理解に寄与する諸概念・理論を通して作業療法の可能性を探求する。

ウ 作業生活環境科学分野

本分野は、作業生活支援学、福祉機器関連適用学、生活環境分析学、作業遂行分析学の4領域で構成され、物的環境、人的環境、政策的環境、自然環境、文化的環境などが、いかにして人の作業参加を阻害・促進するのかを明らかにし、人の生活を豊かにする手だてを探求する。

4) 放射線科学域

〔1〕理念および特色

ア 理念

放射線科学の専門知識と技術の最新の知見を教授することにより、創造的かつ科学的思考に基づいた高度専門人材を育成することを目標とする。また、国際性豊かな放射線医療における実践者、教育者、研究者などの育成を目指す。

イ 目的

- ① 放射線科学の探究
- ② 高度専門人材の育成
- ③ 放射線科学の教育者・研究者の育成

ウ 特色

東京都内では国公立大学を通じて唯一の放射線科学分野の大学院である。保健科学系学部は勿論のこと、理工系学部および大学院出身者等の入学を視野に入れた医学物理士養成に対応した講義科目を設定している。当該科目では高度医療専門病院での先端医療の臨床実習が組み込まれた実践能力重視の教育を行う。また、社会人の就学支援の趣旨から昼夜開講制を採用している。

エ 育成する人材

博士前期課程においては、放射線科学の教育者、研究者、高度専門人材を育成する。修了者の進路としては、診療放射線技師養成機関の教育者、高度医療専門病院の放射線専門技師、医学物理士及び管理職などが挙げられる。

博士後期課程においては、放射線科学の発展に寄与する研究者・教育者のリーダーを育成する。修了後の進路としては、高等教育機関、研究所及び行政機関などの指導者、管理者などが考えられる。

〔2〕教育研究の柱となる分野

① 博士前期課程および博士後期課程

ア 放射線診断物理学

放射線診療における撮影・撮像技術論の基礎及び応用に関する知識を教授し、撮影・撮像技術の新たな展開を目的とした研究を行う。また、撮像描画に関連するバイオマテリアルやファントム材料あるいは造影剤などの基礎的材料特性について教授する。

イ 核医学物理学・保健物理学

核医学に関する検査技術学、物理学、RI管理学に関する理論と方法論について教授し、核医学画像の定量化を目指した核医学検査技術の研究と環境RIを含めた放射線影響に関する研究を行う。

ウ 放射線治療物理学

放射線治療に関する物理学、治療計画に関する理論と方法論を教授し、放射線治療の高精度化を目指した放射線治療物理学に関する研究を行う。

エ 医用画像情報学

医療情報学研究の今後の動向を展望し、医用情報学の基礎理論研究のプロセスと各段階における実践能力を養い、医療画像等への導入を図る研究を行う。

オ 医用画像診断学

医用画像を分析・評価し得る高度専門職業人を育成するために画像解像学及び病理学的知識をベースにした画像所見解釈法を学習し、画像医学の考え方を基礎とした画像技術学的研究を行う。

カ 放射線計測学

放射線計測学においては物理学的及び数理的観点から放射線計測学における最新の理論と方法論を教授し、放射線計測に関する応用理論、方法論について研究を行う。

キ 医用計測システム学

医用計測システムに用いられる電子計測と光計測の理論と方法論について教授し、今後の医用機器等の発展につながる研究を行う。

ク 画像診断システム学

画像診断領域における医用画像診断機器システムに関して、先端医療画像機器のシステム、性能について教授し、評価、改善方法および応用について研究を行う。

5) フロンティアヘルスサイエンス学域

〔1〕理念および特色

ア 理念

人間健康科学における諸課題に対して、先端基礎科学的研究戦略を学際的に統合して、フロンティアヘルスサイエンスを構築する。

イ 目的

- ① 人間健康科学の諸課題に対する学際的・先端基礎科学的探求

- ② 幅広い学識・高度な研究能力を有する実践的専門家の育成
- ③ 学際的・先端基礎科学的領域における高度な研究者・教育者の育成

ウ 特色

学際的・先端基礎科学的研究を積極的に推進するために、最先端の科学技術の開発・応用及びシステムのアプローチにより、本研究科の他の5学域と柔軟かつ有機的に連携を行うほか、連携大学院である東京都医学総合研究所等における最先端・総合的研究基盤を活用した教育研究を進める。

また、社会人学生の就学支援の趣旨から昼夜開講制を採用する。

エ 育成する人材

人間健康科学における諸課題に対して、学際的・先端基礎科学的研究戦略を適用し自立した研究活動を遂行し得る人材、また、高度専門的業務に要求される高度な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を備えた人材を育成する。修了後の進路としては、大学教員・研究者などの教育研究者が考えられる。

〔2〕教育研究の柱となる分野

ア 脳機能解析科学

人間の感覚・運動・記憶・注意・情動、さらにコミュニケーション・意識・ころなど、人間あるいは社会に普遍的に関わる認知機能の諸重要課題について、機能的磁気共鳴画像法(fMRI)・脳磁界(MEG)など最先端の非侵襲的脳機能計測法を駆使した認知神経科学的研究をおこない、これらの神経メカニズムを解明する。

イ 生体運動解析科学

臓器の動きの本体は筋収縮であり、制御の破綻が病態をもたらす。収縮メカニズム解明を目指した分子生物学的研究が進展しているが、生体内における収縮関連分子の挙動の理解には、構造と働きを保った臓器組織レベルでの分子の様相を知る必要がある。そこでX線回折等の手法を駆使した生理学的研究を行い、臓器組織での分子の挙動を捉え、筋肉の生理・病態生理メカニズムを解明する。

ウ 機能形態解析科学

肉眼的なレベルから分子生物学のレベルまでさまざまな研究手法を用いて、ヒトの形態と機能、構造と臨床応用および人体の病態生理の統合理解を念頭に、生命の奥秘を探求する分野である。主な課題には、脂肪前駆細胞の分布と分化能を解析し、抗肥満・抗内臓脂肪蓄積のメカニズムを解明する研究、Whole mount 免疫組織化学法での内臓全体の自律神経分布の基本原則を解明する研究、慢性膵炎・膵線維化・膵性痛みの病理病態学研究、抗がん剤による末梢神経障害の機序および予防・治療に対する研究である。

エ 地域保健活動評価論

地域保健活動評価論分野では、保健所・市町村等の地域や企業等における地域保健活動の現場において、保健統計学、量的研究方法や疫学を基礎とした科学的な手法を用い、倫理的な配慮を行って、地域保健活動の評価を効果的に実

践するための研究を行う。なお、地域保健活動には公衆衛生看護活動が含まれるが、保健的側面の強い臨床のケア関連活動も含む。

6) ヘルスプロモーションサイエンス学域

〔1〕理念および特色

ア 理念

人間と健康に関わる諸問題に関して、適応科学、行動科学、栄養・食品科学の3分野から学際的に探求し、新たな健康科学を創造・推進する。

イ 目的

健康の保持増進に関する基礎・応用研究を通して、人間と健康に関する専門的知識と高度な課題解決能力を身につける。さらに、自身の専門分野だけでなく異なる専門分野とのコミュニケーションが可能な自立した研究者および幅広い学識を有する高度専門家を育成する。

ウ 特色

人間と健康に関する諸問題の解決に向けて、学際的検討による問題の全体像把握、構成因子の作用機序の解明、因果関係の理解を基本とした科学研究を推進する。さらに、本研究科の他の5学域をはじめ、本学大学院の理学研究科やシステムデザイン研究科など他の研究科との連携を図りながら、人間健康科学の総合的研究の推進に寄与する。

また、人間と健康に関わる問題を主体的に学習しキャリア開発を目指す社会人を広く受け入れ、問題意識と創造性を新たな研究へと結実する場として、地域、組織、企業など社会・実践の場との連携、あるいは知の社会還元といった、双方向性の大学院教育を積極的に推進し、社会が提起する人間と健康の諸問題にリアルタイムに対応できる研究教育体制を構築する。

エ 育成する人材

人間と健康に関する専門的知識と高度な課題解決能力を有し、異なる専門分野とのコミュニケーションが可能な自立した研究者および幅広い学識を備えた高度専門家を育成する。

また、健康、運動、栄養に関する総合的な知見とその情報を社会に発信・受容できる指導力を持った地域社会のリーダーの育成や、現代の学校や地域社会が直面する身体とこころの問題、健康増進、栄養問題などの課題に積極的に取り組む学校教育・社会体育分野の指導的人材を育成する。

〔2〕教育研究の柱となる分野

① 博士前期課程

ア 適応科学分野

環境刺激及び運動刺激に対する身体の適応現象に関して、分子、細胞、組織を扱うマイクロなレベルから、器官や身体の構成あるいは身体全体としての運動を取り扱うマクロなレベルまでを対象とした多様なアプローチにより身体の適応現

象とその機序を総合的に取り扱い、人間と健康に関する科学を幅広く実践する。

イ 行動科学分野

思考し行動する人間の運動のしくみに関して、知覚・認知と運動に関する心理学的・身体運動科学的アプローチ、ならびに行動神経科学的アプローチにより、人間の運動行動とその機序を総合的に取り扱い、人間と健康に関する科学を幅広く研究する。

ウ 栄養・食品科学分野

栄養素・機能性成分の作用及びその生体反応を分子・遺伝子レベルで扱い、健康の維持・増進や疾病予防に関する食品成分の生理的機能及びその機序を総合的に解析し、研究成果の健康維持・増進への還元を含めて幅広く研究する。

② 博士後期課程

高齢化・複雑化する社会における人間と健康に関する諸課題に対し、人間の精神と身体に関する学際的応用領域として、前期課程の3分野（適応、行動、栄養・食品科学分野）を基盤とする学際的研究を推進する。これらを通して人間と健康の多義的諸課題を探究するとともに、その実践応用を視野に入れた基礎理論の構築、及び具体的課題に即した問題解決のための理論構築をめざす。

3 研究・履修の進め方

各学域における博士前期・後期の各課程の研究・履修の進め方、学位取得条件、学位請求論文の作成方法、学位論文の審査方法等については、別途、各学域の履修案内により示すとともに、入学の際に各学域より説明する。

Ⅲ 各課程各学域別教育内容

1 首都大学東京大学院全学共通科目

大学院全学共通科目 (博士前期課程・博士後期課程)

＜大学院キャリア開発プログラム＞

本学大学院では全研究科共通の科目として、キャリア開発のための授業科目を2019年度から順次開講する。課程修了後、民間企業や大学・研究所等に就職する場合、博士後期課程へ進学する場合、どちらにおいても、それまでの研究活動で培われた知識や能力が次のステップにおいても有意義に活かせるよう、研究目的と将来のキャリアを関連付けて考えておくことは非常に重要となる。このため、本学においては大学院生向けの「キャリア開発プログラム」を開講し、各科目を通じてキャリア形成に必要な意識・能力を育成する。

＜注意点＞

- (1) 博士前期課程、博士後期課程の大学院生いずれも受講することができる。
- (2) 授業科目として単位が付与されるが、博士前期課程、博士後期課程の修了単位には含まれない。
- (3) 本学で開講するキャリア開発プログラム以外の科目では、本学と東京工業大学との単位互換協定により、東京工業大学大学院のキャリア科目も受講することが可能である。受講を希望する場合には開講科目等を毎学期当初に大学 Web サイトへ掲載するので確認すること。

(参照：本学 Web サイト＞教育 学部・大学院＞履修・授業・資格課程等＞他大学等の授業科目の履修者募集 https://www.tmu.ac.jp/academics/programs/other_univ.html)

2019年度 大学院全学共通科目（大学院キャリア開発プログラム）開講科目一覧

| 授業番号 | 科目名 | 単位数 | 担当教員 | 時期 | 曜日 | 時限 | 教室 | 備考 |
|--------------------|----------------|-----|------------------|------|----|----|---------------|-----------------|
| M:W0500 D:W0600 | 理工系博士人材のキャリア形成 | 1 | 大学教育センター 林 祐司 | 後期 I | 月 | 5 | 南大沢 11-102 | 初回授業で履修者の登録を行う。 |

※授業番号欄のMは博士前期課程、Dは博士後期課程を示す。

※時期欄の「後期 I」は後期の前半を示す。

| 科目名 | 科目種別 | 授業番号 | | 時期 | 曜日 | 時限 | 単位数 |
|------------------------|--|-------|-------|------|----|----|-----|
| | | 博士前期 | 博士後期 | | | | |
| 理工系博士人材のキャリア形成 | 大学院 全学共通科目 | W0500 | W0600 | 後期 I | 月曜 | 5限 | 1 |
| 担当教員 | 備考 | | | | | | |
| 林 祐司(大学教育センター・教授) | <ul style="list-style-type: none"> ・③授業計画に示す講義の順番や内容は変更になることがある。 ・初回授業で履修者の登録を行うので履修希望者は必ず出席すること。 ・「時期欄」の「後期 I」は後期の前半を示す。 | | | | | | |
| ①授業方針・テーマ | この授業では理工系博士人材の民間企業におけるキャリアについて議論する。 | | | | | | |
| ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 | 理工系博士人材を取り巻く社会の状況やそのニーズを考え、将来について視野を広げること | | | | | | |
| ③授業計画・内容 授業方法 | <p>授業内容は以下のようなものを計画している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・理工系博士人材の初期キャリア（講義） 2. 自分の研究活動の学問的な意義と社会における位置づけを考える（ワークショップ） 3. 研究開発技術者の企業内でのキャリアについて（ケースメソッド：電気機器） 4. 研究開発技術者和其他の職種との協働について（ケースメソッド：化学） 5. 研究開発技術者の組織と顧客に対する技術での貢献について（ケースメソッド：産業向け機械） 6. 民間企業で活躍する修了後5年以内の本学博士後期課程修了者による講演 7 & 8. 民間企業で活躍するミドルないしシニア層の理工系博士後期課程修了者による講演 × 2 <p>【授業方法】 教員による講義に加え、ワークショップとケースメソッドを用いた議論や外部講師による講演を行う。</p> | | | | | | |
| ④授業外学習 | ワークショップやケースメソッドを行うときは事前に準備することが必要である。 | | | | | | |
| ⑤テキスト・参考書等 | <p>テキスト：ケース教材の購入方法を初回授業にて指示する。 参考書：いずれもインターネットで無料にて入手可能である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岩崎久美子（2015）「理論物理学ポストドクターのキャリア形成の特徴と人材活用の方向性」『日本労働研究雑誌』No. 660、pp. 41-50。 ・小林信一（2010）「プロフェッショナルとしての博士—博士人材の初期キャリアの現状と課題」『日本労働研究雑誌』No. 594、pp. 70-83。 ・文部科学省科学技術政策研究所 第1 調査研究グループ（2012）『我が国の博士課程修了者の就職意識・活動に関する調査研究』。 ・『Works』（2014）「博士を採用できない企業の“病”」No. 126、pp. 4-25。 | | | | | | |
| ⑥成績評価方法 | 成績は授業における参加と授業終了時に出したレポートで評価する。 | | | | | | |
| ⑦質問受付方法 (オフィスアワー等) | 木曜5限。要件を明記の上、メールでアポイントメントをとること。 | | | | | | |
| ⑧特記事項(他の 授業科目との関連性) | 【他の授業科目との関連性】 特に予備知識は必要ではない。 | | | | | | |

2 博士前期課程人間健康科学専攻

シラバスに記載されている開講曜日時限・授業概要等は2019年度の内容です。
変更になることがありますので、掲示に注意してください。
また、次年度以降は最新のシラバスをご覧ください。

シラバス記載内容の詳細

| 授業科目名 | | 配当年次 | ※1 | 単位数 | ※1 |
|----------------------------|--|-------|------|------|--------|
| (科目英名) | | (期)※2 | (曜日) | (時限) | (授業番号) |
| 担当教員 | | | | ※3 | ※4 |
| ①授業方針・テーマ | | | | | |
| ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 | | | | | |
| ③講義計画・内容 授業方法 | | | | | |
| ④授業外学習 | | | | | |
| ⑤テキスト・参考書等 | | | | | |
| ⑥成績評価方法 | | | | | |
| ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | | | | | |
| ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | | | | | |

※1 配当年次、単位数はこの欄に表示されています。

※2 開講期（前期：4月～9月・後期：10月～3月・通年：4月～3月）は、この欄に表示されています。

※3 開講時限はこの欄に表示されています。

各時限の時間は以下のとおりです。

1時限 8：50～10：20

2時限 10：30～12：00

3時限 13：00～14：30

4時限 14：40～16：10

5時限 16：20～17：50

6時限 18：00～19：30

7時限 19：40～21：10

※4 授業番号はこの欄に表示されています。授業番号は履修申請の際に必要です。

授業番号は年度ごとに変更となる可能性があります。

専攻共通科目一覧（博士前期課程）

| 授業科目名 | 配当年次 | 開講期 | 単位数 | 備考 | ページ |
|-------------------------------|------|------|-----|-------------------|-----|
| 保健医療管理学特論 | 1、2年 | 後期 | 2 | 看護科学域 | |
| 理学療法管理学特論 | 1、2年 | 後期 | 2 | 理学療法科学域 | |
| 医療教育特論Ⅱ | 1、2年 | 夏季集中 | 2 | 理学療法科学域 | |
| 医療教育特論Ⅰ | 1、2年 | 後期 | 2 | 作業療法科学域 | |
| 臨床医療福祉連携システム特論 | 1、2年 | 通年集中 | 2 | 作業療法科学域 | |
| Advanced Occupational Therapy | 1、2年 | 通年集中 | 2 | 作業療法科学域 | |
| 放射線科学特論 | 1、2年 | 前期 | 2 | 放射線科学域 | |
| 医療統計学特論 | 1、2年 | 後期 | 2 | 放射線科学域 | |
| 認知神経科学特論 | 1、2年 | 前期集中 | 2 | フロンティアヘルスサイエンス学域 | |
| 脳機能画像解析科学特論 | 1、2年 | 後期集中 | 2 | フロンティアヘルスサイエンス学域 | |
| 生体運動学特論Ⅰ | 1、2年 | 前期 | 2 | フロンティアヘルスサイエンス学域 | |
| 生体運動学特論Ⅱ | 1、2年 | 後期 | 2 | フロンティアヘルスサイエンス学域 | |
| 機能形態学特論Ⅰ | 1、2年 | 前期 | 2 | フロンティアヘルスサイエンス学域 | |
| 機能形態学特論Ⅱ | 1、2年 | 後期 | 2 | フロンティアヘルスサイエンス学域 | |
| 地域保健活動評価論特論 | 1年 | 前期 | 2 | フロンティアヘルスサイエンス学域 | |
| 保健情報管理論 | 1、2年 | 後期 | 2 | フロンティアヘルスサイエンス学域 | |
| 医科学英語プレゼンテーションスキルⅠ | 1、2年 | 前期 | 2 | フロンティアヘルスサイエンス学域 | |
| 医科学英語プレゼンテーションスキルⅡ | 1、2年 | 後期 | 2 | フロンティアヘルスサイエンス学域 | |
| 運動生理学特論 | 1、2年 | 集中 | 2 | ヘルスプロモーションサイエンス学域 | |
| 認知行動学特論 | 1、2年 | 後期 | 2 | ヘルスプロモーションサイエンス学域 | |

科目一覧（看護科学域 博士前期課程）

| 授業科目名 | 配当年次 | 開講期 | 単位数 | 備考 |
|--------------------|------|-------|-----|-----------|
| 看護科学特別研究 I a | 最終学年 | 前期・後期 | 4 | |
| 看護科学特別研究 I b | 最終学年 | 後期・前期 | 4 | |
| 課題研究a | 最終学年 | 前期・後期 | 3 | |
| 課題研究b | 最終学年 | 後期・前期 | 3 | |
| 臨床薬理学 | 1、2年 | 前期 | 2 | 2019年度不開講 |
| 看護研究方法論 I | 1年 | 前期 | 2 | |
| 看護研究方法論 II | 1年 | 前期 | 2 | |
| 看護法制度論 | 1、2年 | 前期 | 2 | |
| コンサルテーション論 | 1、2年 | 前期 | 2 | |
| 看護理論 | 1、2年 | 前期 | 2 | |
| 保健医療管理学特論 | 1、2年 | 後期 | 2 | ※専攻共通科目 |
| 国際看護活動論 | 1、2年 | 後期 | 2 | |
| 成人看護学特論 | 1年 | 前期 | 2 | |
| 成人看護学特論演習 | 1、2年 | 通年 | 6 | |
| 高齢者看護学特論 | 1年 | 通年 | 2 | |
| 高齢者看護学特論実践演習 | 1、2年 | 年度跨り | 6 | |
| 助産学特論 | 1、2年 | 前期 | 2 | |
| 助産学特論実践演習 | 1、2年 | 後期 | 6 | |
| 助産学活動論 | 1、2年 | 後期 | 2 | |
| リプロダクティブヘルス看護学特論 | 1年 | 前期 | 2 | |
| リプロダクティブヘルス看護学特論演習 | 1、2年 | 通年 | 6 | |
| 小児看護保健行動科学 I | 1年 | 前期 | 2 | |
| 小児看護保健行動科学 II | 1年 | 後期 | 2 | |
| 小児看護保健行動科学 III | 1、2年 | 前期 | 2 | |
| 小児看護対象論 | 1年 | 前期 | 2 | |
| 小児看護援助論 I | 1年 | 通年 | 2 | |
| 小児看護援助論 II | 1年 | 後期 | 2 | |
| 小児看護保健行動科学実践演習 | 1、2年 | 通年 | 6 | |
| 在宅看護学特論 | 1年 | 前期 | 2 | |

| 授業科目名 | 配当年次 | 開講期 | 単位数 | 備考 |
|--------------------|------|-------------|-----|----|
| 在宅看護学特論演習 | 1年 | 通年 | 6 | |
| 在宅看護実践論 | 1年 | 通年 | 2 | |
| 在宅看護学実践演習 I | 1年 | 通年 | 4 | |
| 在宅看護学実践演習 II | 1、2年 | 年度跨り・ 通年 | 6 | |
| 地域ケアシステム看護論 | 1年 | 前期 | 2 | |
| 家族発達看護学特論 | 1年 | 後期 | 2 | |
| 公衆衛生看護学特論 | 1年 | 前期 | 2 | |
| 公衆衛生看護学特論演習 | 1年 | 通年 | 6 | |
| 公衆衛生看護管理論 | 1年 | 後期 | 2 | |
| 地域精神看護学特論 | 1、2年 | 前期 | 2 | |
| 地域精神看護学特論演習 | 1、2年 | 後期 | 6 | |
| 国際看護／医療人類学特論 | 1年 | 前期 | 2 | |
| 国際看護／医療人類学特論演習 I | 1、2年 | 通年 | 2 | |
| 国際看護／医療人類学特論演習 II | 1、2年 | 通年 | 2 | |
| 国際看護／医療人類学特論演習 III | 1、2年 | 通年集中 | 2 | |
| 看護倫理学特論 | 1、2年 | 前期 | 2 | |
| 看護倫理学特論演習 I | 1、2年 | 後期 | 2 | |
| 看護倫理学特論演習 II | 1、2年 | 後期 | 2 | |
| 看護倫理学特論演習 III | 1、2年 | 後期 | 2 | |
| 看護管理学特論 | 1、2年 | 前期 | 2 | |
| 看護管理学特論演習 I | 1、2年 | 後期 | 2 | |
| 看護管理学特論演習 II | 1、2年 | 後期 | 2 | |
| 看護管理学特論演習 III | 1、2年 | 後期 | 2 | |

履修モデル（人間健康科学研究科 人間健康科学専攻 看護科学域）＜博士前期課程＞

| 区分 | 授業科目名 | 前期 | 後期 | 単位数 | 成人看護学 | 高齢者看護学 | 助産学 | リプロダクティブヘルス看護学 | 小児看護学 | | 在宅看護学 | | 公衆衛生看護学 | 地域精神看護学 | 国際看護/医療人類学 | 看護倫理・管理学 |
|--------------------|--------------------|-----|-----|-----|----------|----------|----------|----------------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|------------|----------|
| | | | | | | | | | 修士論文コース | CNSコース | 修士論文コース | CNSコース | | | | |
| 分野共通科目 | 看護科学特別研究 I a | ○ | (○) | 4 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | — | ◎ | — | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| | 看護科学特別研究 I b | (○) | ○ | 4 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | — | ◎ | — | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| | 課題研究 a | ○ | (○) | 3 | — | — | — | — | — | ◎ | ◎ | ◎ | — | — | — | — |
| | 課題研究 b | (○) | ○ | 3 | — | — | — | — | — | ◎ | ◎ | ◎ | — | — | — | — |
| | 看護研究方法論 I | ○ | ○ | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| | 看護研究方法論 II | ○ | ○ | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 看護理論 | ○ | ○ | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ■ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 看護法制度論 | ○ | ○ | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | コンサルテーション論 | ○ | ○ | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 臨床薬理学 | ○ | ○ | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ■ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 保健医療管理学特論 | | ○ | 2 | | | | | | | | | | | | |
| 国際看護活動論 | | ○ | 2 | | | | | | | | | | | ○ | | |
| 成熟期看護 | 成人看護学特論 | ○ | 通 | 2 | ○ | | | | | | | | | | | |
| | 成人看護学特論演習 | 通 | 通 | 6 | ○ | | | | | | | | | | | |
| | 高齢者看護学特論 | 通 | 通 | 2 | | ○ | | | | | | | | | | |
| | 高齢者看護学特論実践演習 | 通 | 通 | 6 | | ○ | | | | | | | | | | |
| 育成期看護学分野 | 助産学特論 | ○ | ○ | 2 | | | ○ | | | | | | | | | |
| | 助産学特論実践演習 | | ○ | 6 | | | ○ | | | | | | | | | |
| | 助産学活動論 | | ○ | 2 | | | ○ | | | | | | | | | |
| | リプロダクティブヘルス看護学特論 | ○ | 通 | 2 | | | ○ | | | | | | | | | |
| | リプロダクティブヘルス看護学特論演習 | 通 | 通 | 6 | | | ○ | | | | | | | | | |
| | 小児看護保健行動科学 I | ○ | ○ | 2 | | | | ○ | ○ | ○ | | | | | | |
| | 小児看護保健行動科学 II | | ○ | 2 | | | | | ○ | ○ | | | | | | |
| | 小児看護保健行動科学 III | ○ | ○ | 2 | | | | | ○ | ○ | | | | | | |
| | 小児看護対象論 | ○ | ○ | 2 | | | | | ○ | ○ | | | | | | |
| | 小児看護援助論 I | ○ | 通 | 2 | | | | | ○ | ○ | | | | | | |
| 小児看護援助論 II | ○ | 通 | 2 | | | | | ○ | ○ | | | | | | | |
| 小児看護保健行動科学実践演習 | 通 | 通 | 6 | | | | | ○ | ○ | | | | | | | |
| 広域看護学分野 | 在宅看護学特論 | ○ | 通 | 2 | | | | | | | ○ | ○ | | | | |
| | 在宅看護学特論演習 | 通 | 通 | 6 | | | | | | | ○ | ○ | | | | |
| | 在宅看護実践論 | 通 | 通 | 2 | | | | | | | ○ | ○ | | | | |
| | 在宅看護学実践演習 I | 通 | 通 | 4 | | | | | | | ○ | ○ | | | | |
| | 在宅看護学実践演習 II | ○ | ○ | 6 | | | | | | | ○ | ○ | | | | |
| | 地域ケアシステム看護論 | ○ | ○ | 2 | | | | | | | ○ | ○ | | | | |
| | 家族発達看護学特論 | | ○ | 2 | | | | | | | ○ | ○ | | | | |
| | 公衆衛生看護学特論 | ○ | 通 | 2 | | | | | | | | | ○ | | | |
| | 公衆衛生看護学特論演習 | 通 | 通 | 6 | | | | | | | | | ○ | | | |
| | 公衆衛生看護管理論 | | ○ | 2 | | | | | | | | | ○ | | | |
| | 地域精神看護学特論 | ○ | ○ | 2 | | | | | | | | | | ○ | | |
| | 地域精神看護学特論演習 | | ○ | 6 | | | | | | | | | | ○ | | |
| | 国際看護/医療人類学特論 | ○ | 通 | 2 | | | | | | | | | | | ○ | |
| 国際看護/医療人類学特論演習 I | 通 | 通 | 2 | | | | | | | | | | | ○ | | |
| 国際看護/医療人類学特論演習 II | 通 | 通 | 2 | | | | | | | | | | | ○ | | |
| 国際看護/医療人類学特論演習 III | 通 | 通 | 2 | | | | | | | | | | | ○ | | |
| 看護倫理・管理学分野 | 看護倫理学特論 | ○ | ○ | 2 | | | ○ | | | ■ | | ■ | | | | ○ |
| | 看護倫理学特論演習 I | | ○ | 2 | | | | | | | | | | | | ○ |
| | 看護倫理学特論演習 II | | ○ | 2 | | | | | | | | | | | | ○ |
| | 看護倫理学特論演習 III | | ○ | 2 | | | | | | | | | | | | ○ |
| | 看護管理学特論 | ○ | ○ | 2 | | | ○ | | | ■ | | ■ | | | | ○ |
| | 看護管理学特論演習 I | | ○ | 2 | | | | | | | | | | | | ○ |
| | 看護管理学特論演習 II | | ○ | 2 | | | | | | | | | | | | ○ |
| 看護管理学特論演習 III | | ○ | 2 | | | | | | | | | | | | ○ | |
| 専攻共通 □ | | | | | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | |
| 必修 ◎ | | | | | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 8 | 10 | 8 | 10 | 10 | 10 | 10 |
| 分野・コース必修 ○ | | | | | 14 | 12 | 18 | 12 | 16 | 20 | 14 | 22 | 14 | 10 | 12 | 20 |
| 選択必修 ■・選択 □ | | | | | 6 以上 | 8 以上 | 2 以上 | 8 以上 | 4 以上 | 6 以上 | 6 以上 | 4 以上 | 6 以上 | 10 以上 | 8 以上 | ／ |
| 計 | | | | | 30 以上 | 30 以上 | 30 以上 | 30 以上 | 30 以上 | 34 以上 | 30 以上 | 34 以上 | 30 以上 | 30 以上 | 30 以上 | 30 以上 |

専門看護師認定審査の受験には、看護研究方法論 I（2 単位）、看護理論（2 単位）、コンサルテーション論（2 単位）、看護倫理学特論（2 単位）、看護管理学特論（2 単位）5 科目のうちから、8 単位以上を履修する必要がある。

博士前期課程 看護科学域 履修進度モデル

成人看護学

| | 1年前期 | 単位 | 1年後期 | 単位 | 2年前期 | 単位 | 2年後期 | 単位 | 総単位 |
|----|---------------|----|---------------|----|------------|----|------------|----|---------|
| 研究 | 看護研究方法論Ⅰ | 2 | 選択 | 2 | 看護科学特別研究Ⅰa | 4 | 看護科学特別研究Ⅰb | 4 | |
| | 看護研究方法論Ⅱ | 2 | 選択 | 2 | 選択 | 2 | | | |
| | 看護理論 | 2 | | | | | | | |
| | コンサルテーション論 | 2 | | | | | | | |
| | 成人看護学特論 | 2 | | | | | | | |
| | 成人看護学特論演習(通年) | — | 成人看護学特論演習(通年) | 6 | | | | | |
| 計 | | 10 | | 10 | | 6 | | 4 | 30(選択6) |

高齢者看護学

| | 1年前期 | 単位 | 1年後期 | 単位 | 2年前期 | 単位 | 2年後期 | 単位 | 総単位 |
|----|------------------|----|------------------|----|------------|----|------------|----|-----|
| 研究 | 看護研究方法論Ⅰ | 2 | 選択 | 2 | 看護科学特別研究Ⅰa | 4 | 看護科学特別研究Ⅰb | 4 | |
| | 看護研究方法論Ⅱ | 2 | 選択 | 2 | 選択 | 2 | | | |
| | 看護理論 | 2 | 選択 | 2 | | | | | |
| | 高齢者看護学特論 | 2 | | | | | | | |
| | 高齢者看護学特論実践演習(通年) | — | 高齢者看護学特論実践演習(通年) | 6 | | | | | |
| | 計 | | 8 | | 12 | | 6 | | |

助産学

| | 1年前期 | 単位 | 1年後期 | 単位 | 2年前期 | 単位 | 2年後期 | 単位 | 総単位 |
|----|----------|----|-----------|----|------------|----|------------|----|-----|
| 研究 | 看護研究方法論Ⅰ | 2 | 助産学活動論 | 2 | 看護科学特別研究Ⅰa | 4 | 看護科学特別研究Ⅰb | 4 | |
| | 看護研究方法論Ⅱ | 2 | 助産学特論実践演習 | 6 | 看護管理学特論 | 2 | | | |
| | 看護理論 | 2 | 選択 | 2 | | | | | |
| | 助産学特論 | 2 | | | | | | | |
| | 看護倫理学特論 | 2 | | | | | | | |
| | 計 | | 10 | | 10 | | 6 | | |

リプロダクティブヘルス看護学

| | 1年前期 | 単位 | 1年後期 | 単位 | 2年前期 | 単位 | 2年後期 | 単位 | 総単位 |
|----|------------------------|----|------------------------|----|------------|----|------------|----|-----|
| 研究 | 看護研究方法論Ⅰ | 2 | 選択 | 2 | 看護科学特別研究Ⅰa | 4 | 看護科学特別研究Ⅰb | 4 | |
| | 看護研究方法論Ⅱ | 2 | 選択 | 2 | 選択 | 2 | | | |
| | 看護理論 | 2 | | | 選択 | 2 | | | |
| | リプロダクティブヘルス看護学特論 | 2 | | | | | | | |
| | リプロダクティブヘルス看護学特論演習(通年) | — | リプロダクティブヘルス看護学特論演習(通年) | 6 | | | | | |
| | 計 | | 8 | | 10 | | 8 | | |

小児看護学

| | 1年前期 | 単位 | 1年後期 | 単位 | 2年前期 | 単位 | 2年後期 | 単位 | 総単位 |
|-----|--------------------|----|--------------------|----|--------------------|----|--------------------|----|---------|
| 研究 | 看護研究方法論Ⅰ | 2 | 小児看護保健行動科学Ⅱ | 2 | 看護科学特別研究Ⅰa | 4 | 看護科学特別研究Ⅰb | 4 | |
| | 看護研究方法論Ⅱ | 2 | | | 選択 | 2 | | | |
| | 小児看護保健行動科学Ⅰ | 2 | | | 選択 | 2 | | | |
| | 小児看護対象論 | 2 | | | | | | | |
| | 小児看護保健行動科学実践演習(通年) | — | 小児看護保健行動科学実践演習(通年) | 6 | | | | | |
| | 小児看護援助論Ⅰ(通年) | — | 小児看護援助論Ⅰ(通年) | 2 | | | | | |
| | 選択 | 2 | | | | | | | |
| 計 | | 8 | | 10 | | 8 | | 4 | 30(選択4) |
| CNS | 看護研究方法論Ⅰ | 2 | 小児看護保健行動科学Ⅱ | 2 | 課題研究a | 3 | 課題研究b | 3 | |
| | コンサルテーション論 | 2 | 小児看護援助論Ⅱ | 2 | 小児看護保健行動科学実践演習(通年) | — | 小児看護保健行動科学実践演習(通年) | 6 | |
| | 臨床薬理学 | 2 | | | 小児看護保健行動科学Ⅲ | 2 | | | |
| | 小児看護保健行動科学Ⅰ | 2 | | | | | | | |
| | 小児看護対象論 | 2 | | | | | | | |
| | 小児看護援助論Ⅰ(通年) | — | 小児看護援助論Ⅰ(通年) | 2 | | | | | |
| | 看護倫理学特論 | 2 | | | | | | | |
| | 看護管理学特論 | 2 | | | | | | | |
| 計 | | 14 | | 6 | | 5 | | 9 | 34(選択6) |

在宅看護学

| | 1年前期 | 単位 | 1年後期 | 単位 | 2年前期 | 単位 | 2年後期 | 単位 | 総単位 |
|-----|----------------|----|----------------|----|------------|----|------------|----|---------|
| 研究 | 看護研究方法論Ⅰ | 2 | 家族発達看護学特論 | 2 | 看護科学特別研究Ⅰa | 4 | 看護科学特別研究Ⅰb | 4 | |
| | 看護研究方法論Ⅱ | 2 | 選択 | 2 | | | | | |
| | 在宅看護学特論 | 2 | 選択 | 2 | | | | | |
| | 在宅看護学特論演習(通年) | — | 在宅看護学特論演習(通年) | 6 | | | | | |
| | 地域ケアシステム看護論 | 2 | | | | | | | |
| | 選択 | 2 | | | | | | | |
| 計 | | 10 | | 12 | | 4 | | 4 | 30(選択6) |
| CNS | 看護研究方法論Ⅰ | 2 | 在宅看護学実践演習Ⅱ | 6 | 課題研究a | 3 | 課題研究b | 3 | |
| | 看護理論 | 2 | 家族発達看護学特論 | 2 | | | | | |
| | コンサルテーション論 | 2 | | | | | | | |
| | 在宅看護学特論 | 2 | | | | | | | |
| | 在宅看護実践論(通年) | — | 在宅看護実践論(通年) | 2 | | | | | |
| | 在宅看護学実践演習Ⅰ(通年) | — | 在宅看護学実践演習Ⅰ(通年) | 4 | | | | | |
| | 地域ケアシステム看護論 | 2 | | | | | | | |
| | 看護管理学特論 | 2 | | | | | | | |
| | 看護倫理学特論 | 2 | | | | | | | |
| 計 | | 14 | | 14 | | 3 | | 3 | 34(選択4) |

公衆衛生看護学

| | 1年前期 | 単位 | 1年後期 | 単位 | 2年前期 | 単位 | 2年後期 | 単位 | 総単位 |
|----|-----------------|----|-----------------|----|------------|----|------------|----|---------|
| 研究 | 看護研究方法論Ⅰ | 2 | 公衆衛生看護管理論 | 2 | 看護科学特別研究Ⅰa | 4 | 看護科学特別研究Ⅰb | 4 | |
| | 看護研究方法論Ⅱ | 2 | 選択 | 2 | | | | | |
| | 看護理論 | 2 | | | | | | | |
| | 公衆衛生看護学特論 | 2 | | | | | | | |
| | 公衆衛生看護学特論演習(通年) | — | 公衆衛生看護学特論演習(通年) | 6 | | | | | |
| | 選択 | 2 | | | | | | | |
| | 選択 | 2 | | | | | | | |
| 計 | | 12 | | 10 | | 4 | | 4 | 30(選択6) |

地域精神看護学

| | 1年前期 | 単位 | 1年後期 | 単位 | 2年前期 | 単位 | 2年後期 | 単位 | 総単位 |
|----|-----------|----|---------------|----|------------|----|------------|----|----------|
| 研究 | 看護研究方法論Ⅰ | 2 | 地域精神看護学特論実践演習 | 6 | 看護科学特別研究Ⅰa | 4 | 看護科学特別研究Ⅰb | 4 | |
| | 看護研究方法論Ⅱ | 2 | 選択 | 2 | 選択 | 2 | | | |
| | 地域精神看護学特論 | 2 | 選択 | 2 | | | | | |
| | 選択 | 2 | 選択 | 2 | | | | | |
| 計 | | 8 | | 12 | | 6 | | 4 | 30(選択10) |

国際看護／医療人類学

| | 1年前期 | 単位 | 1年後期 | 単位 | 2年前期 | 単位 | 2年後期 | 単位 | 総単位 |
|----|--------------|----|-----------------|----|------------|----|------------|----|---------|
| 研究 | 看護研究方法論Ⅰ | 2 | 国際看護／医療人類学特論演習Ⅰ | 2 | 看護科学特別研究Ⅰa | 4 | 看護科学特別研究Ⅰb | 4 | |
| | 看護研究方法論Ⅱ | 2 | 国際看護／医療人類学特論演習Ⅱ | 2 | 選択 | 2 | | | |
| | 国際看護／医療人類学特論 | 2 | 国際看護／医療人類学特論演習Ⅲ | 2 | | | | | |
| | 国際看護活動論 | 2 | 選択 | 2 | | | | | |
| | 選択 | 2 | 選択 | 2 | | | | | |
| 計 | | 10 | | 10 | | 6 | | 4 | 30(選択8) |

看護倫理・管理学

| | 1年前期 | 単位 | 1年後期 | 単位 | 2年前期 | 単位 | 2年後期 | 単位 | 総単位 |
|----|----------|----|------------|----|------------|----|------------|----|-----|
| 研究 | 看護研究方法論Ⅰ | 2 | 看護倫理学特論演習Ⅰ | 2 | 看護科学特別研究Ⅰa | 4 | 看護科学特別研究Ⅰb | 4 | |
| | 看護研究方法論Ⅱ | 2 | 看護倫理学特論演習Ⅱ | 2 | | | | | |
| | 看護理論 | 2 | 看護倫理学特論演習Ⅲ | 2 | | | | | |
| | 看護倫理学特論 | 2 | 看護管理学特論演習Ⅰ | 2 | | | | | |
| | 看護管理学特論 | 2 | 看護管理学特論演習Ⅱ | 2 | | | | | |
| | | | 看護管理学特論演習Ⅲ | 2 | | | | | |
| 計 | | 10 | | 12 | | 4 | | 4 | 30 |

博士前期課程・看護科学域

| | | | | | |
|--|---|-----------|------|-----|-------|
| 授業科目名 | 看護科学特別研究 Ia | 配当年次 | 最終学年 | 単位数 | 4 単位 |
| (科目英名) | Research on Nursing Science Ia | 前期で履修する場合 | | | U0001 |
| 担当教員 | 西村ユミ、安達久美子、織井優貴子、河原加代子、 齊藤恵美子、習田明裕、山本美智代、石川陽子、岡本有子、 木村千里、島田恵、園部真美、種吉啓子、野村亜由美、 菱沼由梨、廣川聖子、福井里美、増谷順子、他 | 後期で履修する場合 | | | U0146 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①研究論文作成及び公開までの過程を、実践を通して学ぶ。 ②実践に応用でき、さらに看護学の発展に寄与する研究を生産するための量的研究方法、質的研究方法に習熟すると共に、専攻分野に関連する研究論文の批判的読み方を修得する。更に、選択した看護学分野における自己の関心に基づいて、研究課題を決定し、計画に基づいた研究の実施と修士論文の作成、発表を行って研究的能力を高める。 ③専攻領域から研究課題を選択し、その研究過程を実践し、修士論文を作成する。 各指導担当教員の指導の下に、課題に沿って研究の過程を展開する。 ④各自で主体的に研究を進めること。 ⑤別途紹介する。 ⑥研究計画から研究の実施までの過程(研究計画発表会を含む)を総合的に評価する。 ⑦オフィスアワーは設けないが、適時質問には応じる。 ⑧前期・後期、どちらでも履修可能。 曜日・時限等の詳細は、学生から教員に相談・調整すること。 履修登録期間に、自身で登録すること。 | | | | |

| | | | | | |
|--|--|-----------|------|-----|-------|
| 授業科目名 | 看護科学特別研究 Ib | 配当年次 | 最終学年 | 単位数 | 4 単位 |
| (科目英名) | Research on Nursing Science Ib | 前期で履修する場合 | | | U0147 |
| 担当教員 | 西村ユミ、安達久美子、織井優貴子、河原加代子、 齊藤恵美子、習田明裕、山本美智代、石川陽子、岡本有子、 木村千里、島田恵、園部真美、種吉啓子、野村亜由美、 菱沼由梨、廣川聖子、福井里美、増谷順子、他 | 後期で履修する場合 | | | U0148 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①研究論文作成及び公開までの過程を、実践を通して学ぶ。 ②実践に応用でき、さらに看護学の発展に寄与する研究を生産するための量的研究方法、質的研究方法に習熟すると共に、専攻分野に関連する研究論文の批判的読み方を修得する。更に、選択した看護学分野における自己の関心に基づいて、研究課題を決定し、計画に基づいた研究の実施と修士論文の作成、発表を行って研究的能力を高める。 ③専攻領域から研究課題を選択し、その研究過程を実践し、修士論文を作成する。 各指導担当教員の指導の下に、課題に沿って研究の過程を展開する。 ④主体的に取り組むこと。 ⑤別途紹介する。 ⑥論文作成までの全過程(進捗状況発表会を含む)を総合的に評価する。 ⑦オフィスアワーは特別に設けない。指導担当教員に直接連絡をすること。 ⑧看護科学特別研究 Ia の単位を取得した者が履修できる。 前期・後期、どちらでも履修可能。 曜日・時限等の詳細は、学生から教員に相談・調整すること。 履修登録は、論文提出を以て事務で一括で行う。(※履修登録期間の自身による履修登録は不要。) | | | | |

| | | | | | |
|---|--|---------------|------|-------|-------|
| 授業科目名 | 課題研究 a | 配当年次 | 最終学年 | 単位数 | 3 単位 |
| (科目英名) | Project Research a | 前期で履 修する場合 | 水曜 | 2-7 限 | U0002 |
| 担当教員 | 河原加代子、山本美智代、種吉啓子、島田恵、岡本有子 | 後期で履 修する場合 | | | U0149 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 | ①研究論文作成及び公開までの過程を、実践を通して学ぶ。 ②各学生が選択した分野の専門看護師(CNS)活動に関わる課題について、適切な研究方法を用いて、研究計画立案から論文作成、発表までの一連の研究過程の実践を通して、課題を解決するための能力を高める。本科目は、修士論文コース「看護科学特別研究 Ia」のかわりに専門看護師(CNS)コースの選択者が履修するものである。 | | | | |

博士前期課程・看護科学域

| | |
|---|---|
| ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ③専攻領域から研究課題を選択し、その研究過程を実践し、研究論文を作成する。 各指導担当教員の指導の下に、課題に沿って研究の過程を展開する。 【授業方法】講義とゼミ形式により進める。プレゼンテーションの際は、学生の疑問や質問を中心に学生がリーダーシップをとって討議を行う。 ④毎回の授業後に、次回授業の課題を提示するので、必ず事前に予習を行い、内容を把握したうえで授業に臨むこと。 ⑤別途紹介する。 ⑥研究計画から研究実施までの過程(研究計画発表会を含む)を総合的に評価する。 ⑦特に設けないが、メールによる質問や連絡が随時受け付ける。連絡先 hu_yuan@tmu.ac.jp ⑧前期・後期、どちらでも履修可能。 履修登録期間に、自身で登録すること。 |
|---|---|

| | | | | | |
|--------|---------------------------|-----------|------|-------|-------|
| 授業科目名 | 課題研究 b | 配当年次 | 最終学年 | 単位数 | 3 単位 |
| (科目英名) | Project Research b | 前期で履修する場合 | 水曜 | 2-7 限 | U0150 |
| 担当教員 | 河原加代子、山本美智代、種吉啓子、島田恵、岡本有子 | 後期で履修する場合 | | | U0151 |

| | |
|--|--|
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①研究論文作成及び公開までの過程を、実践を通して学ぶ。 ②各学生が選択した分野の専門看護師(CNS)活動に関わる課題について、適切な研究方法を用いて、研究計画立案から論文作成、発表までの一連の研究過程の実践を通して、課題を解決するための能力を高める。本科目は、修士論文コース「看護科学特別研究 I b」のかわりに専門看護師(CNS)コースの選択者が履修するものである。 ③専攻領域から研究課題を選択し、その研究過程を実践し、研究論文を作成する。 各指導担当教員の指導の下に、課題に沿って研究の過程を展開する。 【授業方法】講義とゼミ形式により進める。プレゼンテーションの際は、学生の疑問や質問を中心に学生がリーダーシップをとって討議を行う。 ④毎回の授業後に、次回授業の課題を提示するので、必ず事前に予習を行い、内容を把握したうえで授業に臨むこと ⑤別途紹介する。 ⑥中間発表会を含む論文作成までの全過程(進捗状況発表会を含む)を総合的に評価する。 ⑦設けないが、メールによる質問や連絡が随時受け付ける。連絡先 hu_yuan@tmu.ac.jp ⑧課題研究 a の単位を取得した者が履修できる。 前期・後期、どちらでも履修可能。 履修登録は、論文提出を以て事務で一括で行う。(※履修登録期間の自身による履修登録は不要。) |
|--|--|

| | | | | | |
|--------|-----------------------|------|-------|-----|-------|
| 授業科目名 | 臨床薬理学 | 配当年次 | 1、2 年 | 単位数 | 2 単位 |
| (科目英名) | Clinical pharmacology | 前期 | 水曜 | 6 限 | U0003 |
| 担当教員 | 小口江美子 | | | | |

| | |
|---|--|
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 | ①患者への服薬指導や服薬中の患者ケアが安全に確実にできるようになるために、薬物の体内動態を通じて薬物と生体との相互作用を学び、臨床で汎用されている薬物の作用、副作用、相互作用について理解し、自らが薬と賢く付き合えるようになる。 チーム医療の一員である看護師として、病院や在宅で療養する患者の薬物療法に対する生体反応の観察、効果の判定、副作用の発見、患者の心理に寄り添うなどの看護の役割を遂行するために、臨床薬理学を踏まえた各専門領域の薬物療法を理解し、服薬指導や回復援助およびセルフケアサポートの能力を高めることをめざす。 ②1. 患者心理を理解し、薬物療法の目的を説明できる。 2. 薬の剤型と与薬方法と薬物の作用機序について説明できる。 3. 薬物の体内動態、飲み合わせと食べ合わせ、血中濃度について理解し、説明できる。 4. 妊婦・乳幼児・小児・高齢者へ与薬するときの注意事項を説明できる。 5. 薬の相互作用と有害作用について理解し、患者への一般的な服薬指導ができる。 6. 末梢神経系の疾患に用いる薬物の作用と副作用を説明し、基本的な生体反応を理解できる。 7. アレルギー症状と炎症に用いる薬物および風邪薬など身近な薬について作用と副作用、薬の用い方を説明できる 8. 中枢神経系の疾患に用いる薬物の作用と副作用を説明できる。 9. 呼吸器・消化器・生殖器に作用する薬、更年期対策、ホルモン療法循環器系の疾患に用いる薬物の作用と副作用を説明できる。 |
|---|--|

博士前期課程・看護科学域

| | |
|--|--|
| <p>③授業計画・内容 授業方法</p> | <p>10. 糖尿病治療薬など物質代謝に作用する薬と看護ケアについて説明できる。 11. がん治療における代表的な薬物療法の効果と副作用および患者サポートについて説明できる。 12. 循環器作用薬、降圧剤と看護ケアについて説明できる。 13. 漢方薬、骨粗鬆症の薬、排尿障害の薬など高齢者に頻用される薬および服薬指導・患者ケアについて説明できる。 14. 生活習慣病の成り立ちとその予防や治療法、セルフケアサポートについて説明できる。 15. これまでに学習した臨床薬理学の知識を自分の専門分野でどう生かしたいかについてまとめて発表できる。</p> <p>③授業は原則としてセミナー形式とする。 受講者の専門領域を考慮して、授業内容は変更されることがある。</p> <p>1. 4/11 臨床薬理学総論・臨床で役立つ薬の基礎知識(薬と患者さんの心理、薬物治療のめざすもの他) 2. 4/18 臨床薬理学総論・臨床で役立つ薬の基礎知識(薬の投与方法、薬の作用機序他) 3. 4/25 臨床薬理学総論・臨床で役立つ薬の基礎知識(薬物血中濃度、薬の相互作用、食事との関係) 4. 5/9 臨床薬理学総論・臨床で役立つ薬の基礎知識(薬効に影響する因子、妊婦・子供・高齢者への注意) 5. 5/16 臨床薬理学総論・臨床で役立つ薬の基礎知識(薬の有害作用はなぜ起こるのか、臨床試験と看護) 6. 5/23 各論・病気の理解と服薬指導(自律神経系に作用する薬) 7. 5/30 各論・病気の理解と服薬指導(身近な薬-風邪薬、抗アレルギー薬、抗炎症薬と看護ケア) 8. 6/6 各論・病気の理解と服薬指導(心療内科や精神科で使われる薬と看護ケア、メディカルハーブ他) 9. 6/13 各論・病気の理解と服薬指導(呼吸器・消化器・生殖器に作用する薬、更年期対策、ホルモン療法他) 10. 6/20 各論・病気の理解と服薬指導(糖尿病治療薬など物質代謝に作用する薬と看護ケア) 11. 6/27 各論・病気の理解と服薬指導(抗がん剤、麻薬性鎮痛薬と看護ケア) 12. 7/4 各論・病気の理解と服薬指導(高齢者とくすり・健康管理-漢方薬、骨粗鬆症の薬、排尿障害の薬) 13. 7/11 各論・病気の理解と服薬指導(循環器作用薬、降圧剤と看護ケア) 14. 7/18 臨床薬理学総論(生活習慣病と統合医療-薬物療法、運動療法、食事療法におけるトータルサポート) 15. 7/25 まとめと発表</p> |
| <p>④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等</p> | <p>④ ⑤参考書「臨床に生かしたいくすりの話 中原保裕 学研」 「薬とのかかわり-臨床薬理学 中谷晴昭・大橋京一編 日本看護協会出版会」 「疾病の成り立ち②臨床薬理学 古川裕之 メディカ出版」 「今日の治療薬 水島裕 南江堂」など</p> |
| <p>⑥成績評価方法</p> | <p>⑥①最終日には、これまでに学んだ薬物療法における臨床薬理学の知識を、各自が自分の専門分野でどう生かせるかについて発表する。その発表態度や発表内容を評価対象とする。 ②授業終了後に発表した内容をレポートにまとめて提出する。そのレポート内容を併せて評価対象とする。</p> |
| <p>⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)</p> | <p>⑦ ⑧学部、および臨床現場で学んだ知識や体験をさらにブラッシュアップすることに繋がる。 生理学、生化学、化学、薬学の基礎知識を必要とする。</p> |

| 授業科目名 | 看護研究方法論Ⅰ | 配当年次 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
|---|---|------|----|-----|-------|
| (科目英名) | Nursing Research I | 前期 | 月曜 | 5限 | U0005 |
| 担当教員 | 織井優貴子、斉藤恵美子、増谷順子 | | | 6限 | U0006 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 | <p>①看護実践での研究の価値や重要性を理解できる。 看護研究での過程と手法が理解できる。 自らの研究課題の分野の文献を系統的に検索し、批判的吟味(Critique)の視点で検討できる。</p> <p>②看護研究に取り組むための基本的な知識と手法について学び、個々の研究課題を探求する。 個々の課題に適した研究を計画するために、看護研究の特徴や倫理性を理解する。</p> <p>③1 オリエンテーション 2-3 看護研究の基礎と概念 4-5 看護研究の特徴と倫理性 6-7 文献レビューのプロセスと方法 8-11 看護研究のためのデザインと評価(研究計画・進捗発表会参加・レポート作成含む) 12-13 看護研究の批判的吟味 14-15 アカデミックライティングの基礎:論理性と文章の構造化</p> <p>④各講義のテーマに沿ってテキストを参照し、事前学習と復習をすることがのぞましい。</p> <p>⑤テキストは指定しません。参考書は以下の通りです。 Polit,D.F.,Beck,C.T.(2010).近藤潤子(監訳).看護研究:原理と方法(第2版).医学書院. アメリカ心理学会[APA].(10/2011).前田樹海,江藤裕之,田中彦彦(訳).APA論文作成マニュアル(第2版).医学書院. 前田樹海,江藤裕之.(2012).APAに学ぶ看護系論文執筆のルール.医学書院. Grove,S.K.,Burns,N.,Gray,J.R.(2016).黒田裕子,中木高夫,逸見功(訳).バーンズ&グローブ看護研究入門:評価・統合・エ</p> | | | | |

博士前期課程・看護科学域

| | |
|---------------------------------|--|
| ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ビデンスの生成(原著第7版).エルゼビア・ジャパン. Polit,D.F.,Beck,C.T.(2016).Nursing Research:Generating and Assessing Evidence for Nursing Practice (International Edition).Phikandadelphia:Lippincott Williams and Wilkins. ⑥課題レポートと授業の参加度によって総合的に評価する。 ⑦特に指定しない。事前にアポイントを取ってください。 |
|---------------------------------|--|

| | | | | | |
|--------|--------------------|------|----|-----|-------|
| 授業科目名 | 看護研究方法論Ⅱ | 配当年次 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Nursing Research Ⅱ | 前期 | 火曜 | 4限 | U0007 |
| 担当教員 | 習田明裕、山本美智代、他 | | | 6限 | U0008 |

| | |
|--|---|
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ①看護研究を進めていく上で必要な研究方法について、量的データに対するアプローチ、質的データに対するアプローチを具体的に学ぶ。さらに演習を行い、実際にデータを収集し分析を行った上で、その結果を解釈するところまでをゴールとする。 ②看護研究の具体的な研究方法を学び、活用する。 ③《授業計画・内容》 1. 量的研究とは 2. 記述統計 3. 統計学的推定と検定① 4. 統計学的推定と検定② 5. 多変量解析 6. 演習① 7. 演習② 8. 質的研究とは 9. 質的研究法①現象学 10. 質的研究法②エスノグラフィー 11. 質的研究法③グランテッドセオリー 12. 〈語り〉〈観察〉とは 13. 演習① 14. 演習② 15. アカデミックライティング(英語)英文抄録, ポスター作成 《授業方法》 基本的な統計手法について、実際の研究事例などを教材として使用しつつ紹介を行う。ここで学んだことを活かすために、互いに統計的手法を用いた簡易な研究を実際に行い、目的設定、質問紙作成、数量的データの取り方、入力分析一作表・作図、検討といった一連の過程について演習を通じた理解を深める予定である。 ④量的・質的研究のそれぞれの講義前半部分で各研究手法に関して座学にて学び、後半部分で演習を行う予定である。なお研究テーマがあることを前提として授業を行うので、予め研究計画の検討をお願いしたい。 ⑤テキスト:テキストは指定しない。参考書は以下の通り。 参考書:中山和弘(2018):看護学のための多変量解析入門, 医学書院, 東京. ウヴェ・フリック(2011):新版 質的研究入門(人間の科学)のための方法論, 春秋社, 東京. 能智正博(2011):臨床心理学を学ぶ⑥質的研究法, 東京大学出版会, 東京. ⑥課題レポートと授業の参加度によって総合的に評価する。 ⑦オフィスアワーは特に設定しないが、科目全体に関する質問・連絡等がある場合は、習田もしくは山本まで、授業の内容に関しては、各単元の担当の教員にメールをして下さい。 |
|--|---|

| | | | | | |
|--------|-------------------------------|------|------|-----|-------|
| 授業科目名 | 看護法制度論 | 配当年次 | 1,2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Legislation System in Nursing | 前期 | 火曜 | 6限 | U0009 |
| 担当教員 | 平林勝政、石川陽子 | | | 7限 | U0010 |

| | |
|---|---|
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 | ①各看護領域において関係する法制度およびその改正過程、政策への働きかけについて教授する。 ②看護の資格や実践、経済(診療報酬)などに関連する法律および制度について熟考し、さらに現在のニーズと法制度の関係に関して論ずることができる。 ③《授業計画・内容》 1. 保健師助産師看護師および他の医療従事者の資格身分について |
|---|---|

博士前期課程・看護科学域

| | |
|---|---|
| <p>④授業外学習</p> <p>⑤テキスト・参考書等</p> <p>⑥成績評価方法</p> <p>⑦質問受付方法 (オフィスアワー)</p> | <p>2. 医療提供者の理念と医療人の責務について</p> <p>3. インフォームドコンセント、情報開示等について</p> <p>4. 医師、福祉職との関係について</p> <p>5. 処罰対象行為について</p> <p>6. 医療保険および介護保険の制度について</p> <p>7. トピックス</p> <p>《授業方法》</p> <p>1. 授業は学生が主体的に展開する。</p> <p>2. 学生はグループを作り、それぞれの授業時間の課題をグループで分担し、担当グループがその授業時間のリーダーシップをとる。</p> <p>3. それぞれのグループは、授業時間を担当する教員と十分に事前の打ち合わせを行い、授業が円滑に進むように準備する。外来講師に対しては、事後の対応もきちんと行う。</p> <p>④看護六法に関して自己学習を行い、講義の内容と合わせて今後のあるべき看護法制度について自身の考えを持つようにする。</p> <p>⑤適宜必要に応じて提示する。</p> <p>⑥グループ活動及び討論参加度(30点)、課題発表(30点)、レポート(40点)</p> <p>⑦質問・連絡等がある場合は、ishikawa@tmu.ac.jp までメールすること。</p> |
|---|---|

| | | | | | |
|--------|---------------------|------|-------|-----|-------|
| 授業科目名 | コンサルテーション論 | 配当年次 | 1, 2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Consultation Theory | 前期 | 金曜 | 5限 | U0011 |
| 担当教員 | 福井里美、武井麻子、他 | | | 6限 | U0012 |

| | |
|--|---|
| <p>①授業方針・テーマ</p> <p>②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標</p> <p>③授業計画・内容 授業方法</p> <p>④授業外学習</p> <p>⑤テキスト・参考書等</p> <p>⑥成績評価方法</p> <p>⑦質問受付方法 (オフィスアワー)</p> <p>⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)</p> | <p>①コンサルテーションの基本概念をふまえ、看護分野におけるコンサルテーションに関連する理論および技術を学ぶ。</p> <p>②コンサルタントとしての実践能力を習得すると共に、専門看護師の行うコンサルテーションについて探求する。</p> <p>③1回 オリエンテーション</p> <p>2回 コンサルテーションとは何か、難しい患者とは</p> <p>3回 「Helping: 人の助けになるとは」</p> <p>4回 事例検討演習 1: 個人対面のコンサルテーション</p> <p>5回 リエゾン精神科領域におけるコンサルテーションの実際①</p> <p>6回 リエゾン精神科領域におけるコンサルテーションの実際②</p> <p>7回 事例カンファレンスの実際①</p> <p>8回 事例カンファレンスの実際②</p> <p>9回 患者の病理とグループ・組織①</p> <p>10回 患者の病理とグループ・組織②</p> <p>11回 カンファレンスとグループファシリテーション①</p> <p>12回 カンファレンスとグループファシリテーション②</p> <p>13回 カンファレンス形式のコンサルテーションの実際①</p> <p>14回 カンファレンス形式のコンサルテーションの実際②</p> <p>15回 まとめ: コンサルテーション技術の向上とコンサルタントの成長</p> <p>授業方法: テーマの内容に関する資料および指定図書を熟読し、レジメ作成と発表、実践経験に基づく意見交換を行い、今後の看護実践に役立つ、実践的なコンサルテーションの習得を目指す。</p> <p>④授業外学習: 講義に際して、初回に担当を決め、担当テーマの内容に関する資料および指定図書を熟読し、レジメ作成、プレゼンテーションの準備を行う。演習でコンサルタントを行った事例の逐語録作成、振り返りを行う。</p> <p>⑤Schein, Edgar H.(1999) Process Consultation Revisited: Building the Helping Relationship, Addison-Wesley Publishing Company. 稲葉元吉他訳(2002) プロセス・コンサルテーション—援助関係を築くこと—, 白桃書房.</p> <p>Schein, Edgar H.(2009) Helping—How to offer, give, and receive help. Berrett-Koehler Publishers, Ink. San Francisco. エドガー・H・シャイン著, 金井壽宏(監修), 金井真弓(翻訳)(2011)人を助けるとはどういうことか 本当の「協力関係」をつくる7つの原則. 英治出版 他</p> <p>⑥討論への参加度、課題レポート及び討議運営のリーダーシップ等によって総合的に行う。</p> <p>⑦オフィスアワー: 特に設けませんが、メールによる質問や連絡が随時受け付ける。 連絡先 satomif@tmu.ac.jp</p> <p>⑧一部演習を8月に集中的に行う。スケジュールおよび演習方法は初回ガイダンス時に説明する。</p> |
|--|---|

博士前期課程・看護科学域

| 授業科目名 | 看護理論 | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
|--|---|------|------|-----|-------|
| (科目英名) | Nursing Theory | 前期 | 月曜 | 5限 | U0013 |
| 担当教員 | 筒井真優美、西村ユミ | | | 6限 | U0014 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | <p>①看護学・看護科学における看護理論の意味を理解し、代表的な看護理論を理解し、各理論の評価と実践への活用可能性と限界について、理解を深める。また、看護実践における理論活用の現状を分析し、その意義等について考察する。</p> <p>②看護学・看護科学の基盤としての看護理論を理解する。 看護学・看護科学における主たる看護理論の構成要素、看護理論研究家の諸説などを理解する。 看護理論の評価を行い、各理論の実践への活用可能性と限界を理解する。</p> <p>③ゼミ形式。学生は課題学習をし、担当した理論の評価と看護実践への活用をプレゼンテーションする。 主体的に授業に参加すること 第1回 看護学・看護科学の学問体系とその発展 第2回 看護学・看護科学における看護理論の位置づけ 第3回 看護理論入門(1):前提・概念・命題 第4回 看護理論入門(2):看護理論研究家の諸説、理論の評価(分析・クリティーク) 第5回 看護理論入門(3):看護理論と看護実践・看護研究との関係 第6回 オレム理論と実践 第7回 キング理論と実践 第8回 レイニンガー理論と実践 第9回 ロジャース看護科学と実践 第10回 ワトソン理論と実践 第11回 看護理論の評価と看護実践への活用(1)プレゼンと討議 第12回 看護理論の評価と看護実践への活用(2)プレゼンと討議 第13回 看護理論の評価と看護実践への活用(3)プレゼンと討議 第14回 看護理論の評価と看護実践への活用(4)プレゼンと討議 第15回 看護理論と看護実践の考察</p> <p>④グループワークの課題を提示する ⑤筒井真優美編集『看護理論家の業績と理論評価』医学書院、2015年(6,400円) ⑥プレゼンテーション:80% 授業への参加度、貢献度:20% ⑦前期月曜日 12:00-13:00</p> | | | | |

| 授業科目名 | 保健医療管理学特論 | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
|--|---|------|------|------|-------|
| (科目英名) | Advanced Healthcare Administration | 後期 | 金曜 | 6-7限 | U0015 |
| 担当教員 | 石川陽子、橋本昶生、他 | | | | |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 | <p>①保健医療の質の評価の理論、概念、実践とその変遷等について学び、医療政策、病院経営、医療安全等との関わりに着目する。</p> <p>②保健医療サービスの質保証という観点から、医療サービスを提供する組織の管理運営を考察していく上で必要な知識・方法を習得する。さらに、医療政策の動向の概念を把握し、医療専門職に求められる社会のニーズについて理し、今後の医療の質の評価・保証の方向性について考察する。</p> <p>③第1-2回 在宅ケアへの評価 第3-4回 病院機能評価 第5-6回 疾病管理 第7-8回 医療安全管理 第9-10回 医療費と医療経営管理 第11-12回 医療政策の動向 第13-15回 発表・まとめ</p> <p>【授業方法】 講義を中心とした授業を実施するが、後半に時間を設け学生のそれぞれの専門領域の視点からテーマに関するディスカッションを行う。最終回の発表では学生の専門領域の医療サービスの質保証と評価について各自が発表し全員でディスカッションを行う。</p> <p>④各授業の内容を見直し、各自で最終回の発表に向けて準備を進める。 ⑤適宜紹介する。 ⑥授業への参加度(30%)及び発表(70%)により評価する。</p> | | | | |

博士前期課程・看護科学域

| | |
|------------------------|---|
| ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | 到達目標に基づき、保健医療サービスの質保証・評価について自らの専門領域の現状と課題が具体的に示され、授業を通じて得られた知見をどのように活用していくかが明確に提示されているかを評価する。 |
| ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ⑦オフィスアワーは特に設けませんが、メールによる質問や連絡は随時受け付ける。連絡先: ishikawa@tmu.ac.jp ⑧授業内容の順番は年度により異なることがある。 |

| | | | | | |
|--------|---------------------------|------|-------|------|-------|
| 授業科目名 | 国際看護活動論 | 配当年次 | 1, 2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Global Health and Nursing | 後期 | 火曜 | 6-7限 | U0017 |
| 担当教員 | 石川陽子、野村亜由美、飯田恭子 | | | | |

| | |
|----------------------------|---|
| ①授業方針・テーマ | ①保健医療分野における国際的視点の育成を目的とし、開発途上国と先進国の健康問題、保健医療システムについて考える。世界の健康格差に注目し看護職の行う国際協力活動について考察するとともに異文化を背景に持つ対象者への理解を深めるために人類学の基礎を学ぶ。さらに国際的な活動に必要なとされる英語力のブラッシュアップを行う。 |
| ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 | ②・開発途上国の健康問題とその要因を理解し、国際協力の基本概念や理論について理解する。 ・諸外国の医療制度・看護制度について理解し、日本と比較して考察する。 ・異文化を背景にもつ対象者への理解を深めよりよい看護サービスの在り方について考察する。 ・看護師の国際移動について理解し、SDG(持続可能な開発目標)との関係や協働の在り方について意見を述べる事ができる。 ・国際的な研究活動の基盤となる英語の論文作成に必要な基礎知識を習得する。 |
| ③授業計画・内容 授業方法 | ③第1・2回 世界の健康問題と国際協力 第3・4回 医療人類学(1) 第5・6回 医療人類学(2) 第7・8回 諸外国の医療制度・看護制度 第9・10回 看護師の移動、移住 第11-14回 Academic Writing(1), (2) 第15回 まとめ 【授業方法】 授業の前半は講義を中心とし、後半ではテーマに関するディスカッションを行う。ケーススタディでは事前学習を行った上でグループワークを行い発表する。Academic Writingでは英文を題材に、英語論文に頻出する専門用語の使い方を理解し、英文要旨を作成する訓練を行う。 |
| ④授業外学習 | ④指定された資料を事前に読み授業に参加するよう指示する場合がある。 |
| ⑤テキスト・参考書等 | ⑤参考図書: 中村沙絵 響応する身体—スリランカの老人施設ヴァディヒティ・ニヴァーサの民族誌(ナカニシヤ出版, 2016) その他、必要に応じて提示する。 |
| ⑥成績評価方法 | ⑥授業への参加度(30%)およびレポート(70%)により評価する。 到達目標に基づき、開発途上国と先進国の健康問題に関わる様々な要因を社会経済文化的視点から理解しているかという視点で評価する。 ディスカッションやグループワークでの積極的な参加姿勢について加点する。 |
| ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ⑦オフィスアワーは特に設けませんが、メールによる質問や連絡は随時受け付ける。連絡先: ishikawa@tmu.ac.jp。 |

| | | | | | |
|--------|------------------------|------|----|-----|-------|
| 授業科目名 | 成人看護学特論 | 配当年次 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Advanced Adult Nursing | 前期 | 金曜 | 4限 | U0019 |
| 担当教員 | 西村ユミ、福井里美、飯塚哲子 | | | 5限 | U0020 |

| | |
|----------------------------|---|
| ①授業方針・テーマ | ①成人期の健康問題をもつ人々、及びその人々への看護実践を理解するための諸概念、諸理論、方法論等を学び、これらと具体的な看護実践とを照らし合わせることで、理論と実践とを結び付けて考察する力を養う。 |
| ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 | ②成人看護学に関連する諸概念、及び実践をめぐる議論を理解する。 |
| ③授業計画・内容 授業方法 | ③1-2 オリエンテーション・課題の提示・成人看護学の諸理論等 3-4 成人期の健康にかかわる諸統計、社会的な課題、諸外国との比較 5-8 成人期の健康問題をもつ人々を理解するための諸理論・諸概念とそれにかかわる実践 9-12 病い経験を理解するための諸理論 13-15 成人看護の諸概念・諸理論と実践との関係の考察 (進め方) |

博士前期課程・看護科学域

| | |
|---|---|
| ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | 本科目は、講義形式、及び学生のプレゼンテーションとそれに対する討論の形式で進める。 学生は、事前に資料等を作成し、議論の準備をすること。 発表や議論の場の運営については、学生が主体的に行う。 ④各授業に関わる文献は、事前に取り寄せて読んでくる。 授業内容は必ず復習をして、各自の研究に役立てる。 ⑤必要に応じて提示する。 ⑥課題レポート、授業への参加度と貢献度 ⑦オフィスアワーは特に設けませんが、メールによる質問や連絡が随時受け付ける。連絡先 yumin@tmu.ac.jp ⑧成人看護学特論演習の基盤となる科目である。 |
|---|---|

| | | | | | |
|--|---|------|-------|--------------|-------|
| 授業科目名 | 成人看護学特論演習 | 配当年次 | 1, 2年 | 単位数 | 6単位 |
| (科目英名) | Methodology of Advanced Adult Nursing | 通年 | 金曜 | 6-7限 及び集中 | U0067 |
| 担当教員 | 西村ユミ、福井里美、飯塚哲子 | | | | |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①成人期にある人々への援助にかかわる課題について、それぞれの学生が関心をもっているテーマを明確化するとともに、文献等を活用してそのテーマの歴史的・社会的背景を幅広く理解する。さらに、その課題に取り組む方法、及びその成果を看護実践へ還元する方法について検討する。 ②自らの課題へと主体的にアプローチする力を養う。 ③1 各自が関心をもっているテーマについて、先行研究や関連図書、フィールドでの調査をもとに、課題の明確化する。 2 課題を取り巻く、歴史的、社会的な位置づけを、文献を用いて検討する。 3 文献検討と調査で得た情報をもとに課題をまとめ、発表と議論の機会を持つ。 4 理解した課題をめぐる議論と、それを看護実践へと還元する方法について論述する。 (進め方) 本科目は、各自の問題を明確化するための作業とその成果を報告し、議論するゼミ形式で進める。 調査と文献検討は、計画を立てて取り組むこと。 発表や議論の場の運営については、学生が主体的に行う。 ④自身の研究に関わる文献は、事前に取り寄せて読んでくる。 研究計画の作成、及び研究実施を、計画的に進める。 授業内容は必ず復習をして、各自の研究に役立てる。 ⑤必要に応じて提示する。 ⑥課題レポート、授業への参加度と貢献度 ⑦オフィスアワーは特に設けませんが、メールによる質問や連絡が随時受け付ける。連絡先 yumin@tmu.ac.jp ⑧成人看護学特論が本科目の基礎となる。 | | | | |

| | | | | | |
|---|--|------|----|-------|-------|
| 授業科目名 | 高齢者看護学特論 | 配当年次 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Advanced Gerontological Nursing | 通年 | 火曜 | 5or7限 | U0119 |
| 担当教員 | 織井優貴子、増谷順子 | | | | |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 | ①療養生活者の健康維持・増進、QOL向上のための看護援助 ②療養生活をおくる人々の健康維持・増進、疾病予防について全人的にそれらを阻む問題、課題を把握し分析する。特に生活習慣病、ストレスに関連する健康問題に着目し終末期を含めたQOLの維持向上を目指した看護介入方法及び介入効果を検討し効果的な看護援助システムについて探求する。 ③講義と学生が主体的に展開するゼミ形式で行う。 1) 療養生活者の健康生活を支援する主要概念と諸理論及び関連する研究成果の分析 ・セルフケア理論と看護実践 ・ストレス・コーピング理論と看護実践 ・危機管理と看護実践 ・スピリチュアリティと看護実践、など 2) 療養生活者を理解し問題解決をする際に重要な原則と考え方 ・療養生活をおくる人の対象理解 ・療養生活をおくる人々の学習の特徴と看護 | | | | |

博士前期課程・看護科学域

| | |
|---|--|
| ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ・健康問題の査定法 ・健康問題と生活及び環境 ・問題解決のための諸資源と諸制度 ・問題解決のための看護実践方法とシステム、及びこれらの改善や開発(シミュレーション教育も含む) ・療養生活者への医療と看護 3)介護予防のための自己管理能力(セルフケア能力)を支援する看護 4)療養生活者の自己管理能力(セルフケア能力)を支援する看護 ④各回の授業内容について文献、資料を十分調べ理解したうえで授業に参加すること。 ⑤必要に応じて提示する。 ⑥評価は課題ごとのレポート、グループ活動、及び討論参加度をあわせて行う。 ⑦オフィスアワーは特に設定しないが質問は随時受け付ける。事前にメールでアポイントメントをとってください。 |
|---|--|

| | | | | | |
|----------------------------|---|---------------|-------|------|-------|
| 授業科目名 | 高齢者看護学特論実践演習 | 配当年次 | 1, 2年 | 単位数 | 6単位 |
| (科目英名) | Methodology of Advanced Gerontological Nursing | 年度跨り | | | |
| 担当教員 | 織井優貴子、増谷順子 | (4月～翌 年9月) | 木曜 | 4-6限 | U0068 |
| ①授業方針・テーマ | ①演習・実習はそれぞれの学生が関心を抱いている看護現象と看護の場を選択して行う。 ・療養生活者の理解、健康・生活状態および現況の査定と分析を行う。 ・問題解決に必要な看護の在り方を検討する。 ・問題解決に関係する諸制度や資源について理解を深める。 ・問題解決のための看護実践方法、看護提供組織、および環境の改善策の開発を検討する。 | | | | |
| ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 | ②それぞれの学生が関心を抱いている対象、看護の場において演習、実習を行い、講義・演習などで学んだ理論、知識、技術を実践に適用・統合する。更に、対象理解や問題解決に関係する諸制度や資源、人的関係に関して理解を深めるとともに、療養生活者、家族および関係する医療者を対象とした教育的支援が行える能力を高める。 | | | | |
| ③授業計画・内容 授業方法 | ③必要な実践現場において、上記の実践に参加する。 ・実践現場で可能な限り改善や開発的な活動を検討し実践する。 ・学生は行動計画をたて、教員の指導を得て実践に参加する。この際、実習および協力依頼法や協力への謝意の表し方なども学習する。 ・実践経過、その内容、開発的な実践活動などについてレポートを作成し提出する。 | | | | |
| ④授業外学習 | ④学生は、実践演習に必要な知識と技術について予習して演習に臨むこと。また実践演習の目標と到達度を分析しレポートを作成し提出する。 | | | | |
| ⑤テキスト・参考書等 | ⑤必要に応じて提示する。 | | | | |
| ⑥成績評価方法 | ⑥実習での達成度、参加状況、学内外での討論への参加・貢献度、実践レポート等による総合評価 | | | | |
| ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ⑦オフィスアワーは特に設定しないが、随時質問に応じる。事前にメールでアポイントメントをとってください。 | | | | |

| | | | | | |
|----------------------------|--|------|-------|-----|-------|
| 授業科目名 | 助産学特論 | 配当年次 | 1, 2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Midwifery | | | 4限 | U0029 |
| 担当教員 | 安達久美子、菱沼由梨 | 前期 | 水曜 | 7限 | U0030 |
| ①授業方針・テーマ | ①周産期及び、女性の生涯全般を通しての性と生殖に関する健康問題を身体的、心理社会的視点から把握し、それに影響する要因について帰納的・演繹的に分析できる能力を養う。また、EBMに基づく助産ケアの重要性の理解を深め研究の発展について論ずる。 | | | | |
| ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 | ②個々の学生の関心に沿って、テーマを決め、課題の報告を中心に検討を深めることができる。 ・課題に関する事前学習を充分におこなって、授業に主体的に参加し、自身の意見を他者に伝えることができる。 | | | | |
| ③授業計画・内容 授業方法 | ③以下のような課題を中心に、各学生の関心に基づいた分析と課題解決の検討を行う。 1・2回 助産学研究とは 3・4回 助産学研究における統計学的アプローチ1 5・6回 助産学研究における統計学的アプローチ2 7・8回 EBMとシステムティックレビュー1 9・10回 EBMとシステムティックレビュー2 11～14回 助産学領域における質的アプローチ 15回 まとめ | | | | |
| ④授業外学習 | ④各学生は事前に担当課題の準備状況を教員に相談しながら、効果的な授業の展開ができるように努力する。 | | | | |

博士前期課程・看護科学域

| | |
|------------------------|---|
| ⑤テキスト・参考書等 | ⑤科学的根拠に基づく 快適で安全な妊娠出産のためのガイドライン 金原出版株式会社, 2013. 看護研究のための文献レビュー 医学書院, 2013. |
| ⑥成績評価方法 | ⑥毎回の討論への参加度、報告内容、討議運営のリーダーシップ等によって総合的に評価する。 |
| ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ⑦オフィスアワーは特に設けないが、メールによる質問や連絡が随時受け付ける。連絡先は初回授業時に提示する。 |
| ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ⑧講義及びゼミ形式 |

| | | | | | |
|--------|---------------------|------|-------|------|-------|
| 授業科目名 | 助産学特論実践演習 | 配当年次 | 1, 2年 | 単位数 | 6単位 |
| (科目英名) | Midwifery:Practicum | 後期 | 木曜 | 1-6限 | U0069 |
| 担当教員 | 安達久美子 | | | | |

| | |
|------------------------|--|
| ①授業方針・テーマ | ①女性の健康問題解決のための助産活動の拠点となる医療機関、地域、助産所、学術団体等でのフィールドワークを通して、女性及びその家族の健康問題を理論的に分析できる。 ②学生個々に、フィールドワークを計画することができ、フィールドワークを通じて、自身の研究課題を明らかにすることができる。 ③学生個々に、演習テーマを設定し、フィールドワークを展開する。 演習テーマの例) ・女性と家族の健康に関すること ・助産ケアの理論と実践に関すること ・医療と助産ケアに関連するシステムや政策に関すること フィールドワークにあたっては、以下の点に留意すること ・フィールドワーク先の調整を自身で行う ・2か所以上のフィールドワークを行う ・終了後の振り返りを行い、評価する ④学生はフィールドワークに備え、文献検索を行い、課題の明確化をして臨む。 ・演習成果のプレゼンテーションの準備を行う。 ⑤講義の中で、提示する。 ⑥学習経過全般を通して、学習計画、実施、成果報告、考察等について考え方や理論の実践を中心に評価する。 ⑦オフィスアワーは特に設けないが、メールによる質問や連絡が随時受け付ける。連絡先は初回授業時に提示する。 ⑧実習・ゼミ形式 ・現場での体験については、指導教員と共に事前に学習計画を立案し、実施交渉や事後の成果報告に至るまでの手続き、その他、学習全般を学習過程に含める。 ・学習経過中には、中間報告等の学生間での情報交換や学習内容の検討を行い、互いの経験がより深まる機会を持つ。 |
| ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 | |
| ③授業計画・内容 授業方法 | |
| ④授業外学習 | |
| ⑤テキスト・参考書等 | |
| ⑥成績評価方法 | |
| ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | |
| ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | |

| | | | | | |
|--------|---|------|-------|-----|-------|
| 授業科目名 | 助産学活動論 | 配当年次 | 1, 2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | The Practice and Activities of Midwives | 後期 | 金曜 | 4限 | U0031 |
| 担当教員 | 安達久美子 | | | 7限 | U0032 |

| | |
|------------------------|--|
| ①授業方針・テーマ | ①助産学領域の研究成果を検討し、エビデンスに基づく助産ケア実践のあり方、評価および、適切なインフォームドコンセントと効果的なケアの提供の在り方を研究的視点から論述することを学ぶ。 ②助産ケアについて、科学的な根拠を基に吟味する力を養う。 ③1~4回: Evidence Based Midwifery 5~10回: コクランにみる助産ケア評価 11~15回: 課題テーマ別ディスカッション ④課題に関する事前学習を充分におこなって、授業に主体的に参加する。 授業外学習: テーマにそった文献を各自検索し、ゼミに備える。 ⑤講義内で提示する。 ⑥毎回の討論への参加度、報告内容、討議運営のリーダーシップ等によって総合的に評価する。 ⑦オフィスアワーは特に設けないが、メールによる質問や連絡が随時受け付ける。連絡先は初回授業で提示する。 ⑧講義及びゼミ形式 |
| ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 | |
| ③授業計画・内容 授業方法 | |
| ④授業外学習 | |
| ⑤テキスト・参考書等 | |
| ⑥成績評価方法 | |
| ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | |
| ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | |

博士前期課程・看護科学域

| | | | | | |
|--|--|------|----|-----|-------|
| 授業科目名 | リプロダクティブヘルス看護学特論 | 配当年次 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Reproductive Health Nursing Lecture | 前期 | 木曜 | 4限 | U0152 |
| 担当教員 | 木村千里、園部真美 | | | 5限 | U0153 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | <p>①講義及びゼミ形式で行う。リプロダクティブヘルス看護学に関連する諸概念、理論、重要課題について研究論文や書籍などをもとに討議する。</p> <p>②リプロダクティブヘルス、乳幼児精神保健に関する歴史・社会的背景、国際的動向を知り、女性と家族の健康課題に関する理論、概念、研究成果の活用方法を理解し、根拠に基づいた支援のあり方を考察できる。</p> <p>③<授業計画と内容></p> <p>1回 オリエンテーション</p> <p>2回 リプロダクティブヘルス、ウィメンズヘルスに関する諸概念・理論・方法論</p> <p>3回 母子保健、乳幼児精神保健、母子に関する医療福祉制度とヘルスケアシステムについて文献や保健統計資料を概観し、諸外国との比較を通して理解を深める</p> <p>4～6回 女性と家族の健康問題：思春期、成熟期、更年期</p> <p>7回 夫婦・家族のアセスメント</p> <p>8～11 リプロダクティブヘルス看護学領域における量的研究</p> <p>12～15回 リプロダクティブヘルス看護学領域における質的研究</p> <p><授業方法></p> <p>講義・ゼミを中心に、個人あるいはグループによる課題学習、プレゼンテーションとディスカッションを取り入れる。講義計画については、履修学生の状況によって調整しながら進める。</p> <p>④毎回の授業終了時に示す課題について、講義・ゼミ前に自己学習後、論点を整理しA4用紙1枚程度の資料を作成したうえで臨むこと。</p> <p>⑤テキストは使用しない。必要に応じて資料を配布する。</p> <p>⑥講義・ゼミにおける討議参加度40%、作成資料(含、レポート)40%、出席状況20%の割合で評価する。</p> <p>⑦オフィスアワーは設定しない。連絡や質問がある場合は、ckimura@tmu.ac.jp までメールしてください。</p> <p>⑧ゼミは他大学との合同ゼミを含みます。また、他の授業科目との関連性については履修の手引き・授業概要の履修モデルを参照のこと。</p> | | | | |

| | | | | | |
|--|---|------|------|------|-------|
| 授業科目名 | リプロダクティブヘルス看護学特論演習 | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 6単位 |
| (科目英名) | Reproductive Health Nursing Practicum | 通年 | 木曜 | 6-7限 | U0154 |
| 担当教員 | 木村千里、園部真美 | | | 及び集中 | |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | <p>①研究課題に関する概念や理論、リプロダクティブヘルスを促進するための看護実践と課題について、フィールドでの演習、ゼミでの討議を通して考察し、論述する。</p> <p>②リプロダクティブヘルス看護学領域の特徴、概念や理論を基盤とし、リプロダクティブヘルス、ウィメンズヘルス、乳幼児精神保健を促すための看護実践、支援活動とその課題について、実際の看護実践場面、事例検討会への参加から考察し、自らの看護実践を振り返り、研究課題を明確化する。</p> <p>③<授業計画・内容></p> <p>1. 関心のあるテーマ、研究課題について、先行研究をレビューし、研究デザイン、研究手法、論文執筆方法について学ぶ。</p> <p>2. 女性と家族への継続的なかわりや集団・地域におけるリプロダクティブヘルスに対するヘルスプロモーションなどの看護実践場面の参加観察、フィールドでの演習により現行の看護実践と課題を明確化し、自己の研究課題に関連づけて、考察・論述する。</p> <p>3. 自身の研究課題を明確にし、研究計画書を作成する。</p> <p><授業方法></p> <p>初回オリエンテーション後はゼミ、個人あるいはグループによる課題学習、プレゼンテーション、ディスカッションを取り入れながら進める。</p> <p>看護実践場面の参加観察やフィールドでの演習については、自身の研究課題に関連付けて考察し、成果のプレゼンテーションを行い、ディスカッションでの意見を効果的に活用し、研究計画書を作成する。</p> <p>④プレゼンテーション資料の作成、参加観察や演習のレポート作成については、文献検索、適宜提示される資料を基に作成する。</p> <p>⑤テキストは使用しない。必要に応じて資料を提示する。</p> <p>⑥実施計画書・成果発表70%、ゼミや討議への参加度20%、出席状況10%の割合で評価する。</p> <p>⑦オフィスアワーは設定しない。連絡や質問がある場合は、ckimura@tmu.ac.jp までメールしてください。</p> | | | | |

博士前期課程・看護科学域

⑧特記事項
(他の授業科目との関連性)

⑧他の授業科目との関連性については履修の手引き・授業概要の履修モデルを参照のこと。

| | | | | | |
|------------------------|---|------|-----|-----|-------|
| 授業科目名 | 小児看護保健行動科学 I | 配当年次 | 1 年 | 単位数 | 2 単位 |
| (科目英名) | Pediatric Behavioral Nursing Sciences I | 前期 | 火曜 | 3 限 | U0033 |
| 担当教員 | 山本美智代、種吉啓子 | | | 6 限 | U0034 |
| ①授業方針・テーマ | ①小児看護学の対象である子どもと、その内的環境や外的環境(家族、医療者、社会・文化など)との相互作用の中で生じる看護現象を、対話や観察を通して帰納的にとらえると共に、成長発達にかかわる理論の枠組みをもちいて演繹的にとらえる。 | | | | |
| ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 | ②看護現象を帰納的にとらえる方法として観察と対話の方法を学び、演繹的にとらえる方法として子どもの発達理論を学ぶ。また、とらえたものを看護実践にむすびつける時の手がかりともなりうるコーピング、セルフケア、ソーシャルサポート理論を学ぶ。 | | | | |
| ③授業計画・内容 授業方法 | ③授業計画 【1回】子どもをとりまく現象を把握するための方法 【2-5回】観察をもちいての現象の把握(テキスト1) 【6-8回】対話をもちいての現象の把握(テキスト2) 【9-12回】発達理論から子どもの発達を捉える(ピアジェ、エリクソン、ボウルビィ、ブルーナ、ウニコット) 【13-14回】概念枠組みをもちいて看護援助を考える(コーピング、セルフケア、ソーシャルサポート) 【15回】まとめ 授業内容 学生による発表と討論を中心に進めるゼミ形式の講義なので、十分な事前学習を行い、主体的に授業に取り組む。それぞれの授業のリーダーシップをとる学生は、担当教員と事前に打ち合わせを行いながら、授業が円滑に進むように準備を行う。 | | | | |
| ④授業外学習 | ④各授業の内容について十分な事前学習を行い、発表者は発表資料を作成する。 発達理論については、1. 理論の構成要素(前提、概念、命題) 2. 理論の取り上げ方(理論の背景、源泉、概要、評価)の2つの視点について各自授業前に調べ、発表者は資料を作成する。 | | | | |
| ⑤テキスト・参考書等 | ⑤テキスト(観察、対話) ・鯨岡(2006).エピソード記述入門 実践と質的研究のために. 東京大学出版会. ・能智正博(2011). 臨床心理学をまなぶ6 質的研究方法 初版. 東京大学出版会. 参考図書 ・村井潤一編(1994):別冊 発達4 発達の理論をきざく. ミネルヴァ書房, 京都. ・浜田寿美男編(1996):別冊 発達 20 発達の理論—明日への系譜—. ミネルヴァ書房, 京都. ・Erikson, E.H./仁科弥生訳(2001):幼児期と社会1. みすず書房 ・Erikson, E.H./仁科弥生訳(2001):幼児期と社会2. みすず書房 ・Fredman, R./西平直 監訳(2003):エリクソンの人生 上下 アイデンティティの探索者. 新曜社. ・岡本夏木, 山上雅子編(2000):意味の形成と発達. 生涯発達心理学序説. 初版第1刷. ミネルヴァ書房, 京都. ・小嶋秀夫, やまだようこ(2002):生涯発達学(放送大学教材). 放送大学教育振興会. ・Tomey,A.M/都留伸子訳(2011):看護理論家とその業績 第3版, 医学書院. | | | | |
| ⑥成績評価方法 | ⑥講義への参加度、担当時間の運営、レポートによって評価する。 | | | | |
| ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ⑦オフィスアワーは設定しないが、直接質問したい場合は授業終了後に行うか、事前にメール等でアポイントメントをとることが望ましい。 | | | | |
| ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ⑧小児看護CNS専攻コースの学生は必修 | | | | |

| | | | | | |
|------------------------|--|------|-----|-----|-------|
| 授業科目名 | 小児看護保健行動科学 II | 配当年次 | 1 年 | 単位数 | 2 単位 |
| (科目英名) | Pediatric Behavioral Nursing Sciences II | 後期 | 火曜 | 3 限 | U0037 |
| 担当教員 | 山本美智代、種吉啓子 | | | 6 限 | U0038 |
| ①授業方針・テーマ | ①子どもをとりまく社会、保健、医療、福祉、教育に関する法律、政策、制度の現状を知り、子どもが置かれた状況を把握する。 | | | | |
| ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 | ②子どもに関する個別分野ごとの法律、政策、制度について調べ、子どもが置かれた状況を評価するための規範を知る。さらに、難治性疾患など小児医療から成人医療への移行が必要な疾病について、移行医療の現状と課題を把握する。そのような学習を経ることで、小児看護領域において高度実践看護師が果たすべき役割を考える。 | | | | |

| | |
|---|--|
| <p>③授業計画・内容 授業方法</p> <p>④授業外学習</p> <p>⑤テキスト・参考書等</p> <p>⑥成績評価方法</p> <p>⑦質問受付方法 (オフィスアワー)</p> <p>⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)</p> | <p>③授業計画・内容</p> <p>【1-2 回】我が国における子どもをとりまく社会、保健、医療の歴史と動向 子どもの権利条約批准とその後の経過について</p> <p>【3-4 回】子どもに関する個別分野ごとの法律の対象と内容 児童福祉法、教育基本法・学校教育法、児童虐待の防止に関する法律について</p> <p>【9-10 回】小児医療の場における保健、福祉、教育との連携と今後のあり方</p> <p>【11-13 回】小児医療から成人医療への移行医療の現状とその課題</p> <p>【14-15 回】小児看護保健領域における高度実践看護師の役割</p> <p>【5-6 回】子どもに関する個別分野ごとの政策・制度・機構</p> <p>【7-8 回】小児医療の場で子どもの権利を守るために必要な考え方</p> <p>授業方法</p> <p>学生による発表と討論を中心に進めるゼミ形式の講義なので、十分な事前学習をおこなって主体的に授業に取り組む。それぞれの授業のリーダーシップをとる学生は、担当教員と事前に打ち合わせを行いながら、授業が円滑に進むように準備を行う。</p> <p>④授業外学習</p> <p>各授業の内容について、参考書等を用いて十分な事前学習を行い、発表者は発表資料を作成する。</p> <p>⑤参考書等</p> <p>【子どもの権利・政策・制度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユニセフ. 子どもの権利条約 25 周年. HP (https://www.unicef.or.jp/crc/) ・子どもの権利条約総合研究所. 特集 子どもの権利条約の 20 年. 子どもの権利研究 15 巻, 2008. ・日本看護協会. 小児看護領域の看護業務基準, 1999 ・日本小児看護学会. 小児看護の日常的な臨床場面での倫理的課題に関する指針. 2010,3. ・厚生労働省. 子ども・子育て支援新制度. HP (http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo_kosodate/) ・厚生労働省. 小児慢性特定疾患治療研究事業. HP (http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/boshi-hoken05/) <p>【子どもに関する法律】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの権利に関する研究会 編. Q&A 子どもをめぐる法律相談. 新日本法規. <p>【子どもの移行期医療】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本小児科学会 移行期の患者に関するワーキンググループ. 小児期発症疾患を有する患者の移行期医療に関する提言. 日本小児科学会雑誌 118(1), 98-106, 2014. <p>⑥講義への参加度、担当時間の運営、レポートによって評価する。</p> <p>⑦オフィスアワーは設定しないが、直接質問したい場合は授業終了後に行うか、事前にアポイントメントをとることが望ましい。</p> <p>⑧小児看護CNS専攻コースの学生は必修</p> |
|---|--|

| | | | | | |
|--------|---|------|-------|-----|-------|
| 授業科目名 | 小児看護保健行動科学Ⅲ | 配当年次 | 1、2 年 | 単位数 | 2 単位 |
| (科目英名) | Pediatric Behavioral Nursing Sciences Ⅲ | 前期 | 木曜 | 4 限 | U0039 |
| 担当教員 | 山本美智代、種吉啓子、岩崎美和 | | | 6 限 | U0040 |

| | |
|--|--|
| <p>①授業方針・テーマ</p> <p>②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標</p> <p>③授業計画・内容 授業方法</p> | <p>①病気や障害をもつ子どもとその家族の情報と、それに対する看護援助とその効果を把握する方策の 1 つとして、参加観察法や面接法などを学び、フィールドワークを通してその技法を習得する。</p> <p>②子どもと家族を包括的に査定するための方略や技術の習得を目指す。</p> <p>③【1 回】オリエンテーション 講義の目的と学習方法の説明</p> <p>【2 回】参加観察法とは 子どもと家族の状況や看護援助の場面を的確に捉える、参加観察法の目的、方法、倫理的配慮について理解する。</p> <p>【3・4 回】フィールドワーク、ビデオを用いた参加観察演習 フィールドワークによって実際に参加観察を実施し、データを収集する。</p> <p>【5 回】観察データの分析 フィールド演習をもとにレポートを提出し、討議し、子どもと家族に関する情報収集技術、分析、評価の方法を学ぶ。</p> <p>【6 回】面接法とは 子どもと家族の情報収集の技術としての面接法について理解する。</p> <p>【7 回】フィールドワーク 学生同士でテーマを決めて実際に面接を実施し、面接データを収集する。</p> <p>【8 回】面接データの分析 フィールド演習をもとにレポートを提出し、討議し、面接データの質的分析方法を学ぶ。</p> |
|--|--|

| | |
|---|---|
| <p>④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等</p> <p>⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)</p> | <p>【9回】フィールドワーク 任意の対象およびテーマを決めて実際に面接を実施し、面接データを収集する。</p> <p>【10回】面接データの分析 フィールド演習をもとにレポートを提出し、討議し、面接データの質的分析方法を学ぶ。</p> <p>【11-13回】看護実践の場における参加観察法または面接法の演習 看護実践のなかで疑問に思った場面や質の高いケアが行われている場面、子どもと家族との関わりの場面などで参加観察をおこなったり、子どもや家族、看護師と面接を行い、情報を収集し、テキストを作成する。なお、演習の場(対象)は、学生が関心をもつ子どもや家族に看護が提供されている施設において、学生が参加観察を行うことや話を聞くことに同意が得られた子どもや家族、看護師とする。</p> <p>【14・15回】情報の分析、評価 フィールドワークで収集した質的情報を分析、検討することによって、関心を持った看護実践を論理的に記述する。 *詳細は別途説明する</p> <p>④各授業の内容について十分な事前学習を行い、発表者は発表資料を作成する。</p> <p>⑤参考書 ・南裕子編(2017):看護における研究(第2版).日本看護協会出版会,東京. ・佐藤郁哉(2002):フィールドワークの技法.新曜社,東京. ・佐藤郁哉(2006):フィールドワーク書を持って街へ出よう増補版.新曜社,東京 ・伊藤哲司編(2005):動きながら識る,関わりながら考える,ナカニシヤ出版,東京 ・能智正博(2011):臨床心理学をまなぶ6 質的研究方法,東京大学出版会,東京 ・鯨岡 峻(2013):なぜエピソード記述なのか「接面」の心理学のために.東京大学出版会,東京</p> <p>⑥講義と演習への参加、発表、分析結果、討論の状況、によって総合的に評価する。</p> <p>⑦オフィスアワーは特に設定しないが、直接質問したい場合は授業終了後に行うか、事前にアポイントメントをとることが望ましい。</p> <p>⑧小児看護 CNS 専攻の学生は『小児看護保健行動科学Ⅰ』『小児看護保健行動科学Ⅱ』『小児看護対象論』『小児看護援助論Ⅰ』『小児看護援助論Ⅱ』を既習している必要がある。</p> |
|---|---|

| 授業科目名 | 小児看護対象論 | 配当年次 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
|--------|--|------|----|-----|-------|
| (科目英名) | Pediatric Assessment Methodology for Nursing | 前期 | 月曜 | 3限 | U0041 |
| 担当教員 | 山本美智代、種吉啓子、田中恭子、中谷勝利 | | 水曜 | 7限 | U0042 |

| | |
|--|--|
| <p>①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標</p> <p>③授業計画・内容 授業方法</p> <p>④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等</p> | <p>①様々な健康レベルにある子どもやその家族を包括的に査定するための知識と技術を習得する。</p> <p>②子どもや家族を査定するために、子どもの成長発達のみかた、フィジカル・アセスメントの方法、家族システム理論を知識として学ぶ。その後、実際に子どもとその家族が訪れる外来において、既存の査定方法がどのように活用されているのかを学ぶ。さらに、ライフステージやライフサイクルを視野に入れた子どもと家族の査定の方法を学ぶ。そして、学んだ査定方法や情報収集方法を実践に応用する方法を検討する。</p> <p>③授業計画 【1回】子どもの成長発達のみかたと発達検査 【2-4回】デンバー式発達スクリーニング法、ベイリー発達検査による発達のアセスメント 【5-6回】子どものフィジカル・アセスメント 【7回】成人期に移行した先天性の疾患を持つ患者と家族の問診方法、生活評価の方法 【8-9回】家族システム理論の枠組みをもちいての子どもと家族、それを取り囲む環境のアセスメント 【10-13回】看護実践の現場で気になった場面を捉える方法(エピソード記述の活用) 【14-15回】これまでに習得した査定方法の実践への応用</p> <p>授業方法 2-4回は発達外来で定期的に発達のフォローを受ける子どもの診察場面に陪席させてもらい、発達評価、フォローの仕方を学ぶ。 5-7回は小児科外来で、定期的に診察に訪れる先天性疾患を持つ子どもやその家族をどのように把握し、どのように評価するのか、生活についての問診方法や評価方法の実際を学ぶ。その際に、成人期に移行した患者や家族について、ライフステージに応じた日常生活の把握方法も意識して学習する。 8-15回は学生による発表と討論を中心に進めるゼミ形式であるため、十分な事前学習を行って主体的に授業に取り組む。それぞれの授業のリーダーシップをとる学生は、担当教員と事前に打ち合わせを行いながら、授業が円滑に進むよう準備する</p> <p>④各授業の内容について、参考書等を利用して十分な事前学習を行い、発表者は発表資料を作成して授業に臨む。</p> <p>⑤田中恭子編(2014).子ども療養支援 医療を受ける子どもの権利を守る,中山書店. 上田礼子(2012).生涯人間発達学 改訂第2版増補版,三輪書店. 田中恭子(2006).小児医療の現場で使えるブレバレーションガイドブック,日経研. 北住映二,杉本健郎編.(2012).新版 医療的ケア研修テキスト,初版.クリエイツかもがわ. 倉田慶子,樋口和郎,麻生幸三郎(2016).ケアの基本がわかる 重症心身障害児の看護.へるす出版.</p> |
|--|--|

博士前期課程・看護科学域

| | |
|---|---|
| ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | 五十嵐隆, 及川郁子, 林富, 他監修(2014). 子ども療養支援医療を受ける子どもの権利を守る. 中山出版. ⑥講義への参加度、担当時間の運営、レポートによって評価する。 ⑦オフィスアワーは設定しないが、直接質問したい場合は授業終了後に行うか、事前にアポイントメントをとることが望ましい。 ⑧小児看護CNS専攻コースの学生は必修 |
|---|---|

| | | | | | |
|--------|--|------|-----|-----|-------------------|
| 授業科目名 | 小児看護援助論 I | 配当年次 | 1 年 | 単位数 | 2 単位 演習: 60 時間 |
| (科目英名) | Advanced Nursing Care for Pediatric Patients I | 通年 | 水曜 | 3 限 | U0043 |
| 担当教員 | 種吉啓子、山本美智代、伊藤正恵 | | | 6 限 | U0044 |

| | |
|--|--|
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | <p>①) 子どもが病気や障害をもつことによって生じる、子どもと家族の変化について査定する方法を学ぶ。 2) 査定によって明らかになった看護上の問題に対して援助する方法を、帰納的、演繹的に考える。 3) 習得した知識を実践の場で活用することにより、適切な援助方法を検討する力を身につける。</p> <p>②) 高度化する医療や多様化する価値観のなかで、子どもの権利を尊重し、子どもとその家族が主体的に闘病に取り組むことができるような援助方法の習得を目指す。</p> <p>③) 1) 子どもの病気と障害をもつことによって生じる、子どもと家族の生活の変化や子どもの成長発達、身体の状態について総合的にアセスメントをおこない、明らかになった問題に対する看護援助の方法を検討する。(講義 24 コマ) 2) 講義での学びをふまえ、病棟での演習をとおして、対象の把握、アセスメント、援助方法の検討をおこない、可能な範囲で実践、評価を行う。(演習 6 コマ) 【1 回】オリエンテーション 講義の目的と学習方法の説明 【2・3 回】子どもの権利を尊重した援助方法について 【4 回】子どもや家族の生活と環境の変化を査定する方法について 【5-10 回】急性の健康問題をもつ子どもと家族の看護援助 【11-16 回】慢性の健康問題をもつ子どもと家族の看護援助 【17-20 回】ターミナル期における子どもと家族の看護援助 【20・21 回】看護実践への看護理論の応用 【22-28 回】病院施設における演習 【29・30 回】対象把握の方法と看護援助のまとめ * 詳細は別途説明する。</p> <p>④) 本科目は小児看護学の基礎知識をもとに進行することから、本授業前に既存の知識を復習してから臨むこと推奨する。加えて、演習の際には短期間で看護過程が展開できるよう、授業内容の復習等の準備をすることが必要である。</p> <p>⑤) 及川郁子監(2014): フィジカルアセスメントと救急対応. 中山書店, 東京. ・Potts, N.L. & Mandelco, B.L. (2012): Pediatric Nursing: Caring for Children and Their Families (3rd.ed.). Delmar. ・Hockenberry, M.J. & Wilson, D. (2011): Wong's Clinical Manual of Pediatric Nursing, Mosby-Year Book. ・日本小児保健協会編(2003): DENVER II -デンバー発達判定法-. 医事出版社, 東京. ・上田礼子編(2001): 子どもの発達のみかたと支援. 中外医学社, 東京</p> <p>⑥) 講義と演習への参加、レポート、討論の状況、によって総合的に評価する。 ⑦) オフィスアワーは設定しないが、直接質問したい場合は授業終了後に行うか、事前にアポイントメントをとることが望ましい。 ⑧) 小児看護 CNS 専攻コースの学生は、『小児看護保健行動科学 I』『小児看護対象論』を履修している必要がある。</p> |
|--|--|

| | | | | | |
|--------|---|------|-----|-----|-------|
| 授業科目名 | 小児看護援助論 II | 配当年次 | 1 年 | 単位数 | 2 単位 |
| (科目英名) | Advanced Nursing Care for Pediatric Patients II | 後期 | 木曜 | 4 限 | U0045 |
| 担当教員 | 種吉啓子、山本美智代、岩崎美和 | | | 6 限 | U0046 |

| | |
|-----------|--|
| ①授業方針・テーマ | <p>①) 医療を提供する組織の仕組みと、組織のなかでの看護師の位置づけを学ぶ。さらに、看護援助が組織のなかでどのように位置づけられて成立するものか、看護援助を組織的な側面から理解する。 2) 看護師が遂行すべき責務が、個人の価値観だけでなく、法律や社会的規範、組織の理念、看護専門職としての価値観とどのように結びついているのか、看護援助を倫理的な側面から理解する。 3) 専門知識や看護技術の向上を図るために、専門看護師が実践の場において活用できる教育方法について学ぶ。 4) 以上の組織的な側面や倫理的な側面についての学びをもとに、専門看護師の相談機能、調整機能、倫理調整機能および教育機能を活用して、看護援助を行う方法を習得する。</p> |
|-----------|--|

| | |
|--|--|
| <p>②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標</p> <p>③授業計画・内容 授業方法</p> | <p>②子どもと家族が、主体的に闘病に取り組むための援助方法の学習を目指す。</p> <p>③1)看護援助の組織的・倫理的な側面についての学びをもとに、専門看護師の相談機能、調整機能、倫理調整機能および教育機能を活用して、看護援助を行う方法を学習する。(講義 11 コマ)</p> <p>2)専門看護師の実践の場での演習を通して、それぞれの機能が援助のなかでどのように活用されているのかを学習する。(演習 4 コマ)</p> <p>【1 回】オリエンテーション</p> <p>【2・3 回】看護組織のしくみと機能 子どもと家族が直面する健康問題や社会的問題を解決する能力を高めるために、医療を提供する組織のしくみと組織のなかでの看護師の位置づけ、看護師の役割とチームアプローチの方法について学ぶ。</p> <p>【4・5 回】看護実践場面における倫理的判断 子どもと家族への看護場面において生じる倫理的問題を解決するために、『看護倫理学特論』で学んだ知識や倫理的意識決定モデルの枠組みを活用し、問題を解決するための方法を学ぶ。</p> <p>【6・7 回】多職種との連携と協同 子どもと家族への援助を行うために、多職種が連携・協働する必要性と効果的に連携・協働を行うための課題について学ぶ。そのために、「専門職連携の実践 (Interprofessional Work)」と「専門職連携教育 (Interprofessional Education)」について学習を深める。</p> <p>【8・9 回】看護職者に対する教育 看護援助の質を向上させるために、専門看護師が看護師に行う教育の目的、教育内容、教育プロセスについて理解する。</p> <p>【10 回】相談機能、調整機能、倫理調整機能、教育機能役割について 専門看護師の相談機能、調整機能、倫理調整機能、教育機能について、実践成果や研究結果について文献検討を行う。その後、2～9 回までの講義をふまえ、専門看護師の相談機能、調整機能、倫理調整機能および教育機能を用いて、子どもと家族が主体的に闘病に取り組むための援助方法を検討する。</p> <p>【11-14 回】演習 これまでの講義で学んだことをふまえ、専門看護師の実践場面において、相談機能、調整機能、倫理調整機能、教育機能がどのように活用されているのかを学習する。</p> <p>【15 回】専門看護師の相談、調整、倫理調整、教育機能に関するまとめ 講義と演習から、専門看護師の相談機能、調整機能、倫理調整機能、教育機能が援助のなかでどのように活用されていたのかを各学生でまとめて発表し討議する。</p> <p>* 詳細は別途説明する</p> |
| <p>④授業外学習</p> | <p>④本科目は小児看護専門看護師の基礎知識をもとに進行することから、本授業前に既存の知識を復習してから臨むこと推奨する。加えて、演習の際には授業内容の復習等の準備をすることが必要である。</p> |
| <p>⑤テキスト・参考書等</p> | <p>⑤・Benner, P.(1984)/井部俊子監訳(2005):ペナ－看護論. 医学書院, 東京.</p> <p>・Fry,S.T.& Johnstone,M.J.(2010)/片田範子, 山本あい子訳(2010):看護実践の倫理(第3版). 日本看護協会出版会, 東京.</p> <p>・福井次矢, 浅井篤, 大西基喜編(2003):臨床倫理学入門. 医学書院, 東京.</p> <p>・Hamric,A.B. & Spross,J.A.(2013): Advanced Practice Nursing An Integrative Approach (Fifth Ed.). W B Saunders.</p> <p>・Lippitt,G.(1994):The Consultation Process in Action (2nd.ed.). Pfeiffer & Co.</p> <p>・南裕子監(2003):看護理論の臨床活用. 日本看護協会出版会, 東京.</p> <p>・野末聖香編(2004):リエゾン精神看護. 医歯薬出版, 東京.</p> <p>・岡崎澄子, 小島恭子編(2002):ケアの質を高める看護倫理. 医歯薬出版, 東京.</p> <p>・佐藤直子(1999):専門看護師制度 理論と実践. 医学書院, 東京.</p> <p>・Schein,E.H.(1969)/稲葉元吉・尾川丈一訳(2012):プロセス・コンサルテーション. 白桃書房, 東京.</p> <p>・Hockenberry,M.J & Wilson, D.(2007):Wong's Clinical Manual of Pediatric Nursing. Mosby Inc.</p> <p>・杉森みどり, 舟島なをみ(2012):看護教育学(第5版). 医学書院, 東京.</p> <p>・井上智子訳(2012):ペナ－看護ケアの臨床知-行動しつつ考えること(第2版), 医学書院, 東京.</p> <p>・井部俊子(2015):専門看護師の思考と実践, 医学書院, 東京.</p> <p>・宇佐美しおり他 (2009):精神看護スペシャリストに必要な理論と技法, 日本看護協会出版会, 東京.</p> <p>・中村美鈴他監訳(2017):高度実践看護総合的アプローチ, へるす出版, 東京.</p> |
| <p>⑥成績評価方法</p> <p>⑦質問受付方法 (オフィスアワー)</p> <p>⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)</p> | <p>⑥講義と演習への参加、発表、討論の状況によって総合的に評価する。</p> <p>⑦オフィスアワーは設定しないが、直接質問したい場合は授業終了後に行うか、事前にアポイントメントをとることが望ましい。</p> <p>⑧小児看護 CNS 専攻コースの学生は『小児看護保健行動科学 I』『小児看護対象論』を既習している必要がある。</p> |

| 授業科目名 | 小児看護保健行動科学実践演習 | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 6単位 |
|------------------------|---|------|------|------|-------|
| (科目英名) | Practicum in Pediatric Nursing | 通年 | 木曜 | 1-5限 | U0035 |
| 担当教員 | 種吉啓子、山本美智代、渡邊輝子 | | | | |
| ①授業方針・テーマ | ①看護介入が困難な事例との関わりをとおして、子どもの権利を尊重し、子どもとその家族が主体的に闘病できるための看護援助を実践する高度な能力を培う。 | | | | |
| ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 | ②看護介入が困難な事例との関わりをとおして、子どもの権利を尊重し、子どもとその家族が主体的に闘病できるための看護援助を実践する高度な能力の習得を目指す。 | | | | |
| ③授業計画・内容 授業方法 | <p>③【看護介入が困難な事例の看護援助】</p> <p>学生が関心をもつ領域において、看護介入が困難な子どもを担当し、情報を収集し、アセスメントを行い、適切な看護計画を立て、それに沿って援助を行う。最後に、行った看護援助に対して援助の効果を含めて総合的に評価する。</p> <p>【医療職者に対する教育的な援助】</p> <p>さまざまな健康問題のある子どもと家族が主体的に闘病できる環境を整えるために、看護師のみならず小児医療に携わる医療職者を対象に教育的な援助を行うことを目標にする。そのために、実習を進めるなかで医療職者が困難を感じ、教育的な援助の必要性を感じた事例を抽出し、問題を明確にし、それを解決するための援助計画を立て、実践する。その後、その効果も含めて評価する。</p> <p>【小児看護専門看護師としての相談役割】</p> <p>さまざまな健康問題のある子どもと家族が主体的に闘病できる環境を整えるために、看護師のみならず小児医療に携わる医療職者に対するコンサルテーションを行う。そのために、相談者とともに問題を明確にし、問題を解決するための援助計画を立て、実践する。その後、効果も含めて評価する。</p> <p>【保健医療福祉に携わる人々との連携と調整】</p> <p>さまざまな健康問題のある子どもと家族が主体的に闘病できるように、子どもと家族をとりまく保健医療福祉に携わる人々と連携し調整を行う。そのために、在宅での医療的ケアや外来での継続治療が必要な子どもと家族、児童相談所や学校、訪問看護ステーションなどの機関と調整が必要な子どもと家族、リハビリテーション科や院内学級など病院内での調整が必要な子どもと家族などの2事例を受け持ち、専門職種間や部門をこえて解決すべき問題を明確にし、援助計画を立て、実施評価を行う。最後に、行った実践に対する援助効果も含めて総合的に評価する。</p> <p>【小児看護専門看護師としての倫理調整役割】</p> <p>さまざまな健康問題のある子どもと家族が主体的に闘病できる環境を整えるために、注意すべき倫理調整について学習する。そのために、実習で受け持った子どもとその家族、保健医療福祉に携わる人々との関わりをなかで、倫理的対立や倫理的問題を感じた場面がなかったかを振り返り、分析を行って解決に向けて検討する。</p> <p>【小児看護専門看護師の役割と高度な能力について】</p> <p>既習の知識と実習で学んだことをもとに、専門看護師として子どもの権利を尊重し、子どもとその家族が主体的に闘病できるための看護援助を実践する高度な能力についてまとめ、発表を行う。</p> <p>* 詳細は別途説明する</p> | | | | |
| ④授業外学習 | ④本科目は小児看護専門看護師としての実践を高める実習科目であることから、実習前には既存の知識を復習しておく、高度な実践や看護過程が展開できるよう、準備をすることが必要である。 | | | | |
| ⑤テキスト・参考書等 | <p>⑤・Benner, P.(1984)/井部俊子監訳(2005):ベナー看護論. 医学書院, 東京</p> <p>・Fry,S.T.& Johnstone,M.J.(2008)/片田範子, 山本あい子訳(2010):看護実践の倫理(第3版). 日本看護協会出版会, 東京.</p> <p>・福井次矢, 浅井篤, 大西基喜編(2003):臨床倫理学入門. 医学書院, 東京.</p> <p>・Hamric,A.B. & Spross,J.A.(2013): Advanced Practice Nursing An Integrative Approach (Fifth Ed.). W B Saunders.</p> <p>・木村利人監(2004):看護に生かすバイオエシックス.学習研究社, 東京.</p> <p>・Lippitt,G.(1994):The Consultation Process in Action(.2ned.ed) Pfeiffer & Co.</p> <p>・南裕子監(2003):看護理論の臨床活用.日本看護協会出版会, 東京.</p> <p>・野末聖香編(2004):リエゾン精神看護. 医歯薬出版, 東京.</p> <p>・小野田小枝子監(2004):こどものフィジカルアセスメント. 金原出版, 東京.</p> <p>・岡崎澄子, 小島恭子編(2002):ケアの質を高める看護倫理. 医歯薬出版, 東京.</p> <p>・佐藤直子(1999):専門看護師制度 理論と実践. 医学書院, 東京.</p> <p>・Schein,E.H.(1969)/稲葉元吉・尾川丈一訳(2012):プロセス・コンサルテーション. 白桃書房, 東京.</p> <p>・杉森みどり, 舟島なをみ(2012):看護教育学(第5版). 医学書院, 東京.</p> <p>・Hockenberry,M.J & Wilson,D.(2011):Wong's Clinical Manual of Pediatric Nursing. Mosby Inc.</p> <p>・井上智子翻訳(2012):ベナー看護ケアの臨床知-行動しつづけること(第2版), 医学書院, 東京.</p> <p>・井部俊子(2015):専門看護師の思考と実践, 医学書院, 東京.</p> <p>・宇佐美しおり他(2009):精神看護スペシャリストに必要な理論と技法, 日本看護協会出版会, 東京.</p> <p>・中村美鈴他監訳(2017):高度実践看護総合的アプローチ, へるす出版, 東京</p> | | | | |
| ⑥成績評価方法 | ⑥実習の状況、カンファレンスへの参加の状況、レポート、によって総合的に評価する。 | | | | |
| ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ⑦オフィスアワーは設定しないが、直接質問したい場合は事前にアポイントメントをとることが望ましい。 | | | | |

博士前期課程・看護科学域

| | |
|------------------------|--|
| ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ⑧小児看護 CNS 専攻コースの学生は、『小児看護保健行動科学Ⅰ』『小児看護保健行動科学Ⅱ』『小児看護対象論』『小児看護援助論Ⅰ』『小児看護援助論Ⅱ』を既習している必要がある。 |
|------------------------|--|

| | | | | | |
|--------|--|------|----|-----|-------|
| 授業科目名 | 在宅看護学特論 | 配当年次 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Home Care Nursing | 前期 | 木曜 | 6限 | U0049 |
| 担当教員 | 河原加代子、島田恵、岡本有子、小倉朗子、米澤純子、 平原優美(在宅看護 CNS)、秋山正子 | | | 7限 | U0050 |

| | |
|--|--|
| <p>①授業方針・テーマ</p> <p>②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標</p> <p>③授業計画・内容 授業方法</p> <p>④授業外学習</p> <p>⑤テキスト・参考書等</p> <p>⑥成績評価方法</p> <p>⑦質問受付方法 (オフィスアワー)</p> <p>⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)</p> | <p>①専門看護師として必要な機能について学び、それをもとにして実際の事例を査定し援助方法を検討する。この科目では特に実践、研究、倫理的問題、教育、調整機能について学ぶ。</p> <p>②・倫理的判断、臨床判断に基づいて在宅看護計画を立案、実施、評価する在宅看護過程を理解し、説明することができる。 ・在宅看護の方法論として、理論や事例を用いて、事例分析、看護介入、評価を行う能力を身に付けることができる。</p> <p>③1. コース・オリエンテーション(河原・島田) 2. 在宅看護学の特徴、在宅看護の対象、在宅看護の方法、生活及び家族への支援(島田) 3. 在宅における脳血管障害者の自立支援リハビリテーション看護(河原) (1)地域生活支援と地域リハビリテーションケア(2)家族支援とチームアプローチ 4. 在宅ホスピスケアのための理論・モデルの開発、研究成果への実践への適用①(米澤) 5. 在宅ホスピスケアのための理論・モデルの開発、研究成果への実践への適用②(米澤) 6. 在宅における慢性進行性疾患(難病)患者と家族への看護①(岡本) (1)健康状態の評価と、障害の進行を予測するフィジカルアセスメント (2)在宅医療処置を安全に行うための看護技術 7. 在宅における慢性進行性疾患(難病)患者と家族への看護②(岡本) (3)重症かつ医療処置を必要とする療養者と家族の看護過程(4)倫理的課題 8. 在宅における慢性進行性疾患(難病)患者と家族への看護③(小倉) (5)医療機器の管理、医療事故予防 9. 在宅における慢性進行性疾患(難病)患者と家族への看護③(小倉) (6)地域の支援体制 10. 在宅ケア関係施設・他職種とのチームワークと連携、在宅看護におけるリスクマネジメント(秋山) 11. 在宅ケア事業所の効果的な管理・運営および経営戦略の理解(秋山) 12. 在宅において終末期を迎える療養者と死を看取る家族への看護①(平原:在宅CNS) (1)在宅における疼痛緩和法(2)看護過程 13. 在宅において終末期を迎える療養者と死を看取る家族への看護②(平原:在宅CNS) (3)死の受容及び死の準備教育(4)他機関・他職種との連携(5)家族へのグリーフケア 14. 在宅看護ケアの質評価・研究等によるケアの質改善方法の探求(河原) 15. 効果的な在宅看護ケア方法のための理論・モデルの開発、研究成果の実践への適用(河原) 【授業方法】講義とゼミ形式により進める。プレゼンテーションの際は、学生の疑問や質問を中心に学生がリーダーシップをとって討議を行う。</p> <p>④毎回の授業後に、次回授業の課題を提示するので、必ず事前に予習を行い、内容を把握したうえで授業に臨むこと。</p> <p>⑤別途紹介する。</p> <p>⑥レポート、討論参加度などにより、総合的に評価する。</p> <p>⑦特に設けませんが、メールによる質問や連絡が随時受け付ける。連絡先 hu.yuan@tmu.ac.jp</p> <p>⑧在宅看護 CNS 専攻コースの学生は必修である。</p> |
|--|--|

| | | | | | |
|--------|-------------------------------------|------|----|------|-------|
| 授業科目名 | 在宅看護学特論演習 | 配当年次 | 1年 | 単位数 | 6単位 |
| (科目英名) | Home care Nursing Special Practicum | 通年 | 金曜 | 1-6限 | U0112 |
| 担当教員 | 河原加代子、島田恵、岡本有子、黒澤泰子、江畑直樹 | | | | |

| | |
|--|---|
| <p>①授業方針・テーマ</p> <p>②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標</p> | <p>①地域・在宅看護の研究課題に即して、在宅ケア看護、リハビリテーション看護、産業看護、学校看護などの分野を選択し、研究の動向、理論および主要概念、研究方法について演習・実習を通して学び、それぞれの場における専門職としての実践能力を高める。</p> <p>②・演習・実習は、それぞれの学生が関心を抱いている対象と看護の場を選択し、専門職としての実践能力を高める。 ・訪問看護ステーションの管理・運営に関する経営管理・人材育成の基本を学び、ケアの質改善について理解できる。 ・経営管理・人材管理に関する基本を学内演習を通して理解することができる。</p> |
|--|---|

博士前期課程・看護科学域

| | |
|---|--|
| <p>③授業計画・内容 授業方法</p> <p>④授業外学習</p> <p>⑤テキスト・参考書等</p> <p>⑥成績評価方法</p> <p>⑦質問受付方法 (オフィスアワー)</p> <p>⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)</p> | <p>・研究方法のスキルを演習を通して身に付けることができる。</p> <p>③1.コースオリエンテーション</p> <p>2.演習を通して、関心あるテーマを特定し、問題解決にむけた自らの考えを提示、指導者(実習場の指導者及び大学研究科教員)の出席の事例検討会でプレゼンテーションを行い、テーマを多角的に考察する(3単位)。 (演習内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人としての対象と集団としての対象の特性を把握する能力を高める。把握に際しては、対象の倫理的問題を調整することができる。 ・健康問題に対し、問題解決能力と教育・相談に応じられる能力を高める。 ・組織の中で活動する専門職としての役割と他職種と連携する能力を高める。 ・専門職としての研究能力を高める。 <p>・演習・実習の実践能力を高める学習は、学生が主体的に展開する。実習の場に行く際は、行動計画をたて実践的に資料を収集する。実習の協力依頼方法や謝辞の表し方なども学習する。</p> <p>3.経営管理・人材管理に関する基本を演習を通して学ぶ(1単位)。</p> <p>4.地域・在宅看護活動に用いる研究方法として、量的データや質的データの収集方法や分析方法について基礎的手法を習得する(2単位)。</p> <p>【授業方法】講義とゼミ形式により進める。プレゼンテーションの際は、学生の疑問や質問を中心に学生がリーダーシップをとって討議を行う。</p> <p>④毎回の授業後に、次回授業の課題を提示するので、必ず事前に予習を行い、内容を把握したうえで授業に臨むこと。実習中は必要時、学内・外で十分準備を行って実習に臨むこと。</p> <p>⑤必要時、提示する。</p> <p>⑥実習への参加状況、学内外での討論参加度、貢献度、実習・演習レポート等による総合評価を行う。</p> <p>⑦特に設けがないが、メールによる質問や連絡が随時受け付ける。連絡先 hu_yuan@tmu.ac.jp</p> <p>⑧在宅看護学(論文コース)の学生は必修である。</p> |
|---|--|

| 授業科目名 | 在宅看護実践論 | 配当年次 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
|--------|-------------------------------------|------|----|-----|-------|
| (科目英名) | Clinical Homecare Nursing | 通年 | 月曜 | 4限 | U0051 |
| 担当教員 | 岡本有子、石川陽子、廣川聖子、 武井麻子、野島あけみ、河原加代子 | | | 7限 | U0052 |

| | |
|--|--|
| <p>①授業方針・テーマ</p> <p>②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標</p> <p>③授業計画・内容 授業方法</p> <p>④授業外学習</p> <p>⑤テキスト・参考書等</p> | <p>①専門看護師として必要な機能について学び、それをもとにして実際の事例を査定し援助方法を検討する。この科目では特に実践、教育、相談、調整機能について学ぶ。</p> <p>②(1)在宅看護に関連する保健医療福祉の諸制度を理解するとともに、ケアマネジメントの一連の過程を実施する。 (2)訪問看護ステーションにおける効果的な管理・運営および経営戦略を理解する。 (3)在宅看護におけるケアの質評価と質改善のための指標や方法が理解できる。 (4)在宅看護専門看護師として必要な機能の1つであるコンサルテーションについて理解を深める。</p> <p>③【授業計画・内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護に関連するケアマネジメントの概要(岡本) 2. 在宅看護に関連するケアマネジメント過程とネットワーク構築(岡本) 3. 専門看護師の実践に求められる教育的介入とその理論(河原) 4. 在宅看護に関連する保健医療福祉制度と在宅ケアの動向(石川) 5. 諸外国における在宅ケアの動向と在宅看護の現状(石川) 6. 事例検討(1)在宅要介護高齢者・がん終末期患者のケアプラン作成と実施(在宅 CNS・岡本) 7. 事例検討(2)在宅生活の継続に向けたケアマネジメント:社会資源の活用と家族への支援(在宅 CNS・岡本) 8. 事例検討(3)在宅看護におけるケアの質評価・ケアの質改善方法の検討(在宅 CNS・岡本) 9. 在宅看護専門看護師として必要なコンサルテーションについて理解を深める(在宅 CNS・岡本) 10. 事例検討をとおしてコンサルテーションの実際を学ぶ(非常勤・岡本) 11. 事例検討(4)在宅看護におけるコンサルテーションの実際(非常勤・岡本) 12. 訪問看護ステーションにおける管理・運営・経営戦略(野島・河原) 13. 事例検討(5)在宅療養高齢者へのケアの質の改善策の検討(野島・河原) 14. 精神障害者の社会生活の質向上と職員の資質向上にむけた管理・運営(廣川) 15. 事例検討(6)精神障害者のケアプランと地域ネットワークの構築(廣川) <p>【授業方法】 主に講義とゼミ形式により進める。プレゼンテーションの際は、学生の疑問や質問を中心に学生がリーダーシップをとって討議を行う。 一部に、学外事業所における多職種カンファレンスでの事例検討を含む。</p> <p>④次回授業の課題を提示するので、必ず事前に予習・準備を行い、内容を把握したうえで授業に臨むこと。</p> <p>⑤本講義では広範な領域を取り扱うため特にテキストは定めず、下記の書籍等を参考に進める。</p> |
|--|--|

博士前期課程・看護科学域

| | |
|---|--|
| ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | 大橋謙策、白澤政和編「地域包括ケアの実践と展望—先進的地域の取り組みから学ぶ」(中央法規出版、2014年) 定価 3,024円 坂田三允ほか「精神看護エキスパート 8 精神科訪問看護第2版」(中山書店 2009年) 定価 3,024円 島内節ほか「在宅ケア アウトカム評価と質改善の方法」(医学書院、2002年) 定価 3,024円 日本訪問看護財団 監修「新版 訪問看護ステーション開設・運営・評価マニュアル 第2版」(日本看護協会出版会、2012) 山本則子ほか「高齢者訪問看護の質指標—ベストプラクティスを目指して」(日本看護協会出版会、2008) 定価 2,160円 ⑥レポート、討論参加度などにより、総合的に評価する。 ⑦学部学生の実習指導等がある関係で、定期的なオフィス・アワーの時間は設けませんが、質問等があればメール等で連絡をとり、時間の調整を行います。 ⑧在宅看護 CNS 専攻コースの学生は必修である。 |
|---|--|

| 授業科目名 | 在宅看護学実践演習 I | 配当年次 | 1年 | 単位数 | 4単位 (180H) |
|----------------------------|--|------|----|------|---------------|
| (科目英名) | Homecare Nursing Special Practicum I | | | | |
| 担当教員 | 河原加代子、島田恵、岡本有子、野島あけみ、 秋山正子、江畑直樹、黒澤泰子、平原佐斗司、池田和子 | 通年 | 木曜 | 1-4限 | U0072 |
| ①授業方針・テーマ | ①地域で自立した生活を営むためのリハビリテーションや外来受診、および医療依存度の高い状態や終末期における療養者・家族に対する高度な在宅看護の実践方法を、学内演習および医療機関(退院支援部門、外来部門)、訪問看護ステーションにおける実習を通して総合的に学ぶ。 | | | | |
| ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 | ②在宅療養における自立支援のための看護、在宅において医療依存度の高い状態の療養者・家族に対する看護、終末期における療養者・家族に対する看護を系統的に理解することができる。 ・療養者のニーズの把握、ケア困難な利用者への直接行うケア、教育、連携調整を主に習得した上で、コンサルテーション、スーパービジョン、研究、倫理的問題への対応の視点をもつことができる。 ・経営管理・人材管理に関する基本を学内演習を通して理解することができる。 ・研究方法のスキルを演習を通して身に付けることができる。 | | | | |
| ③授業計画・内容 授業方法 | ③「在宅看護実践演習 I」(4単位=180時間)の実習計画・内容については、実習要項をコースオリエンテーション時に配布する。 実習内容の項目 No. 実習1(在宅療養における自立支援のための看護:リハビリテーション看護・外来看護を含む) No.1-4 在宅療養安定への看護支援 No.5-10 訪問看護ステーション・外来部門在宅療養安定への看護支援 実習2(医療依存度の高い療養者および終末期におけるの療養者への看護) No.1-4 在宅療養安定への看護支援 No.5-10 訪問看護ステーション・外来部門在宅療養安定への看護支援 【授業方法】学生のレディネスに応じた学内事前演習を行う。講義と演習を組み合わせ実施する。講義で定義や概念等について解説を行った後、学生個々のバックグラウンドに応じた演習とプレゼンテーションを行い、意見発表を行う。 | | | | |
| ④授業外学習 | ④毎回の授業後に、次回授業の課題を提示するので、必ず事前に予習を行い、内容を把握したうえで授業に臨むこと。 | | | | |
| ⑤テキスト・参考書等 | ⑤必要時、提示する。 | | | | |
| ⑥成績評価方法 | ⑥演習・実習への事前準備(関係する文献・書籍の精読)、プレゼンテーション、討論の内容・参加度、レポート等を総合して評価する。 | | | | |
| ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ⑦特に設けませんが、メールによる質問や連絡が随時受け付ける。連絡先 hu_yuan@tmu.ac.jp | | | | |
| ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ⑧在宅看護専門看護師(CNS)専攻コースの必修科目である。 「在宅看護学特論」「地域ケアシステム看護論」「家族発達看護学特論」「在宅看護実践論」の専門領域科目と、「看護管理学特論」「看護倫理学特論」「コンサルテーション論」の共通科目を既習している必要がある。 ・単位取得のための時間数については、学生のレディネス、経歴に応じて柔軟に対応する。 | | | | |

博士前期課程・看護科学域

| | | | | | |
|--|---|---------------------|------|------|-------|
| 授業科目名 | 在宅看護学実践演習Ⅱ | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 6単位 |
| (科目英名) | Homecare Nursing Special Practicum Ⅱ | 年度跨り (10月～翌年度9月) | 金曜 | 1-6限 | U0073 |
| 担当教員 | 河原加代子、島田恵、岡本有子、 平原優美(在宅看護 CNS)、秋山正子、池田和子 | 通年 (4月～3月) | | | U0074 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | <p>①地域で自立した生活を営むためのリハビリテーションや外来受診、および医療依存度の高い状態や終末期における療養者・家族に対する高度な在宅看護の実践方法を、医療機関(退院支援部門、外来部門)および訪問看護ステーションにおける実習を通して総合的に学ぶ。</p> <p>②療養者のニーズの把握、ケア困難な療養者に対する直接ケア、教育、連携調整を主に習得した上で、コンサルテーション、スーパービジョン、研究、倫理的問題への対応の視点をもつことができる。</p> <p>・訪問看護ステーションと外来部門の管理・運営およびケアの質改善について、事例分析・情報の分析を通して理解を深めることができる。</p> <p>③「在宅看護実践演習Ⅱ」(6単位=270時間)の実習計画・内容については実習要項をコースオリエンテーション時に配布する。</p> <p>実習内容の項目 No.</p> <p>実習1(在宅療養における自立支援のための看護:リハビリテーション看護・外来看護・退院支援を含む)</p> <p>No.1-12 在宅療養移行期・安定期の看護支援</p> <p>No.13-18 在宅療養者の自立を支援する看護活動</p> <p>No.19-24 自立を促す看護技術の開発</p> <p>No.25-28 在宅看護の評価と質改善</p> <p>No.29-30 在宅看護による QOL 向上</p> <p>実習2(在宅がん終末期患者に対する看護)</p> <p>No.1-18 在宅終末期患者の看護支援</p> <p>No.19-20 在宅終末期患者の家族への看護支援</p> <p>No.21-22 在宅終末期患者における在宅看護ケアシステム</p> <p>No.23-26 在宅看護の評価と質の改善</p> <p>No.27-30 終末期患者の QOL 向上</p> <p>【授業方法】実習協力機関の指導者の指導のもとに専門看護師としての実習を行う。定期的に指導教員との打ち合わせ、実習期間における事例カンファレンスを設けてディスカッションを行う。</p> <p>④実習中は必要時、学内・外で十分準備を行って実習に臨むこと。</p> <p>⑤必要時、提示する。</p> <p>⑥演習・実習への事前準備(関係する文献・書籍の精読)、プレゼンテーション、討論の内容・参加度、レポート等を総合して評価する。</p> <p>⑦特に設けないが、メールによる質問や連絡が随時受け付ける。連絡先 hu_yuan@tmu.ac.jp</p> <p>⑧在宅看護専門看護師(CNS)専攻コースの必修科目である。</p> <p>「在宅看護学特論」「地域ケアシステム看護論」「家族発達看護学特論」「在宅看護実践論」の専門領域科目と、「看護管理学特論」「看護倫理学特論」「コンサルテーション論」の共通科目、さらに「在宅看護実践演習Ⅰ」を既習している必要がある。</p> <p>・単位取得のための時間数については、学生のレディネス、経歴に応じて柔軟に対応する。</p> | | | | |

| | | | | | |
|---|---|------|----|-----|-------|
| 授業科目名 | 地域ケアシステム看護論 | 配当年次 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Community Nursing Care System | 前期 | 木曜 | 4限 | U0053 |
| 担当教員 | 河原加代子、島田恵、岡本有子、江畑直樹 | | | 5限 | U0054 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 | <p>①地域で生活する人々のヘルスケアシステムを理解し、その中における保健師・看護師の役割について理解する。さらにシステムの開発や運用についても探求する。</p> <p>②1)システム思考の基本的な考え方が理解できる。</p> <p>2)システム思考を用いた人材育成・経営管理の考え方について事例分析をとおして理解できる。</p> <p>3)地域ケアシステムにおける有効なネットワーク体制、外来の機能とシステム構築について理解できる。</p> <p>4)学生の関心あるフィールドにおいて有効なシステムを考案する能力を身につけることができる。</p> <p>③第1回:コース・オリエンテーション、システム理論・変化理論の考え方(問題提起)(河原)</p> <p>第2回:システム・アプローチの基本的な考え方(河原)</p> <p>第3回:演習:システム理論を使ってみよう(河原)</p> <p>第4回:地域ケアシステムのための理論・モデル、個人・家族・地域(コミュニティ)というシステム間の相互作用と健康</p> | | | | |

| | |
|--|--|
| <p>④授業外学習</p> <p>⑤テキスト・参考書等</p> <p>⑥成績評価方法</p> <p>⑦質問受付方法 (オフィスアワー)</p> <p>⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)</p> | <p>問題(河原)</p> <p>第5回:システム思考を用いた人材育成・経営管理①(江畑)</p> <p>第6回:システム思考を用いた人材育成・経営管理②(江畑)</p> <p>第7回:地域ケアシステムにおけるネットワーク構築,多職種との連携①(岡本)</p> <p>第8回:システム理論と在宅看護ケアシステム,外来の機能とシステム①(島田)</p> <p>第9回:システム思考を用いた人材育成・経営管理(演習)①(江畑)</p> <p>第10回:システム思考を用いた人材育成・経営管理(演習)②(江畑)</p> <p>第11回:システム思考を用いた人材育成・経営管理(演習)③(江畑)</p> <p>第12回:地域ケアシステムにおけるネットワーク構築,多職種との連携②(岡本)</p> <p>第13回:システム理論と在宅看護ケアシステム,外来の機能とシステム②(島田)</p> <p>第14回:新たなシステムを考案する(演習)(河原)</p> <p>第15回:新たなシステムを考案する(プレゼンテーション)(河原)</p> <p>【授業方法】講義とゼミ形式により進める。プレゼンテーションの際は、学生の疑問や質問を中心に学生がリーダーシップをとって討議を行う。</p> <p>④毎回の授業後に、次回授業の課題を提示するので、必ず事前に予習を行い、内容を把握したうえで授業に臨むこと。江畑先生の事前学習課題「ピーター・M・センゲ;枝廣淳子ほか(訳):学習する組織—システム思考で未来を創造する,英治出版,2016,3500円」を事前に読んでおくこと。</p> <p>⑤別途、紹介する。 参考書 Wolters Kluwer: Community and Public Health Nursing; Evidence for Practice, 167-173, 2016</p> <p>⑥レポート、討論参加度などにより、総合的に評価する。</p> <p>⑦特に設けませんが、メールによる質問や連絡が随時受け付ける。連絡先 hu.yuan@tmu.ac.jp</p> <p>⑧在宅看護 CNS 専攻コースの学生は必修である。</p> |
|--|--|

| | | | | | |
|--------|--|------|----|-----|-------|
| 授業科目名 | 家族発達看護学特論 | 配当年次 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Family Nursing | 後期 | 月曜 | 5限 | U0059 |
| 担当教員 | 島田恵、秋山正子、松本啓子(家族支援CNS)、 千田みゆき、河原加代子、織井優貴子 | | | 6限 | U0060 |

| | |
|---|---|
| <p>①授業方針・テーマ</p> <p>②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標</p> <p>③授業計画・内容 授業方法</p> | <p>①(1)家族看護学の視点でアセスメントを行い、問題解決を図る支援能力を養う。 (2)在宅看護の方法論の1つとして、理論をもとに事例分析、看護介入、評価を行う。</p> <p>②専門看護師として必要な機能のうち、特に家族看護に関する実践、研究、倫理的課題、教育、相談、調整機能について学び、それらをもとに実際の事例を査定して家族看護の方法を検討する。</p> <p>③講義とゼミ形式により進める。 プレゼンテーションの際は、学生の疑問や質問を中心に学生がリーダーシップをとって討議を行う。</p> <p>1 コース・オリエンテーション(島田)</p> <p>2 家族看護の基本となる諸理論とアセスメントモデル(島田)</p> <p>3 家族看護の代表的なアセスメントモデル(島田) 代表的なアセスメントモデルのうち1つを選択し、そのモデルの特徴や使用方法、モデルを用いた研究論文をクリティークし、講義当日にプレゼンテーションする。</p> <p>4 家族アセスメント「渡辺式家族アセスメント/支援モデル」(島田)</p> <p>5 渡辺式家族アセスメント/支援モデルを用いた事例分析①(島田)</p> <p>6 渡辺式家族アセスメント/支援モデルを用いた事例分析②(島田) 自分の事例、または課題事例の中から1事例選択し、渡辺式を用いて分析を行い講義当日プレゼンテーションする。</p> <p>7 在宅看護におけるケアマネジメントの実践①(秋山) 事例(1)在宅ホスピスケアと倫理的課題</p> <p>8 在宅看護におけるケアマネジメントの実践②(秋山) 事例(2)在宅がん患者の対象把握と看護方法、家族支援</p> <p>9 在宅看護におけるケアマネジメントの実践③(松本) 事例(3)緩和ケアにおける家族看護</p> <p>10 在宅看護におけるケアマネジメントの実践④(松本) 事例(4)緩和ケアにおける家族看護</p> <p>11 在宅看護におけるケアマネジメントの実践⑤(織井) 事例(5)高齢がん患者と家族への支援</p> <p>12 在宅看護におけるケアマネジメントの実践⑥(織井) 事例(6)高齢がん患者と家族への支援</p> <p>13 脳卒中療養者と家族への支援(河原)</p> |
|---|---|

博士前期課程・看護科学域

| | |
|---|---|
| ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | 14 家族カウンセリングの理論①(千田) 15 家族カウンセリングの理論②と手法(千田) ④事前課題に取り組み、それを前提として授業を行う。 ⑤別途紹介する。 ⑥授業内の討論内容、課題等の提出物によって総合的に評価する。 ⑦オフィスアワーは特に設けませんが、メールによる質問や連絡は随時受け付ける。 連絡先: 島田 megumi●tmu.ac.jp (送信時は●を@にすること) ⑧・在宅看護 CNS 専攻コースの学生は必修である。 ・「在宅看護学特論」「地域ケアシステム看護論」を既習していることが望ましい。 |
|---|---|

| 授業科目名 | 公衆衛生看護学特論 | 配当年次 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
|--|---|------|------------|------|-------|
| (科目英名) | Introduction to Public Health Nursing | 前期 | 土曜 (集中) | 3-4限 | U0121 |
| 担当教員 | 斉藤恵美子、永田容子 | | | | U0122 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①根拠に基づいた公衆衛生看護実践の展開のために、個人と家族、集団・組織、地域に関する概念と理論を理解し、支援方法を立案するための能力を養う。 ②1. 公衆衛生看護学に関する理論について、歴史や背景を含めて説明することができる。 2. 公衆衛生看護実践の現状と課題について、自分の意見や考えを説明することができる。 3. 課題解決のための支援方法と看護職の役割を考察し、自らの提案を論述することができる。 ③第1回 オリエンテーション 第2回 公衆衛生看護学に関する理論と方法論 第3～13回 公衆衛生看護学、公衆衛生看護実践に有用な理論と方法: 討議と発表 第14～15回 公衆衛生看護実践での多職種連携と保健師の活動 【授業方法】 本科目は、講義形式とグループでの課題学習、討議形式で実施する。 研究計画立案の基盤となる公衆衛生看護学に関する概念と理論を学び、自らの実践に適用する過程を論述し、討議する。 学生は、主体的に授業に取り組み、発表準備・進行などの役割を分担する。 授業計画については、履修学生の状況によって日程等を調整することがある。 ④【授業外学習】 学生は、グループでの討議を円滑に進めるために、発表のための資料を事前に準備する。論文抄読の場合は、該当する論文を事前に読み、疑問点などを整理する。 ⑤【テキスト】 テキストは使用しない。授業で資料を配付する。 【参考書】 D. F. ポーリット, C. T. ベック. (2010). 近藤潤子(監訳). 看護研究: 原理と方法(第2版), 医学書院. (定価 10,260円) アメリカ心理学会[APA]. (2010/2011). 前田樹海, 江藤裕之, 田中建彦(訳). APA論文作成マニュアル(第2版). 医学書院. (定価 4,104円) ⑥成果発表と課題レポート[60%]、授業参加の態度・積極性[40%]、出席状況(欠席等は減点) ・課題レポートは、研究計画に関する先行研究について批判的に吟味し、論述する(1600字以上)。 ・引用文献リストはAPA論文作成マニュアルを熟読して作成し、添付する。 ⑦【オフィスアワー】 定期的なオフィスアワーは設定していないが、質問・連絡、アポイント等はメールで受け付けている。 【連絡先】 saito@tmu.ac.jp ⑧【他の授業科目との関連性】 本科目は「公衆衛生看護学特論演習」と併せて受講することが望ましい。 公衆衛生看護学分野ホームページ http://weber.hs.tmu.ac.jp/phn/ も参考にしてください。 | | | | |

| 授業科目名 | 公衆衛生看護学特論演習 | 配当年次 | 1年 | 単位数 | 6単位 |
|-----------|--|------|----|------|-------|
| (科目英名) | Public Health Nursing Practicum | 通年 | 土曜 | 1-2限 | U0123 |
| 担当教員 | 斉藤恵美子、藤井博恵、他 | | | | |
| ①授業方針・テーマ | ①個人と家族、集団・組織、地域への支援に関する課題の明確化とその支援のために、多様な人々や組織、多職種との連携の過程と、根拠に基づく実践に関する方法論について修得する。 | | | | |

博士前期課程・看護科学域

| | |
|----------------------------|---|
| ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 | ②1. 個人とその家族、集団・組織、地域への支援に関する課題を明確に記述することができる。 2. 様々な人々や組織、多職種との連携について、自分の意見や考えを記述することができる。 3. 根拠に基づいた実践を考察し、自らの研究課題と研究計画を精選し、論述することができる。 |
| ③授業計画・内容 授業方法 | ③第1～2回 オリエンテーション 第3～32回 フィールドでの情報取と課題の明確化 第33～52回 研究課題に関する文献検討と発表 第53～62回 研究進捗・計画発表会への出席 第63～72回 関連学会への参加 第73～76回 定量的データと定性的データの分析方法の演習 第77～90回 研究計画の立案と発表 【授業方法】 初回にオリエンテーションを実施し、ゼミナール形式の討議や研究フィールドでの演習を進める。また、研究計画を立案し発表する。 授業計画は、学生の進捗状況、研究発表等の日程により、順序が前後する場合や日程を調整する場合がある。 |
| ④授業外学習 | ④【授業外学習】 研究課題に関する文献を検討し、授業内で発表するため、事前に資料を準備する。 研究計画の素案を作成し、研究計画にそって文献を検討し、レポートを作成する。 |
| ⑤テキスト・参考書等 | ⑤【テキスト・参考書】 「公衆衛生看護学特論」と同様とする。その他、学生の研究課題にそって、授業内で別途提示する。 |
| ⑥成績評価方法 | ⑥成果発表と課題レポートの内容[80%]、授業参加の態度・積極性[20%]、出席状況(欠席等は減点) ・課題レポートは、研究計画発表会のための資料をパワーポイントで作成する。また、研究課題に関する文献検討を提出する(4800字以上)。 ・引用文献リストはAPA論文作成マニュアルを熟読して作成し、添付する。 |
| ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ⑦【オフィスアワー】 定期的なオフィスアワーは設定していないが、質問・連絡、アポイント等はメールで受け付けている。 【連絡先】 saito@tmu.ac.jp |
| ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ⑧【他の授業科目との関連性】 本科目は「公衆衛生看護学特論」と併せて受講することが望ましい。 |

| | | | | | |
|--------|---|------|------------|------|-------|
| 授業科目名 | 公衆衛生看護管理論 | 配当年次 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Advanced Public Health Nursing Management | 後期 | 土曜 (集中) | 3-4限 | U0124 |
| 担当教員 | 斉藤恵美子、平野かよ子 | | | | U0125 |

| | |
|----------------------------|---|
| ①授業方針・テーマ | ①公衆衛生看護管理としての事例管理、地区管理、事業・業務管理、組織運営管理、予算管理、人材育成・人事管理、情報管理、健康危機管理に関する知識や関連する理論を身につける。さらに、地域診断の考え方や知識を学習する。これらの学びから、専門職としての管理的機能やリーダーシップのあり方について考察する。 |
| ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 | ②1. 事例管理、地区管理、事業・業務管理、組織運営管理、予算管理、人材育成・人事管理、情報管理、健康危機管理に関する理論、技法、技術について説明することができる。 2. 地域診断の考え方や方法論を説明することができる。 3. 専門職としての管理的機能やリーダーシップについて、自分の意見や考えを説明することができる。 |
| ③授業計画・内容 授業方法 | ③第1回 オリエンテーション 第2～3回 公衆衛生看護管理に関する理論と方法 第4～15回 地域診断に関する理論と方法:討議と発表 【授業方法】 本科目は、講義形式とグループでの課題学習、討議形式で実施する。 学生は、主体的に授業に取り組み、発表準備・進行などの役割を一部分担する。 授業計画については、学生の進捗状況等により、順序が前後する場合や日程を調整する場合がある。 |
| ④授業外学習 | ④【授業外学習】 学生は、グループでの討議を円滑に進めるために、発表のための資料を事前に準備する。 |
| ⑤テキスト・参考書等 | ⑤【テキスト】 テキストは使用しない。授業で資料を配付する。 【参考書】 平野かよ子. (2015). 最新保健学講座 5巻公衆衛生看護管理論. メヂカルフレンド社. (定価 3,240円) Anderson, E. T., & McFarlane, T. (2010). Community as partner: theory and practice in nursing (6th ed.). Philadelphia: Lippincott Williams & Wilkins. |
| ⑥成績評価方法 | ⑥成果発表と課題レポートの内容[80%]、授業参加の態度・積極性[20%]、出席状況(欠席等は減点) ・課題レポートは、参考書で指定した図書の一部の概要をまとめる。詳細は授業で説明する。 |

博士前期課程・看護科学域

| | |
|------------------------|--|
| ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ⑦【オフィスアワー】 定期的なオフィスアワーは設定していないが、質問・連絡、アポイント等はメールで受け付けている。 【連絡先】 saito@tmu.ac.jp |
| ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ⑧【他の授業科目との関連性】 「公衆衛生看護学特論」を履修済みであることが望ましい。 |

| 授業科目名 | 地域精神看護学特論 | 配当年次 | 1, 2年 | 単位数 | 2単位 |
|--|---|------|-------|-----|-------|
| (科目英名) | Community Mental Health and Psychiatric Nursing | 前期 | 金曜 | 4限 | U0061 |
| 担当教員 | 廣川聖子、武井麻子 | | | 6限 | U0062 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ①精神的な諸問題に関しては多種多様な接近法がある。また、対象の設定、視点の移動に伴っても我々に見える諸相には変化が生じる。このような事情の存在を前提として理解することを求めたい。この視点を基盤として、精神看護領域における各現象を問題として捉え解決可能な研究テーマ立案を行えることを目的とする。 ②主に精神障害を主軸に据え、これらの障害を負う人々ならびにその周辺の家族、学校、職場、地域などの人々をも含めた対象設定を行い、看護の立場を通じて、何をなすべきかを探求する。 ③関心事についての多角的な見地からの文献を抄読し、研究テーマとなるべき関心事についての諸相を把握すること。具体的には、対象設定の細かな差異、研究方法論の適応の違い、これらから導き出される結果の異同などを踏まえる。また、こうしたテーマについて看護という立場から関わるということの複雑さと「テーマ」を理解するためのより簡便なモデル構築の手法について検討を加える。 ④学生による、各自の関心領域に関するプレゼンテーションとそれに対する討論を中心としたゼミ形式をとる。学生は十分な事前学習をして主体的に授業に参加すること。 そのため、プレゼンテーション担当者は事前にゼミのテーマ・関連資料等をメンバーに送付し事前準備ができるように配慮することが望ましい。 ⑤特に指定しない。 ⑥出席、ディスカッション時のコメントなどを総合して評価を行う。 ⑦オフィスアワーは特に設定していませんが、質問は随時受け付けます。事前にメールでアポイントメントを取るようお願いいたします。 | | | | |

| 授業科目名 | 地域精神看護学特論演習 | 配当年次 | 1, 2年 | 単位数 | 6単位 |
|--|--|------|-------|------|-------|
| (科目英名) | Community Mental Health and Psychiatric Nursing (Practicum) | 後期 | 金曜 | 1-6限 | U0075 |
| 担当教員 | 廣川聖子、武井麻子 | | | | |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ①実際の事例及び関心のあるテーマに関連した文献などを各自でまとめ、検討を行うことを本特論の中心に置く。これにより精神看護あるいは人間の精神的側面という不確定要素の見込まれる研究対象についての具体的な把握方法を問題設定と共に行うことを目的とする。 ②地域精神看護学特論で検討した内容を踏まえて、各自の研究テーマについて具体的なイメージを持ち、これを記述し口頭にて発表することを目的とする。 ③広い意味での精神看護の臨床と研究は相補的であり、どちらかを欠くことができない一方で、臨床も研究もそれぞれでまとまった形式と歴史を持っている。そして、それらが目指すのは狭く捉えれば精神障害者へのサービス提供である。このような事情を考慮に入れ、臨床的事例並びに研究文献などを駆使し、双方の現状での限界と可能性などについての各自の考え方に整合的な理解を盛り込みたい。 講義は各回とも、受講者の側から話題提供を行い、これについて議論するゼミ形式で行う。また、このための準備は各自で行う必要がある。必ずしもまとまった問題を提示する必要性はないが、各自が最も行き詰まっている点や、問題を感じている点、あるいは第三者の意見を聞いてみたいと思われる点などについて、それに至る経緯を含めて各回20分程度のプレゼンを課す予定である。これについて議論を深めていく形式を取りたい。 ④授業外学習として、十分な事前学習をして主体的に討論に参加すること。 そのため、プレゼンテーション担当者は事前にゼミのテーマ・関連資料等をメンバーに送付し事前準備ができるように配慮することが望ましい。 ⑤特に指定しない。 ⑥出席、プレゼンテーション、コメントなどを総合的に判断し評価を行う。 ⑦オフィスアワーは特に設定していませんが、質問は随時受け付けます。事前にメールでアポイントメントを取るようお願いいたします。 | | | | |

博士前期課程・看護科学域

| | | | | | |
|--|--|------|----|-----|-------|
| 授業科目名 | 国際看護／医療人類学特論 | 配当年次 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Topic on International Nursing / Medical Anthropology | 前期 | 月曜 | 2限 | U0076 |
| 担当教員 | 野村亜由美 | | | | |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | <p>①【民族誌読解】 健康や病の諸問題を文化的・社会的側面から考察することを通して、多面的な視点を身に付ける文化相対性に関する基本姿勢を身に付け、個別の事象に対する人類学的な分析ができるようになる</p> <p>②民族誌の読解を通して看護が対象とする事象について基本的な概念枠組みが理解できる</p> <p>③1回 講義ガイダンス 2回～14回 民族誌の講読(以下を予定している) 梅村絢美著『沈黙の医療—スリランカ伝承医療における言葉と診療』、風響社、2017 浮ヶ谷幸代・井口高志(編)『病いとつながり』の場の民族誌』、明石書店、2007 小浜正子・松岡悦子『世界の出産』勉誠出版、2011 近藤英俊・浮ヶ谷幸代『現代医療の民族誌』明石書店、2004 田辺繁治『ケアのコミュニティ』岩波書店、2008 15回 まとめ * 授業の内容は学生の学問的関心に合わせておこなう。</p> <p>④予習・復習については授業中に指示する。</p> <p>⑤教科書は使用せず、参考図書として適宜紹介する。</p> <p>⑥ディスカッション能力、課題レポートなどを総合して評価を行う。</p> <p>⑦適宜メール等で対応する。</p> <p>⑧1. 本科目は授業で扱う図書について毎回学生が発表しディスカッションを行う。発表を担当しない学生も事前に該当する章を読んでおくこと。 2. 本科目は、高齢者看護学、地域精神看護学、在宅看護学、看護倫理学の各領域に関連のある内容となっているため、看護科学域の他領域の学生の受講も歓迎する。 3. 本科目は、理学療法科学域、作業療法科学域、放射線科学域、フロンティアヘルスサイエンス学域、ヘルスプロモーションサイエンス学域の留学生を含む大学院生の聴講も歓迎する。</p> | | | | |

| | | | | | |
|---|--|------|------|------|-------|
| 授業科目名 | 国際看護／医療人類学特論演習 I | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | International Nursing / Medical Anthropology Seminar I | 通年 | 月曜 | 3-4限 | U0078 |
| 担当教員 | 野村亜由美、石川陽子、他オムニバス | | | | |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 | <p>①【人が地域で生きるといこと】 文献購読を通して「生きること」「老いること」「患うこと」などをまなび、近代的医療の枠組みとその背景にある自然科学的知識がどのように結びついているかを考える。</p> <p>②現代世界の生物医学を中心とする価値観がどのような社会構造や歴史的経緯、文化的背景のもとに構築されてきたものであるのかを理解する。</p> <p>③【講義計画・内容】 医療人類学に関する基本書(日本語・英語)を読む 1. ガイダンス 2～4. 文献購読 5. ディスカッション 6～8. 文献購読 9. ディスカッション 10～13. 文献購読 14. ディスカッション 15. まとめ 【講義の進行方法・学習研究の方法等】 ・医療人類学の基礎的な考え方を修得しながら演習をおこなう。</p> <p>④予習・復習については授業中に指示する。</p> <p>⑤・岸政彦著『マンゴーと手榴弾』勁草書房、2018 ・浮ヶ谷幸代著『ケアと共同性の人類学』生活書院、2009 ・田辺繁治著『ケアのコミュニティ—北タイのエイズ自助グループが切り開くもの』岩波書店、2008 ・アーサー・フランク著『傷ついた物語の語り手—身体・病い・倫理』ゆみる出版、2002</p> | | | | |

博士前期課程・看護科学域

| | |
|---|---|
| ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ・アーサー・クラインマン著『ケアをすることの意味: 病む人とともに在ることの心理学と医療人類学』誠信書房、2015 ⑥ディスカッション能力、課題レポート、発表などを総合して評価をおこなう ⑦適宜メール等に対応する。 ⑧本科目は「国際看護活動論」を選択必修とする。 特論演習はフィールドワークを進めるための手順について学ぶことを目的としている。 |
|---|---|

| | | | | | |
|--------|--|------|------|------|-------|
| 授業科目名 | 国際看護／医療人類学特論演習Ⅱ | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | International Nursing / Medical Anthropology Seminar Ⅱ | 通年 | 月曜 | 3-4限 | U0055 |
| 担当教員 | 野村亜由美、石川陽子、他オムニバス | | | | |

| | |
|--|--|
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | <p>①【フィールドワーク】</p> <p>国内外のフィールド研修候補地の中から、ゲートキーパー、候補国先の NGO、WHO 支部、JICA 等関係諸機関と各自でコンタクトをとり、訪問・視察の準備を行う。</p> <p>②フィールドワーク/社会調査の手順およびその具体的な方法について理解し、質的調査を実施するための基礎を習得する。</p> <p>熱帯地の農村貧困層の抱える健康問題、健康改善に向けての対策活動が説明できる。</p> <p>保健システム、プロジェクト運営や活動等についての実践的な基礎知識を得て、問題分析や解決策の策定プロセスのロジックを理解することができる。</p> <p>③【講義計画・内容】</p> <p>1. フィールドワークに必要な情報をまとめゼミ形式で発表を行う</p> <p>2. フィールドワークに向けた準備を行う</p> <p>研究計画書の作成</p> <p>調査地、ゲートキーパーとの調整</p> <p>公文書の作成(調査許可証、研究協力依頼他)</p> <p>渡航準備(外務省手続き、VISA、宿泊先、保険加入など)</p> <p>【講義の進行方法・学習研究の方法等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際看護/医療人類学の基礎的な考え方をを用いて演習をおこなう。 ・本科目は、講義、ゼミ形式でおこなうが、共通言語として英語を用いる場合もある。 ・調査地との交渉、公文書の作成方法については必要に応じて教員がサポートする。 <p>④予習・復習については授業中に指示する。</p> <p>⑤教科書は使用せず、参考図書を適宜紹介する。</p> <p>小田博志著『エスノグラフィー入門』、春秋社、2010</p> <p>佐藤郁哉著『フィールドワークの技法』、新曜社、2002</p> <p>ウヴェ フリック著『質的研究入門<人間の科学>のための方法論』、春秋社、2011</p> <p>日本文化人類学会(監修)『フィールドワーカーズ・ハンドブック』、世界思想社、2011</p> <p>⑥ディスカッション能力、課題レポート、発表などを総合して評価をおこなう</p> <p>⑦適宜メール等に対応する。</p> <p>⑧特論演習はフィールドワークを進めるための手順について学ぶことを目的としている。</p> |
|--|--|

| | | | | | |
|--------|--|------|------|-----|-------|
| 授業科目名 | 国際看護／医療人類学特論演習Ⅲ | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | International Nursing / Medical Anthropology Seminar Ⅲ | 通年 | 前期木曜 | 5限 | U0057 |
| 担当教員 | 野村亜由美、他 | | 後期月曜 | 3限 | |

| | |
|---|--|
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 | <p>①【フィールドワーク実践】</p> <p>国内外のフィールド研修候補地の中から、ゲートキーパー、候補先の NGO、WHO 支部、JICA 等の関係諸機関と各自でコンタクトをとり、訪問・視察の準備を行う。</p> <p>②国際看護の実務の現場で、科学的根拠に基づく現状の把握、プロジェクト策定、評価と実施を質的調査の観点でインシアチブをとり実施できる基礎的知識を身に付ける。</p> <p>③【講義計画・内容】</p> <p>フィールドワークを行うものは下記の内容を確認し必要書類(別紙:誓約書)を提出する。</p> <p>ガイドライン(賠償・傷害保険、海外の場合:渡航安全確認)をよく読み下記の書類を提出する。</p> <p>1. 研修先で行う調査内容に沿って、研究を行う。</p> <p>研修先は短期フィールド研修候補地の中から、安全・衛生面等を確認した上で選択する。</p> |
|---|--|

博士前期課程・看護科学域

| | |
|---|---|
| ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | (なお、フィールドワークを行うものは国内外に限らず、国際看護/医療人類学特論演習Ⅱで、出発前に事前オリエンテーションを実施し、訪問先の文化・環境等に関する適切な基礎知識と滞在時の心構え、安全対策等について学ぶ。) 2. フィールドワーク終了後に成果報告会を行う。 実務の現場で得た情報を公開できる形にする(論文形式でまとめる or ポスター他) 【講義の進行方法・学習研究の方法等】 ・本科目は、フィールドワークを主としておこなう。 ・フィールドワークは夏季休業中(8月中)が望ましい。 ・調査地との交渉、公文書の作成方法については必要に応じて教員がサポートする。 ・フィールドワーク終了後の成果報告書は、海外でおこなったものは英文、国内でおこなったものは日本語で提出し、報告会は英語での発表を推奨する。 ④予習・復習については授業中に指示する。 ⑤教科書は使用しないが、受講生の関心に合わせて適宜紹介する。 ⑥ディスカッション能力、課題レポート、発表などを総合して評価をおこなう ⑦適宜メール等で対応する。 ⑧研修、調査にかかる費用(渡航費、宿泊費、食費、VISA、保険*)は自己負担である。 * 海外でフィールドワークを行うものは、首都大学東京国際センターが推奨する内容をカバーする海外旅行保険に加入すること |
|---|---|

| 授業科目名 | 看護倫理学特論 | 配当年次 | 1, 2年 | 単位数 | 2単位 |
|--|--|------|-------|-----|-------|
| (科目英名) | Theories and Researches of Nursing Ethics | 前期 | 火曜 | 6限 | U0063 |
| 担当教員 | 習田明裕、樽井正義、志自岐康子 | | | 7限 | U0064 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ①ヘルスケアの現場で看護職が直面している倫理的課題を把握し、それらに対する倫理的思決定能力を高めるために、生命倫理、看護倫理に関する諸理論を学習し、倫理的課題への対応について探求する。 ②倫理的葛藤を生じた場合、どのように対応するかを検討し、倫理的観点から関係者間の調整を行う能力を養う。 ③《授業計画・内容》 1, 2回 倫理の基礎・看護倫理の必要性 3, 4回 看護倫理と法律・専門性、倫理的問題と倫理的思決定能力 5, 6回 生命倫理の成立と基本原理 7, 8回 インフォームド・コンセント、個人情報 9, 10回 生命倫理の政策、移植医療と生殖医療、生命倫理と哲学、功利論と義務論 11, 12回 課題プレゼンテーション①, ② 13, 14回 課題プレゼンテーション③, ④ 15回 生命倫理の原則と実践 HIV/AIDS に即して 《授業方法》 1. 授業は講義とゼミ形式で行う。 2. 学生は課題について自分の関心に沿ってテーマを決め、十分に準備をした上で授業に臨むこと。 3. 学生は主体的に授業に参加し、授業が効果的に展開されるようにする。 ④臨床経験でのジレンマ状況を倫理的視座から振り返る。 ⑤・Beauchamp, T.L. et al.(1989) Principles of Biomedical Ethics(3rd ed.): Oxford University Press. ・Fry, S.T.& Johnstone, M.J.(2008) Ethics in Nursing Practice:Guide to Ethical Decision Making(third ed.): Blackwell Publishing. ⑥授業への参加度(20点)、課題発表(40点)、課題レポート(40点) ⑦オフィスアワーは特に設定しないが、質問・連絡等がある場合は、shuda@tmu.ac.jp までメールして下さい。 | | | | |

| 授業科目名 | 看護倫理学特論演習Ⅰ | 配当年次 | 1, 2年 | 単位数 | 2単位 |
|-----------|---------------------------------------|------|-------|------|-------|
| (科目英名) | Practicum in Nursing Ethics I | 後期 | 火曜 | 1-2限 | U0113 |
| 担当教員 | 習田明裕、石川陽子 | | | | |
| ①授業方針・テーマ | ①人間の生命や尊厳の尊重に基づく良質な看護サービスの提供について議論する。 | | | | |

博士前期課程・看護科学域

| | |
|---|--|
| ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ②それぞれの学生が関心を抱く倫理的課題を中心に、看護倫理と関連する概念や理論を活用し、倫理的意思決定、倫理的対応を導くまでの判断過程の展開能力および状況を改善していく策を導く能力を養う。 ③《授業計画・内容》 1. 看護職者が直面する倫理的課題や倫理的葛藤について、倫理的意思決定モデルを使って課題の所在を明らかにし、その課題に対する対応方法(倫理的対応モデル)を多角的な視点から探求する。 2. 倫理的対応モデルを検討する過程において、以下の事項について学習する。 1) 患者の生命や尊厳、権利を大事にする工夫、体制(組織、個人) 2) 倫理的な課題や危機的な問題についての分析、組織的検討およびその対処方法 3) 他ケア提供者とのチーム活動 《授業方法》 1. 授業は講義とゼミ形式で行う。 2. 授業は学生が主体的に展開する。 3. 学生は授業時間を担当する教員と連携をとり、課題がある場合は十分に事前の打ち合わせを行う。 ④研究テーマに関連する文献リストを作成し、興味のある論文をクリティーク素材として準備を進める。 ⑤適宜、紹介する。 ⑥課題ごとのレポート(40点)、グループ活動(20点)、討論参加度(20点)をあわせて評価する。 ⑦オフィスアワーは特に設定しないが、質問・連絡等がある場合は、shuda@tmu.ac.jp までメールして下さい。 |
|---|--|

| | | | | | |
|--|--|------|------|------|-------|
| 授業科目名 | 看護倫理学特論演習Ⅱ | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Practicum in Nursing Ethics II | 後期 | 火曜 | 3-4限 | U0114 |
| 担当教員 | 習田明裕、志自岐康子 | | | | |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ①看護倫理学と関連する理論や概念について理解を深め、保健医療福祉の場における倫理的課題を探求する。 ②自身の研究テーマに関して、倫理的視座から知見を深める。 ③《研究計画・内容》 1. 文献検討により、看護倫理学における研究の動向を把握すると共に、看護倫理学に関連する概念や理論の理解を深める。 2. 1.に基づき、看護の現場における倫理的課題を見いだすことができる。 《授業方法》 1. 授業は講義とゼミ形式で行う。 2. 授業は学生が主体的に展開する。 3. 学生が関心をもつ課題を中心に学習を進める。 ④講義の進度に合わせ、自身の研究テーマを深める。 ⑤適宜、紹介する。 ⑥課題ごとのレポート(60点)、グループ活動(20点)、討論参加度(20点)をあわせて評価する。 ⑦オフィスアワーは特に設定しないが、質問・連絡等がある場合は、shuda@tmu.ac.jp までメールして下さい。 | | | | |

| | | | | | |
|---|---|------|------|------|-------|
| 授業科目名 | 看護倫理学特論演習Ⅲ | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Practicum in Nursing Ethics III | 後期 | 火曜 | 5-6限 | U0115 |
| 担当教員 | 習田明裕 | | | | |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 | ①看護倫理学に関する研究課題についてフィールドワークを行い、得られた知見を研究テーマに還元する。 ②看護倫理と関連する概念や理論の実践への適用について探求できることを目標とする。 ③《授業計画・内容》 1. 看護倫理学に関連する概念や理論を活用して、看護提供過程で生じる問題を捉えることができる。 2. 1.に基づき、実践現場の看護倫理上の問題の解決に向けた方策を考察できる。 《授業方法》 1. 学生の研究課題や関心領域にもとづいて、実習場所や具体的方法を決定する。 2. 実習内容に関する分析結果をレポートに作成する。 ④フィールドワークとなる施設については、事前に十分に自己学習を行う。 ⑤適宜、紹介する。 | | | | |

博士前期課程・看護科学域

- ⑥成績評価方法
- ⑦質問受付方法
(オフィスアワー)

- ⑥実習への積極性・態度(40点)、発表内容(20点)、レポート(40点)にて総合的に評価する。
- ⑦オフィスアワーは特に設定しないが、質問・連絡等がある場合は、shuda@tmu.ac.jp までメールして下さい。

| 授業科目名 | 看護管理学特論 | 配当年次 | 1, 2年 | 単位数 | 2単位 |
|--|--|------|-------|-----|-------|
| (科目英名) | Nursing Management | 前期 | 水曜 | 6限 | U0065 |
| 担当教員 | 石川陽子、習田明裕 | | | 7限 | U0066 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ①看護実践における管理の重要性を理解し、「質の向上」を中心に、経済的視点もとりいれながら、看護提供体制の開発およびその評価について、さらに国を単位とする対策について、その理論や展開法について探求する。 ②医療・福祉領域に携わる人々の活動を調整し、多職種連携による保健サービスの向上について、各自の知識を整理する。 ③《授業計画・内容》 1, 2回 看護管理学概論 3, 4回 看護サービスの質の保証 5, 6回 人的資源管理 7, 8回 政策過程と看護の課題 診療報酬制度 9, 10回 課題発表 1「コスト」 11, 12回 課題発表 2「看護教育システム」 13, 14回 課題発表 3「看護提供の理念と責任」 15回 まとめ 《授業方法》 1. 授業は講義とゼミ形式で行う。 2. 学生はグループを作り、それぞれの授業時間の課題をグループで分担し、担当グループがその授業時のリーダーシップをとる。 3. それぞれのグループは授業時間を担当する教員と十分に事前の打ち合わせを行い、授業が円滑に進むよう準備する。 ④医療政策や看護行政等の記事に関心を持ち、それぞれの内容に自身の考えを持つこと。 ⑤必要に応じて提示する。 ⑥授業参加度(20点)、課題発表(60点)、レポート(30点)とする。 ⑦オフィスアワーは特に設定しないが、質問・連絡等はメールにて随時受け付ける。ishikawa@tmu.ac.jp | | | | |

| 授業科目名 | 看護管理学特論演習 I | 配当年次 | 1, 2年 | 単位数 | 2単位 |
|--|---|------|-------|------|-------|
| (科目英名) | Practicum Nursing Mangement I | 後期 | 木曜 | 1-2限 | U0116 |
| 担当教員 | 石川陽子、習田明裕 | | | | |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ①人間の生命や尊厳の尊重に基づく良質な看護サービスの提供について議論する。 ②それぞれの学生が関心を抱く管理的課題を中心に、看護管理と関連する概念や理論を活用し、看護の質管理過程の展開能力および状況を改善していく策を導く能力を養う。 ③《授業計画・内容》 1. 保健医療福祉における施設の効果的・効率的な経営と良質なサービス提供の実現に影響する要因を探ると共に、経営に関する基礎知識、及び政策的課題への対応等について理解を深める。 2. それぞれの学生が関心を抱いている看護提供組織をモデルとして、モデルがもつ管理的な課題を抽出し、その問題を解決(改善)するための計画を立て、組織的検討及び対応方法について学習する。 《授業方法》 1. 授業は講義とゼミ形式で行う。 2. 授業は学生が主体的に展開する。 3. 学生は授業時間を担当する教員と連携をとり、課題がある場合は十分に事前の打ち合わせを行う。 ④研究テーマに関連する文献リストを作成し、興味のある論文をクリティーク素材として準備を進める。 ⑤適宜、紹介する。 ⑥課題ごとのレポート(40点)、グループ活動(20点)、討論参加度(20点)をあわせて評価する。 ⑦オフィスアワーは特に設定しないが、質問・連絡等がある場合はメールにて随時受け付ける。ishikawa@tmu.ac.jp | | | | |

博士前期課程・看護科学域

| | | | | | |
|--|--|------|------|------|-------|
| 授業科目名 | 看護管理学特論演習Ⅱ | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Practicum Nursing MangementⅡ | 後期 | 木曜 | 3-4限 | U0117 |
| 担当教員 | 石川陽子、習田明裕 | | | | |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ①看護管理と関連する理論や概念について理解を深め、保健医療福祉の場における看護管理上の課題を探求する。 ②自身の研究テーマに関して、管理的視座から知見を深める。 ③《授業計画・内容》 1. 文献検討により、看護管理学における研究の動向を把握すると共に、看護管理学に関連する。また、概念や理論の理解を深める。 2. 1.に基づき、看護の現場における管理的課題を見いだすことができる。 《授業方法》 1. 授業は講義とゼミ形式で行う。 2. 授業は学生が主体的に展開する。 3. 学生が関心をもつ課題を中心に学習を進める。 ④講義の進度に合わせ、自身の研究テーマを深める。 ⑤適宜、紹介する。 ⑥課題レポート(60点)、グループ活動(20点)、討論参加度(20点)をあわせて評価する。 ⑦オフィスアワーは特に設定しないが、質問・連絡等がある場合はメールにて随時受け付ける。ishikawa@tmu.ac.jp | | | | |

| | | | | | |
|--|---|------|------|------|-------|
| 授業科目名 | 看護管理学特論演習Ⅲ | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Practicum in Nursing MangementⅢ | 後期 | 木曜 | 5-6限 | U0118 |
| 担当教員 | 石川陽子、習田明裕 | | | | |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ①看護管理学に関する研究課題についてフィールドワークを行い、得られた知見を研究テーマに還元する。 ②看護管理と関連する概念や理論の実践への適用について探求できることを目標とする。 ③《授業計画・内容》 1. 看護管理学に関連する概念や理論を活用して、看護提供過程で生じる問題を捉えることができる。 2. 1.に基づき、実践現場の看護管理上の問題の解決に向けた方策を考察できる。 《授業方法》 1. 学生の研究課題や関心領域にもとづいて、実習場所や具体的方法を決定する。 2. 実習内容に関する分析結果をレポートに作成する。 ④フィールドワークとなる施設については、事前に十分に自己学習を行う。 ⑤適宜、紹介する。 ⑥実習への積極性・態度(40点)、発表内容(20点)、レポート(40点)にて総合的に評価する。 ⑦オフィスアワーは特に設定しないが、質問・連絡等がある場合はメールにて随時受け付ける。ishikawa@tmu.ac.jp | | | | |

科目一覧（理学療法科学域 博士前期課程）

| 授業科目名 | 配当年次 | 開講期 | 単位数 | 備考 |
|-----------------|------|-------|-----|-----------|
| 理学療法科学特別研究a | 最終学年 | 前期・後期 | 4 | |
| 理学療法科学特別研究b | 最終学年 | 後期・前期 | 4 | |
| 理学療法管理学特論 | 1、2年 | 後期 | 2 | ※専攻共通科目 |
| 理学療法学研究法特論 | 1、2年 | 前期 | 2 | |
| 医療教育特論Ⅱ | 1、2年 | 夏季集中 | 2 | ※専攻共通科目 |
| 発達障害理学療法学特論 | 1、2年 | 前期 | 2 | |
| 発達障害理学療法学特論演習 | 1、2年 | 後期 | 2 | |
| 障害予防理学療法学特論 | 1、2年 | 前期 | 2 | |
| 障害予防理学療法学特論演習 | 1、2年 | 後期 | 2 | |
| 内部障害理学療法学特論 | 1、2年 | 前期 | 2 | |
| 内部障害理学療法学特論演習 | 1、2年 | 後期 | 2 | |
| 認知運動科学理学療法学特論 | 1、2年 | 前期 | 2 | |
| 認知運動科学理学療法学特論演習 | 1、2年 | 後期 | 2 | |
| 神経系障害理学療法学特論 | 1、2年 | 前期 | 2 | |
| 神経系障害理学療法学特論演習 | 1、2年 | 後期 | 2 | |
| 固有受容性神経筋促通学特論 | 1、2年 | 前期 | 2 | 2019年度不開講 |
| 固有受容性神経筋促通学特論演習 | 1、2年 | 前期 | 2 | 2019年度不開講 |
| 筋骨格系理学療法学特論 | 1、2年 | 前期 | 2 | |
| 筋骨格系理学療法学特論演習 | 1、2年 | 後期 | 2 | |
| 地域理学療法学特論 | 1、2年 | 前期 | 2 | |
| 地域理学療法学特論演習 | 1、2年 | 後期 | 2 | |
| 解剖学・生理学特論 | 1、2年 | 前期 | 2 | |
| 行動科学・慢性疼痛特論 | 1、2年 | 後期 | 1 | |
| 神経筋骨格系医学評価特論 | 1、2年 | 後期 | 1 | |
| クリニカルリーズニング特論 | 1年 | 後期 | 1 | |
| 徒手理学療法特論-1 | 1年 | 後期 | 1 | |
| 徒手理学療法特論-2 | 1年 | 後期 | 1 | |
| 徒手理学療法特論演習-1 | 1年 | 後期 | 1 | |
| 徒手理学療法特論演習-2 | 1年 | 前期 | 1 | |

| | | | | |
|----------------|----|----|---|--|
| 徒手理学療法特論演習-3 | 1年 | 前期 | 2 | |
| 徒手理学療法特論演習-4 | 2年 | 後期 | 2 | |
| 徒手理学療法特論演習-5 | 1年 | 前期 | 1 | |
| 高度徒手理学療法特論 | 1年 | 後期 | 1 | |
| 高度徒手理学療法特論演習-1 | 2年 | 前期 | 1 | |
| 高度徒手理学療法特論演習-2 | 2年 | 前期 | 2 | |
| 統合徒手理学療法演習-1 | 2年 | 後期 | 2 | |
| 統合徒手理学療法演習-2 | 2年 | 前期 | 2 | |
| 臨床実習Ⅰ | 2年 | 後期 | 1 | |
| 臨床実習Ⅱ | 2年 | 前期 | 1 | |

履修モデル（人間健康科学研究科 人間健康科学専攻 理学療法科学域）
 <博士前期課程>

| 区分 | 授業科目名 | 単位数 | 運動障害分析 理学療法学分野 | | | | |
|-----------------------|-----------------|--------|-------------------|-------------------|-------------------|---------------------|--------------------|
| | | | 発達障害 理学療法 学 | 障害予防 理学療法 学 | 内部障害 理学療法 学 | 認知運動 科学理学 療法学 | 神経系障 害理学療 法学 |
| 分野共通科目 | 理学療法科学特別研究a | 4 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| | 理学療法科学特別研究b | 4 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| | 理学療法管理学特論 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| | 理学療法学研究法特論 | 2 | □ | □ | □ | □ | □ |
| | 医療教育特論Ⅱ | 2 | □ | □ | □ | □ | □ |
| 運動障害分析 理学療法学分 野 | 発達障害理学療法学分論 | 2 | ○ | □ | □ | □ | □ |
| | 発達障害理学療法学分論演習 | 2 | ○ | □ | □ | □ | □ |
| | 障害予防理学療法学分論 | 2 | □ | ○ | □ | □ | □ |
| | 障害予防理学療法学分論演習 | 2 | □ | ○ | □ | □ | □ |
| | 内部障害理学療法学分論 | 2 | □ | □ | ○ | □ | □ |
| | 内部障害理学療法学分論演習 | 2 | □ | □ | ○ | □ | □ |
| | 認知運動科学理学療法学分論 | 2 | □ | □ | □ | ○ | □ |
| | 認知運動科学理学療法学分論演習 | 2 | □ | □ | □ | ○ | □ |
| | 神経系障害理学療法学分論 | 2 | □ | □ | □ | □ | ○ |
| 神経系障害理学療法学分論演習 | 2 | □ | □ | □ | □ | ○ | |
| 身体機能回復 理学療法学分 野 | 固有受容性神経筋促通学特論 | 2 | □ | □ | □ | □ | □ |
| | 固有受容性神経筋促通学特論演習 | 2 | □ | □ | □ | □ | □ |
| | 筋骨格系理学療法学分論 | 2 | □ | □ | □ | □ | □ |
| | 筋骨格系理学療法学分論演習 | 2 | □ | □ | □ | □ | □ |
| 地域理学療法 学分野 | 地域理学療法学分論 | 2 | □ | □ | □ | □ | □ |
| | 地域理学療法学分論演習 | 2 | □ | □ | □ | □ | □ |
| 国際徒手理学 療法学コース | 解剖学・生理学特論 | 2 | □ | □ | □ | □ | □ |
| | 行動科学・慢性疼痛特論 | 1 | □ | □ | □ | □ | □ |
| | 神経筋骨格系医学評価特論 | 1 | □ | □ | □ | □ | □ |
| | クリニカルリーズニング特論 | 1 | □ | □ | □ | □ | □ |
| | 徒手理学療法特論-1 | 1 | □ | □ | □ | □ | □ |
| | 徒手理学療法特論-2 | 1 | — | — | — | — | — |
| | 徒手理学療法特論演習-1 | 1 | — | — | — | — | — |
| | 徒手理学療法特論演習-2 | 1 | — | — | — | — | — |
| | 徒手理学療法特論演習-3 | 2 | — | — | — | — | — |
| | 徒手理学療法特論演習-4 | 2 | — | — | — | — | — |
| | 徒手理学療法特論演習-5 | 1 | — | — | — | — | — |
| | 高度徒手理学療法特論 | 1 | — | — | — | — | — |
| | 高度徒手理学療法特論演習-1 | 1 | — | — | — | — | — |
| | 高度徒手理学療法特論演習-2 | 2 | — | — | — | — | — |
| | 統合徒手理学療法演習-1 | 2 | — | — | — | — | — |
| | 統合徒手理学療法演習-2 | 2 | — | — | — | — | — |
| 臨床実習Ⅰ | 1 | — | — | — | — | — | |
| 臨床実習Ⅱ | 1 | — | — | — | — | — | |
| 他学域の共通科目 | □ | □ | □ | □ | □ | □ | |
| 必修 | | 10単位 | | | | | |
| 分野の必修 | | 4単位 | | | | | |
| 選択 | | 16単位以上 | | | | | |
| 計 | | 30単位以上 | | | | | |

凡例： ◎必修 ○分野の必修 □選択 —履修不可（国際徒手理学療法学コース生のみ受講可能科目）

履修モデル（人間健康科学研究科 人間健康科学専攻 理学療法科学域）
 <博士前期課程>

理学療法科学域前期課程

| 区分 | 授業科目名 | 単位数 | 身体機能回復 理学療法学分野 | | 地域 理学療法 学分野 | 国際徒手理学療法 学コース | |
|-----------------------|-----------------|--------|---------------------|-------------------|-------------------|------------------|---------|
| | | | 固有受容 性神経筋 促通学 | 筋骨格系 理学療法 学 | 地域理学 療法学 | 徒手理学療法学 | |
| | | | | | | 論文コース | OMPTコース |
| 分野共通科目 | 理学療法科学特別研究a | 4 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| | 理学療法科学特別研究b | 4 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| | 理学療法管理学特論 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| | 理学療法学研究法特論 | 2 | □ | □ | □ | ○ | ○ |
| | 医療教育特論Ⅱ | 2 | □ | □ | □ | □ | □ |
| 運動障害分 析理学療法 学分野 | 発達障害理学療法学特論 | 2 | □ | □ | □ | □ | □ |
| | 発達障害理学療法学特論演習 | 2 | □ | □ | □ | □ | □ |
| | 障害予防理学療法学特論 | 2 | □ | □ | □ | □ | □ |
| | 障害予防理学療法学特論演習 | 2 | □ | □ | □ | □ | □ |
| | 内部障害理学療法学特論 | 2 | □ | □ | □ | □ | □ |
| | 内部障害理学療法学特論演習 | 2 | □ | □ | □ | □ | □ |
| | 認知運動科学理学療法学特論 | 2 | □ | □ | □ | □ | □ |
| | 認知運動科学理学療法学特論演習 | 2 | □ | □ | □ | □ | □ |
| | 神経系障害理学療法学特論 | 2 | □ | □ | □ | □ | □ |
| 神経系障害理学療法学特論演習 | 2 | □ | □ | □ | □ | □ | |
| 身体機能回 復理学療法 学分野 | 固有受容性神経筋促通学特論 | 2 | ○ | □ | □ | □ | □ |
| | 固有受容性神経筋促通学特論演習 | 2 | ○ | □ | □ | □ | □ |
| | 筋骨格系理学療法学特論 | 2 | □ | ○ | □ | □ | □ |
| | 筋骨格系理学療法学特論演習 | 2 | □ | ○ | □ | □ | □ |
| 地域理学療 法学分野 | 地域理学療法学特論 | 2 | □ | □ | ○ | □ | □ |
| | 地域理学療法学特論演習 | 2 | □ | □ | ○ | □ | □ |
| 国際徒手理 学療法学 コース | 解剖学・生理学特論 | 2 | □ | □ | □ | ○ | ○ |
| | 行動科学・慢性疼痛特論 | 1 | □ | □ | □ | ○ | ○ |
| | 神経筋骨格系医学評価特論 | 1 | □ | □ | □ | ○ | ○ |
| | クリニカルリーズニング特論 | 1 | □ | □ | □ | ○ | ○ |
| | 徒手理学療法特論-1 | 1 | □ | □ | □ | □ | □ |
| | 徒手理学療法特論-2 | 1 | — | — | — | — | — |
| | 徒手理学療法特論演習-1 | 1 | — | — | — | ○ | ○ |
| | 徒手理学療法特論演習-2 | 1 | — | — | — | ○ | ○ |
| | 徒手理学療法特論演習-3 | 2 | — | — | — | ○ | ○ |
| | 徒手理学療法特論演習-4 | 2 | — | — | — | ○ | ○ |
| | 徒手理学療法特論演習-5 | 1 | — | — | — | ○ | ○ |
| | 高度徒手理学療法特論 | 1 | — | — | — | ○ | ○ |
| | 高度徒手理学療法特論演習-1 | 1 | — | — | — | ○ | ○ |
| | 高度徒手理学療法特論演習-2 | 2 | — | — | — | ○ | ○ |
| | 統合徒手理学療法演習-1 | 2 | — | — | — | □ | ○ |
| | 統合徒手理学療法演習-2 | 2 | — | — | — | □ | ○ |
| 臨床実習Ⅰ | 1 | — | — | — | □ | ○ | |
| 臨床実習Ⅱ | 1 | — | — | — | □ | ○ | |
| 他学域の共通科目 | | □ | □ | □ | □ | □ | □ |
| 必修 | | 10単位 | | | | | |
| 分野の必修 | | 4単位 | | | | 20単位 | 26単位 |
| 選択 | | 16単位以上 | | | | | |
| 計 | | 30単位以上 | | | | | 36単位 |

凡例： ◎必修 ○分野の必修 □選択 —履修不可（国際徒手理学療法学コース生のみ受講可能科目）

博士前期課程 理学療法科学域 国際徒手理学療法学コース 履修進度モデル

| | 1年後期(10月~3月) | 単位 | 1年前期(4月~9月) | 単位 | 2年後期(10月~3月) | 単位 | 2年前期(4月~9月) | 単位 | 総単位 |
|---------------|--------------|--------------|-------------|-----------------|--------------|-----------------|-------------|---------|-----|
| 行動科学・慢性疼痛特論 | 1 | 理学療法学研究法特論 | 2 | 理学療法科学特別研究a | 4 | 理学療法科学特別研究b | 4 | | |
| 徒手理学療法特論-1 | 1 | 徒手理学療法特論演習-2 | 1 | 理学療法管理学特論 | 2 | 高度徒手理学療法特論演習-1 | 1 | | |
| 徒手理学療法特論-2 | 1 | 徒手理学療法特論演習-3 | 2 | 神経筋骨格系医学評価特論 | 1 | 高度徒手理学療法特論演習-2 | 2 | | |
| 徒手理学療法特論演習-1 | 1 | 徒手理学療法特論演習-5 | 1 | 徒手理学療法特論演習-4 | 2 | | | | |
| 高度徒手理学療法特論 | 1 | 解剖学・生理学特論 | 2 | | | | | | |
| クリニカルリーズニング特論 | 1 | | | | | | | | |
| | | | | 選択:統合徒手理学療法演習-1 | 2 | 選択:統合徒手理学療法演習-2 | 2 | | |
| | | | | 選択:臨床実習Ⅰ | 1 | 選択:臨床実習Ⅱ | 1 | | |
| 計 | 6 | | 8 | | 12 | | 10 | 36(選択6) | |

博士前期課程・理学療法科学域

| | | | | | |
|--|--|-----------|------|-----|-------|
| 授業科目名 | 理学療法科学特別研究 a | 配当年次 | 最終学年 | 単位数 | 4 単位 |
| (科目英名) | Thesis in Physical Therapy a | 前期で履修する場合 | | | U0200 |
| 担当教員 | 網本和、新田收、山田拓実、竹井仁、浅川康吉、古川順光、池田由美、来間弘展、宇佐英幸 | 後期で履修する場合 | | | U0224 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①テーマの抽出から、科学論文作成の段階を、指導教員のもとで学ぶ。 ②理学療法分野に関わるテーマを設定し、これに対して、研究デザイン、データ収集、分析、考察の各段階における方法論を習得する。 ③理学療法学分野の中から研究課題を選択し、その研究過程を実践し修士論文を作成する。 ④関連学会への参加・発表を推奨する。 ⑤指導教員の指示に従う。 ⑥レポート・出席状況・質疑応答などで評定する。 ⑦指導教員と個別に相談すること。 ⑧前期・後期、どちらでも履修可能。 曜日・時限等の詳細は、学生から教員に相談・調整すること。 履修登録期間に、自身で登録すること。 | | | | |

| | | | | | |
|--|---|-----------|------|-----|-------|
| 授業科目名 | 理学療法科学特別研究 b | 配当年次 | 最終学年 | 単位数 | 4 単位 |
| (科目英名) | Thesis in Physical Therapy b | 前期で履修する場合 | | | U0225 |
| 担当教員 | 網本和、新田收、山田拓実、竹井仁、浅川康吉、古川順光、池田由美、来間弘展、宇佐英幸 | 後期で履修する場合 | | | U0226 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①テーマの抽出から、科学論文作成の段階を、指導教員のもとで学ぶ。 ②理学療法分野に関わるテーマを設定し、これに対して、研究デザイン、データ収集、分析、考察の各段階における方法論を習得する。 ③理学療法学分野の中から研究課題を選択し、その研究過程を実践し修士論文を作成する。 ④関連学会への参加発表を推奨する。 ⑤指導教員の指示に従う。 ⑥レポート・出席状況・質疑応答などで評定する。 ⑦指導教員と個別に相談すること。 ⑧理学療法科学特別研究 a の単位を取得した者が履修できる。 前期・後期、どちらでも履修可能。 曜日・時限等の詳細は、学生から教員に相談・調整すること。 履修登録は、論文提出を以て事務で一括で行う。(※履修登録期間の自身による履修登録は不要。) | | | | |

| | | | | | |
|---|---|------|-------|-------|-------|
| 授業科目名 | 理学療法管理学特論 | 配当年次 | 1、2 年 | 単位数 | 2 単位 |
| (科目英名) | Advanced Theories of Physical Therapy Administration | 後期 | 火曜 | 4-5 限 | U0201 |
| 担当教員 | 浅川康吉、新井光男、池田誠 | | | 6-7 限 | U0202 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 | ①効果的かつ効率的な理学療法職場の実現と活性化について講義と必要に応じた討論を行う。 ②理学療法の質を向上するための管理活動の基本について学ぶ。 ③以下の項目をテーマに、議論を通じて学ぶ。 1 項目：多職種連携 2 項目：病院管理と理学療法管理 3 項目：リスクマネジメント 4 項目：リーダーシップとコミュニケーション 5 項目：診療ガイドライン 6 項目：臨床研究 【授業方法】：各項目について資料(論文、事例など)を提供する。これを材料として学生同士での議論を中心とする授業を展開する。 | | | | |

博士前期課程・理学療法科学域

| | |
|----------------------|---|
| ④授業外学習 | ④提供された資料(論文、事例など)を予習して授業に参加するとともに、授業後も自身の興味・関心に応じて関連資料を収集するなどして学習を深めてください。 |
| ⑤テキスト・参考書等 | ⑤適宜、資料を配付する。参考書も紹介する。 |
| ⑥成績評価方法 | ⑥レポート(80%)、討論内容(20%)で判定する。 |
| ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ⑦【オフィスアワー】:質問等があれば随時受け付けます。荒川キャンパス校舎棟 563 研究室へ来てください。メールによる質問も受け付けます。 【連絡先】:yasakawa@tmu.ac.jp |

| 授業科目名 | 理学療法学研究法特論 | 配当年次 | 1, 2 年 | 単位数 | 2 単位 |
|--|--|------|--------|-----|-------|
| (科目英名) | Research methods in Physiotherapy | 前期 | 火曜 | 3 限 | U0205 |
| 担当教員 | 新田收、高倉保幸 | | | 7 限 | U0206 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ①データの扱い方、統計解析手法の選択に関して解説する。また先行研究を例にとり、テーマ選びから処理方法、解釈に関して解説する。 ②本講義では理学療法学研究における、テーマの設定から統計分析、論文執筆まで理解し実践できる。 ③(担当:高倉) 1. データ管理と記述統計 2-3. 統計の基礎知識と質的データの解析 4-5. 平均値の差の検定 6. 帰帰分析 7. 信頼性の検定 (担当:新田) 8-15. 先行研究を取り上げ、使用されている統計手法、論文構成について解説する。 講義の進行方法・学修研究の方法等 講義は講義、課題レポートの発表、グループ討議により構成する ④各自の研究テーマに関するデータ収集 ⑤特に無し ⑥レポート、授業参加の積極性を評価する ⑦【オフィスアワー】:月曜日-金曜日、授業時間以外の 9:00-17:00 研究室 575 【連絡先】新田收:nittaosm@tmu.ac.jp | | | | |

| 授業科目名 | 医療教育特論Ⅱ | 配当年次 | 1, 2 年 | 単位数 | 2 単位 |
|---|--|------|--------|-----|-------|
| (科目英名) | Advanced Theories of Education in Medicine and Health Sciences II | 夏季集中 | | | U0766 |
| 担当教員 | 網本和、池田由美、浅川康吉 | | | | |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 | ①臨床実習における教育の制度、教育方法、教育成果評価および実践的な方法論を学修する。 ②臨床実習関連の制度を学修する 臨床実習教育の方法論を学修する ③1. イントロダクション 2. 指定規則の概要 3. 医療従事者の臨床実習制度と課題 4. 臨床実習の手引き(1) 5. 臨床実習の手引き(2) 6. 臨床実習教育方法論 7. 臨床実習教育方法論討論 8. 臨床実習におけるハラスメント防止 9. 臨床実習におけるハラスメント事例検討 10. 診療参加型臨床実習の概要 11. 診療参加型臨床実習の実例提示・検討1 12. 診療参加型臨床実習の実例提示・検討2 13. OSCE の理論 14. OSCE の実例検討 15. 総合討論・まとめ ④特に必要ない | | | | |

博士前期課程・理学療法科学域

| | |
|------------------------|---|
| ⑤テキスト・参考書等 | ⑤特に定めない |
| ⑥成績評価方法 | ⑥授業参加と討論参加 |
| ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ⑦質問については、メールにて受け付けます。 amimoto@tmu.ac.jp |
| ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ⑧医療教育特論Ⅰを履修することが望ましい。 7月～9月の集中講義とする。日程は別途提示する。 |

| | | | | | |
|--------|---|------|-------|-----|-------|
| 授業科目名 | 発達障害理学療法学特論 | 配当年次 | 1, 2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Advanced Theories of Pediatric Physical Therapy | 前期 | 火曜 | 2限 | U0235 |
| 担当教員 | 新田 収、松田 雅弘 | | 木曜 | 7限 | U0236 |

| | |
|----------------------------|--|
| ①授業方針・テーマ | ①最近の研究を取り上げ当分野における研究のあり方について考える。 運動発達に関する、最近の研究成果について解説する。 |
| ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 | ②本講義では脳性麻痺に代表される小児期に起因する運動障害に関する先行研究動向について分析する。 当分野における研究の特徴について考察する。このことで、研究法について理解を深める。 |
| ③授業計画・内容 授業方法 | ③1回-12回:1.各学生に運動発達評価に関して課題レポートを科し、レポート内容について討議を展開する。 13回-15回:2.講義は講義、課題レポートの発表、グループ討議により構成する 【授業方法】:講義を主体とし、一部グループワークを実施し、ディスカッションを行う。 【授業外学習】:講義の中で質問、討論を行うので、講義で配布した資料等を基に充分予習し、準備すること。 |
| ④授業外学習 | ④各自の研究テーマに関するデータ収集 |
| ⑤テキスト・参考書等 | ⑤特に無し |
| ⑥成績評価方法 | ⑥レポート、授業参加の積極性を評価する |
| ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ⑦【オフィスアワー】:月曜日-金曜日、授業時間以外の9:00-17:00 研究室 575 【連絡先】新田 収: nittaosm@tmu.ac.jp |
| ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ⑧【他の授業との関連性】:発達障害理学療法学特講と関連する。 |

| | | | | | |
|--------|--|------|-------|------|-------|
| 授業科目名 | 発達障害理学療法学特論演習 | 配当年次 | 1, 2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Seminar in Advanced Theories of Pediatric Physical Therapy | 後期 | 金曜 | 1-2限 | U0237 |
| 担当教員 | 新田 収 | | | 6-7限 | U0238 |

| | |
|----------------------------|---|
| ①授業方針・テーマ | ①小児分野の研究では、発達による変化要素が根底に存在する。また単一の現象に複数の要因が関連している。分析においてもこの点を踏まえた分析方法の理解が必要である。またデータ収集において客観性をどのように保つかに ついて検討する。 |
| ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 | ②小児分野における、分析手法、統計手法について理解を深める。 |
| ③授業計画・内容 授業方法 | ③1. 学生に対して発達に関係するサンプルデータを示し、分析方法について考察する。 2. 学生自身がデータを示し、当データの特性から適切な分析方法に関して検討する。 |
| ④授業外学習 | ④各自の研究テーマに関するデータ収集 |
| ⑤テキスト・参考書等 | ⑤特になし |
| ⑥成績評価方法 | ⑥レポートによる |
| ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ⑦【オフィスアワー】:月曜日-金曜日、授業時間以外の9:00-17:00 研究室 575 【連絡先】新田 収: nittaosm@tmu.ac.jp |
| ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ⑧【他の授業との関連性】:発達障害理学療法学特講と関連する。 |

| | | | | | |
|--------|---|------|-------|-----|-------|
| 授業科目名 | 障害予防理学療法学特論 | 配当年次 | 1, 2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Advanced Theories of Clinical Exercise Physiology | 前期 | 火曜 | 4限 | U0239 |
| 担当教員 | 山田 拓実、鈴木 政登、小島 肇、杉本 和隆 | | | 6限 | U0240 |

| | |
|-----------|---|
| ①授業方針・テーマ | ①高齢者に対する障害予防理学療法、および内部障害理学療法の評価と治療の具体的方略を検討する。 EBMの手順・実践を体験する。 |
|-----------|---|

博士前期課程・理学療法科学域

| | |
|--|--|
| <p>② 習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標</p> <p>③ 授業計画・内容 授業方法</p> <p>④ 授業外学習</p> <p>⑤ テキスト・参考書等</p> <p>⑥ 成績評価方法</p> <p>⑦ 質問受付方法 (オフィスアワー)</p> <p>⑧ 特記事項 (他の授業科目との関連性)</p> | <p>人工関節の最先端治療を苑田会人工関節センター病院長から学ぶ。</p> <p>② 受講生は科学的根拠に基づいた適切な理学療法アプローチを設定できることを目標とする。 運動様式や運動強度および陸上、水中、暑熱など一過性環境要因や習慣的運動の影響を、生理・生化学、内分泌学的観点から捉え、生活習慣病を含む臓器障害や運動器系の障害(骨、関節、筋、神経)を有する者の運動処方および生活習慣指導ができるようになることを目標とする。</p> <p>③ 項目1(山田)サルコペニア 栄養 項目2(山田)高齢者の障害予防の理学療法 項目3(山田)高齢者の障害予防の理学療法 項目4(山田)内部障害の理学療法 項目5(小島)障害予防理学療法のエBM 項目6(小島)障害予防理学療法のエBM 項目7(小島)障害予防理学療法のエBM 項目8(鈴木)運動科学概論・運動と神経・筋 項目9(鈴木)運動と呼吸・循環機能および水・電解質・エネルギー代謝 項目10(鈴木)運動と生理・生化学および内分泌応答 項目11(鈴木)環境と運動時生理・生化学および内分泌応答 項目12(鈴木)臓器障害および生活習慣病を有する者の運動処方 項目13(鈴木)臓器障害および生活習慣病を有する者の運動処方 項目14(杉本)人工関節の最先端治療 項目15(杉本)人工関節の最先端治療 講義を中心とした授業を実施するが、適宜質問を投げかける。</p> <p>④ 授業時に示す英文文献について、A4用紙2枚程度のレポートを作成して提出すること。 前回の授業範囲を復習し、評価治療の医学的根拠を理解しておくこと。</p> <p>⑤ 特に使用しない。</p> <p>⑥ 授業参加度50%、発表50%</p> <p>⑦ 質問・連絡等がある場合は、yamada@tmu.ac.jp までメールしてください。</p> <p>⑧ 障害予防理学療法学特論演習は関連科目である。</p> |
|--|--|

| 授業科目名 | 障害予防理学療法学特論演習 | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
|-------------------------|--|------|------|------|-------|
| (科目英名) | Seminar in Advanced Theories of Clinical Exercise Physiology | 後期 | 水曜 | 4-5限 | U0241 |
| 担当教員 | 山田拓実、鈴木政登 | | | 6-7限 | U0242 |
| ① 授業方針・テーマ | ① 文献レビュー・症例検討を通じて高齢者・内部障害患者に対する障害予防理学療法の評価と治療の具体的方略を検討する。 運動負荷試験結果ならびに生化学分析結果をレポートにまとめる。 | | | | |
| ② 習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 | ② 受講生は自身の担当した症例の肺機能検査、X線写真、血液ガス分析などの臨床データ、理学療法アプローチを呈示しその科学的根拠を分析して、より効果的な治療方法について討議する。各種運動負荷試験の利点と欠点を知り、実際に課題を設定して運動負荷試験を実施した際の生理的反応を知る。また、運動負荷心電図や心拍血圧反応からリスク管理の方法を知る。 | | | | |
| ③ 授業計画・内容 授業方法 | ③ (山田) 項目1・臨床データの解釈 項目2・臨床データの解釈 項目3・文献による治療法の有効性の検討 項目4・文献による治療法の有効性の検討 以上の内容を中心に具体的な症例の呈示と討論によって進める。 受講生の積極的な参加が望まれる。PPプレゼンテーションなどを作成し症例検討を行う。症例の呈示の困難な受講生は文献による内部障害理学療法に関するトピックスを紹介し、討議材料とする。 項目5～8高齢者の運動障害予防に関する文献を精読し、運動療法への展開を討論する。 (鈴木) 項目9～11 運動時生理・生化学応答実習 運動負荷試験 その1 項目12～14 運動時生理・生化学応答実習 スパイロメータ その2 項目15 講義 糖尿病の運動療法 運動負荷試験から得られる生理的反応をレポートにまとめる。 生化学的分析実習 講義を中心とした授業を実施するが、適宜質問を投げかける。 | | | | |
| ④ 授業外学習 | ④ 運動負荷試験から得られる運動生理的反応・生化学分析結果をレポートにまとめる。 前回の授業範囲を復習し、評価治療の医学的根拠を理解しておくこと。 | | | | |

博士前期課程・理学療法科学域

| | |
|------------------------|---|
| ⑤テキスト・参考書等 | ⑤特に定めない。 |
| ⑥成績評価方法 | ⑥発表50% レポート50% |
| ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ⑦質問・連絡等がある場合は、yamada@tmu.ac.jp までメールしてください。 |
| ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ⑧障害予防理学療法学特論を事前に履修すること。 |

| | | | | | |
|--------|---|------|------|-----|-------|
| 授業科目名 | 内部障害理学療法学特論 | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Advanced Theories of Cardiopulmonary Physical Therapy | 前期 | 水曜 | 4限 | U0211 |
| 担当教員 | 古川順光 | | | 6限 | U0212 |

| | |
|----------------------------|---|
| ①授業方針・テーマ | ①内部障害者の体力・身体活動や虚血性心疾患等の内部障害に対する理学療法の評価と治療手技に関し検討する。運動様式や運動強度および環境要因や習慣的運動の影響を考慮し、生活習慣病を含む臓器障害や運動器系障害を有する者の生活活動および運動処方ができることを目標に講義する。 |
| ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 | ②運動様式や運動強度および環境要因や習慣的運動の影響を考慮し、生活習慣病を含む臓器障害や運動器系障害を有する者の生活活動および運動処方ができることを目標に講義する。 |
| ③授業計画・内容 授業方法 | ③1:運動生理学 概論 2:運動生理学 運動と呼吸・循環 3:運動生理学 生理・生化学および内分泌応答 4:運動生理学 環境応答 5:循環器疾患の理学療法 1 6:循環器疾患の理学療法 2 7:糖尿病の理学療法 1 8:糖尿病の理学療法 2 9:内部障害と体力 10:身体活動量の評価 11:身体活動量と運動療法 1 12:身体活動量と運動療法 2 13:運動処方 14:生活習慣病を有する者の運動処方 1 15:生活習慣病を有する者の運動処方 2 授業方法:講義形式と文献抄読を中心に行う。 |
| ④授業外学習 | ④関連分野の文献を読んでまとめること。 |
| ⑤テキスト・参考書等 | ⑤特に定めない。適宜関連文献を紹介する。 |
| ⑥成績評価方法 | ⑥授業中の発表(50%)、レポート(50%)。 |
| ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ⑦直接質問したい場合は随時受付しますので、事前にメール(yfuru@tmu.ac.jp)でアポイントメントをとってください。 |
| ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ⑧解剖学・生理学・運動学等の基礎医学を復習しておくこと。 |

| | | | | | |
|--------|--|------|------|------|-------|
| 授業科目名 | 内部障害理学療法学特論演習 | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Seminar in Advanced Theories of Cardiopulmonary Physical Therapy | 後期 | 水曜 | 4-5限 | U0213 |
| 担当教員 | 古川順光 | | | 6-7限 | U0214 |

| | |
|----------------------------|---|
| ①授業方針・テーマ | ①文献抄読を通じて内部障害や身体活動量低下に対する理学療法の評価と治療の具体的方略を検討する。 |
| ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 | ②内部障害や身体活動量低下に対する理学療法の評価と治療の具体的方略を修得することができる。また各種運動負荷試験の利点と欠点を知り、運動負荷試験を実施した際の生理的反応を知ることができる。 |
| ③授業計画・内容 授業方法 | ③1~10:内部障害者の身体活動に関する文献を精読し、運動療法への展開を討論する。 11~15:運動負荷試験実習 授業方法:文献抄読と実習 |
| ④授業外学習 | ④関連文献を精読し、自らの考察を加える。 |
| ⑤テキスト・参考書等 | ⑤特に定めない。適宜関連文献を紹介する。 |
| ⑥成績評価方法 | ⑥発表(50%)、レポート(50%) |
| ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ⑦直接質問したい場合は随時受付しますので、事前にメール(yfuru@tmu.ac.jp)でアポイントメントをとってください。 |

博士前期課程・理学療法科学域

⑧特記事項

(他の授業科目との関連性)

⑧解剖学・生理学・運動学等の基礎医学、および内部障害理学療法学特論で検討した関連文献を復習しておくこと。

| 授業科目名 | 認知運動科学理学療法学特論 | 配当年次 | 1, 2年 | 単位数 | 2単位 |
|--|--|------|-------|-----|-------|
| (科目英名) | Analysis of Neurocognitive Therapy | 前期 | 水曜 | 5限 | U0243 |
| 担当教員 | 池田由美 | | | 7限 | U0244 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | <p>①身体運動機能やその障害に関する基礎論文を取り上げ、問題点や研究手法について討論する。</p> <p>②身体運動機能やその障害にかかわる研究の動向を分析し、その研究手法について多角的に学ぶことを目標とする。</p> <p>③【授業内容・方法】受講生各自が下記のテーマのうち興味のあるテーマを選択し、研究論文を読み、それをまとめて発表し、受講者全員で討議を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・随意運動の神経機構 ・神経系の可塑性 ・運動学習 ・運動イメージ ・認知神経リハビリテーション(認知運動療法) <p>【授業計画】1回の講義時間内に2名ずつ発表する。発表の順序は初講日に決定する。</p> <p>④興味のある研究論文を選択し、発表できる形式(A4レジュメ2枚程度)にまとめ、発表の準備を行う。なお、研究論文はできるだけ最新のものを選択すること。</p> <p>⑤特になし。</p> <p>⑥講義への取組み、発表内容等で評価する。</p> <p>⑦講義終了後、あるいはメールにて受付けます。</p> <p>⑧講義で発表する論文については、できるだけ速やかに決定し、決定次第、担当教員まで連絡してください(ikedayum@tmu.ac.jp)。</p> | | | | |

| 授業科目名 | 認知運動科学理学療法学特論演習 | 配当年次 | 1, 2年 | 単位数 | 2単位 |
|--|---|------|-------|------|-------|
| (科目英名) | Analysis Practice of Neurocognitive Therapy | 後期 | 金曜 | 1-2限 | U0245 |
| 担当教員 | 池田由美、森岡周 | | 木曜 | 6-7限 | U0246 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | <p>①認知運動科学理学療法学特論をもとに、身体運動機能障害にかかわる理学療法における具体的方略や研究手法について討論を重ねる。</p> <p>②身体運動機能の評価や理学療法の具体的な方略、研究手法について多面的な視点を学ぶ。</p> <p>③【授業内容・方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『The Neural Bases of Multisensory Processes』を読み、身体的運動機能の回復につながるような具体的方略や研究手法について討議する。 ・運動機能回復の神経科学、運動制御と運動イメージ、疼痛のメカニズム等に関する講義を行う。 ・認知神経リハビリテーションの実践場面を体験する。 <p>【授業計画】</p> <p>第1・2回:オリエンテーション、担当する章の決定と次回以降の準備</p> <p>第3~6回:運動機能回復の神経科学、運動制御と運動イメージ、疼痛のメカニズム等に関する講義(集中講義:森岡)</p> <p>第7~10回:認知神経リハビリテーションの実践場面の体験(課題:体験レポート)</p> <p>第11~30回:『The Neural Bases of Multisensory Processes』の発表(2回の講義時間内に1名ずつ発表)</p> <p>④担当した章については全訳し、発表の準備を行う。</p> <p>⑤特に定めない。</p> <p>⑥講義・演習への取組み、レポート、発表の内容等で評価する。</p> <p>⑦講義後、またはメール(ikedayum@tmu.ac.jp)にて受け付けます。</p> <p>⑧認知運動科学理学療法学特論を受講しておくこと。</p> | | | | |

博士前期課程・理学療法科学域

| 授業科目名 | 神経系障害理学療法学特論 | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
|--|---|------|------|-----|-------|
| (科目英名) | Analysis of Physical Therapy for Neurology | 前期 | 金曜 | 2限 | U0247 |
| 担当教員 | 網本和 | | | 6限 | U0248 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | <p>①神経系障害の概要を理解し、その理学療法の基本的な枠組みを検討する。</p> <p>②神経系障害にかかわる、身体的・心理的・社会的諸要因について分析検討する。 内外の文献の検討を通じて論理的思考能力を涵養し研究方法の基礎的能力を獲得得る。</p> <p>③各項目の前半に基本的な講義を行い、後半に各自の研究課題に即したテーマを提示する。 以下に掲げる項目について分析検討する。 1回～2回. 神経系障害にかかわる研究方法の概観。課題提示。 3回～5回. 神経系障害例の身体機能の特性の分析: 筋力・平衡機能など。 6回～8回. 神経系障害に関与する疾病の理解: 脳損傷・パーキンソン症候群など。 9回～11回. 認知機能障害の理解。 12回～14回. 神経系障害例の社会的課題。 15回: まとめ 【授業方法】: 主に講義とレポート発表で実施する。講義で定義や概念等について解説を行った後、事例または文献例に基づいたグループディスカッションを実施し討論する。</p> <p>④【授業外学習】: テーマに沿った文献を渉猟しまとめてうえで講義に臨むことが期待される。</p> <p>⑤テキストは特に定めない。文献等は適宜呈示する。</p> <p>⑥講義への参加 50%およびレポート課題 50%にて評価する。</p> <p>⑦【オフィスアワー】: 原則として水曜日3時限目としますので、質問等があれば研究室(588)に来てください。また、メールによる質問も随時受け付けます。 【連絡先】amimoto@tmu.ac.jp</p> <p>⑧【他の授業科目との関連性】: 専門領域を問わず興味があれば受講できる。</p> | | | | |

| 授業科目名 | 神経系障害理学療法学特論演習 | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
|--|---|------|------|------|-------|
| (科目英名) | Seminar in Analysis of Physical Therapy for Neurology | 後期 | 金曜 | 3-4限 | U0215 |
| 担当教員 | 網本和 | | | 6-7限 | U0216 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | <p>①神経系障害に関する理学療法の評価と治療の具体的方略を検討する。</p> <p>②臨床的症例検討によって、適切な理学療法アプローチを呈示することができる。 ディスカッションを通じて、論理的思考力やコミュニケーション能力を身に付けることができる。 科学的根拠を分析することで、より効果的な治療法の確立に寄与する。</p> <p>③以下の内容を中心に症例呈示と討論を行う。 1回～3回. 症例研究の方法論 4回～6回. 文献研究の方法論 7回～9回. 具体的な症例の呈示 10回～12回. 評価方法の吟味 13回～15回. 治療方法の討議・まとめ 受講者の積極的参加が望まれる。 PCプレゼンテーションなどを作成する。</p> <p>④テーマについての英語論文を検索し読んでおくこと。</p> <p>⑤特に定めない。</p> <p>⑥演習への参加およびレポート課題により評価する。</p> <p>⑦【オフィスアワー】: 原則として水曜日5時限目としますので、質問等があれば研究室(588)に来てください。また、メールによる質問も随時受け付けます。 【連絡先】amimoto@tmu.ac.jp</p> <p>⑧【他の授業科目との関連性】: 神経系障害理学療法学特論の受講を前提とする。</p> | | | | |

博士前期課程・理学療法科学域

| | | | | | |
|--|---|------|------|-----|-------|
| 授業科目名 | 固有受容性神経筋促通学特論 | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Proprioceptive Neuromuscular Facilitation Theory | 前期 | 月曜 | 6限 | U0217 |
| 担当教員 | 新井光男 | | | 5限 | U0218 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①固有受容性神経筋促通法(PNF)に関する生理学的理論・効果に関する論文を理解・解釈する ②生理学的理論・効果のエビデンスを学習し、理解・解釈できること ③授業外学習として最近の固有受容性神経筋促通法(PNF)に関する論文を検索し、論文の理解・解釈を発表。発表者の検索した論文についての理解・解釈について発表に基づいて、学生間でディスカッションを行う。 ④ ⑤特に定めない ⑥発表内容、ディスカッションの内容等で評定する。 ⑦新井光男 pnfsw@tmu.ac.jp に希望の時間をメールしてください。調整します。 ⑧固有受容性神経筋促通法特論演習と関連する。 | | | | |

| | | | | | |
|--|---|------|------|------|-------|
| 授業科目名 | 固有受容性神経筋促通学特論演習 | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Proprioceptive Neuromuscular Facilitation Practice | 前期 | 木曜 | 6-7限 | U0219 |
| 担当教員 | 新井光男、柳澤健、白谷智子 | | | | |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①テーマ:固有受容性神経筋促通法(PNF) ②固有受容性神経筋促通法(PNF)に関する生理学的・運動学的英論文を演習を通して理解し、解釈できることを授業目標とする。 ③PNFに関する生理学的・運動学的英論文を院生が紹介し、論文の内容について質疑応答する。 ④ ⑤テキスト:別途、指示する。 ⑥レポート・質疑応答内容などで評定する。 ⑦新井光男 pnfsw@tmu.ac.jp に希望の時間をメールしてください。調整します。 ⑧固有受容性神経筋促通学特論と関連する。 | | | | |

| | | | | | |
|---|--|------|------|-----|-------|
| 授業科目名 | 筋骨格系理学療法特論 | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Advanced Theories of Musculoskeletal Physical Therapy | 前期 | 月曜 | 1限 | U0220 |
| 担当教員 | 来間弘展、信太奈美、村木孝行、相澤純也 | | | 7限 | U0221 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 | ①筋骨格系患者に対する運動療法の具体的方略を検討する。受講生は講義に基づき、症例の臨床データを分析し、適切な理学療法アプローチを設定できることを目標とする。 ②筋骨格系障害に対する運動療法の講義を行い、それに基づいた症例提示・検討を行う。 ③講義および課題レポート。必要に応じて実習を行う。 項目1 運動療法総論 項目2 運動負荷について 項目3 腰部障害の筋変化について 項目4 腰部障害に対する運動療法 項目5 頸部障害の筋変化について 項目6 頸部障害に対する運動療法 項目7 下肢障害の運動療法 項目8 股関節機能に関するトピックス 項目9 膝関節機能障害に関するトピックス 項目10 障がい者アスリートのトレーニングと効果 | | | | |

博士前期課程・理学療法科学域

| | |
|---|---|
| ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | 項目11 障がい者アスリートのスポーツ障害 項目12 肩関節のバイオメカニクス 項目13 肩関節障害におけるトピックス 項目14 肩関節における運動療法 項目15 まとめ ④筋骨格系理学療法の文献を読んでまとめてください。 ⑤参考書 Musculoskeletal Examination and ASSESSMENT 5th, Elsevier Grieve's Modern Musculoskeletal Physiotherapy 4th, Elsevier ⑥授業参加度50%、発表50% ⑦メール(kuruma@tmu.ac.jp)にて連絡してください。 ⑧項目12、13、14は、4月13日(土)に集中講義にて実施する。 |
|---|---|

| | | | | | |
|--------|--|------|------|------|-------|
| 授業科目名 | 筋骨格系理学療法学特論演習 | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Seminar in Advanced Theories of Musculoskeletal Physical Therapy | 後期 | 月曜 | 1-2限 | U0222 |
| 担当教員 | 来間弘展、信太奈美、相澤純也、Clare C.Frank | | | 6-7限 | U0223 |

| | |
|--|--|
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①各自のテーマに沿った文献検討および症例検討を行う。 ②各院生がテーマとする筋骨格系理学療法に関する図書、文献等を選択し、テーマ別に演習として内容の検討・考察を行う。また文献等を基に患者を評価・治療して症例呈示できることを目標とする。 ③項目1 頰椎の運動生理学 項目2 頰椎の検査(1) 項目3 頰椎の検査(2) 項目4 頰椎の運動療法 項目5 スポーツ理学療法 項目6 スポーツ傷害の測定(東京医科歯科大学病院) 項目7 ムーブメントサイエンス概論 項目8 ムーブメントサイエンスの実際 文献抄読およびディスカッション。必要に応じて実習を行う。 後半は各自、症例呈示を行う。 ④筋骨格系に関する文献を読んでまとめてください。 ⑤参考書 Musculoskeletal Examination and ASSESSMENT 5th, Elsevier Grieve's Modern Musculoskeletal Physiotherapy 4th, Elsevier ⑥授業参加度50%、発表50% ⑦メール(kuruma@tmu.ac.jp)にて連絡してください。 ⑧項目7、8は集中講義にて実施する。 |
|--|--|

| | | | | | |
|--------|---|------|------|-----|-------|
| 授業科目名 | 地域理学療法学特論 | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Advanced Theories of Community-Based Physical Therapy | 前期 | 水曜 | 5限 | U0227 |
| 担当教員 | 浅川康吉 | | | 6限 | U0228 |

| | |
|---|--|
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 | ①地域理学療法の理論、システム、実践について、講義と必要に応じた討論を行う。 ②地域における理学療法を理論的に捉え、対象に応じた方法論を理解することが目標である。また地域リハビリテーション、地域保健の枠組みの中で地域理学療法の位置づけについても検討する。 ③1 項目: 変貌する地域社会と地域リハビリテーション 2 項目: 地域リハビリテーションと地域理学療法 3 項目: 地域包括ケア 4 項目: 介護予防 5 項目: 地域連携 6 項目: 事例研究 7 項目: 地域活動研究 【授業方法】:1項目から5項目については講義を主とする。各項目の講義回数は履修学生の興味、関心に応じて調整 |
|---|--|

博士前期課程・理学療法科学域

| | |
|---|---|
| ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | する。6項目、7項目については研究論文や実践報告を題材に討論を主とした授業を行う。 ④6項目、7項目における話題提供に備えて地域在住の高齢者、障害者などを対象とした研究や地域理学療法の先駆的実践について幅広く情報を収集すること。 ⑤適宜、資料の配付、参考書を紹介する。 ⑥レポート(80%)、討論内容(20%)で判定する。 ⑦【オフィスアワー】:質問等があれば随時受け付けます。荒川キャンパス校舎棟 563 研究室へ来てください。メールによる質問も受け付けます。 【連絡先】:yasakawa@tmu.ac.jp |
|---|---|

| 授業科目名 | 地域理学療法学特論演習 | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
|--|--|------|------|------|-------|
| (科目英名) | Seminar in Advanced Theories of Community-Based PhysicalTherapy | 後期 | 水曜 | 4-5限 | U0229 |
| 担当教員 | 浅川康吉 | | | 6-7限 | U0230 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ①地域理学療法学に関する論文、図書等から院生の興味・関心に応じたものを選択し、それらを教材として地域理学療法研究の視点、方法、考え方の特徴を学ぶ。 ②履修学生それぞれのテーマに関連づけながら地域理学療法への理解を深めることを目標とする。 ③以下のテーマに沿って講義・演習を行う。 1項目:地域理学療法の研究方法 2項目:地域理学療法の先駆的実践 3項目:文献研究 【授業方法】:各項目の講義回数は履修学生の興味・関心に応じて調整する。 ④興味・関心を惹かれた地域理学療法に関する研究論文を選び、批判的吟味を加えながら丁寧に読む経験を積んでください。 ⑤適宜、資料の配付、参考書を紹介する。 ⑥レポート(80%)、討論内容(20%)で判定する ⑦【オフィスアワー】:質問等があれば随時受け付けます。荒川キャンパス校舎棟 563 研究室へ来てください。メールによる質問も受け付けます。 【連絡先】:yasakawa@tmu.ac.jp | | | | |

| 授業科目名 | 解剖学・生理学特論 | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
|---|--|------------|------|-----|-------|
| (科目英名) | Advanced Theories of Anatomy and Physiology | 前期 (春期) | 火曜 | 6限 | U0203 |
| 担当教員 | 山田拓実、易 勤 他 | | | | |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 | ①理学療法に必要な解剖学・生理学知識をもとに理学療法を展開できるようになること。また EBM に基づいた知識を習得する。 ②受講生は科学的根拠に基づいた理学療法を行うための基礎知識習得を目指す。 ③第1回 解剖学① 第2回 解剖学② 第3回 生理学① 第4回 生理学② 第5回 運動と神経 第6回 運動と呼吸循環機能 第7回 運動と生理・生化学的応答 1 第8回 運動と生理・生化学的応答 2 第9回 内部障害を有する者の運動処方 第10回 生活習慣病を有する者の運動処方 第11回 高齢者の運動障害 1 第12回 高齢者の運動障害 2 第13回 高齢者の障害予防 第14回 人工関節と生体反応 1 第15回 人工関節と生体反応 2 授業方法 講義 | | | | |

博士前期課程・理学療法科学域

| | |
|---|---|
| ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | 解剖学は東京医科大学にて、金曜日から土曜日午前中に実施する。 ④レポート作成のための学習 ⑤特に指定無し ⑥授業参加度と発表 ⑦各講義時間に質疑応答 ⑧内容は変更する可能性がある。 |
|---|---|

| 授業科目名 | 行動科学・慢性疼痛特論 | 配当年次 | 1, 2年 | 単位数 | 1単位 |
|----------------------------|--|------------|-------|------|-------|
| (科目英名) | Advanced Theories of Behavioural Sciences and Chronic Pain | 後期 (秋期) | 水曜 | 6-7限 | U0207 |
| 担当教員 | 池田由美、森岡周、長田久雄、他 | | | | |
| ①授業方針・テーマ | ①・疼痛、活動制限、対処方法など、理学療法の評価と治療に関連する、行動と行動変容について、総合的な知識を持って実演できる。 ・効果的な理学療法の評価と治療を行うために、行動と行動変容の理論を批判的に適用できる。 ・臨床行動の解釈、例えば恐怖に対する行動を評価する場合、治療効果の判定に最適となる評価方法を効果的に用いる能力を実証できる。 | | | | |
| ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 | ②理学療法の専門分野における行動科学を基とした総合的な知識について、批判的な使用を実演できる。 | | | | |
| ③授業計画・内容 授業方法 | ③授業計画・内容 ・行動科学 ・疼痛メカニズム ・リハビリテーション心理学 授業方法 ・講義 ・グループ討論 ・症例検討 | | | | |
| ④授業外学習 | ④予習・復習 | | | | |
| ⑤テキスト・参考書等 | ⑤別途配布する | | | | |
| ⑥成績評価方法 | ⑥レポートまたは筆記試験(80%) 授業参加度(20%) | | | | |
| ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ⑦各講義で質疑応答 | | | | |
| ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ⑧内容は変更する可能性がある。 | | | | |

| 授業科目名 | 神経筋骨格系医学評価特論 | 配当年次 | 1, 2年 | 単位数 | 1単位 |
|----------------------------|--|------------|-------|-----|-------|
| (科目英名) | Advanced Theories of Medical Assessment of Neuromusculoskeletal System | 後期 (秋期) | 木曜 | 6限 | U0209 |
| 担当教員 | 山田拓実、山内正雄 他 | | | | |
| ①授業方針・テーマ | ①・ICF の分類に関連して、患者の機能的な能力、痛みと多角的なニーズの状態や範囲を効果的に評価するために、臨床科学(臨床解剖学、生理学、生体運動学と疫学)についての知識を批判的に適応することができる ・診断および評価に関する特性(以下を含む:信頼性、有効性、反応と診断の正確性)の理解を通して、評価技術と評価ツールの適切な選択を実演することができる | | | | |
| ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 | ②臨床科学に基づく理学的な評価を、批判的に使用する能力を実演できる | | | | |
| ③授業計画・内容 授業方法 | ③授業計画・内容 第1回 医学的評価総論 第2回 上肢障害の医学的評価 第3回 下肢障害の医学的評価 第4回 頭部の医学的評価 第5回 頸部の医学的評価 第6回 胸部の医学的評価 第7回 腰部の医学的評価 | | | | |

博士前期課程・理学療法科学域

| | |
|---|---|
| ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | 第8回 骨盤帯の医学的評価 授業方法 ・講義 ・グループ討論 ・学生のプレゼンテーション ④予習・復習 ⑤別途配布する ⑥期末試験(70%) 授業参加度(30%) ⑦各講義で質疑応答 ⑧内容は変更する可能性がある。 |
|---|---|

| | | | | | |
|--------|---|------|----|-----|-------|
| 授業科目名 | クリニカルリーズニング特論 | 配当年次 | 1年 | 単位数 | 1単位 |
| (科目英名) | Advanced Theories of Clinical Reasoning | 後期 | 木曜 | 7限 | U0210 |
| 担当教員 | 山田拓実、山内正雄 他 | (秋期) | | | |

| | |
|--|---|
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①・理学療法に必要なクリニカルリーズニングがどのようなものか理解をする ・主観的検査と客観的検査を統合したクリニカルリーズニングを行えるようになる。 ・理学療法の red flag, yellow flag などについて理解する。 ②機能障害を有する患者に対し、効果的な評価と治療を可能にする高度なクリニカルリーズニングの技能について、批判的に使用する能力を実証できる。 ③授業計画・内容 第1回 クリニカルリーズニング総論 第2回 理学療法における flags について 第3回 主観的検査方法論 第4回 主観的検査の実際 第5回 客観的評価からのクリニカルリーズニング(1) 第6回 客観的評価からのクリニカルリーズニング(2) 第7回 クリニカルリーズニングの実際 第8回 まとめ 授業方法 ・講義 ・グループ討論 ・問題の基づいた学習 ・学生のプレゼンテーション ④予習・復習 ⑤別途配布する 参考書 ・マニュアルセラピーに対するクリニカルリーズニングのすべて ・Clinical Reasoning in Musculoskeletal Practice ⑥期末試験(70%) 授業での発表(30%) ⑦各講義で質疑応答 ⑧内容は変更する可能性がある。 |
|--|---|

| | | | | | |
|--------|--|------|----|-----|-------|
| 授業科目名 | 徒手理学療法特論-1 | 配当年次 | 1年 | 単位数 | 1単位 |
| (科目英名) | Advanced Theories of Manual Physical Therapy-1 | 後期 | 金曜 | 6限 | U0767 |
| 担当教員 | 山田拓実、山内正雄 他 | (秋期) | | | |

| | |
|-----------|---|
| ①授業方針・テーマ | ①・徒手理学療法について歴史的過程を正しく理解する。 ・世界の徒手理学療法の現状を正しく理解する。 ・徒手理学療法の対象を正しく理解する。 |
|-----------|---|

博士前期課程・理学療法科学域

| | |
|--|---|
| ② 習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③ 授業計画・内容 授業方法 ④ 授業外学習 ⑤ テキスト・参考書等 ⑥ 成績評価方法 ⑦ 質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧ 特記事項 (他の授業科目との関連性) | ・各治療手技の特徴や利点・欠点を批判的に吟味する。 ② 徒手理学療法への成り立ちを知り、徒手理学療法が対象とするものを理解する。また世界でどのような治療が行われているのかを知る。 ③ 第1回 徒手理学療法歴史 第2回 IFOMPTと世界の徒手理学療法の現状 第3回 各種治療治療手技の成り立ち 第4回 各種治療手技の特徴 第5回 徒手理学療法の適応と禁忌 第6回 徒手理学療法とトレーニング 第7回 コーピング 第8回 まとめ ④ 予習・復習 ⑤ 別途配布する ⑥ 期末試験(70%) 授業での発表(30%) ⑦ 各講義で質疑応答 ⑧ 内容は変更する可能性がある。 |
|--|---|

| | | | | | |
|--------|--|------|----|-------|-----|
| 授業科目名 | 徒手理学療法特論-2 | 配当年次 | 1年 | 単位数 | 1単位 |
| (科目英名) | Advanced Theories of Manual Physical Therapy-2 | 後期 | 集中 | U0768 | |
| 担当教員 | 山田拓実、Clare Frank、来間弘展 他 | (秋期) | | | |

| | |
|--|--|
| ① 授業方針・テーマ ② 習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③ 授業計画・内容 授業方法 ④ 授業外学習 ⑤ テキスト・参考書等 ⑥ 成績評価方法 ⑦ 質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧ 特記事項 (他の授業科目との関連性) | ① 理学療法においては、他動的な評価の前に自動運動の評価が重要となる。自動運動の評価を正確に行えるようになり、また運動指導できるようになることが本講座の目的である。そのために、動作の正常と異常パターンについて実例を交えて講義し、運動方法を指導する。 ② ・ムーブメントサイエンスに基づいた評価方法を理解できる。 ・運動障害の治療法を実施できる。 ③ 第1回 ムーブメントサイエンス総論 第2回 ムーブメントサイエンスの実際 第3回 ヤンダによる運動機能評価 Upper Quarter 第4回 ヤンダによる運動機能評価 Lower Quarter 第5回 Movement System Impairment 股関節 第6回 Movement System Impairment 肩甲帯 第7回 DNS 第8回 まとめ 授業方法 講義 実習 一部の授業は英語のみの授業である ④ 予習・復習 ⑤ 参考書 ・ヤンダアプローチ 三輪書店 ⑥ 筆記試験および実技試験(80%)、 授業参加度(20%) ⑦ 各講義で質疑応答 ⑧ 内容は変更する可能性がある。 |
|--|--|

| | | | | | |
|--------|--|------|----|------|-------|
| 授業科目名 | 徒手理学療法特論演習-1 | 配当年次 | 1年 | 単位数 | 1単位 |
| (科目英名) | Seminar in Advanced Theories of Manual Physical Therapy -1 | 後期 | 火曜 | 6-7限 | U0234 |
| 担当教員 | 山田拓実、山内正雄、宇佐英幸、他 | (秋期) | | | |

| | |
|------------|--|
| ① 授業方針・テーマ | ① 徒手理学療法における適切な効果判定方法による評価について、理解する能力が実証できる。 |
|------------|--|

博士前期課程・理学療法科学域

理学療法科学域前期課程

| | |
|---|--|
| <p>② 習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標</p> <p>③ 授業計画・内容 授業方法</p> <p>④ 授業外学習</p> <p>⑤ テキスト・参考書等</p> <p>⑥ 成績評価方法</p> <p>⑦ 質問受付方法 (オフィスアワー)</p> <p>⑧ 特記事項 (他の授業科目との関連性)</p> | <p>・神経筋骨格系の機能障害をもつ患者の評価と管理のため、エビデンスに基づいたアプローチを実証できる。 ・徒手理学療法の効果について評価するために、効果判定方法を使用することができる。</p> <p>② 臨床現場において、エビデンスに基づいて、批判的な評価が行える。</p> <p>③ 第1回 問診、視診、自動運動 第2回 関節機能テスト① 第3回 関節機能テスト② 第4回 関節機能テスト③ 第5回 関節機能テスト④ 第6回 関節機能テスト⑤ 第7回 筋機能テスト① 第8回 筋機能テスト② 第9回 筋機能テスト③ 第10回 筋機能テスト④ 第11回 筋機能テスト⑤ 第12回 神経機能テスト① 第13回 神経機能テスト② 第14回 神経機能テスト③ 第15回 神経機能テスト④</p> <p>授業方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・実技練習 ・グループ討論 <p>④ 予習・復習</p> <p>⑤ 別途配布する 参考書 Manual Mobilization of the Joint Volume I The Extremities Manual Mobilization of the Joint Volume II The Spine 整形徒手理学療法</p> <p>⑥ 筆記試験またはレポートおよび実技試験(80%) 授業参加度(20%)</p> <p>⑦ 各講義で質疑応答</p> <p>⑧ 内容は変更する可能性がある。</p> |
|---|--|

| | | | | | |
|--------|--|------------|----|------|-------|
| 授業科目名 | 徒手理学療法特論演習-2 | 配当年次 | 1年 | 単位数 | 1単位 |
| (科目英名) | Seminar in Advanced Theories of Manual Physical Therapy -2 | 前期 (春期) | 水曜 | 6-7限 | U0750 |
| 担当教員 | 宇佐英幸、来間弘展 他 | | | | |

| | |
|---|--|
| <p>① 授業方針・テーマ</p> <p>② 習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標</p> <p>③ 授業計画・内容 授業方法</p> | <p>① 臨床技術として、適応と禁忌の知識を応用する能力を実証できる。 ・筋肉系と筋膜系の臨床検査で、感受性と特異性を理解する能力を実証できる。 ・安全で効果的な実践を、必要に応じて適応させ、正確にすべての臨床実践技術を適用することができる</p> <p>② 神経筋骨格系の機能障害をもつ患者に対して、効果的な評価と治療を可能にするために、感受性と特異性を備えた軟部組織のモビライゼーション技術が実践できる。</p> <p>③ 第1回 上部体幹の筋の触診とストレッチング 第2回 上部体幹の筋の Hold & Relax、拮抗筋の最大随意収縮、オートストレッチング 第3回 中部体幹の筋の Hold & Relax、拮抗筋の最大随意収縮、オートストレッチング 第4回 下部体幹の筋の触診とストレッチング 第5回 下部体幹の筋の Hold & Relax、拮抗筋の最大随意収縮、オートストレッチング 第6回 上肢の筋の触診とストレッチング 第7回 手指、手関節筋の Hold & Relax、拮抗筋の最大随意収縮、オートストレッチング 第8回 肘関節の筋の Hold & Relax、拮抗筋の最大随意収縮、オートストレッチング 第9回 肩関節の筋の Hold & Relax、拮抗筋の最大随意収縮、オートストレッチング 第10回 上肢帯の筋のストレッチング 第11回 下肢の筋の触診とストレッチング 第12回 足部、足関節の筋の Hold & Relax、拮抗筋の最大随意収縮、オートストレッチング 第13回 膝関節の筋の Hold & Relax、拮抗筋の最大随意収縮、オートストレッチング 第14回 股関節の筋の Hold & Relax、拮抗筋の最大随意収縮、オートストレッチング</p> |
|---|--|

博士前期課程・理学療法科学域

| | |
|---|--|
| ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | 第15回 股関節の筋の Hold & Relax、拮抗筋の最大随意収縮、オートストレッチング 授業方法 講義 実技練習 グループ討論 ④予習・復習 ⑤別途配布する 参考書 ・MUSCLE STRETCHING IN MANUAL THERAPY A CLINICAL MANUAL Volume 1 The Extremities ・MUSCLE STRETCHING IN MANUAL THERAPY A CLINICAL MANUAL Volume 2 The Spinal Column and the TM-Joint ・AUTO STRETCHING ・整形徒手理学療法 ・Manual Mobilization of the Joint Volume I The Extremities ・Manual Mobilization of the Joint Volume II The Spine ⑥筆記試験および実技試験(80%) 授業参加度(20%) ⑦各講義で質疑応答 ⑧内容は変更する可能性がある。 |
|---|--|

| | | | | | |
|--------|--|------|----|------|-------|
| 授業科目名 | 徒手理学療法特論演習-3 | 配当年次 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Seminar in Advanced Theories of Manual Physical Therapy -3 | 前期 | 金曜 | 6-7限 | U0752 |
| 担当教員 | 山田拓実、山内正雄 他 | (春期) | | | |

| | |
|--|---|
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 | ①臨床技術として、適応と禁忌の知識を応用する能力を実証できる。 ・関節系の臨床検査で、感受性と特異性を理解する能力を実証できる。 ・安全な徒手理学療法実践に必要な特別テストにおいて、感受性と特異性を理解し実践する能力を実証できる。 ・低速、リズムカルかつ受動的な動き(モビライゼーション)による治療手技について、感受性と特異性を理解する能力を実証できる。 ②神経筋骨格系の機能障害をもつ患者に対して、効果的な評価と治療を可能にするために、感受性と特異性を備えた高度なレベルの関節モビライゼーション技術が実践できる。 ③第1回 関節モビライゼーション総論 第2回 仙腸関節の関節モビライゼーション 第3回 腰椎の関節モビライゼーション 第4回 胸椎の関節モビライゼーション 第5回 肋骨の関節モビライゼーション 第6回 下位頸椎の関節モビライゼーション 第7回 上位頸椎の関節モビライゼーション 第8回 手指・手関節の関節モビライゼーション 第9回 前腕・肘関節の関節モビライゼーション 第10回 肩関節の関節モビライゼーション 第11回 肩鎖・胸鎖関節の関節モビライゼーション 第12回 足指・足関節の関節モビライゼーション 第13回 膝関節・下腿の関節モビライゼーション 第14回 股関節の関節モビライゼーション 第15回 股関節の関節モビライゼーション 授業方法 ・講義 ・実技練習 ・グループ討論 ④予習・復習 ⑤別途配布する 参考書 ・Manual Mobilization of the Joint Volume I The Extremities ・Manual Mobilization of the Joint Volume II The Spine ・整形徒手理学療法 ⑥筆記試験および実技試験(80%) |
|--|---|

博士前期課程・理学療法科学域

| | |
|------------------------|-------------------------|
| ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | 授業参加度(20%) ⑦各講義で質疑応答 |
| ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ⑧内容は変更する可能性がある。 |

| | | | | | |
|--------|--|------------|----|------|-------|
| 授業科目名 | 徒手理学療法特論演習-4 | 配当年次 | 2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Seminar in Advanced Theories of Manual Physical Therapy -4 | 後期 (秋期) | 水曜 | 6-7限 | U0753 |
| 担当教員 | 山田拓実、宇佐英幸 他 | | | | |

| | |
|--|---|
| <p>① 業方針・テーマ</p> <p>② 習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標</p> <p>③ 授業計画・内容 授業方法</p> <p>④ 授業外学習</p> <p>⑤ テキスト・参考書等</p> <p>⑥ 成績評価方法</p> <p>⑦ 質問受付方法 (オフィスアワー)</p> <p>⑧ 特記事項 (他の授業科目との関連性)</p> | <p>① 臨床技術として、適応と禁忌の知識を応用する能力を実証できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・軟部組織の臨床検査で、感受性と特異性を理解する能力を実証できる。 ・軟部組織のテストにおいて、感受性と特異性を理解し実践する能力を実証できる。 ・軟部組織の治療手技について、感受性と特異性を理解する能力を実証できる。 <p>② 神経筋骨格系の機能障害を持つ患者に対して、効果的な評価と治療を可能にするために、感受性と特異性を備えた軟部組織の技術が実践できる。軟部組織の評価や治療についての批判的吟味ができる。</p> <p>③ 第1回 軟部組織の解剖・生理学 第2回 軟部組織の機能異常と徒手理学療法アプローチ 第3回 軟部組織機能障害に対する評価1 第4回 軟部組織機能障害に対する評価2 第5回 軟部組織機能障害に対する評価3 第6回 軟部組織機能障害に対する治療1 第7回 軟部組織機能障害に対する治療2 第8回 軟部組織機能障害に対する治療3 第9回 軟部組織機能障害に対する治療4 第10回 軟部組織機能障害に対する治療5 第11回 軟部組織機能障害に対する治療6 第12回 軟部組織機能障害の文献抄読1 第13回 軟部組織機能障害の文献抄読2 第14回 軟部組織機能障害の文献抄読3 第15回 まとめ</p> <p>授業方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・実技 ・グループ討論 ・文献抄読では、各自軟部組織障害に対する文献を抄読し、発表する。 <p>④ 予習・復習</p> <p>⑤ 別途配布する</p> <p>⑥ 筆記試験(60%)実技試験(20%)発表(20%)</p> <p>⑦ 各講義で質疑応答</p> <p>⑧ 内容は変更する可能性がある。</p> |
|--|---|

| | | | | | |
|--------|--|------------|----|------|-------|
| 授業科目名 | 徒手理学療法特論演習-5 | 配当年次 | 1年 | 単位数 | 1単位 |
| (科目英名) | Seminar in Advanced Theories of Manual Physical Therapy -5 | 前期 (春期) | 月曜 | 6-7限 | U0754 |
| 担当教員 | 宇佐英幸、山内正雄 他 | | | | |

| | |
|---|--|
| <p>① 授業方針・テーマ</p> <p>② 習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標</p> <p>③ 授業計画・内容 授業方法</p> | <p>① ニューロダイナミクスの臨床技術として、適応と禁忌の知識を応用する能力を実証できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神経系システムの臨床検査で、感受性と特異性を理解する能力を実証できる。 ・安全な徒手理学療法実践に必要な特別テストにおいて、感受性と特異性を理解し実践する能力を実証できる。 ・ニューロダイナミクスによる治療手技について、感受性と特異性を理解する能力を実証できる。 <p>② 神経筋骨格系の機能障害をもつ患者に対して、効果的な評価と治療を可能にするために、感受性と特異性を備えた高度なレベルのニューロダイナミクスの技術が実践できる。</p> <p>③ 第1回 神経の解剖学と生理学について 第2回 神経系モビライゼーション概論</p> |
|---|--|

理学療法科学域前期課程

| | |
|---|---|
| ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | 第3回 神経の触診 第4回 頸椎症・胸郭出口症候群の冠名サイン 第5回 ニューロダイナミックテスト① 第6回 ニューロダイナミックテスト② 第7回 ニューロダイナミックテスト③ 第8回 ニューロダイナミックテスト④ 第9回 ニューロダイナミックテスト⑤ 第10回 神経の絞扼検査① 第11回 神経の絞扼検査② 第12回 神経の絞扼検査③ 第13回 神経の絞扼検査④ 第14回 上肢の神経系モビライゼーション 第15回 下肢の神経系モビライゼーション 授業方法 ・講義 ・実技練習 ・グループ討論 ④予習・復習 ⑤別途配布する ⑥筆記試験および実技試験(80%) 授業参加度(20%) ⑦各講義で質疑応答 ⑧内容は変更する可能性がある。 |
|---|---|

| | | | | | |
|--------|---|------|------|-----|-------|
| 授業科目名 | 高度徒手理学療法特論 | 配当年次 | 1年 | 単位数 | 1単位 |
| (科目英名) | Advanced Theories of Advanced Manual Physical Therapy | 後期 | 金曜 | 7限 | U0756 |
| 担当教員 | 山内正雄、對馬栄輝 他 | (秋期) | (集中) | | |

| | |
|--|---|
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ①・神経筋骨格系システムの評価を知らせるために、OMPTの理論的な基礎とエビデンスに基づいたOMPTについての最新の知識を読み取り、統合して、批判的に適用することができる ・OMPTの治療のための臨床診断と効果的な評価を可能にするために、エビデンスに基づいた診断検査と転帰尺度を批判的に評価することができる ・神経筋骨格系システムにおける評価と患者中心の治療において、OMPTは最新のエビデンス情報に基づいた理論や安全な知識そして効果的な治療を批判的に適用することができる ②OMPTの総合的な知識を基盤として批判的に使用する能力を実演できる ③第1回 エビデンス総論 第2回 エビデンス情報に基づく徒手理学療法 第3回 エビデンスと統計学 第4回 関節モビライゼーションのエビデンス 第5回 軟部組織のモビライゼーションのエビデンス 第6回 関節マニピレーションのエビデンス 第7回 神経モビライゼーションのエビデンス 第8回 メディカルトレーニングセラピー(MTT)のエビデンス 授業方法 ・講義 ・グループ討論 ・学生のプレゼンテーション ・文献の批判的な考察 ④予習・復習 ⑤別途配布する ⑥筆記試験(50%) エビデンス情報に基づいた小論文(30%) 授業参加度(20%) ⑦各講義で質疑応答 |
|--|---|

博士前期課程・理学療法科学域

⑧特記事項
(他の授業科目との関連性)

⑧内容は変更する可能性がある。

| | | | | | |
|--|---|------------|----|-----|-------|
| 授業科目名 | 高度徒手理学療法特論演習-1 | 配当年次 | 2年 | 単位数 | 1単位 |
| (科目英名) | Seminar in Advanced Theories of Advanced Manual Physical Therapy -1 | 前期 (春期) | 月曜 | 7限 | U0757 |
| 担当教員 | 来間弘展、信太奈美、村木孝行、相澤純也、他 | | | | |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①筋骨格系障害に対する運動療法の講義を行い、それに基づいた症例呈示・検討を行う。 ②筋骨格系患者に対する運動療法の具体的方略を検討する。受講生は講義に基づき、症例の臨床データを分析し、適切な理学療法アプローチを設定できることを目標とする。 ③第1回 運動療法総論 第2回 運動負荷について 第3回 腰部障害の筋変化について 第4回 腰部障害に対する運動療法 第5回 頸部障害の筋変化について 第6回 頸部障害に対する運動療法 第7回 下肢障害の運動療法 第8回 股関節機能に関するトピックス 第9回 膝関節機能障害に関するトピックス 第10回 障がい者アスリートのトレーニングと効果 第11回 障がい者アスリートのスポーツ障害 第12回 肩関節のバイオメカニクス 第13回 肩関節障害におけるトピックス 第14回 肩関節における運動療法 第15回 まとめ 授業方法 ・講義および討論 ・実習 ④予習・復習 ⑤参考書 Musculoskeletal Examination and Assessment 5 th , Elsevier Grieve's Modern Musculoskeletal Physiotherapy 4 th , Elsevier ⑥期末試験 60%、発表 40% ⑦各講義で質疑応答 ⑧項目 12、13、14 は 4月13日のⅠ～Ⅲ限に行う。 内容は変更する可能性がある。 | | | | |

| | | | | | |
|---|--|------------|-----------------|------|-------|
| 授業科目名 | 高度徒手理学療法特論演習-2 | 配当年次 | 2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Seminar in Advanced Theories of Advanced Manual Physical Therapy -2 | 前期 (春期) | 火曜 または 金曜 | 6-7限 | U0759 |
| 担当教員 | 来間弘展、山内正雄 他 | | | | |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 | ①・治療の頻度・回数や進め方、適切な思考による治療のタイミングで、マニピュレーションリハビリテーションを含む治療的な OMPT 介入の範囲を、批判的に選択し適切に使用することができる ・安全で効果的なマニピュレーションを、必要に応じて適応させ、正確にすべての臨床実践技術を適用することができる ②神経筋骨格系の障害をもつ患者を効果的に評価・治療するため、感受性や特異性のあるマニピュレーションの手技において高度なレベルの実技を実演できる ③授業計画・内容 第 1.2 回マニピュレーション総論と評価 第 3.4.5.6 回 上肢のマニピュレーション 第 7.8.9.10 回 下肢のマニピュレーション 第 11.12.13 回 仙腸関節のマニピュレーション 第 14.15.16.17 回 腰椎のマニピュレーション 第 18.19.20.21 回 胸椎・肋骨のマニピュレーション 第 22.23.24.25 回 下部頸椎のマニピュレーション 第 26.27.28.29 回 上部頸椎のマニピュレーション | | | | |

博士前期課程・理学療法科学域

| | |
|------------------------|---|
| ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 | 第30回 期末試験および解説 ④予習・復習 ⑤別途配布する参考書 ・Manual Mobilization of the Joint Volume III Traction-Manipulation of the Extremities and Spine ・Translatory Spinal Manipulation for Physical Therapists |
| ⑥成績評価方法 | ⑥期末試験(筆記試験と実技試験)(70%) 授業参加度(30%) |
| ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ⑦各講義で質疑応答 |
| ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ⑧内容は変更する可能性がある。 |

| | | | | | |
|--------|--|------|----|------|-------|
| 授業科目名 | 統合徒手理学療法演習-1 | 配当年次 | 2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Seminar in Integrated Manual Physical Therapy -1 | 後期 | 金曜 | 6-7限 | U0760 |
| 担当教員 | 山内正雄、宇佐英幸 他 | (秋期) | | | |

| | |
|--|---|
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | <p>①・安全で効果的な実践のために、正確にすべての臨床実践技術を適用することができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いくつかのシステムの非機械的な機能障害から神経筋骨格系の機能障害を区別するために、高度なクリニカルリーズニングの技術と知識を批判的に適応することができる ・神経筋骨格系機能不全の治療で最善の診療を行うために、適応、禁忌、予防措置と効果についての知識を批判的に適用することができる <p>②神経筋骨格系患者の評価において、効果的にクリニカルリーズニングを行い、臨床に基づいた質の高い評価を適切な実技能力で行うことができ、それらを批判的に行使することができるようになることを目標とする。</p> <p>③第1～4回 模擬患者を使った評価と治療 足部から足関節 第5～8回 模擬患者を使った評価と治療 下腿から膝関節 第9～12回 模擬患者を使った評価と治療 股関節 第13～16回 模擬患者を使った評価と治療 手指から手関節 第17～20回 模擬患者を使った評価と治療 前腕から肘関節 第21～24回 模擬患者を使った評価と治療 上腕から上肢帯 第25～28回 模擬患者を使った評価と治療 体幹 第29～30回 実技試験</p> <p>授業方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・症例分析 ・実技練習 ・グループ討論 <p>④予習・復習 ⑤別途配布する ⑥筆記試験および実技試験(80%) 授業参加度(20%) ⑦各講義で質疑応答 ⑧内容は変更する可能性がある。</p> |
|--|---|

| | | | | | |
|--------|--|------|----|------|-------|
| 授業科目名 | 統合徒手理学療法演習-2 | 配当年次 | 2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Seminar in Integrated Manual Physical Therapy -2 | 前期 | 木曜 | 6-7限 | U0761 |
| 担当教員 | 山田拓実、山内正雄、宇佐英幸 他 | (春期) | | | |

| | |
|-----------|--|
| ①授業方針・テーマ | <p>①治療ゴールや介入方法や測定結果を決定するために、患者や介護者その他の医療専門職で共同リーズニング/臨床意思決定プロセスに、エビデンス情報に基づいた診療(EIP)や熟慮した診療やメタ認知を統合することができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効果的な OMPT 患者の治療を行うために、患者から信頼性の高く有効なデータを得てコミュニケーションエラーを避けることを可能にするために、アクティブなリスニング能力や質問戦略や言語的なもしくは非言語的なコミュニケーション能力を、共感的に効率的にそして効果的に使うことを実演できる ・患者のリハビリテーションを強化するために、適切に、他の介入の範囲を批判的に適用することができる |
|-----------|--|

博士前期課程・理学療法科学域

| | |
|---|---|
| <p>② 習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標</p> <p>③ 授業計画・内容 授業方法</p> <p>④ 授業外学習</p> <p>⑤ テキスト・参考書等</p> <p>⑥ 成績評価方法</p> <p>⑦ 質問受付方法 (オフィスアワー)</p> <p>⑧ 特記事項 (他の授業科目との関連性)</p> | <p>② 徒手理学療法の回数、強さ、進め方、さらには適切な思考による治療の時期、患者教育やモビライゼーションやマニピュレーションや運動処方を含む治療的な OMPT 介入について、批判的に選択し適切に使用することができる ・安全で効果的な治療を、必要に応じて使い分けて、正確にすべての臨床実践技術を適用することができる。</p> <p>③ 授業計画・内容 第 1～4 回 模擬患者を使った評価と治療 骨盤帯 第 5～10 回 模擬患者を使った評価と治療 腰椎 第 11～16 回 模擬患者を使った評価と治療 頸椎・胸椎・肋椎 第 17～21 回 模擬患者を使った評価と治療 下部体幹 第 22～28 回 模擬患者を使った評価と治療 上部体幹 第 29 回 OMPT 取得の筆記試験と解説 第 30 回 OMPT 取得の実技試験と解説 授業方法 ・症例分析 ・グループ討論 ・実習指導者との実技練習</p> <p>④ 予習・復習</p> <p>⑤ 別途配布する</p> <p>⑥ 期末試験(筆記試験・実技試験)(70%) 授業参加度(30%)</p> <p>⑦ 各講義で質疑応答</p> <p>⑧ 内容は変更する可能性がある。</p> |
|---|---|

| 授業科目名 | 臨床実習 I | 配当年次 | 2 年 | 単位数 | 1 単位 |
|-----------------------------|--|------|-----|-----|-------|
| (科目英名) | Clinical Practice -1 | 後期 | 集中 | | U0762 |
| 担当教員 | 山田拓実 他 | (秋期) | | | |
| ① 授業方針・テーマ | ① 臨床場面において、認知およびメタ認知能力、患者中心の医療、最新で最善の診療、詳細な知識を効果的に統合し利用することができる。 ・患者の状態の変化に合わせて、適切な評価と治療技術を選択し、確固たる臨床判断を行なえ、評価による利益とリスクを批判的に利用することができる。 | | | | |
| ② 習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 | ② 徒手理学療法のような考えや手技を患者の状態に合わせて、症例にとって最も効果的で、効果的で、安全な評価および治療を批判的に行えるようになることを目標とする。 | | | | |
| ③ 授業計画・内容 授業方法 | ③ 授業計画・内容 ・評価の手順や適切な治療手技が使えるように、OMPT の資格を持つ臨床実習指導者の指導の下で実習を行う。 ・実習期間は 5 日間とする。 授業方法 ・臨床実習 ・症例分析 ・プレゼンテーション ・臨床指導者の指導 | | | | |
| ④ 授業外学習 | ④ 実習前学習、実習中の自宅学習、実習後のセミナー課題提出 | | | | |
| ⑤ テキスト・参考書等 | ⑤ 特に定めない | | | | |
| ⑥ 成績評価方法 | ⑥ 症例報告 評価治療技術の評価 臨床実習指導者の評価 | | | | |
| ⑦ 質問受付方法 (オフィスアワー) | ⑦ 実習前後の教員への質疑応答、実習中の臨床実習指導者への質疑応答 | | | | |
| ⑧ 特記事項 (他の授業科目との関連性) | ⑧ 内容は変更する可能性がある。 | | | | |

博士前期課程・理学療法科学域

| 授業科目名 | 臨床実習Ⅱ | 配当年次 | 2年 | 単位数 | 1単位 |
|--|---|------------|----|-------|-----|
| (科目英名) | Clinical Practice -2 | 前期 (春期) | 集中 | U0763 | |
| 担当教員 | 山田拓実 他 | | | | |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | <p>①・臨床診療のすべての状況の中で、精度があり正確で水平思考で問題を解決することができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者の変化している環境と状態に適切な OMPT の評価と治療技術を選択するとき、確固たる臨床判断、評価による利益とリスクを利用することができる ・複雑な症状の患者に対する効率的で、効果的で、安全な OMPT 介入を批判的に適用することができる <p>②徒手理学療法のような考えや手技を患者の状態に合わせて、症例にとって最も効率的で、効果的で、安全な評価および治療を批判的に行えるようになることを目標とする。</p> <p>③授業計画・内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上部体幹(頸椎から上肢)に症状のある実際の患者に対して、評価の手順や適切な治療手技が使えるように、指導者の指導の下で実技を行う。 <p>授業方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習 ・症例分析 ・プレゼンテーション ・臨床指導者の指導 <p>④実習前学習, 実習中の自宅学習, 実習後のセミナー課題提出</p> <p>⑤特に定めない</p> <p>⑥・症例報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床試験 ・評価治療技術の評価 <p>⑦実習前後の教員への質疑応答, 実習中の臨床実習指導者への質疑応答</p> <p>⑧内容は変更する可能性がある。</p> | | | | |

科目一覧（作業療法科学域 博士前期課程）

| 授業科目名 | 配当年次 | 開講期 | 単位数 | 備考 (分野は論文指導教員によって異なる) |
|-------------------------------|------|-------|-----|--|
| 作業療法科学特別研究a | 最終学年 | 前期・後期 | 4 | 必修 |
| 作業療法科学特別研究b | 最終学年 | 後期・前期 | 4 | 必修 |
| 作業療法学研究法特論 | 1、2年 | 前期 | 2 | 必修 |
| 作業療法学研究法特論演習 | 1、2年 | 後期 | 2 | 必修 |
| 医療教育特論 I | 1、2年 | 後期 | 2 | 必修 ※専攻共通科目 |
| 臨床医療福祉連携システム特論 | 1、2年 | 通年集中 | 2 | ※専攻共通科目 |
| Advanced Occupational Therapy | 1、2年 | 通年集中 | 2 | ※専攻共通科目 |
| 心身機能作業療法科学特論 | 1、2年 | 後期 | 2 | 必修 |
| 作業行動科学特論 | 1、2年 | 前期 | 2 | 必修 |
| 作業生活環境科学特論 | 1、2年 | 前期 | 2 | 必修 |
| 医療福祉制度概論 | 1年 | 前期 | 2 | 「アジアの高度先端医療者育成」 「東京都市外交人材育成基金」特別選抜の外国人留学生必修 |
| 医療福祉制度概論演習 | 1年 | 後期 | 2 | 「アジアの高度先端医療者育成」 「東京都市外交人材育成基金」特別選抜の外国人留学生必修 |
| 福祉用具適応技術特論a | 1、2年 | 前期 | 2 | 「アジアの高度先端医療者育成」 「東京都市外交人材育成基金」特別選抜の外国人留学生推奨 |
| 福祉用具適応技術特論b | 1、2年 | 前期 | 2 | 「アジアの高度先端医療者育成」 「東京都市外交人材育成基金」特別選抜の外国人留学生推奨 |
| 福祉用具適応技術特論c | 1、2年 | 前期 | 2 | 「アジアの高度先端医療者育成」 「東京都市外交人材育成基金」特別選抜の外国人留学生推奨 |
| 福祉用具適応技術特論d | 1、2年 | 後期 | 3 | 「アジアの高度先端医療者育成」 「東京都市外交人材育成基金」特別選抜の外国人留学生推奨 |
| 認知作業療法学特論 | 1、2年 | 前期 | 2 | 分野選択必修 |
| 認知作業療法学特論演習 | 1、2年 | 後期 | 2 | 分野選択必修 |
| 脳機能障害支援学特論 | 1、2年 | 前期 | 2 | 分野選択必修 |
| 脳機能障害支援学特論演習 | 1、2年 | 後期 | 2 | 分野選択必修 |
| 精神神経機能障害学特論 | 1、2年 | 前期 | 2 | 分野選択必修 |
| 精神神経機能障害学特論演習 | 1、2年 | 後期 | 2 | 分野選択必修 |
| 児童青年発達期作業療法学特論 | 1、2年 | 前期 | 2 | 分野選択必修 |
| 児童青年発達期作業療法学特論演習 | 1、2年 | 後期 | 2 | 分野選択必修 |
| 老年心理行動分析学特論 | 1、2年 | 前期 | 2 | 分野選択必修 |
| 老年心理行動分析学特論演習 | 1、2年 | 後期 | 2 | 分野選択必修 |
| 精神作業療法学特論 | 1、2年 | 前期 | 2 | 分野選択必修 |
| 精神作業療法学特論演習 | 1、2年 | 後期 | 2 | 分野選択必修 |
| 作業行動学特論 | 1、2年 | 前期 | 2 | 分野選択必修 |
| 作業行動学特論演習 | 1、2年 | 後期 | 2 | 分野選択必修 |
| 作業科学特論 | 1、2年 | 前期 | 2 | 分野選択必修 |
| 作業科学特論演習 | 1、2年 | 後期 | 2 | 分野選択必修 |
| 老年地域参加支援学特論 | 1、2年 | 前期 | 2 | 分野選択必修 |
| 老年地域参加支援学特論演習 | 1、2年 | 後期 | 2 | 分野選択必修 |

| | | | | |
|---------------|------|----|---|--------|
| 作業生活支援学特論 | 1、2年 | 前期 | 2 | 分野選択必修 |
| 作業生活支援学特論演習 | 1、2年 | 後期 | 2 | 分野選択必修 |
| 福祉機器関連適用学特論 | 1、2年 | 前期 | 2 | 分野選択必修 |
| 福祉機器関連適用学特論演習 | 1、2年 | 後期 | 2 | 分野選択必修 |
| 生活環境分析学特論 | 1、2年 | 前期 | 2 | 分野選択必修 |
| 生活環境分析学特論演習 | 1、2年 | 後期 | 2 | 分野選択必修 |
| 健康増進作業療法学特論 | 1、2年 | 前期 | 2 | 分野選択必修 |
| 健康増進作業療法学特論演習 | 1、2年 | 後期 | 2 | 分野選択必修 |

履修モデル(人間健康科学研究科 人間健康科学専攻 作業療法科学域)

<博士前期課程>

| 区分 | 授業科目名 | 単位数 | 心身機能作業療法科学分野 | | | | | 作業行動科学分野 | | | | 作業生活環境科学分野 | | | | 「アジアの高度先端医療者育成」 「東京都市外交人材育成基金」 特別選抜の外国人留学生 | 福祉用具プランナーを目指す人が必修に加える科目 |
|--|-------------------------------|-----|--------------|----------|-----------|--------------|-----------|----------|------|-----------|---------|------------|-----------|---------|---------|--|-------------------------|
| | | | 認知作業療法学 | 脳機能障害支援学 | 精神神経機能障害学 | 児童青年発達期作業療法学 | 老年心理行動分析学 | 作業行動学 | 作業科学 | 老年地域参加支援学 | 精神作業療法学 | 作業生活支援学 | 福祉機器関連適用学 | 生活環境分析学 | 作業遂行分析学 | | |
| 分野 共通 科目 | 作業療法科学特別研究a | 4 | | | ○ | | | | | ○ | | | | ○ | ○ | | |
| | 作業療法科学特別研究b | 4 | | | ○ | | | | | ○ | | | | ○ | ○ | | |
| | 作業療法学研究法特論 | 2 | | | ○ | | | | | ○ | | | | ○ | ○ | | |
| | 作業療法学研究法特論演習 | 2 | | | ○ | | | | | ○ | | | | ○ | ○ | | |
| | 医療教育特論Ⅰ | 2 | | | ○ | | | | | ○ | | | | ○ | □ | | |
| | 臨床医療福祉連携システム特論 | 2 | | | □ | | | | | □ | | | | □ | □ | | |
| | Advanced Occupational Therapy | 2 | | | □ | | | | | ■ | | | | □ | ■ | | |
| | 心身機能作業療法科学特論 | 2 | | | ○ | | | | | ○ | | | | ○ | □ | | |
| | 作業行動科学特論 | 2 | | | ○ | | | | | ○ | | | | ○ | □ | | |
| | 作業生活環境科学特論 | 2 | | | ○ | | | | | ○ | | | | ○ | □ | | |
| | 医療福祉制度概論 | 2 | | | □ | | | | | □ | | | | □ | ○ | | |
| | 医療福祉制度概論演習 | 2 | | | □ | | | | | □ | | | | □ | ○ | | |
| | 福祉用具適応技術特論a | 2 | | | □ | | | | | □ | | | | □ | ■ | ○ | |
| | 福祉用具適応技術特論b | 2 | | | □ | | | | | □ | | | | □ | ■ | ○ | |
| 福祉用具適応技術特論c | 2 | | | □ | | | | | □ | | | | □ | ■ | ○ | | |
| 福祉用具適応技術特論d | 3 | | | □ | | | | | □ | | | | □ | ■ | ○ | | |
| 心身機能 作業 療法 科学 分野 | 認知作業療法学特論 | 2 | ○ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | |
| | 認知作業療法学特論演習 | 2 | ○ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | |
| | 脳機能障害支援学特論 | 2 | □ | ○ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | |
| | 脳機能障害支援学特論演習 | 2 | □ | ○ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | |
| | 精神神経機能障害学特論 | 2 | □ | □ | ○ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | |
| | 精神神経機能障害学特論演習 | 2 | □ | □ | ○ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | |
| | 児童青年発達期作業療法学特論 | 2 | □ | □ | □ | ○ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | ■ | |
| | 児童青年発達期作業療法学特論演習 | 2 | □ | □ | □ | ○ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | ■ | |
| 作業 行動 科学 分野 | 作業行動学特論 | 2 | □ | □ | □ | □ | □ | ○ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | |
| | 作業行動学特論演習 | 2 | □ | □ | □ | □ | □ | ○ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | |
| | 作業科学特論 | 2 | □ | □ | □ | □ | □ | □ | ○ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | ■ | |
| | 作業科学特論演習 | 2 | □ | □ | □ | □ | □ | □ | ○ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | ■ | |
| | 老年地域参加支援学特論 | 2 | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | ○ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | |
| | 老年地域参加支援学特論演習 | 2 | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | ○ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | |
| 作 業 生 活 環 境 科 学 分 野 | 精神作業療法学特論 | 2 | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | ○ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | |
| | 精神作業療法学特論演習 | 2 | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | ○ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | |
| | 作業生活支援学特論 | 2 | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | ○ | □ | □ | □ | □ | □ | |
| | 作業生活支援学特論演習 | 2 | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | ○ | □ | □ | □ | □ | □ | |
| | 福祉機器関連適用学特論 | 2 | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | ○ | □ | □ | □ | ■ | |
| | 福祉機器関連適用学特論演習 | 2 | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | ○ | □ | □ | □ | ■ | |
| 共 他 通 学 科 域 目 的 | 生活環境分析学特論 | 2 | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | ○ | □ | □ | □ | |
| | 生活環境分析学特論演習 | 2 | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | ○ | □ | □ | □ | |
| | 健康増進作業療法学特論 | 2 | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | ○ | □ | □ | |
| | 健康増進作業療法学特論演習 | 2 | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | ○ | □ | □ | |
| 計 | | | | | | | | | | | | | | | 30単位以上 | | |

各自の専門分野の「特論・特論演習」を一組、分野の必修として受講すること

凡例: ◎必修 ○分野の必修 □選択 ■推奨
 * 将来養成校教員を目指す学生には、理学療法科学域設置の医療教育特論Ⅱ(専攻共通科目)の履修を強く推奨する。留学したい学生には、医科学英語プレゼンテーションの履修を推奨する。

作業療法科学域前期課程

博士前期課程・作業療法科学域

| | | | | | |
|--|--|-----------|------|-----|-------|
| 授業科目名 | 作業療法科学特別研究 a | 配当年次 | 最終学年 | 単位数 | 4 単位 |
| (科目英名) | Thesis in Occupational Therapy a | 前期で履修する場合 | | | U0300 |
| 担当教員 | 石井良和、大嶋伸雄、小林法一、小林隆司、 塩路理恵子、ボンジェ ペイター、他 | 後期で履修する場合 | | | U0347 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①テーマは指導を受ける院生と協議のうえ、決定する。 ②指導教員の指導のもとで、研究課題を明確にし、研究論文の作成に必要な知識と技能を獲得する。 ③各教員の指導により実施する。 文献研究、研究デザインの探索、データ収集法の検討、データ収集、データ解析などを指導する。 授業では、各自、進捗状況を報告し、フィードバックをうけること 従って、毎回の予習、復習は必須である。 ④上述のように各自、進捗状況の報告、フィードバックがあるため、指導教員からの指示にしたがって準備することが求められる。 ⑤あらかじめ特に指定しない。 ⑥論文の完成の程度に従って評定する。 ⑦特に定められた日時に限らず、随時、指導を受けることができることにするので、必要に応じて、連絡を取ること。オフィスアワーは特に設定しませんが、直接質問したい場合は随時受付しますので、事前にメールで指導教員とアポイントメントをとってください。 ⑧前期・後期、どちらでも履修可能。 曜日・時限等の詳細は、学生から教員に相談・調整すること。 履修登録期間に、自身で登録すること。 | | | | |

| | | | | | |
|--|--|-----------|------|-----|-------|
| 授業科目名 | 作業療法科学特別研究 b | 配当年次 | 最終学年 | 単位数 | 4 単位 |
| (科目英名) | Thesis in Occupational Therapy b | 前期で履修する場合 | | | U0348 |
| 担当教員 | 石井良和、大嶋伸雄、小林法一、小林隆司、 塩路理恵子、ボンジェ ペイター、他 | 後期で履修する場合 | | | U0349 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①テーマは指導を受ける院生と協議のうえ、決定する。 ②指導教員の指導のもとで、研究課題を明確にし、研究論文の作成に必要な知識と技能を獲得する。 ③各教員の指導により実施する。 文献研究、研究デザインの探索、データ収集法の検討、データ収集、データ解析などを指導する。 授業では、各自、進捗状況を報告し、フィードバックをうけること 従って、毎回の予習、復習は必須である。 ④上述のように各自、進捗状況の報告、フィードバックがあるため、指導教員からの指示にしたがって準備することが求められる。 ⑤あらかじめ特に指定しない。 ⑥論文の完成の程度に従って評定する。 ⑦特に定められた日時に限らず、随時、指導を受けることができることにするので、必要に応じて、連絡を取ること。 オフィスアワーは特に設定しませんが、直接質問したい場合は随時受付しますので、事前にメールで指導教員とアポイントメントをとってください。 ⑧作業療法科学特別研究 a の単位を取得した者が履修できる。 前期・後期、どちらでも履修可能。 曜日・時限等の詳細は、学生から教員に相談・調整すること。 履修登録は、論文提出を以て事務で一括で行う。(※履修登録期間の自身による履修登録は不要。) | | | | |

| | | | | | |
|-----------|---|------|--------|-----|-------|
| 授業科目名 | 作業療法学研究法特論 | 配当年次 | 1, 2 年 | 単位数 | 2 単位 |
| (科目英名) | Advanced Theories of Occupational Therapy Research | 前期 | 火曜 | 1 限 | U0303 |
| 担当教員 | 小林法一 | | 水曜 | 6 限 | U0304 |
| ①授業方針・テーマ | ①課題を提示し、研究法に関する基本的な知識についての主体的な学習を求める。また、文献レビューを学会抄録程度 | | | | |

博士前期課程・作業療法科学域

| | |
|--|--|
| ② 習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③ 授業計画・内容 授業方法 ④ 授業外学習 ⑤ テキスト・参考書等 ⑥ 成績評価方法 ⑦ 質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧ 特記事項 (他の授業科目との関連性) | にまとめることを目指す ② 作業療法の研究に必要なことがらに関する知識と技術を得得する 質疑応答を通して、研究者に求められる基本的なコミュニケーション能力を身につける ③ [授業計画] 1-2 サイエンスとアートとの関係 3-4 サイエンス的手法:量的研究 5-6 アートの手法:質的研究 7 研究デザインの種類 8 文献研究 9 探索的デザイン 10 記述的デザイン 11 実験的デザイン 12-15 必要な統計に関する知識 研究命題形成演習 [授業方法] ・研究の知識に関するテーマを設定し、45分程度の講義を互いに行う ・ワークシートを活用して、研究命題を能動的に作る ④ 次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を事前学習する ・図書館やITを活用して、文献レビューから研究命題の設定を行う ⑤ 山田孝・編:作業療法学研究法、標準作業療法専門分野、医学書院、2012 日本作業療法士協会編:研究法マニュアル ⑥ 研究命題発表および試験 ⑦ オフィスアワーは特に設定しませんが、直接質問したい場合は随時受付しますので、事前にメールでアポイントメントをとってください。 ⑧ 講義は指定した曜日と時間にかかわらず、土・日曜日の集中講義となる場合があります。 |
|--|--|

| | | | | | |
|--------|--|------|-------|------|-------|
| 授業科目名 | 作業療法学研究法特論演習 | 配当年次 | 1, 2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Advanced Theories of Occupational Therapy Research Seminar | 後期 | 水曜 | 1-2限 | U0374 |
| 担当教員 | 小林法一、作業療法科学域全教員 | | 土曜 | 5-6限 | U0375 |

| | |
|--|---|
| ① 授業方針・テーマ ② 習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③ 授業計画・内容 授業方法 ④ 授業外学習 ⑤ テキスト・参考書等 ⑥ 成績評価方法 ⑦ 質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧ 特記事項 (他の授業科目との関連性) | ① 本学の研究安全倫理委員会への申請を目指して、研究計画書の作成方法を学ぶ ② 研究計画書の作成ができる ③ [授業計画] 1-6 担当指導教員のアドバイス 7-8 担当教員以外の本学教員に研究の構想を説明しアドバイス 9-10 本学の研究安全倫理委員会の制度 11-13 研究命題報告会で発表 14-15 研究命題報告会での質疑内容を研究計画に活かす [授業方法] 研究計画の①素案を立てて、②学域教員を尋ね、③アドバイスをもらい、④ブラッシュアップするサイクルを繰り返す ④ 授業方法で示した内容のうち、①と④は予習復習として行うこと ⑤ 指定しない。教員のアドバイスも参考に、各自研究テーマに関連する文献を自ら検索し活用する ⑥ 実践状況と成果物で判断する ⑦ オフィスアワーは特に設定しませんが、直接質問したい場合は随時受付しますので、事前にメールでアポイントメントをとってください。 ⑧ 講義は指定した曜日と時間にかかわらず、土・日曜日の集中講義となる場合があります。 |
|--|---|

| | | | | | |
|--------|--|------|-------|-----|-------|
| 授業科目名 | 医療教育特論 I | 配当年次 | 1, 2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Advanced Theories of Education in Medicine and Health Sciences I | 後期 | 月曜 | 7限 | U0764 |
| 担当教員 | 伊藤祐子、井上薫、谷村厚子、寺山久美子、佐藤善久、河野光伸 | | 火曜 | 5限 | U0765 |

| | |
|------------|------------------------------------|
| ① 授業方針・テーマ | ① 我が国の医療従事者教育ならびに世界の医療従事者教育について学ぶ。 |
|------------|------------------------------------|

博士前期課程・作業療法科学域

| | |
|---|--|
| <p>②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標</p> <p>③授業計画・内容 授業方法</p> <p>④授業外学習</p> <p>⑤テキスト・参考書等</p> <p>⑥成績評価方法</p> <p>⑦質問受付方法 (オフィスアワー)</p> <p>⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)</p> | <p>②国内外の医療従事者教育の現状と課題を理解する。</p> <p>③1. ミート・ザ・エキスパート① 2. ミート・ザ・エキスパート② 3. 医療従事者教育の歴史、現状、課題(作業療法士編)① 4. 医療従事者教育の歴史、現状、課題(作業療法士編)② 5. 医療従事者教育の歴史、現状、課題(理学療法士編)① 6. 医療従事者教育の歴史、現状、課題(理学療法士編)② 7. 世界の医療従事者教育の現状と課題(作業療法士編)① 8. 世界の医療従事者教育の現状と課題(作業療法士編)② 9. 世界の医療従事者教育の現状と課題(理学療法士編)① 10. 世界の医療従事者教育の現状と課題(理学療法士編)② 11. 教育目標の設定、成績評価、シラバス作成① 12. 教育目標の設定、成績評価、シラバス作成② 13. アクティブ・ラーニング① 14. アクティブ・ラーニング② 15. まとめ</p> <p>④授業終了時に示す課題について、A4用紙1枚程度のレポートを作成して提出すること。</p> <p>⑤特に指定しない。</p> <p>⑥参加態度と発表、レポートにより評価する。</p> <p>⑦【オフィスアワー】: 一定の日時に設定できないため、質問等があればメールで随時受け付けます。直接面談が必要な場合はその際に調整します。 【連絡先】: itoyuko@tmu.ac.jp</p> <p>⑧講義の開講順は前後することがあります。</p> |
|---|--|

| 授業科目名 | 臨床医療福祉連携システム特論※「助産師と専門職連携」 | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
|------------------------|--|------|--------|-------|-----|
| (科目英名) | Advanced Theory of Interprofessional Work in Clinical Health and Welfare | 通年 | 短期集中講義 | U0345 | |
| 担当教員 | 大嶋伸雄、安達久美子、金寿蓮、 ボンジェ ペイター、木村圭佑、Susan E. Strong | | | | |
| ①授業方針・テーマ | ①1. Interprofessional Education の理論と方法を学ぶ 2. Interprofessional Work ならびに Interprofessional Collaboration の理論と実践を学ぶ 3. 主に地域医療現場における多職種連携の取組実践例や、参加者からの身近な事例をもとに議論を深めていく | | | | |
| ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 | ②臨床・地域における多職種(専門職)連携を通して、効果的で高い品質のケアサービスを提供するためのケア・マネジメントの基礎を理解する。 | | | | |
| ③授業計画・内容 授業方法 | ③1-4 Interprofessional Education と Interprofessional Collaboration の歴史と変遷 5-8 保健医療福祉専門職の多職種連携および組織・職域マネジメント 9-12 多職種連携理論によるケア・マネジメントの方法論 13-15 保健医療福祉領域における多職種連携の実践例によるグループワーク (最新のトピックスを取り挙げて講義するため、上記と異なることがある) 講義を基盤とした演習(グループワーク)形式により、参加者同士が議論を行い、その結果をまとめて発表する。 | | | | |
| ④授業外学習 | ④・The Case for Collaboration in Health and Social Care. (With Meads and others) (2005) Oxford: Blackwell ・Journal of Interprofessional Care | | | | |
| ⑤テキスト・参考書等 | ⑤《教科書》 大嶋伸雄・他:「シリーズ IP(インタープロフェッショナル)～保健・医療・福祉専門職の連携教育・実践～」, 第3分冊 「IPを学ぶ」協同医書、2018年 | | | | |
| ⑥成績評価方法 | ⑥出席(演習参加)、発表、レポート提出 | | | | |
| ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ⑦メールにて対応: oshima@tmu.ac.jp 主担当教員:大嶋宛 | | | | |
| ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ⑧※ 本講座は助産学専攻科「助産師と専門職連携」とのメザニン科目である。6月29日(土)集中講義、10月の2日間集中演習の予定 | | | | |

博士前期課程・作業療法科学域

| 授業科目名 | Advanced Occupational Therapy | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
|------------------------|---|------|------|-------|-----|
| (科目英名) | Advanced Occupational Therapy | 通年 | 集中 | U0346 | |
| 担当教員 | ボンジェ ペイター、浅羽エリック、他 | | | | |
| ①授業方針・テーマ | ①This course is offered in collaboration with teachers from Karolinska Institutet (Sweden) and other national and overseas universities. The lectures will be conducted in English, with summarized translation into Japanese. This year, a common thread running through the various lectures will be 'Self-management through occupation among persons with chronic illness or disability'. 本科目は海外提携大学であるスウェーデンのカロリンスカ研究所作業療法学専攻の教員および国内外からの講師による講義科目であり、基本的に授業は英語とまとめた形の通訳で行われる。また、様々な授業における共通のスレッド(脈絡・筋道)は、慢性疾患あるいは障害がある人におけるものである。 | | | | |
| ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 | ②The purpose of this course is to study, nationally and internationally, advanced practices and theories of occupational therapy and research. Further, understanding the roles, significance and societal merits of occupational therapy will be deepened by comparing national and overseas practices. 国内外の作業療法理論や臨床実践ならびに作業療法教育や研究の前線について学び、海外とわが国との作業療法の比較検討を通して、双方における作業療法の役割と意義、社会的機能などについて理解を深める。 | | | | |
| ③授業計画・内容 授業方法 | ③1-2 Orientation Introduction to assignment オリエンテーション 課題導入 3-7 Eric Asaba, Karolinska Institutet (Sweden) & Tokyo Metropolitan University. 浅羽エリック先生:カロリンスカ研究所(スウェーデン) & 首都大学東京。 8-12 Ton Satink: Amsterdam University of Applied Sciences, European Masters of Occupational Therapy (the Netherlands). サーテインク・トン:アムステルダム応用科学大学 ユーロマスター修士課程(オランダ) 13-17 Roger Ideishi: Temple University (USA). イデイシ・ロジャー :テンプル大学(アメリカ) 18-22 Yaesir A Alve (Tokyo Metropolitan University), Masayuki Takagi (Prefectural University of Hiroshima & Tokyo Metropolitan University). ヤーシル・アルビ(首都大学東京)、高木雅之(県立広島大学 & 首都大学東京) 23-27 Peter Bontje (Tokyo Metropolitan University), ボンジェ・ペイター(首都大学東京) 28-30 Deliverable 成果物 | | | | |
| ④授業外学習 | ④Pre-reading might be required prior to lectures. 予習として読み物を読んでおいてください。 | | | | |
| ⑤テキスト・参考書等 | ⑤Handouts and other reference materials will be provided or indicated prior or during each lecture. 講義時に配付予定。 | | | | |
| ⑥成績評価方法 | ⑥Comprehensive evaluation will consist of a written report and contributions to the discussions. レポート提出、討議における貢献を総合的に評価。 | | | | |
| ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ⑦Office hours: Thursdays 15 to 17 or on appointment. オフィスアワー: 木曜日 15時~17時だが、臨時的にも対応する(事前に電話かメールで連絡ください)。 | | | | |
| ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ⑧This course is constructed in an omnibus-style provided by various visiting lecturers, from Japan and abroad. Students are expected to actively participate in discussion and exchange of ideas. 講義は国内外教員によるオムニバス方式で進められるが、参加者同士による討議ならびに意見交換は随時行われる。 The lectures will be conducted in English. 基本的に授業は英語で行われる。 | | | | |

| 授業科目名 | 心身機能作業療法科学特論 | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
|------------------------|---|------|------|-----|-------|
| (科目英名) | Holistic Occupational Therapy in Human Life | 後期 | 土曜 | 1限 | U0376 |
| 担当教員 | 大嶋伸雄、塩路理恵子、伊藤祐子、蘭牟田洋美、宮本礼子 | | | 2限 | U0377 |
| ①授業方針・テーマ | ①テーマは以下のように分類される。 1. 心理と身体活動の基礎と包括的概念 2. 発達モデルにおける心身機能と作業(生活) 3. 精神療法における対象者の行動と活動 ・心理療法概論 ・高次脳機能と生活 | | | | |
| ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 | ②作業療法全体を包括的に捉えるため、生活するヒトを様々な現象~視点から理解し、ヒトの人生に係わる作業療法の意味と意義を理解する。 | | | | |
| ③授業計画・内容 授業方法 | ③第1-2講:精神科作業療法における運動プログラム 第3-4講:感覚統合理論と実践 ~現状と課題~ 第5-6講:脳の機能とその障害について | | | | |

博士前期課程・作業療法科学域

| | |
|---|--|
| ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | 第7-8講:高齢者のフレイル 第9-10講:高次脳機能障害をもつ人への作業療法地域支援 第11-12講:社会生活における活動の意義と位置づけ 第13-14講:全般性注意障害と半側空間無視 第15-16講:地域医療連携とマネジメント 第17-18講:ヒトの活動における心と身体の相互作用 講義が中心となるが、毎回グループワークでの討論を行い、学習内容を深化させる。 ④特になし。 ⑤講義ごとに資料を配付、あるいはテキストなどを指示する。 ⑥講義への出席(50%)、レポート提出(30%)、討論への参加(20%)を総合的に評価する。 ⑦メールにて対応: oshima@tmu.ac.jp 主担当教員:大嶋宛 ⑧曜日・時限等の詳細は、学生から教員に相談・調整すること。 履修登録期間に、自身で登録すること。 |
|---|--|

| 授業科目名 | 作業行動科学特論 | 配当年次 | 1, 2年 | 単位数 | 2単位 |
|----------------------------|--|------|-------|-----|-------|
| (科目英名) | Advanced Theories of Occupational Behavior and Occupational Science | 前期 | 火曜 | 3限 | U0378 |
| 担当教員 | 石井良和、小林法一、ボンジェ ペイター、谷村厚子 | | | 6限 | U0379 |
| ①授業方針・テーマ | ①本講義は複数教員(非常勤講師含む)によるオムニバス形式で実施し、作業に焦点を当てた実践に寄与するテーマを取り上げる。 | | | | |
| ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 | ②作業行動学、作業科学、精神作業療法学、老年地域参加支援学の4領域で構成される本分野の概説的紹介を各担当教員より行い、臨地実践への応用やエビデンスの産出および理論に寄与する諸概念の理解を通して作業療法の可能性を探求する。 | | | | |
| ③授業計画・内容 授業方法 | ③内容は以下のテーマを予定している。 1. 作業行動の歴史的位置づけ 2. 作業行動の展開としての人間作業モデル 3. 作業行動の展開としての作業科学 4. 作業療法におけるコンピテンス 5. 精神作業療法と作業療法理論 6. 在宅高齢者および高齢障害者の作業的支援 講義が中心となるが、事前に配付または指定された資料をもとに議論する場合がある。 | | | | |
| ④授業外学習 | ④各担当教員からの指示により、事前に準備する資料やプレゼン等の作成が求められる。 | | | | |
| ⑤テキスト・参考書等 | ⑤講義の中で随時紹介する。 | | | | |
| ⑥成績評価方法 | ⑥授業中の討議および発言内容に基づき評価する。 | | | | |
| ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ⑦科目全体については、担当教員の代表の石井(yishii@tmu.ac.jp)まで連絡してください。各担当分担授業に関してはそれぞれの教員に連絡して下さい。 | | | | |

| 授業科目名 | 作業生活環境科学特論 | 配当年次 | 1, 2年 | 単位数 | 2単位 |
|----------------------------|---|------|-------|-----|-------|
| (科目英名) | Advanced Topics in Occupation and Living Environment Studies | 前期 | 水曜 | 5限 | U0380 |
| 担当教員 | 小林隆司、橋本美芽、井上薫、石橋裕 | | | 6限 | U0381 |
| ①授業方針・テーマ | ①環境がいかに作業に影響を及ぼし生活を豊かにするのかを様々な観点から考えていく。本特論では、この領域の全体像を把握することを目途に、分野全員の教員のオムニバスで授業をおこなう。 | | | | |
| ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 | ②作業生活環境科学のトピックスを学習し、研究活動に生かすことができる。ディスカッションを通じて、能動的な学習姿勢を養うことができる。 | | | | |
| ③授業計画・内容 授業方法 | ③<授業計画・内容> 1. 作業参加と環境からの要請①(小林) 9. 生活支援機器と作業療法①(井上) 2. 作業参加と環境からの要請②(小林) 10. 生活支援機器と作業療法②(井上) 3. 習慣化と環境要因①(小林) 11. 先端技術による生活支援機器①(井上) 4. 習慣化と環境要因②(小林) 12. 先端技術による生活支援機器②(井上) 5. 住環境整備と生活支援①(橋本) 13. 作業生活と遂行分析①(石橋) 6. 住環境整備と生活支援②(橋本) 14. 作業生活と遂行分析②(石橋) 7. 先端技術による住環境整備①(橋本) 15. OTIPM①(石橋) 8. 先端技術による住環境整備②(橋本) 16. OTIPM②(石橋) | | | | |

博士前期課程・作業療法科学域

| | |
|---|--|
| ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | <授業方法> 講義を中心とした形態をとるが、適宜、グループワークや実技などを取り入れる。 ④毎回の授業終了後に示される課題について、レポートを作成すること。 ⑤適宜配布 ⑥参加態度と課題レポート等により評価する。 ⑦質問や面談希望はメール(ryukoba@tmu.ac.jp)で随時受け付ける。 ⑧オムニバス形式の講義となる。課題レポートのテーマは各教員から指示がある。 他の作業生活環境科学分野の授業の概論となるものである。 |
|---|--|

| | | | | | |
|--------|---|------|----|-----|-------|
| 授業科目名 | 医療福祉制度概論 | 配当年次 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Introduction of Medical and Welfare Systems | 前期 | 木曜 | 1限 | U0307 |
| 担当教員 | 須山夏加 | | 金曜 | 5限 | U0308 |

| | |
|--|--|
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①日本における医療・福祉制度、作業療法の現状を学ぶ。 ②日本の医療福祉制度、制度における身体障害・精神障害・発達障害・老年期障害の作業療法を取り上げる。受講者は、講義終了時に、上記内容を説明することができる。 ③オムニバス形式の講義と、ディスカッションを中心に進行する。 また、一部のテーマは学生がプレゼンテーションを行う。 ・日本の医療保険、介護保険制度 ・日本の作業療法—現状と展望 ・日本の作業療法—障害や疾患をもつ人の現状と生活 ・専門職連携教育、専門職連携実践(IPE,IPW) ・日本における CBR、地域で生活するための環境整備 ・生活行為向上マネジメント(MTDLP) ・高次脳機能障害の作業療法と就労支援 ・アジア各国との比較(学生によるプレゼンテーション) ④授業内で指定した文献等を読み予習を行うこと。 復習として、上記テーマ内容についての状況を、日本と他アジア国とで比較し考察すること。 ⑤特に指定しない、講義内で適時配布する。 ⑥ディスカッションへの参加、発表、提出物をもとに総合的に判断する。 ディスカッションへの参加状況:10% 発表(プレゼンテーション):30% 提出物(レポート:日本と出身アジア国の医療福祉制度/作業療法の比較、プレゼンテーション資料):60% ⑦オフィスアワーは特に設定しないが、質問は随時受け付けるため、事前にメールでアポイントメントをとること。 ⑧開講曜日・時限等の詳細は、学生が教員に相談し調整する。 受講者の構成、興味、関心により、一部内容を調整する場合もある。 後期の「医療福祉制度概論演習」は「医療福祉制度概論」で学んだことに基づいた内容となる。 |
|--|--|

| | | | | | |
|--------|--|------|----|------|-------|
| 授業科目名 | 医療福祉制度概論演習 | 配当年次 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Seminar of Medical and Welfare Systems | 後期 | 木曜 | 3-4限 | U0309 |
| 担当教員 | 須山夏加 | | | 5-6限 | U0310 |

| | |
|---|--|
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 | ①作業療法をはじめとする様々な医療福祉関連職種の臨床場面におけるフィールドワーク、企業、研究開発機関への訪問により、日本における作業療法や関連職種の実践を学ぶ。 ②身体障害、精神障害、発達障害、老年期障害領域の作業療法の臨床場面、他の医療福祉関連職種の実践場面を見学・演習、企業・研究開発機関における住環境、福祉用具・自助具開発および適用の現場の見学・演習を行う。受講者は、講義終了時に、フィールドワークを通じて学習した内容について説明することができる。 ③フィールドワーク、報告会への参加。 ・オリエンテーション ・身体障害領域のフィールドワーク(病院・地域施設訪問) ・発達障害領域のフィールドワーク(病院・地域施設訪問) ・高齢者領域のフィールドワーク(病院・地域施設訪問) ・精神障害・就労支援施設のフィールドワーク(病院・地域施設訪問) |
|---|--|

作業療法科学域前期課程

博士前期課程・作業療法科学域

| | |
|--|--|
| <p>④授業外学習</p> <p>⑤テキスト・参考書等</p> <p>⑥成績評価方法</p> <p>⑦質問受付方法 (オフィスアワー)</p> <p>⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)</p> | <p>・その他(展示会、企業・研究機関の訪問)</p> <p>・報告会 (各フィールドワーク終了後には質疑応答を含むディスカッションを行い、報告レポートを提出すること。)</p> <p>④「医療福祉制度概論」で学習したことをもとに、各領域における日本の作業療法について予習すること。 各領域のフィールドワークで学習したことをレポートで提出すること。</p> <p>⑤特に指定しない。</p> <p>⑥フィールドワークの参加状況、発表、提出物をもとに総合的に評価する 参加状況:30% 発表(報告会でのプレゼンテーション):20% 提出物(各フィールドワーク後の報告レポート、プレゼンテーション資料):50%</p> <p>⑦オフィスアワーは特に設定しないが、質問は随時受け付けるため、事前にメールでアポイントメントをとること。</p> <p>⑧開講曜日・時限等の詳細は、学生が教員に相談し調整する。 受講者の興味、関心、希望により、一部内容を調整する場合もある。 前期の「医療福祉制度概論」で学んだことに基づいた内容となる。</p> |
|--|--|

| | | | | | |
|--------|--|------|------|-----|-------|
| 授業科目名 | 福祉用具適応技術特論 a | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Advanced Adaptation Technique for Assistive Device a | 前期 | 集中 | | U0311 |
| 担当教員 | 井上薫 | | | | |

| | |
|---|--|
| <p>①授業方針・テーマ</p> <p>②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標</p> <p>③授業計画・内容 授業方法</p> <p>④授業外学習</p> <p>⑤テキスト・参考書等</p> <p>⑥成績評価方法</p> <p>⑦質問受付方法 (オフィスアワー)</p> <p>⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)</p> | <p>①福祉用具、住環境整備に関わる専門職として、求められる技術指導の総論を修得する。</p> <p>②我が国の福祉用具および住環境に関する専門指導の知識習得を目的とする。</p> <p>③本講義はオムニバスで実施する。 講義内容は以下の内容を含む。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 福祉用具専門職の役割 2) 福祉用具概論① 3) 福祉用具概論② 4) 福祉用具の選定と情報提供と相談技術の理解 5) 介護保険におけるケアマネジメント 6) 職業倫理 7) 認知症の理解 8) 福祉用具供給の業務① 9) 福祉用具供給の業務② 10) 福祉用具供給に係わる法律関係 11) 介護保険制度と福祉用具 12) 福祉用具供給のリスクマネジメント 13) 高齢者の身体特性① 14) 高齢者の身体特性② 15) レポート提出・講評 <p>単元により、事前課題、レポートが課される場合がある。詳細は初講日に説明する。</p> <p>④レポートの作成、テーマに応じた自己学習</p> <p>⑤テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉用具プランナーテキスト(テクノエイド協会発行) 参考書 ・福祉用具支援論 自分らしい生活を作るために ・自助具ハンドブック ・新しい福祉機器と介護サービス革命 <p>⑥レポート、討議、参加態度を総合的に評価する。</p> <p>⑦窓口: 井上 薫 inoue@tmu.ac.jp オフィスアワー: 原則として木曜日1, 2, 6, 7限</p> <p>⑧・福祉用具プランナー研修指定科目である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉用具プランナー資格試験の受験希望者は、福祉用具適応技術特論a、b、c、d全単位を取得した上で、所定の手続きを行い、公益財団法人テクノエイド協会による資格試験を受験する。ただし、受験には実務経験2年以上必要であり、受講開始から3年以内に受験する必要がある。この場合、全日出席が原則である。 ・講義の一部を非常勤講師が担当する場合がある。 ・日程や講義および資格に関する詳細は初講日に説明する。 |
|---|--|

博士前期課程・作業療法科学域

| | | | | | |
|--|--|------|--------|-------|------|
| 授業科目名 | 福祉用具適応技術特論 b | 配当年次 | 1, 2 年 | 単位数 | 2 単位 |
| (科目英名) | Advanced Adaptation Technique for Assistive Device b | 前期 | 集中 | U0313 | |
| 担当教員 | 井上薫 | | | | |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | <p>①福祉用具、住環境整備に関わる専門職として、求められる技術指導の総論を修得する。</p> <p>②我が国の福祉用具および住環境に関する専門指導の知識習得を目的とする。</p> <p>③本講義はオムニバスで実施する。 講義内容は以下の内容を含む。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)起居関連用具 2)移乗関連用具 3)移動関連用具(車いす/杖・歩行器)① 4)移動関連用具(車いす/杖・歩行器)② 5)移動関連用具(車いす/杖・歩行器)③ 6)床ずれ防止関連用具 7)入浴関連用具① 8)入浴関連用具② 9)排泄関連用具① 10)排泄関連用具② 11)食事、更衣、整容の活動と用具 12)社会参加関連用具(自助具含む) 13)コミュニケーション関連用具 14)生活における基本動作・ADLの理解 15)レポート提出・講評 <p>単元により、事前課題、レポートが課される場合がある。詳細は初講日に説明する。</p> <p>④レポートの作成、テーマに応じた自己学習</p> <p>⑤テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉用具プランナーテキスト(テクノエイド協会発行) 参考書 ・福祉用具支援論 自分らしい生活を作るために ・自助具ハンドブック ・新しい福祉機器と介護サービス革命 その他、講義内で紹介する。 <p>⑥レポート、討議、参加態度を総合的に評価する。</p> <p>⑦窓口: 井上 薫 inoue@tmu.ac.jp オフィスアワー: 原則として木曜日 1, 2, 6, 7 限</p> <p>⑧・福祉用具プランナー研修指定科目である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉用具プランナー資格試験の受験希望者は、福祉用具適応技術特論 a, b, c, d 全単位を取得した上で、所定の手続きを行い、公益財団法人テクノエイド協会による資格試験を受験する。ただし、受験には実務経験 2 年以上必要であり、受講開始から 3 年以内に受験する必要がある。この場合、全日出席が原則である。 ・講義の一部を非常勤講師が担当する場合がある。 ・日程や講義および資格に関する詳細は初講日に説明する。 | | | | |

| | | | | | |
|---|--|------|--------|-------|------|
| 授業科目名 | 福祉用具適応技術特論 c | 配当年次 | 1, 2 年 | 単位数 | 2 単位 |
| (科目英名) | Advanced Adaptation Technique for Assistive Device c | 前期 | 集中 | U0319 | |
| 担当教員 | 井上薫 | | | | |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 | <p>①福祉用具、住環境整備に関わる専門職として、求められる技術指導の総論を修得する。</p> <p>②我が国の福祉用具および住環境に関する専門指導の知識習得を目的とする。</p> <p>③本講義はオムニバスで実施する。 講義内容は以下の内容を含む。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)住宅改造① 2)住宅改造② 3)住宅改造③ 4)住宅改造④ | | | | |

| | |
|---|---|
| <p>④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等</p> <p>⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)</p> | <p>5) 構造とメンテナンス 6) 最新情報 7) 起居関連用具(実技)①② 8) 移乗関連用具(実技)①② 9) 移動関連用具(車いす/杖・歩行器)(実技)①② 10) 移動関連用具(車いす/杖・歩行器)(実技)③④ 11) 床ずれ防止関連用具(実技)①② 12) 入浴関連用具(実技)① 13) 入浴関連用具(実技)② 14) 排泄関連用具(実技) 15) レポート提出・講評 単元により、事前課題、レポートが課される場合がある。詳細は初講日に説明する。</p> <p>④レポートの作成、テーマに応じた自己学習。 ⑤テキスト ・福祉用具プランナーテキスト(テクノエイド協会発行) 参考書 ・福祉用具支援論 自分らしい生活を作るために ・自助具ハンドブック ・新しい福祉機器と介護サービス革命 その他、講義内で紹介する。</p> <p>⑥レポート、討議、参加態度を総合的に評価する。 ⑦窓口: 井上 薫 inoue@tmu.ac.jp オフィスアワー: 原則として木曜日1, 2, 6, 7限 ⑧・福祉用具プランナー研修指定科目である。 ・福祉用具プランナー資格試験の受験希望者は、福祉用具適応技術特論 a、b、c、d 全単位を取得した上で、所定の手続きを行い、公益財団法人テクノエイド協会による資格試験を受験する。ただし、受験には実務経験 2 年以上必要であり、受講開始から 3 年以内に受験する必要がある。この場合、全日出席が原則である。 ・講義の一部を非常勤講師が担当する場合がある。 ・日程や講義および資格に関する詳細は初講日に説明する。</p> |
|---|---|

| 授業科目名 | 福祉用具適応技術特論 d | 配当年次 | 1, 2 年 | 単位数 | 3 単位 |
|---|--|------|--------|-----|-------|
| (科目英名) | Advanced Adaptation Technique for Assistive Device d | 後期 | 集中 | | U0321 |
| 担当教員 | 井上 薫 | | | | |
| <p>①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法</p> <p>④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等</p> | <p>①福祉用具、住環境整備に関わる専門職として、求められる技術指導の実務を修得する。 ②我が国の福祉用具および住環境に関する専門指導の知識習得を目的とする。 ③本講義はオムニバスで実施する。 講義内容は以下の内容を含む。 1) 相談援助のためのプランニングの理解 2) 相談援助のためのプランニングの実際 3) 対人援助技術 4) 生活における基本動作、ADLの理解(実技) 5) 相談援助のためのプランニングの実際(演習) 6) 相談援助のためのプランニング演習(演習) 7) 対人援助技術(演習) 8) 職業倫理(演習) 9) 高齢者の身体特性(演習) 10) 食事、更衣、整容の活動と用具(実技) 11) 社会参加関連用具(実技) 12) コミュニケーション関連用具(実技) 13) 住宅改造(演習) 14) 構造とメンテナンス(実技) 15) レポート提出・講評 単元により、事前課題、レポートが課される場合がある。詳細は初講日に説明する。 ④レポートの作成、テーマに応じた自己学習。 ⑤テキスト ・福祉用具プランナーテキスト(テクノエイド協会発行)</p> | | | | |

博士前期課程・作業療法科学域

| | |
|---|--|
| ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | 参考書 ・福祉用具支援論 自分らしい生活を作るために ・自助具ハンドブック ・新しい福祉機器と介護サービス革命 その他、講義内で紹介する。 ⑥レポート、討議、参加態度を総合的に評価する。 ⑦窓口: 井上 薫 inoue@tmu.ac.jp オフィスアワー: 原則として木曜日1, 2, 6, 7限 ⑧・福祉用具プランナー研修指定科目である。 ・福祉用具プランナー資格試験の受験希望者は、福祉用具適応技術特論a、b、c、d全単位を取得した上で、所定の手続きを行い、公益財団法人テクノエイド協会による資格試験を受験する。ただし、受講開始から3年以内に受験する必要がある。この場合、全日出席が原則である。 ・講義の一部を非常勤講師が担当する場合がある。 ・日程や講義および資格に関する詳細は初講日に説明する。 |
|---|--|

| 授業科目名 | 認知作業療法学特論 | 配当年次 | 1, 2年 | 単位数 | 2単位 |
|--|--|------|-------|-----|-------|
| (科目英名) | Basic Exploration for Cognitive Occupational Therapy | 前期 | 土曜 | 3限 | U0726 |
| 担当教員 | 大嶋伸雄 | | | 4限 | U0727 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①テーマは以下のように分類される。 1. 認知作業療法の概念と基礎 2. 認知作業療法の脳卒中・高次脳機能障害モデル 3. 認知作業療法の心疾患・循環器障害モデル 4. 認知作業療法の精神・神経疾患モデル 5. 認知作業療法の整形外科疾患モデル ②作業療法の新たな介入モデルとして、認知作業療法の概念と基礎知識ならびに理論を修得する。 ③第1講: 認知作業療法の概念とフレームワーク 第2講: 認知行動療法(1) 第3講: 認知行動療法(2) 第4講: 認知作業療法の基礎 第5講: 高次脳機能障害の認知作業療法 第6講: 心疾患の基礎と認知作業療法 第7講: 精神疾患の認知作業療法 第8講: 整形外科疾患の認知作業療法 講義が中心となるが、毎回グループワークでの討論を行い、学習内容を深化させる。 ④菊池安希子・大嶋伸雄・他: PT・OTのための認知行動療法入門. 医学書院 2014年 ⑤(1) 大嶋伸雄・他: クリニカル作業療法シリーズ 身体領域の作業療法(第2版) (2) 大嶋伸雄・他: 患者力を引き出す作業療法. 三輪書店. 2013年 (3) 大嶋伸雄: PT・OT・STのための認知行動療法ガイドブック. 中央法規. 2015年 ⑥講義への出席(50%)、レポート提出(30%)、討論への参加(20%)を総合的に評価する。 ⑦メールにて対応: oshima@tmu.ac.jp 主担当教員: 大嶋宛 ⑧曜日・時限等の詳細は、学生から教員に相談・調整すること。 履修登録期間に、自身で登録すること。 | | | | |

| 授業科目名 | 認知作業療法学特論演習 | 配当年次 | 1, 2年 | 単位数 | 2単位 |
|-----------|---|------|-------|------|-------|
| (科目英名) | Practice and Research in Cognitive Occupational Therapy | 後期 | 土曜 | 3-4限 | U0748 |
| 担当教員 | 大嶋伸雄、高橋章郎 | | 金曜 | 6-7限 | U0749 |
| ①授業方針・テーマ | ①テーマは以下のように分類される。 1. 作業療法カウンセリングの基礎と応用 2. 高次脳機能障害・回復期モデル 3. 高次脳機能障害者の就労と社会生活支援 ・医療連携とマネジメント戦略 | | | | |

作業療法科学域前期課程

博士前期課程・作業療法科学域

| | |
|--|---|
| ② 習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③ 授業計画・内容 授業方法 ④ 授業外学習 ⑤ テキスト・参考書等 ⑥ 成績評価方法 ⑦ 質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧ 特記事項 (他の授業科目との関連性) | ・地域・生活支援モデルと医学モデル ② 認知作業療法における臨床実践のための基盤的心理技法と臨床理論を修得する。 ③ 第1講: 認知作業療法カウンセリングの基礎 第2講: 認知作業療法カウンセリング・演習(1) 第3講: 認知作業療法カウンセリング・演習(2) 第4講: 認知作業療法カウンセリング・演習(3) 第5講: 高次脳機能障害の認知作業療法・回復期モデル 第6講: 高次脳機能障害の認知作業療法・就労と社会生活支援モデル 第7講: 医療連携とマネジメント戦略 第8講: 地域・生活支援モデルと医学モデル 講義が中心となるが、毎回グループワークでの討論を行い、学習内容を深化させる。 ④ 「認知作業療法学特論」と同じ ⑤ 「認知作業療法学特論」のテキスト・参考書と同じ ⑥ 講義への出席(60%)、レポート提出(30%)、討論への参加(10%)を総合的に評価する。 ⑦ メールにて対応: oshima@tmu.ac.jp 主担当教員: 大嶋宛 ⑧ 曜日・時限等の詳細は、学生から教員に相談・調整すること。 履修登録期間に、自身で登録すること。 |
|--|---|

| 授業科目名 | 脳機能障害支援学特論 | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
|--------|---|------|------|-----|-------|
| (科目英名) | Advanced Lecture of Occupational Therapy for People with Brain Dysfunction | 前期 | 水曜 | 4限 | U0382 |
| 担当教員 | 宮本礼子 | | | 7限 | U0383 |

| | |
|--|--|
| ① 授業方針・テーマ ② 習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③ 授業計画・内容 授業方法 ④ 授業外学習 ⑤ テキスト・参考書等 ⑥ 成績評価方法 ⑦ 質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧ 特記事項 (他の授業科目との関連性) | ① 脳機能障害をもつクライアントの支援に関する基本的な枠組みと最新知見を取り上げ、受講者が実際に行っている臨床介入方法を共有しながら、新たな支援方法の導入可能性について討議を行う。 ② 本講義では、後天性の脳機能障害を有するクライアントに対する、発症からの時間経過および年代に応じた評価や支援の最新知見について、講義と討論を通して理解を深めることを主目標とする。 ③ 以下のテーマを予定しているが、適宜受講生からの希望を取り入れて内容を調整する。 授業方法は、講義とグループディスカッションを併用する。 1. 発症経過に伴う脳機能障害支援の役割の変遷 2. 脳機能障害支援の温故知新～評価から介入まで～ 3. 脳機能障害支援の困難さの背景とは？(重複障害の捉え方と対応策) 4. 認知症と脳機能障害 5. 小児の脳機能障害の捉え方と関わり方(発達障害との違い) 6. 脳機能障害をもつクライアントへの地域支援(生活の場での困難に対処する方法) 7. 脳機能障害をもつクライアントへの就労支援(セルフリフレクションを促す方法) 8. 進行性疾患を持つクライアントへの支援(認知機能の変化への対応と看取りの支援) [授業方法] 講義および授業内発表 [授業外学習] 毎回の講義後に、次回テーマに関する課題論文を配布する。当該論文を読み、次回冒頭に概要を発表する形式をとる。発表者は受講者内でローテーションする。 ④ 当該講義は、最終のレポート課題のみ時間外の自主学習が求められます(1回につき1時間、計8時間)。 ⑤ 適宜紹介 ⑥ 出席、ディスカッションへの参加、最終課題の内容により総合的に評価します。 ⑦ [オフィスアワー] 木曜 14:00-15:00、金曜 16:20-17:50 ・御不明点は miyamoto@tmu.ac.jp までお問い合わせください。 ・オフィスアワーに直接質問も可能です。 ⑧ 講義日程は集中講義形式で実施する場合があります。 |
|--|--|

博士前期課程・作業療法科学域

| 授業科目名 | 脳機能障害支援学特論演習 | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
|--|---|------|------|------|-------|
| (科目英名) | Advanced Seminar of Occupational Therapy for People with Brain Dysfunction | 後期 | 水曜 | 6-7限 | U0384 |
| 担当教員 | 宮本礼子 | | 土曜 | 3-4限 | U0385 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | <p>①講義前半は、脳機能障害支援に関わる研究論文を抄読し、一般的に用いられているエビデンスの示し方を学ぶ。後半は認知に関する実験を計画・実施し、得られるデータを実際の支援に生かす方法について討論する。</p> <p>②本演習では、脳機能障害支援学特論で学んだことに基づき、脳機能障害支援のエビデンスを示していく方法について、脳の機能局在に関する最新知見を通して理解を深めることを主目標とする。</p> <p>③内容は以下のテーマを予定しているが、適宜受講生からの希望を取り入れて内容を調整する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動処理過程のメカニズム(道具の操作, 模倣の理解) 2. 視覚認知のメカニズム(視覚のゆがみと芸術, 意識の影響) 3. 言語処理のメカニズム(一般的言語処理と内言語処理, 比喩皮肉の理解) 4. プランニングと行動(動機づけと行動の関連) 5. 感情コントロールと依存(各種依存症と脳機能の関連, サイコパスの脳) 6. 「うそ」のメカニズム(他者へのウソ, 自分へのウソ) 7. 意思決定に関わる脳(自己効力感や Locus of control との関連) 8. 内省のメカニズム(自己認識, 親和性との関連) 9-11. エビデンスを示す方法を実際に学ぶ(実験計画の立案と遂行) 12-14. 実験結果の整理と解釈, 発表 15. 科学実験の有用性と限界(示せるものと示せないものを知る) <p>[授業方法]講義および実験・実習、授業内発表1回 [授業外学習] 毎回の講義後に、次回テーマに関する課題論文を配布する。当該論文を読み、次回冒頭に概要を発表する形式をとる。発表者は受講生内でローテーションする。 演習後半には、簡単な実験を実施する。実験に際し、実験テーマの決定・方法の決定・実験用グッズの準備等を適宜時間外に行う。</p> <p>④・当該科目は、時間外に個別の文献抄読課題(英語)が課せられます。課題は受講生が持ち回りで担当することになりますので、担当日の前には時間外に自主学習が求められます(実験実習を除く日について1回1時間、計10時間)。</p> <p>⑤・適宜紹介。</p> <p>⑥・講義、文献抄読、グループディスカッションおよび実験を併用する。</p> <p>⑦[オフィスアワー]木曜 14:00-15:00、金曜 16:20-17:50 ・御不明点は miyamoto@tmu.ac.jp までお問い合わせください。 ・オフィスアワーに直接質問も可能です。</p> <p>⑧開講日程は集中講義形式で実施する場合があります。</p> | | | | |

| 授業科目名 | 精神神経機能障害学特論 | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
|--|---|------|------|-----|-------|
| (科目英名) | Advanced Theories of Psychiatric Disorders | 前期 | 金曜 | 4限 | U0323 |
| 担当教員 | 塩路理恵子 | | | 6限 | U0324 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | <p>①授業参加者がこれから行おうとする研究を題材として、そこで用いられる指標の選択や評価の方法について議論し理解を深める。</p> <p>②例えば、精神症状の程度や専門職教育の教育効果(対象は患者・家族の場合も、学生の場合も含めて)といったものは量的評価にはなじまない。しかし、研究目的の関係で、それらに関する指標を採用する場合は、なんらかの方法で評価を行わなければならない。この科目では、評価指標の選択を通して、研究方法について議論し理解を深めることを目標とする。</p> <p>③進行方法の例:参加者がこれから行おうとする研究の評価手法について短時間のプレゼンテーションを行い、その研究手法が研究目的に沿うものであるか否か、測定しようとする現象を的確に図るものであるか否か、そこから得られた結果は研究趣旨に則って議論することができるか否か、などについて参加者で議論する。</p> <p>④予習・復習および、関連文献を読む、関心テーマへの応用などの発展学習を行なう。</p> <p>⑤指定しない。</p> <p>⑥受講時の発言内容から理解度を評価する。</p> <p>⑦オフィスアワーは特に設けませんが、質問およびアポイントメントをメールで受け付けます(rshioji@tmu.ac.jp)</p> | | | | |

博士前期課程・作業療法科学域

⑧特記事項

(他の授業科目との関連性)

⑧自分の行おうとしている研究方法を改めてじっくりと考えてみたい人に選択してほしい科目

| | | | | | |
|------------------------|---|------|-------|------|-------|
| 授業科目名 | 精神神経機能障害学特論演習 | 配当年次 | 1, 2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Seminar in Advanced Theories of Psychiatric Disorders | 後期 | 木曜 | 4-5限 | U0325 |
| 担当教員 | 塩路理恵子 | | | 6-7限 | U0326 |
| ①授業方針・テーマ | ①授業参加者がこれから行おうとする研究を題材として、そこで用いる指標の選択や評価の方法について議論し理解を深める。 | | | | |
| ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 | ②例えば、精神症状の程度や専門職教育の教育効果(対象は患者・家族の場合も、学生の場合も含めて)といったものは量的評価にはなじまない。しかし、研究目的の関係で、指標とする場合は、なんらかの方法で評価を行わなければならない。この科目では、評価指標の選択を通して、研究方法について議論し理解を深めることを目標とする。 | | | | |
| ③授業計画・内容 授業方法 | ③進行方法の例:参加者がこれから行おうとする研究の評価手法について短時間のプレゼンテーションを行い、その研究手法が研究目的に沿うものであるか否か、測定しようとする現象を的確に図るものであるか否か、そこから得られた結果は研究趣旨に則って議論することができるか否か、などについて参加者で議論する。 | | | | |
| ④授業外学習 | ④予習・復習および、関連文献を読む、関心テーマへの応用などの発展学習を行なう。 | | | | |
| ⑤テキスト・参考書等 | ⑤指定しない。 | | | | |
| ⑥成績評価方法 | ⑥受講時の発言内容から理解度を評価する。 | | | | |
| ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ⑦オフィスアワーは特に設けませんが、質問およびアポイントメントをメールで受け付けます(rshioji@tmu.ac.jp) | | | | |
| ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ⑧自分の行おうとしている研究方法を改めてじっくりと考えてみたい人に選択してほしい科目 | | | | |

| | | | | | |
|------------------------|--|------|-------|-----|-------|
| 授業科目名 | 児童青年発達期作業療法学特論 | 配当年次 | 1, 2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Advanced Theories in Occupational Therapy for the Children and Adolescence | 前期 | 火曜 | 5限 | U0732 |
| 担当教員 | 伊藤祐子 | | | 7限 | U0733 |
| ①授業方針・テーマ | ①児童青年期の発達障害児・者支援として代表的な感覚統合理論についての理解を深める。 | | | | |
| ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 | ②児童および青年期の対象者に対する感覚統合理論と、理論に基づく評価と支援について基本的な知識と技術の概要を説明することができる。 | | | | |
| ③授業計画・内容 授業方法 | ③・感覚統合理論概要 ・感覚統合と発達障害 ・感覚統合理論の視点による子どもの行動理解 ・感覚統合の評価 ・感覚統合の視点に基づく活動分析 ・感覚統合療法とは ・保育園、幼稚園、学校支援など地域支援に感覚統合理論を生かす | | | | |
| ④授業外学習 | ④授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。 | | | | |
| ⑤テキスト・参考書等 | ⑤テキスト:日本感覚統合学会入門講習会資料集 その他、講義の進行に伴い、適宜紹介する。 | | | | |
| ⑥成績評価方法 | ⑥レポート、プレゼンテーションにより総合的に評価する。 | | | | |
| ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ⑦【オフィスアワー】:一定の日時に設定できないため、質問等があればメールで随時受け付けます。直接面談が必要な場合はその際に調整します。 【連絡先】:itoyuko@tmu.ac.jp | | | | |
| ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ⑧講義内容は、受講者の経験や背景により適宜変更します。 | | | | |

博士前期課程・作業療法科学域

| 授業科目名 | 児童青年発達期作業療法学特論演習 | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
|--|--|------|------|------|-------|
| (科目英名) | Advanced Theories in Occupational Therapy for the Children and Adolescence:Seminar | 後期 | 月曜 | 6-7限 | U0734 |
| 担当教員 | 伊藤祐子 | | 火曜 | 6-7限 | U0735 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①児童青年期の作業療法に関する理論や具体的評価法及び実践について学ぶとともに、国内外の研究動向に着目し、発達障害領域の作業療法の未来について考える。 ②・児童青年発達期作業療法学特論で学んだ内容を基礎とし、さらに幅広く地域支援について理解を深めることができる。 ・特別支援教育に関わる作業療法士に必要な理論的思考力やコミュニケーション能力について理解を深める。 ・国内外の研究論文から現状と課題を把握し、自身の研究に生かすことができる。 ③・多様化する社会における発達期作業療法の役割と課題 ・各種アセスメント、MTDLP(生活行為向上マネジメント)の活用 ・学校作業療法 ・発達障害作業療法領域の研究トピックス ・早期発見・早期支援 ・発達障害児・者に対する支援機器 ・海外の発達障害領域作業療法の現状 ④授業終了時に示す課題について、レポートを作成し提出すること。 ⑤テキスト:講義ごとに適宜紹介する。 ⑥レポート、ディスカッションへの参加により総合的に評価する。 ⑦【オフィスアワー】:一定の日時に設定できないため、質問等があればメールで随時受け付けます。直接面談が必要な場合はその際に調整します。 【連絡先】:itoyuko@tmu.ac.jp ⑧講義内容は、受講者の経験や背景により適宜変更します。 | | | | |

| 授業科目名 | 老年心理行動分析学特論 | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
|--|---|------|------|-----|-------|
| (科目英名) | Advanced Theories of Psychological and Behavioral Sciences in Aging | 前期 | 火曜 | 4限 | U0327 |
| 担当教員 | 藺牟田洋美 | | 木曜 | 6限 | U0328 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ①高齢者心理学における最新の知見を理解し、高齢期における健康状態への心理的関わりについて考えます。 あわせて、公衆衛生学や生涯発達心理学の視点から見た高齢者、要介護予防を旨とした虚弱や閉じこもりなどに対する効果的な臨床心理的支援について取り上げます。 ②各回、テーマに関してディスカッションを通じ、心理・社会的側面を中心とした高齢期の特徴について情報を収集し、分析・活用することが可能となる。また、高齢期の健康行動に対する行動変容アプローチの習得を目指します。 ③1. エイジング心理学とジェロントロジー 2. 高齢期の発達課題とライフレビュー・回想法について 3. 高齢期のサクセスフル・エイジングと生きがい 4. 体力・筋骨格系機能のエイジング 5. 感覚・知覚のエイジング 6. 記憶・学習のエイジング 7. 認知・知能のエイジング 8. 感情・性格のエイジング 9. 社会性・コミュニケーションのエイジング 10. 虚弱高齢者への臨床的アプローチ 11. 高齢者への精神保健学的アプローチ:認知症・うつ病・せん妄など 12. 高齢者への臨床社会学的アプローチ:社会参加の意義と課題 13. 高齢者のライフイベントとストレス 14. 高齢者のライフレビューと自己効力感・自己有用感 15. まとめ ④次回の内容について、必ず教科書を読んでください。 ⑤谷口幸一・佐藤真一編。「エイジング心理学」. 北大路書房, 2007. をテキストとして使用します。 ⑥レポートと授業中のディスカッションへの参加状況と発言内容に基づき評価を行います。 ⑦不明な点については、h.imuta@tmu.ac.jp へ連絡をください。 | | | | |

博士前期課程・作業療法科学域

| | |
|------------------------|---|
| ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ⑧なお、講義は土日・休暇中、集中講義形式で実施する場合がありますので、興味ある方は一度上記アドレスに問い合わせてください。 |
|------------------------|---|

| | | | | | |
|--------|--|------|-------|------|-------|
| 授業科目名 | 老年心理行動分析学特論演習 | 配当年次 | 1, 2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Advanced Theories of Psychological and Behavioral Sciences in Aging : Seminar | 後期 | 金曜 | 3-4限 | U0329 |
| 担当教員 | 藺牟田洋美 | | 木曜 | 6-7限 | U0330 |

| | |
|--|--|
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ①テーマは院生と協議のうえ、決定する。 ②生涯発達理論の観点から、高齢者の示す症状や心理を分析するための理論と実践について考究する。 ③先行研究に基づき、様々な研究の方法論上の長所と短所を検討する ④次回の課題を出しますので、自分の考えをまとめてきてください。 ⑤あらかじめ特に指定しない。必要に応じて指示する。 ⑥出席・平常点・参加度により総合的に判定する。 ⑦質問がある人は、h_imuta@tmu.ac.jp まで連絡をください。 |
|--|--|

| | | | | | |
|--------|---|------|-------|-----|-------|
| 授業科目名 | 精神作業療法学特論 | 配当年次 | 1, 2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Advanced Theories in Mental Health Occupational Therapy | 前期 | 火曜 | 2限 | U0736 |
| 担当教員 | 谷村厚子、石井良和 | | | 6限 | U0737 |

| | |
|--|--|
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①精神障害をもつ当事者を理解するための基本的な枠組みと最新のトピックを取り上げる。また、病期や生活場面に即し、作業療法理論に基づく支援を取り上げる。 ②精神障害をもつ当事者の作業的特徴を理解し、精神作業療法の理論と技術を学習する。 ③1) 作業と健康、生きがい、QOL ① 2) 作業と健康、生きがい、QOL ② 3) 作業とワークライフバランス、リカバリー ① 4) 作業とワークライフバランス、リカバリー ② 5) 作業療法理論に基づく支援 ① 6) 作業療法理論に基づく支援 ② 7) 急性期の作業療法、早期退院への取り組み ① 8) 急性期の作業療法、早期退院への取り組み ② 9) 地域生活支援、就労支援 ① 10) 地域生活支援、就労支援 ② 11) 予防的作業療法 ① 12) 予防的作業療法 ② 13) 最新のトピックス ① 14) 最新のトピックス ② など 15) まとめ 講義とディスカッションを中心に進行する。 ④毎回の授業終了時に示す課題について、指定のレポートあるいは資料を作成し、指定日までに提出すること。 ⑤適宜紹介する。 ⑥課題レポートおよび資料 50%、授業中の発言等 50% ・レポート等の提出物については、提出をもって平常点として評価する。その上で記述内容の秀でたものには加点を行う。 ・授業中の発言については、授業に出席しディスカッションへ参加したことを平常点として評価する。その上で発言・質問を行った学生については加点する。 ⑦オフィスアワーは特に設定しませんが、質問がある場合は随時受付しますので、事前に下記までメールでアポイントメントをとってください。 tanimura@tmu.ac.jp (谷村) ⑧精神作業療法学の可能性を多角的に考察し、自身の実践に役立てたい学生に選択してほしい科目である。 |
|--|--|

博士前期課程・作業療法科学域

| 授業科目名 | 精神作業療法学特論演習 | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
|--|---|------|------|------|-------|
| (科目英名) | Advanced Theories in Mental Health Occupational Therapy:Seminar | 後期 | 金曜 | 3-4限 | U0740 |
| 担当教員 | 谷村厚子、石井良和 | | 火曜 | 6-7限 | U0741 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | <p>①精神作業療法に関連する事例報告、実践研究、介入研究、調査研究などの論文を抄読する。取り上げた文献の研究方法についても検討する。</p> <p>②精神作業療法学特論を基礎とし、演習を通じて精神障害をもつ当事者の作業的特徴についてさらに理解を深め、精神作業療法研究の方法を学習する。</p> <p>③以下のテーマを予定しているが、受講生からの希望も取り入れる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 作業と健康、生きがい、QOL 2) 作業とワークライフバランス、リカバリー 3) 作業療法理論に基づく支援 4) 急性期の作業療法、早期退院への取り組み 5) 地域生活支援、就労支援 6) 最新のトピックス など <p>内外の文献を抄読する。担当者のプレゼンテーションと授業参加者のディスカッションが主となる。</p> <p>④毎回の授業終了時に示す課題について、指定のレポートあるいは資料を作成し、指定日までに提出すること。</p> <p>⑤適宜紹介する。</p> <p>⑥プレゼンテーション 30%、課題レポートおよび資料 30%、授業中の発言等 40%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションについては、発表をもって平常点として評価する。その上で発表内容の秀でたものには加点を行う。 ・レポート等の提出物については、提出をもって平常点として評価する。その上で記述内容の秀でたものには加点を行う。 ・授業中の発言については、授業に出席しディスカッションへ参加したことを平常点として評価する。その上で発言・質問を行った学生については加点する。 <p>⑦オフィスアワーは特に設定しませんが、質問がある場合は随時受付しますので、事前に下記までメールでアポイントメントをとってください。 tanimura@tmu.ac.jp(谷村)</p> <p>⑧精神作業療法学の可能性を多角的に考察し、自身の実践や研究に役立てたい学生に選択してほしい科目である。</p> | | | | |

| 授業科目名 | 作業行動学特論 | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
|--|---|------|------|-----|-------|
| (科目英名) | Advanced Theory of Occupational Behavior | 前期 | 月曜 | 1限 | U0343 |
| 担当教員 | 石井良和 | | | 7限 | U0344 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | <p>①講義とディスカッションを通して作業療法を考える。</p> <p>②作業療法の歴史を Kuhn の科学革命の構造に照らして学ぶ。 作業療法の初期の歴史上の概念とその復興である作業行動について学ぶ。 作業行動の臨床モデルである人間作業モデルについて学ぶ。</p> <p>③・Kielhofner の作業療法史の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初期の作業(アドルフマイヤー)における主たる概念 ・作業行動の提起:Reilly の作業行動 ・作業行動の臨床モデルとしての人間作業モデル ・人間作業モデルに関連する諸概念 ・人間作業モデルに基づく回復段階別の事例 <p>※講義が中心となるが、事前に配付または指定された資料をもとに議論する場合がある。</p> <p>④指定された文献の紹介を各自に割り当てるので、その準備が必要。</p> <p>⑤Kielhofner,G(山田孝・監訳):人間作業モデル. 改訂第4版. 協同医書出版社, 2012. その他、講義の進行に伴い、適宜指定する。</p> <p>⑥授業中の討議および発言内容等に基づき評価する。</p> <p>⑦メール等でのアポイントをとればいつでも可能。 【メールアドレス】: yishii@tmu.ac.jp</p> | | | | |

博士前期課程・作業療法科学域

| 授業科目名 | 作業行動学特論演習 | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
|--|--|------|------|------|-------|
| (科目英名) | Advanced Theory of Occupational Behavior:Seminar | 後期 | 火曜 | 1-2限 | U0386 |
| 担当教員 | 石井良和 | | 水曜 | 4-5限 | U0387 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ①テーマは指導を受ける院生と協議のうえ、決定する。 ②作業行動学特論を基礎として、関連文献の購読およびディスカッションを通して研究課題を明確にし、研究論文の作成に必要な知識と技能を獲得する。 ③内容はテーマごとのプレゼンテーションとディスカッションが中心となる。 ④開催回のプレゼン資料の作成が求められる。 ⑤あらかじめ特に指定しない。 ⑥各課題の完成度に従って評定する。 ⑦メール等で連絡をすればいつでも可能。 【メールアドレス】:yishii@tmu.ac.jp | | | | |

| 授業科目名 | 作業科学特論 | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
|--|---|------|------|-----|-------|
| (科目英名) | The Study of Occupational Science | 前期 | 木曜 | 4限 | U0738 |
| 担当教員 | ボンジェ ペイター | | | 6限 | U0739 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①作業科学を理解するのみではなく、批判的吟味する能力を向上させるために、講義だけではなく、討議ならびに意見交換などを行われる。 ②作業に関する知識を体系的に蓄積し探求するために誕生した「作業科学」について学ぶ。また、作業科学における概念や作業科学と作業療法の関係性について学ぶ。 ③1-2. 作業科学とは、作業科学におけるキー概念 3-4. なぜ作業科学？(臨床実践との関係、社会との関係) 5-8. 作業と健康・ウェルビーイング(作業科学の理論) 9-12. 作業科学における動向・変遷:代表的な研究から学ぶ 13-15. 発表:作業科学の価値 ④予習・復習 ⑤テキスト:講義の進行に伴い、適宜指定する。 参考書: Journal of Occupational Science, 作業科学 吉川ひろみ(2008)「作業」って何だろう 作業科学入門, 医歯薬出版, タウンゼント他著, 吉川ひろみ他訳(2011):続・作業療法の視点, 大学教育出版 Christiansen CH, Townsend EA (2011). Introduction to occupation Cutchin MP, Dickie VA (2013). Transactional perspectives on occupation. Springer Hasselkus BR (2011). The meaning of everyday occupation. Slack Nayar S, Stanley M. (2015). Qualitative research methodologies for occupational science and therapy. Routledge Whiteford G, Wright-StClair V. (2004). Occupation and practice in context. Elsevier Churchill Livingstone Wilcock A (2006). An occupational perspective of health. Slack Zemke R, Clark F, 佐藤剛(翻訳)(1996):作業科学—作業的存在としての人間の研究. 三輪書店 その他(講義の進行に伴い、適宜指定する) ⑥参加、レポート、プレゼンテーションにより評価する。 ⑦オフィスアワー:木曜日 15時~17時だが、臨時的にも対応する(事前に電話かメールで連絡ください) ⑧参加者同士による討議ならびに意見交換は随時行われる。 英語での論文が多いので、辞典の持参を忘れずに！ | | | | |

| 授業科目名 | 作業科学特論演習 | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
|-----------|--|------|------|------|-------|
| (科目英名) | Occupational Science Seminar | 後期 | 木曜 | 2-3限 | U0742 |
| 担当教員 | ボンジェ ペイター | | 水曜 | 6-7限 | U0743 |
| ①授業方針・テーマ | ①研究における作業的な視点を作成する。 事例を知識論あるいは理論から分析する。 | | | | |

博士前期課程・作業療法科学域

| | |
|---|---|
| <p>② 習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標</p> <p>③ 授業計画・内容 授業方法</p> <p>④ 授業外学習</p> <p>⑤ テキスト・参考書等</p> <p>⑥ 成績評価方法</p> <p>⑦ 質問受付方法 (オフィスアワー)</p> <p>⑧ 特記事項 (他の授業科目との関連性)</p> | <p>社会的な問題を作業科学的視点から評価し、問題解決を提案する。</p> <p>② 作業科学における概念や研究成果を批判的吟味できる。また、作業に関する理論・知識を探究し、その理論・知識の応用性・適合性を思案することができる。</p> <p>③ 1-4. 作業的視点を作成する: 作業科学における研究から学んでから、自分の研究テーマに関する検討する 5-8. '変化'を理解する: 作業的適応(adaptation)、作業的な移行(transition) 8-12. 作業の参加・従事を理解する: 作業的な相互浸透(transaction) & 作業における意味 13-15. 発表: 自分の研究に関する作業的な視点</p> <p>④ 予習・復習 課題遂行</p> <p>⑤ テキスト: 講義の進行に伴い、適宜指定する。 参考書: Journal of Occupational Science, 作業科学 吉川ひろみ(2008)「作業」って何だろう 作業科学入門, 医歯薬出版, タウンゼント他著, 吉川ひろみ他訳(2011): 続・作業療法の視点, 大学教育出版 Christiansen CH, Townsend EA (2011). Introduction to occupation Cutchin MP, Dickie VA (2013). Transactional perspectives on occupation. Springer Hasselkus BR (2011). The meaning of everyday occupation. Slack Nayar S, Stanley M. (2015). Qualitative research methodologies for occupational science and therapy. Routledge Whiteford G, Wright-StClair V. (2004). Occupation and practice in context. Elsevier Churchill Livingstone Wilcock A (2006). An occupational perspective of health. Slack Zemke R, Clark F, 佐藤剛(翻訳)(1996): 作業科学—作業的存在としての人間の研究. 三輪書店 その他(講義の進行に伴い、適宜指定する)</p> <p>⑥ 参加状態、レポート、プレゼンテーションにより評価する。</p> <p>⑦ オフィスアワー: 木曜日 15時~17時だが、臨時的にも対応する(事前に電話かメールで連絡ください)</p> <p>⑧ 英語での論文が多いので、辞典の持参を忘れずに! データベース検索、論文の批判的評価、参加者同士による討議ならびに意見交換は随時行われる。</p> |
|---|---|

| | | | | | |
|--------|---|------|-------|-----|-------|
| 授業科目名 | 老年地域参加支援学特論 | 配当年次 | 1, 2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Advanced Theories of Community-Based Occupational Therapy inGeriatrics | 前期 | 水曜 | 4限 | U0335 |
| 担当教員 | 小林法一 | | | 7限 | U0336 |

| | |
|---|--|
| <p>① 授業方針・テーマ</p> <p>② 習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標</p> <p>③ 授業計画・内容 授業方法</p> <p>④ 授業外学習</p> <p>⑤ テキスト・参考書等</p> <p>⑥ 成績評価方法</p> <p>⑦ 質問受付方法 (オフィスアワー)</p> <p>⑧ 特記事項 (他の授業科目との関連性)</p> | <p>① 関連する書籍を取り上げ、高齢者の生活やその特徴を作業の観点から捉えたと何が見えるか、健康と関連する作業の特性とは何かをテーマに議論する。</p> <p>② 在宅高齢者、高齢障害者に対する作業療法としての地域支援について理解することを目標とする。 具体的には、日常生活を構成する作業に投影された参加の概念、および作業活動を用いた支援について学ぶ。</p> <p>③ [授業計画] 1) 作業と健康、QOL 2) 地域参加の形態と評価 3) 作業の特性 4) 地域の作業療法における課題 5) 生活行為向上のためのマネージメント 6) 作業的存在としての人の理解 7)-10) 個人テーマ発表 11)-15) 文献抄読 [授業方法] ゼミ形式</p> <p>④ 毎回、指定した文献を読み、ディスカッションポイントを考えてくること。</p> <p>⑤ テキスト・参考書等は講義の中で随時紹介する</p> <p>⑥ 成績は課題レポートと出席で総合的に決める</p> <p>⑦ オフィスアワーは特に設定しませんが、直接質問したい場合は随時受付しますので、事前にメールでアポイントメントをとってください。</p> <p>⑧ 講義と同時にディスカッションも行うので、積極的な発言を期待します。</p> |
|---|--|

博士前期課程・作業療法科学域

| 授業科目名 | 老年地域参加支援学特論演習 | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
|--|--|------|------|------|-------|
| (科目英名) | Advanced Theories of Community-Based Occupational Therapy in Geriatrics : Seminar | 後期 | 月曜 | 1-2限 | U0337 |
| 担当教員 | 小林法一 | | 水曜 | 6-7限 | U0338 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①教員の提示するテーマに沿ってディスカッションや体験的実習を中心に行う。また、老年期作業療法学領域に関する内外の重要文献を熟読のうえ、作業療法の領域や哲学的前提、中核的概念について討議を行う ②老年地域作業療法学特論の講義内容を基礎とし、演習を通して理解を深める ③1~4) 作業療法の基本文献の抄読 5~6) 参加に関する臨地事例の報告 7~10) 質的データの処理 11-15) 特定テーマについての作業、作業療法の観点からの検討 次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解していくこと。 ④初回時に授業に関する各回の課題(事前学習)を提示します。 ⑤各講義において随時指示する ⑥出席、ディスカッションにおける活発な積極的態度および課題レポートの提出により総合的に判断する ⑦オフィスアワーは特に設定しませんが、直接質問したい場合は随時受付しますので、事前にメールでアポイントメントをとってください。 ⑧一部、土日の集中ゼミを行う。その日程は履修者間で調整します。 | | | | |

| 授業科目名 | 作業生活支援学特論 | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
|--|--|------|------|-----|-------|
| (科目英名) | Advanced Topics in Occupational Life Design Studies | 前期 | 月曜 | 3限 | U0744 |
| 担当教員 | 小林隆司 | | | 6限 | U0745 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①生活行為向上マネジメントを中心に議論を展開する。日本作業療法士協会の生活行為向上マネジメント基礎研修に準拠した内容でおこなう。 ②作業生活支援学研究の基礎となる生活行為向上マネジメントの知識を習得し、事例報告ができる。 グループワークを通じて、能動的な学習姿勢を養う。 事例報告を通じて、総合的問題思考力と論理的思考力を培う。 ③<授業計画・内容> 1. 地域包括ケアシステムとは 9. 生活行為申し送り表 2. 生活行為と作業 10. 生活行為向上マネジメント事例報告 3. 生活行為の障害と作業機能障害 11. 生活行為向上リハビリテーション 4. 生活行為向上マネジメントプロセス 12. 事例報告とディスカッション1 5. 主要な生活行為の聞き取り 13. 事例報告とディスカッション2 6. 生活行為アセスメント 14. 事例報告とディスカッション3 7. 生活行為工程分析 15. まとめ 8. 生活行為向上プラン 【授業方法】 各回の前半で講義を実施した後に、事例に基づいてディスカッションをおこなう。 ④事前の準備学習として、配布した事例を読み込みディスカッションができるように自分なりの意見をもって参加すること。また、セッション終盤には事例報告をしていただくので、自験例にて発表資料をまとめておくこと。 ⑤日本作業療法士協会「作業療法マニュアル 57 生活行為向上マネジメント」2014 ⑥参加態度と提出資料により評価する。 ⑦質問や面談希望はメール(ryukoba@tmu.ac.jp)で随時受け付ける。 ⑧レクチャーというよりは、ディスカッションやワークショップが主体となる。1年生での履修が望ましい。 | | | | |

博士前期課程・作業療法科学域

| 授業科目名 | 作業生活支援学特論演習 | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
|--|--|------|------|------|-------|
| (科目英名) | Advanced Seminar in Occupational Ligfe Design Studies | 後期 | 月曜 | 3-4限 | U0746 |
| 担当教員 | 小林隆司 | | | 6-7限 | U0747 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①量的研究を中心に、様々な作業生活支援学研究方法論を議論する。 ②作業生活支援学研究の基礎となる量的研究技術を習得し、研究計画が立案できる。 ディスカッションを通じて、能動的な学習姿勢を養うことができる。 ③<授業計画・内容> 1. consort 声明2010(最初から方法まで) 9. 平均値の比較 2. consort 声明2010(結果から最後まで) 10. 相関分析 3. trend 声明(最初から方法まで) 11. ノンパラメトリック検定 4. trend 声明(結果から最後まで) 12. 因子分析 5. strobe 声明(最初から方法まで) 13. 分散分析 6. strobe 声明(結果から最後まで) 14. 重回帰分析とロジスティック回帰分析 7. Rコマンドの使い方(基本的操作方法) 15. まとめ 8. Rコマンドの使い方(データの準備方法) 【授業方法】 講義を少しした後、ディスカッションや実技の時間を設ける ④留学生も一緒に受ける授業なので、資料は英語である。ディスカッションできるように予習してくること。 ⑤適宜紹介する。 ⑥参加態度と提出資料により評価する。 ⑦質問や面談希望はメール(ryukoba@tmu.ac.jp)で随時受け付ける ⑧ゼミ形式でおこなう。1年生での履修が望ましい。 ユーロマスターとの互換科目である。 | | | | |

| 授業科目名 | 福祉機器関連適用学特論 | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
|--|--|------|------|-----|-------|
| (科目英名) | Application Method of Assistive Technology for Master's Course | 前期 | 月曜 | 1限 | U0388 |
| 担当教員 | 井上薫 | | 水曜 | 5限 | U0389 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ①本講義では、ハンディを持つ人に対する生活支援において福祉用具等の生活支援機器の有効な活用に関連する応用的な知識、技術を修得する。 ②実践的な福祉用具の応用的知識・技術を修得し、福祉用具に関わる専門職としてより発展的な考察に基づく支援、根拠に基づいた他者への指導ができるようになることを目標とする。 ③講義では、以下の内容を予定しているが、受講者にあわせて適宜変更する。 1. 人のために有効にもの活用するために必要な基本理念について「パーソン・センタード・ケア」を例として学ぶ。 ケアの理念・パーソン・センタード・ケアとは、パーソン・センタード・ケアにおけるケアの質の評価 Dementia Care Mapping, 実際、福祉用具等の評価・適用への応用 2. 身体機能に着目した作業療法 3. 福祉用具等の歴史・現状・その制度的背景、実際 福祉用具に関する最新情報、福祉用具の歴史、需要と供給の状況、リスク管理、ヒヤリハット・事故、導入評価の注意点、福祉用具等に関わる資格、今後の福祉用具等関連施策の方向性とその中で期待される作業療法士の役割等 4. 福祉用具等を理解するための基礎知識—作業療法士が知っておきたいリハビリテーション工学の基礎 ・リハビリテーション工学とは、工学と作業療法の接点、エンジニアと作業療法士の連携、作業療法に関連する工学領域のトピックスおよび基礎的電子工学演習、福祉用具等の構造とメンテナンス等 5. 海外の動向と最先端技術の医療・福祉領域への活用—ソーシャル・ロボットの活用を例として ・ロボットに関わる施策、諸外国における動向、医療・福祉分野におけるソーシャル・ロボットの活用、作業療法分野で活用できるロボット等 6. 福祉用具等に関連する研究の現状 ・福祉用具等に関連する先行研究例 単元により事前課題、レポートを課す。詳細は初講時に説明する。 ④レポートの作成、テーマに応じた自己学習を行う。 ⑤特に指定しない。講義内で紹介する。 ⑥参加状況(30%)発言の量と質 提出物(70%)内容を評価する。課題の詳細は講義時に説明する。 ⑦オフィスアワー:原則として毎週木曜日1, 2, 6, 7限(井上) | | | | |

博士前期課程・作業療法科学域

⑧特記事項

(他の授業科目との関連性)

⑧全体を通じ e-learning を含むミニレクチャーとディスカッションから構成される。なお、学生の興味、ニーズを考慮したテーマへ変更する場合がある。

| 授業科目名 | 福祉機器関連適用学特論演習 | 配当年次 | 1, 2 年 | 単位数 | 2 単位 |
|--|---|------|--------|-------|-------|
| (科目英名) | Seminar of Application Method of Assistive Technology for Master's Course | 後期 | 月曜 | 1-2 限 | U0390 |
| 担当教員 | 井上薫 | | 金曜 | 6-7 限 | U0391 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | <p>①本演習では、ハンディを持つ人に適用される福祉用具等の生活支援機器に関する研究について演習方式で学習する。</p> <p>②文献、資料等を分析することにより根拠に基づいた、より研究的な視点から福祉用具等を理解し、福祉用具に関わる専門職として他者へ根拠に基づく指導ができるようになること、内外の関連する研究内容を分析し、残された課題について他者へ説明できることを目標とする。</p> <p>③演習、以下の内容を予定しているが、受講者にあわせて適宜変更する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文献調査に必要な知識・情報の提供 ・受講者が文献研究を遂行する上で必要な知識、技術、情報収集方法についてミニレクチャーを行う。 2. 文献調査の実施 ・プレゼンテーション、ディスカッションを行う。報告書を作成する。 3. 発表会 ・成果について、最終的なプレゼンテーションを行う。 発表の詳細は講義時に伝える。 教員による評価の他、自己評価、ピア評価を実施する(成績に含める)。 講義終了時には、各個人で自己評価シートに記載して振り返る(成績に含める)。教員からもフィードバックを行う。 <p>④報告書、プレゼンテーションの作成、テーマに応じた自己学習を行う。</p> <p>⑤特に指定しない。講義内で紹介する。</p> <p>⑥参加状況(20%): 発言の量と質、課題の進め方 発表会(30%): 教員15%、ピア評価10%、自己評価5%。 報告書(50%): 内容について評価。</p> <p>⑦オフィスアワー: 原則として毎週木曜日1, 2, 6, 7限(井上)</p> <p>⑧開講日、時限は院生と教員で調整して決定する。</p> | | | | |

| 授業科目名 | 生活環境分析学特論 | 配当年次 | 1, 2 年 | 単位数 | 2 単位 |
|--|--|------|--------|-----|-------|
| (科目英名) | Advanced analysis of living environment and house adaptation | 夏季集中 | | | U0315 |
| 担当教員 | 橋本美芽 | | | | |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | <p>①講義による解説に加え、関連文献の講読、事例の解説を行い、討議を行う。</p> <p>②日本における高齢者・障がい者を対象とした住環境整備学の背景と歴史、作業療法士としての生活環境支援に必要とされる住環境整備の基礎知識を解説する。生活環境整備を担う実務者に求められる評価技術、分析技術の獲得を目指す。</p> <p>③【授業計画・内容】: 授業内容は以下を中心とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住環境整備をめぐる社会情勢、社会資源、施策の紹介 ・標準的住宅構造の理解と移動障害者への影響 ・住環境の安全と転倒予防 ・住環境評価手法の理解(1) ・住環境評価手法の理解(2) ・住環境整備と生活動作の適合(1) ・住環境整備と生活動作の適合(2) <p>【授業方法】: 講義と討議を行う。</p> <p>④提示する課題についてレポートの作成を行う。</p> <p>⑤特に指定しない。講義内容に関する資料を配布する。</p> <p>⑥出席状況、討議への参加状況、受講時の理解度等を総合的に評価する。</p> <p>⑦【オフィスアワー】: オフィスアワーは原則として木曜 10 時 30 分～12 時、13 時～14 時 30 分とする。メールによる質問や連絡は随時受け付ける。 【連絡先】mime.h@tmu.ac.jp</p> | | | | |

博士前期課程・作業療法科学域

⑧特記事項
(他の授業科目との関連性) ⑧生活環境分析学特論演習を受講することが望ましい。

| 授業科目名 | 生活環境分析学特論演習 | 配当年次 | 1, 2年 | 単位数 | 2単位 |
|--|--|------|-------|-----|-------|
| (科目英名) | Analysis of Living Environment and House Adaptation : Seminar | 後期 | 集中 | | U0317 |
| 担当教員 | 橋本美芽、八藤後猛 | | | | |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①講義による解説に加え、関連文献の講読、事例の解説を行い、討議を行う。 ②高齢者・障がい者をめぐる生活環境・都市環境に加え、子どもの環境における安全な環境、等の改善に関する考え方、対応策のあり方に関する知識の習得を目指す。 ③【授業計画・内容】: (八藤後 猛) ・子どもの生活環境における事故の現状と安全への意識 ・予防すべきハザードと、人間発達に必要とされるリスクの違いと対応 ・家庭内事故発生のメカニズム ・子どもの身体寸法、動作域からみた事故予防 ・建築各部における危険と安全対策 (橋本 美芽) ・環境評価とそれに基づく福祉用具の適合技術 ・疾患・症例別にみた適合手法の解説 【授業方法】: 講義と討議を中心とする。 ④提示された課題のレポート作成を行う。 ⑤教科書は特に指定しない。必要に応じ資料を配布する。 ⑥出席状況、討議への参加状況、受講時の理解度、レポート等で総合的に評価する。 ⑦【オフィスアワー】: オフィスアワーは原則として木曜 10 時 30 分～12 時、13 時～14 時 30 分とする。メールによる質問や連絡は随時受け付ける。 【連絡先】mime.h@tmu.ac.jp ⑧前期科目の生活環境分析学特論の講義内容をさらに詳しく解説する。 | | | | |

| 授業科目名 | 健康増進作業療法学特論 | 配当年次 | 1, 2年 | 単位数 | 2単位 |
|---|---|------|-------|-----|-------|
| (科目英名) | The Study of Occupational Therapy in the Health Promotion | 前期 | 水曜 | 1限 | U0331 |
| 担当教員 | 石橋裕 | | | 6限 | U0332 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 | ①健康増進とは何か、そして、作業療法士がどのようにかかわることができるのか、概要から方法論まで学ぶ。 ②履修者が地域住民を対象とした健康増進事業が計画立案できることを目的に、疫学の基礎、健康行動理論、運動学習、遂行分析の方法等を習得する。 ③1 健康増進概論 2・3 疫学の基礎1(概要) 4・5 健康行動理論概論 6 運動学習 7・8 遂行分析 9 疫学の基礎2(統計) 10・11担当教員の健康増進研究事業の概要説明および計画方法の紹介 12～15課題提示・受講生による健康増進事業案のプレゼンテーション 講義では、事前に課題を提示し、担当教員もしくは履修者がまとめたパワーポイント等の資料を使って講義を行い、その内容について議論することとする。 ④この授業で習得した内容は、普段の作業療法の臨床で活用できる内容としている。したがって、受講生はこれらの内容を実践することが授業外学習として求められる。 ⑤テキスト 中村好一: 楽しい疫学第3版. 医学書院. Karen Glanz: 健康行動と健康教育—理論、研究、実践. 医学書院. Anne G.Fisher: Occupational Therapy Intervention Process Model. 作業療法介入プロセスモデル 参考書 福原俊一: 道標. 臨床研究の道標(みちしるべ)—7つのステップで学ぶ研究デザイン. | | | | |

博士前期課程・作業療法科学域

| | |
|---|--|
| ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | 木原雅子,木原正博:医学的研究のデザイン 研究の質を高める疫学的アプローチ 第4版 .メディカルサイエンスインターナショナル ⑥出席態度、発表内容等を総合的に鑑みて採点する。 ⑦研究室 583 号室にて直接お受けいたします。 ⑧健康増進作業療法学特論演習と関連がありますが、どちらから履修されても構いませんし、片方だけ履修されても構いません。 |
|---|--|

| 授業科目名 | 健康増進作業療法学特論演習 | 配当年次 | 1, 2 年 | 単位数 | 2 単位 |
|--------|--|------|--------|-------|-------|
| (科目英名) | Advanced Seminar of Occupational Therapy in the Health Promotion | 後期 | 火曜 | 1-2 限 | U0333 |
| 担当教員 | 石橋裕 | | | 6-7 限 | U0334 |

| | |
|--|---|
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①健康増進作業療法学特論の講義内容を基礎とし、作業療法士が行う健康増進事業は他職種と何が共通し、異なるのか、そして、どのように協働していくのか、演習を通して計画できるようになる。 ②作業療法の理論と支援技術をはじめに学び、その知識と技術を健康増進事業に取り込むことができるよう、講義はすすめる。 ③項目1 作業療法の理論(復習) 項目2 習得モデル(実技も含む) 項目3 代償モデル、適応モデル(実技も含む) 項目4 作業療法の目標立案方法と成果指標(実技も含む) 項目5 健康増進事業と作業療法 ④この科目は、作業遂行に焦点をあてており、普段の臨床で活用することが授業外学習として求められます。 ⑤テキスト 中村好一:楽しい疫学第3版. 医学書院. Karen Glanz:健康行動と健康教育—理論、研究、実践.医学書院. Anne G.Fisher: Occupational Therapy Intervention Process Model.作業療法介入プロセスモデル 参考書 福原俊一:道標.臨床研究の道標(みちしるべ)—7つのステップで学ぶ研究デザイン. 木原雅子,木原正博:医学的研究のデザイン 研究の質を高める疫学的アプローチ 第4版 .メディカルサイエンスインターナショナル ⑥参加態度と提出資料により評価する。 ⑦研究室 583 号室に直接お越しください。オフィスアワーは、月曜日の 10:30-12:00 です。 ⑧この科目は健康増進作業療法学特論と関連していますが、どちらから履修されても構いませんし、片方のみ履修されても構いません。 |
|--|---|

作業療法科学域前期課程

科目一覧（放射線科学域 博士前期課程）

| 授業科目名 | 配当年次 | 開講期 | 単位数 | 備考 |
|------------------|------|-------|-----|---------|
| 放射線科学特別研究a | 最終学年 | 前期・後期 | 4 | |
| 放射線科学特別研究b | 最終学年 | 後期・前期 | 4 | |
| 放射線科学特論 | 1、2年 | 前期 | 2 | ※専攻共通科目 |
| 放射線科学臨床実習 | 1、2年 | 前期 | 2 | |
| 放射線診断物理学特論 | 1、2年 | 前期 | 2 | |
| 放射線診断物理学特論演習 | 1、2年 | 後期 | 2 | |
| 核医学物理学・保健物理学特論 | 1、2年 | 前期 | 2 | |
| 核医学物理学・保健物理学特論演習 | 1、2年 | 後期 | 2 | |
| ポジトロン科学特論 | 1、2年 | 後期 | 2 | |
| 放射線治療物理学特論 I | 1、2年 | 前期 | 2 | |
| 放射線治療物理学特論演習 | 1、2年 | 後期 | 2 | |
| 放射線治療物理学特論 II | 1、2年 | 後期 | 2 | |
| 医用画像情報学特論 | 1、2年 | 前期 | 2 | |
| 医用画像情報学特論演習 | 1、2年 | 後期 | 2 | |
| 医用画像診断学特論 | 1、2年 | 前期 | 2 | |
| 医用画像診断学特論演習 | 1、2年 | 後期 | 2 | |
| 放射線計測学特論 | 1、2年 | 前期 | 2 | |
| 放射線計測学特論演習 | 1、2年 | 後期 | 2 | |
| 放射線医学物理学特論 | 1、2年 | 前期 | 2 | |
| 医用計測システム学特論 | 1、2年 | 前期 | 2 | |
| 医用計測システム学特論演習 | 1、2年 | 後期 | 2 | |
| 画像診断システム学特論 | 1、2年 | 前期 | 2 | |
| 画像診断システム学特論演習 | 1、2年 | 後期 | 2 | |
| 医療統計学特論 | 1、2年 | 後期 | 2 | ※専攻共通科目 |
| 放射線影響科学特論 | 1、2年 | 後期 | 2 | |
| がん医療のコミュニケーション論 | 1、2年 | 前期集中 | 1 | |
| 計算放射線物理学 | 1、2年 | 通年集中 | 2 | |
| 先端放射線治療物理特論 | 1、2年 | 後期集中 | 2 | |
| 放射線防護特論 | 1、2年 | 後期集中 | 1 | |
| 力学特論 | 1、2年 | 後期 | 2 | |
| 電磁気学特論 | 1、2年 | 後期 | 2 | |

履修モデル（人間健康科学研究科 人間健康科学専攻 放射線科学域）博士前期課程

| 区分 | 授業科目名 | 単位数 | 放射線診断 物理学分野 | 核医学物理学・ 保健物理学分野 | 放射線治療 物理学分野 |
|----------------|--|---------|----------------|--|----------------|
| 第一群 | 放射線科学特別研究 a | 4 | ◎ | ◎ | ◎ |
| | 放射線科学特別研究 b | 4 | ◎ | ◎ | ◎ |
| | 放射線科学特論 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ |
| | 放射線科学臨床実習 | 2 | □ | □ | □ |
| | 放射線診断物理学特論 | 2 | ○ | ■ | ■ |
| | 放射線診断物理学特論演習 | 2 | ○ | □ | □ |
| | 核医学物理学・保健物理学特論 | 2 | ■ | ○ | ■ |
| | 核医学物理学・保健物理学特論演習 | 2 | □ | ○ | □ |
| | ポジトロン科学特論 | 2 | ■ | ○ | ■ |
| | 放射線治療物理学特論 I | 2 | ■ | ■ | ○ |
| | 放射線治療物理学特論演習 | 2 | □ | □ | ○ |
| | 放射線治療物理学特論 II | 2 | ■ | ■ | ○ |
| | 医用画像情報学特論 | 2 | ■ | ■ | ■ |
| | 医用画像情報学特論演習 | 2 | □ | □ | □ |
| | 医用画像診断学特論 | 2 | ○ | ■ | □ |
| | 医用画像診断学特論演習 | 2 | □ | □ | □ |
| | 放射線計測学特論 | 2 | ■ | ■ | ■ |
| | 放射線計測学特論演習 | 2 | □ | □ | □ |
| | 放射線医学物理学特論 | 2 | ■ | ■ | ○ |
| | 医用計測システム学特論 | 2 | □ | □ | □ |
| 医用計測システム学特論演習 | 2 | □ | □ | □ | |
| 画像診断システム学特論 | 2 | □ | □ | □ | |
| 画像診断システム学特論演習 | 2 | □ | □ | □ | |
| 第二群 | 医療統計学特論 | 2 | □ | □ | ■ |
| | 放射線影響科学特論 | 2 | □ | ■ | □ |
| | がん医療のコミュニケーション論 | 1 | □ | □ | □ |
| | 計算放射線物理学 | 2 | □ | □ | □ |
| | 先端放射線治療物理特論 | 2 | □ | □ | □ |
| | 放射線防護特論 | 1 | □ | □ | □ |
| | 力学特論 | 2 | □ | □ | □ |
| | 電磁気学特論 | 2 | □ | □ | □ |
| | 他学域の共通科目 | 各々 | □ | □ | □ |
| | ゲノム関連科目（特別講義等） | — | — | — | — |
| AI 関連科目(特別講義等) | — | — | — | — | |
| | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> ■ : 8 単位以上選択が望ましい </div> | | | | |
| 計 | | 30 単位以上 | | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> ■ : 8 単位 + □ : 4 単位以上 </div> | |

放射線科学域前期課程

凡例： ◎学域の必修 ○分野・コースの必修 ■分野・コースの推奨 □分野・コースの選択

履修モデル（人間健康科学研究科 人間健康科学専攻 放射線科学域）博士前期課程

| 区分 | 授業科目名 | 単位数 | 医用画像情報 学分野 | 放射線計測学 分野 | 医用計測システ ム学分野 |
|---------------|------------------|---------|---------------|--------------|-----------------|
| 第一群 | 放射線科学特別研究 a | 4 | ◎ | ◎ | ◎ |
| | 放射線科学特別研究 b | 4 | ◎ | ◎ | ◎ |
| | 放射線科学特論 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ |
| | 放射線科学臨床実習 | 2 | □ | □ | □ |
| | 放射線診断物理学特論 | 2 | ■ | ■ | ■ |
| | 放射線診断物理学特論演習 | 2 | □ | □ | □ |
| | 核医学物理学・保健物理学特論 | 2 | ■ | ■ | ■ |
| | 核医学物理学・保健物理学特論演習 | 2 | □ | □ | □ |
| | ポジトロン科学特論 | 2 | □ | ■ | □ |
| | 放射線治療物理学特論 I | 2 | ■ | ■ | ■ |
| | 放射線治療物理学特論演習 | 2 | □ | □ | □ |
| | 放射線治療物理学特論 II | 2 | □ | ■ | □ |
| | 医用画像情報学特論 | 2 | ○ | ■ | ■ |
| | 医用画像情報学特論演習 | 2 | ○ | □ | □ |
| | 医用画像診断学特論 | 2 | ■ | ■ | ■ |
| | 医用画像診断学特論演習 | 2 | □ | □ | □ |
| | 放射線計測学特論 | 2 | ■ | ○ | ■ |
| | 放射線計測学特論演習 | 2 | □ | ○ | □ |
| | 放射線医学物理学特論 | 2 | ■ | ○ | ■ |
| | 医用計測システム学特論 | 2 | ■ | □ | ○ |
| 医用計測システム学特論演習 | 2 | □ | □ | ○ | |
| 画像診断システム学特論 | 2 | ■ | □ | ■ | |
| 画像診断システム学特論演習 | 2 | □ | □ | □ | |
| 第二群 | 医療統計学特論 | 2 | □ | □ | □ |
| | 放射線影響科学特論 | 2 | □ | □ | □ |
| | がん医療のコミュニケーション論 | 1 | □ | □ | □ |
| | 計算放射線物理学 | 2 | □ | □ | □ |
| | 先端放射線治療物理特論 | 2 | □ | □ | □ |
| | 放射線防護特論 | 1 | □ | □ | □ |
| | 力学特論 | 2 | □ | □ | □ |
| | 電磁気学特論 | 2 | □ | □ | □ |
| | 他学域の共通科目 | 各々 | □ | □ | □ |
| | ゲノム関連科目（特別講義等） | — | — | — | — |
| | AI 関連科目(特別講義等) | — | — | — | — |
| 計 | | 30 単位以上 | | | |

■：8 単位以上選択が望ましい

凡例： ◎学域の必修 ○分野・コースの必修 ■分野・コースの推奨 □分野・コースの選択

履修モデル（人間健康科学研究科 人間健康科学専攻 放射線科学域）博士前期課程

| 区分 | 単位数 | | 医用画像 診断学 分野 | 画像診断 システム 学分野 | 医学物理士コース | | | 量子イメージ ング技術者養 成コース |
|----------------|------------------|---------|-------------------|---------------------------------|----------|----|----|--------------------------|
| | | | | | 診断 | 核医 | 治療 | |
| 第一群 | 放射線科学特別研究 a | 4 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| | 放射線科学特別研究 b | 4 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| | 放射線科学特論 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| | 放射線科学臨床実習 | 2 | □ | □ | □ | □ | ■ | □ |
| | 放射線診断物理学特論 | 2 | ■ | ■ | ○ | ○ | ○ | ■ |
| | 放射線診断物理学特論演習 | 2 | □ | □ | ○ | □ | □ | □ |
| | 核医学物理学・保健物理学特論 | 2 | ■ | ■ | ■ | ○ | ○ | ○ |
| | 核医学物理学・保健物理学特論演習 | 2 | □ | □ | □ | ○ | □ | ○ |
| | ポジトロン科学特論 | 2 | □ | □ | ■ | ○ | □ | ○ |
| | 放射線治療物理学特論 I | 2 | ■ | ■ | ○ | ○ | ○ | ■ |
| | 放射線治療物理学特論演習 | 2 | □ | □ | □ | □ | ○ | □ |
| | 放射線治療物理学特論 II | 2 | ■ | □ | ■ | □ | ○ | □ |
| | 医用画像情報学特論 | 2 | ■ | ■ | ○ | ○ | ○ | ■ |
| | 医用画像情報学特論演習 | 2 | □ | □ | □ | □ | □ | □ |
| | 医用画像診断学特論 | 2 | ○ | ■ | ○ | □ | □ | ■ |
| | 医用画像診断学特論演習 | 2 | ○ | □ | □ | □ | □ | □ |
| | 放射線計測学特論 | 2 | ■ | ■ | ○ | ○ | ○ | ■ |
| | 放射線計測学特論演習 | 2 | □ | □ | □ | □ | □ | □ |
| | 放射線医学物理学特論 | 2 | ■ | ■ | ○ | ○ | ○ | ■ |
| | 医用計測システム学特論 | 2 | □ | ■ | □ | □ | □ | □ |
| 医用計測システム学特論演習 | 2 | □ | □ | □ | □ | □ | □ | |
| 画像診断システム学特論 | 2 | □ | ○ | □ | □ | □ | □ | |
| 画像診断システム学特論演習 | 2 | □ | ○ | □ | □ | □ | □ | |
| 第二群 | 医療統計学特論 | 2 | □ | □ | ○ | ○ | ○ | □ |
| | 放射線影響科学特論 | 2 | □ | □ | □ | ■ | □ | ■ |
| | がん医療のコミュニケーション論 | 1 | □ | □ | □ | □ | □ | ■ |
| | 計算放射線物理学 | 2 | □ | □ | □ | □ | ■ | □ |
| | 先端放射線治療物理特論 | 2 | □ | □ | □ | □ | □ | □ |
| | 放射線防護特論 | 1 | □ | □ | □ | ■ | □ | □ |
| | 力学特論 | 2 | □ | □ | ■ | ■ | ■ | □ |
| | 電磁気学特論 | 2 | □ | □ | ■ | ■ | ■ | □ |
| | 他学域の共通科目 | 各々 | □ | □ | □ | □ | □ | □ |
| | ゲノム関連科目（特別講義等） | — | — | — | — | — | — | ○ |
| AI 関連科目(特別講義等) | — | — | — | — | — | — | ○ | |
| 計 | | 30 単位以上 | | ■：6 単位以上選択 分野に関わらず希望する者は履修可能 | | | | |

■：8 単位以上選択が望ましい

■：6 単位以上選択
分野に関わらず希望する者は履修可能

凡例： ◎学域の必修 ○分野・コースの必修 ■分野・コースの推奨 □分野・コースの選択

博士前期課程・放射線科学域

| | | | | | |
|--|--|-----------|------|-----|-------|
| 授業科目名 | 放射線科学特別研究 a | 配当年次 | 最終学年 | 単位数 | 4 単位 |
| (科目英名) | Thesis Research in Radiological Sciences a | 前期で履修する場合 | | | U0400 |
| 担当教員 | 富士政広、小倉泉、加藤洋、齋藤秀敏、白川崇子、妹尾淳史、古川顕、井上一雅、関根紀夫、眞正浄光、乳井嘉之、沼野智一、根岸徹、明上山温 | 後期で履修する場合 | | | U0449 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①院生は教員が提供する研究テーマあるいは自らが提案するテーマで担当教員の了承の下で、指導教員(教授、准教授)と副指導教員(助教、研究員)の下で、理論、実験、調査などの研究を行う。 ②放射線科学に関する研究課題を設定し、研究計画の立案、実験あるいは計算機シミュレーションによるデータ収集と解析を通して研究論文作成の指導をする。 ③設定される問題に関する研究論文等を収集、要約し、新規性を解説でき、残された問題点などを指摘できるようにしておくこと。 テーマごとに要約し、レポートとして提出すること。 ④各担当教員が提供する研究テーマに関連した文献を収集し、事前に読んでおくこと。 ⑤各担当教員が提示する。 ⑥提出されたレポートや研究成果をもとに評価する。 ⑦担当教員が指定する曜日、時間に質問、相談を行う。または、メールで打合せ日時、場所を事前に調整して質問、相談を行うこと。 ⑧前期・後期、どちらでも履修可能。 曜日・時限等の詳細は、学生から教員に相談・調整すること。 履修登録期間に、自身で登録すること。 | | | | |

| | | | | | |
|--|---|-----------|------|-----|-------|
| 授業科目名 | 放射線科学特別研究 b | 配当年次 | 最終学年 | 単位数 | 4 単位 |
| (科目英名) | Thesis Research in Radiological Sciences b | 前期で履修する場合 | | | U0700 |
| 担当教員 | 富士政広、小倉泉、加藤洋、齋藤秀敏、白川崇子、妹尾淳史、古川顕、井上一雅、関根紀夫、眞正浄光、乳井嘉之、沼野智一、根岸徹、明上山温 | 後期で履修する場合 | | | U0701 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①院生は教員が提供する研究テーマあるいは自らが提案するテーマで担当教員の了承の下で、指導教員(教授、准教授)と副指導教員(助教、研究員)の下で、理論、実験、調査などの研究を行う ②放射線科学に関する研究課題を設定し、研究計画の立案、実験あるいは計算機シミュレーションによるデータ収集と解析を通して研究論文作成の指導をする。 ③設定される問題に関する研究論文等を収集、要約し、新規性を解説でき、残された問題点などを指摘できるようにしておくこと。 ④各担当教員が提供する研究テーマに関連した文献を収集し、事前に読んでおくこと。 ⑤各担当教員が提示する。 ⑥提出されたレポートや研究成果をもとに評価する。 ⑦担当教員が指定する曜日、時間に質問、相談を行う。または、メールで打合せ日時、場所を事前に調整して質問、相談を行うこと。 ⑧放射線科学特別研究 a の単位を取得した者が履修できる。 前期・後期、どちらでも履修可能。 曜日・時限等の詳細は、学生から教員に相談・調整すること。 履修登録は、論文提出を以て事務で一括で行う。(※履修登録期間の自身による履修登録は不要。) 担当教員が指定する曜日、時間に質問、相談を行う。または、メールで打合せ日時、場所を事前に調整して質問、相談を行うこと。 | | | | |

| | | | | | |
|-------------------------------------|--|------|--------|-----|-------|
| 授業科目名 | 放射線科学特論 | 配当年次 | 1, 2 年 | 単位数 | 2 単位 |
| (科目英名) | Radiological Sciences | 前期 | 水曜 | 1 限 | U0401 |
| 担当教員 | 富士政広、小倉泉、加藤洋、齋藤秀敏、白川崇子、妹尾淳史、古川顕、井上一雅、関根紀夫、眞正浄光、乳井嘉之、沼野智一、根岸徹、明上山温 | | | 7 限 | U0402 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 | ①放射線科学における統合的な視野の育成を目的とする。 ②放射線診断物理学、核医学物理学・保健物理学、放射線治療物理学、医用画像情報学、医用画像診断学、放射線計測学、医用計測システム学、画像診断システム学は、医学における放射線利用を研究するうえで基礎となると同時に互いに密接に関連している。放射線科学特論では、統合的な視野の育成を目的に、それらの関連を重視した講義を行う。 | | | | |

博士前期課程・放射線科学域

| | |
|--|---|
| <p>③授業計画・内容 授業方法</p> | <p>③(小倉): 診断用インバータ式X線装置に用いる高周波高電圧変圧器の漏れインダクタンスと浮遊容量について、定量的な解説を行う。 (加藤): 核的方法による各種分析法について講義する。 (齋藤): 先端的な放射線治療とこれを実現させるための物理、情報、計測についての概要を講述する。 (白川): 画像診断学の進歩及びその臨床的意義について、実例をもとに解説する。 (妹尾): 生体内には心臓や筋肉からの活動電位をはじめ、大血管などを代表する速い流れや組織内の毛細血管などの微小な灌流、細胞間を出入りする拡散流などさらに小さな流れ、圧力、温度、pH など様々な情報がある。これらの情報をどのような方法を用いれば抽出可能かその臨床的意義を踏まえながら講義する。 (福士): 病院組織における放射線科または放射線部に機能、役割、安全管理、リスクマネージメントなど運営・管理全般について関係法令を含めて教授する。 (古川): 画像診断学の進歩及びその臨床的意義について、実例をもとに解説する。 (井上): 核医学物理学及び保健物理学について最新知見を講義する。 (真正): 放射線化学の基礎と医療への応用について講義する。 (関根): 拡張現実技術の教育利用や体位情報センサと画像シミュレーションによるX線撮影実習支援システムを講義する。 (乳井): 医用画像の映像化に関する基礎的技術について講義する。 (沼野): 各種画像診断技術の機序及び応用技術について講義する。 (明上山): 情報工学理論に関する理論及び応用技術について講義する。 オムニバス方式で実施する。 各担当教員が課す課題についてレポートを提出すること。</p> |
| <p>④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)</p> | <p>④各教員が提供する内容に関する文献を収集し、事前に読んでおくこと。 ⑤必要に応じて、資料を配布または文献を紹介する。 ⑥レポートによって評価する。 ⑦各担当教員が別に定めるオフィスアワーの時間帯に直接研究室まで来てください。これ以外の時間帯に会いたい場合は、事前に各担当教員にメールでアポイントを取ってください。 ⑧講義での質問はできるだけ講義中に行うこと。授業後に質問が生じた場合は、担当教員にメールで打合せ日時、場所を事前に調整して質問を行うこと。基礎科目及び専攻する専門科目と密接に関連するので、既に履修済みであることが重要である。</p> |

| 授業科目名 | 放射線科学臨床実習 | 配当年次 | 1, 2年 | 単位数 | 2単位 |
|--------|---|------|-------|-----|-------|
| (科目英名) | Clinical Practicum in Radiological Sciences | 前期 | - | | U0403 |
| 担当教員 | 福士政広、齋藤秀敏、沼野智一 | | | | |

| | |
|--|--|
| <p>①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)</p> | <p>①臨床実習場所は教育目標が達成可能な高度先進医療施設で実施する。院生は各専門分野を選択し、90 時間以上の臨床実習を行う。 ②放射線科学臨床実習は医学物理士などの高度専門職業職として必要な臨床技術を習得する。 ③(齋藤): IMRT、陽子線治療、重粒子線治療など高度で先端的な放射線治療を行っている高度専門医療機関で、最新の放射線治療技術と品質管理法を習得する。 (福士): PET 装置、サイクロトロンなどの検査機器と PET 薬剤製造装置を有する高度専門医療機関で最新の核医学検査技術や品質管理を習得する。 (沼野): 高磁場 MRI 装置、MDCT などの高度先端医療機器を有する高度専門医療機関での最新の画像診断撮像技術や品質管理を習得する。 研修項目を理解するための事前学習を必ず行うこと。また、研修項目に関する研究論文等を収集、要約しておくこと。 修了した研修項目を要約し、レポートとして提出すること。 ④放射線治療、核医学検査および放射線診断学に関する文献を収集し、事前に読んでおくこと。 ⑤各担当教員が必要に応じて提示する。 ⑥各項目における達成度、レポートおよび口頭試問により総合的に評価する。 ⑦臨床実習中に生じた質問については臨床実習中に解決するよう実習担当者に質問すること。 担当教員へ質問する場合は、メールで打合せ日時、場所を事前に調整して質問、相談を行うこと。 ⑧先端的な臨床応用を習得するために必要な実習である。</p> |
|--|--|

博士前期課程・放射線科学域

| 授業科目名 | 放射線診断物理学特論 | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
|--|--|------|------|-----|-------|
| (科目英名) | Advanced Diagnostic Imaging Physics | 前期 | 月曜 | 7限 | U0404 |
| 担当教員 | 沼野智一、八木一夫、小林智哉 | | 木曜 | 1限 | U0405 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①先端研究に関しては外国文献および国内文献等を参考にしながら講義を進める。 ②放射線診断物理学の分野における診療画像の撮像技術論とその応用に関する知識を教授し、診断用画像の画質向上方法および診断用画像への多情報付加について理解する。また、得られたDICOMデータからの三次元出力(3Dプリント)について教授する。 ③上記の知識・能力を得るために以下のカリキュラムで講義を行なう。 第1回 Introduction 第2回 研究倫理と利益相反管理の重要性について 第3回 脳血液関門 blood-brain barrier 第4回 周波数空間情報 - k-space - 第5回 蛍光タンパク質を利用したバイオイメージング 第6回 再生医療 第7回 再生軟骨 第8回 Hifu MRI 第9回 3Dプリンタの医学利用 第10回 Autopsy Imaging 第11回 拡散強調画像法 -DWI- 第12回 三次元拡散強調画像法 第13回 Spiral イメージング 第14回 MR Elastography 第15回 IT security ゼミ方式・一部実習 ④次の講義までに予習を行ない、関連する専門用語等を確認しておくこと。 ⑤外国文献、国内文献。 講義中に資料を配布します。 ⑥平常点(授業態度・姿勢等):50%、提出物:50%、等により評価する。 ⑦質問・連絡がある場合は t-numano(at)tmu.ac.jp までメールで連絡してください。なお、件名の記入が無いメールは全て迷惑メールとして処分しています。必ず件名を入力してください。 * (at)は@に置き換えてください。 ⑧本科目は、放射線診断物理学特論演習との関連性が特に強いです。放射線診断物理学特論演習の履修を希望する学生は本科目を先に履修していることが望ましいです。 | | | | |

| 授業科目名 | 放射線診断物理学特論演習 | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
|---|---|------|------|------|-------|
| (科目英名) | Seminar in Diagnostic Imaging Physics | 後期 | 月曜 | 1-2限 | U0406 |
| 担当教員 | 沼野智一 | | | 6-7限 | U0407 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 | ①外国文献や国内最先端研究について調査、検討し、演習する。 ②放射線診断物理学の分野における診療画像の撮像技術論とその応用に関する知識を基礎として、症例の検討や撮影・撮像法の解析、評価をおこなう。また、得られたDICOMデータからの三次元出力(3Dプリント)について教授する。さらに、医用診断機器における出力特性の実測データを基に、その制御方法を含めた解析、評価を行う。 ③以下の3つの演習を実施する。 (A) ImageJによるT2-mapの作成 講義 1) 緩和現象の基礎 講義 2) CP法とCPMG法の違い 実習 1) CPMG法を利用したT2-mapイメージングの実施 (B) Magnetic resonance elastography 講義 1) MRエラストグラフィ(MRE)の基礎 講義 2) MREの応用先 実習 1) MREの実施 (C) DICOMイメージからの3Dプリンタ出力 講義 1) 3DプリンタとSTLファイル 講義 2) DICOMデータからSTLファイルへの変換 実習 1) DICOMイメージ(頭部MRA)の3Dプリンタ出力 | | | | |

博士前期課程・放射線科学域

| | |
|------------------------|---|
| ④授業外学習 | ④(A) Multi-echo type Spin Echo シーケンスによる T2 計測について事前に予習しておくこと。 (B) Motion Encoding Gradient による効果について事前に予習しておくこと。 (C) STL ファイルについて事前に予習しておくこと。 |
| ⑤テキスト・参考書等 | ⑤外国文献、国内文献。講義前に資料を配布します。 |
| ⑥成績評価方法 | ⑥本演習は MRI 装置、3D ワークステーションや 3D プリンタを使用して実習を行いません。各実習の'再実習'は原則行いませんので、授業(特に実習)を欠席した場合は「成績がつかない」可能性があります。 |
| ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ⑦質問・連絡がある場合は t-numano(at)tmu.ac.jp までメールで連絡してください。なお、件名の記入が無いメールは全て迷惑メールとして処分しています。必ず件名を入力してください。 * (at)は@に置き換えてください。 |
| ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ⑧放射線診断物理学特論単位取得後の履修が望ましいです。 |

| | | | | | |
|--------|------------------------------------|------|--------|-----|-------|
| 授業科目名 | 核医学物理学・保健物理学特論 | 配当年次 | 1, 2 年 | 単位数 | 2 単位 |
| (科目英名) | Nuclear Physics and Health Physics | 前期 | 水曜 | 2 限 | U0408 |
| 担当教員 | 福士政広、井上一雅、長谷川純崇、福喜多博義 | | | 6 限 | U0409 |

| | |
|----------------------------|--|
| ①授業方針・テーマ | ①本講義では、最新の核医学物理学や保健物理学について放射性同位元素、放射性医薬品、放射線防護関連諸量及び防護体系などをテーマとする。 |
| ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 | ②核医学物理学では、放射性同位元素、放射性医薬品、測定装置、画像処理、トレーサ動態・定量解析及び QA/QC について最新の知識・技術を学ぶ。保健物理学においては、放射線の歴史、防護関連組織・機関、放射線源の利用、放射線の生物影響・リスク、放射線防護関連諸量及び防護体系について学ぶ。 核医学物理学では、放射性同位元素を用いた最新の生体機能情報や生体内の微量物質の定量法などについて学ぶ。保健物理学においては、放射線による生物影響・リスクや環境中の放射性物質の影響などについて学ぶ。 |
| ③授業計画・内容 授業方法 | ③講義は以下のテーマで実施する。 ・放射性同位元素 ・放射性医薬品 ・測定装置 ・画像処理 ・トレーサ動態・定量解析 ・イメージング装置の QA/QC ・放射線の歴史 ・防護関連組織・機関 ・放射線源の利用 ・放射線の生物影響・リスク ・放射線防護関連諸量 ・放射線防護体系 ・線量の分類 講義およびゼミ形式 |
| ④授業外学習 | ④指定した教科書や参考書および関連した文献を収集し、事前に読んでおくこと。 |
| ⑤テキスト・参考書等 | ⑤核医学技術総論、第一種マスターノート II や関連文献を使用する。 |
| ⑥成績評価方法 | ⑥出席、プレゼンテーション(口述試験)レポートにより総合的に評価する。 |
| ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ⑦毎週火曜日 5・6 時限をオフィスアワーに設定するので質問等があれば直接研究室 513 号室まで来てください。これ以外の時間帯に会いたい場合は、事前にメールでアポイントを取ってください。fukushi@tmu.ac.jp |
| ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ⑧放射線科学特別研究 a・b の基礎となる科目である。 |

| | | | | | |
|--------|---|------|--------|-------|-------|
| 授業科目名 | 核医学物理学・保健物理学特論演習 | 配当年次 | 1, 2 年 | 単位数 | 2 単位 |
| (科目英名) | Seminar in Nuclear Physics and Health Physics | 後期 | 水曜 | 2-3 限 | U0410 |
| 担当教員 | 福士政広、井上一雅、福喜多博義 | | | 6-7 限 | U0411 |

| | |
|----------------------------|---|
| ①授業方針・テーマ | ①本演習では、最新の核医学装置を用いた生体機能収集方法、解析法、保健物理学における最新の放射線計測法や生体影響などをテーマとする。 |
| ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 | ②核医学物理学・保健物理学特論の講義を基礎とし、核医学装置や放射線計測装置を用いて生体機能方法の収集や解析、装置の QA/QC を習得する。 |
| ③授業計画・内容 授業方法 | ③装置・機器を用いた演習を主体とした形式とし、以下のテーマを実施する。 ・シンチレーション検出器による試料分析 ・個人線量計(光子、電子、中性子) ・リニアックからの漏洩放射線測定 ・中性子サーベイメータ ・液体シンチレーションカウンタによるトリチウム濃度測定 ・遮蔽計算 ・確率的サンプリングによる粒子輸送シミュレーション |

博士前期課程・放射線科学域

| | |
|---|--|
| ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | <ul style="list-style-type: none"> ・内部被ばくの線量評価 ・ジェネレータ ・放射能測定器 ・γ線スペクトルサーベイメータ(Na(Tl)、半導体など) ・ガンマカメラの性能評価 ・SPECT装置(SPECT/CT)の性能評価 ・イメージング装置のQA/AC ④指定した教科書および参考書、関連する論文を収集し、事前に読んでおくこと。 ⑤資料を配布する。 ⑥出席、プレゼンテーション(口述試験)レポートにより総合的に評価する。 ⑦毎週火曜日 5・6 時限をオフィスアワーに設定するので質問等があれば直接研究室 513 号室まで来てください。これ以外の時間帯に会いたい場合は、事前にメールでアポイントを取ってください。fukushi@tmu.ac.jp ⑧放射線科学特別研究 a・b の基礎となる科目である。 |
|---|--|

| 授業科目名 | ポジトロン科学特論 | 配当年次 | 1, 2 年 | 単位数 | 2 単位 |
|--|---|------|--------|-----|-------|
| (科目英名) | Positron Science | 後期 | 火曜 | 5 限 | U0447 |
| 担当教員 | 石井賢二、我妻慧、坂田宗之、豊原潤 | | | 6 限 | U0448 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①ポジトロン核種を用いた最新の学医学検査及び機器に関して学習する。 ②ポジトロン科学特論では最新の PET 検査で用いられる検査薬剤の製造法やその特徴と性質、最新のポジトロン断層撮影法や解析法、PET 画像の画像解析法及び臨床症例について教授する。 ③(オムニバス方式) (石井) 臨床 PET 画像の病体と画像診断について教授する。 (我妻) PET 検査技術学、画像解析法について教授する。 (坂田) PET 画像を用いた動態機能解析、ファンクショナルイメージについて教授する。 (豊原) PET 検査薬剤の製造法、特徴、性質及び用途について教授する。 ④ポジトロン科学に関する論文を収集し事前に読んでおくこと。 ⑤必要に応じて、資料を配布または文献を紹介する。 ⑥出席および課題レポートにより評価する。 ⑦毎週火曜日 5・6 時限をオフィスアワーに設定するので質問等があれば直接研究室 513 号室まで来てください。これ以外の時間帯に会いたい場合は、事前にメールでアポイントを取ってください。fukushi@tmu.ac.jp ⑧講義の実施は東京都健康長寿医療センターで行う。核医学物理学・保健物理学特論及び同演習と密接に関連するの既に履修済みであること。オフィスアワーについては、毎週火曜日 5・6 時限をオフィスアワーに設定するので質問等があれば直接研究室 513 号室まで来てください。これ以外の時間帯に会いたい場合は、事前にメールでアポイントを取ってください。fukushi@tmu.ac.jp | | | | |

| 授業科目名 | 放射線治療物理学特論 I | 配当年次 | 1, 2 年 | 単位数 | 2 単位 |
|---|--|------|--------|-----|-------|
| (科目英名) | Radiation Oncology Physics I | 前期 | 火曜 | 5 限 | U0412 |
| 担当教員 | 齋藤秀敏、唐澤克之 | | | 7 限 | U0413 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 | ①本講義では放射線治療における基礎的な物理現象、治療ビーム特性、線量計測法、計算法および放射線腫瘍学の視点から放射線治療物理に要求される事項を解説する。 ②放射線治療物理について講義を行い、外部放射線治療、小線源治療に関する量と単位、人体組織と放射線の相互作用、吸収線量計測の原理と計測法、光子および電子線の分布特性と深部量の定義と計測法などに関する知識を身に付ける。 ③講義のテーマおよび担当は以下の予定である。 1(2コマ)量、単位、相互作用係数(齋藤) 2(2コマ)光子ビームの特性(齋藤) 3(2コマ)電子ビームの特性(齋藤) 4(2コマ)線量計測(齋藤) | | | | |

博士前期課程・放射線科学域

| | |
|---|---|
| <p>④授業外学習</p> <p>⑤テキスト・参考書等</p> <p>⑥成績評価方法</p> <p>⑦質問受付方法 (オフィスアワー)</p> | <p>5(1コマ)線量計算(齋藤)</p> <p>6(2コマ)小線源治療(齋藤)</p> <p>7(1コマ)放射線と生物効果(唐澤)</p> <p>8(1コマ)精度放射線治療(唐澤)</p> <p>9(1コマ)照射法および治療計画法(唐澤)</p> <p>10(1コマ)放射線治療の安全(唐澤)</p> <p>ゼミ形式で授業を進める。</p> <p>テーマについての理解を進めるため事前学習を必ず行うこと。また、テキストを要約、解説できるようにしておくこと。指定された課題についてレポートを提出すること。</p> <p>④毎回の講義で次回のテーマ、教科書の範囲を指定するので、該当するページを事前に読んで講義に臨むこと。当日の講義内容について復習すること。</p> <p>⑤テキスト Radiation Oncology Physics (IAEA 2005)、参考書として必要に応じて教材を配布あるいは紹介する。</p> <p>⑥担当教員ごとに課すレポート、プレゼンテーションにより総合的に評価する。</p> <p>⑦原則として毎週木曜日 14:00-17:00 をオフィスアワーとする。</p> <p>講義での質問はできるだけ講義中に行うこと。授業後に質問が生じた場合は、オフィスアワーあるいはメールで打合せ日時、場所を事前に調整して質問を行うこと。</p> |
|---|---|

| | | | | | |
|--------|---------------------------------------|------|-------|------|-------|
| 授業科目名 | 放射線治療物理学特論演習 | 配当年次 | 1, 2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Seminar in Radiation Oncology Physics | 後期 | 火曜 | 4-5限 | U0414 |
| 担当教員 | 齋藤秀敏、唐澤克之、明上山温、遠山直紀、 小玉卓史、小島徹、河内徹 | | | 6-7限 | U0415 |

| | |
|---|--|
| <p>①授業方針・テーマ</p> <p>②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標</p> <p>③授業計画・内容 授業方法</p> <p>④授業外学習</p> <p>⑤テキスト・参考書等</p> <p>⑥成績評価方法</p> <p>⑦質問受付方法 (オフィスアワー)</p> | <p>①放射線治療ビームのスキャンニングデータ、ノンスキャンニングデータの取得、放射線治療計画装置の理解、モデリング、コミッシュニング、CT、MRI、PET等画像を利用した治療計画に対する知識と実践できる能力を養う。</p> <p>②放射線治療物理および放射線腫瘍学の両側面から演習により、放射線治療物理を理解し、放射線治療の改善および新技術を開発できる実践的能力を身に付ける。</p> <p>③演習形式と、受講者自身の演習計画、演習成果のプレゼンテーションにより授業を進める。</p> <p>演習のテーマおよび担当は以下の予定である。</p> <p>1(2コマ)ガイダンス(齋藤、明上山)</p> <p>2(4コマ)X線ビームモデリング(齋藤、明上山、河内)</p> <p>3(4コマ)電子線ビームモデリング(齋藤、明上山、小島)</p> <p>4(4コマ)高精度外部照射の放射線治療計画(齋藤、明上山、遠山)</p> <p>5(4コマ)CT、MRI、PET等画像を利用した治療計画(齋藤、明上山、小玉)</p> <p>6(4コマ)照射の幾何学的精度と投与線量の検証(齋藤、明上山、唐澤)</p> <p>7(2コマ)Tomotherapyの治療計画、品質管理(齋藤、明上山、橋本)</p> <p>8(2コマ)CyberKnifeの治療計画、品質管理(齋藤、明上山、古谷)</p> <p>9(4コマ)演習成果プレゼンテーション(齋藤、明上山)</p> <p>④演習テーマを理解するための事前学習を必ず行うこと。</p> <p>各担当教員からの課題をレポートとして提出すること。</p> <p>⑤テキスト、資料は適宜配布する。</p> <p>⑥担当教員ごとに課すレポート、プレゼンテーションにより総合的に評価する。</p> <p>⑦演習での質問はできるだけ演習時間中に行うこと。演習後に質問が生じた場合は、メールで打合せ日時、場所を事前に調整して面談で行うか、教員の許可がある場合はメールで質問を行うこと。</p> |
|---|--|

| | | | | | |
|--------|-------------------------------|------|-------|-----|-------|
| 授業科目名 | 放射線治療物理学特論Ⅱ | 配当年次 | 1, 2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Radiation Oncology Physics II | 後期 | 水曜 | 5限 | U0416 |
| 担当教員 | 齋藤秀敏、福村明史、福田賢一、明上山温 | | | 6限 | U0417 |

| | |
|---|---|
| <p>①授業方針・テーマ</p> <p>②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標</p> <p>③授業計画・内容 授業方法</p> | <p>①放射線治療物理学特論Ⅰのテーマをさらに発展させ、粒子線治療の物理、線量計算アルゴリズム、最適化などの問題について教授する。</p> <p>②加速器の原理と特性、粒子線治療の物理、光子線治療、電子線治療、小線源治療の体内吸収線量計算アルゴリズム、モンテカルロシミュレーション、最適化を目的とした数理統計、品質管理法などを身に付ける。</p> <p>③講義はオムニバス方式で行う。講義のテーマおよび担当は以下の予定である。</p> <p>1(3コマ)加速器(福村)</p> <p>2(3コマ)粒子線(福村)</p> |
|---|---|

博士前期課程・放射線科学域

| | |
|---|--|
| ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | 3(4コマ)最適化の数理(福田) 4(2コマ)線量計算アルゴリズム(齋藤) 5(2コマ)モンテカルロシミュレーション(明上山) 6(1コマ)包括的品質管理(齋藤) ゼミ形式で授業を進める。 ④テーマを理解するための講義前、講義後の学習を必ず行うこと。 指定された課題についてレポートを提出すること。 ⑤テキストは適宜紹介する。 ⑥担当教員ごとに課すレポート、プレゼンテーションにより総合的に評価する。 ⑦講義での質問はできるだけ講義中に行うこと。授業後に質問が生じた場合は、メールで打合せ日時、場所を事前に調整して質問を行うこと。担当教員の認める場合はメールで質問することもできる。 |
|---|--|

| | | | | | |
|--------|-----------------------------|------|-------|-----|-------|
| 授業科目名 | 医用画像情報学特論 | 配当年次 | 1, 2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Medical Imaging Informatics | 前期 | 金曜 | 2限 | U0418 |
| 担当教員 | 関根紀夫、乳井嘉之、阿部慎司 | | 月曜 | 6限 | U0419 |

| | |
|--|--|
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ①アナログとは異なるデジタル画像の評価方法について解説するとともに、放射線医学で重要な X 線 CT などの画像再構成法や医療情報の理解を助けるためプレゼンテーションを取り入れた講義を行う。 ②デジタル画像の評価方法をはじめ、コンピュータ断層イメージング(CT)の画像再構成の理論と医療情報について解説する。 ③第1回 フーリエ解析 第2回 畳み込み積分 第3回 入出力特性 第4回 コントラスト 第5回 空間分解能(アナログ) 第6回 空間分解能(デジタル) 第7回 Cambell の定理 第8回 RMS 粒状度 第9回 WS の測定法 第10回 DQE と NEQ 第11回 ROC 第12回 情報エントロピー 第13回 信号検出モデル 第14回 特徴量抽出 第15回 LROC 講義もしくはゼミ方式で行う。 ④毎回の授業後に示された課題について、A4 用紙 1 枚程度のレポートを作成して提出すること。 ⑤参考書: 下瀬川正幸・編「医用画像情報学」(医療科学社 2010 年) 定価 4,000 円 必要に応じて、資料を配布または文献を紹介する。 ⑥出席およびレポートによって評価する。 ⑦原則として木曜 4 限・7 限をオフィスアワーとしますので、質問等があれば研究室(505)へ来てください。また、メールによる質問も随時受け付けます。 【メールアドレス】: sekine@tmu.ac.jp |
|--|--|

| | | | | | |
|--------|--|------|-------|------|-------|
| 授業科目名 | 医用画像情報学特論演習 | 配当年次 | 1, 2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Seminar in Medical Imaging Informatics | 後期 | 水曜 | 4-5限 | U0420 |
| 担当教員 | 関根紀夫、乳井嘉之 | | 木曜 | 6-7限 | U0421 |

| | |
|---|---|
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 | ①医用画像情報学特論で理解したデジタル画像の評価方法を実際に演習し、医用画像情報学の実践的な理解を深める。 ②デジタル画像の評価方法について演習する。 ③学内コンピュータ室での演習の他、他研究機関を利用し放射光に関する実験を予定している。 デジタル画像の評価方法について実際に測定を行い数値を求める。また、C 言語によるプログラミング演習を交え画像処理法の理解を深める |
|---|---|

博士前期課程・放射線科学域

| | |
|---|---|
| ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | 第1回～第3回 入力特性(センシトメトリ・コントラスト) 第4回～第5回 解像力(MTF測定) 第6回～第7回 ノイズ(ノイズの周波数特性・WSの測定法) 第8回 DQEとNEQ 第9回～第10回 三次元データの造形 第11回～第15回 嚙下動態の画像処理、放射光画像の解析、X線画像シミュレーション ④授業における報告書(レポート)の作成 ⑤教科書:市川勝弘、石田隆行「標準 デジタルX線画像計測」(オーム社 2010年)定価5,000円 ⑥レポート80%、出席20%によって評価する。 ⑦原則として火曜 5・6限をオフィスアワーとしますので、質問等があれば研究室(505)へ来てください。また、メールによる質問も随時受け付けます。 【メールアドレス】:sekine@tmu.ac.jp ⑧教科書について、授業中の貸与を希望する者には、貸与する。 |
|---|---|

| 授業科目名 | 医用画像診断学特論 | 配当年次 | 1,2年 | 単位数 | 2単位 |
|--|--|------|------|-----|-------|
| (科目英名) | Diagnostic Imaging in Medicine | 前期 | 木曜 | 5限 | U0422 |
| 担当教員 | 古川顕、白川崇子 | | | 6限 | U0423 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ①日常診療で重要な疾患につき、領域別に学ぶ。 ②教育目標:画像診断に必要な解剖、病理を理解する。また、画像所見から病態を推測し、診断するプロセスを学ぶ。 ③以下の領域について、放射線医学領域の医療の現状を学ぶ。 ・中枢神経 ・胸部、呼吸器 ・腹部実質臓器 ・消化管 ・泌尿器、骨盤腔 ・救急疾患 ・I V R 講義およびセミナー形式 ④指定課題のレポート提出 ⑤医学雑誌、成書 ⑥レポートと授業中の発表、発言の学術的評価 ⑦授業時間前後の時間帯:講義室にて質問を受け付ける それ以外の時間については、質問事項をレポートにまとめて5階の教授室(古川)のポストへ投函すること | | | | |

| 授業科目名 | 医用画像診断学特論演習 | 配当年次 | 1,2年 | 単位数 | 2単位 |
|---|--|------|------|------|-------|
| (科目英名) | Seminar in Diagnostic Imaging in Medicine | 後期 | 木曜 | 4-5限 | U0424 |
| 担当教員 | 古川顕、白川崇子 | | | 6-7限 | U0425 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 | ①領域別に画像診断のプロセスを学ぶ。 ②医用画像診断学特論の内容をふまえて、さらに深く画像診断のプロセスを学ぶ。 ③以下の領域について、教科書、論文、講義から知識を深める。 ・中枢神経 ・胸部、呼吸器 ・腹部実質臓器 ・消化管 ・泌尿器、骨盤腔 ・救急疾患 ・I V R 主にセミナー形式(発表) ④指定課題のレポート提出 ⑤医学論文、成書 | | | | |

博士前期課程・放射線科学域

| | |
|---------------------------------|---|
| ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ⑥授業中の発言・発表内容、レポートの学術的評価 ⑦授業時間前後の時間帯: 講義室にて質問を受け付ける それ以外の時間については、質問事項をレポートにまとめて5階の教授室(古川)のポストへ投函すること |
|---------------------------------|---|

| | | | | | |
|--------|---------------------|------|-------|-----|-------|
| 授業科目名 | 放射線計測学特論 | 配当年次 | 1, 2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Radiation Dosimetry | 前期 | 木曜 | 2限 | U0426 |
| 担当教員 | 加藤洋、庄司友和 | | | 7限 | U0427 |

| | |
|--|--|
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①放射線診療における物理的・数理的な側面を探索し、放射線計測に関する応用論と方法論について学ぶ。 ②放射線診療に用いられている計測の理論と方法論について学習し、今後の機器の発展を考える際に必要な知識を得る。 ③ゼミ形式で行う。 次のような内容を中心に学ぶ 1. 電離電荷の計測(気体) 2. 電離電荷の計測(半導体) 3. 電磁波の計測 4. 粒子の計測 5. 医用生体計測 6. 放射線と物質の相互作用 7. 半価層の測定 8. X線スペクトルの測定 9. 散乱線のスペクトル 10.DRL 関連 ④放射線医学物理学特論, 放射線計測学特論演習などを理解しておく。 ⑤テキストは、成書の一部、論文、資料をコピーして配付する。 ⑥課題レポートにより評価する。 ⑦月、木、金 16:00 以降は荒川キャンパス 514 室。 ⑧放射線医学物理学特論, 放射線計測学特論演習などに関連する。 |
|--|--|

| | | | | | |
|--------|--------------------------------|------|-------|------|-------|
| 授業科目名 | 放射線計測学特論演習 | 配当年次 | 1, 2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Seminar in Radiation Dosimetry | 後期 | 月曜 | 6-7限 | U0428 |
| 担当教員 | 加藤洋、関本道治 | | 火曜 | 1-2限 | U0429 |

| | |
|--|---|
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①実際の機器を用いて、光子線、電子線および中性子線の計測を行う。 ②放射線計測学特論の講義を基礎とし、実際の計測器による各種の実測を行い、その精度、動作特性について評価し、改善方法について演習する。また、漏洩放射線に対する知識を深め、空气中放射性物質濃度の評価を行う。 ③実習およびゼミ形式で行う。 以下のような内容を中心に行う。 1. 電離電荷の計測(気体)に関する実習 2. 電離電荷の計測(半導体)に関する実習 3. 直線加速装置からの漏洩放射線測定と評価 4. サーベイメータを用いた中性子線量測定と評価 5. シンチレーション検出器の構造及び動作理解 6. シンチレーション検出器による測定と分析 7. 個人線量計を用いた光子、電子、中性子の線量測定と評価 8. トリチウム濃度の測定と体内負荷定量 ④放射線医学物理学特論, 放射線計測学特論などを理解しておく。 ⑤テキストは、成書の一部、論文、資料をコピーして配付する。 ⑥課題レポートにより評価する。 ⑦月、木、金 16:00 以降は荒川キャンパス 514 室。 ⑧放射線医学物理学特論, 放射線計測学特論, 放射線計測学特論演習などに関連する。 |
|--|---|

博士前期課程・放射線科学域

| 授業科目名 | 放射線医学物理学特論 | 配当年次 | 1, 2年 | 単位数 | 2単位 |
|--|---|------|-------|-----|-------|
| (科目英名) | Medical Physics | 前期 | 月曜 | 2限 | U0430 |
| 担当教員 | 加藤洋、関本道治 | | 火曜 | 6限 | U0431 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①診療用X線および高エネルギー放射線の発生、物質との相互作用のメカニズムを現代物理学により解明し、原子の構造、原子核の構造、およびこれらの相互作用について、量子力学に基づいて教授する。放射線および原子核物理、素粒子の測定器の原理と応用を教授する。 ②画像診断撮像技術学、核医学検査技術学ならびに放射線治療技術学で用いられている医学物理学を実践的な観点から広く学習する。放射線診断・治療の技術開発や機器改良に資する知識と能力を養う。 ③ゼミ形式で行う。 次のような内容を中心に、英語論文を使って行う。 1. 医用物理学の概念 2. 物質、電磁波の二重性 3. 原子の構造 4. X線の発生とスペクトル 5. 原子核の崩壊と放射能 6. 原子核反応 7. 高エネルギー放射線発生装置 8. 電離放射線と物質との相互作用(概論) 9. 光と物質との相互作用 10. 荷電粒子と物質との相互作用 11. 散乱体内部での光の相互作用 12. 放射線の検出器 13. X線診断の物理学 14. 放射線治療の物理学 15. 放射線防護における物理 ④●配布された論文を事前に読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 ●指定した論文を要約し、Power pointなどを用いてプレゼンテーションしてもらう。 ⑤テキストは放射線物理学分野の論文をコピーして受講者に配付する。 ⑥課題レポートにより評価する。 ⑦月、木、金 16:00以降は荒川キャンパス 514室。 ⑧放射線計測学特論、放射線計測学特論演習などに関連する。 | | | | |

| 授業科目名 | 医用計測システム学特論 | 配当年次 | 1, 2年 | 単位数 | 2単位 |
|---|---|------|-------|-----|-------|
| (科目英名) | Medical Measurement Systems | 前期 | 金曜 | 5限 | U0432 |
| 担当教員 | 小倉泉、眞正浄光 | | | 6限 | U0433 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 | ①電子計測と光計測の基礎と、その計測システムについて講義する。 ②医用装置・機器の精度管理等に用いられる計測システムの理論と方法論について学習し、今後の医用機器等の発展を考える際に必要な知識を学ぶ。 ③以下の項目について講義する。 ・微小電流の計測 ・信号ケーブルの特性 ・オペレーションアンプ回路の基礎 ・診断用X線装置の管電圧波形の計測 ・診断用X線装置の管電流波形の計測 ・診断用X線装置の蛍光強度波形の計測 ・インバータ式X線装置の分類とその電気的特性 ・放射線の固体への作用(エネルギーの蓄積と散逸) ・光の放射・吸収・散乱 ・光の計測と光を用いた分析法について ・まとめ ④講義した内容について復讐を行うこと。 指示したレポートを作成する。 | | | | |

博士前期課程・放射線科学域

| | |
|---|---|
| ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ⑤テキストは講義資料を作成して受講者に配付する。 ⑥提出された課題レポートにより評価する。 ⑦質問等はメールにより随時受け付けます。 ⑧ゼミ形式で行う。 |
|---|---|

| | | | | | |
|--|--|------|-------|------|-------|
| 授業科目名 | 医用計測システム学特論演習 | 配当年次 | 1, 2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Seminar in Medical Measurement Systems | 後期 | 金曜 | 4-5限 | U0434 |
| 担当教員 | 小倉泉、真正浄光 | | | 6-7限 | U0435 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①実際の機器等を模擬した回路、および分析装置を用いて演習を行う。 ②医用計測システム学特論の講義を基礎とし、実際の医用計測器による各種の実測を行い、その精度・動作特性について評価し、改善方法について演習する。 ③下記の内容を中心に演習を行う ・インバータ式X線装置に関する英文文献講読 ・信号処理回路に関する演習 ・センサー回路に関する演習 ・管電圧分圧器に関する演習 ・X線出力検出に関する演習 ・マイクロコントローラを用いた計測回路に関する演習 ・光の放射・吸収・散乱に関する英文文献講読 ・光の放射・吸収・散乱に関する演習 ④指示した課題について学習すること。 レポートを作成する。 ⑤テキストは演習資料を作成して受講者に配付する。 ⑥課題の完成度およびレポートにより評価する。 ⑦質問等はメールにより随時受け付けます。 ⑧ゼミ形式と計測実験で行う。 | | | | |

| | | | | | |
|---|--|------|-------|-----|-------|
| 授業科目名 | 画像診断システム学特論 | 配当年次 | 1, 2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Diagnostic Imaging Systems Engineering | 前期 | 金曜 | 4限 | U0436 |
| 担当教員 | 妹尾淳史、根岸徹、安部真治、安保雅博 | | | 7限 | U0437 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 | ①画像診断領域における医用画像診断機器システムに関して、先端医療画像機器のシステム、性能を理解し、評価、改善方法およびその応用について学ぶ。 ②画像診断機器システムの動向を探り、システム構成、安全、性能、臨床応用技術について必要な知識を習得する。 ③(妹尾) 画像診断システムの開発と応用に関する技術書や論文について輪読し、新しい画像診断システムの開発法や生体内情報の可視化法について講義する。 (根岸) 画像診断機器システムについて、文献輪読などにより、機器の精度管理の現状、各システムにおける医療被ばくの最適化、様々な測定機器の原理などについて解説および討論する。 (安部) X線透視・撮影装置、X線CT装置、乳房用装置などの画像診断機器システムについて、国内外の規格、文献講読などにより、機器の動向、安全、性能評価、臨床における機器管理および測定機器システム構築などについて解説および討論する。 (安保) ニューロイメージングの画像診断から治療法に関する論文を輪読し、臨床的な応用や知見について検討する。 ④次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。 ⑤必要に応じて資料を配付または文献を紹介する。 (参考書) 日本規格協会編『JISハンドブック医用放射線』(日本規格協会) | | | | |

博士前期課程・放射線科学域

| | |
|---------------------------------|---|
| ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ⑥授業態度、プレゼンテーション、レポートにより評価する。 ⑦オフィスアワー 非常勤:基本的に授業時間中とします。 常勤:平日 10-16 時 |
|---------------------------------|---|

| | | | | | |
|--------|---|------|--------|-------|-------|
| 授業科目名 | 画像診断システム学特論演習 | 配当年次 | 1, 2 年 | 単位数 | 2 単位 |
| (科目英名) | Seminar in Diagnostic Imaging Systems Engineering | 後期 | 金曜 | 4-5 限 | U0438 |
| 担当教員 | 妹尾淳史、根岸徹、安部真治、安保雅博 | | | 6-7 限 | U0439 |

| | |
|--|--|
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ①画像診断システム学特論の講義を基礎とし、システムに関する知識と評価手法及び技術の応用能力を習得する。 ②画像診断機器システムの性能評価法、品質保証およびその応用に関する演習を行う。 ③(妹尾) 画像診断システムの開発法や生体内情報の可視化法について、主に MATLAB を使ってプログラミング演習する。 (根岸) 画像診断機器システムの画質向上、および医療被ばくの最適化のために、各システムの測定法について演習を行う。 各システムごと、演習により得られた測定データを基にプレゼンテーション発表と質疑応答を行う。 (安部) 医用画像機器システムについて、医用画像の画質向上および多情報付加のための診断機器学的検討と装置の評価法、品質管理法について演習を行う。診断用X線装置、X線CT装置、乳房撮影装置などを対象に、テーマを決め、プレゼンテーション発表、演習および実験を行う。 (安保) ニューロイメージングの画像診断から治療法について、実際の臨床データから演習する。 ④次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。 ⑤必要に応じて資料を配付または文献を紹介する。 ⑥授業態度、プレゼンテーション、レポートにより評価する。 ⑦オフィスアワー 非常勤:基本的に授業時間中とします。 常勤:平日 10-16 時 |
|--|--|

| | | | | | |
|--------|--------------------------------|------|--------|-----|-------|
| 授業科目名 | 医療統計学特論 | 配当年次 | 1, 2 年 | 単位数 | 2 単位 |
| (科目英名) | Applied Statistics in Medicine | 後期 | 金曜 | 5 限 | U0440 |
| 担当教員 | 福田賢一 | | | 6 限 | U0441 |

| | |
|--|--|
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ①医療統計の数理的理論の深化をはかり、応用面での多様性に対応できる実際的能力を高める。このため、数理的基礎を充実させるとともに、実際の医療データの種々の解析法を検討する。 確率的・統計的現象の捉え方、医療機器にかかわる分析、治療効果等の考え方、公衆衛生、疫学データの解析法等、時間の許す限り、現実的問題に触れるものとする。 具体例分析について、発言・討論参加を求める。 ②データ解析、意思決定などにおいて重要な役割を担う学問である。本講義では、確率論、確率変数とその分布、統計量と関連分布、医療分野で使用される統計手法を考察する。各自の研究テーマに関係する統計、データ分析に應用を考える。 ③各テーマ毎に、理論面とその応用を、具体例を用いて解説する。さらに、各自パソコン等を利用し、理論とその応用について学ぶ事とする。具体例分析について、発言・討論参加を求める。 第 1 回～第 3 回 統計理論の数理的基礎 第 4 回～第 6 回 現象と確率分布 第 7 回～第 9 回 推定・検定理論(多変量含む) 第 10 回～第 11 回 現象と検定手法の選択、その評価 第 12 回～最終回 実際データの分析と評価、統計解析ソフトの利用と問題点 ④各自の研究テーマに関係する統計、データ分析に應用することを考える。レポートの課題の一部とする。 ⑤各テーマ毎に資料を配付する。参考書文献資料等は資料等に記載。また各自、国内外の公的機関、国際機関で整理されているデータを利用する。 ⑥課題レポート数回 80%、出席・授業参加 20%。 ⑦質問等は、授業中および前後、メール、書面、郵送等で受け付けます。 メールアドレス等は配布資料に記載。 |
|--|--|

博士前期課程・放射線科学域

⑧特記事項
(他の授業科目との関連性)

⑧パソコン、電卓等を使用します。(詳細は講義で指示)

| 授業科目名 | 放射線影響科学特論 | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
|--|---|------|------|-----|-------|
| (科目英名) | Radiation effect science | 後期 | 木曜 | 5限 | U0442 |
| 担当教員 | 島田義也、床次眞司、石川徹夫、Sahoo sarata kumar、 今岡達彦、古場裕介、栗原治、谷幸太郎、高畠賢 | | | 6限 | U0443 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①放射線影響に関する基礎知識と疫学手法及び最新の分析法を理解する。また放射線影響に関する国際的な動向を調査し、把握することも目標とする。 ②環境及び人体たから細胞レベルに関する放射線の影響について解説する。 ③ゼミ形式で行う。 下記のような内容を行う (1～3回 島田・今岡・古場) 1: 発達期の低線量放射線影響 I 分子レベル 2: 発達期の低線量放射線影響 II 細胞レベル 3: 発達期の低線量放射線影響 III 個体レベル (4回 床次) 4: 各種環境下におけるラドン・トロン挙動 (5～8回 Sahoo) 5: ラドン計測技術(トレーサビリティ体系を含む) 6: トロン計測技術 (7～9回 高畠) 7: 放射線疫学 I : 疫学手法による放射線影響の研究 8: 放射線疫学 II : 医療放射線の疫学研究 9: 放射線疫学 III : 自然放射線の疫学研究 (10～12回 石川) 10: 被ばく線量評価 11: ホールボディカウンタによる体内放射能計測 12: 地震とラドン (13回～15回 Sahoo、床次: 下記のような内容を行う) 13: チェルノブイリ事故に関する過去と現状 14: 試料分析法 I: 半導体検出器及び ICP-MS による核種分析 15: 試料分析法 II: 質量分析法を用いた同位体分析 ④ ⑤テキストは資料をコピーして受講者に配付する。 ⑥出席および課題レポートにより評価する。 ⑦ ⑧ | | | | |

放射線科学域前期課程

| 授業科目名 | がん医療のコミュニケーション論 | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 1単位 |
|---|---|------|------|-----|-------|
| (科目英名) | Communication of Cancer Medical Care | 前期 | 集中 | | U0446 |
| 担当教員 | 福士 政広(オーガナイザ) | | | | |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 | ①他職種連携の不足としての事例をもとに、グループワークを通じて事例から何を学ぶかについて討論する。また、抗がん剤の過剰投与、放射線の過剰照射のシナリオを与え、自らが医療者役、患者・家族役になり、患者・家族への説明をロールプレイし、その説明の仕方について、より良い患者・医療者関係についての議論を行う。 ②医療者コミュニケーションをテーマに、がん患者・医療者関係の言語的、非言語的、準言語的コミュニケーションの基本を修得する。 ③この授業は、「南関東圏における先端のがん専門家の育成」の下に開催するワークショップテーマを予定している。 1 自分の職場で危ないと感じた事例紹介 2 職場に潜む危険性 3 医療安全のための方策 | | | | |

博士前期課程・放射線科学域

| | |
|---|--|
| ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | 4 医療安全のための Staff Development とは 5 コミュニケーションとしての Reflection 6 医療者コミュニケーション入門 7 「ロールプレシナリオ」(2 例: 看護師+医師、放射線技師+看護師+医師の事例)の説明 8 「ロールプレイ劇場: 放射線技師+看護師+医師の事例」 講義、ディスカッション、ロールプレイ形式で授業を進行する。 ④がん患者さんとのコミュニケーション関連の文献を収集し、事前に読んでおくこと。 ⑤指定しない。必要がある場合はテキストを配付する。 ⑥出席 (50%)、ディスカッションへの参加 (50%) ⑦毎週火曜日 5・6 時限をオフィスアワーに設定するので質問等があれば直接研究室 513 号室まで来てください。これ以外の時間帯に会いたい場合は、事前にメールでアポイントを取ってください。fukushi@tmu.ac.jp ⑧夏休み期間に合宿形式で実施し、交通費・食費の自己負担 |
|---|--|

| | | | | | |
|--------|---------------------------------|------|------------------|-------|------|
| 授業科目名 | 計算放射線物理学 | 配当年次 | 1, 2 年 | 単位数 | 2 単位 |
| (科目英名) | Computational Radiation Physics | 通年 | 集中 (8 月、10 月) | U0444 | |
| 担当教員 | 齋藤秀敏、明上山温、波戸芳仁、岩瀬広 | | | | |

| | |
|--|---|
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①放射線輸送問題の解決方法としての計算物理学の理解、問題解決のための具体的ツールの理解、そして、受講者各自が問題解決できる知識と能力を養う。 ②解析的に解くことが困難な放射線輸送の問題について、コンピュータで近似解を得るための理論を学修する。また、この分野は理論を証明するための実験的な側面を併せ持つため、エネルギースペクトル、吸収線量計測などの諸問題解決の方法として、具体例を紹介してその解法について学修する。 以上によって、受講者自身が放射線輸送の問題を解決できる能力を身に付ける。 ③講義のテーマおよび担当は以下の予定である。 1 基礎物理過程 (岩瀬) 2 光子輸送計算の理論 (岩瀬) 3 電子輸送計算の理論 (岩瀬) 4 重粒子輸送計算の理論 (波戸) 5 モンテカルロ法 (波戸) 6 計算のためのプログラミング言語 (波戸) 7 汎用計算コード(1) (波戸) 8 汎用計算コード(2) (波戸) 9 断面積データの計算 (波戸) 10 幾何学的条件設定 (明上山) 11 放射線源設定 (齋藤) 12 スペクトル計算の事例(1) (明上山) 13 スペクトル計算の事例(2) (齋藤) 14 吸収線量計算の事例(1) (明上山) 15 吸収線量計算の事例(2) (齋藤) 以上の講義を行うとともに、各自のコンピュータに動作環境を構築し、具体的な計算コードの紹介、計算事例の提示を行う。 ④事前に配布されるテキストを理解しておくこと。 提示された課題をレポートに纏め、次回の講義時に提出すること。 ⑤開始時にテキストを配布する。参考文献等は必要に応じて紹介する。 ⑥プログラミング課題 (50%)、課題レポート (50%) ⑦担当教員が指定する曜日、時間に質問、相談を行う。 非常勤が担当する講義については、メールで打合せ日時、場所を事前に調整して質問、相談を行うこと。 ⑧プログラミング言語(C, fortran 等)に関する基礎を学んでいることが望ましい。 講義の一部は高エネルギー加速器研究機構(つくば市)で行う。 |
|--|---|

博士前期課程・放射線科学域

| | | | | | |
|--|---|------|------|-------|-----|
| 授業科目名 | 先端放射線治療物理特論 | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Topics in Radiation Therapy Physics | 後期 | 集中 | U0445 | |
| 担当教員 | 齋藤 秀敏(オーガナイザ)、特別講師 | | | | |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | <p>①先端的放射線治療について医学および放射線治療物理的見地からキーワードを取り上げ、そのテーマのエキスパートを講師に招き、講義を行う。講義内容、実践内容をより良く理解するためのディスカッションの時間を設ける。</p> <p>②先端的放射線治療である3次元原体照射(3D-CRT)、強度変調放射線治療(IMRT)等の医学的知識、その実施のために必要な物理的知識の修得と、実例からの問題解決法を身に付ける。</p> <p>③次のテーマを予定している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 定位放射線照射 2 呼吸同期照射 3 ポータルイメージング 4 頭頸部 IMRT 5 前立腺 IMRT 6 治療計画の検証 7 フィルムドシメトリ 8 二次元検出器 9 三次元検出器 10 線量計算アルゴリズム 11 MLC の品質管理 12 インバースプランニング 13 GammaKnife 14 CyberKnife 15 Tomotherapy <p>講義とディスカッション形式で授業を進行する。</p> <p>④テーマを理解するための事前学習を必ず行うこと。また、テーマに関する研究論文等を収集、要約しておくこと。講義内容を要約し、レポートとして提出すること。</p> <p>⑤指定しない。必要がある場合は論文を紹介する。</p> <p>⑥レポート(60%)、ディスカッション(40%)</p> <p>⑦講義中に生じた質問は講義中に解決するよう質問すること。 または、担当教員が指定する曜日、時間、あるいはメールで打合せ日時、場所を事前に調整して質問、相談を行うこと。</p> | | | | |

| | | | | | |
|--|--|------|------|-------|-----|
| 授業科目名 | 放射線防護特論 | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 1単位 |
| (科目英名) | Radiation Protection | 後期 | 集中 | U0485 | |
| 担当教員 | 福士政広 | | | | |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | <p>①放射線防護方法、関連法規、行動規範、記録保存などを中心に学習する。また、患者被曝線量の低減の観点から小児放射線診断、CT、IVRなどにおける被ばく線量低減について学ぶ。</p> <p>②放射線による被ばくから生物や環境を護り、確定的影響を防止し確率的影響を容認できるレベルまで制限するための最新の知識・技術・法令等を習得する。</p> <p>③講演聴講及び講義形式で行う。</p> <p>2回の集中講義により以下の内容を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放射線防護・管理 ・防護関連規制 ・医療放射線防護・管理 ・環境の防護 ・非電離放射線 ・患者被ばく線量の低減 <p>④放射線防護に関する文献を収集し、事前に読んでおくこと。</p> <p>⑤テキストは、講習会資料、論文、法令資料を配付する。</p> <p>⑥出席及び課題レポートにより評価する。</p> <p>⑦毎週火曜日 5・6 時限をオフィスアワーに設定するので質問等があれば窓口教員の直接研究室 513 号室まで来てください。これ以外の時間帯に会いたい場合は、事前にメールでアポイントを取ってください。fukushi@tmu.ac.jp</p> | | | | |

博士前期課程・放射線科学域

| | | | | | |
|--|---|------|------|------|-------|
| 授業科目名 | 力学特論 | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Advanced Dynamics | 後期 | 土曜 | 3-5限 | U0487 |
| 担当教員 | 阿部慎司 | | | | |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①医学物理教育ガイドラインにそって医学物理学を理解する上で基本となる力学の修得を目指す。 ②医学物理士に必要とされる力学を学習する。 ③教員が提示した資料を基にディスカッションを中心とした授業を行う。 ・質点の運動、力と運動および運動方程式の解法を学習する。質点の運動ではデカルト座標と極座標等、力と運動では運動方程式等、運動方程式の解法では等加速度運動等について理解する。 ・力学的エネルギー保存則、角運動量および万有引力を学習する。力学的エネルギー保存則では仕事とエネルギー等、角運動量ではベクトル積等、万有引力では惑星の運動等について理解する。 ・剛体の運動、解析力学、特殊相対性理論および量子論を学習する。剛体の運動では平面運動等、解析力学ではハミルトン原理と最小作用の原理等、特殊相対性理論ではローレンツ変換および相対論的運動方程式等について理解する。量子論では量子化と Schrödinger の波動方程式について理解する。 ④次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。 ⑤資料を配布し、適宜文献・参考書を紹介する。 ⑥出席、課題レポートにより評価する。 ⑦非常勤でありオフィスアワーを設けることができないので、授業終了後に質問を受け付けます。 ⑧特になし | | | | |

| | | | | | |
|--|---|------|------|------|-------|
| 授業科目名 | 電磁気学特論 | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Advanced Electromagnetism | 後期 | 土曜 | 3-5限 | U0486 |
| 担当教員 | 阿部慎司 | | | | |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①医学物理教育ガイドラインにそって医学物理学を理解する上で基本となる電磁気学の修得を目指す。 ②医学物理士に必要とされる電磁気学を学習する。 ③教員が提示した資料を基にディスカッションを中心とした授業を行う。 ・電場と電位、磁場および電磁誘導を学習する。電場と電位ではクーロンの法則等、磁場では磁場と磁力線等、電磁誘導では誘導電場等について理解する。 ・マクスウェル方程式、電磁場のエネルギーおよび導体に伴う静電場を学習する。マクスウェル方程式では電荷保存則と連続方程式等、電磁場のエネルギーでは荷電粒子系のエネルギー等、導体に伴う静電場では導体と静電場等について理解する。 ・回路、誘電体と磁性体および接触電位と電極電位を学習する。回路では抵抗とジュール熱等、誘電体と磁性体では誘電体と分極等、接触電位と電極電位では接触電位差等について理解する。 ④次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。 ⑤資料を配布し、適宜文献・参考書を紹介する。 ⑥出席、課題レポートにより評価する。 ⑦非常勤でありオフィスアワーを設けることができないので、授業終了後に質問を受け付けます。 ⑧特になし | | | | |

科目一覧（フロンティアヘルスサイエンス学域 博士前期課程）

| 授業科目名 | 配当年次 | 開講期 | 単位数 | 備考 |
|---------------------|------|-------|-----|---------|
| フロンティアヘルスサイエンス特別研究a | 最終学年 | 前期・後期 | 4 | |
| フロンティアヘルスサイエンス特別研究b | 最終学年 | 後期・前期 | 4 | |
| フロンティアヘルスサイエンス特論演習 | 1、2年 | 前期 | 2 | |
| 認知神経科学特論 | 1、2年 | 前期 | 2 | ※専攻共通科目 |
| 脳機能画像解析科学特論 | 1、2年 | 後期 | 2 | ※専攻共通科目 |
| 認知神経科学特論演習Ⅰ | 1、2年 | 前期 | 2 | |
| 認知神経科学特論演習Ⅱ | 1、2年 | 後期 | 2 | |
| 生体運動学特論Ⅰ | 1、2年 | 前期 | 2 | ※専攻共通科目 |
| 生体運動学特論Ⅱ | 1、2年 | 後期 | 2 | ※専攻共通科目 |
| 生体運動学特論演習Ⅰ | 1、2年 | 前期 | 2 | |
| 生体運動学特論演習Ⅱ | 1、2年 | 後期 | 2 | |
| 機能形態学特論Ⅰ | 1、2年 | 前期 | 2 | ※専攻共通科目 |
| 機能形態学特論Ⅱ | 1、2年 | 前期 | 2 | ※専攻共通科目 |
| 機能形態学特論演習Ⅰ | 1、2年 | 後期 | 2 | |
| 機能形態学特論演習Ⅱ | 1、2年 | 後期 | 2 | |
| 地域保健活動評価論特論 | 1年 | 前期 | 2 | ※専攻共通科目 |
| 保健情報管理論 | 1、2年 | 後期 | 2 | ※専攻共通科目 |
| 地域保健活動評価論特論演習Ⅰ | 1年 | 前期 | 2 | |
| 地域保健活動評価論特論演習Ⅱ | 1年 | 後期 | 2 | |
| 医科学英語プレゼンテーションスキルⅠ | 1、2年 | 前期 | 2 | ※専攻共通科目 |
| 医科学英語プレゼンテーションスキルⅡ | 1、2年 | 後期 | 2 | ※専攻共通科目 |

履修モデル（人間健康科学研究科 人間健康科学専攻 フロンティアヘルスサイエンス学域）

<博士前期課程>

| 区分 | 授業科目名 | 単位数 | 脳機能 解析科学 分野 | 生体運動 解析科学 分野 | 機能形態 解析科学 分野 | 地域保健 活動評価 論分野 | |
|--|----------------------|-----|-------------------|--------------------|--------------------|---------------------|---|
| 修士 (健康科学) または、 修士 (学術) 取得 | フロンティアヘルスサイエンス特別研究 a | 4 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | |
| | フロンティアヘルスサイエンス特別研究 b | 4 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | |
| | フロンティアヘルスサイエンス特論演習 | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | 認知神経科学特論 | 2 | ○ | □ | □ | □ | |
| | 脳機能画像解析科学特論 | 2 | ○ | □ | □ | □ | |
| | 認知神経科学特論演習 I | 2 | ○ | □ | □ | □ | |
| | 認知神経科学特論演習 II | 2 | ○ | □ | □ | □ | |
| | 生体運動学特論 I | 2 | □ | ○ | □ | □ | |
| | 生体運動学特論 II | 2 | □ | ○ | □ | □ | |
| | 生体運動学特論演習 I | 2 | □ | ○ | □ | □ | |
| | 生体運動学特論演習 II | 2 | □ | ○ | □ | □ | |
| | 機能形態学特論 I | 2 | □ | □ | ○ | □ | |
| | 機能形態学特論 II | 2 | □ | □ | ○ | □ | |
| | 機能形態学特論演習 I | 2 | □ | □ | ○ | □ | |
| | 機能形態学特論演習 II | 2 | □ | □ | ○ | □ | |
| | 地域保健活動評価論特論 | 2 | □ | □ | □ | ○ | |
| | 保健情報管理論 | 2 | □ | □ | □ | ○ | |
| | 地域保健活動評価論特論演習 I | 2 | □ | □ | □ | ○ | |
| | 地域保健活動評価論特論演習 II | 2 | □ | □ | □ | ○ | |
| | 医科学英語プレゼンテーションスキル I | 2 | ○ | ○ | ○ | □ | |
| | 医科学英語プレゼンテーションスキル II | 2 | ○ | ○ | ○ | □ | |
| | 共通科目 | | | □ | □ | □ | □ |
| | 計 | | 30 単位以上 | | | | |

凡例： ◎必修 ○分野の必修 ■選択必修 □選択

博士前期課程・フロンティアヘルスサイエンス学域

| | | | | | |
|--|---|-----------|------|-----|-------|
| 授業科目名 | フロンティアヘルスサイエンス特別研究 a | 配当年次 | 最終学年 | 単位数 | 4 単位 |
| (科目英名) | Research on Frontier Health science a | 前期で履修する場合 | | | U0500 |
| 担当教員 | 菊池吉晃、渡辺賢、易勤、猫田泰敏 | 後期で履修する場合 | | | U0506 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①指導教員の指導のもとに、自主的に研究課題を選択し研究論文の作成及び公開までの過程を実践を通して学ぶ。 ②フロンティアヘルスサイエンスに関する研究課題を設定して、研究計画の立案、データの収集と分析を通して修士論文作成の指導をおこなう。 ③各指導教員の指導のもとに、研究課題に沿った研究の過程を実践する。 研究計画から論文完成までの全過程を総合的に教育する。 ④自身で、最新の研究論文を調査し、自身の研究計画などについて熟慮・検討をおこなう。 ⑤各教員により随時指定する。 ⑥中間発表およびそれまでの研究過程に基づき評価する。 ⑦メールでの対応、および必要に応じて面談日程の調整の上、面談を実施する。 ⑧前期・後期、どちらでも履修可能。 曜日・時限等の詳細は、学生から教員に相談・調整すること。 履修登録期間に、自身で登録すること。 | | | | |

| | | | | | |
|--|---|-----------|------|-----|-------|
| 授業科目名 | フロンティアヘルスサイエンス特別研究 b | 配当年次 | 最終学年 | 単位数 | 4 単位 |
| (科目英名) | Research on Frontier Health Science b | 前期で履修する場合 | | | U0507 |
| 担当教員 | 菊池吉晃、渡辺賢、易勤、猫田泰敏 | 後期で履修する場合 | | | U0508 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①指導教員の指導のもとに、自主的に研究課題を選択し研究論文の作成及び公開までの過程を実践を通して学ぶ。 ②フロンティアヘルスサイエンスに関する研究課題を設定して、研究計画の立案、データの収集と分析を通して修士論文作成の指導をおこなう。 ③各指導教員の指導のもとに、研究課題に沿った研究の過程を実践する。 研究計画から論文完成までの全過程を総合的に教育する。 ④最新の研究論文を調査し、自身の研究について熟慮・検討をおこなう。 ⑤各教員により随時指定する。 ⑥研究の全過程、特に中間発表以降、論文完成までの過程について総合的に評価する。 ⑦メールでの対応、および必要に応じて面談日程調整の上、面談を実施する。 ⑧フロンティアヘルスサイエンス特別研究 a の単位を取得した者が履修できる。 前期・後期、どちらでも履修可能。 曜日・時限等の詳細は、学生から教員に相談・調整すること。 履修登録は、論文提出を以て事務で一括で行う。(※履修登録期間の自身による履修登録は不要。) | | | | |

| | | | | | |
|--|---|------|--------|-------|-------|
| 授業科目名 | フロンティアヘルスサイエンス特論演習 | 配当年次 | 1, 2 年 | 単位数 | 2 単位 |
| (科目英名) | Advanced Frontier Health Science, Practicum | 前期 | 水曜 | 5-6 限 | U0569 |
| 担当教員 | 菊池吉晃、渡辺賢、易勤、猫田泰敏 | | | | |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ①フロンティアヘルスサイエンスを構成する個々の分野の教員による講義をまじえた演習によって、フロンティアヘルスサイエンスに関する基礎的知識や最先端の知識の理解、研究方法などを学ぶ。 ②フロンティアヘルスサイエンスに関する基本的知識・研究方法などについてオムニバス形式で演習をおこなう。フロンティアヘルスサイエンスに関する基本的知識・研究方法などについてオムニバス形式で演習をおこなう。 ③脳機能解析科学・臨床神経科学・生体運動解析科学・機能形態解析科学・地域保健活動評価論の個々の分野について、各担当教員による基礎・先端的知識や研究法についての演習をおこなう。 研究計画から論文完成までの全過程を総合的に評価する。 ④自身で、最新の研究論文などを読解し、研究手法などについて検討をおこなう。 ⑤各教員により随時指定する。 ⑥演習の出席状況や態度、議論内容などによって評価する。 ⑦メールでの対応、および面談の日程調整の上、面談を実施する。 | | | | |

博士前期課程・フロンティアヘルスサイエンス学域

⑧特記事項

(他の授業科目との関連性)

⑧講義日程・時間に関しては、各教員によって日時が異なる場合があるが、受講者の予定を配慮し柔軟に調整する。オフィスアワーは特に設けないが、メールによる質問や連絡が随時受け付ける。連絡先 nekoda@tmu.ac.jp

| 授業科目名 | 認知神経科学特論 | 配当年次 | 1, 2 年 | 単位数 | 2 単位 |
|--|---|------|--------|-----|-------|
| (科目英名) | Advanced Cognitive Neuroscience | 前期 | 集中 | | U0501 |
| 担当教員 | 菊池吉晃、則内まどか、笈 慎治、橋本 款、岡戸 晴生 | | | | |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | <p>①受講者自らの問題意識を尊重し、主に興味の対象となるテーマを重点的に扱う。</p> <p>②認知、運動、記憶、情動、こころなどの認知神経科学の最先端研究の理解を通して、高次脳機能障害の分析・評価のための基礎知識を理解するとともに、認知神経科学研究に必要な基礎を身につける。</p> <p>③認知、運動、記憶、情動、こころなどの認知神経科学のテーマについて、ヒトを対象とした機能的磁気共鳴画像法(fMRI: functional magnetic resonance imaging)などの非侵襲的脳機能計測法による脳イメージング研究の成果および動物を対象とした神経生理学的研究の成果に関する講義、セミナー、議論、実習を行う。</p> <p>受講者自らの問題意識に基づく認知神経科学に関する研究論文などの資料をもとに講義、セミナー、議論を行う。スケジュールについては、受講者の予定を十分に配慮し、一部、集中講義で行う。また、東京都神経科学総合研究所(東京都医学研究機構)において、神経生理学的研究に関するセミナー、講義を集中で行う。</p> <p>④自身で、最新の研究論文を調査・検討をおこない、自身の研究計画について検討をおこなう。</p> <p>⑤セミナーや議論では、主に、国際雑誌に掲載されている論文を資料とする。テキスト・参考書などは必要に応じて随時紹介する。</p> <p>⑥出席状況やセミナーなどにおける意欲・合理性、また議論の内容、レポート内容などを評価する。</p> <p>⑦メールでの対応、および必要に応じて面談の日程調整を行ったうえで面談を実施する。</p> <p>⑧講義日程・時間に関しては、受講者の予定を配慮し柔軟に調整する。基本的に集中で行う。</p> | | | | |

| 授業科目名 | 脳機能画像解析科学特論 | 配当年次 | 1, 2 年 | 単位数 | 2 単位 |
|--|--|------|--------|-----|-------|
| (科目英名) | Advanced Analysis of Functional Brain Images | 後期 | 集中 | | U0503 |
| 担当教員 | 菊池 吉晃、妹尾淳史、月本洋、則内まどか、元村祐貴 | | | | |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | <p>①機能的磁気共鳴画像法(fMRI)や拡散テンソル画像の撮像原理・方法について理解する。また、SPM(statistical parametric mapping)を用いた脳画像データの解析について理解を深めるとともに実践的能力を獲得する。</p> <p>②最先端の脳機能研究において不可欠な機能的磁気共鳴画像法(fMRI: functional magnetic resonance imaging)や拡散テンソルなどの脳機能画像解析に関する基礎的原理・方法を理解するとともに、実践的能力を獲得する。</p> <p>③機能的磁気共鳴画像法(fMRI)や拡散テンソル画像の撮像原理・方法についての講義を行う。</p> <p>また、SPM(statistical parametric mapping)や MRICro などのフリーソフトを用いた脳画像データの解析についての理解を深めるとともにこれらのソフトウェアを用いた脳機能画像解析における実践的能力を獲得する。</p> <p>さらに、統計学の基礎から一般線型モデル(GLM: general linear model)に至る講義を通して、SPM による脳機能画像解析の原理を理解する。</p> <p>脳機能画像解析科学に関する講義のほか、可能であれば実習をおこなう。スケジュールについては、受講者の予定を十分に配慮し、一部、集中講義で行う。</p> <p>④自身で最新の研究論文を調査し、実践的に解析の練習をおこなう。</p> <p>⑤「脳機能画像解析入門 SPM で fMRI 拡散テンソルを使いこなす」、医歯薬出版、2007。 「SPM8 脳画像解析マニュアル」、医歯薬出版、2014。</p> <p>⑥出席状況や講義などにおける意欲、レポート内容などについて評価する。</p> <p>⑦メールでの対応、および必要に応じて面談日程の調整の上、面談を実施する。</p> <p>⑧講義日程・時間に関しては、受講者の予定を配慮し柔軟に調整する。基本的に集中で行う。</p> | | | | |

博士前期課程・フロンティアヘルスサイエンス学域

| | | | | | |
|--|--|------|--------|-------|------|
| 授業科目名 | 認知神経科学特論演習 I | 配当年次 | 1, 2 年 | 単位数 | 2 単位 |
| (科目英名) | Advanced Cognitive Neuroscience, Practicum I | 前期 | 集中 | U0505 | |
| 担当教員 | 菊池吉晃、則内まどか | | | | |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①受講者自らの認知神経科学に関する課題を設定し、同課題に関する研究を実践するための基礎をつくる。 ②認知神経科学特論の学修内容を基礎とし、先端的な認知神経科学研究の方法論についての基礎的・理解を深める。 ③認知神経科学特論の講義内容を基礎とし、認知神経科学における研究テーマに関する議論を行う。また、基礎的研究能力を獲得するために、機能的磁気共鳴画像法(fMRI: functional magnetic resonance imaging)などの非侵襲的脳機能イメージング法に関する原理や操作方法を学習する。そして、受講者の設定した研究課題遂行のために基礎的な試行を行う。また、必要に応じて、国際雑誌に掲載されている研究論文やレビューに関する講読・議論などを行う。研究室での認知神経科学における研究テーマに関する議論に加えて、実際にfMRI装置などを活用した認知神経科学的観点から基礎実験を行う。 ④自身で最新の研究論文を調査し、自身の研究計画について充分検討をおこなう。 ⑤「脳機能画像解析入門 SPM で fMRI 拡散テンソルを使いこなす」医歯薬出版株式会社、2007。また必要に応じて、国際雑誌に掲載されている研究論文・レビューを資料とする。 ⑥出席や演習に対する意欲、そして議論の内容、研究実践能力などについて評価する。 ⑦メールでの対応、および必要に応じて面談日程調整の上、面談を実施する。 ⑧講義日程・時間については受講者の予定を十分に配慮する。基本的に集中で行う。 | | | | |

| | | | | | |
|--|--|------|--------|-------|------|
| 授業科目名 | 認知神経科学特論演習 II | 配当年次 | 1, 2 年 | 単位数 | 2 単位 |
| (科目英名) | Advanced Cognitive Neuroscience, Practicum II | 後期 | 集中 | U0557 | |
| 担当教員 | 菊池吉晃、則内まどか | | | | |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①受講者自らの認知神経科学に関する課題を設定し、同課題に関する研究を実践するための能力を得る。 ②認知神経科学特論の学修内容を基礎とし、先端的な認知神経科学研究の方法論についての実践的理解を深めるとともに、認知神経科学における受講者自身の研究課題を実践できる能力を獲得する。 ③認知神経科学特論の講義内容を基礎とし、認知神経科学における研究テーマに関する議論を行う。また、実践的研究能力を獲得するために、機能的磁気共鳴画像法(fMRI: functional magnetic resonance imaging)などの非侵襲的脳機能イメージング法に関する研究応用について学習する。そして、受講者の設定した研究課題遂行のために基礎的な試行を行う。また、必要に応じて、国際雑誌に掲載されている研究論文やレビューに関する講読・議論などをおこなう。研究室での認知神経科学における研究テーマに関する議論に加えて、実際にfMRI装置などを活用した認知神経科学的観点から実験を行う。 ④最新の研究論文を調査し、自身の研究について熟慮・検討をおこなう。 ⑤「脳機能画像解析入門 SPM で fMRI 拡散テンソルを使いこなす」医歯薬出版株式会社、2007。また必要に応じて、国際雑誌に掲載されている研究論文・レビューを資料とする。 ⑥出席や演習に対する意欲、そして議論の内容、研究実践能力などについて評価する。 ⑦メールでの対応、および必要に応じて面談日程の上、面談を実施する。 ⑧講義日程・時間については受講者の予定を十分に配慮する。基本的に集中で行う。 | | | | |

| | | | | | |
|---|--|------|--------|-----|-------|
| 授業科目名 | 生体運動学特論 I | 配当年次 | 1, 2 年 | 単位数 | 2 単位 |
| (科目英名) | Advanced Cell and Organ Motility I | 前期 | 月曜 | 5 限 | U0563 |
| 担当教員 | 渡辺賢 | | | 6 限 | U0564 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 | ①興奮性細胞の細胞内・細胞間情報伝達機構、細胞運動および筋肉細胞収縮の生理・病態生理について、分子・細胞・組織の各レベルから講義を行う。 ②授業の目的と到達目標: 興奮性細胞・筋肉細胞の細胞内機構と機能の連関を理解する。 修得できる知識 a.細胞膜の性質を理解できる。b.細胞内情報伝達機構を概説できる。c.細胞間情報伝達機構を概説できる。d.細胞骨 | | | | |

博士前期課程・フロンティアヘルスサイエンス学域

| | |
|---|---|
| <p>③授業計画・内容 授業方法</p> <p>④授業外学習</p> <p>⑤テキスト・参考書等</p> <p>⑥成績評価方法</p> <p>⑦質問受付方法 (オフィスアワー)</p> <p>⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)</p> | <p>格とその構成タンパク質について概説できる。e.細胞骨格が細胞構造の変形・維持に果たす役割を概説できる。 習得可能な能力 a.生体現象を分析に捉えると共に、それらを再構築して全体像を把握する力。 b.論理的にものを考え、纏める力。</p> <p>③授業計画 項目 1 総論(興奮性膜の生理学) 項目 2 細胞間情報伝達 項目 3 細胞骨格と構成タンパク質 項目 4 細胞骨格と細胞構造 授業方法 講義を中心に行うが、セミナー形式も時に実施する。</p> <p>④参考文献を適宜紹介するので、それらを熟読する。</p> <p>⑤特に定めない。セミナー形式も時に実施する。</p> <p>⑥受講態度(約40%)並びにレポート(約60%)などを総合し評価する。</p> <p>⑦質問、連絡等は masaru あと tmu.ac.jp に連絡願います。原則的には48時間以内に返信致します。 註:「あと」は@ (半角文字)に変換してください。</p> <p>⑧講義日程・時間については受講者の予定を十分に配慮し、時に集中講義形式で授業を行うことがある。又、教員出張等により授業日時を変更する場合があります。</p> |
|---|---|

| 授業科目名 | 生体運動学特論Ⅱ | 配当年次 | 1, 2 年 | 単位数 | 2 単位 |
|--------|-------------------------------------|------|--------|-----|-------|
| (科目英名) | Advanced Cell and Organ Motility II | 後期 | 月曜 | 5 限 | U0565 |
| 担当教員 | 渡辺賢 | | | 6 限 | U0566 |

| | |
|---|---|
| <p>①授業方針・テーマ</p> <p>②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標</p> <p>③授業計画・内容 授業方法</p> <p>④授業外学習</p> <p>⑤テキスト・参考書等</p> <p>⑥成績評価方法</p> <p>⑦質問受付方法 (オフィスアワー)</p> <p>⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)</p> | <p>①興奮性細胞の細胞内・細胞間情報伝達機構、細胞運動および筋肉細胞収縮の生理・病態生理について、分子・細胞・組織の各レベルから講義を行う。</p> <p>②授業の目的と到達目標 興奮性細胞・筋肉細胞の細胞内機構と機能の連関を理解する。 修得できる知識 a.細胞膜の性質を理解できる。b.細胞内情報伝達機構を概説できる。c.細胞間情報伝達機構を概説できる。d.細胞骨格とその構成タンパク質について概説できる。e.細胞骨格が細胞構造の変形・維持に果たす役割を概説できる。 習得可能な能力 a.生体現象を分析に捉えると共に、それらを再構築して全体像を把握する力。 b.論理的にものを考え、纏める力。</p> <p>③授業計画 生体運動学特論(Ⅰ)から続く(項目5からを予定) 項目 1 総論(興奮性膜の生理学)、項目 2 細胞間情報伝達 項目 3 細胞骨格と構成タンパク質、項目 4 細胞骨格と細胞構造 項目 5 筋肉細胞の一般性と臓器特異性、項目 6 筋細胞の構造、項目 7 興奮収縮連関、 項目 8 筋収縮の分子メカニズム、項目 9 筋収縮とエネルギー、項目 10 筋収縮と運動・疲労、 項目 11 平滑筋と心筋 項目 12 筋と病気、 項目 13 細胞運動各論(特に神経細胞における細胞運動について) 授業方法 講義を中心に行うが、セミナー形式も時に実施する。</p> <p>④参考文献を適宜紹介するので、それらを熟読する。</p> <p>⑤特に定めない。資料を講義時に配付する。</p> <p>⑥受講態度(約40%)並びにレポート(約60%)などを総合し評価する。</p> <p>⑦質問、連絡等は masaru あと tmu.ac.jp に連絡願います。原則的には48時間以内に返信致します。 註:「あと」は@ (半角文字)に変換してください。</p> <p>⑧講義日程・時間については受講者の予定を十分に配慮し、時に集中講義形式で授業を行うことがある。又、教員出張等により授業日時を変更する場合があります。なお本科目の履修には、原則として生体運動学特論(Ⅰ)の単位を修得していることが望ましい。</p> |
|---|---|

博士前期課程・フロンティアヘルスサイエンス学域

| | | | | | |
|--|---|------|-------------|-------|-------|
| 授業科目名 | 生体運動学特論演習 I | 配当年次 | 1, 2 年 | 単位数 | 2 単位 |
| (科目英名) | Advanced Cell and Organ Motility, Practicum I | 前期 | 土曜 | 1-2 限 | U0576 |
| 担当教員 | 渡辺賢 | | 集中講義(夜間開講分) | | U0577 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | <p>①生体運動学の基礎事項や病態生理について実験データ等を紹介しつつ演習を行う。</p> <p>②授業の目的・到達目標 生体運動に関わる構造と機能の関連を、生理学、薬理学、病態生理学、体力科学等の多角的観点から学ぶ。 習得可能な能力 a.生体現象を分析に捉えると共に、それらを再構築して全体像を把握する力。 b.論理的にものを考え、纏める力。</p> <p>③授業計画 受講者の自主性に基づいて演習計画を組み立てる。現在、以下の項目を演習することを考えている。 1. 活動電位発生のメカニズム 2. シナプス伝達の基礎 3. 神経ネットワーク 4. 骨格筋収縮の分子メカニズム 5. 骨格筋と生体エネルギー 授業方法 セミナー形式を主とするが、実習も時に実施する。</p> <p>④高度な内容を学びます。自己学習は必須です。参考文献を適宜紹介します。</p> <p>⑤特に定めない。</p> <p>⑥受講態度(約 40%)並びにレポート(約 60%)などを総合し評価する。</p> <p>⑦質問、連絡等は masaru あと tmu.ac.jp に連絡願います。原則的には 48 時間以内に返信致します。 註:「あと」は@ (半角文字)に変換してください。</p> <p>⑧講義日程・時間については受講者の予定を十分に配慮し、時に集中講義形式で授業を行うことがある。又、教員出張等により授業日時を変更する場合があります。なお本科目の履修には、原則として生体運動学特論を履修することが望ましい。</p> | | | | |

| | | | | | |
|--|--|------|-------------|-------|-------|
| 授業科目名 | 生体運動学特論演習 II | 配当年次 | 1, 2 年 | 単位数 | 2 単位 |
| (科目英名) | Advanced cell and Organ Motility ,Practicum II | 後期 | 土曜 | 1-2 限 | U0561 |
| 担当教員 | 渡辺賢 | | 集中講義(夜間開講分) | | U0562 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | <p>①生体運動学の基礎事項や病態生理について実験データ等を紹介しつつ演習を行う。</p> <p>②授業の目的・到達目標 生体運動に関わる構造と機能の関連を、生理学、薬理学、病態生理学、体力科学等の多角的観点から学ぶ。 習得可能な能力 a.生体現象を分析に捉えると共に、それらを再構築して全体像を把握する力。 b.論理的にものを考え、纏める力。</p> <p>③授業計画・内容 受講者の自主性に基づいて演習計画を組み立てる。現在、以下の項目を演習することを考えている。 1. 筋疲労 2. 筋損傷と再生 3. 心筋収縮メカニズムと病態 4. 平滑筋収縮メカニズムと病態 5. 筋細胞におけるリモデリング 授業方法 セミナー形式を主とするが、実習も時に実施する。 授業外学習 参考文献を適宜紹介するので、それらを熟読する。</p> <p>④高度な内容を学びます。自己学習は必須です。</p> <p>⑤特に定めない。</p> <p>⑥受講態度(約 40%)並びにレポート(約 60%)などを総合し評価する。</p> <p>⑦質問、連絡等は masaru あと tmu.ac.jp に連絡願います。原則的には 48 時間以内に返信致します。 註:「あと」は@ (半角文字)に変換してください。</p> <p>⑧講義日程・時間については受講者の予定を十分に配慮し、時に集中講義形式で授業を行うことがある。又、教員出張等により授業日時を変更する場合があります。なお本科目の履修には、原則として生体運動学特論 (II)を履修することが望ましい。</p> | | | | |

博士前期課程・フロンティアヘルスサイエンス学域

| 授業科目名 | 機能形態学特論 I | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
|--|---|------|------|-----|-------|
| (科目英名) | Advanced Functional Morphology I | 前期 | 金曜 | 6限 | U0584 |
| 担当教員 | 易勤 | | | 7限 | U0585 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①リハビリテーションの視点から人体構造の再構築を理解する。 ②リハビリテーションの念頭に置き、生理機能・病態生理などの視点から、人体構造の再構築を理解し、講義を行う。 ③講義を中心に行う同時に、セミナー形式にも実施する。 項目1 体表解剖からの人体構造 項目2 疼痛の基礎 項目3 会陰痛と陰部神経・下肢の神経 項目4 下垂手・鷲手・猿手と腕神経叢の機能形態 項目5 排尿反射・骨盤神経叢の機能形態 項目6 排便・直腸肛門の構造(二重支配) 項目7 体表静脈の形態からみた病態 項目8 リンパ回流と障害 項目9 人体解剖学見学実習 ④毎回の授業後、次回の授業の範囲を提示するので、必ず事前に予習を行い、内容を把握した上で授業に臨むこと。 ⑤特に定めない。資料を講義時に配付する。 ⑥受講態度並びにレポートなどを総合し評価する。 ⑦【オフィスアワー】:原則として金曜の4限目としますので、質問があれば研究室(385 或いは 574 室)に来てください。なお、メールによる質問は随時受け付けます。 【連絡先】:yittmniu@tmu.ac.jp ⑧講義日程・時間については受講者の予定を十分に配慮し、時に集中講義形式で授業を行うことがある。又、教員出張等により授業日時を変更する場合がある。 | | | | |

| 授業科目名 | 機能形態学特論 II | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
|--|--|------|------|-----|-------|
| (科目英名) | Advanced Functional Morphology II | 前期 | 土曜 | 1限 | U0586 |
| 担当教員 | 易勤、李小康 | | | 2限 | U0587 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①リハビリテーションの視点から人体構造の再構築を理解する。 ②リハビリテーションの念頭に置き、生理機能・病態生理などの視点から、人体構造の再構築を理解し、講義を行う。 ③講義を中心に行う同時に、セミナー形式にも実施する。 項目1 体表解剖からの人体構造 項目2 疼痛の基礎 項目3 会陰痛と陰部神経・下肢の神経 項目4 下垂手・鷲手・猿手と腕神経叢の機能形態 項目5 排尿反射・骨盤神経叢の機能形態 項目6 排便・直腸肛門の構造(二重支配) 項目7 体表静脈の形態からみた病態 項目8 リンパ回流と障害 項目9 人体解剖学見学実習 ④毎回の授業後、次回の授業の範囲を提示するので、必ず事前に予習を行い、内容を把握した上で授業に臨むこと。 ⑤特に定めない。資料を講義・実習時に配付する。 ⑥受講態度並びにレポートなどを総合し評価する。 ⑦【オフィスアワー】:原則として金曜の4限目としますので、質問があれば研究室(385 或いは 574 室)に来てください。なお、メールによる質問は随時受け付けます。 【連絡先】:yittmniu@tmu.ac.jp ⑧講義日程・時間については受講者の予定を十分に配慮し、時に集中講義形式で授業を行うことがある。又、教員出張等により授業日時を変更する場合がある。 | | | | |

博士前期課程・フロンティアヘルスサイエンス学域

| 授業科目名 | 機能形態学特論演習 I | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
|--|---|------|-------------|------|-------|
| (科目英名) | Advanced Functional Morphology, Practicum I | 後期 | 金曜 | 6-7限 | U0588 |
| 担当教員 | 易勤 | | 集中講義(夜間開講分) | | U0589 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①形態学的、免疫組織化学的な研究方法等を紹介しつつ演習を行う。 ②ヒト形態構造の理解と研究情報を収集する能力を習得することをめざす。 ③実習・実践の形式を主しながら、講義 + ゼミも時に実施する。 受講者の自主性に基づいて演習計画を組み立てる。現在、以下の項目を演習することを考えている。 1. 骨標本による骨学演習 2. ヒトの各臓器別による組織学演習 3. 動物(胎児ブタ)での解剖学実習 4. 実験動物による細胞組織学的実験演習 5. 免疫組織化学法での実験演習 6. 人体解剖学見学実習 ④毎回の授業後、次回の授業の範囲を提示するので、必ず事前に予習を行い、内容を把握した上で授業に臨むこと。 ⑤特に定めない。 ⑥受講態度並びにレポートなどを総合し評価する。 ⑦【オフィスアワー】:原則として金曜の4限目としますので、質問があれば研究室(385 或いは 574 室)に来てください。なお、メールによる質問は随時受け付けます。 【連絡先】:yittmniu@tmu.ac.jp ⑧講義日程・時間については受講者の予定を十分に配慮し、時に集中講義形式で授業を行うことがある。又、教員出張等により授業日時を変更する場合がある。 | | | | |

| 授業科目名 | 機能形態学特論演習 II | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
|--|---|------|-------------|------|-------|
| (科目英名) | Advanced Functional Morphology, Practicum II | 後期 | 土曜 | 1-2限 | U0590 |
| 担当教員 | 易勤、李小康 | | 集中講義(夜間開講分) | | U0591 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①形態学的、免疫組織化学的な研究方法等を紹介しつつ演習を行う。 ②ヒト形態構造の理解と研究情報を収集する能力を習得することをめざす。 ③実習・実践の形式を主しながら、講義 + ゼミも時に実施する。 受講者の自主性に基づいて演習計画を組み立てる。現在、以下の項目を演習することを考えている。 1. 骨標本による骨学演習 2. ヒトの各臓器別による組織学演習 3. 動物(胎児ブタ)での解剖学実習 4. 実験動物による細胞組織学的実験演習 5. 免疫組織化学法での実験演習 6. 人体解剖学見学実習 ④毎回の授業後、次回の授業の範囲を提示するので、必ず事前に予習を行い、内容を把握した上で授業に臨むこと。 ⑤特に定めない。 ⑥受講態度並びにレポートなどを総合し評価する。 ⑦【オフィスアワー】:原則として金曜の4限目としますので、質問があれば研究室(385 或いは 574 室)に来てください。なお、メールによる質問は随時受け付けます。 【連絡先】:yittmniu@tmu.ac.jp ⑧講義日程・時間については受講者の予定を十分に配慮し、時に集中講義形式で授業を行うことがある。又、教員出張等により授業日時を変更する場合がある。 | | | | |

博士前期課程・フロンティアヘルスサイエンス学域

| | | | | | |
|--|---|------|----|-----|-------|
| 授業科目名 | 地域保健活動評価論特論 | 配当年次 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Advanced Evaluation of Public Health Activity | 前期 | 火曜 | 4限 | U0578 |
| 担当教員 | 猫田泰敏 | | | 7限 | U0579 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | <p>①地域保健活動評価は、地域集団における保健ニーズの把握、設定された目的・目標を踏まえた評価計画の立案から必要なデータの収集と分析、効果判定、目的・目標の修正を含むプロセスである。統計的方法や疫学的手法を土台として、地域保健活動の評価について総合的で系統的に講義する。</p> <p>②地域保健活動内容の特性に応じた評価を地域で実践できる応用能力を習得する。</p> <p>③【授業計画・内容】 第1～5回：評価の考え方、基本的要素、プロセスについて学習する。 第6～8回：評価デザインの種類、内容、手順について学習する。 第9・10回：評価指標の考え方を踏まえ自身で指標を設定する方法を学習する。 第11・12回：評価デザインに応じた情報の収集・分析方法を学習する。 第13～15回：評価事例に基づいて評価の実際について理解を深める。 第16回：試験</p> <p>【授業方法】 ・授業は学生が主体的に展開する。 ・各学生が、それぞれの授業時間の課題を分担し、その授業時間のリーダーシップをとる。 ・各学生は教員と十分に事前の打ち合わせを行い、授業が効果的に進むよう準備する。</p> <p>④普段の保健活動(種専門職としての実践活動を含む)において本学習内容と関連のある事柄に積極的に目を向け、授業で身につけた方法を適用する習慣を身につけること。</p> <p>⑤授業時に指示する。</p> <p>⑥授業の準備状況(40%)、討論参加程度(40%)、試験(レポートの提出、20%)によって評価する。</p> <p>⑦オフィスアワーは特に設けませんが、メールによる質問や連絡を随時受け付けます。連絡先は nekoda@tmu.ac.jp まで。</p> | | | | |

| | | | | | |
|--|--|------|------|-----|-------|
| 授業科目名 | 保健情報管理論 | 配当年次 | 1,2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Health Information Management | 後期 | 金曜 | 5限 | U0580 |
| 担当教員 | 猫田泰敏 | | | 6限 | U0581 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | <p>①保健情報の特性、保健情報の作成、管理、保健情報を扱う場合の倫理的配慮などについて系統的に講義する。また、情報の管理について、SASを用いた方法について実践的に指導する。</p> <p>②保健情報の管理(看護情報を含む)についての知識、理解力が身につく。</p> <p>③【授業計画・内容】 第1・2回：保健情報学の構成と内容について学習する。 第3・4回：保健情報の特性について学習する。 第5・6回：保健情報の管理のあり方や倫理的配慮について学習する。 第7～15回：SASによる情報管理の実践的な方法について学習する。 第16回：試験</p> <p>【授業方法】 ・授業は講義形式で行い、一部、演習を含める。 ・授業は学生が主体的に展開する。</p> <p>④普段の保健活動(種専門職としての実践活動を含む)において本学習内容と関連のある事柄に積極的に目を向け、授業で身につけた学習内容を適用する習慣を身につけること。</p> <p>⑤自作のテキスト、ハンドアウトを配布する。</p> <p>⑥授業の準備状況(40%)、討論参加程度(40%)、試験(レポートの提出、20%)によって評価する。</p> <p>⑦オフィスアワーは特に設けませんが、メールによる質問や連絡を随時受け付けます。連絡先は nekoda@tmu.ac.jp まで。</p> <p>⑧事前に学習すべき科目(情報管理概論、SAS概論等)として指摘する科目は特にない。初心者であることを前提とする。</p> | | | | |

博士前期課程・フロンティアヘルスサイエンス学域

| 授業科目名 | 地域保健活動評価論特論演習 I | 配当年次 | 1 年 | 単位数 | 2 単位 |
|--|---|------|-----|-----|-------|
| (科目英名) | Advanced Evaluation of Public Health Activity, Practicum I | 前期 | 集中 | | U0582 |
| 担当教員 | 猫田泰敏 | | | | |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | <p>①地域保健の対象となるモデル的な集団を設定し、その集団に関するデータを用いて、地区及び集団の保健ニーズや評価指標をコンピュータにより疫学的手法を適用して解析することを通じて、保健計画づくりのための基礎的資料の作成等を実践する。</p> <p>②地域保健活動評価のための基礎的な技法の習得し、評価する実践的能力が身に付く。</p> <p>③【授業計画・内容】 第1～15回: 個々の学生が、教員から提供されたモデル集団のデータにもとづいて、課題に対応して適切な分析方針を立案し、適切に分析を進め、結果の評価を行うという演習を実施する。 第16～30回: 一連の評価実施の過程において、データの型を生かした分析方法の選択、分析結果の解釈について学習する。 第31回: 試験 【授業方法】 ・授業は学生が主体的に展開する。 ・まず、データの内容や質に応じて、分析の方針を立て、析手法の選択と分析結果の解釈を行う。 ・演習が効果的に進むよう、実施過程において討論を行う。</p> <p>④普段の保健活動(種専門職としての実践活動を含む)において本学習内容と関連のある事柄に積極的に目を向け、授業で身につけた方法を適用する習慣を身につけること。</p> <p>⑤なし</p> <p>⑥授業の準備状況(40%)、討論参加程度(40%)、試験(レポートの提出、20%)によって評価する。</p> <p>⑦オフィスアワーは特に設けませんが、メールによる質問や連絡を随時受け付けます。連絡先は nekoda@tmu.ac.jp まで。</p> <p>⑧地域保健活動評価論特論で学んだ知識を毎回の演習の進行に合わせて再学習すること。</p> | | | | |

| 授業科目名 | 地域保健活動評価論特論演習 II | 配当年次 | 1 年 | 単位数 | 2 単位 |
|--|--|------|-----|-----|-------|
| (科目英名) | Advanced Evaluation of Public Health Activity, Practicum II | 後期 | 集中 | | U0583 |
| 担当教員 | 猫田泰敏 | | | | |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | <p>①地域保健の対象となるモデル的な集団を設定し、その集団に関するデータを用いて、地域保健活動の効果判定の実施等を実践する。</p> <p>②地域保健活動評価のための実践的な技法の修得するとともに、評価する能力が向上する。</p> <p>③【授業計画・内容】 第1～15回: 個々の学生が、教員から提供されたモデル集団のデータにもとづいて、課題に対応して適切な分析方針を立案し、適切に分析を進め、結果の評価を行うという演習を実施する。 第16～30回: 一連の評価実施の過程において、データの型を生かした分析方法の選択、分析結果の解釈について学習する。 第31回: 試験 【授業方法】 ・授業は学生が主体的に展開する。 ・データの内容や質に応じて、分析の方針を立てる。そして、分析を実施し、結果の解釈を行う。 ・演習が効果的に進むよう、実施過程において討論を行う。</p> <p>④普段の保健活動(種専門職としての実践活動を含む)において本学習内容と関連のある事柄に積極的に目を向け、授業で身につけた方法を適用する習慣を身につけること。</p> <p>⑤なし</p> <p>⑥授業の準備状況(40%)、討論参加程度(40%)、試験(レポートの提出、20%)によって評価する。</p> <p>⑦オフィスアワーは特に設けませんが、メールによる質問や連絡を随時受け付けます。連絡先は nekoda@tmu.ac.jp まで。</p> <p>⑧地域保健活動評価論特論で学んだ知識を毎回の演習の進行に合わせて再学習すること。</p> | | | | |

博士前期課程・フロンティアヘルスサイエンス学域

| 授業科目名 | 医科学英語プレゼンテーションスキル I | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
|--|--|------|------|-----|-------|
| (科目英名) | English Presentation Skills for Medical Science I | 前期 | 木曜 | 6限 | U0525 |
| 担当教員 | James Baldwin | | | 7限 | U0526 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | <p>①This course is designed to prepare students for the task of giving academic presentations. To achieve this goal, the course will focus on practicing a variety of skills and strategies that students need to become more effective presenters.</p> <p>②The goal of this course is to introduce graduate students to the basic skills of giving oral presentations in English.</p> <p>③授業計画・内容: 1. Course objectives and introductions; Self-introduction speech assignment 1 2. Self-introduction speeches; Informative presentation assignment 2 3. Structure: the introduction, body, transitions, and conclusion; Informative presentation preparation 4. Physical skills: posture, eye contact, gestures, and voice inflection; Submit presentation script 5. Informative presentation editing; Delivery practice 6. Informative presentations; Demonstration presentation assignment 3 7. Using transitions and sequence words; Demonstration presentation preparation 8. Designing effective visuals; Explaining visuals; Submit presentation script 9. Demonstration presentation script and slides editing; Delivery practice 10. Demonstration presentations; Persuasive presentation assignment 4 11. Comparing and contrasting; Using conjunctions and linking words; Submit topic and main points 12. Persuasive presentation preparation and instructor feedback; Submit presentation script 13. Persuasive presentation script and slides editing; Delivery practice 14. Final presentations 15. Final presentations Note: Syllabus may change according to class needs.</p> <p>講義の進行方法・学修研究の方法等: Students will be actively engaged in tasks designed to improve their communication with the audience. Working both in small groups and on a one-to-one basis with the instructor, students will practice organizing, writing, and delivering presentations. Peer-evaluation and feedback are important parts of the learning process.</p> <p>④Presentation assignment guidelines will be provided for students to do weekly preparation work outside of class.</p> <p>⑤Materials will be provided by the instructor. Students should prepare an A-4 size file folder to keep documents in order for future reference.</p> <p>⑥Students will be evaluated on attendance (15%), class participation (15%), written assignments (30%), and oral presentations (40%). *Students must attend 2/3 of the classes in order to be eligible for credit (1 late = ½ absence). *Plagiarism in any form is strictly unacceptable and may result in course failure.</p> <p>⑦Students may contact the instructor by email at: jamesdbaldwin39@gmail.com</p> | | | | |

| 授業科目名 | 医科学英語プレゼンテーションスキル II | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
|---|--|------|------|-----|-------|
| (科目英名) | English Presentation Skills for Medical Science I | 後期 | 木曜 | 6限 | U0527 |
| 担当教員 | James Baldwin | | | 7限 | U0528 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 | <p>①In addition to reviewing and strengthening fundamental English presentation skills, students will focus on preparing and delivering more advanced presentations related to their specific fields of study.</p> <p>②This course is designed to follow English Presentation Skills for Medical Science I and aims to further prepare graduate students for the task of giving oral presentations in English.</p> <p>③授業計画・内容: 1. Course objectives; Descriptive presentation assignment 1 guidelines; Organizational strategies 2. Introducing and explaining the function or purpose of an object and its parts; Avoiding plagiarism: summarizing and paraphrasing 3. Making and explaining visuals; Checking for understanding; Submit presentation script 4. Descriptive presentation editing; Delivery practice 5. Descriptive presentations 1; Explaining a process or procedure assignment 2 guidelines</p> | | | | |

博士前期課程・フロンティアヘルスサイエンス学域

| | |
|--|--|
| <p>④授業外学習</p> <p>⑤テキスト・参考書等</p> <p>⑥成績評価方法</p> <p>⑦質問受付方法 (オフィスアワー)</p> <p>⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)</p> | <p>6. Descriptive presentations 2</p> <p>7. Providing background information; Linking words; Verb tense, voice (active vs. passive), and the imperative</p> <p>8. Explaining a process or procedure presentation preparation; Submit presentation script</p> <p>9. Explaining a process or procedure presentation editing; Delivery practice</p> <p>10. Explaining a process or procedure presentations 1; Problem-Solution presentation assignment 3 guidelines</p> <p>11. Explaining a process or procedure presentations 2</p> <p>12. Problem-Solution presentation structure: preparing the situation, problem, solution/response, and evaluation sections; Signalling problems and solutions; Listing strategies; Providing evidence</p> <p>13. Evaluating advantages and disadvantages of a solution/response; Delivery practice</p> <p>14. Problem-Solution final presentations</p> <p>15. Problem-Solution final presentations; Submit presentation script</p> <p>Note: Syllabus may change according to class needs.</p> <p>講義の進行方法・学修研究の方法等 : Students will be actively engaged in tasks designed to improve their communication with the audience. Working both in small groups and on a one-to-one basis with the instructor, students will practice organizing, writing, and delivering presentations. Peer-evaluation and feedback are important parts of the learning process.</p> <p>④Presentation assignment guidelines will be provided for students to do weekly preparation work outside of class.</p> <p>⑤Materials will be provided by the instructor. Students should prepare a file folder to keep documents in order for future reference.</p> <p>⑥Students will be evaluated on attendance (15%), class participation (15%), written assignments (30%), and oral presentations (40%).</p> <p>*Students must attend 2/3 of the classes in order to be eligible for credit (1 late = ½ absence).</p> <p>*Plagiarism in any form is strictly unacceptable and may result in course failure.</p> <p>⑦Students may contact the instructor by email at: jamesdbaldwin39@gmail.com</p> <p>⑧As a course prerequisite, students must have successfully completed “English Presentation Skills for Medical Science I” in order to enroll in this course.</p> |
|--|--|

科目一覧(ヘルスプロモーションサイエンス学域)

| 授業科目名 | 配当年次 | 開講期 | 単位数 | 備考 |
|-------------------------|------|-------|-----|----------------------------|
| ヘルスプロモーションサイエンス特別研究 a | 最終学年 | 前期・後期 | 4 | |
| ヘルスプロモーションサイエンス特別研究 b | 最終学年 | 後期・前期 | 4 | |
| ヘルスプロモーションサイエンス研究法 I | 1年 | 前期 | 2 | |
| ヘルスプロモーションサイエンス研究法 II | 1年 | 後期 | 2 | |
| ヘルスプロモーションサイエンス実験・調査 I | 1年 | 前期 | 2 | |
| ヘルスプロモーションサイエンス実験・調査 II | 1年 | 後期 | 2 | |
| 適応科学特別講義 | 1、2年 | 集中 | 1 | |
| 行動科学特別講義 | 1、2年 | 集中 | 1 | |
| 栄養・食品科学特別講義 | 1、2年 | 集中 | 1 | 2019年度不開講 |
| 運動分子生物学特論 | 1、2年 | 前期 | 2 | |
| 細胞生物学特論 | 1、2年 | 前期 | 2 | |
| 運動生理学特論 | 1、2年 | 集中 | 2 | ※専攻共通科目 |
| 行動生理学特論 | 1、2年 | 前期 | 2 | 奇数年度開講 2019年度開講 |
| 身体運動学特論 | 1、2年 | 前期 | 2 | 2019年度不開講 |
| 適応科学演習 I | 1年 | 前期 | 1 | |
| 適応科学演習 II | 1年 | 後期 | 1 | |
| 適応科学演習 III | 2年 | 前期 | 1 | |
| 適応科学演習 IV | 2年 | 後期 | 1 | |
| 神経科学特論 | 1、2年 | 前期 | 2 | 偶数年度開講 2019年度不開講 |
| 認知行動学特論 | 1、2年 | 後期 | 2 | ※専攻共通科目 奇数年度開講 2019年度開講 |
| スポーツ神経科学特論 | 1、2年 | 後期 | 2 | |
| 行動科学演習 I | 1年 | 前期 | 1 | |
| 行動科学演習 II | 1年 | 後期 | 1 | |
| 行動科学演習 III | 2年 | 前期 | 1 | |
| 行動科学演習 IV | 2年 | 後期 | 1 | |
| 食品化学特論 | 1、2年 | 集中 | 2 | 2019年度不開講 |
| 食品生物活性特論 | 1、2年 | 前期 | 2 | 偶数年度開講 2019年度不開講 |
| 栄養生化学特論 | 1、2年 | 前期 | 2 | 2019年度不開講 |
| 栄養・食品科学演習 I | 1年 | 前期 | 1 | |
| 栄養・食品科学演習 II | 1年 | 後期 | 1 | |
| 栄養・食品科学演習 III | 2年 | 前期 | 1 | |
| 栄養・食品科学演習 IV | 2年 | 後期 | 1 | |

＜博士前期課程＞

| 区分 | 授業科目名 | 単位数 | 適応科学分野 | 行動科学分野 | 栄養・食品科学分野 |
|----------------|-------------------------|---------|--------|--------|-----------|
| 分野 共通 科目 | ヘルスプロモーションサイエンス特別研究 a | 4 | ◎ | ◎ | ◎ |
| | ヘルスプロモーションサイエンス特別研究 b | 4 | ◎ | ◎ | ◎ |
| | ヘルスプロモーションサイエンス研究法 I | 2 | ◎ | ◎ | ◎ |
| | ヘルスプロモーションサイエンス研究法 II | 2 | ◎ | ◎ | ◎ |
| | ヘルスプロモーションサイエンス実験・調査 I | 2 | ◎ | ◎ | ◎ |
| | ヘルスプロモーションサイエンス実験・調査 II | 2 | ◎ | ◎ | ◎ |
| 適応科学分野 | 運動分子生物学特論 | 2 | ○ | □ | □ |
| | 細胞生物学特論 | 2 | ○ | □ | □ |
| | 運動生理学特論 | 2 | ○ | □ | □ |
| | 行動生理学特論 | 2 | ○ | □ | □ |
| | 身体運動学特論 | 2 | ○ | □ | □ |
| | 適応科学演習 I～IV | 各 1 | ◎ | □ | □ |
| | 適応科学特別講義 | 1 | ○ | ○ | ○ |
| 行動科学分野 | 神経科学特論 | 2 | □ | ○ | □ |
| | 認知行動学特論 | 2 | □ | ○ | □ |
| | スポーツ神経科学特論 | 2 | □ | ○ | □ |
| | 行動科学演習 I～IV | 各 1 | □ | ◎ | □ |
| | 行動科学特別講義 | 1 | ○ | ○ | ○ |
| 栄養・食品科学分野 | 食品化学特論 | 2 | □ | □ | ○ |
| | 食品生物活性特論 | 2 | □ | □ | ○ |
| | 栄養生化学特論 | 2 | □ | □ | ○ |
| | 栄養・食品科学演習 I～IV | 各 1 | □ | □ | ◎ |
| | 栄養・食品科学特別講義 | 1 | ○ | ○ | ○ |
| 必修 | | 20 単位 | | | |
| 選択必修 | | 4 単位以上 | | | |
| 計 | | 30 単位以上 | | | |

凡例： ◎必修 ○選択必修 □選択

博士前期課程・ヘルスプロモーションサイエンス学域

| | | | | | |
|--|--|-----------|------|-----|-------|
| 授業科目名 | ヘルスプロモーションサイエンス特別研究 a | 配当年次 | 最終学年 | 単位数 | 4 単位 |
| (科目英名) | Advanced Study in Health Promotion Science a | 前期で履修する場合 | | | U0600 |
| 担当教員 | 各教員 | 後期で履修する場合 | | | U0648 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①修士論文の完成を目指し、研究室ごとに指導教員のもとで実施する。 ②ヘルスプロモーションサイエンスに関する研究課題を設定し、研究計画の立案、データの収集と分析を通して修士論文を作成する。 ③(1)研究ミーティング:各自の実験計画や実験の進行状況、実験・測定結果の発表や解釈について議論する。 (2)論文抄読会:国内外の研究論文を中心に発表し、内容について議論する。 (3)学会発表などの資料作成:関連学会、学域内の発表会の準備、予演会。 (4)研究計画書の作成 (5)修士論文の作成 ④授業に必要な作業が授業外学習にあたる。 ⑤必要な際は随時配布する。 ⑥教育目標の達成度をもとに各教員が評価する。 ⑦特別研究の開始時に、担当教員のオフィスアワーを確認すること。その際に、連絡用の電子メールアドレスを連絡する。 ⑧前期・後期、どちらでも履修可能。 曜日・時限等の詳細は、学生から教員に相談・調整すること。 履修登録期間に、自身で登録すること。 分野共通科目は、特別研究、研究法、実験・調査から構成されている。全て必修科目であるので注意すること。 | | | | |

| | | | | | |
|--|--|-----------|------|-----|-------|
| 授業科目名 | ヘルスプロモーションサイエンス特別研究 b | 配当年次 | 最終学年 | 単位数 | 4 単位 |
| (科目英名) | Advanced Study in Health Promotion Science b | 前期で履修する場合 | | | U0649 |
| 担当教員 | 各教員 | 後期で履修する場合 | | | U0650 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①修士論文の完成を目指し研究室ごとに指導教員のもとで実施する。 ②ヘルスプロモーションサイエンスに関する研究課題を設定し、研究計画の立案、データの収集と分析を通して修士論文を作成する。 ③(1)研究ミーティング:各自の実験計画や実験の進行状況、実験・測定結果の発表や解釈について議論する。 (2)論文抄読会:国内外の研究論文を中心に発表し、内容について議論する。 (3)学会発表などの資料作成:関連学会、学域内の発表会の準備、予演会。 (4)研究計画書の作成 (5)修士論文の作成 ④授業に必要な作業が授業外学習にあたる。 ⑤必要な際は随時配布する。 ⑥教育目標の達成度をもとに各教員が評価する。 ⑦特別研究の開始時に、担当教員のオフィスアワーを確認すること。その際に、連絡用の電子メールアドレスを連絡する。 ⑧ヘルスプロモーションサイエンス特別研究 a の単位を修得した者が履修できる。 前期・後期、どちらでも履修可能。 曜日・時限等の詳細は、学生から教員に相談・調整すること。 履修登録は、論文提出を以て事務で一括で行う。(※履修登録期間の自身による履修登録は不要。) 分野共通科目は、特別研究、研究法、実験・調査から構成されている。全て必修科目であるので注意すること。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------------------|---|------|-----|-----|------|
| 授業科目名 | ヘルスプロモーションサイエンス研究法 I・II | 配当年次 | 1 年 | 単位数 | 2 単位 |
| (科目英名) | Research Methods in Health Promotion Science I・II | I | 前期 | 土曜 | 3 限 |
| 担当教員 | 各教員 | II | 後期 | | |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 | ①研究法について、「研究倫理」、「科学研究の基本原則」、「研究の進め方」、「論文投稿手順」、および「統計の概念と応用」の観点から、理解を深める機会を提供する。 ②ヘルスプロモーションサイエンスに関する研究を進める上で最低限必要な研究法について学ぶ。 | | | | |

博士前期課程・ヘルスプロモーションサイエンス学域

| | |
|--|--|
| や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ③第1回 オリエンテーション 第2回 研究倫理: 責任ある研究活動と適切なデータ管理とは 第3回 研究倫理: 研究費の仕組み 第4回 研究倫理: オナーシップ・不正防止・利益相反・メンターシップとは 第5回 研究倫理: 科学者の役割と社会への寄与 第5回 科学的研究の基本原則および研究過程の概要: 科学的研究の基本原則および研究過程の概要の理解 第6回 科学的研究の基本原則および研究過程の概要: 研究遂行の指針となる内容 第7回 科学的研究の基本原則および研究過程の概要: 研究計画書の作成上の指針 第8回 研究の進め方: 信頼性の高いデータを得るための実験の遂行 第9回 研究の進め方: 得られたデータのまとめ方 第10回 論文投稿の手順: 論文投稿・査読報告書の取り扱い 第11回 論文投稿の手順: 査読への回答の仕方(論文掲載に至るまでの一連の作業手順を理解) 第12回 統計の概念と応用: 基本的な統計法 第13回 統計の概念と応用: 相関分析と、平均値の差の検定 第14回 成果発表とディスカッション 第15回 レポートまたは試験と解説 ④授業の中で紹介する研究法に関する知識を、自らの研究にどのように応用するかについて、深く考える時間を取ること。 ⑤講義の中で紹介する。 ⑥全出席を原則とし、発表とディスカッション(50%)、レポートまたは試験(50%)から評価する。 ⑦初回の講義時に、担当教員のオフィスアワーを確認すること。その際に、連絡用の電子メールアドレスを連絡する。 ⑧分野共通科目は、特別研究、研究法、実験・調査から構成されている。全て必修科目であるので注意すること。 |
|--|--|

| 授業科目名 | ヘルスプロモーションサイエンス実験・調査 I・II | | 配当年次 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
|--|---|--|------|----|------|-------|
| (科目英名) | Experimental Methods in Health Promotion Science I・II | | I | 土曜 | 4-5限 | U0603 |
| 担当教員 | 各教員 | | II | | | 後期 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①ヘルスプロモーションサイエンス領域の主要な実験・調査法を体験する。 ②実験・調査は、適応科学分野、行動科学分野、栄養・食品科学分野の内容からなる。ヒトや実験動物を対象とした適応現象、知覚、認知、行動の情報処理、行動の生理学等に関する実験計画法および基礎的な実験手技について実習を行う。さらに、食品を科学的に捉え、生体の栄養や健康状態を判定し、健康栄養科学に関する実験計画法および基礎的な実験手法を取得する。 ③各分野の主要な内容は以下の通りである。 <適応科学> 1. 身体組成の測定法、筋・腱の構造と機能の関係、2. 安静・運動時のエネルギー代謝、血中乳酸、無酸素的パワーの測定、3. 生化学的アッセイ法、4. 呼吸・循環反応測定、5. 神経組織観察法 <行動科学> 1. 心理学的実験手法、2. 三次元動作解析、視線解析を用いた行動評価 <栄養・食品科学> 1. 食品化学的方法による食品の機能の測定・評価、2. 栄養マネジメントにおけるアセスメント手法と評価、3. 分子栄養学実験、4. 疫学的手法による解析 ④各分野で体験する実験・調査法について、自らの研究にどのように応用するかについて、深く考える時間を取ること。 ⑤適宜資料配付 ⑥授業への参加・貢献度と、レポートおよび試験で評価する。 ⑦初回の演習時に、担当教員のオフィスアワーを確認すること。その際に、連絡用の電子メールアドレスを連絡する。 ⑧主として所属研究室の実験・調査法について学習する。 分野共通科目は、特別研究、研究法、実験・調査から構成されている。全て必修科目であるので注意すること。 | | | | | |

博士前期課程・ヘルスプロモーションサイエンス学域

| 授業科目名 | 適応科学特別講義 | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 1単位 |
|--|--|------|------|-----|-------|
| (科目英名) | Special Lecture in Applied Physiology and Biochemistry | 後期 | 集中 | | U0605 |
| 担当教員 | 道川祐市(内閣府・原子力防災担当) | | | | |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | <p>①健康診断や癌の治療などに用いられる放射線は、私達の体内や大気中、地中など常に身の周りに存在している。福島原発事故により周辺地域に放射性物質がまき散らされたことで、低線量放射線による人体への影響を改めて見直そうという動きが盛んになっている。本講義では放射線見聞から現在までの人体影響研究の基礎を概略するとともに、最新の知見について解説する。</p> <p>②放射線の人体への影響に関する基礎と最新の知見を学ぶ。</p> <p>③第1回 オリエンテーション 第2回 放射線の物理的基礎 第3回 放射線の科学的基礎 第4回 放射線と人体の相互作用1 第5回 放射線と人体の相互作用2 第6回 ミニ・テスト 第7回 解説 第8回 線量効果1 第9回 線量効果2 第10回 放射線感受性1 第11回 放射線感受性2 第12回 放射線障害の再生医療1 第13回 放射線障害の再生医療2 第14回 最終テスト 第15回 解説</p> <p>【授業方法】あらかじめ講義で使用する原著英語論文を指定しておき、授業前学習の機会を提供する。講義では当該論文の内容を学生に問いながら、適宜ビデオやパワーポイントを用いて多面的かつ深い理解が可能となる。講義の最終段階で新たな課題を提示して、関連する文献調査及びレポートの作成と提出を求める。</p> <p>④講義前には英語論文の読解を要求し、講義最終段階では新規課題に対する文献調査とレポート課題作成を要求する。</p> <p>⑤適宜資料を配付</p> <p>⑥講義までの準備状況(30%)、講義における姿勢(30%)およびレポート(40%)により評価する。</p> <p>⑦初回の演習時に、担当教員のオフィスアワーを確認すること。その際に、連絡用の電子メールアドレスを連絡する。</p> <p>⑧【他の授業との関連性】分野共通科目は、特論、演習、特別講義から構成されている。選択必修科目であるが、分野内の科目をできるだけ多く受講することが望ましい。</p> <p>【質問受付方法(オフィスアワー)】随時、相談を受け付けます。電子メールでアポイントとってください。電子メール・アドレスは、第1回オリエンテーション時に連絡します。</p> | | | | |

| 授業科目名 | 行動科学特別講義 | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 1単位 |
|-----------|---|------|------|-----|-------|
| (科目英名) | Special Lecture in Perception and Motor Behavior | 前期 | 集中 | | U0606 |
| 担当教員 | 中澤公孝(東京大学大学院総合文化研究科) 高瀬堅吉(自治医科大学医学研究科) | | | | |
| ①授業方針・テーマ | <p>①ニューロリハビリテーションとは何か、ニューロリハビリテーションの技術的革新にどのような科学的根拠が必要となるのかを、脊髄損傷者のリハビリテーションの実際と、関連する基礎研究の状況を概説する。中でも脊髄神経回路が有するパターン発生能力と可塑性に関し、これまでに得られている人間および動物を対象とした研究報告を基に詳説する。また、人間を対象とした行動神経生理学的実験手法のいくつかに関し、実際のデータを紹介すると共に、それらの手法の理論と限界についても解説する。それらを通じて、ニューロリハビリテーションの技術的革新にとって関連する身体運動科学や神経科学の発達が不可欠であることの理解を促す。(中澤)</p> <p>ヒトのモデル動物であるマウス・ラットを対象とした行動アセスメントの基礎・有用性・限界などについて概説する。分子生物学の目覚ましい発展により、マウスを対象とした遺伝子改変技術が確立された。そのため、近年、行動科学分野では遺伝子改変マウスを含む、ヒトのモデル動物としてのマウスを対象とした行動アセスメント研究が数多く報告されている。また、同分野では古くからラットを対象とした行動アセスメント研究も、ヒトの行動の理解を目的として数多く実施されてきた。講義では、最新の研究成果を紹介するとともに、それらを例に、大学院生がマウス・ラットを用いた行動実験を計画・実施するために知っておくべきことを解説する。(高瀬)</p> | | | | |

博士前期課程・ヘルスポモーションサイエンス学域

| | |
|----------------------------|--|
| ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 | ②脊髄損傷者のニューロリハビリテーションとの関連から脊髄を中心とした神経生理学の基礎、およびニューロリハビリテーションに関連した運動の神経科学について学ぶ。(中澤) 本講義を通じて、モデル動物を対象とした行動アセスメントの研究現場での利用について理解し、自身の研究で活用する実践力とする。(高瀬) |
| ③授業計画・内容 授業方法 | ③主要な内容は以下のとおりである。脊髄損傷のリハビリテーション、ニューロリハビリテーションの基礎としての運動神経科学、ヒトの立位姿勢と二足歩行の制御、随意運動の制御と運動の学習、パラリンピックアスリートの脳の再編。(中澤) 1)ヒトのモデル動物として、なぜマウス・ラットを用いるのか、2)種・系統の選択について、3)行動解析をはじめるといふあたり(総論)、4)各行動課題について(各論)、5)テストバッテリーのすすめ、6)多変量解析を用いた心理的因子の抽出について講義する。(高瀬) 【授業方法】 講義にはパワーポイントを用い、適宜、学生とのディスカッションを行いながら進める。(中澤) パワーポイントによる講義中心とする。(高瀬) |
| ④授業外学習 | ④授業で扱った内容を復習するとともに、図書館やインターネット等を積極的に活用し、授業内で関心を持った話題のさらなる理解に取り組む。 |
| ⑤テキスト・参考書等 | ⑤・高瀬堅吉(監訳)トランスジェニック・ノックアウトマウスの行動解析 西村書店 ISBN:4890134271 ・高瀬堅吉(監訳)ラットの行動解析ハンドブック 西村書店 ISBN:4890134565 |
| ⑥成績評価方法 | ⑥出席および授業に取り組む態度から評価する。(中澤) 講義への取り組み(講義中の発言の回数および内容)によって総合的に評価する。(高瀬) |
| ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ⑦質問等については、メールで受け付けます。担当世話人(西島:t-nishijima@tmu.ac.jp)に質問等の内容を送ってください。 |
| ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ⑧【他の授業との関連性】分野共通科目は、特論、演習、特別講義から構成されている。選択必修科目であるが、分野内の科目をできるだけ多く受講することが望ましい。 |

| 授業科目名 | 栄養・食品科学特別講義 | 配当年次 | 1, 2年 | 単位数 | 1単位 |
|----------------------------|--|------|-------|-----|-------|
| (科目英名) | Special Lecture in Nutrition and Food Sciences | 前期 | 集中 | | U0607 |
| 担当教員 | 矢ヶ崎一三(宇都宮大学バイオサイエンス教育研究センター) | | | | |
| ①授業方針・テーマ | ①栄養素・非栄養素の生体機能解析と疾病制御-In vitro, In vivo 評価系による解析 | | | | |
| ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 | ②栄養科学・食品科学と健康の関係を理解する。 | | | | |
| ③授業計画・内容 授業方法 | ③(1) 栄養素の一例として最近話題のアミノ酸をとりあげ、細胞・生体機能におよぼす影響とその機構について In vitro, In vivo で解析した例を解説する。 (2) 生活習慣病の一つである「がん」をとりあげ、栄養素・非栄養素の作用とその機構に関し、分子・細胞・個体のレベルでの解析例について解説する。 (3) 人工透析導入の主要原因である糸球体腎炎の食事制御について作用と機構を解説する。 (4) がんや腎炎に付随する高脂血症の栄養制御とその機構の解析例について解説する。 | | | | |
| ④授業外学習 | ④次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。 | | | | |
| ⑤テキスト・参考書等 | ⑤PPT やプリントを用いて講義します。参考書は、あえていうなら、Harper7s Biochemistry, 26th edition) | | | | |
| ⑥成績評価方法 | ⑥平常点(20%)とレポート(80%)で評価する。 | | | | |
| ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ⑦質問等については、メールで受け付けます。担当世話人の篠田(sshinoda at tmu.ac.jp)へ質問等を送って下さい。 | | | | |
| ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ⑧【他の授業との関連性】分野科目は、特論、演習、特別講義から構成されている。選択必修科目であるが、分野内の科目をできるだけ多く受講することが望ましい。 2019年度不開講。 | | | | |

| 授業科目名 | 運動分子生物学特論 | 配当年次 | 1, 2年 | 単位数 | 2単位 |
|----------------------------|--|------|-------|-----|-------|
| (科目英名) | Molecular Biology of the Exercise | 前期 | 火曜 | 7限 | U0608 |
| 担当教員 | 藤井宣晴 | | | | |
| ①授業方針・テーマ | ①運動が生体を構成する細胞にどのような働きかけをするのか、そして細胞はそれに対してどのような応答をするのかを、分子生物学の視点から理解する。 | | | | |
| ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 | ②分子生物学の基礎を習得できる。その基礎を用いて、運動によって生じる内部環境の適応動態を理解する能力を身につけることができる。 | | | | |

博士前期課程・ヘルスプロモーションサイエンス学域

| | |
|---|--|
| <p>③授業計画・内容 授業方法</p> <p>④授業外学習</p> <p>⑤テキスト・参考書等</p> <p>⑥成績評価方法</p> <p>⑦質問受付方法 (オフィスアワー)</p> <p>⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)</p> | <p>③第 1 回 オリエンテーション：本講義の概要と目的、成績評価の方法などを説明</p> <p>第 2 回 細胞とは何か</p> <p>第 3 回 細胞に対する運動のアクション</p> <p>第 4 回 タンパク質の構造と機能</p> <p>第 5 回 タンパク質の構造と機能に対する運動のアクション</p> <p>第 6 回 DNA・染色体・ゲノム</p> <p>第 7 回 DNA・染色体・ゲノムに対する運動のアクション</p> <p>第 8 回 遺伝子発現の調節</p> <p>第 9 回 遺伝子発現の調節に対する運動のアクション</p> <p>第 10 回 細胞内で使用されるエネルギー</p> <p>第 11 回 細胞内で使用されるエネルギーに対する運動のアクション</p> <p>第 12 回 細胞内情報伝達</p> <p>第 13 回 細胞内情報伝達に対する運動のアクション</p> <p>第 14 回 タンパク質・DNA・RNA の操作</p> <p>第 15 回 まとめと期末試験</p> <p>【授業方法】授業の冒頭で講義内容に関するクイズに筆記で回答する。授業終了時にその回答を再確認し、授業を受ける前と比べて自分が得た知識やセンスがどのくらいあるかをチェックする。また一方向の講義ではなく、ディスカッションを多用する参加型の講義を行う。</p> <p>④毎回レポートが課される。レポートの作成が、授業の予習・復習となる。</p> <p>⑤適宜、授業内で紹介する。</p> <p>⑥授業での議論のアクティビティとクオリティ(50%)、およびレポート(50%)で評価</p> <p>⑦随時、相談を受け付けます。電子メールでアポイントとってください。電子メール・アドレスは、第 1 回オリエンテーション時に連絡します。</p> <p>⑧受講生の人数や社会人学生の受講状況等を考慮し、定期開講を集中授業に振り替えることもあるので、受講希望者は前もって授業担当者に連絡すること。</p> <p>【他の授業との関連性】分野別科目は、特論、演習、特別講義から構成されている。選択必修科目であるが、分野内の科目をできるだけ多く受講することが望ましい。</p> <p>【関連授業】細胞生物学特論</p> |
|---|--|

| | | | | | |
|--------|--------------|------|-------|-----|-------|
| 授業科目名 | 細胞生物学特論 | 配当年次 | 1、2 年 | 単位数 | 2 単位 |
| (科目英名) | Cell Biology | 前期 | 月曜 | 7 限 | U0651 |
| 担当教員 | 眞鍋康子 | | | | |

| | |
|---|--|
| <p>①授業方針・テーマ</p> <p>②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標</p> <p>③授業計画・内容 授業方法</p> <p>④授業外学習</p> <p>⑤テキスト・参考書等</p> <p>⑥成績評価方法</p> | <p>①細胞がどのような構造・働きをもっているのか、1 つの細胞は様々な環境や刺激にどのように応答するか、その応答が生体としてどのようなアウトプットになるのか、を理解する。</p> <p>②細胞生物学の基礎を学ぶ</p> <p>③第 1 回 オリエンテーション</p> <p>第 2 回 細胞の構造</p> <p>第 3 回 細胞の機能</p> <p>第 4 回 細胞同士の情報伝達</p> <p>第 5 回 細胞内の情報伝達</p> <p>第 6 回 臓器間連関</p> <p>第 7 回 代謝調節</p> <p>第 8 回 再生と幹細胞</p> <p>第 9 回 骨格筋の再生</p> <p>第 10 回 代謝と疾病</p> <p>第 11 回 細胞生物学と医療</p> <p>第 12 回 最新の研究を読み解く(テーマの選択)</p> <p>第 13 回 最新の研究を読み解く(内容の解釈)</p> <p>第 14 回 最新の研究を読み解く(自分の研究との関連性)</p> <p>第 15 回 まとめ</p> <p>【授業方法】本授業は受講者の積極的なディスカッションが求められる他、講義を通して、少なくとも 1 回以上のプレゼンテーションを担当する。また、発表者以外の受講者は授業内で、積極的な質問や議論など、発言することが求められる。</p> <p>④授業は連続した内容になるので、復習しておくこと。ミニレポートなど課題の時間は各自で確保すること。</p> <p>⑤適宜配布</p> <p>⑥授業での議論のアクティビティとクオリティ(50%)、およびレポート(50%)で評価</p> |
|---|--|

博士前期課程・ヘルスポモーションサイエンス学域

| | |
|--|--|
| ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ⑦オフィスアワーは特に設けないが、随時、メールで質問・相談可能 (ymanabe@tmu.ac.jp)。 ⑧受講生の人数や社会人学生の受講状況等を考慮し、定期開講を集中授業に振り替えることもある。受講希望者は、事前に口頭またはメール (ymanabe@tmu.ac.jp) で必ず連絡すること。 【他の授業との関連性】分野共通科目は、特論、演習、特別講義から構成されている。選択必修科目であるが、分野内の科目をできるだけ多く受講することが望ましい。 |
|--|--|

| 授業科目名 | 運動生理学特論 | 配当年次 | 1, 2年 | 単位数 | 2単位 |
|--|--|------|-------|-----|-------|
| (科目英名) | Exercise Physiology | 前期 | 集中 | 6限 | U0609 |
| 担当教員 | 三浦進司(静岡県立大学食品栄養科学部) | | | | |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①運動の効果をも分子レベルで理解し、健康の保持・増進との関連性を理解する。 ②運動による生体反応と生体適応のメカニズムを理解し、健康の保持・増進への運動の役割について理解できる。 ③第1回 オリエンテーション:本講義の概要、目的、成績評価の方法などを説明 第2回 運動と健康(1) 第3回 運動と健康(2) 第4回 運動と骨格筋 PGC-1 α 第5回 運動生理学に関する最新の知見 第6回 運動と代謝および骨格筋適応反応の分子制御(導入) 第7回 運動に対する骨格筋適応反応 第8回 骨格筋の構造と代謝 第9回 運動様式 第10回 急性運動に対する代謝応答 第11回 筋収縮と情報伝達(1) 第12回 筋収縮と情報伝達(2) 第13回 持久力を制御する分子 第14回 筋肥大を制御する分子 第15回 運動生理学の分子生物学的新展開と授業の総括 【授業方法】前半の講義(第1回～第5回)では、運動がどのように生体機能に影響するのかを、最新の研究成果を交えながら解説する。さらに、健康維持増進のための運動基準について解説する。授業ではパワーポイントを用い、適宜、学生とのディスカッションを行いながら進める。 後半の講義(第6回～第15回)は、下記の総説を受講者が分担を決めて独習し、その内容を元に各自発表を行う。またその内容に関連した最近の論文の内容について発表を行う。座長を受講者の中から選び、議論の組み立て・進行を行う。 ④講義前には英語論文の読解を要求し、講義最終段階では新規課題に対する文献調査とレポート課題作成を要求する。 ⑤Egan B and Zierath JR, Exercise Metabolism and the Molecular Regulation of Skeletal Muscle Adaptation. Cell Metabolism 17; 162-184 (2013) ⑥授業での議論のアクティビティとクオリティ(50%)、およびレポート(50%)で評価。 ⑦随時、相談を受け付けます。電子メールでアポイントとってください。電子メール・アドレスは、第1回オリエンテーション時に連絡します。 ⑧【他の授業との関連性】分野共通科目は、特論、演習、特別講義から構成されている。選択必修科目であるが、分野内の科目をできるだけ多く受講することが望ましい。 | | | | |

| 授業科目名 | 行動生理学特論 | 配当年次 | 1, 2年 | 単位数 | 2単位 |
|---|---|------|-------|-----|-------|
| (科目英名) | Behavioral Physiology | 前期 | 火曜 | 6限 | U0610 |
| 担当教員 | 北一郎 | | | | |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 | ①生物の行動に関わる情動、覚醒、ストレス、自律機能のはたらきについて脳・神経科学および生理学の観点から学習する。 ②行動および生体の生理機能に関わる脳内神経機構について学習する。この講義を通して、脳の活性化やリラクゼーションをコントロールし(「こころの健康」)、さらに、こころの状態と密接に関わる「健やかなからだ」の維持・増進に貢献する能力を養う。 | | | | |

博士前期課程・ヘルスポモーションサイエンス学域

| | |
|---|--|
| <p>③授業計画・内容 授業方法</p> <p>④授業外学習</p> <p>⑤テキスト・参考書等</p> <p>⑥成績評価方法</p> <p>⑦質問受付方法 (オフィスアワー)</p> <p>⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)</p> | <p>③主要な内容は以下のとおりである。</p> <p>第1回 オリエンテーション:授業計画紹介、授業目的・方法の説明 第2～3回 こころとからだの健康:脳・神経系とストレス 第4～6回 ホメオスタシスの制御機構:自律神経系、内分泌系、免疫系 第7～9回 脳神経系の基本構造と機能 第10～12回 こころの神経科学:ストレス・覚醒・気分・情動・本能・記憶を調節する脳 第13～14回 行動を調節する脳:睡眠・摂食 第15回 成績の確認、授業評価</p> <p>【授業方法】講義にはパワーポイントを用い講義を中心とした授業を実施するとともに、適宜質問を投げかけ、また参考書の読み合わせも含め学生とのディスカッションを行いながら進める。</p> <p>④授業中に出される課題や関連図書及び文献の内容について調べ、課題レポートを提出する。</p> <p>⑤資料適宜配布 参考図書:久住昌之・加藤総夫『脳天観光』(扶桑社 1996)、北一郎『図解雑学・呼吸のしくみ』(ナツメ社 2005)</p> <p>⑥全体の2/3以上の出席者を対象に出席および課題の発表内容により評価する。</p> <p>⑦オフィスアワーは特に設定しませんが、直接質問したい場合は随時受付しますので、事前にメール(kita-ichiro[at]tmu.ac.jp)でアポイントメントをとってください。</p> <p>⑧隔年開講(奇数年開講) 【他の授業との関連性】分野別科目は、特論、演習、特別講義から構成されている。選択必修科目であるが、分野内の科目をできるだけ多く受講することが望ましい。</p> |
|---|--|

| | | | | | |
|--------|-----------------------|------|-------|-----|-------|
| 授業科目名 | 身体運動学特論 | 配当年次 | 1, 2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Exercise Biomechanics | 前期 | 月曜 | 6限 | U0611 |
| 担当教員 | 山内潤一郎 | | | | |

| | |
|---|---|
| <p>①授業方針・テーマ</p> <p>②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標</p> <p>③授業計画・内容 授業方法</p> <p>④授業外学習</p> <p>⑤テキスト・参考書等</p> <p>⑥成績評価方法</p> <p>⑦質問受付方法 (オフィスアワー)</p> <p>⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)</p> | <p>①ヒト動作における筋の力学的特性と動作機能の相互メカニズムの解明に焦点を置き、ヒト動作を制御している神経伝達機構と筋力学的特性の関係を明らかにしていく。</p> <p>②ヒト動作における神経筋生理学と生物力学の基礎となるダイナミック制御機構のメカニズムを学習すること。</p> <p>③歩行などのヒト日常動作中に各筋が力を発揮し、その力学的エネルギーが腱を通して骨に伝わり目的に沿った動作を達成させている。その動作には多くの筋が関わり、それらの複雑な神経筋制御機構はヒト動作を機能的に遂行する上で重要な鍵であると考えられる。そこで、動作中の筋の生理学的特性を理解して、動作中に筋がどのように力を調節して効率的に力エネルギーを伝達して目的動作を遂行しているかを明白にしていくことは重要である。このことは、高齢者や障害者の二足動作を最適に向上させるために効果的なりハビリテーション法の確立や二足動作を支持する新しい生体工学装置の開発に役立つ。</p> <p>具体的には、以下の内容で構成し、マルチスケール対応型の思考を目指す。また、科学の成果が社会に担う役割も考えていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 筋収縮中の筋腱複合体の長さや構造的な変化、動的特性。 - 筋の活動が動作に及ぼす影響。 - エクササイズ・トレーニングが身体能力に与える影響。 <p>【授業方法】英文学術論文輪読によるオープンディスカッション形式を中心とした授業を実施する。理解度を測定するために適宜質問を投げかけるとともに、その日の授業内容を再確認し、到達目標に対してどの程度理解できているかを測定する。</p> <p>④【授業外学習】各授業におけるテーマに関して、エッセイ、レポートを作成して提出すること。</p> <p>⑤初回授業にて指示 【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> - 山内潤一郎. 未来志向のこころとからだ. NHK シリーズ - こころをよむ. 日本放送協会、日本放送出版協会. 2010 - 山内潤一郎. 未来志向のこころとからだ-旅・夢. NHK シリーズ - こころをよむ. 日本放送協会、日本放送出版協会. 2013 - 運動生理学のニューエビデンス (宮村実晴編著). 真興交易(株)医書出版部. 2010 <p>⑥出席 2/3 以上の者を成績評価対象者とし、レポート(50%)、発表(50%)により評価</p> <p>⑦【オフィスアワー】: 原則として、毎週木曜日 12:00-13:00 に設定しますが、事前にメールでアポイントメントをとってください。</p> <p>⑧【他の授業科目との関連性】: 分野別科目は、特論、演習、特別講義から構成されている。選択必修科目であるが、分野内の科目をできるだけ多く受講することが望ましい。</p> <p>2019 年度不開講。</p> |
|---|---|

博士前期課程・ヘルスプロモーションサイエンス学域

| 授業科目名 | 適応科学演習 I～IV | 配当年次 | 1年 | 単位数 | 1単位 | |
|---|--|----------|----------|-----|----------------|--|
| (科目英名) | Seminar in Applied Physiology and Biochemistry I～IV | I III | 前期 土曜 | 1限 | U0612 U0614 | |
| 担当教員 | 各教員 | II IV | 後期 | | U0613 U0615 | |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 | ①ヘルスプロモーションサイエンスの適応科学に関する研究を進める上で基礎となる研究方法について学び、修士論文作成のための演習を行う。 ②適応科学に必要な研究法の基礎知識、実験計画法、統計解析法、実験手技、データ分析法を修得する。適応科学分野の文献検索方法と収集・整理方法を学び、研究課題に関する文献研究を行う。 ③研究室ごとに指導教員を中心として以下の内容についてセミナー形式で実施する。 第1回 オリエンテーション 第2回 適応科学研究法の基礎 第3回 研究テーマの選択・決定 第4回 実験計画法 第5回 統計解析法 第6回 実験手技の概要 第7回 データ分析法 第8回 文献検索方法とその実践 第9回 データ収集整理の方法と実践1 第10回 データ収集整理の方法と実践2 第11回 各自テーマに関連する論文の抄読1 第12回 各自テーマに関連する論文の抄読2 第13回 成果発表1 第14回 成果発表2 第15回 レポートと解説 | | | | | |
| ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ④演習形式で行われた授業を通して得た知識を、自らの研究にどのように応用するかについて、深く考える時間を取ること。 ⑤必要な場合は講義内で配布する。 ⑥授業における発表およびレポートにより評価する。 ⑦初回の演習時に、担当教員のオフィスアワーを確認すること。その際に、連絡用の電子メールアドレスを連絡する。 ⑧分野別科目は、特論、演習、特別講義から構成されている。選択必修科目であるが、分野内の科目をできるだけ多く受講することが望ましい。 | | | | | |

| 授業科目名 | 神経科学特論 | 配当年次 | 1,2年 | 単位数 | 2単位 |
|---|---|------|------|-----|-------|
| (科目英名) | Neuroscience | 前期 | 火曜 | 6限 | U0616 |
| 担当教員 | 北一郎 | | | | |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 | ①様々な行動に脳がどのように関与しているのか、あるいはどのような要因によって脳の機能・構造が変えられるのかについて、神経生理学・生物学・生化学・心理学などの知見をふまえて学習する。 ②脳神経系の機能と構造に関する基礎的知識を理解した上で、生物の様々な行動や身体的反応の制御機構および適応メカニズムについて脳神経科学の観点から学習する。この講義を通して脳科学の視点から生命現象を考える能力を養い、医学・生命科学・心理学・人間科学さらにはコメディカル・医療系など、脳科学に関わる領域におけるコミュニケーション能力(相互理解・応用)を高める。 ③主要な内容は以下のとおりである。 第1回 オリエンテーション: 授業計画・授業目的・方法の説明 第2回 神経科学とは 第3～4回 脳神経系の構造と機能 第5～6回 本能と脳機能 第7～8回 情動と脳機能 第9～10回 運動と脳機能 第11～12回 発育発達と脳機能 第13回 ホルモンと脳機能 第14～15回 精神疾患と脳機能 【授業方法】講義にはパワーポイントを用い講義を中心とした授業を実施するとともに、適宜質問を投げかけ、また参 | | | | |

博士前期課程・ヘルスポモーションサイエンス学域

| | |
|---|--|
| ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | 考書の読み合わせも含め学生とのディスカッションを行いながら進める。 ④【授業外学習】授業中に出される課題や関連図書及び文献の内容について調べ、課題レポートを提出する。 ⑤適宜資料配付。参考書 カールソン著「神経科学テキスト」(丸善)、ピネル著「バイオサイコロジー」(西村書店) ⑥全体の2/3以上の出席者を対象に出席および課題の発表内容により評価する。 ⑦【質問受付方法(オフィスアワー)】オフィスアワーは特に設定しませんが、直接質問したい場合は随時受付しますので、事前にメールでアポイントメントをとってください。 ⑧【他の授業との関連性】分野別科目は、特論、演習、特別講義から構成されている。選択必修科目であるが、分野内の科目をできるだけ多く受講することが望ましい。 隔年開講(偶数年開講) |
|---|--|

| | | | | | |
|--------|------------------------|------|-------|-----|-------|
| 授業科目名 | 認知行動学特論 | 配当年次 | 1, 2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Cognition and Behavior | 後期 | 火曜 | 6限 | U0618 |
| 担当教員 | 樋口貴広 | | | | |

| | |
|---|---|
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 | ①運動や行動を支える知覚・認知の働きについて講義する。認知的な情報処理の過程について基礎を学ぶとともに、これらの話題がリハビリテーションやスポーツ、およびヒューマンエラーなどの諸問題にどのように貢献するのかについて考えていく。 ②・知覚・認知と行動に関する脳の情報処理過程について学ぶ意義を理解できる。 ・社会的関心の高いピックについて、その背後にある脳の情報処理について考察する能力を身につけることができる。 ・レポート作成作業を通して、論理的思考力や表現力を身につけることができる。 ③第1回 知覚認知から見た運動制御1 知覚的調整 第2回 身体感覚と運動1 錯覚現象に学ぶ 第3回 身体感覚と運動2 脳は矛盾を嫌う 第4回 2つの知覚的調整様式1 変化に対する応答 第5回 2つの知覚的調整様式2 予測的調整 第6回 隙間通過行動からわかること 第7回 運動学習1 丁寧すぎるのは諸刃の剣 第8回 運動学習2 運動学習の特殊性 第9回 注意1 選択的注意と運動 第10回 注意2 デュアルタスク 第11回 高齢者の転倒 認知の視点から 第12回 生態心理学の考え方 第13回 スポーツ選手の状況判断 第14回 言葉と運動感覚 第15回 総括 注意: 授業内容の詳細については進行状況等により変更の可能性がある。 【授業方法】講義形式で行う。授業毎にレポートを提出してもらう。 |
| ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ④本講義で提供する情報の多くは、参考書として示した本の中に詳しい出典が明記されている。これらの情報を参考に、関心のあった内容については更なる学習を期待する。また、図書館やインターネット等を積極的に活用し、授業内で関心を持った話題のさらなる理解に取り組むことを期待する。 ⑤参考書: 樋口貴広、他(編)「知覚に根ざしたリハビリテーション」、シービーアール、2017 樋口貴広・建内宏重「姿勢と歩行: 協調からひも解く」、三輪書店、2015 樋口貴広「運動支援の心理学-知覚・認知を活かす」、三輪書店、2013 樋口貴広・森岡周「身体運動学-知覚・認知からのメッセージ」、三輪書店、2008 ⑥授業内レポート(50%)、授業に対する理解度と積極的態度(50%)で評価する。 ・レポートについては、内容の理解度に加え、論理的思考や表現ができているかの観点から評価する。 ・認知行動学に関する諸実験に参加し、レポート(実験概要の報告と感想)を提出した場合、成績に加点する。 ⑦授業時あるいは電子メール(higuchit_at_tmu.ac.jp, _at_を@に変更)にて事前に日時を設定したうえで、研究室(13-107)にて相談を受ける。 ⑧【他の授業との関連性】分野共通科目は、特論、演習、特別講義から構成されている。選択必修科目であるが、分野内の科目をできるだけ多く受講することが望ましい。 受講生の人数や社会人学生の在籍状況などを考慮し、定時開講を集中授業に振り替えることがある。 |

博士前期課程・ヘルスポモーションサイエンス学域

| | | | | | |
|--|--|------|------|-----|-------|
| 授業科目名 | スポーツ神経科学特論 | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Sport Neuroscience | 後期 | 金曜 | 6限 | U0619 |
| 担当教員 | 西島 壮 | | | | |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | <p>①運動・スポーツと脳機能に関する神経科学研究を理解・推進するために必要な基礎を学ぶ。</p> <p>②・行動神経科学実験の基礎(実験計画、各種行動テストの特徴、交絡要因、限界など)を習得する。 ・実験動物(マウス、ラット)の運動実験モデルについて理解する。 ・当該領域における最新の研究論文を理解し、批判的に考察し、議論することができる。</p> <p>③【授業計画・内容】 第1回 オリエンテーション 第2-6回(前半)行動神経科学実験の基礎(実験計画、行動テスト、交絡要因、限界など)、従来の運動実験モデルの特徴と限界 第7-15回(後半)最新の研究論文に関する批判的考察 【授業方法】前半(第2-6回)は、主に講義形式で行う。後半(第7-15回)は、受講生全員が指定した論文を事前に読み込み、それを元に授業内でディスカッションを行う。まず、代表者が論文の内容(目的、方法、結果、結論)について概説した後、その内容を全員で確認する。さらに、その論文のオリジナリティーや限界について議論し、著者が何を考えながら実験を計画し論文を執筆したかを考える。</p> <p>④指定した資料をもとに次回の授業内容について予習し、その内容を理解することに加え、不明な点を明確にしてから授業に臨むこと。</p> <p>⑤【参考書】 ・Jerry J. Buccafusco, 'Methods of Behavioral Analysis in Neuroscience', CRC Press, 2008. ・マット・カーター著、「脳・神経科学の研究ガイド」、朝倉書店、2013.</p> <p>⑥授業回数の3分の2以上出席した者を成績評価の対象とし、内容理解度(50%、レポートで評価)、授業への参加姿勢(50%、事前準備の質、ディスカッションへの積極的参加で評価)により総合的に評価する。</p> <p>⑦質問や相談がある場合は、随時メールで連絡可能である(t-nishijima@tmu.ac.jp)。</p> <p>⑧【他の授業との関連性】分野共通科目は、特論、演習、特別講義から構成されている。選択必修科目であるが、分野内の科目をできるだけ多く受講することが望ましい。</p> | | | | |

| | | | | | |
|---|---|----------|----------|-----|----------------|
| 授業科目名 | 行動科学演習 I～IV | 配当年次 | 1年 | 単位数 | 1単位 |
| (科目英名) | Seminar in Perception and Motor Behavior I～IV | I III | 前期 土曜 | 1限 | U0621 U0623 |
| 担当教員 | 各教員 | II IV | | | 後期 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 | <p>①ヘルスポモーションサイエンスの行動科学に関する研究を進める上で基礎となる研究方法について学び、修士論文作成のための演習を行う。</p> <p>②行動科学に必要な研究法の基礎知識、実験計画法、統計解析法、実験手技、データ分析法を修得する。行動科学分野の文献検索方法と収集・整理方法を学び、研究課題に関する文献研究を行う。</p> <p>③研究室ごとに指導教員を中心として以下の内容についてセミナー形式で実施する。 第1回 オリエンテーション 第2回 行動科学研究法の基礎1 第3回 行動科学研究法の基礎2 第4回 文献検索方法とその実践1 第5回 文献検索方法とその実践2 第6回 研究テーマの選択・決定1 第7回 研究テーマの選択・決定2 第8回 実験計画法1 第9回 実験計画法2 第10回 データ収集整理の方法と実践1 第11回 データ収集整理の方法と実践2 第12回 論文の抄読など1 第13回 論文の抄読など2 第14回 成果報告 第15回 レポートと解説</p> <p>④演習形式で行われた授業を通して得た知識を、自らの研究にどのように応用するかについて、深く考える時間を取ることを。</p> | | | | |

博士前期課程・ヘルスプロモーションサイエンス学域

| | |
|------------------------|--|
| ⑤テキスト・参考書等 | ⑤各教員が授業中に指示する。 |
| ⑥成績評価方法 | ⑥授業における発表およびレポートにより評価する。 |
| ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ⑦初回の演習時に、担当教員のオフィスアワーを確認すること。その際に、連絡用の電子メールアドレスを連絡する。 |
| ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ⑧分野共通科目は、特論、演習、特別講義から構成されている。選択必修科目であるが、分野内の科目をできるだけ多く受講することが望ましい。 |

| | | | | | |
|----------------------------|---|------|-------|-------|-----|
| 授業科目名 | 食品化学特論 | 配当年次 | 1, 2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Food Chemistry | 前期 | 集中 | U0625 | |
| 担当教員 | 細野朗(日本大学生物資源科学部) 西村敏英(女子栄養大学栄養学部) | | | | |
| ①授業方針・テーマ | ①食品の加工・貯蔵中における食品成分の変化および食品の安全性さらに食品の最新の研究成果を交えながら詳説する。 | | | | |
| ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 | ②食品の主要栄養成分および非栄養成分について、化学的性質に関する基礎および応用力を身につけることを目標とする。 | | | | |
| ③授業計画・内容 授業方法 | ③1. 食品の基本概念の理解とヒトと食の関わりにおける歴史と現代およびその問題点を概説する。 2. 食品の主要成分の構造と機能について概説する。 3. 食品の加工・貯蔵中における食品成分の変化およびそのメカニズムについて解説する。 4. 食品成分変化に付随して起こる物性および嗜好性の変化などについても概説する。 5. バイオテクノロジーと食品開発 6. 食品の品質と安全性評価講義形式を基本とし、課題ごとに討論する方法を併用することもある。 講義形式を基本とし、課題ごとに討論する方法を併用することもある。 【授業方法】講義形式で実施する。授業中はいくつかの質問について、回答が求められる。 | | | | |
| ④授業外学習 | ④授業は連続した内容になるので、復習しておくこと。ミニレポートなど課題の時間は各自で確保すること。 | | | | |
| ⑤テキスト・参考書等 | ⑤必要に応じてプリントなどを配布する。 | | | | |
| ⑥成績評価方法 | ⑥成績評価は、平常点40%、試験60%を目安とし、総合的に行う。 | | | | |
| ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ⑦オフィスアワーは特に設定しませんが、質問したい場合はメールで受け付けます。担当世話人(篠田: sshinoda_at_tm.u.ac.jp)にメールで連絡してください。 | | | | |
| ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ⑧【他の授業との関連性】分野別科目は、特論、演習、特別講義から構成されている。選択必修科目であるが、分野内の科目をできるだけ多く受講することが望ましい。 2019年度不開講。 | | | | |

| | | | | | |
|----------------------------|--|------|-------|-----|-------|
| 授業科目名 | 食品生物活性特論 | 配当年次 | 1, 2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Biological Activity Evaluation of Food | 前期 | 木曜 | 6限 | U0626 |
| 担当教員 | 福家洋子(本学名誉教授) | | | | |
| ①授業方針・テーマ | ①摂取された食品由来成分が、生体に及ぼす影響を検討するために、多くの生物活性測定法が開発されている。それら食品由来活性成分は、ヒト免疫系に大きな影響を及ぼし、研究のターゲットになっている。講義の前半では、免疫システムについて理解を深めることを目的とし、後半では免疫系の賦活、抗腫瘍活性の促進、抗酸化作用などをターゲットとして、具体的に開発された研究成果を取り上げ講義する。 | | | | |
| ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 | ②食品由来成分の抗腫瘍研究をはじめとし、食品由来成分の生物活性に関する研究の進展は著しい。健康の維持・増進に大きな影響を及ぼす免疫賦活作用、抗酸化作用など多くの生物活性が評価系として用いられ、医薬・特定保健用食品として開発されている。それらの生物活性研究を分類し、代表的な研究成果を講義し食品生物活性研究への専門的知識を高めることを目的とする。 | | | | |
| ③授業計画・内容 授業方法 | ③1. 食品生物活性と評価系 2-3. 免疫システムの概要 4-6. 免疫システムと抗腫瘍活性研究 7-8. 腸管免疫、乳酸菌飲料開発研究例 9-10. アレルギー発症メカニズムと研究例 11-15. 抗酸化活性、抗腫瘍活性、抗アレルギーをターゲットとした研究例 パワーポイントやプリントを用いる。 | | | | |
| ④授業外学習 | ④授業は連続した内容になるので、復習しておくこと。 | | | | |
| ⑤テキスト・参考書等 | ⑤必要に応じて資料を配布する。参考図書は、講義内で紹介する。 | | | | |
| ⑥成績評価方法 | ⑥出席およびレポートまたは、課題に関する内容の発表により評価する。 | | | | |

博士前期課程・ヘルスプロモーションサイエンス学域

| | |
|------------------------|--|
| ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ⑦オフィスアワーは特に設定しませんが、質問したい場合は、メールで受け付けます。担当世話人(篠田: sshinoda_at_tm.u.ac.jp)にメールで連絡してください。 |
| ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ⑧分野別科目は、特論、演習、特別講義から構成されている。選択必修科目であるが、分野内の科目をできるだけ多く受講することが望ましい。 2019年度不開講。 |

| | | | | | |
|--|---|------|-------|-----|-------|
| 授業科目名 | 栄養生化学特論 | 配当年次 | 1, 2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Nutritional Biochemistry | 前期 | 月曜 | 7限 | U0627 |
| 担当教員 | 篠田 粧子 | | | | |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①栄養生化学領域の基礎的知識を修得し、健康増進における栄養の役割を理解する。最近の栄養研究の動向から、健康と栄養の問題について深く考察する力を養う。 ②栄養素の生体利用性について、消化、吸収、排泄、体内蓄積を理解し、これらのバランスを取りながら生体内で代謝を調節しているメカニズムについて理解する。 ③第1-3回 炭水化物の中からオリゴ糖を取り上げ、消化管内の環境および生体機能へ及ぼす影響とそのメカニズムについて解説する。また最近の知見から、難消化性成分(食物繊維)や新規の機能性成分など、これまで栄養素として扱われなかった物質の生体調節機能についても栄養学的側面から言及する。 第4-6回 脂質栄養における脂肪酸の役割について、化学構造から理解する。 第7-9回 栄養状態と栄養的疾患(骨粗鬆症など)発症の機構や個体差について解説する。 第10-12回 ミネラル吸収の促進および阻害に関わる因子を取り上げ、消化管内における様々な相互作用と生体の適応について解説する。 第13-15回 加齢による生体の生理的変化を受けて、栄養素の消化吸収、代謝が調節されるが、そのメカニズムと長期的応答について生化学的研究成果を中心に解説する。 ④次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。 ⑤「新 基礎栄養学」吉田勉他編、医歯薬出版、必要によりPower Point やプリントを使用する。 ⑥成績評価方法: レポートまたはディスカッションへの参加 80%、平常点 20% ⑦オフィスアワーは特に設定しませんが、直接質問したい場合は随時た受付しますので、事前にメールでアポイントメントをとってください。 ⑧分野別科目は、特論、演習、特別講義から構成されている。選択必修科目であるが、分野内の科目をできるだけ多く受講することが望ましい。 2019年度不開講。 | | | | |

| | | | | | |
|--|--|----------|----------|-----|----------------|
| 授業科目名 | 栄養・食品科学演習 I ~ IV | 配当年次 | 1年 | 単位数 | 1単位 |
| (科目英名) | Seminar in Nutrition and Food Science I ~ IV | I III | 前期 土曜 | 1限 | U0631 U0633 |
| 担当教員 | 各教員 | II IV | | | 後期 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①ヘルスプロモーションサイエンスの栄養・食品科学分野に関する研究を進める上で基礎となる研究方法について学び、修士論文作成のための演習を行う。 ②栄養・食品科学に必要な研究法の基礎知識、実験計画法、統計解析法、実験手技、データ解析法を修得する。栄養・食品科学分野の文献検索方法及び収集・整理方法を学び、研究課題に関する文献研究を行う。 ③研究室ごとに指導教員を中心として以下の内容についてセミナー形式で実施する。1. 栄養・食品科学研究法の基礎、2. 研究テーマの選択・決定、3. 実験計画法、4. 実験方法、5. 研究の進め方、6. データの整理、分析と統計解析、7. 研究に関する文献の検索、8. 各自テーマに関連する論文の抄読 ④演習形式で行われた授業を通して得た知識を、自らの研究にどのように応用するかについて、深く考える時間を取ること。 ⑤特になし。 ⑥特になし。 ⑦質問や相談がある場合は、電子メールにて大学院教務担当教員(藤井宣晴 fujiin_at_tm.u.ac.jp, '_at_'を'@'に変更)に連絡すること。大学院教務担当教員より、授業担当教員に質問内容を転送し、回答する形式をとる。 ⑧分野共通科目は、特論、演習、特別講義から構成されている。選択必修科目であるが、分野内の科目をできるだけ多く受講することが望ましい。 | | | | |

3 博士後期課程人間健康科学専攻

シラバスに記載されている開講曜日時限・授業概要等は 2019 年度の内容です。
変更になることがありますので、掲示に注意してください。
また、次年度以降は最新のシラバスをご覧ください。

シラバス記載内容の詳細

| 授業科目名 | | 配当年次 | ※1 | 単位数 | ※1 |
|----------------------------|--|-------|------|------|--------|
| (科目英名) | | (期)※2 | (曜日) | (時限) | (授業番号) |
| 担当教員 | | | | ※3 | ※4 |
| ①授業方針・テーマ | | | | | |
| ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 | | | | | |
| ③講義計画・内容 授業方法 | | | | | |
| ④授業外学習 | | | | | |
| ⑤テキスト・参考書等 | | | | | |
| ⑥成績評価方法 | | | | | |
| ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | | | | | |
| ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | | | | | |

※1 配当年次、単位数はこの欄に表示されています。

※2 開講期（前期：4月～9月・後期：10月～3月・通年：4月～3月）は、この欄に表示されています。

※3 開講時限はこの欄に表示されています。

各時限の時間は以下のとおりです。

1時限 8：50～10：20

2時限 10：30～12：00

3時限 13：00～14：30

4時限 14：40～16：10

5時限 16：20～17：50

6時限 18：00～19：30

7時限 19：40～21：10

※4 授業番号はこの欄に表示されています。授業番号は履修申請の際に必要です。

授業番号は年度ごとに変更となる可能性があります。

科目一覧（看護科学域 博士後期課程）

| 授業科目名 | 配当年次 | 開講期 | 単位数 | 備考 |
|--------------|------|-------|-----|----|
| 看護科学特別研究Ⅱa | 最終学年 | 前期・後期 | 4 | |
| 看護科学特別研究Ⅱb | 最終学年 | 後期・前期 | 4 | |
| 看護研究方法論Ⅲ | 1、2年 | 通年 | 2 | |
| 成人看護学特講 | 1、2年 | 前期 | 2 | |
| 成人看護学特講演習 | 1、2年 | 後期 | 2 | |
| 看護哲学Ⅰ | 1、2年 | 前期 | 1 | |
| 看護哲学Ⅱ | 1、2年 | 後期 | 1 | |
| 高齢者看護学特講 | 1、2年 | 通年 | 2 | |
| 高齢者看護学特講演習 | 1、2年 | 通年 | 2 | |
| 助産学特講 | 1、2年 | 前期 | 2 | |
| 助産学特講演習 | 1、2年 | 後期 | 2 | |
| 小児看護学特講 | 1、2年 | 前期 | 2 | |
| 小児看護学特講演習 | 1、2年 | 後期 | 2 | |
| 地域・在宅看護学特講 | 1年 | 前期 | 2 | |
| 地域・在宅看護学特講演習 | 1、2年 | 通年 | 2 | |
| 公衆衛生看護学特講 | 1年 | 通年 | 2 | |
| 公衆衛生看護学特講演習 | 2年 | 通年 | 2 | |
| 地域精神看護学特講 | 1、2年 | 前期 | 2 | |
| 地域精神看護学特講演習 | 1、2年 | 後期 | 2 | |
| 看護倫理・管理学特講 | 1、2年 | 通年 | 2 | |
| 看護倫理・管理学特講演習 | 1、2年 | 通年 | 2 | |

履修モデル（人間健康科学研究科 人間健康科学専攻 看護科学域 <博士後期課程>）

| 区分 | 授業科目名 | 単位数 | 成熟期看護学分野 | | 育成期看護学分野 | | 広域看護学分野 | | | 看護倫理・管理学分野 |
|------------|--------------|-----|----------|--------|----------|-------|---------|---------|---------|------------|
| | | | 成人看護学 | 高齢者看護学 | 助産学 | 小児看護学 | 在宅看護学 | 公衆衛生看護学 | 地域精神看護学 | 看護倫理・管理学 |
| 共通 | 看護科学特別研究Ⅱa | 4 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| | 看護科学特別研究Ⅱb | 4 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| | 看護研究方法論Ⅲ | 2 | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ |
| 成熟期看護学分野 | 成人看護学特講 | 2 | ○ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ |
| | 成人看護学特講演習 | 2 | ○ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ |
| | 看護哲学Ⅰ | 1 | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ |
| | 看護哲学Ⅱ | 1 | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ |
| | 高齢者看護学特講 | 2 | □ | ○ | □ | □ | □ | □ | □ | □ |
| | 高齢者看護学特講演習 | 2 | □ | ○ | □ | □ | □ | □ | □ | □ |
| 育成期看護学分野 | 助産学特講 | 2 | □ | □ | ○ | □ | □ | □ | □ | □ |
| | 助産学特講演習 | 2 | □ | □ | ○ | □ | □ | □ | □ | □ |
| | 小児看護学特講 | 2 | □ | □ | □ | ○ | □ | □ | □ | □ |
| | 小児看護学特講演習 | 2 | □ | □ | □ | ○ | □ | □ | □ | □ |
| 広域看護学分野 | 地域・在宅看護学特講 | 2 | □ | □ | □ | □ | ○ | □ | □ | □ |
| | 地域・在宅看護学特講演習 | 2 | □ | □ | □ | □ | ○ | □ | □ | □ |
| | 公衆衛生看護学特講 | 2 | □ | □ | □ | □ | □ | ○ | □ | □ |
| | 公衆衛生看護学特講演習 | 2 | □ | □ | □ | □ | □ | ○ | □ | □ |
| | 地域精神看護学特講 | 2 | □ | □ | □ | □ | □ | □ | ○ | □ |
| | 地域精神看護学特講演習 | 2 | □ | □ | □ | □ | □ | □ | ○ | □ |
| 看護倫理・管理学分野 | 看護倫理・管理学特講 | 2 | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | ○ |
| | 看護倫理・管理学特講演習 | 2 | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | ○ |
| 必修 | | | 8 単位 | | | | | | | |
| 分野の必修 | | | 4 単位 | | | | | | | |
| 選択 | | | 2 単位以上 | | | | | | | |
| 計 | | | 14 単位以上 | | | | | | | |

凡例： ◎必修 ○分野の必修 □選択

博士後期課程・看護科学域

| | | | | | |
|--|---|-----------|------|-----|-------|
| 授業科目名 | 看護科学特別研究Ⅱa | 配当年次 | 最終学年 | 単位数 | 4単位 |
| (科目英名) | Research on Nursing Science Ⅱa | 前期で履修する場合 | | | U0080 |
| 担当教員 | 西村ユミ、安達久美子、織井優貴子、河原加代子、 斉藤恵美子、習田明裕、山本美智代、他 | 後期で履修する場合 | | | U0156 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①看護科学に関する研究課題を設定し、その研究過程を実践して博士論文を作成する。 ②看護学発展のためのリーダーシップ能力の獲得をめざし、研究者として、研究計画の立案、データ収集と分析を通して、自立的に活動し、研究論文作成の過程に沿って能力を向上させる。 ③各指導担当教員の指導のもとに、課題に沿って自主的に研究の過程を展開する。 ④主体的に取り組むこと。 ⑤特になし ⑥研究計画から研究の実施までの過程を総合的に評価する。 ⑦オフィスアワーは特に設けない。質問は、指導担当教員に直接連絡をすること。 ⑧前期・後期、どちらでも履修可能。 曜日・時限等の詳細は、学生から教員に相談・調整すること。 履修登録期間に、自身で登録すること。 | | | | |

| | | | | | |
|--|---|-----------|------|-----|-------|
| 授業科目名 | 看護科学特別研究Ⅱb | 配当年次 | 最終学年 | 単位数 | 4単位 |
| (科目英名) | Research on Nursing Science Ⅱb | 前期で履修する場合 | | | U0157 |
| 担当教員 | 西村ユミ、安達久美子、織井優貴子、河原加代子、 斉藤恵美子、習田明裕、山本美智代、他 | 後期で履修する場合 | | | U0158 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①看護科学に関する研究課題を設定し、その研究過程を実践して博士論文を作成する。 ②看護学発展のためのリーダーシップ能力の獲得をめざし、研究者として、研究計画の立案、データ収集と分析を通して、自立的に活動し、研究論文作成の過程に沿って能力を向上させる。 ③各指導担当教員の指導のもとに、課題に沿って自主的に研究の過程を展開する。 ④主体的に取り組むこと。 ⑤特になし ⑥論文作成までの全過程を総合的に評価する。 ⑦オフィスアワーは特別に設けない。指導担当教員に直接連絡をすること。 ⑧看護科学特別研究Ⅱaの単位を取得した者が履修できる。 前期・後期、どちらでも履修可能。 曜日・時限等の詳細は、学生から教員に相談・調整すること。 履修登録は、論文提出を以て事務で一括で行う。(※履修登録期間の自身による履修登録は不要。) | | | | |

| | | | | | |
|---|---|------|------|-----|-------|
| 授業科目名 | 看護研究方法論Ⅲ | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Nursing Research Ⅲ | 通年 | 月曜 | 4限 | U0081 |
| 担当教員 | 安達久美子、西村ユミ、河原加代子、中山和弘 | | | 7限 | U0082 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 | ①本科目では、以下2つの主題で講義を展開する。 a.看護理論開発における概念の考え方、分析について理解し、概念分析を実際に行う知識、能力を習得する。 b.看護研究の基本となる統計分析を実践的に理解し、分析方法を習得する。 ②看護研究における基盤となる概念、統計的分析方法について探求する。 ③講義とゼミ形式、学生は十分な事前学習を行い、主体的に授業に参加する。 a・看護学における研究の基盤とは ・看護科学における概念分析とは ・概念分析の実際 b・看護研究における統計分析とは ・統計分析の基本 | | | | |

博士後期課程・看護科学域

| | |
|---|---|
| ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ・統計分析の応用 ④各内容に対し、事前学習を課す。 ⑤テキスト、参考書は、講義の中で提示する。 ⑥課題レポート、授業への参加度等を統合して評価する。 ⑦オフィスアワーは特に指定しないが質問は随時受け付ける。事前にメールで担当教員にアポイントメントをとること。 |
|---|---|

| 授業科目名 | 成人看護学特講 | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
|--|---|------|------|-----|-------|
| (科目英名) | Adult Nursing Research | 前期 | 月曜 | 6限 | U0126 |
| 担当教員 | 西村ユミ、福井里美 | | | 7限 | U0127 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①成人看護学における新たな課題を見出し、それに取り組むための方法論を模索する。 ②成人看護学領域において議論が求められる諸事象、概念、理論を分析し、問題やテーマの射程を把握する。さらに、関連領域の論文をクリティークして、成人看護学領域の研究動向と課題について総合的に検討する。 ③1 自らの臨床・研究・教育実践における課題を深く掘り下げて検討し、論点を創造する。 2 関連文献のクリティークを通して、成人看護学領域の課題を包括的に捉える。 3 概念分析や理論分析を試み、看護の諸事象、概念、理論についての理解を深める。 4 課題を探求するための多様な方法論について検討する。 (進め方) 講義形式とゼミ形式で行う。 学生の主体的な運営を希望する。 ④各授業に関わる文献は、事前に取り寄せて読んでくる。 授業内容は必ず復習をして、各自の研究に役立てる。 ⑤適宜指定する。 ⑥出席とプレゼンテーション、ディスカッションへの参加、課題レポートなどをもとに総合的に評価する。 ⑦オフィスアワーは特に設けないが、メールによる質問や連絡が随時受け付ける。連絡先 yumin@tmu.ac.jp ⑧成人看護学特講演習の基盤となる授業である。 | | | | |

| 授業科目名 | 成人看護学特講演習 | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
|--|---|------|------|------|-------|
| (科目英名) | Methodology of Adult Nursing | 後期 | 月曜 | 5-6限 | U0128 |
| 担当教員 | 西村ユミ、福井里美 | | | | |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①成人看護学における新たな課題、及び研究方法論、実践・理論的知識を提案する。 ②学生個々人が関心をもっているテーマ・課題について、文献レビューから研究の実施、研究成果の公表、看護実践への還元までの、一連の研究過程を踏む。 ③1 学生のテーマに応じた先行研究のクリティーク、及び文献レビュー。 2 自らの研究課題に即した研究デザインの検討と具体的な研究の展開。 3 研究成果の発表(プレゼンテーションとディスカッション)のための演習と実施。 (進め方) 講義形式とゼミ形式で行う。 学生の主体的な運営を希望する。 ④プレゼンテーションの資料は事前に作成し、前日までに履修者へ配信する。 履修者は、資料を熟読し、質問内容などを予め準備してくる。 授業後に、理解が不十分な内容について調べ、次の授業の予習とする。 ⑤適時指定する。 ⑥研究成果、学会発表などをもとに総合的に評価する。 ⑦オフィスアワーは特に設けないが、メールによる質問や連絡が随時受け付ける。連絡先 yumin@tmu.ac.jp ⑧成人看護学特講で得た知識が基盤となっている。 | | | | |

博士後期課程・看護科学域

| 授業科目名 | 看護哲学 I | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 1単位 |
|--|--|------|------|-----|-------|
| (科目英名) | Nursing Philosophy I | 前期 | 水曜 | 6限 | U0130 |
| 担当教員 | 西村ユミ、榊原哲也 | | | 7限 | U0131 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | <p>①病いや障害を患う経験の理解、及びこうした人々にかかわる看護師の実践を探求するための哲学的基盤について考察する。本科目[I]では、特に看護理論や看護研究を支える哲学的思想の精読を通して、その枠組みを理解する。</p> <p>②病いや障害をもつ人々への接近は、それを行う看護職の視点なしには成り立ちえない。本科目では、病いを患う人々の経験と、看護師が彼らの経験を理解すること(ケアすること)の両者を切り離さずに考察することを前提として課題に取り組む。主/客、自/他、能動/受動、精神/身体等々の二元論という哲学的な課題が生まれた背景や、この課題を乗り越えるための思考法についても考察する。</p> <p>③1 病い経験の理解、及び実践経験を議論するために必要な思想(文献、著作)を検討する。 2 文献、及び著作を精読し、哲学的な議論とその枠組みについて検討する。 3 哲学的な議論の視点と看護学との接点について検討する。 (進め方) 講義形式とゼミ形式で行う。 学生の主体的な運営を希望する。</p> <p>④・授業前に、授業で読む内容について必ず予習(文章の意味を解釈する、英文も確認する)をしてくる。 ・授業後に、分かり難い内容を復習するとともに、関連する知識を確認しておく。</p> <p>⑤履修生の関心に合わせて、現象学の代表的な著作の中から選ぶ。</p> <p>⑥出席とプレゼンテーション、ディスカッションへの参加などを総合的に評価する。</p> <p>⑦オフィスアワーは特に設けないが、メールによる質問や連絡が随時受け付ける。連絡先 yumin@tmu.ac.jp</p> <p>⑧講読する書籍、資料は、看護哲学 II に続く。</p> | | | | |

| 授業科目名 | 看護哲学 II | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 1単位 |
|--|---|------|------|-----|-------|
| (科目英名) | Nursing Philosophy II | 後期 | 水曜 | 6限 | U0132 |
| 担当教員 | 西村ユミ、榊原哲也 | | | 7限 | U0133 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | <p>①病いや障害を患う経験の理解、及びこうした人々にかかわる看護師の実践を探求するための哲学的基盤について考察する。[II]では、思想(特に現代思想)の枠組みと看護哲学の関係について考察する。</p> <p>②病いや障害をもつ人々への接近は、それを行う看護職の視点なしには成り立ちえない。本科目では、病いや障害をもつ人々の経験と、看護師がその人々の経験を理解すること(ケアすること)の両者を切り離さずに考察することを前提として課題に取り組む。</p> <p>③1 看護実践の経験を振り返り記述する。 2 実践経験を議論するために必要な思想(文献、著作)を検討し、これを精読する。 3 思想の枠組みと看護哲学との関係を検討する。 (進め方) 講義形式とゼミ形式で行う。 学生の主体的な運営を希望する。</p> <p>④・授業前に、授業で読む内容について必ず予習(文章の意味を解釈する、英文も確認する)をしてくる。 ・授業後に、分かり難い内容を復習するとともに、関連する知識を確認しておく。</p> <p>⑤履修生の関心に合わせて、現代思想及び看護理論や方法に関する著作の中から選ぶ。</p> <p>⑥出席とプレゼンテーション、ディスカッションへの参加などを総合的に評価する。</p> <p>⑦オフィスアワーは特に設けないが、メールによる質問や連絡が随時受け付ける。連絡先 yumin@tmu.ac.jp</p> <p>⑧講読する書籍、資料は、看護哲学 I から続く。</p> | | | | |

博士後期課程・看護科学域

| | | | | | |
|--|---|------|------|-----|-------|
| 授業科目名 | 高齢者看護学特講 | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Gerontological Nursing Research | 通年 | 土曜 | 2限 | U0091 |
| 担当教員 | 織井優貴子、増谷順子 | | | 3限 | U0092 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ①療養生活者を対象とした看護の質向上を志向する看護学の探究(シミュレーション教育も含む) ②療養生活者の健康課題を「生活の質」などの看護学における重要概念を通して分析し看護学発展のための理論構築を図る。さらに理論に基づき療養生活者と家族の遭遇する健康課題および倫理的課題解決法を探究する。また、適切な研究方法を用いて看護課題の新たな解決方法を探究する。 ③各学生がもつテーマを中心にゼミ形式で進める。学生は事前学習を十分に行い主体的に参加すること。 ・モデル・理論を用いた看護実践方法の開発方法の検討 ・看護研究と倫理的課題 ④必要に応じて提示する。 ⑤必要に応じて提示する。 ⑥討論への貢献度、課題レポート等を総合的に評価する。 ⑦オフィスアワーは特に設定しないが質問には随時応じる。事前にメールでアポイントメントをとってください。 | | | | |

| | | | | | |
|--|--|------|------|------|-------|
| 授業科目名 | 高齢者看護学特講演習 | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Methodology of Gerontological Nursing Research | 通年 | 土曜 | 4-5限 | U0093 |
| 担当教員 | 織井優貴子、増谷順子 | | | 6-7限 | U0094 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ①療養生活者支援のための科学的基盤の探究 ②それぞれの学生が関心をもっている看護現象について、文献研究および実践研究を通して科学的に探求し看護学の知識創造を探究する。 ③・各学生のテーマによる文献研究 ・各学生のテーマによるフィールド研究 各学生に対する個別指導およびゼミ形式。学生は関心を持つテーマにそって文献研究と実践研究を行なう。 ④各自の研究テーマに沿って国内外の論文を通読すること ⑤必要に応じて提示する。 ⑥討論の質、研究成果などによる総合評価 ⑦オフィスアワーは特に設定しないが、質問に随時応じる。事前にメールでアポイントメントをとってください。 | | | | |

| | | | | | |
|--|--|------|------|-----|-------|
| 授業科目名 | 助産学特講 | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Advanced Midwifery | 前期 | 火曜 | 7限 | U0083 |
| 担当教員 | 安達久美子 | | 水曜 | 4限 | U0084 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①女性および周産期にある女性の健康について、対象を取り巻く、家族、環境を含めて考察し、助産ケアを提供できる能力を養う。 ②本コースでは、助産ケアにおける課題をアセスメントし、マネージメントすることに焦点をあて考察できることを目的とする。 ③1~7回：主に妊産婦の身体的健康問題や産褥期の育児に関する問題、女性の生涯の健康課題について、その問題の特性を理解し、問題解決に向けた研究手法とは何かを学ぶ。 8~14回：妊産婦ケア提供法及び卒後の能力向上策や高度な専門職者の育成システムに関して論じる。 15回：まとめ ④各回のテーマにそって、各自プレゼンテーションの準備を行う。 ⑤適宜提示する。 ⑥学習の進行全般を総合的に評価する ⑦オフィスアワーは特に設けませんが、メールによる質問や連絡が随時受け付ける。 連絡先メールアドレスは初回授業時に伝える。 ⑧ゼミ方式 | | | | |

博士後期課程・看護科学域

| 授業科目名 | 助産学特講演習 | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
|--|--|------|------|------|-------|
| (科目英名) | Advanced Midwifery: Practicum | 後期 | 水曜 | 3-4限 | U0085 |
| 担当教員 | 安達久美子、谷津裕子 | | | 6-7限 | U0086 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①本コースでは、女性の健康とプロダクティブヘルスの向上ため、先行研究を活用し、科学的な視点から論じる力を養うことで、より高度な研究能力を身に付ける。 ②学生個々のテーマに応じて、先行研究から、自身のテーマについて考察し、新たな研究の方向性について論述できる。 ③1～4: 周産期の女性の健康、及び女性の健康問題について検討する。 5～8: 量的研究手法を用いた課題解決 9～12: 質的研究手法を用いた課題解決 13～15: 課題解決に向けての研究計画のプレゼンテーション ④ゼミに参加にあたっては、提示した文献レビュー、プレゼンテーションの準備を行っておく。 ⑤適宜、指示する。 ⑥学習の進行状況全般を総合的に評価する。 ⑦オフィスアワーは特に設けませんが、メールによる質問や連絡が随時受け付ける。 ⑧ゼミ方式 | | | | |

| 授業科目名 | 小児看護学特講 | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
|--|--|------|------|-----|-------|
| (科目英名) | Research in Child Health Nursing | 前期 | 火曜 | 4限 | U0184 |
| 担当教員 | 山本美智代、種吉啓子 | | | 7限 | U0185 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ①子どもと家族の健康や生活の質を向上させる小児看護学に貢献できるような研究課題を、設定できる能力を身につける。 ②研究方法の認識論について理解し、その上で自分の関心のある事象について十分に文献検討を行い、先行研究の蓄積の中で適切に研究課題を位置づけることができる。 ③1.研究方法と認識論についての理解 量的研究・質的研究の認識論について調べ理解する。特に質的研究は様々な研究方法の背景を調べ、各方法論の特徴を理解する。 2.文献検討 関心のある事象について関連領域の中で文献を探索し、クリティークする。その上で重要な先行研究を選出し、その中にある概念について他の領域を含めて意味を探索する。 3.研究課題の検討 関心のある事象について今後の研究課題を検討し、その課題が小児看護学のどのような知識体系に貢献できるのかを検討する。 4.研究の問いの設定 先行研究の蓄積の中で適切に研究課題を位置づけ、研究の問いを具体的に設定する。 5.研究方法の選択 各自が設定した研究の問いを明らかにする研究方法を検討する。 授業の進め方は、各課題について学生自身が調べ、ゼミでプレゼンテーションを行い、討議する。 ④ゼミの前から、各自の関心のある事象について、看護だけでなく他の関連分野において、どのような研究があるか調べておくこと。 ⑤参考図書 Blumer,H/後藤将之訳(2007). シンボリック相互作用論 パースペクティブと方法, 第1版9刷. 勁草書房. Blumer,J/岡本訳(2016). ACTS of MEANING 意味の復権-フォークサイコロジーに向けて-. 新装版第1刷, ミネルヴァ書房. ⑥課題について調べた発表資料やゼミでの意見交換に対して評価する。 ⑦オフィスアワーは設定しないが、直接質問したい場合は授業終了後に行うか、事前にアポイントメントをとることが望ましい。 | | | | |

博士後期課程・看護科学域

| 授業科目名 | 小児看護学特講演習 | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
|--|--|------|------|------|-------|
| (科目英名) | Advanced Research Skills in Child Health Nursing: Practicum | 後期 | 火曜 | 4-5限 | U0186 |
| 担当教員 | 山本美智代、種吉啓子 | | | 6-7限 | U0187 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | <p>①研究対象となっている人々が生きる日常を、対象となっている人々の視点から理解し、それを言葉で示す。さらに、その人々の日常をつくる思想、社会的な背景や基盤などを明らかにする。</p> <p>②小児看護学に関する研究課題について、研究計画書を立案し、研究遂行に必要なデータ収集能力、分析能力を習得する。</p> <p>③1. 研究参加者の選択基準、リクルート方法 関心のある事象を明らかにするための研究参加者のリクルート方法を厳選する。 2. データ収集方法の習得 インタビュー方法や参加観察法を用いて、質の高いデータを収集する能力を身につける。 3. データ分析方法の習得 質的データの読み方、概念化またはエピソードとして分析する方法を習得する。 4. 結果の記述方法の習得 研究の現実性、新奇性、関与性の基準から研究結果を記述する方法を習得する。 授業の進め方は、各課題について調べ、ゼミでプレゼンテーションを行い討議する。</p> <p>④研究方法についてあらかじめ自分で調べ、自分が関心をもつ研究課題に対して、どの方法が適切かを考えておく。</p> <p>⑤必要に応じて提示する</p> <p>⑥課題について調べた発表資料やゼミでの意見交換に対して評価する。</p> <p>⑦オフィスアワーは設定しないが、直接質問したい場合は授業終了後に行うか、事前にアポイントメントをとることが望ましい。</p> | | | | |

| 授業科目名 | 地域・在宅看護学特講 | 配当年次 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
|--|---|------|----|-----|-------|
| (科目英名) | Community Health Nursing | 前期 | 土曜 | 1限 | U0095 |
| 担当教員 | 河原加代子、島田恵、岡本有子 | | | 2限 | U0096 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | <p>①地域で生活する人々の全レベルの健康問題を、地域集団の視点から把握し、諸外国を参考として、問題解決のための我が国独自のケアシステムの構築とその実現に向けて看護職員が果たすべき役割機能について探求する。さらに開発した看護の方法論の evidenced based nursing を基礎に企業との連携、地域(コミュニティ)との連携、保健福祉行政における健康増進行動を支援するプログラム開発と評価、施策化の方法論を追求する。</p> <p>②・国内外の文献レビューにより、研究課題を明確にすることができる。 ・研究デザインを理解を深め、研究方法のスキルを身につけることができる。 ・システム開発の基本的な考え方を理解し、説明することができる。 ・地域ケアシステムにおける看護の新たな仕組みをシミュレーションする能力を身につけることができる(演習)。</p> <p>③1. コースオリエンテーション 2-4. 関心ある現象について概念(変数)を特定、データ収集の方法、分析方法の基礎を理解する。 5-8. 特別研究で取り組むテーマについて、国内外の研究の動向、理論および主要概念、研究方法について文献レビュー、演習を組み合わせた方法で研究のスキルを習得する。 9-12. 学生が志向する地域・在宅看護分野のヘルスケアシステムの課題分析及び看護介入の方法論の開発にむけた能力をフィールドワークを通して養う。 13-14. 地域におけるヘルスケアシステムについて政策及び行政活動の側面から論ずる(非常勤)。 15. 総括 【授業方法】講義とゼミ形式により進める。プレゼンテーションの際は、学生の疑問や質問を中心に学生がリーダーシップをとって討議を行う。</p> <p>④毎回の授業後に、次回授業の課題を提示するので、必ず事前に予習を行い、内容を把握したうえで授業に臨むこと。</p> <p>⑤別途紹介する。</p> <p>⑥評価は各学生の学習プロセスとゼミにおける研究レポートの内容・学会発表・論文発表等に基づいて行う。</p> <p>⑦特に設けませんが、メールによる質問や連絡が随時受け付ける。連絡先 hu_yuan@tmu.ac.jp など</p> <p>⑧単位取得のための時間数については、課題学習・個別指導などにより、個々の学生の学習方法に応じて柔軟に対応する。</p> | | | | |

博士後期課程・看護科学域

| 授業科目名 | 地域・在宅看護学特講演習 | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
|------------------------|--|------|------|------|-------|
| (科目英名) | Community Health Nursing Practicum | 通年 | 金曜 | 3-4限 | U0097 |
| 担当教員 | 河原加代子、島田恵、岡本有子、早野貴美子、杉野祐子 | | 土曜 | 3-4限 | U0098 |
| ①授業方針・テーマ | ①地域におけるヘルスケアシステムと看護職の役割機能について、国内外の論文講読や実地踏査などにより演習する。学生が志向する地域看護分野(行政地域看護・在宅看護・リハビリテーション看護など)のヘルスケアシステムの課題の分析及び開発能力をフィールドワークなどを通して養う。 | | | | |
| ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 | ②・論文のテーマを選択し、文献レビュー、実践の場における体験、自己の研究をまとめてプレゼンテーションを行う能力を習得することができる ・地域ケアシステムにおける新たな仕組みをシミュレーションし、他者とのディスカッションを通してシステムの課題分析を深めることができる。 | | | | |
| ③授業計画・内容 授業方法 | ③関心ある現象について概念(変数)を特定、データ収集の方法、分析方法の基礎を学ぶ。次に特別研究で取り組むテーマについて国内外の研究の動向、理論および主要概念、研究方法について文献レビュー、実地踏査を行う演習形式を組む。 学生が志向する地域・在宅看護分野(行政地域看護・在宅看護・リハビリテーション看護など)のヘルスケアシステムの課題分析及び看護介入の方法論の開発にむけた能力をフィールドワークを通して養う。 ゼミ形式および個人指導ですすめる。 ・各学生の研究テーマや地域活動の関心事項を中心にしながら、学生が自らテーマを選択し、文献レビュー・実践の場における 体験・自己の研究をまとめてプレゼンテーションを行うゼミ形式及び個人指導で行う。 ・教育目標に沿うことを原則とした上で学生の必要性和経験に応じて教育計画は柔軟に対応する。 ・演習の運営方法を自ら体験学習することによって学生の主体的な学習活動を促す。 【授業方法】講義とゼミ形式により進める。プレゼンテーションの際は、学生の疑問や質問を中心に学生がリーダーシップをとって討議を行う。 | | | | |
| ④授業外学習 | ④毎回の授業後に、次回授業の課題を提示するので、必ず事前に予習を行い、内容を把握したうえで授業に臨むこと。 | | | | |
| ⑤テキスト・参考書等 | ⑤別途紹介する。 | | | | |
| ⑥成績評価方法 | ⑥評価は各学生の学習プロセスとゼミにおける研究レポートの内容・学会発表・論文発表等に基づいて行う。 | | | | |
| ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ⑦特に設けないが、メールによる質問や連絡が随時受け付ける。連絡先 hu.yuan@tmu.ac.jp など | | | | |
| ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ⑧単位取得のための時間数については、課題学習・個別指導などにより、個々の学生の学習方法に応じて柔軟に対応する。 | | | | |

| 授業科目名 | 公衆衛生看護学特講 | 配当年次 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
|------------------------|---|------|------------|------|-------|
| (科目英名) | Advanced Public Health Nursing | 通年 | 土曜 (集中) | 3-4限 | U0138 |
| 担当教員 | 斉藤恵美子 | | | | U0139 |
| ①授業方針・テーマ | ①公衆衛生看護学に関する知見や動向を考察し、根拠に基づく質の高い公衆衛生看護実践に資する課題と、それらの課題を解決する方法・方策を探求する。 | | | | |
| ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 | ②1. 公衆衛生看護学に関する最新の知見や動向を考察し、自分の意見や考えを論述できる。 2. 根拠に基づく質の高い公衆衛生看護実践の潜在的・顕在的な課題を論理的に述べることができる。 3. 課題解決のための方法・方策を探求し、自身の研究課題の取り組みに活用することができる。 | | | | |
| ③授業計画・内容 授業方法 | ③第1～2回 オリエンテーション、公衆衛生看護学に関する理論と方法論 第3～11回 研究課題に関する研究の動向と討議 第12～13回 公衆衛生看護実践のシステムと評価 第14～15回 研究課題に関する文献検討 【授業方法】 研究課題にそった文献検討と研究計画の推敲などについて、ゼミナール形式で発表し、討議する。 討議では、先行研究を批判的吟味(Critique)する。また、自身の研究課題・研究計画案をより精選させる。 授業計画については、履修学生の進捗状況等によって、日程等を調整することがある。 | | | | |
| ④授業外学習 | ④【授業外学習】 グループ討議のための資料を事前に準備する。 | | | | |
| ⑤テキスト・参考書等 | ⑤【テキスト】 テキストは使用しない。授業で資料を配付する。 【参考書】 D. F. ポーリット, C. T. ベック. (2010). 近藤潤子(監訳). 看護研究:原理と方法(第2版), 医学書院. (定価 10,260円) | | | | |

博士後期課程・看護科学域

| | |
|------------------------|--|
| ⑥成績評価方法 | アメリカ心理学会[APA]. (2010/2011). 前田樹海, 江藤裕之, 田中建彦(訳). APA論文作成マニュアル(第2版). 医学書院. (定価 4,104 円) |
| ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ⑥課題発表(課題レポート)(60%)、授業参加の積極性(出席状況、グループ討議の貢献度等)(40%) 課題レポートは、研究計画に関する先行研究について批判的に吟味し、論述する(3200字以上)。 ⑦【オフィスアワー】 定期的なオフィスアワーは設定していないが、質問・連絡、アポイント等はメールで受け付けている。 【連絡先】 saito@tmu.ac.jp |
| ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ⑧【他の授業科目との関連性】 本科目は「公衆衛生看護学特講演習」の準備のための学習内容を含む。 公衆衛生看護学分野ホームページ http://weber.hs.tmu.ac.jp/phn/ も参考にしてください。 |

| | | | | | |
|--|--|------|------------|------|-------|
| 授業科目名 | 公衆衛生看護学特講演習 | 配当年次 | 2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Advanced Public Health Nursing Practicum | 通年 | 土曜 (集中) | 1-2限 | U0140 |
| 担当教員 | 斉藤恵美子、他 | | | | U0141 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | <p>①公衆衛生看護学に関する研究課題について、文献を検討し、研究計画を立案する。</p> <p>②1. 研究課題にそって研究計画を立案することができる。 2. 研究課題や方法論に関連する文献について批判的吟味(Critique)し、論理的に記述することができる。 3. 立案した研究計画について、他者に論理的に説明することができる。</p> <p>③第1~2回 オリエンテーション、スケジュールの確認、倫理審査について 第3~12回 研究課題に関する文献検討と研究過程の討議、研究フィールドでの演習・プレテストなど 第12~30回 文献検討の発表と研究計画の立案</p> <p>【授業方法】 本科目はグループでの課題学習、討議形式で実施する。 学生は、主体的に授業に取り組み、発表準備・進行などの役割を一部分担する。 授業計画については、履修学生の状況によって日程等を調整することがある。</p> <p>④【授業外学習】 学生は、グループでの討議を円滑に進めるために、発表のための資料を事前に準備する。資料の一部は指定の様式を使用する。</p> <p>⑤【テキスト】 テキストは使用しない。授業で資料を配付する。 【参考書】 D. F. ポーリット, C. T. ベック. (2010). 近藤潤子(監訳). 看護研究:原理と方法(第2版), 医学書院. (定価 10,260 円) アメリカ心理学会[APA]. (2010/2011). 前田樹海, 江藤裕之, 田中建彦(訳). APA論文作成マニュアル(第2版). 医学書院. (定価 4,104 円)</p> <p>⑥文献検討と研究計画についての発表、研究計画書の作成(60%)、授業参加の積極性(出席状況、グループ討議の貢献度等)(40%) 課題レポートは、研究計画書、文献検討(8000字以上)の2点である。</p> <p>⑦【オフィスアワー】 定期的なオフィスアワーは設定していないが、質問・連絡、アポイント等はメールで受け付けている。 【連絡先】 saito@tmu.ac.jp</p> <p>⑧【他の授業科目との関連性】 本科目は「公衆衛生看護学特講」を履修済みであることが望ましい。</p> | | | | |

| | | | | | |
|---|--|------|------|-----|-------|
| 授業科目名 | 地域精神看護学特講 | 配当年次 | 1,2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Advanced Community Mental Health and Psychiatric Nursing | 前期 | 月曜 | 4限 | U0103 |
| 担当教員 | 武井麻子、廣川聖子 | | | 6限 | U0104 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 | <p>①地域精神保健看護にかかわる文献を渉猟しつつ、自らの研究課題を深く探求していく。</p> <p>②人間の精神と身体、家族やコミュニティ等に生じる諸現象を、看護学のみならず心理学・社会学・医学生理学など他の専門領域の知識を踏まえながら、多様な角度から分析する能力を身に着けるとともに、研究の方法論についても検討していく。</p> | | | | |

博士後期課程・看護科学域

| | |
|----------------------|---|
| ③授業計画・内容 授業方法 | ③それぞれが関心をもったテーマに関する文献を批判的に読み解きながら、ディスカッションを通して理解を深め、それぞれの研究テーマと研究方法を検討していく。 |
| ④授業外学習 | ④必要に応じて、フィールドワークを行うことがある。 |
| ⑤テキスト・参考書等 | ⑤テキスト・参考書は適宜提示する予定である。 |
| ⑥成績評価方法 | ⑥参加態度、討議内容、レポートなどを総合的に評価する。 |
| ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ⑦特講の開講時間前後 1 時間 |

| | | | | | |
|----------------------------|---|------|--------|-------|-------|
| 授業科目名 | 地域精神看護学特講演習 | 配当年次 | 1, 2 年 | 単位数 | 2 単位 |
| (科目英名) | Advanced Community Mental Health and Psychiatric Nursing, Practicum | 後期 | 月曜 | 4-5 限 | U0105 |
| 担当教員 | 武井麻子、廣川聖子 | | | 6-7 限 | U0106 |
| ①授業方針・テーマ | ①ディスカッションを通して実践および研究における自らの体験を振り返り、自己の課題を明らかにしていくとともに、問題意識を研究疑問へと深めていく。 | | | | |
| ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 | ②対話を通して対象理解・自己理解にいたるリフレクションのプロセスを体験し、実践者・研究者としての対人能力と感受性を高めていく。 | | | | |
| ③授業計画・内容 授業方法 | ③自らが選んだテーマでプレゼンテーションを行い、それをもとにディスカッションを行う。その内容は、理論的な関心で選んだ文献についてであってもよいし、過去の自分の経験についての振り返りでもよい。 | | | | |
| ④授業外学習 | ④必要に応じて、フィールドワークを行うことがある。 | | | | |
| ⑤テキスト・参考書等 | ⑤テキスト・参考書は適宜指定する予定である。 | | | | |
| ⑥成績評価方法 | ⑥参加態度、討議内容、レポートなどを総合して評価する。 | | | | |
| ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ⑦特講の開講時間前後 1 時間 | | | | |

| | | | | | |
|----------------------------|--|------|--------|-------|-------|
| 授業科目名 | 看護倫理・管理学特講 | 配当年次 | 1, 2 年 | 単位数 | 2 単位 |
| (科目英名) | Nursing Ethics and Management Research | 通年 | 火曜 | 4-5 限 | U0142 |
| 担当教員 | 習田明裕、樽井正義 | | | 6-7 限 | U0143 |
| ①授業方針・テーマ | ①看護倫理・管理分野の領域において議論される概念や理論を分析し、問題やテーマを把握した上で、新たな課題を見出す。その課題に対して研究的視点で取り組むための方法論を検討する。 | | | | |
| ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 | ②自身の研究テーマに関して倫理・管理的側面から捉え直し、新たな視座を得ることが目標である。 | | | | |
| ③授業計画・内容 授業方法 | ③《授業計画・内容》 1. 看護倫理・管理学における課題の探求と、論点の整理 2. 関連文献のクリティーク及びリサーチクエスチョンの明確化 3. 理論分析や概念分析を試み、事象に関する洞察 4. 課題探求のための方法論に関する検討 《授業方法》 1. 講義形式とゼミ形式で行う。 2. 学生の主体的な参加を希望する 3. 学生は、それぞれの授業時間の課題を担当し、その授業時間のリーダーシップをとる。 4. 学生は、教員と十分に事前の打ち合わせを行い、授業が効果的に展開するよう準備する。外来講師に対しては、事前の連絡や事後の対応もきちんで行う。 | | | | |
| ④授業外学習 | ④与えられた課題については学術誌にパブリケートする方向で準備を行い、専門領域学会の投稿要領等からどこに提出するか十分に検討する。 | | | | |
| ⑤テキスト・参考書等 | ⑤適宜必要に応じて提示する。 | | | | |
| ⑥成績評価方法 | ⑥授業への参加度(20点)、課題レポート(80点) | | | | |
| ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ⑦オフィスアワーは特に設定しないが、質問・連絡等がある場合は、shuda@tmu.ac.jp までメールして下さい。 | | | | |

博士後期課程・看護科学域

| 授業科目名 | 看護倫理・管理学特講演習 | 配当年次 | 1、2年 | 単位数 | 2単位 |
|---|---|------|------|------|-------|
| (科目英名) | Methodology of Nursing Ethics and Management Research | 通年 | 金曜 | 4-5限 | U0144 |
| 担当教員 | 習田明裕、志自岐康子 | | | 6-7限 | U0145 |
| <p>①授業方針・テーマ</p> <p>②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標</p> <p>③授業計画・内容 授業方法</p> <p>④授業外学習</p> <p>⑤テキスト・参考書等</p> <p>⑥成績評価方法</p> <p>⑦質問受付方法 (オフィスアワー)</p> | <p>①看護倫理・管理学領域において個々の関心に沿った研究テーマを自らが見出し、研究計画を策定する。最終的に得られた研究結果を発表し、論文化するまでの一連の研究過程を踏む。</p> <p>②看護倫理・管理学領域の研究者としての能力を修得し、涵養することを目的とする。</p> <p>③《授業計画・内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テーマに応じた先行文献のレビュー 2. 研究デザイン及び対象者の検討 3. データ収集方法及び分析方法の検討 4. 研究倫理に関する学習 5. 研究方法の展開 6. 研究成果の発表 <p>《授業方法》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義形式とゼミ形式で行う。 2. 学生の主体的な参加を希望する。 <p>④授業前から研究計画書作成のための文献検討等を自身で計画的に行い、クリティークのための準備を進める。</p> <p>⑤適宜必要に応じて提示する。</p> <p>⑥学習への参加度(20点)、研究成果(80点)にて総合的に評価する。</p> <p>⑦特に設定しないが、質問・連絡等がある場合は、shuda@tmu.ac.jp までメールして下さい。</p> | | | | |

科目一覧（理学療法科学域 博士後期課程）

| 授業科目名 | 配当年次 | 開講期 | 単位数 | 備考 |
|-----------------|------|-------|-----|-----------|
| 理学療法科学特別研究a | 最終学年 | 前期・後期 | 4 | |
| 理学療法科学特別研究b | 最終学年 | 後期・前期 | 4 | |
| 発達障害理学療法学特講 | 1～3年 | 前期 | 2 | |
| 発達障害理学療法学特講演習 | 1～3年 | 後期 | 2 | |
| 障害予防理学療法学特講 | 1～3年 | 前期 | 2 | |
| 障害予防理学療法学特講演習 | 1～3年 | 後期 | 2 | |
| 内部障害理学療法学特講 | 1～3年 | 前期 | 2 | |
| 内部障害理学療法学特講演習 | 1～3年 | 後期 | 2 | |
| 認知運動科学理学療法学特講 | 1～3年 | 前期 | 2 | |
| 認知運動科学理学療法学特講演習 | 1～3年 | 後期 | 2 | |
| 神経系障害理学療法学特講 | 1～3年 | 前期 | 2 | |
| 神経系障害理学療法学特講演習 | 1～3年 | 後期 | 2 | |
| 固有受容性神経筋促通学特講 | 1～3年 | 前期 | 2 | 2019年度不開講 |
| 固有受容性神経筋促通学特講演習 | 1～3年 | 後期 | 2 | 2019年度不開講 |
| 筋骨格系理学療法学特講 | 1～3年 | 前期 | 2 | |
| 筋骨格系理学療法学特講演習 | 1～3年 | 後期 | 2 | |
| 徒手理学療法学特講 | 1～3年 | 前期 | 2 | |
| 徒手理学療法学特講演習 | 1～3年 | 後期 | 2 | |
| 地域理学療法学特講 | 1～3年 | 前期 | 2 | |
| 地域理学療法学特講演習 | 1～3年 | 後期 | 2 | |

<博士後期課程>

| 区分 | 授業科目名 | 単位数 | 運動障害分析理学療法学分野(注1) | 身体機能回復理学療法学分野(注2) | 地域理学療法学分野(注3) |
|-------------------|-----------------|---------|-------------------|-------------------|---------------|
| | 理学療法科学特別研究 a | 4 | ◎ | ◎ | ◎ |
| | 理学療法科学特別研究 b | 4 | ◎ | ◎ | ◎ |
| 運動障害分析理学療法学分野 | 発達障害理学療法学特講 | 2 | ○ | □ | □ |
| | 発達障害理学療法学特講演習 | 2 | ○ | □ | □ |
| | 障害予防理学療法学特講 | 2 | □ | □ | □ |
| | 障害予防理学療法学特講演習 | 2 | □ | □ | □ |
| | 内部障害理学療法学特講 | 2 | □ | □ | □ |
| | 内部障害理学療法学特講演習 | 2 | □ | □ | □ |
| | 認知運動科学理学療法学特講 | 2 | □ | □ | □ |
| | 認知運動科学理学療法学特講演習 | 2 | □ | □ | □ |
| | 神経系障害理学療法学特講 | 2 | □ | □ | □ |
| | 神経系障害理学療法学特講演習 | 2 | □ | □ | □ |
| 理学療法学分野 身体機能回復 | 固有受容性神経筋促通学特講 | 2 | □ | ○ | □ |
| | 固有受容性神経筋促通学特講演習 | 2 | □ | ○ | □ |
| | 筋骨格系理学療法学特講 | 2 | □ | □ | □ |
| | 筋骨格系理学療法学特講演習 | 2 | □ | □ | □ |
| | 徒手理学療法学特講 | 2 | □ | □ | □ |
| | 徒手理学療法学特講演習 | 2 | □ | □ | □ |
| 療法学分野 地域理学 | 地域理学療法学特講 | 2 | □ | □ | ○ |
| | 地域理学療法学特講演習 | 2 | □ | □ | ○ |
| 必修 | | 8 単位 | | | |
| 分野の必修 | | 4 単位 | | | |
| 選択 | | 2 単位 | | | |
| 計 | | 14 単位以上 | | | |

凡例： ◎必修 ○分野の必修 □選択

注1：この履修モデルは発達障害理学療法学で指導を受ける院生用です。

注2：この履修モデルは固有受容性神経筋促通学で指導を受ける院生用です。

注3：この履修モデルは地域理学療法学で指導を受ける院生用です。

博士後期課程・理学療法科学域

| | | | | | |
|--|--|-----------|------|-----|-------|
| 授業科目名 | 理学療法科学特別研究 a | 配当年次 | 最終学年 | 単位数 | 4 単位 |
| (科目英名) | Doctoral Dissertation in Physical Therapy a | 前期で履修する場合 | | | U0250 |
| 担当教員 | 網本和、新田収、山田拓実、竹井仁、浅川 康吉、 古川順光、来間弘展、池田由美 | 後期で履修する場合 | | | U0297 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①より自立して、研究テーマを掘り下げ、科学論文作成を行う。 ②独立した研究者として、研究テーマの設計から、データ収集、分析、考察が可能となること。 ③理学療法学分野の中から研究課題(研究仮説)を選択し、その研究過程を実践し博士論文を作成する。 ④関連学会への参加発表を推奨する。 ⑤指導教員の指示に従う。 ⑥レポート・出席状況・質疑応答などで評定する。 ⑦指導教員と個別に相談すること。 ⑧博士論文に関連する学術論文を三編(筆頭者)提出する。 前期・後期、どちらでも履修可能。 曜日・時限等の詳細は、学生から教員に相談・調整すること。 履修登録期間に、自身で登録すること。 | | | | |

| | | | | | |
|--|---|-----------|------|-----|-------|
| 授業科目名 | 理学療法科学特別研究 b | 配当年次 | 最終学年 | 単位数 | 4 単位 |
| (科目英名) | Doctoral Dissertation in Physical Therapy b | 前期で履修する場合 | | | U0298 |
| 担当教員 | 網本和、新田収、山田拓実、竹井仁、浅川 康吉、 古川順光、来間弘展、池田由美 | 後期で履修する場合 | | | U0299 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①より自立して、研究テーマを掘り下げ、科学論文作成を行う。 ②独立した研究者として、研究テーマの設計から、データ収集、分析、考察が可能となること。 ③理学療法学分野の中から研究課題(研究仮説)を選択し、その研究過程を実践し博士論文を作成する。 ④関連学会への参加発表を推奨する。 ⑤指導教員の指示に従う。 ⑥レポート・出席状況・質疑応答などで評定する。 ⑦指導教員と個別に相談すること。 ⑧博士論文に関連する学術論文を三編(筆頭者)提出する。 理学療法科学特別研究 a の単位を修得したものが履修できる。 前期・後期、どちらでも履修可能。 曜日・時限等の詳細は、学生から教員に相談・調整すること。 履修登録は、論文提出を以て事務で一括で行う。(※履修登録期間の自身による履修登録は不要。) | | | | |

| | | | | | |
|---|---|------|-------|-----|-------|
| 授業科目名 | 発達障害理学療法学特講 | 配当年次 | 1~3 年 | 単位数 | 2 単位 |
| (科目英名) | Advanced Research of Pediatric Physical Therapy | 前期 | 月曜 | 7 限 | U0279 |
| 担当教員 | 新田収 | | 金曜 | 1 限 | U0280 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 | ①発達の初期に原因がありこのためにその後の発達過程が障害される場合、その発達過程は個々に異なったものとなってしまふ。このために変化の過程を一般解として示すことは容易ではない。臨床評価では主観評価に頼らざる得ない部分が多い。これらの状況を踏まえ、障害児運動発達の評価方法について検討を加える。 ②正常児における運動発達過程の理解を深めることに加えて、障害がある場合の発達過程についての検討を行う。 ③1 回-6 回:1.学生に対し運動発達の分析方法について講義する。 7 回-14 回:2.各学生に運動発達評価に関して課題レポートを科し、レポート内容について討議を展開する。 15 回:3.講義は講義、課題レポートの発表、グループ討議により構成する | | | | |

博士後期課程・理学療法科学域

| | |
|---|--|
| ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | 【授業方法】: 講義を主体とし、一部グループワークを実施し、ディスカッションを行う。 【授業外学習】: 講義の中で質問、討論を行うので、講義で配布した資料等を基に充分予習し、準備すること。 ④各自の研究テーマに関する、データ収集 ⑤特に無し ⑥レポート、授業参加の積極性を評価する ⑦【オフィスアワー】: 月曜日-金曜日、授業時間以外の 9:00-17:00 研究室 575 【連絡先】新田 収: nittaosm@tmu.ac.jp ⑧【他の授業との関連性】発達障害理学療法学特論と関連する。 |
|---|--|

| 授業科目名 | 発達障害理学療法学特講演習 | 配当年次 | 1~3年 | 単位数 | 2単位 |
|------------------------|---|------|------|------|-------|
| (科目英名) | Advanced Research Seminar of Pediatric Physical Therapy | 後期 | 金曜 | 1-2限 | U0281 |
| 担当教員 | 新田 収 | | 月曜 | 6-7限 | U0282 |
| ①授業方針・テーマ | ①具体的な評価方法は観察による質的データから筋電図データなど量的データまで広く検討の対象とする。また広義の運動発達障害評価に関連すると考えられれば、幅広く先行研究を検索し、様々な分析手法を運動発達障害評価に応用することの可能性についても検討する。 | | | | |
| ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 | ②発達障害児運動機能に関する評価の方法について理解を深める。 | | | | |
| ③授業計画・内容 授業方法 | ③1. 学生に対し発達障害児に関するサンプルデータを示し分析を科す。 2. 分析結果のついて分析方法の妥当性、信頼性を中心に討議を展開する。 3. 講義は講義、課題レポートの発表、グループ討議により構成する | | | | |
| ④授業外学習 | ④各自の研究テーマに関するデータ収集 | | | | |
| ⑤テキスト・参考書等 | ⑤特に無し | | | | |
| ⑥成績評価方法 | ⑥レポート、授業参加の積極性を評価する | | | | |
| ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ⑦【オフィスアワー】: 月曜日-金曜日、授業時間以外の 9:00-17:00 研究室 575 【連絡先】新田 収: nittaosm@tmu.ac.jp | | | | |
| ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ⑧【他の授業との関連性】: 発達障害理学療法学特講と関連する。 | | | | |

| 授業科目名 | 障害予防理学療法学特講 | 配当年次 | 1~3年 | 単位数 | 2単位 |
|------------------------|---|------|------|-----|-------|
| (科目英名) | Advanced Research of Clinical Exercise Physiology | 前期 | 火曜 | 5限 | U0283 |
| 担当教員 | 山田拓実、鈴木政登、小島肇、杉本和隆 | | | 7限 | U0284 |
| ①授業方針・テーマ | ①高齢者に対する障害予防理学療法、および内部障害理学療法の評価と治療の具体的方略を検討する。 EBMの手順・実践を体験する。 人工関節の最先端治療を苑田会人工関節センター病院長から学ぶ。 | | | | |
| ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 | ②受講生は科学的根拠に基づいた適切な理学療法アプローチを設定できることを目標とする。 運動様式や運動強度および陸上、水中、暑熱など一過性環境要因や習慣的運動の影響を、生理・生化学、内分泌学的観点から捉え、生活習慣病を含む臓器障害や運動器系の障害(骨、関節、筋、神経)を有する者の運動処方および生活習慣指導ができるようになることを目標とする。 | | | | |
| ③授業計画・内容 授業方法 | ③項目1(山田)サルコペニア 栄養 項目2(山田)高齢者の障害予防の理学療法 項目3(山田)高齢者の障害予防の理学療法 項目4(山田)内部障害の理学療法 項目5(小島)障害予防理学療法のEBM 項目6(小島)障害予防理学療法のEBM 項目7(小島)障害予防理学療法のEBM 項目8(鈴木)運動科学概論・運動と神経・筋 項目9(鈴木)運動と呼吸・循環機能および水・電解質・エネルギー代謝 項目10(鈴木)運動と生理・生化学および内分泌応答 項目11(鈴木)環境と運動時生理・生化学および内分泌応答 項目12(鈴木)臓器障害および生活習慣病を有する者の運動処方 項目13(鈴木)臓器障害および生活習慣病を有する者の運動処方 項目14(杉本)人工関節の最先端治療 | | | | |

博士後期課程・理学療法科学域

| | |
|---|---|
| ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | 項目15(杉本)人工関節の最先端治療 講義を中心とした授業を実施するが、適宜質問を投げかける。 ④授業時に示す課題英文文献について、A4用紙2枚程度のレポートを作成して提出すること。 前回の授業範囲を復習し、評価治療の医学的根拠を理解しておくこと。 ⑤特に使用しない。 ⑥授業参加度50%、発表50% ⑦質問・連絡等がある場合は、yamada@tmu.ac.jp までメールしてください。 ⑧障害予防理学療法学特講演習は関連科目である。 |
|---|---|

| | | | | | |
|--------|---|------|------|------|-------|
| 授業科目名 | 障害予防理学療法学特講演習 | 配当年次 | 1～3年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Advanced Research Seminar of Clinical Exercise Physiology | 後期 | 水曜 | 4-5限 | U0285 |
| 担当教員 | 山田拓実、鈴木政登 | | | 6-7限 | U0286 |

| | |
|--|--|
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①文献レビュー、症例検討を通じて高齢者・内部障害患者に対する障害予防理学療法の評価と治療の具体的方策を検討する。 運動負荷試験 生化学的分析実習から得られる生理的反応をレポートにまとめる。 ②受講生は自身の担当した症例の肺機能検査、X線写真、血液ガス分析などの臨床データ、理学療法アプローチを呈示しその科学的根拠を分析して、より効果的な治療方法について討議する。 ③項目1～4(山田)以下の内容を中心に具体的な症例の呈示と討論によって進める。 ・臨床データの解釈 ・治療方法の提案 ・文献による治療法の有効性の検討 受講生の積極的な参加が望まれる。PPプレゼンテーションなどを作成し症例検討を行う。症例の呈示の困難な受講生は文献による内部障害理学療法に関するトピックスを紹介し、討議材料とする。 項目5～8(山田) 高齢者運動障害予防に関する文献を精読し、プレゼンテーションおよび討論を通じて、運動療法への展開について検討する。 (鈴木) 項目9～11 運動時生理・生化学応答実習 運動負荷試験 項目12～14 運動時生理・生化学応答実習 スパイロメーター 尿生化学検査 項目15 講義 糖尿病の運動療法 運動負荷試験 エルゴメータ トレッドミル 生化学的分析実習 講義を中心とした授業を実施するが、適宜質問を投げかける。 運動負荷試験から得られる生理的反応をレポートにまとめる。 前回の授業範囲を復習し、評価治療の医学的根拠を理解しておくこと。 ④運動負荷試験 生化学的分析実習から得られる生理的反応をレポートにまとめる。 課題テーマの英文文献を抄読し発表する。 ⑤参考文献・テキスト特に定めない。 ⑥発表50% レポート50% ⑦質問・連絡等がある場合は、yamada@tmu.ac.jp までメールしてください。 ⑧障害予防理学療法学特講を事前に履修すること。 |
|--|--|

| | | | | | |
|--------|---|------|------|-----|-------|
| 授業科目名 | 内部障害理学療法学特講 | 配当年次 | 1～3年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Advanced Research of Cardiopulmonary Physical Therapy | 前期 | 火曜 | 4限 | U0255 |
| 担当教員 | 古川順光 | | | 6限 | U0256 |

| | |
|---|---|
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 | ①内部障害者の体力・身体活動や虚血性心疾患等の内部障害に対する理学療法の評価と治療手技に関し検討する。 ②運動様式や運動強度および環境要因や習慣的運動の影響を考慮し、生活習慣病を含む臓器障害や運動器系障害を有する者の生活活動および運動処方ができることを目標とする。 ③1～4: 運動生理学 概論 5～8: 循環器疾患・糖尿病の理学療法 9～12: 内部障害と体力・身体活動量 |
|---|---|

博士後期課程・理学療法科学域

| | |
|---|--|
| ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | 13～15:運動処方 授業方法:上記に関する文献を精読し、プレゼンテーションおよびディスカッションを行う。これらをもとに内部障害の理学療法実施に関して検討を進める。 ④文献を読みプレゼンテーションの準備をする。 ⑤特に使用しない。 ⑥レポート(50%)、試験(50%) ⑦直接質問したい場合は随時受付しますので、事前にメール(yfuru@tmu.ac.jp)でアポイントメントをとってください。 ⑧解剖学・生理学・運動学等の基礎医学、および関連文献を準備しておくこと。 |
|---|--|

| | | | | | |
|--------|---|------|------|------|-------|
| 授業科目名 | 内部障害理学療法学特講演習 | 配当年次 | 1～3年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Advanced Research Seminar of Cardiopulmonary Physical Therapy | 後期 | 月曜 | 4-5限 | U0257 |
| 担当教員 | 古川順光 | | | 6-7限 | U0258 |

| | |
|--|--|
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①文献抄読を通じて内部障害や身体活動量低下に対する理学療法の評価と治療の具体的方略を検討する。 ②内部障害や身体活動量低下に対する理学療法の評価と治療の具体的方略を修得することができる。また各種運動負荷試験の利点と欠点を知り、運動負荷試験を実施した際の生理的反応を知ることができる。 ③1～10:内部障害者の身体活動に関する文献を精読し、運動療法への展開を討論する。 11～15:運動負荷試験実習 授業方法:文献抄読と実習 ④関連文献を精読し、自らの考察を加える。 ⑤特に定めない。 ⑥授業中の発表(50%)、レポート(50%)。 ⑦直接質問したい場合は随時受付しますので、事前にメール(yfuru@tmu.ac.jp)でアポイントメントをとってください。 ⑧解剖学・生理学・運動学等の基礎医学、および内部障害理学療法学特講で検討した関連文献を復習しておくこと。 |
|--|--|

| | | | | | |
|--------|---|------|------|-----|-------|
| 授業科目名 | 認知運動科学理学療法学特講 | 配当年次 | 1～3年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Advanced Analysis of Neurocognitive Therapy | 前期 | 木曜 | 5限 | U0287 |
| 担当教員 | 池田由美 | | | 6限 | U0288 |

| | |
|--|---|
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①現在の理学療法評価や運動療法の問題点について運動科学的側面、認知神経科学的側面から検討を加え、臨床に応用可能な方略について探求する。 ②現在の理学療法評価や運動療法の問題点を運動科学的側面、認知神経科学的側面から捉える。 ・治療方略や治療の有効性について検証する方法を学ぶ。 ③【授業内容・方法】受講生各自が下記のテーマのうち興味のあるテーマを選択し、研究論文を読み、それをまとめて発表し、治療方略や治療の有効性について検証する方法を討議する。 ・脳の可塑性 ・神経損傷の回復のメカニズム ・身体の回復 ・行為能力の回復 ・運動学習 【授業計画】1回の講義時間内に2名ずつ発表する。発表の順序は初講日に決定する。 ④興味のある研究論文を選択し、発表できる形式(A4レジュメ2枚程度)にまとめ、発表の準備を行う。なお、研究論文はできるだけ最新のものを選択すること。 ⑤特になし。 ⑥講義への取組み、発表の内容等で評価する。 ⑦講義後、またはメールにて受け付けます。 ⑧講義で発表する論文については、速やかに決定し、決定次第、担当教員まで連絡してください(ikedayum@tmu.ac.jp)。 |
|--|---|

博士後期課程・理学療法科学域

| 授業科目名 | 認知運動科学理学療法学特講演習 | 配当年次 | 1～3年 | 単位数 | 2単位 |
|--|--|------|------|------|-------|
| (科目英名) | Advanced Analysis Practice of Neurocognitive Therapy | 後期 | 火曜 | 6-7限 | U0289 |
| 担当教員 | 池田由美 | | 木曜 | 1-2限 | U0290 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | <p>①主観的経験と身体運動機能の回復をテーマに、研究の動向を分析し、研究手法ならびに神経科学的知見について討論する。</p> <p>②主観的経験と身体運動機能の回復に関する研究の動向を知る。 ・主観的経験と身体運動機能の回復に関する最新の神経科学的知見について知る。 ・身体的運動機能の回復につながるような具体的方略を考えるプロセスを学ぶ。 ・主観的経験と身体運動機能の回復について研究する方法を学び、リサーチ・クエスチョンを作成できるようになる。</p> <p>③【授業内容・方法】『The Neural Bases of Multisensory Processes』や研究論文を読み、主観的経験に関する神経科学的知見について知識を得るとともに、身体的運動機能の回復につながるような具体的方略について討議する。また、これらに関する研究手法について演習を行う。認知神経リハビリテーションの実践場面を体験する。 【授業計画】 第1・2回:オリエンテーション、担当する章の決定と次回以降の準備 第3～6回:認知神経リハビリテーションの実践場面の体験(課題:体験レポート) 第7～30回:『The Neural Bases of Multisensory Processes』ならびに研究論文の発表(2回の講義時間内に1名ずつ発表)と討議</p> <p>④担当した章については全訳、研究論文については要約し、発表の準備を行う。なお、研究論文はできるだけ最新のものを選択すること。</p> <p>⑤特に定めない</p> <p>⑥演習への取組み、レポート、発表の内容等で評価する。</p> <p>⑦講義後、またはメールにて受け付けます(ikedayum@tmu.ac.jp)</p> <p>⑧認知運動科学理学療法学特講を受講しておくこと。</p> | | | | |

| 授業科目名 | 神経系障害理学療法学特講 | 配当年次 | 1～3年 | 単位数 | 2単位 |
|--|--|------|------|-----|-------|
| (科目英名) | Advanced Research of Physical Therapy for Neurology | 前期 | 水曜 | 4限 | U0291 |
| 担当教員 | 網本和 | | | 6限 | U0292 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | <p>①神経系障害例における運動の認知的制御を中心に、理学療法的評価および治療方略について検討する。</p> <p>②神経系障害に関与する諸要因の科学的理論的な基礎的分析検討を行うことができる。 神経系障害の理学療法評価法について修得できる。 神経系障害の治療戦略の基本について修得できる。 ディスカッションを通じて論理的思考能力を涵養できる。</p> <p>③各自の研究テーマに従って課題を設定する。 神経系障害にかかわる理学療法的評価と治療方法について以下の点について検討する。 1回～3回 運動の認知的制御 4回～8回 高次神経機能障害の関与 9回～13回 神経系障害の予後的側面 14回～15回 その他最新のトピックスを取り上げる。 授業方法】:主に講義とレポート発表で実施する。講義で定義や概念等について解説を行った後、事例または文献例に基づいたグループディスカッションを実施し討論する。</p> <p>④【授業外学習】:テーマに沿った文献を渉猟しまとめてうえで講義に臨むことが期待される。</p> <p>⑤テキストは特に定めない。</p> <p>⑥講義への参加およびレポート課題によって評価する。</p> <p>⑦【オフィスアワー】:原則として水曜日3時限目としますので、質問等があれば研究室(588)に来てください。また、メールによる質問も随時受け付けます。 【連絡先】amimoto@tmu.ac.jp</p> <p>⑧【他の授業科目との関連性】:専門領域を問わず興味があれば受講できる。</p> | | | | |

博士後期課程・理学療法科学域

| 授業科目名 | 神経系障害理学療法学特講演習 | 配当年次 | 1～3年 | 単位数 | 2単位 |
|--|--|------|------|------|-------|
| (科目英名) | Advanced Research Seminar of Physical Therapy for Neurology | 後期 | 水曜 | 1-2限 | U0293 |
| 担当教員 | 網本和 | | | 6-7限 | U0294 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①神経系障害の症例検討および健常者での実験的分析を行う。 ②神経系障害理学療法学特講における基礎的理論を、臨床的に応用可能な方略を検討する。 神経系障害の臨床的理学療法評価法について修得できる。 神経系障害の臨床的治療戦略について修得できる。 ディスカッションを通じて論理的思考能力を涵養できる。 ③脳損傷例を対象として、動作学的分析、神経心理学的評価、などを施行する。 これらの方法の分析検討を行い、新たな評価法ならびに治療アプローチを開発する。 症例については自然経過の観察の後、積極的な理学療法学的介入の効果を検証してゆく。 各自の研究テーマに従って課題を設定する。 1回～4回 脳損傷例の動作学的分析と症例検討 5回～8回 神経心理学的評価法の臨床応用と症例検討 9回～12回 新たな評価法ならびに治療アプローチの検討 13回～15回 臨床的治療方略の効果に関する検討 ④テーマについての英語論文を読んでおくこと。 ⑤テキストは特に定めない。 ⑥演習への参加およびレポート課題で評価する。 ⑦【オフィスアワー】:原則として水曜日3時限目としますので、質問等があれば研究室(588)に来てください。また、メールによる質問も随時受け付けます。 【連絡先】amimoto@tmu.ac.jp ⑧【他の授業科目との関連性】:神経系理学療法学特講の受講が必須である。 | | | | |

| 授業科目名 | 固有受容性神経筋促通学特講 | 配当年次 | 1～3年 | 単位数 | 2単位 |
|--|---|------|------|-----|-------|
| (科目英名) | Proprioceptive Neuromuscular Facilitation Theory | 前期 | 木曜 | 5限 | U0295 |
| 担当教員 | 新井光男 | | | 6限 | U0296 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①PNF (proprioceptive neuromuscular facilitation) ②固有受容性神経筋促通法(PNF:proprioceptive neuromuscular facilitation)の理論や効果に関する論文の内容を理解し、解釈できることを授業目標とする。 ③①固有受容性神経筋促通法(PNF:proprioceptive neuromuscular facilitation)の理論・効果に関する論文の内容を理解し、解釈できることを授業目標とする。 ②テーマ:PNF ③④ 最新のPNF理論を英論文を通して教授する。また、PNFに関連する生理学的論文(英文)を院生が紹介し、論文の内容について質疑応答する。また、最新の研究論文を提示しながら演習を行う。 ⑤テキスト:別途、指示する。 ⑥レポート・出席状況・質疑応答などで評定する。 ⑦なし ④ ⑤テキスト:別途、指示する。 ⑥レポート・質疑応答などで評定する。 ⑦【オフィスアワー】新井光男 pnfsw@tmu.ac.jp に希望の時間をメールしてください。調整します。固有受容性神経筋促通学特講演習と関連する。 ⑧ | | | | |

博士後期課程・理学療法科学域

| | | | | | |
|--|--|------|------|------|-------|
| 授業科目名 | 固有受容性神経筋促通学特講演習 | 配当年次 | 1～3年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Proprioceptive Neuromuscular Facilitation Practice | 後期 | 金曜 | 4-5限 | U0277 |
| 担当教員 | 新井光男、白谷智子 | | | 6-7限 | U0278 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①固有受容性神経筋促通法(PNF) ②固有受容性神経筋促通法(PNF)に関する生理学的・運動学的英論文を演習を通して理解し、解釈できることを授業目標とする。 ③PNFに関する生理学的・運動学的英論文を院生が紹介し、論文の内容について質疑応答する。 ④ ⑤別途、指示をする。 ⑥レポート・質疑応答内容などで評定する。 ⑦【オフィスアワー】新井光男 pnfsw@tmu.ac.jp に希望の時間をメールしてください。調整します。固有受容性神経筋促通学特講と関連する。 ⑧ | | | | |

| | | | | | |
|--|--|------|------|-----|-------|
| 授業科目名 | 筋骨格系理学療法学特講 | 配当年次 | 1～3年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Advanced Research of Musculoskeletal Physical Therapy | 前期 | 月曜 | 2限 | U0275 |
| 担当教員 | 来間弘展 | | 木曜 | 7限 | U0276 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ①講義を行い、その後症例を通じた検討を行う。 ②症例検討を通じて筋骨格系障害患者に対する理学療法の評価と治療の具体的な方略を検討する。受講生は自身の担当した症例の臨床データ、理学療法アプローチを呈示しその科学的根拠を分析して、より効果的な治療方法について討議する。 ③講義およびプレゼンテーション。必要に応じて実習を行う。 項目1 クリニカルリーディングについて 項目2 頸椎検査の注意点 項目3 慢性疼痛について 項目4 モーターコントロールについて その後、各自症例を提示して検討を行う。その際、検査や理学療法法の信頼性等の文献を精読し、紹介も同時に行う。 ④筋骨格系理学療法法の文献を 読んでまとめてください。 ⑤特に定めない。 ⑥授業参加度30%、発表70% ⑦メール(kuruma@tmu.ac.jp)にて連絡してください。 | | | | |

| | | | | | |
|--|--|------|------|------|-------|
| 授業科目名 | 筋骨格系理学療法学特講演習 | 配当年次 | 1～3年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Advanced Research Seminar of Musculoskeletal Physical Therapy | 後期 | 金曜 | 1-2限 | U0259 |
| 担当教員 | 来間弘展 | | | 6-7限 | U0260 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ①各自のテーマに沿った文献検討を行う。 ②各院生がテーマとする筋骨格系理学療法に関する文献等を選択し、テーマ別に演習として内容の検討・考察を行う。また文献等を基に患者を評価・治療して症例呈示できることを目標とする。 ③各自のテーマに沿った文献を精読し、プレゼンテーション・ディスカッションを行う。必要に応じて実技を行う。 ④筋骨格系理学療法法の文献を読んでまとめてください。 ⑤特に定めない。 ⑥授業参加度30%、発表70% ⑦メール(kuruma@tmu.ac.jp)にて連絡してください。 | | | | |

博士後期課程・理学療法科学域

| 授業科目名 | 徒手理学療法学特講 | 配当年次 | 1～3年 | 単位数 | 2単位 |
|--|--|------|------|-----|-------|
| (科目英名) | Manual Physical Therapy | 前期 | 火曜 | 5限 | U0251 |
| 担当教員 | 竹井仁 | | | 6限 | U0252 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ①徒手理学療法 ②徒手療法の効果に関する論文や成書の内容を理解し、解釈できることを授業目標とする。 ③各系列の徒手療法の理論について和・英語論文を通して講義する。 必要に応じて実習を行う。 講義、課題レポートの発表、グループ討議により構成する。 ④予習・復習 ⑤系統別・治療手技の展開第3版(協同医書出版) 触診機能解剖カラーアトラス(文光堂) ⑥課題発表・出席状況・質疑応答・筆記試験などで評定する。 ⑦各講義で質疑応答 | | | | |

| 授業科目名 | 徒手理学療法学特講演習 | 配当年次 | 1～3年 | 単位数 | 2単位 |
|--|---|------|------|------|-------|
| (科目英名) | Manual Physical Therapy Practice | 後期 | 月曜 | 4-5限 | U0253 |
| 担当教員 | 竹井仁、山内正雄 | | | 6-7限 | U0254 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ①徒手理学療法 ②徒手療法の効果を演習・実習を通して理解し、解釈できることを授業目標とする。 ③徒手療法(特に筋膜に対するアプローチ)に関する論文を院生が紹介し、内容について質疑応答する。 徒手理学療法の実技実習も行う。 講義、課題レポートの発表、グループ討議により構成する。 ④予習・復習 ⑤系統別・治療手技の展開第3版(協同医書出版) 触診機能解剖カラーアトラス(文光堂) ⑥課題発表・出席状況・質疑応答などで評定する。 ⑦各講義で質疑応答 | | | | |

| 授業科目名 | 地域理学療法学特講 | 配当年次 | 1～3年 | 単位数 | 2単位 |
|--|---|------|------|-----|-------|
| (科目英名) | Advanced Research of Community-Based Physical Therapy | 前期 | 月曜 | 5限 | U0271 |
| 担当教員 | 浅川康吉 | | | 6限 | U0272 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ①高齢者の運動、行動及び生活機能などを例に地域生活と社会参加の支援のあり方を考究する。各自の研究に必要なテーマにしたがって講義と演習を行う。また必要に応じた討論を行う。 ②高齢者、障害者を主たる対象として地域生活を円滑に送りながら社会参加を促進させるためのニーズとその実現を目指す支援のあり方に関する研究の進め方を学ぶ。 ③前半は、生活機能評価、生活動作障害(病態運動学)、住民教育、地域保健と公衆衛生、等のテーマを扱う。後半は、各院生の研究テーマに関する論文作成指導、研究デザイン報告の方法、経過報告および論文投稿方法等について演習を行う。 【授業方法】: 各院生の研究テーマを踏まえPBL(Project Based Learning)を活用した授業を行う。 ④地域理学療法学研究と関連が深い地域保健、公衆衛生、地域福祉などについても学習をしてください。 ⑤適宜、資料の配付、参考書を紹介する。 ⑥レポート(80%)、討論内容(20%)で判定する。 ⑦【オフィスアワー】: 質問等があれば随時受け付けます。荒川キャンパス校舎棟 563 研究室へ来てください。メールによる質問も受け付けます。 【連絡先】: yasakawa@tmu.ac.jp | | | | |

博士後期課程・理学療法科学域

| | | | | | |
|--|--|------|------|------|-------|
| 授業科目名 | 地域理学療法学特講演習 | 配当年次 | 1～3年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Seminar in Advanced Research of Community-Based Physical Therapy | 後期 | 月曜 | 4-5限 | U0273 |
| 担当教員 | 浅川康吉 | | | 6-7限 | U0274 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | <p>①地域に在住する後期高齢者の運動、行動能力及び生活機能などを例に地域診断方法、政策策定等を演習する。前期の特講科目と継続して各自の研究に必要なテーマにしたがって講義と演習を行う。また必要に応じた討論を行う。</p> <p>②新生児から後期高齢者に至るまで、地域生活(活動)を円滑に送りながら社会参加を促進させるためのニーズとその実現を目指す支援のあり方に関する理論的基礎について論じ、理論をフィールドに応用し、その適合性を検証できることを指導目標とする。</p> <p>③講義は各院生の研究テーマに照らして地域理学療法研究の視点、方法論を活用できるように指導する。前半は、研究フィールド(地域)、研究対象(地域で暮らす高齢者、障害者)、地域に適した運動機能評価(フィールドテスト)などについて講義を中心に進める。後半は、地域理学療法研究におけるプレゼンテーション、データ解析、投稿指導について講義・演習を行なう。</p> <p>【授業方法】:各院生の研究テーマを踏まえPBL(Project Based Learning)を活用した授業を行う。</p> <p>④国内のみならず国外も含めて地域リハビリテーションに関する学びをひろげてください。</p> <p>⑤適宜、資料の配付、参考書を紹介する。</p> <p>⑥レポート(80%)、討論内容(20%)で判定する。</p> <p>⑦【オフィスアワー】:質問等があれば随時受け付けます。荒川キャンパス校舎棟 563 研究室へ来てください。メールによる質問も受け付けます。</p> <p>【連絡先】:yasakawa@tmu.ac.jp</p> | | | | |

科目一覧（作業療法科学域 博士後期課程）

| 授業科目名 | 配当年次 | 開講期 | 単位数 | 備考 (分野は論文指導教員によって異なる) |
|------------------|------|-------|-----|--------------------------|
| 作業療法科学特別研究a | 最終学年 | 前期・後期 | 4 | 必修 |
| 作業療法科学特別研究b | 最終学年 | 後期・前期 | 4 | 必修 |
| 認知作業療法学特講 | 1年 | 通年 | 4 | 分野選択必修 |
| 認知作業療法学特講演習 | 2年 | 前期 | 2 | 分野選択必修 |
| 精神神経機能障害学特講 | 1年 | 通年 | 4 | 分野選択必修 |
| 精神神経機能障害学特講演習 | 2年 | 前期 | 2 | 分野選択必修 |
| 児童青年発達期作業療法学特講 | 1年 | 通年 | 4 | 分野選択必修 |
| 児童青年発達期作業療法学特講演習 | 2年 | 前期 | 2 | 分野選択必修 |
| 老年心理行動分析学特講 | 1年 | 通年 | 4 | 分野選択必修 |
| 老年心理行動分析学特講演習 | 2年 | 前期 | 2 | 分野選択必修 |
| 作業行動学特講 | 1年 | 通年 | 4 | 分野選択必修 |
| 作業行動学特講演習 | 2年 | 前期 | 2 | 分野選択必修 |
| 老年地域参加支援学特講 | 1年 | 通年 | 4 | 分野選択必修 |
| 老年地域参加支援学特講演習 | 2年 | 前期 | 2 | 分野選択必修 |
| 作業科学特講 | 1年 | 通年 | 4 | 分野選択必修 |
| 作業科学特講演習 | 2年 | 後期 | 2 | 分野選択必修 |
| 作業生活支援学特講 | 1年 | 通年 | 4 | 分野選択必修 |
| 作業生活支援学特講演習 | 2年 | 前期 | 2 | 分野選択必修 |
| 福祉機器関連適用学特講 | 1年 | 通年 | 4 | 分野選択必修 |
| 福祉機器関連適用学特講演習 | 2年 | 前期 | 2 | 分野選択必修 |
| 生活環境分析学特講 | 1年 | 通年 | 4 | 分野選択必修 |
| 生活環境分析学特講演習 | 2年 | 前期 | 2 | 分野選択必修 |

履修モデル（人間健康科学研究科 人間健康科学専攻 作業療法科学域）

< 博士後期課程 >

| 区分 | 授業科目名 | 単位数 | 心身機能 作業療法科学 | | | | 作業行動 科学 | | | 作業生活 環境科学 | | |
|--|------------------|-----|-----------------|-----------------------|--|---|-----------------------|---|------------------|---------------------------------|---|---------------------------------|
| | | | 認知 作業療法 学 | 精神 神経機 能障 害学 | 児 童 青 年 発 達 期 作 業 療 法 学 | 老 年 心 理 行 動 分 析 学 | 作 業 行 動 学 | 老 年 地 域 参 加 支 援 学 | 作 業 科 学 | 作 業 生 活 支 援 学 | 福 祉 機 器 関 連 適 用 学 | 生 活 環 境 分 析 学 |
| 共通 | 作業療法科学特別研究a | 4 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| | 作業療法科学特別研究b | 4 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| 心身機能 学 分 野 作 業 療 法 科 | 認知作業療法学特講 | 4 | ○ | | | | | | | | | |
| | 認知作業療法学特講演習 | 2 | ○ | | | | | | | | | |
| | 精神神経機能障害学特講 | 4 | | ○ | | | | | | | | |
| | 精神神経機能障害学特講演習 | 2 | | ○ | | | | | | | | |
| | 児童青年発達期作業療法学特講 | 4 | | | ○ | | | | | | | |
| | 児童青年発達期作業療法学特講演習 | 2 | | | ○ | | | | | | | |
| | 老年心理行動分析学特講 | 4 | | | | ○ | | | | | | |
| | 老年心理行動分析学特講演習 | 2 | | | | ○ | | | | | | |
| 科 作 業 分 野 動 | 作業行動学特講 | 4 | | | | | ○ | | | | | |
| | 作業行動学特講演習 | 2 | | | | | ○ | | | | | |
| | 老年地域参加支援学特講 | 4 | | | | | | ○ | | | | |
| | 老年地域参加支援学特講演習 | 2 | | | | | | ○ | | | | |
| | 作業科学特講 | 4 | | | | | | | ○ | | | |
| | 作業科学特講演習 | 2 | | | | | | | ○ | | | |
| 環 境 作 業 科 学 分 野 | 作業生活支援学特講 | 4 | | | | | | | | ○ | | |
| | 作業生活支援学特講演習 | 2 | | | | | | | | ○ | | |
| | 福祉機器関連適用学特講 | 4 | | | | | | | | | ○ | |
| | 福祉機器関連適用学特講演習 | 2 | | | | | | | | | ○ | |
| | 生活環境分析学特講 | 4 | | | | | | | | | | ○ |
| | 生活環境分析学特講演習 | 2 | | | | | | | | | | ○ |
| 必修 | | | 8 単位 | | | | | | | | | |
| 分野の必修 | | | 6 単位 | | | | | | | | | |
| 選択必修または選択 | | | | | | | | | | | | |
| 計 | | | 14 単位以上 | | | | | | | | | |

凡例：◎必修 ○分野の必修

* 将来、養成校教員を目指す学生は、博士前期課程で開講されている医療教育特論Ⅰ・Ⅱの履修を推奨する。ただし、修了要件には充当されない。履修は窓口申請となる。

博士後期課程・作業療法科学域

| | | | | | |
|--|---|-----------|------|-----|-------|
| 授業科目名 | 作業療法科学特別研究 a | 配当年次 | 最終学年 | 単位数 | 4 単位 |
| (科目英名) | Dissertation in Occupational Therapy a | 前期で履修する場合 | | | U0350 |
| 担当教員 | 石井良和、大嶋伸雄、小林法一、 塩路理恵子、小林隆司、ボンジェ ペイター、他 | 後期で履修する場合 | | | U0371 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①テーマは指導を受ける院生と協議のうえ、決定する。 ②指導教員の指導のもとで、研究課題を明確にし、研究論文の作成に必要な知識と技能を獲得する。 ③各指導教員ごとに計画するので、各教員と連絡を取ること。 文献研究、研究デザインの探求、データ収集法の検討、データ収集、データ解析を行う。 授業では、各自、進捗状況を報告し、フィードバックをうけること 従って、毎回の予習、復習は必須である。 ④上述のように各自、進捗状況の報告、フィードバックがあるため、指導教員からの指示にしたがって準備することが求められる。 ⑤あらかじめ特に指定しない。 ⑥論文の完成の程度に従って評定する。 ⑦オフィスアワーは特に設定しませんが、直接質問したい場合は随時受付しますので、事前にメールで指導教員とアポイントメントをとってください。 ⑧前期・後期、どちらでも履修可能。 曜日・時限等の詳細は、学生から教員に相談・調整すること。 履修登録期間に、自身で登録すること。 | | | | |

| | | | | | |
|--|---|-----------|------|-----|-------|
| 授業科目名 | 作業療法科学特別研究 b | 配当年次 | 最終学年 | 単位数 | 4 単位 |
| (科目英名) | Dissertation in Occupational Therapy b | 前期で履修する場合 | | | U0372 |
| 担当教員 | 石井良和、大嶋伸雄、小林法一、 塩路理恵子、小林隆司、ボンジェ ペイター、他 | 後期で履修する場合 | | | U0373 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①テーマは指導を受ける院生と協議のうえ、決定する。 ②指導教員の指導のもとで、研究課題を明確にし、研究論文の作成に必要な知識と技能を獲得する。 ③各指導教員ごとに計画するので、各教員と連絡を取ること。 文献研究、研究デザインの探求、データ収集法の検討、データ収集、データ解析を行う。 授業では、各自、進捗状況を報告し、フィードバックをうけること 従って、毎回の予習、復習は必須である。 ④上述のように各自、進捗状況の報告、フィードバックがあるため、指導教員からの指示にしたがって準備することが求められる。 ⑤あらかじめ特に指定しない。 ⑥論文の完成の程度に従って評定する。 ⑦特に定められた日時に限らず、随時、指導を受けることができることにするので、必要に応じて、連絡を取ること。 オフィスアワーは特に設定しませんが、直接質問したい場合は随時受付しますので、事前にメールで指導教員とアポイントメントをとってください。 ⑧作業療法科学特別研究 a の単位を取得した者が履修できる。 前期・後期、どちらでも履修可能。 曜日・時限等の詳細は、学生から教員に相談・調整すること。 履修登録は、論文提出を以て事務で一括で行う。(※履修登録期間の自身による履修登録は不要。) | | | | |

| | | | | | |
|-----------|--|------|-----|-----|-------|
| 授業科目名 | 認知作業療法学特講 | 配当年次 | 1 年 | 単位数 | 4 単位 |
| (科目英名) | Advanced Theory for Cognitive Occupational Therapy | 通年 | 金曜 | 3 限 | U0392 |
| 担当教員 | 大嶋伸雄 | | | 4 限 | U0393 |
| ①授業方針・テーマ | ①テーマは以下のように分類される。 1. 日本人のための作業療法理論とモデルの構築 2. 認知作業療法モデルの基礎 3. 認知運動療法モデルの応用 | | | | |

博士後期課程・作業療法科学域

| | |
|--|--|
| <p>②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標</p> <p>③授業計画・内容 授業方法</p> <p>④授業外学習</p> <p>⑤テキスト・参考書等</p> <p>⑥成績評価方法</p> <p>⑦質問受付方法 (オフィスアワー)</p> <p>⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)</p> | <p>4. 社会心理学の作業療法応用</p> <p>5. 応用行動分析学</p> <p>6. 認知心理学の作業療法応用</p> <p>②1. 認知作業療法理論の体系的概念を学ぶ</p> <p>2. 認知作業療法における心理技法を目的別に理解し実践技法として学ぶ事で活用できる</p> <p>3. 認知作業療法モデルによる介入実践から従来の作業療法介入を相対評価し、新たな理論化への糸口を築く事ができる</p> <p>③上記のテーマに沿って、現在の作業療法理論の体系的分析から新しい理論化モデルの構築まで、幅広い専門領域における概念の統合化を模索するため、学生個人個人の研究テーマに沿った領域別指導を行う。</p> <p>④特になし</p> <p>⑤特になし</p> <p>⑥講義への参加と課題テーマへの報告内容などを総合的に評価する。</p> <p>⑦メールにて対応: oshima@tmu.ac.jp 主担当教員: 大嶋宛</p> <p>⑧本科目の詳細については、すべて教員に相談し調整すること。 履修登録期間に、自身で登録すること。</p> |
|--|--|

| | | | | | |
|--------|--|------|----|------|-------|
| 授業科目名 | 認知作業療法学特講演習 | 配当年次 | 2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Advanced Practice for Cognitive Occupational Therapy | 前期 | 金曜 | 6-7限 | U0394 |
| 担当教員 | 大嶋伸雄 | | 土曜 | 1-2限 | U0395 |

| | |
|---|---|
| <p>①授業方針・テーマ</p> <p>②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標</p> <p>③授業計画・内容 授業方法</p> <p>④授業外学習</p> <p>⑤テキスト・参考書等</p> <p>⑥成績評価方法</p> <p>⑦質問受付方法 (オフィスアワー)</p> <p>⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)</p> | <p>①テーマは以下のように分類される。</p> <p>1. 作業療法カウンセリング技法の拡大とコンサルテーション</p> <p>2. 高次脳機能障害者・内部障害者への作業療法カウンセリング</p> <p>3. 高次脳機能障害者・内部障害者への認知的・行動的技法</p> <p>4. 高次脳機能障害者・内部障害者へのコンサルテーション</p> <p>・人と作業(生活)における現象学モデルと医学モデル</p> <p>・社会福祉モデルからみた認知作業療法</p> <p>②1. 認知作業療法における臨床実践が作業療法に与える影響を理解する</p> <p>2. 作業療法カウンセリング・患者教育・コンサルテーションの関係性を学ぶ</p> <p>③講義中心であるが、毎回テーマに沿った全体討論を行い、テーマ学習を深化させる。</p> <p>第1-2講: 作業療法カウンセリング応用技法</p> <p>第3-4講: 作業療法カウンセリング・課題演習(1)</p> <p>第5-6講: 作業療法カウンセリング・課題演習(2)</p> <p>第7-8講: 作業療法カウンセリング・課題演習(3)</p> <p>第9-10講: 高次脳機能障害者・内部障害者への作業療法カウンセリング</p> <p>第11-12講: 高次脳機能障害者・内部障害者への認知的・行動的技法</p> <p>第13-14講: 高次脳機能障害者・内部障害者へのコンサルテーション</p> <p>第15-16講: まとめ</p> <p>④特になし。</p> <p>⑤随時紹介する。</p> <p>⑥講義への出席(60%)、レポート提出(30%)、討論への参加(10%)を総合的に評価する。</p> <p>⑦メールにて対応: oshima@tmu.ac.jp 主担当教員: 大嶋宛</p> <p>⑧曜日・時限等の詳細は、学生から教員に相談・調整すること。 履修登録期間に、自身で登録すること。</p> |
|---|---|

| | | | | | |
|--------|--|------|----|-----|-------|
| 授業科目名 | 精神神経機能障害学特講 | 配当年次 | 1年 | 単位数 | 4単位 |
| (科目英名) | Advanced Research of Psychiatric Disorders | 通年 | 火曜 | 5限 | U0363 |
| 担当教員 | 塩路理恵子 | | | 6限 | U0364 |

| | |
|---|--|
| <p>①授業方針・テーマ</p> <p>②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標</p> | <p>①特に精神障害者の Quality of Life(QOL)実現支援のために、精神医学および心理学的な側面からの分析を通して、研究に必要な知識と技術を探求する。</p> <p>②精神障害者の示す症状や行動・活動を分析し、リハビリテーションにより機能を回復し、障害を予防するための理論と技術について考究する。</p> |
|---|--|

博士後期課程・作業療法科学域

| | |
|----------------------|--|
| ③授業計画・内容 授業方法 | ③精神障害等に対するリハビリテーションにおいては、社会適応能力や認知障害、情緒的安定性などを評価することが重要である。これらの客観的評価方法について考究する。 先行研究を用いて、様々な研究の方法論上の長所と短所を検討する。 |
| ④授業外学習 | ④予習・復習および、関連文献を読む、関心テーマへの応用などの発展学習を行なう。 |
| ⑤テキスト・参考書等 | ⑤必要に応じて指定する。 |
| ⑥成績評価方法 | ⑥受講時の理解度を、討論における発展などから評価する。 |
| ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ⑦オフィスアワーは特に設けませんが、質問およびアポイントメントをメールで受け付けます (rshioji@tmu.ac.jp) |

| | | | | | |
|----------------------------|--|------|----|------|-------|
| 授業科目名 | 精神神経機能障害学特講演習 | 配当年次 | 2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Advanced Research Seminar of Psychiatric Disorders | 前期 | 月曜 | 4-5限 | U0365 |
| 担当教員 | 塩路理恵子 | | | 6-7限 | U0366 |
| ①授業方針・テーマ | ①特に精神障害者の Quality of Life(QOL)の面から、分析事例を通して、研究に必要な知識と技術を考察し、そのフィールドへの応用に関する手法を演習する。 | | | | |
| ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 | ②精神障害者の示す症状や活動低下を分析し、リハビリテーションにより機能を回復し、障害を予防するための理論と技術をフィールドワークに基づいて探索する。 | | | | |
| ③授業計画・内容 授業方法 | ③精神機能障害分析学特講を基に、症状や残存機能の評価法のフィールドへの応用方法に関する探索を行う。心身の障害の社会適応能力や、認知障害、精神症状、行動障害の客観的評価に関する考察を演習し、評価の意義や方法論の違いについても演習する。 実際の研究事例を用いて、種々の研究方法論の長所と短所を検討する。 | | | | |
| ④授業外学習 | ④予習・復習および、関連文献を読む、関心テーマへの応用などの発展学習を行なう。 | | | | |
| ⑤テキスト・参考書等 | ⑤必要に応じて指定する。 | | | | |
| ⑥成績評価方法 | ⑥受講時の理解度を、討論における発展などから評価する。 | | | | |
| ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ⑦オフィスアワーは特に設けませんが、質問およびアポイントメントをメールで受け付けます (rshioji@tmu.ac.jp) | | | | |

| | | | | | |
|----------------------------|--|------|----|-----|-------|
| 授業科目名 | 児童青年発達期作業療法学特講 | 配当年次 | 1年 | 単位数 | 4単位 |
| (科目英名) | Advanced Theories in Occupational Therapy for the Children and Adolescence | 通年 | 月曜 | 6限 | U0359 |
| 担当教員 | 伊藤祐子 | | | 7限 | U0360 |
| ①授業方針・テーマ | ①発達期にある児童・青年が地域で健やかに成長し生活していくための作業療法理論と実践について考究する。 | | | | |
| ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 | ②発達期作業療法学に関連する国内外の研究の潮流を理解する。 | | | | |
| ③授業計画・内容 授業方法 | ③受講する院生は、各自テーマやトピックスを提示し、文献検討やディスカッションを通して研究テーマの明確化を図る。 | | | | |
| ④授業外学習 | ④毎回、各自のテーマに関する資料を作成しておくこと。 | | | | |
| ⑤テキスト・参考書等 | ⑤特に指定しない。 | | | | |
| ⑥成績評価方法 | ⑥出席、平常点、参加度により総合的に判定する | | | | |
| ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ⑦【オフィスアワー】: 一定の日時に設定できないため、質問等があればメールで随時受け付けます。直接面談が必要な場合はその際に調整します。 【連絡先】: itoyuko@tmu.ac.jp | | | | |

| | | | | | |
|----------------------------|--|------|----|-------|-----|
| 授業科目名 | 児童青年発達期作業療法学特講演習 | 配当年次 | 2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Practicum: Advanced Theories in Occupational Therapy for the Children and Adolescence | 前期 | 集中 | U0361 | |
| 担当教員 | 伊藤祐子 | | | | |
| ①授業方針・テーマ | ①発達期にある児童・青年が地域で健やかに成長し生活していくための作業療法理論と実践について考究する。 | | | | |
| ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 | ②発達期作業療法学に関連する国内外の研究の潮流を理解し、具体的な研究に生かす。 | | | | |

博士後期課程・作業療法科学域

| | |
|----------------------|---|
| ③授業計画・内容 授業方法 | ③受講する院生は、各自研究活動を実施し、プレゼンテーション、ディスカッションを繰り返し研究の継続的な推進を図る。 |
| ④授業外学習 | ④毎回、プレゼンテーション、ディスカッションの資料を作成しておくこと。 |
| ⑤テキスト・参考書等 | ⑤特に指定しない。 |
| ⑥成績評価方法 | ⑥出席、平常点、参加度により総合的に判定する |
| ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ⑦【オフィスアワー】:一定の日時に設定できないため、質問等があればメールで随時受け付けます。直接面談が必要な場合はその際に調整します。 【連絡先】: itoyuko@tmu.ac.jp |

| | | | | | |
|--------|---|------|----|-----|-------|
| 授業科目名 | 老年心理行動分析学特講 | 配当年次 | 1年 | 単位数 | 4単位 |
| (科目英名) | Advanced Theories of Psychological and Behavioral Sciences in Aging | 通年 | 火曜 | 5限 | U0396 |
| 担当教員 | 蘭牟田洋美 | | | 6限 | U0397 |

| | |
|----------------------------|--|
| ①授業方針・テーマ | ①前半は、老年学において、最低限習得しておきたいベーシックな研究論文を講読する。後半は、保健・医療における高齢者への臨床心理的アプローチに関する論文について取り上げる。 |
| ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 | ②本演習では、老年心理行動分析学特講で学んだことに基づき、文献講読により、老年期の心理的特徴について理解をさらに深めることを目的とする。また、健康行動変容のための心理的接近法の習得を目指す。全般を通して、論文を批判的に読む力を養いたい。 |
| ③授業計画・内容 授業方法 | ③内容は、以下のテーマを予定しているが、受講生からの希望も活かしたい。 1. 健康信念モデル 2. 自己効力感 3. 変化のステージモデル 4. 計画的行動理論 5. ストレスとコーピング 6. ソーシャルサポート・コントロール所在 |
| ④授業外学習 | ④次回の内容について必ず読んでください。 |
| ⑤テキスト・参考書等 | ⑤使用しない。必要に応じて、参考書を紹介する。 |
| ⑥成績評価方法 | ⑥授業中の討議への参加状況と発言内容に基づき評価を行う。 |
| ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ⑦不明点については、h_imuta@tmu.ac.jp へ連絡をください。 |
| ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ⑧講義は、土日・休暇中、集中講義形式で実施する場合がありますので、興味のある人は上記にメールください。 |

| | | | | | |
|--------|---|------|----|------|-------|
| 授業科目名 | 老年心理行動分析学特講演習 | 配当年次 | 2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Advanced Research Seminar of Psychological and Behavioral Sciences in Aging | 前期 | 水曜 | 3-4限 | U0705 |
| 担当教員 | 蘭牟田洋美 | | | 6-7限 | U0706 |

| | |
|----------------------------|--|
| ①授業方針・テーマ | ①テーマは院生と協議のうえ、決定する。 |
| ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 | ②生涯発達理論の観点から、高齢者の示す症状や心理を分析するための理論と実践について考究する。 |
| ③授業計画・内容 授業方法 | ③先行研究に基づき、様々な研究の方法論上の長所と短所を検討する |
| ④授業外学習 | ④次回の課題を出すので、自分の考えをまとめてくること。 |
| ⑤テキスト・参考書等 | ⑤あらかじめ特に指定しない。必要に応じて指示する。 |
| ⑥成績評価方法 | ⑥出席・平常点・参加度により総合的に判定する。 |
| ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ⑦質問がありましたら、h_imuta@tmu.ac.jp まで連絡してください。 |

博士後期課程・作業療法科学域

| | | | | | |
|--|---|------|----|-----|-------|
| 授業科目名 | 作業行動学特講 | 配当年次 | 1年 | 単位数 | 4単位 |
| (科目英名) | Advanced Research of Occupational Behavior | 通年 | 月曜 | 4限 | U0715 |
| 担当教員 | 石井良和、谷村厚子 | | | 7限 | U0716 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ①参加する院生は各自のテーマおよびトピックスを提示し、文献検討およびディスカッションを通して研究テーマの精緻化を行う。 ②作業行動に関連した研究テーマを構築する。 ③各自のテーマに関する論文の具体的な指導を行い、データ収集、結果、考察につなげる見通しをつける。 ④各回の事前相談やプレゼン資料の作成を求めます。 ⑤適宜紹介する。 ⑥理解の程度により評価する。 ⑦メール等で連絡をすればいつでも可能。 【メールアドレス】:yishii@tmu.ac.jp | | | | |

| | | | | | |
|--|---|------|----|------|-------|
| 授業科目名 | 作業行動学特講演習 | 配当年次 | 2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Advanced Research Seminar of Occupational Behavior | 前期 | 水曜 | 2-3限 | U0717 |
| 担当教員 | 石井良和、谷村厚子 | | | 5-6限 | U0718 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ①参加時には各自がテーマにそった研究計画を披露し、とくに方法論を中心としたフィードバックを行う。 ②作業行動学特講に引き続き博士論文のテーマを検討し、主論文、副論文の具体的な研究計画を完成させる。 ③プレゼンテーションとディスカッションが中心となる。また、各研究会や学会への発表を想定した準備も行う。 ④プレゼン資料の作成等の準備が開催回ごとに求められる。 ⑤適宜紹介する。 ⑥プレゼンテーションの内容により評価する。 ⑦メール等で連絡をすればいつでも可能。 | | | | |

| | | | | | |
|--|--|------|----|-----|-------|
| 授業科目名 | 老年地域参加支援学特講 | 配当年次 | 1年 | 単位数 | 4単位 |
| (科目英名) | Advanced Theories of Supporting Disabled People in the Community | 通年 | 火曜 | 7限 | U0719 |
| 担当教員 | 小林法一、石井良和、小林隆司、伊藤祐子、宮本礼子 | | | 4限 | U0720 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ①院生は自分でテーマを持ち寄り、自らテーマを解説するという方針で臨む ②障害を持つか、持たないかにかかわらず、人が地域に参加することの意味と重要性について作業をキーワードに論考できる ③院生は各自でテーマの解説、展開、目標、目標達成のための作業計画を立て、それに沿ってすすめる授業では、各自、進捗状況を報告し、フィードバックをうけること 従って、毎回の予習、復習は必須である。 ④参加者の研究テーマに沿った Assignment を課します。主体的にこれに取り組み、授業内で進捗状況を報告することを求めます。 ⑤特に指定しない。随時、個別に情報提供する ⑥成果物、成果物のプレゼンテーション ⑦オフィスアワーは特に設定しませんが、直接質問したい場合は随時受付しますので、事前にメールでアポイントメントをとってください。 | | | | |

博士後期課程・作業療法科学域

| | | | | | |
|--|--|------|----|------|-------|
| 授業科目名 | 老年地域参加支援学特講演習 | 配当年次 | 2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Practicum:Advanced Theories of Supporting Disabled People in the Community | 前期 | 月曜 | 1-2限 | U0721 |
| 担当教員 | 小林法一、石井良和、小林隆司 | | | 3-4限 | U0722 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ①院生は自分でテーマを持ち寄り、自らテーマを解説するという方針で臨む ②障害を持つか、持たないかにかかわらず、人が地域に参加することの意味と重要性についての論考をまとめ、発表できる ③論文発表を目指して、各自でテーマの解説、展開、目標、目標達成のための作業計画を立て、実行すること 授業では、各自、進捗状況を報告し、フィードバックをうけること 従って、毎回の予習、復習は必須である。 ④参加者の研究テーマに沿った Assignment を課します。主体的にこれに取り組み、授業内で進捗状況を報告することを求めます。 ⑤特に指定しない。随時、指示する ⑥成果物、成果物のプレゼンテーション ⑦オフィスアワーは特に設定しませんが、直接質問したい場合は随時受付しますので、事前にメールでアポイントメントをとってください | | | | |

| | | | | | |
|--|---|------|----|-----|-------|
| 授業科目名 | 作業科学特講 | 配当年次 | 1年 | 単位数 | 4単位 |
| (科目英名) | Advanced Occupational Science Studies | 通年 | 木曜 | 5限 | U0351 |
| 担当教員 | ボンジェ ペイター | | | 7限 | U0352 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①批判的思考能力を向上するために、講義だけではなく、討議ならびに意見交換などを行われる。 ②本授業の目標は、「作業科学」の存在の利用、健康とウェルビーイングに関する作業科学の理論と研究成果、作業科学におけるキー概念を批判的に検討することである。 ③1-4. 作業科学の存在、特に作業療法との関係性と社会的価値、 5-8. 健康・ウェルビーイングに関する作業科学の理論と研究成果 9-13. 作業科学における動向・変遷や作業科学から生まれたキー概念 14-15. 発表と討論：作業科学の価値 ④予習・復習 課題遂行 ⑤テキスト：講義の進行に伴い、適宜指定する。 参考書： Journal of Occupational Science, 作業科学 吉川ひろみ(2008)「作業」って何だろう 作業科学入門, 医歯薬出版, タウンゼント他著, 吉川ひろみ他訳(2011):続・作業療法の視点, 大学教育出版 Christiansen CH, Townsend EA (2011). Introduction to occupation Cutchin MP, Dickie VA (2013). Transactional perspectives on occupation. Springer Hasselkus BR (2011). The meaning of everyday occupation. Slack Nayar S, Stanley M. (2015). Qualitative research methodologies for occupational science and therapy. Routledge Whiteford G, Wright-StClair V. (2004). Occupation and practice in context. Elsevier Churchill Livingstone Wilcock A (2006). An occupational perspective of health. Slack Zemke R, Clark F, 佐藤剛(翻訳)(1996):業科学—作業的存在としての人間の研究. 三輪書店 その他(講義の進行に伴い、適宜指定する) ⑥共通のスレッド(脈絡・筋道)に関する学術的意見書の提出、討議における貢献を総合的に評価する。 ⑦オフィスアワー：木曜日 15時～17時だが、臨時的にも対応する(事前に電話かメールで連絡ください) ⑧英語での論文が多いので、辞典の持参を忘れずに！ | | | | |

博士後期課程・作業療法科学域

| | | | | | |
|--|---|------|----|------|-------|
| 授業科目名 | 作業科学特講演習 | 配当年次 | 2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Advanced Occupational Science Practicum | 後期 | 水曜 | 3-4限 | U0353 |
| 担当教員 | ボンジェ ペイター | | | 6-7限 | U0354 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①原著論文の批判的吟味し、意見交換をする。 事例を知識論あるいは理論から分析する。 社会的な問題を作業科学的視点から評価し、問題解決を提案する。 ②本授業の目標は、自分の研究の理論基盤を作業的な視点から開発することである。 ③1-4. 自分の研究の理論背景と作業的視点について批評 5-8. '変化'と関連する作業的な理論の吟味に基づいて'変化'を理解する 8-12. 作業は意味をきたす状況として 13-15. 発表: 自分のプロジェクトの諸研究に関する作業的な視点をディスカスする ④予習・復習 ⑤テキスト: 講義の進行に伴い、適宜指定する。 参考書: Journal of Occupational Science, 作業科学 吉川ひろみ(2008)「作業」って何だろう 作業科学入門, 医歯薬出版, タウンゼント他著, 吉川ひろみ他訳(2011): 続・作業療法の視点, 大学教育出版 Christiansen CH, Townsend EA (2011). Introduction to occupation Cutchin MP, Dickie VA (2013). Transactional perspectives on occupation. Springer Hasselkus BR (2011). The meaning of everyday occupation. Slack Nayar S, Stanley M. (2015). Qualitative research methodologies for occupational science and therapy. Routledge Whiteford G, Wright-StClair V. (2004). Occupation and practice in context. Elsevier Churchill Livingstone Wilcock A (2006). An occupational perspective of health. Slack Zemke R, Clark F, 佐藤剛(翻訳)(1996): 業科学—作業的存在としての人間の研究. 三輪書店 その他(講義の進行に伴い、適宜指定する) ⑥参加状態, レポート, プレゼンテーションにより評価する。 ⑦オフィスアワー: 木曜日 15時~17時だが、臨時的にも対応する(メールか電話で連絡ください) ⑧英語での論文が多いので、辞典の持参を忘れずに! | | | | |

| | | | | | |
|--|---|------|----|-----|-------|
| 授業科目名 | 作業生活支援学特講 | 配当年次 | 1年 | 単位数 | 4単位 |
| (科目英名) | Advanced Research for Occupational Life Design Studies | 通年 | 火曜 | 5限 | U0723 |
| 担当教員 | 小林隆司、石橋裕 | | | 6限 | U0724 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ①論文の批判的吟味をつうじてサムシングニューを探求するものである。 ②作業生活支援学研究のトレンドを理解し、イノベティブな研究を実行できる。 ③院生の提出した論文について批判的吟味を加えながらメンバー全員で精読していく。 ④院生は、事前に文献を読み込み、その概要と批判的吟味の結果をレジメにまとめておくこと。 ⑤特に指定しない。 ⑥ディスカッションとレジメの内容により評価する。 ⑦ryukoba@tmu.ac.jp で随時受け付ける | | | | |

| | | | | | |
|-----------|---|------|----|-------|-----|
| 授業科目名 | 作業生活支援学特講演習 | 配当年次 | 2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Advanced Practicum for Occupational Life Design Studies | 前期 | 集中 | U0725 | |
| 担当教員 | 小林隆司 | | | | |
| ①授業方針・テーマ | ①教員が院生の研究に周辺参加しながら、院生の研究マネジメント能力を開発していく。 | | | | |

博士後期課程・作業療法科学域

| | |
|----------------------------|-------------------------------------|
| ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 | ②作業生活支援学研究をマネジメントすることができる。 |
| ③授業計画・内容 授業方法 | ③教員と学生が、お互いの日程を調整して、研究活動をおこなう。 |
| ④授業外学習 | ④自分のフィールドで、日々、研究活動を実施すること |
| ⑤テキスト・参考書等 | ⑤特に指定しない。 |
| ⑥成績評価方法 | ⑥研究遂行能力によって評価。 |
| ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ⑦ryukoba@tmu.ac.jp で随時受け付ける |
| ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ⑧実際の研究活動→振り返り→改善→計画→研究活動のサイクルを繰り返す。 |

| 授業科目名 | 福祉機器関連適学特講 | 配当年次 | 1年 | 単位数 | 4単位 |
|----------------------------|--|------|----|-----|-------|
| (科目英名) | Application Method of Assistive Technology for Doctoral Course | 通年 | 月曜 | 7限 | U0707 |
| 担当教員 | 井上薫 | | 火曜 | 5限 | U0708 |
| ①授業方針・テーマ | ①本講義では、ハンディを持つ人に対する生活支援において使用される福祉用具等に関する情報を収集、分析し、その現状、問題点等について考察する。テーマは指導を受ける院生と協議の上、決定する。 | | | | |
| ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 | ②福祉用具等の領域における情報収集手段を修得し、得られた情報の分析、考察ができる。 他者にその意義、過程および成果を説明することができる。 | | | | |
| ③授業計画・内容 授業方法 | ③学生が選択したテーマに関する国内外の福祉用具等に関する施策等の関連情報、研究論文を収集し、量的視点、質的視点の両面から総合的な分析、考察を行う。分析の過程で必要になった知識・技術に関して、適宜、ミニレクチャー、ディスカッションを実施する。期の最後に、成果発表を行う。 | | | | |
| ④授業外学習 | ④報告書、発表資料の作成およびテーマに応じた自己学習を行う。 | | | | |
| ⑤テキスト・参考書等 | ⑤特に指定しない。適宜、講義内で紹介する。 | | | | |
| ⑥成績評価方法 | ⑥参加状況(20%)、プレゼンテーション(50%)、プレゼンテーション資料(30%)をもとに総合的に評定する。 | | | | |
| ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ⑦オフィスアワー:原則として毎週木曜日1, 2限(井上) | | | | |
| ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ⑧開催日・時限等は、院生と教員で調整して決定する。 | | | | |

| 授業科目名 | 福祉機器関連適学特講演習 | 配当年次 | 2年 | 単位数 | 2単位 |
|----------------------------|---|------|----|------|-------|
| (科目英名) | Seminar of Application Method of Assistive Technology for Doctoral Course | 前期 | 月曜 | 3-4限 | U0709 |
| 担当教員 | 井上薫 | | 火曜 | 6-7限 | U0710 |
| ①授業方針・テーマ | ①本講義では、ハンディを持つ人に対する福祉用具等の生活支援機器について、フィールドワークを通じて学んだことをもとに考察する。テーマは指導を受ける院生と協議の上、決定する。 | | | | |
| ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 | ②福祉用具等を専門領域とする研究者としての視点の育成を目標とする。 フィールドワークを通じて得られた情報をもとに福祉用具等に関する問題、今後の課題等を分析、考察し、今後の当該分野に寄与する提言を考えることができる。 他者にその意義、過程および成果を説明することができる。 | | | | |
| ③授業計画・内容 授業方法 | ③学生が選択したテーマに関して、フィールドワークを行う。適宜、ミニレクチャー、ディスカッションを行う。フィールドワークを通じ、得た結果を分析し、報告書にまとめる。提出された報告書について質疑を実施する。 報告書の執筆ガイドラインは、初講時に説明する。 | | | | |
| ④授業外学習 | ④報告書、発表資料の作成およびテーマに応じた自己学習を行う。 | | | | |
| ⑤テキスト・参考書等 | ⑤特に指定しない。適宜、講義内で紹介する。 | | | | |
| ⑥成績評価方法 | ⑥参加状況(20%)、報告書(80%)をもとに、総合的に評定する。 参加状況の評価の内訳は、教員15%、自己評価5%とする。 | | | | |
| ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ⑦オフィスアワー:原則として毎週木曜日1, 2, 6, 7限(井上) | | | | |
| ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ⑧開催日・時限等は院生と教員で調整して決定する。 | | | | |

博士後期課程・作業療法科学域

| | | | | | |
|--|--|------|----|-----|-------|
| 授業科目名 | 生活環境分析学特講 | 配当年次 | 1年 | 単位数 | 4単位 |
| (科目英名) | Advanced theories and analysis of living environment and house adaptation | 通年 | 月曜 | 1限 | U0355 |
| 担当教員 | 橋本美芽 | | | 6限 | U0356 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①各自の研究テーマを中心に、多様な領域の文献と専門職の対応事例を紹介、解説および討議を行う。 ②障がい者・高齢者等を取りまく住環境整備および都市環境整備に関わる多様な領域の視点を兼ね備える総合力の獲得を目指す。 ③【授業計画・内容】:生活支援の視点から生活環境における物理的な問題点を検討し、障害特性に適合する生活環境のあり方、および整備に向けた方策について考究する。また、博士研究に関する討議を行う。 【授業方法】:各自の研究テーマ、研究デザインに応じて関連文献の輪読、討議を行う。 ④提示する課題についてレポートの作成を課す。 ⑤特に指定しない。 ⑥講時の討論への参加・受講態度をふまえて理解度を総合的に評価する。 ⑦【オフィスアワー】:オフィスアワーは特に設けない。メールによる質問や連絡は随時受け付ける。 【連絡先】mime.h@tmu.ac.jp ⑧生活環境分析学特講演習を合わせて履修してすること。 | | | | |

| | | | | | |
|--|--|------|----|-------|-----|
| 授業科目名 | 生活環境分析学特講演習 | 配当年次 | 2年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Practicum : Advanced theories and analysis of living environment and house adaptation | 夏季集中 | 集中 | U0357 | |
| 担当教員 | 橋本美芽 | | | | |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①住環境整備学に関する研究デザインの解説および多様な領域との関連を、解説し討議する。 ②障がい者・高齢者を取りまく住環境整備および都市環境整備に関わる多様な領域の視点を兼ね備える総合力の獲得、研究方法の習得を目指す。 ③【授業計画・内容】:地域在住障がい者・高齢者の日常生活支援に求められる生活環境整備に向けた、障害特性と環境の適合、環境評価、分析、整備手法、福祉用具の適用等の、理論と技術に関する文献輪読と演習を行う。 【授業方法】:研究テーマおよび関連領域の文献を選択し、輪読と発表・討議を中心に演習を行う。また、博士研究に関連する課題を提示し、レポート作成とプレゼンテーションによる発表を行う。 ④提示する課題についてレポートの作成を行う。 ⑤特に指定しない。 ⑥講義時の討論への参加・受講態度をふまえて理解度で総合的に評価する。 ⑦【オフィスアワー】:オフィスアワーは特に設けない。メールによる質問や連絡は随時受け付ける。 【連絡先】mime.h@tmu.ac.jp ⑧生活環境分析学特講の履修は必須。本講義はこの講義内容をさらに詳しく解説する。 | | | | |

科目一覧（放射線科学域 博士後期課程）

| 授業科目名 | 配当年次 | 開講期 | 単位数 | 備考 |
|------------------|------|-------|-----|----|
| 放射線科学特別研究a | 最終学年 | 前期・後期 | 4 | |
| 放射線科学特別研究b | 最終学年 | 後期・前期 | 4 | |
| 放射線科学特講 | 1、2年 | 前期 | 2 | |
| 放射線診断物理学特講 | 1～3年 | 前期 | 2 | |
| 放射線診断物理学特講演習 | 1～3年 | 後期 | 2 | |
| 核医学物理学・保健物理学特講 | 1～3年 | 前期 | 2 | |
| 核医学物理学・保健物理学特講演習 | 1～3年 | 後期 | 2 | |
| 放射線治療物理学特講 | 1～3年 | 前期 | 2 | |
| 放射線治療物理学特講演習 | 1～3年 | 後期 | 2 | |
| 特別臨床研修 I | 1、2年 | 通年 | 2 | |
| 特別臨床研修 II | 2、3年 | 通年 | 2 | |
| 医用画像情報学特講 | 1～3年 | 前期 | 2 | |
| 医用画像情報学特講演習 | 1～3年 | 後期 | 2 | |
| 放射線計測学特講 | 1～3年 | 前期 | 2 | |
| 放射線計測学特講演習 | 1～3年 | 後期 | 2 | |
| 医用計測システム学特講 | 1～3年 | 前期 | 2 | |
| 医用計測システム学特講演習 | 1～3年 | 後期 | 2 | |
| 医用画像診断学特講 | 1～3年 | 前期 | 2 | |
| 医用画像診断学特講演習 | 1～3年 | 後期 | 2 | |
| 画像診断システム学特講 | 1～3年 | 前期 | 2 | |
| 画像診断システム学特講演習 | 1～3年 | 後期 | 2 | |

履修モデル（人間健康科学研究科 人間健康科学専攻 放射線科学域）博士後期課程

| 区分 | 授業科目名 | 単位数 | 放射線診断物理学分野 | 核医学物理学・保健物理学分野 | 量子イメージング技術者養成コース | 放射線治療物理学分野 | 医学物理士コース | 医用画像情報学分野 | 放射線計測学分野 | 医用計測システム学分野 | 医用画像診断学分野 | 画像診断システム学分野 |
|---------------|------------------|---------|------------|----------------|------------------|------------|----------|-----------|----------|-------------|-----------|-------------|
| | | | | | | | | | | | | |
| 第一群 | 放射線科学特別研究 a | 4 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| | 放射線科学特別研究 b | 4 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| | 放射線科学特講 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| | 放射線診断物理学特講 | 2 | ○ | □ | □ | □ | 0% | □ | □ | □ | □ | □ |
| | 放射線診断物理学特講演習 | 2 | ○ | □ | □ | □ | 0% | □ | □ | □ | □ | □ |
| | 核医学物理学・保健物理学特講 | 2 | □ | ○ | ○ | □ | 0% | □ | □ | □ | □ | □ |
| | 核医学物理学・保健物理学特講演習 | 2 | □ | ○ | ○ | □ | 0% | □ | □ | □ | □ | □ |
| | 放射線治療物理学特講 | 2 | □ | □ | □ | ○ | 0% | □ | □ | □ | □ | □ |
| | 放射線治療物理学特講演習 | 2 | □ | □ | □ | ○ | 0% | □ | □ | □ | □ | □ |
| | 特別臨床研修 I | 2 | | | | | ○ | | | | | |
| | 特別臨床研修 II | 2 | | | | | ○ | | | | | |
| | 医用画像情報学特講 | 2 | □ | □ | □ | □ | □ | ○ | □ | □ | □ | □ |
| | 医用画像情報学特講演習 | 2 | □ | □ | □ | □ | □ | ○ | □ | □ | □ | □ |
| | 放射線計測学特講 | 2 | □ | □ | □ | □ | □ | □ | ○ | □ | □ | □ |
| | 放射線計測学特講演習 | 2 | □ | □ | □ | □ | □ | □ | ○ | □ | □ | □ |
| | 医用計測システム学特講 | 2 | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | ○ | □ | □ |
| | 医用計測システム学特講演習 | 2 | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | ○ | □ | □ |
| | 医用画像診断学特講 | 2 | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | ○ | □ |
| | 医用画像診断学特講演習 | 2 | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | ○ | □ |
| | 画像診断システム学特講 | 2 | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | ○ |
| 画像診断システム学特講演習 | 2 | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | ○ | |
| 第二群 | ゲノム関連科目（特別講義等） | — | — | — | ○ | — | — | — | — | — | — | — |
| | AI 関連科目（特別講義等） | — | — | — | ○ | — | — | — | — | — | — | — |
| 計 | | 14 単位以上 | | | | | | | | | | |

凡例： ◎学域の必修 ○分野・コースの必修 □分野・コースの選択

- ・医学物理士コースを履修する場合は、診断・核・治療いずれかの分野の特講、特講演習（0%）を選択すること。ただし、医学物理士認定機構の認定コースは、放射線治療物理学分野のみとなります。
- ・量子イメージング技術者養成コースは、核医学物理学・保健物理学分野の学生のうち希望する者が履修可能です。

博士後期課程・放射線科学域

| | | | | | |
|--|---|-----------|------|-----|-------|
| 授業科目名 | 放射線科学特別研究 a | 配当年次 | 最終学年 | 単位数 | 4 単位 |
| (科目英名) | Thesis Research in Radiological Sciences a | 前期で履修する場合 | | | U0450 |
| 担当教員 | 福士政広、小倉泉、加藤洋、齋藤秀敏、白川崇子、妹尾淳史、古川顕、井上一雅、関根紀夫、眞正浄光、乳井嘉之、沼野智一、根岸徹、明上山温 | 後期で履修する場合 | | | U0702 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①放射線科学に関する課題を見つけ研究計画を立案し実験等を行い研究を遂行する。 ②放射線科学に関する研究課題を設定し、研究計画の立案、実験あるいは計算機シミュレーションによるデータ収集と解析を通して研究論文作成の指導を行う。 ③設定される問題に関する研究論文等を収集、要約し、新規性を解説でき、残された問題点などを指摘できるようにしておくこと。 ④各々の研究テーマに関連した文献を収集し、事前に読んでおくこと。 ⑤特に例示しないが必要に応じて担当教員が提示する。 ⑥レポートや実験成果物をもとに総合的に評価する。 ⑦担当教員が指定する曜日、時間に質問、相談を行うこと。または、メールで打合せ日時、場所を事前に調整して質問、相談を行うこと。 ⑧前期・後期、どちらでも履修可能。 曜日・時限等の詳細は、学生から教員に相談・調整すること。 履修登録期間に、自身で登録すること。 | | | | |

| | | | | | |
|--|---|-----------|------|-----|-------|
| 授業科目名 | 放射線科学特別研究 b | 配当年次 | 最終学年 | 単位数 | 4 単位 |
| (科目英名) | Thesis Research in Radiological Sciences b | 前期で履修する場合 | | | U0703 |
| 担当教員 | 福士政広、小倉泉、加藤洋、齋藤秀敏、白川崇子、妹尾淳史、古川顕、井上一雅、関根紀夫、眞正浄光、乳井嘉之、沼野智一、根岸徹、明上山温 | 後期で履修する場合 | | | U0704 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①放射線科学に関する課題を見つけ、研究計画の立案や実験等を遂行する。 ②放射線科学に関する研究課題を設定し、研究計画の立案、実験あるいは計算機シミュレーションによるデータ収集と解析を通して研究論文作成の指導を行う。 ③設定される問題に関する研究論文等を収集、要約し、新規性を解説でき、残された問題点などを指摘できるようにしておくこと。 ④各担当教員が提供する研究テーマに関連した文献を収集し、事前に読んでおくこと。 ⑤特に例示しないが必要に応じて適宜提示する。 ⑥レポートや研究成果をもとに総合的に評価する。 ⑦担当教員が指定する曜日、時間に質問、相談を行う。または、メールで打合せ日時、場所を事前に調整して質問、相談を行うこと。 ⑧放射線科学特別研究 a の単位を取得した者が履修できる。 前期・後期、どちらでも履修可能。 曜日・時限等の詳細は、学生から教員に相談・調整すること。 履修登録は、論文提出を以て事務で一括で行う。(※履修登録期間の自身による履修登録は不要。) | | | | |

| | | | | | |
|---|--|------|--------|-----|-------|
| 授業科目名 | 放射線科学特講 | 配当年次 | 1, 2 年 | 単位数 | 2 単位 |
| (科目英名) | Advanced Radiological Sciences | 前期 | 水曜 | 1 限 | U0451 |
| 担当教員 | 福士政広、小倉泉、加藤洋、齋藤秀敏、白川崇子、妹尾淳史、古川顕、井上一雅、関根紀夫、眞正浄光、乳井嘉之、沼野智一、根岸徹、明上山温 | | | 7 限 | U0452 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 | ①放射線科学に関する新しい理論、先端的な技術について解説し、併せて国際的な研究の動向を紹介する。 ②放射線科学に関する先端的な知識を教授し、それらを統合化することによって問題解決能力や新たな知見を見いだす能力を育成する。 ③(小倉): レーザー光を用いた精密計測の概要と特徴について解説し、医用応用への具体例と今後の展望について述べる。 (加藤): 医療診断X線施設へ遮へいと設置に関連した NCRP の新勧告について講述する。 (齋藤): 先端的な放射線治療技術とこれを実現させるための物理、情報、計測について概要を講述する。 (白川): 画像診断学の最近の進歩及びその臨床的意義について講義する。 (妹尾): 最新の生体情報を可視化する技術について解説し、具体的な臨床への応用方法について教授する。 (福士): 最新の核医学検査技術におけるデータ収集法、データ解析法と最新の核医学検査装置の特徴及び用途につ | | | | |

博士後期課程・放射線科学域

| | |
|--|---|
| <p>④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)</p> | <p>いて教授する。 (古川):画像診断学の最近の進歩及びその臨床的意義について講義する。 (井上):核医学物理学及び保健物理学について最新知見を講義する。 (眞正):放射線化学の基礎と医療への応用について最新知見を講義する。 (関根):高輝度放射光による「屈折コントラストイメージング」による画像解析について教授する。 (乳井):医療画像の映像化に関する基礎と応用技術、特に医用画像で用いられている画像再構成について講述する。 (沼野):各種画像診断技術の機序及び応用技術について最新知見を講義する。 (明上山):放射線治療における情報工学に関する理論及び応用技術について最新知見を講義する。 オムニバスで実施する。 担当教員から指定された課題についてレポートとして提出すること。 ④各教員が提供する内容に関する文献を収集し、事前に読んでおくこと。 ⑤必要に応じて、資料を配付または文献を紹介する。 ⑥レポートによって評価する。 ⑦各担当教員が別に定めるオフィスアワーの時間帯に直接研究室まで来てください。これ以外の時間帯に会いたい場合は、事前に各担当教員にメールでアポイントを取ってください。 ⑧講義での質問はできるだけ講義中に行うこと。授業後に質問が生じた場合は、担当教員にメールで打合せ日時、場所を事前に調整して質問を行うこと。基礎科目及び専攻する専門科目と密接に関連するので、既に履修済みであることが重要である。</p> |
|--|---|

| | | | | | |
|--------|-------------------------------------|------|------|-----|-------|
| 授業科目名 | 放射線診断物理学特講 | 配当年次 | 1～3年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Advanced Diagnostic Imaging Physics | 前期 | 月曜 | 5限 | U0453 |
| 担当教員 | 沼野智一 | | | 6限 | U0454 |

| | |
|--|---|
| <p>①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー)</p> | <p>①外国文献や国内先端研究文献について、参考にしながら講義を進める。 ②MRI、CTなどの放射線医療機器を利用した高速撮像法やMR拡散テンソル撮像法、MRエラストグラフィ等の最新の診療画像描画法を教授する。また、放射線診断物理学に関する最新の方法論を教授する。 ③上記の知識・能力を得るために以下のカリキュラムで講義を行なう。 第1回 ガイダンス・イントロダクション 第2回 研究倫理 第3回 研究を進めるうえでの利益相反(COI)の重要性 第4回 蛍光タンパク質を利用したバイオイメーjing 第5回 バイオイメーjingの応用先 第6回 再生医療の基礎 第7回 軟骨の再生医療 -MRI装置を利用した再生軟骨の評価- 第8回 3Dプリント技術の画像診断技術学への応用 I 第9回 3Dプリント技術の画像診断技術学への応用 II 第10回 拡散強調画像法(DWI) 第11回 拡散テンソルイメージング(DTI) 第12回 スパイラルイメージング 第13回 MRエラストグラフィ(MRE)の基礎 第14回 MREの応用先 第15回 まとめ ④次の講義までに予習を行ない、関連する専門用語等を確認しておくこと。 ⑤外国文献、国内文献。 講義中に資料を配布します。 ⑥平常点(授業態度・姿勢等):70%、レポート等の提出物:30%、等により評価する。 ⑦質問・連絡がある場合は t-numano(at)tmu.ac.jp までメールで連絡してください。なお、件名の記入が無いメールは全て迷惑メールとして処分しています。必ず件名を入力してください。 *(at)は@に置き換えてください。</p> |
|--|---|

博士後期課程・放射線科学域

| 授業科目名 | 放射線診断物理学特講演習 | 配当年次 | 1～3年 | 単位数 | 2単位 |
|--|--|------|------|------|-------|
| (科目英名) | Seminar in Advanced Diagnostic Imaging Physics | 後期 | 月曜 | 2-3限 | U0455 |
| 担当教員 | 沼野智一 | | 木曜 | 6-7限 | U0456 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | <p>①外国文献や国内先端研究について、調査・検討し演習する。</p> <p>②放射線医療機器を利用した最新の高速撮像法やMR拡散テンソル撮像法、MRエラストグラフィ等についての演習を行う。また、最新の放射線診断に関する演習を行う。</p> <p>③以下の2つの演習を実施する。</p> <p>(A) ImageJによるT2-mapの作成 講義 1) 緩和現象の基礎 講義 2) CP法とCPMG法の違い 実習 1) CPMG法を利用したT2-mapイメージングの実施</p> <p>(B) Magnetic resonance elastography 講義 1) MRエラストグラフィ(MRE)の基礎 講義 2) MREの応用先 実習 1) MREの実施</p> <p>(C) DICOMイメージからの3Dプリンタ出力 講義 1) 3DプリンタとSTLファイル 講義 2) DICOMデータからSTLファイルへの変換 実習 1) DICOMイメージ(頭部MRA)の3Dプリンタ出力</p> <p>④(A) Multi-echo type Spin EchoシーケンスによるT2計測について事前に予習しておくこと。 (B) Motion Encoding Gradientによる効果について事前に予習しておくこと。 (C) STLファイルについて事前に予習しておくこと。</p> <p>⑤外国文献、国内文献</p> <p>⑥演習・実習の参加状況、レポート等による。</p> <p>⑦質問・連絡がある場合は t-numano(at)tmu.ac.jp までメールで連絡してください。なお、「件名」の記入が無いメールは全て迷惑メールとして処分しています。必ず「件名」を入力してください。 * (at)は@に置き換えてください。</p> | | | | |

| 授業科目名 | 核医学物理学・保健物理学特講 | 配当年次 | 1～3年 | 単位数 | 2単位 |
|--|---|------|------|-----|-------|
| (科目英名) | Advanced Nuclear Physics and Health Physics | 前期 | 木曜 | 4限 | U0457 |
| 担当教員 | 福土政広、井上一雅 | | | 6限 | U0458 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | <p>①SPECT、PET、PET-CTなどの最新の核医学検査装置の特徴や特性及び検査法を修得する。また、自然放射線・放射能及び人工の放射線・放射能の影響についての新たな知見の教授と修得を目指す。</p> <p>②最新の放射性同位元素を用いた生体機能解析や微量元素の測定原理などの核医学物理学に関する項目を学ぶ。また、自然放射線・放射能及び人工の放射線・放射能の影響など最新の保健物理学について学ぶ。</p> <p>③陽電子放出核種などの放射性同位元素を用いた生体機能情報や生体内の微量元素の最新の測定法、その特徴及び用途などについて、最新論文を中心として教授する。また、保健物理学では主に環境放射線の自然界での動態やその影響、人工放射線源の環境への影響および放射線防護の最新の既知を紹介する。 教員が提示した資料、学生が自ら検索した資料を基にディスカッションを中心とした授業を行う。</p> <p>④SPECT、SPECT-CT、PET、PET-CTに関連した文献を収集し、事前に読んでおくこと。</p> <p>⑤必要に応じて、資料を配布または文献を紹介する。</p> <p>⑥出席、課題レポート及びディスカッションの内容・貢献度によって評価する。</p> <p>⑦毎週火曜日5・6時限をオフィスアワーに設定するので質問等があれば直接研究室513号室まで来てください。これ以外の時間帯に会いたい場合は、事前にメールでアポイントを取ってください。fukushi@tmu.ac.jp</p> <p>⑧核医学物理学・保健物理学特講が基礎科目である。履修済みであること必要である。</p> | | | | |

博士後期課程・放射線科学域

| | | | | | |
|--|--|------|------|------|-------|
| 授業科目名 | 核医学物理学・保健物理学特講演習 | 配当年次 | 1～3年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Seminar in Advanced Nuclear Physics and Health Physics | 後期 | 木曜 | 3-4限 | U0459 |
| 担当教員 | 福士政広、井上一雅 | | | 6-7限 | U0460 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①SPECT、PET、PET-CTなどの最新の核医学検査装置の特徴や特性及び検査法の修得と自然放射線・放射能及び人工の放射線・放射能の影響についての新たな知見の修得を目指す。 ②最新の放射性同位元素を用いた生体機能解析や微量元素の測定原理などの核医学物理学に関する項目を実際の装置を用いた演習及びコンピュータシミュレーションを用いた演習をする。また、自然放射線・放射能及び人工の放射線・放射能の影響など最新の保健物理学について演習をする。 ③陽電子放出核種などの放射性同位元素を用いた生体機能情報や生体内の微量元素の最新の測定法、その特徴および用途などについて、実際の装置を用いた実験演習を行う。また、保健物理学では主に環境放射線の自然界での動態やその影響、人工放射線源の環境への影響及び放射線防護の演習を行う。 ④SPECT、SPECT-CT、PET、PET-CTに関連した文献を収集し、事前に読んでおくこと。 ⑤必要に応じて、資料を配布または文献を紹介する。 ⑥出席、課題レポート及び実験・実習の内容・貢献度によって評価する。 ⑦毎週木曜日 5・6時限をオフィスアワーに設定するので質問等があれば直接研究室 513号室まで来てください。これ以外の時間帯に会いたい場合は、事前にメールでアポイントを取ってください。fukushi@tmu.ac.jp ⑧核医学物理学・保健物理学が基礎となる科目である。履修済みであることが必要である。 | | | | |

| | | | | | |
|--|---|------|------|-----|-------|
| 授業科目名 | 放射線治療物理学特講 | 配当年次 | 1～3年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Advanced Radiotherapy Physics | 前期 | 月曜 | 5限 | U0461 |
| 担当教員 | 齋藤秀敏、明上山温 | | | 6限 | U0462 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ①放射線治療物理に関する英語論文の読解、論考により、理論構築、証明、討論の方法を修得する。 ②放射線治療物理に関する論文を題材として、その理論について論考する能力を身に付ける。 ③教員、あるいは受講者自身が Medical Physics, Physics in Medicine and Biology 等の学術誌から、トピックスとなっている論文を紹介し、論文の読解、討論を行う。 ④設定される問題に関する研究論文等を収集、要約し、新規性を解説でき、残された問題点などを指摘できるようにしておくこと。 ⑤論文は適宜紹介する。 ⑥論文読解力、討論力を総合的に評価する。 ⑦原則として毎週木曜日 14:00-17:00をオフィスアワーとします。 講義中は積極的に討論に加わり、質問がある場合は講義中に解決させること。授業後に質問が生じた場合は、オフィスアワーあるいはメールで打合せ日時、場所を事前に調整して質問を行うこと。 | | | | |

| | | | | | |
|--|---|------|------|------|-------|
| 授業科目名 | 放射線治療物理学特講演習 | 配当年次 | 1～3年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Seminar in Advanced Radiotherapy Physics | 後期 | 月曜 | 1-2限 | U0463 |
| 担当教員 | 齋藤秀敏、明上山温 | | 木曜 | 6-7限 | U0464 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 | ①放射線治療物理に関する英語論文を題材として、演習によってその理論と方法論を理解する能力を育成する。 ②放射線治療物理に関する英語論文からテーマを選択し、その実験、シミュレーション等を追実験する。以上により、理論と方法の理解、討論などにより新たな方法を考案できる能力を身に付ける。 ③Medical Physics, Physics in Medicine and Biology などの学術誌のトピックスとなっている論文の実験、シミュレーションを理解し、再現するための実験計画、シミュレーションソフトの開発を行う。次に、その実験、シミュレーションから得られた結果を考察、討論し、新たな理論、方法、ツール等の考案を行う。 ④設定される問題に関する研究論文等を収集、要約し、新規性を解説でき、残された問題点などを指摘できるようにしておくこと。 ⑤受講者自身が興味あるテーマの論文を提案する。 ⑥課題レポート、プレゼンテーションにより総合的に評価する。 | | | | |

博士後期課程・放射線科学域

| | |
|----------------------|--|
| ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ⑦原則として毎週木曜日 14:00-17:00 をオフィスアワーとする。 講義での質問はできるだけ講義中に行うこと。授業後に質問が生じた場合は、オフィスアワーあるいはメールで打合せ日時、場所を事前に調整して質問を行うこと。 |
|----------------------|--|

| 授業科目名 | 特別臨床研修 I | 配当年次 | 1～3年 | 単位数 | 2単位 |
|--|--|------|------|-----|-------|
| (科目英名) | Advanced Clinical Practicum I ,(Medical Physics) | 通年 | - | - | U0488 |
| 担当教員 | 福士政広、齋藤秀敏、沼野智一 | | | | |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①医学物理教育ガイドラインに則った研修を行う。 ②臨床における医学物理業務について研修し、単独で業務を行えるための知識と問題解決能力の取得を目標とする。 ③指定の施設で、医学物理教育ガイドラインに則った研修を行う。研修を行う。 研修項目を理解するための事前学習を必ず行うこと。また、研修項目に関する研究論文等を収集、要約しておくこと。 修了した研修項目を要約し、レポートとして提出すること。 ④放射線治療、核医学診断および放射線診断に関する文献を収集し、事前に読んでおくこと。 ⑤必要に応じて紹介する。 ⑥各項目における達成度、レポートおよび口頭試問により総合的に評価する。 ⑦担当教員への質問については、指定する曜日、時間、あるいはメールで打合せ日時、場所を事前に調整して質問、相談を行うこと。 ⑧研修中に生じた質問については研修中に解決するよう研修担当者に質問すること。 | | | | |

| 授業科目名 | 特別臨床研修 II | 配当年次 | 1～3年 | 単位数 | 2単位 |
|--|--|------|------|-----|-------|
| (科目英名) | Advanced Clinical Practicum II ,(Medical Physics) | 通年 | - | - | U0489 |
| 担当教員 | 福士政広、齋藤秀敏、沼野智一 | | | | |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①医学物理教育ガイドラインに則った研修を行う。 ②臨床における医学物理業務について研修し、単独で業務を行えるための知識と問題解決能力の取得を目標とする。 ③指定の施設で、医学物理教育ガイドラインに則った研修を行う。 研修項目を理解するための事前学習を必ず行うこと。また、研修項目に関する研究論文等を収集、要約しておくこと。 修了した研修項目を要約し、レポートとして提出すること。 ④放射線治療、核医学診断および放射線診断に関する文献を収集し、事前に読んでおくこと。 ⑤必要に応じて紹介する。 ⑥各項目での達成度と口頭試験で総合的に評価する。 ⑦担当教員への質問については、指定する曜日、時間、あるいはメールで打合せ日時、場所を事前に調整して質問、相談を行うこと。 ⑧特別臨床研修 I の単位を取得した者が受講できる。 研修中に生じた質問については研修中に解決するよう研修担当者に質問すること。 | | | | |

| 授業科目名 | 医用画像情報学特講 | 配当年次 | 1～3年 | 単位数 | 2単位 |
|--|--|------|------|-----|-------|
| (科目英名) | Advanced Medical Imaging Informatics | 前期 | 水曜 | 5限 | U0465 |
| 担当教員 | 関根紀夫、乳井嘉之 | | 月曜 | 7限 | U0466 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 | ①画像診断における医用画像情報学の問題点を臨床の場から探し、その解決方法を学ぶ。 ②生体内情報データの画像再構成アルゴリズムとプログラミング技術、それらの基礎となる情報学教育に関して考究する。 ③各種X線検出器、CT、MRI など先端的な話題について論ずる。また、医療従事者教育における医用画像情報学の展開・組み立て方法を論ずる。 ④授業時に提示されたキーワードに関して、文献検索をしてから次の講義に臨むこと。 ⑤テキストは特に使用しない。必要に応じプリントを配布して講義を行う。 ⑥出席、プレゼンテーションおよびレポートにより総合的に評価する。 | | | | |

博士後期課程・放射線科学域

| | |
|----------------------|---|
| ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ⑦原則として木曜 4 限・7 限をオフィスアワーとしますので、質問等があれば研究室(505)へ来てください。また、メールによる質問も随時受け付けます。 【メールアドレス】:sekine@tmu.ac.jp |
|----------------------|---|

| 授業科目名 | 医用画像情報学特講演習 | 配当年次 | 1～3 年 | 単位数 | 2 単位 |
|--|---|------|-------|-------|-------|
| (科目英名) | Seminar in Advanced Medical Imaging Informatics | 後期 | 火曜 | 4-5 限 | U0467 |
| 担当教員 | 関根紀夫、乳井嘉之 | | 水曜 | 6-7 限 | U0468 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ①画像診断における医用画像情報学の問題点を臨床の場から探し、その解決方法を演習により学ぶ。 ②放射線機器から得られた臨床データを用い、生体情報を解析するための医用画像処理法を演習する。 ③各種X線検出器、CT、MRI、放射光など先端的な話題について演習する。また、医療従事者教育における医用画像情報学の展開・組み立て方法を演習する。 学内コンピュータ室での演算の他、他研究機関を利用し放射光に関する実験を予定している。 ④授業において提示されたキーワードについての検索結果や演習の報告書(レポート)の作成 ⑤テキストは特に使用しない、授業でプリントを配布して演習を行う。 ⑥出席、プレゼンテーション(口述試験)およびレポートにより総合的に評価する。 ⑦原則として火曜 5・6 限をオフィスアワーとしますので、質問等があれば研究室(505)へ来てください。また、メールによる質問も随時受け付けます。 【メールアドレス】:sekine@tmu.ac.jp | | | | |

| 授業科目名 | 放射線計測学特講 | 配当年次 | 1～3 年 | 単位数 | 2 単位 |
|--|---|------|-------|-----|-------|
| (科目英名) | Advanced Radiation Dosimetry | 前期 | 月曜 | 5 限 | U0469 |
| 担当教員 | 加藤洋 | | 水曜 | 6 限 | U0470 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①放射線診療における実践の中の問題点を探し、定式化し、解決の方向を示す方法を学ぶ。 ②放射線診療の現場で行われる放射線計測の意義と方法論について考察し、今後の技術革新の方向性を認識する。 ③ゼミ形式で行う。 つぎの様な事項について議論を深める。 1)～ 3) 高エネルギー電子線の計測 4)～ 6) 高エネルギーX線の計測 7)～ 9) 診断用X線の計測 10)～12) 患者被ばく線量の計測 13) まとめ ④放射線計測学特論および放射線計測学特講演習の内容を理解しておく。 ⑤テキストは成書の一部、論文、資料をコピーして配付する。 ⑥課題レポートにより評価する。 ⑦月、木、金 16:00 以降は荒川キャンパス 514 室。 ⑧放射線医学物理学特論、放射線計測学特論、放射線計測学特講演習などに関連する。 | | | | |

| 授業科目名 | 放射線計測学特講演習 | 配当年次 | 1～3 年 | 単位数 | 2 単位 |
|---|--|------|-------|-------|-------|
| (科目英名) | Seminar in Advanced Radiation Dosimetry | 後期 | 月曜 | 5-6 限 | U0471 |
| 担当教員 | 加藤洋 | | 火曜 | 6-7 限 | U0472 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 | ①放射線診療の現場で現在問題となっている課題について、実測を含めた対処法を検討する。 ②放射線計測学特講の講義を基礎とし、現在使用されている測定器による実測と解析を通して、測定信頼性の評価とその向上方法を学ぶ。 ③主に実験実習を行う。 つぎの様な事項について実習を行う。 | | | | |

博士後期課程・放射線科学域

| | |
|---|---|
| ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | 1)～3) 高エネルギー電子線の計測 4)～6) 高エネルギーX線の計測 7)～9) 診断用X線の計測 10)～12) 患者被ばく線量の計測 13) まとめ ④放射線医学物理学特論, 放射線計測学特論, 放射線計測学特論演習などを理解しておく。 ⑤実験方法等はプリントを配付する。 ⑥課題レポートにより評価する。 ⑦月, 木, 金 16:00 以降は荒川キャンパス 514 室 ⑧放射線医学物理学特論, 放射線計測学特論などに関連する。 |
|---|---|

| 授業科目名 | 医用計測システム学特講 | 配当年次 | 1～3年 | 単位数 | 2単位 |
|--|--|------|------|-----|-------|
| (科目英名) | Advanced Medical Measurement Systems | 前期 | 月曜 | 5限 | U0473 |
| 担当教員 | 小倉泉、真正浄光 | | | 6限 | U0474 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①電子回路、センサー、周辺回路の構築に必要な項目について講義する。 ②医用システムの計測・評価を行う際に必要な電気・電子工学および、光工学に関する知識について修得する。 ③以下の項目について講義する。 ・オペレーションアンプによる各種回路 ・オペレーションアンプ回路の設計法 ・オペレーションアンプ回路の製作技術 ・マイクロコントローラの基礎とプログラミング ・マイクロコントローラの周辺回路 ・蛍光体の基礎 ・蛍光体の種類と特性 ・光計測システムの基礎 ・光計測システムの設計 ・光計測システムの製作技術 ・医用計測システム構築の考え方 ④指示した課題に取り組む。 レポートを作成する。 ⑤テキストは講義資料を作成して受講者に配付する。 ⑥課題の完成度およびレポートにより評価する。 ⑦質問等はメールにより随時受け付けます。 ⑧ゼミ形式で行う。 | | | | |

| 授業科目名 | 医用計測システム学特講演習 | 配当年次 | 1～3年 | 単位数 | 2単位 |
|--|---|------|------|------|-------|
| (科目英名) | Seminar in Advanced Medical Measurement Systems | 後期 | 月曜 | 5-6限 | U0475 |
| 担当教員 | 小倉泉、真正浄光 | | 水曜 | 6-7限 | U0476 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ①電子回路、光センサー、周辺回路の構築に必要な項目について演習を行う。 ②医用計測システムの構築・評価を行う際に必要な電気・電子工学および、光工学に関する具体的な技術について演習を行う。 ③具体的な医用計測システムを取り上げ、その計測方法について演習を行う。 ④指示した課題について取り組む。 レポートを作成する。 ⑤テキストは演習資料を作成して受講者に配付する。 ⑥課題の完成度およびレポートにより評価する。 ⑦質問等はメールにより随時受け付けます。 | | | | |

博士後期課程・放射線科学域

| | |
|------------------------|-----------|
| ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ⑧ゼミ形式で行う。 |
|------------------------|-----------|

| 授業科目名 | 医用画像診断学特講 | 配当年次 | 1～3年 | 単位数 | 2単位 |
|--|---|------|------|-----|-------|
| (科目英名) | Advanced Diagnostic Imaging in Medicine | 前期 | 火曜 | 5限 | U0477 |
| 担当教員 | 古川颯、白川崇子 | | | 6限 | U0478 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ①放射線医学の進歩、現況について学ぶ。 ②教育目標:各領域の画像診断、CT、MRI、Interventional Radiology の領域の現状、最先端の情報につき学ぶ。 ③毎回の講義で、各領域の画像診断、CT、MRI、Interventional Radiology の領域から、テーマを見つけて、医学書、医学論文を分析することにより、放射線医学の進歩、現況について学ぶ。 論文分析、講義・解説 ④指定課題のレポート作成 ⑤放射線医学書、医学雑誌全般 ⑥提出レポートおよび事業中の発表、発言内容を学術的に評価 ⑦授業時間前後の時間帯:講義室にて質問を受け付ける それ以外の時間については、質問事項をレポートにまとめて5階の教授室(古川)のポストへ投函すること | | | | |

| 授業科目名 | 医用画像診断学特講演習 | 配当年次 | 1～3年 | 単位数 | 2単位 |
|--|--|------|------|------|-------|
| (科目英名) | Seminar in Advanced Diagnostic Imaging in Medicine | 後期 | 月曜 | 5-6限 | U0479 |
| 担当教員 | 古川颯、白川崇子 | | 火曜 | 2-3限 | U0480 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ①放射線医学の最先端の情報を収集し、問題点を抽出し、研究テーマを模索するとともに研究計画を作成する。 ②特定の放射線医学の領域についての現状、最先端の情報を学び、研究テーマを模索するとともに研究計画を作成する。 ③2-3のテーマについて、放射線医学の最先端の情報を収集し、問題点を抽出し、研究テーマを模索するとともに研究計画を作成する。講義時間内に時間を設けて、進行状況を発表(プレゼンテーション)する。また、最終レポート作成する。 論文分析、プレゼンテーション、レポート作成 ④指定課題に関するレポートの提出 ⑤放射線医学書、医学雑誌全般 ⑥プレゼンテーションとレポートの内容の学術的評価 ⑦授業時間前後の時間帯:講義室にて質問を受け付ける それ以外の時間については、質問事項をレポートにまとめて5階の教授室(古川)のポストへ投函すること | | | | |

| 授業科目名 | 画像診断システム学特講 | 配当年次 | 1～3年 | 単位数 | 2単位 |
|---|---|------|------|-----|-------|
| (科目英名) | Advanced Diagnostic Imaging Systems Engineering | 前期 | 木曜 | 5限 | U0481 |
| 担当教員 | 妹尾淳史、根岸徹、安部真治、安保雅博 | | | 6限 | U0482 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 | ①臨床で用いられる医用画像診断システムの分析・評価を行い、医用画像に必要なシステムの最新技術、品質保証法について考察する。また、生体内部の物理学的情報や生理学的情報と最新技術を応用した生体情報の可視化法について考察する。 ②医用画像診断システムの分析・評価法に関する最新に知見を習得し、臨床で用いられる基本的な知識を得ることを到達目標とする。 ③(妹尾) 生体内部の物理学的情報や生理学的情報が、医用画像の輝度値にどのような反映されているかモダリティごとに考察し、最新技術を応用した生体情報の可視化法について論じる。 (根岸) 画像診断システムの精度について分析するとともに、診断領域における計測技術について学び、医療被ばくの最適化、機器の精度管理について論じる。 (安部) | | | | |

博士後期課程・放射線科学域

| | |
|---|--|
| ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | X線診断分野を中心とした画像診断システムの分析・評価、防護、計測技術、品質保証法について論じる。 (安保) 最新のニューロイメージングに関する画像診断技術がどのように治療へ応用されているか臨床事例を通して論じる。 ④次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。 ⑤講義資料や参考図書は授業で配布・紹介する。 ⑥授業態度、レポート、プレゼンテーションにより総合的に評価する。 ⑦オフィスアワー 非常勤: 基本的に授業時間中とします。 常勤: 平日 10-16 時 |
|---|--|

| 授業科目名 | 画像診断システム学特講演習 | 配当年次 | 1～3年 | 単位数 | 2単位 |
|--------|--|------|------|-------|-------|
| (科目英名) | Seminar in Advanced Diagnostic Imaging Systems Engineering | 後期 | 木曜 | 4-5 限 | U0483 |
| 担当教員 | 妹尾淳史、根岸徹、安部真治、安保雅博 | | | 6-7 限 | U0484 |

| | |
|--|---|
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ①臨床で用いられる医用画像診断システムの分析・評価を行い、医用画像に必要なシステムの性能評価、品質保証法について演習する。また、生体情報の可視化と画像処理法について演習する。 ②医用画像診断システムの分析・評価法に関する最新に知見を演習することにより、臨床で用いられる実用的な知識を得ることを到達目標とする。 ③(妹尾) 画像診断システム学特講で学習した生体情報の可視化法について、実際に撮像したり医用画像処理などの演習をおこない理解を深める。 (根岸) 画像診断システムの精度評価法を学び、医療被ばくの最適化、機器の精度管理について演習する。 (安部) X線診断分野を中心とした画像診断システムの分析・評価、防護、計測技術、品質保証法について演習する。 (安保) 最新のニューロイメージングに関する画像診断技術や治療法について演習する。 ④次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。 ⑤必要に応じて資料を配付または文献を紹介する。 ⑥授業態度、レポート、プレゼンテーションにより総合的に評価する。 ⑦オフィスアワー 非常勤: 基本的に授業時間中とします。 常勤: 平日 10-16 時 |
|--|---|

科目一覧（フロンティアヘルスサイエンス学域 博士後期課程）

| 授業科目名 | 配当年次 | 開講期 | 単位数 | 備考 |
|---------------------|------|-------|-----|----|
| フロンティアヘルスサイエンス特別研究a | 最終学年 | 前期・後期 | 4 | |
| フロンティアヘルスサイエンス特別研究b | 最終学年 | 後期・前期 | 4 | |
| 脳機能解析科学特講 | 1～3年 | 通年 | 4 | |
| 脳機能解析科学特講演習 | 1～3年 | 後期 | 2 | |
| 生体運動解析学特講 | 1～3年 | 通年 | 4 | |
| 生体運動解析学特講演習 | 1～3年 | 後期 | 2 | |
| 機能形態解析科学特講 | 1～3年 | 通年 | 4 | |
| 機能形態解析科学特講演習 | 1～3年 | 後期 | 2 | |
| 地域保健活動評価論特講 | 1～3年 | 通年 | 4 | |
| 地域保健活動評価論特講演習 | 1～3年 | 後期 | 2 | |

履修モデル（人間健康科学研究科 人間健康科学専攻 フロンティアヘルスサイエンス学域）

<博士後期課程>

| 区分 | 授業科目名 | 単位数 | 脳機能 解析科学 分野 | 生体運動 解析科学 分野 | 機能形態 解析科学 分野 | 地域保健 活動評価 論分野 | |
|-------------------------------------|----------------------|-----|-------------------|--------------------|--------------------|---------------------|--|
| 博士 (健康科学) または博士 (学術) 取得 | フロンティアヘルスサイエンス特別研究 a | 4 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | |
| | フロンティアヘルスサイエンス特別研究 b | 4 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | |
| | 脳機能解析科学特講 | 4 | ○ | □ | □ | □ | |
| | 脳機能解析科学特講演習 | 2 | ○ | □ | □ | □ | |
| | 生体運動解析学特講 | 4 | □ | ○ | □ | □ | |
| | 生体運動解析学特講演習 | 2 | □ | ○ | □ | □ | |
| | 機能形態解析科学特講 | 4 | □ | □ | ○ | □ | |
| | 機能形態解析科学特講演習 | 2 | □ | □ | ○ | □ | |
| | 地域保健活動評価論特講 | 4 | □ | □ | □ | ○ | |
| | 地域保健活動評価論特講演習 | 2 | □ | □ | □ | ○ | |
| | 計 | | | 14 単位以上 | | | |

凡例： ◎必修 ○分野の必修 □選択

博士後期課程・フロンティアヘルスサイエンス学域

| | | | | | |
|--|--|-----------|------|-----|-------|
| 授業科目名 | フロンティアヘルスサイエンス特別研究 a | 配当年次 | 最終学年 | 単位数 | 4 単位 |
| (科目英名) | Research on Frontier Health Science a | 前期で履修する場合 | | | U0530 |
| 担当教員 | 菊池吉晃、渡辺賢、易勤、猫田泰敏 | 後期で履修する場合 | | | U0543 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①フロンティアヘルスサイエンスに関する研究課題を設定して、研究計画の立案、データの収集と分析を通して研究論文作成の指導をする。 ②フロンティアヘルスサイエンス学域の各研究分野の中から、研究課題を設定して、その研究過程を実践し博士論文を完成する。 ③脳機能解析科学・臨床神経科学・生体運動解析科学・地域保健活動評価論・機能形態解析科学の個々の分野について、各担当教員による基礎・先端的知識や研究方法についての教育を行う。 研究計画から論文完成までの全過程を総合的に教育する。 ④自身で最新の研究論文を調査し、自身の研究について熟慮・検討をおこなう。 ⑤各教員により随時指定する。 ⑥中間発表およびそれまでの研究過程に基づき評価する。 ⑦メールでの対応、および必要に応じて面談日程の上、面談を実施する。 ⑧講義日程・時間に関しては、各教員によって日時が異なる場合があるが、受講者の予定を配慮し柔軟に調整する。 前期・後期、どちらでも履修可能。 曜日・時限等の詳細は、学生から教員に相談・調整すること。 履修登録期間に、自身で登録すること。 | | | | |

| | | | | | |
|--|--|-----------|------|-----|-------|
| 授業科目名 | フロンティアヘルスサイエンス特別研究 b | 配当年次 | 最終学年 | 単位数 | 4 単位 |
| (科目英名) | Research on Frontier Health Science b | 前期で履修する場合 | | | U0544 |
| 担当教員 | 菊池吉晃、渡辺賢、易勤、猫田泰敏 | 後期で履修する場合 | | | U0545 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①フロンティアヘルスサイエンスに関する研究課題を設定して、研究計画の立案、データの収集と分析を通して研究論文作成の指導をする。 ②フロンティアヘルスサイエンス学域の各研究分野の中から、研究課題を設定して、その研究過程を実践し博士論文を完成する。 ③脳機能解析科学・臨床神経科学・生体運動解析科学・地域保健活動評価論・機能形態解析科学の個々の分野について、各担当教員による基礎・先端的知識や研究方法についての教育を行う。 研究計画から論文完成までの全過程を総合的に教育する。 ④最新の研究論文を調査し、自身の研究について熟慮・検討をおこなう。 ⑤各教員により随時指定する。 ⑥研究の全過程、特に中間発表以降、論文完成までの過程について総合的に評価する。 ⑦メールでの対応、および必要に応じて面談日程の上、面談を実施する。 ⑧講義日程・時間に関しては、各教員によって日時が異なる場合があるが、受講者の予定を配慮し柔軟に調整する。 フロンティアヘルスサイエンス特別研究 a の単位を取得した者が履修できる。 前期・後期、どちらでも履修可能。 曜日・時限等の詳細は、学生から教員に相談・調整すること。 履修登録は、論文提出を以て事務で一括で行う。(※履修登録期間の自身による履修登録は不要。) | | | | |

| | | | | | |
|-------------------------------------|---|------|-------|-----|-------|
| 授業科目名 | 脳機能解析科学特講 | 配当年次 | 1～3 年 | 単位数 | 4 単位 |
| (科目英名) | Advanced Analysis of Brain Function | 通年 | 月曜 | 5 限 | U0531 |
| 担当教員 | 菊池吉晃 | | | 6 限 | U0532 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 | ①受講者自らの問題意識を尊重しつつ、国際的な観点からもきわめて重要な研究テーマを重点的に扱う。 ②機能的磁気共鳴画像法(fMRI: functional magnetic resonance imaging)など最先端の非侵襲的脳機能計測法を応用し、ヒトの認知、運動、記憶、情動、こころ、愛などの高次脳機能の重要研究課題について基礎・応用的観点から深く探求する能力を獲得する。 | | | | |

博士後期課程・フロンティアヘルスサイエンス学域

| | |
|---|--|
| <p>③授業計画・内容 授業方法</p> <p>④授業外学習</p> <p>⑤テキスト・参考書等</p> <p>⑥成績評価方法</p> <p>⑦質問受付方法 (オフィスアワー)</p> <p>⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)</p> | <p>③受講者自らの問題意識を尊重しつつ、研究課題としての意義や妥当性について脳機能研究における国際的視点から徹底的に議論し、研究テーマを設定する。さらに、同研究テーマの研究計画を具体的に決定し、必要な研究環境・研究対象・研究手法・脳機能データの解析法などについても具体的に検討し、研究の実践を行う。 自らの問題意識に基づいた議論、および国際雑誌の研究論文・レビューなどをもとに、研究室での講義・議論を行う。 また、実際に、研究機器や解析装置を用いて設定した研究テーマで研究を行う。</p> <p>④自身で最新の研究論文を十分に調査し、自身の研究の進め方を实际的に熟慮・検討をおこなうこと。</p> <p>⑤国際雑誌に掲載されている論文・レビューなどを主な資料とする。</p> <p>⑥出席や講義などに対する意欲、さらに議論の内容、研究の遂行能力を評価する。</p> <p>⑦メールでの対応、必要に応じて面台を実施する。</p> <p>⑧講義日程・時間に関しては、受講者の予定を配慮し柔軟に調整する。</p> |
|---|--|

| | | | | | |
|----------------------------|---|------|------|------|-------|
| 授業科目名 | 脳機能解析科学特講演習 | 配当年次 | 1～3年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Advanced Analysis of Brain Function, Practicum | 後期 | 水曜 | 4-5限 | U0533 |
| 担当教員 | 菊池吉晃、小早川達、則内まどか | | | 6-7限 | U0534 |
| ①授業方針・テーマ | ①脳機能に関するさまざまな研究手法や解析方法について実践的に学ぶ。 | | | | |
| ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 | ②高次脳機能の研究を実践する上で不可欠な、脳機能・脳研究方法に関する最新の知識や情報、及び脳機能画像や臨床神経生理などの解析手法などを習得するとともに、認知・感覚・運動・情動などの情報処理機能に関する実験・計測・データ解析などを通して最新の脳機能研究の実践的能力を涵養する。 | | | | |
| ③授業計画・内容 授業方法 | ③(菊池吉晃教授)機能的磁気共鳴画像法(fMRI: functional magnetic resonance imaging)などを用いた脳イメージング解析により、主にヒトの認知、運動、記憶、情動、こころ、愛などの高次脳機能の重要研究課題に関して演習を行う。 (小早川達講師)(兼任)嗅覚・味覚などの感覚情報処理に関与する脳内神経機構について、脳磁界(MEG: magnetoencephalography)による脳機能解析と官能評価などの心理学的手法との対応から演習を行う。 (則内まどか講師)社会性・母子関係をはじめとする精神医学・心身医学・心理学などにおける様々な研究課題に対してfMRIやDTIを用いた脳イメージング研究を応用するための実践的演習を行う。 自らの問題意識に基づいた研究テーマについて、国際的観点から演習を行う。 | | | | |
| ④授業外学習 | ④自身で、最新の論文を読解するとともに実践的に脳機能データの解析の練習をおこなう。 | | | | |
| ⑤テキスト・参考書等 | ⑤国際雑誌に掲載されている論文・レビューなどを主な資料とする。 | | | | |
| ⑥成績評価方法 | ⑥出席や講義などに対する意欲、さらに議論の内容、演習の遂行能力を評価する。 | | | | |
| ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ⑦メールでの対応、および面談の日程調整などおこない面談をおこなう。 | | | | |
| ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ⑧講義日程・時間に関しては、受講者の予定を配慮し柔軟に調整する。 | | | | |

| | | | | | |
|----------------------------|--|------|------|-----|-------|
| 授業科目名 | 生体運動解析学特講 | 配当年次 | 1～3年 | 単位数 | 4単位 |
| (科目英名) | Advanced Analysis of Cell and Organ Motility | 通年 | 木曜 | 5限 | U0570 |
| 担当教員 | 渡辺賢、鈴木政登 | | | 6限 | U0571 |
| ①授業方針・テーマ | ①生体運動に関わる筋肉細胞の収縮性とその制御機構の一般性と臓器特異性について、又、様々な臓器運動障害がもたらす疾病について、分子・細胞・組織レベルのそれぞれのレベルで、「働き」と「かたち」に焦点を当てて探求を行う。 | | | | |
| ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 | ②授業の目的・到達目標 生体運動の制御機構とその不全によって起こる様々な病態について理解する。 習得可能な能力 a.生体現象を分析に捉えると共に、それらを再構築して全体像を把握する力。 b.論理的にものを考え、纏め、英語で発表のできる力。 | | | | |
| ③授業計画・内容 授業方法 | ③(総論)細胞運動の分子生物学、興奮性膜の生理学・分子生物学、筋肉細胞の形態学、興奮収縮連関、収縮の分子メカニズム、エネルギー論、筋収縮の外来制御と内在性制御 (各論)骨格筋運動と筋収縮、疲労・筋萎縮・再生、臓器運動の制御とその不全、筋病学・筋と内臓 講義およびセミナーを組み合わせる。受講者の自主性を重んじる。 | | | | |
| ④授業外学習 | ④高度な内容を学びます。自己学習は必須です。 | | | | |
| ⑤テキスト・参考書等 | ⑤特に定めませんが、セミナー等の資料については、適宜推薦する。 | | | | |
| ⑥成績評価方法 | ⑥出席状況及びレポートにより総合的に評価する。 | | | | |
| ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ⑦質問、連絡等は masaru あと tmu.ac.jp に連絡願います。原則的には 48 時間以内に返信致します。 註:「あと」は@ (半角文字)に変換してください。 | | | | |

博士後期課程・フロンティアヘルスサイエンス学域

| | |
|------------------------|---|
| ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ⑧講義日程・時間については受講者の予定を十分に配慮して行う。一部、集中講義で行う可能性がある。尚、教員出張等で講義日程・時間に変更することがある。 |
|------------------------|---|

| | | | | | |
|--|---|------|------|------|-------|
| 授業科目名 | 生体運動解析学特講演習 | 配当年次 | 1～3年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Advanced Analysis of Cell and Organ Motility,Practicum | 後期 | 土曜 | 3-4限 | U0572 |
| 担当教員 | 渡辺賢 | | 集中 | | U0573 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①筋肉細胞の力学応答計測とタンパク質リン酸化定量、筋収縮フィラメント分子動態計測等の原理を学び応用する手法を習得する。 ②習得できる知識・能力:生体運動機能解析のための研究手法を理解できる。実際に応用できる能力を獲得する。 ③授業計画:受講者の自主性を重んじ、受講者本人の研究テーマに合わせて実際の演習の内容及び計画を決定する。授業形式セミナーおよび実習を組み合わせて行う。 ④高度な内容を学びます。自己学習は必須です。参考文献を適宜紹介します。 ⑤論文、総説等、テーマにそって決定する。 ⑥出席状況及びレポートにより総合的に評価する。 ⑦質問、連絡等は masaru あと tmu.ac.jp に連絡願います。原則的には48時間以内に返信致します。 註:「あと」は@ (半角文字)に変換してください。 ⑧講義日程・時間については受講者の予定を十分に配慮し、一部集中講義で行う。尚、教員の出張等により講義日程・時間等が変更になることがある。なお本科目の履修には、生体運動解析学特論を履修することが望ましい。 | | | | |

| | | | | | |
|--|---|------|------|-----|-------|
| 授業科目名 | 機能形態解析科学特講 | 配当年次 | 1～3年 | 単位数 | 4単位 |
| (科目英名) | Advanced Analysis of Functional Morphology | 通年 | 金曜 | 6限 | U0596 |
| 担当教員 | 易勤 | | | 7限 | U0597 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①神経科学的研究方法, 肉眼解剖学的, 免疫組織化学的およびタンパク分子生物学的方法などの解析法にて, 体幹および内臓系の神経分布や形態形成過程をタンパク分子から三次元的形態レベルまでの広い観点から追跡し説明する。 ②ヒトをはじめとする高等脊椎動物の体の形態形成メカニズムと因子を解明することである。 ③実験動物による細胞組織学的実験; 免疫組織化学実験; Whole mount 免疫組織化学実験; 動物の行動実験; 逆行性・逆行性蛍光トレーサー神経回路標識法の実験, Western blotting, Realtime PCR 実験 a. 自らの問題意識に基づき議論し、セミナーを組み合わせて行う。 b. 各学生は教員と十分に事前の打ち合わせを行い、授業が効果的に進むよう準備する。 c. 定期的に国際的な研究の最前線やレビューの論文を抄読会を行う。 ④毎回の授業後、次回の授業の範囲を提示するので、必ず事前に予習を行い、内容を把握した上で授業に臨むこと。 ⑤特に定めませんが、セミナー等の資料については、適宜推薦し、国際雑誌に掲載されている論文・レビューなどを主な資料とする。 ⑥出席や講義などに対する意欲、さらに議論の内容、研究の遂行能力などにより総合的に評価する。 ⑦【オフィスアワー】:原則として金曜の4限目としますので、質問があれば研究室(385 或いは 574 室)に来てください。なお、メールによる質問は随時受け付けます。 【連絡先】:yitmtniu@tmu.ac.jp ⑧講義日程・時間については受講者の予定を十分に配慮して行う。一部、集中講義で行う可能性がある。尚、教員出張等で講義日程・時間に変更することがある。 | | | | |

| | | | | | |
|-----------|---|------|------|------|-------|
| 授業科目名 | 機能形態解析科学特講演習 | 配当年次 | 1～3年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Advanced Analysis of Functional Morphology, Practicum | 後期 | 土曜 | 1-2限 | U0535 |
| 担当教員 | 易勤 | | 集中 | | U0536 |
| ①授業方針・テーマ | ①神経科学的研究方法, 肉眼解剖学的, 免疫組織化学的およびタンパク分子生物学的方法などの解析法にて, 体幹および内臓系の神経分布や形態形成過程をタンパク分子から三次元的形態レベルまでの広い観点から追跡し説明する。 | | | | |

博士後期課程・フロンティアヘルスサイエンス学域

| | |
|---|--|
| ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ②ヒトをはじめとする高等脊椎動物の体の形態形成メカニズムと因子を解明することである。 ③実験動物による細胞組織学的実験；免疫組織化学実験；Whole mount 免疫組織化学実験；動物の行動実験；順行性・逆行性蛍光トレーサー神経回路標識法の実験，Western blotting, Realtime PCR 実験 a. 自らの問題意識に基づき議論し、セミナーを組み合わせで行う。 b. 各学生は教員と十分に事前の打ち合わせを行い、授業が効果的に進むよう準備する。 c. 定期的に国際的な研究の最前線やレビューの論文を抄読会を行う。 ④毎回の授業後、次の授業の範囲を提示するので、必ず事前に予習を行い、内容を把握した上で授業に臨むこと。 ⑤特に定めないが、セミナー等の資料については、適宜推薦し、国際雑誌に掲載されている論文・レビューなどを主な資料とする。 ⑥出席や講義などに対する意欲、さらに議論の内容、研究の遂行能力などにより総合的に評価する。 ⑦【オフィスアワー】：原則として金曜の4限目としますので、質問があれば研究室(385 或いは 574 室)に来てください。なお、メールによる質問は随時受け付けます。 【連絡先】: yittmniu@tmu.ac.jp ⑧講義日程・時間については受講者の予定を十分に配慮して行う。一部、集中講義で行う可能性がある。尚、教員出張等で講義日程・時間に変更することがある。 |
|---|--|

| 授業科目名 | 地域保健活動評価論特講 | 配当年次 | 1～3年 | 単位数 | 4単位 |
|--------|---|------|------|-----|-------|
| (科目英名) | Advanced Evaluation of Public Health Activity | 通年 | 木曜 | 5限 | U0592 |
| 担当教員 | 猫田泰敏 | | | 6限 | U0593 |

| | |
|--|--|
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) | ①地域保健関連情報に基づき、地域において行政等により展開される各種の保健活動を対象として、評価に関わる基礎的な理論を参照しつつ、活動特性を踏まえて活動評価のための要素設定を科学的に行うため系統的に講義するとともに、保健活動の実践と評価指標との関連性について総合的に講義する。 ②地域保健活動評価の効果的なあり方について理解できる。 ③【授業計画・内容】 第1～5回：評価に関わる理論について学ぶ。 第6～8回：地域保健活動の特性について、利用可能な資源、活動実施者、住民特性、住民へのアプローチ法、活動頻度等から捉える。 第9～11回：効率的な研究デザインの選択、目的・目標に妥当な評価指標の選定ないし作成等、活動評価のための科学的な要素設定について学ぶ。 第12～15回：地域保健活動の実践と評価指標との関連性を医療統計学や疫学的手法を活用して評価することを学ぶ。 第16回：試験 【授業方法】 ・授業へ主体的に取り組むこと。 ・各学生が、それぞれの授業時間の課題を分担し、その授業時間のリーダーシップをとる。 ・各学生は教員と十分に事前の打ち合わせを行い、授業が効果的に進むよう準備する。 ④普段の保健活動(種専門職としての実践活動を含む)において本学習内容と関連のある事柄に積極的に目を向け、授業で身につけた方法を適用する習慣を身につけること。 ⑤なし ⑥授業の準備状況(40%)、討論参加程度(40%)、試験(レポートの提出、20%)によって評価する。 ⑦オフィスアワーは特に設けませんが、メールによる質問や連絡を随時受け付けます。連絡先は nekoda@tmu.ac.jp まで。 |
|--|--|

| 授業科目名 | 地域保健活動評価論特講演習 | 配当年次 | 1～3年 | 単位数 | 2単位 |
|--------|--|------|------|------|-------|
| (科目英名) | Advanced Evaluation of Public Health Activity, Practicum | 後期 | 火曜 | 4-5限 | U0594 |
| 担当教員 | 猫田泰敏 | | | 6-7限 | U0595 |

| | |
|---|---|
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 | ①地域保健活動の対象となる一定のモデル的な地域を設定し、主として行政機関等を通じて入手可能な保健・医療・福祉関連のデータについて、コンピュータを用いて総合的に解析するとともに、新たな評価指標の考究を行う。そして、地域保健活動評価として、研究デザインに従った各種の解析を実施する。 ②効果的な地域保健活動評価のあり方について、シミュレーションを通じて理解できる。 |
|---|---|

博士後期課程・フロンティアヘルスサイエンス学域

| | |
|------------------------------|--|
| <p>③授業計画・内容 授業方法</p> | <p>③【授業計画・内容】</p> <p>第1～10回:主として行政機関等を通じて入手可能な特定時点での保健・医療・福祉関連のデータについて、コンピュータを用いて解析する方法を学ぶ。</p> <p>第11回～15回:評価目的に応じた評価指標の作成方法について学ぶ。</p> <p>第16回～25回:研究デザインに従って評価指標の時間的・地理的な変化を検討するための各種の解析を医療統計学や疫学的手法により実施する。</p> <p>第26～30回:評価指標との関連性から、効果的な地域保健活動のあり方についてシミュレーションを行う。</p> <p>第31回:試験</p> <p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業へ主体的に取り組むこと。 ・各学生が、それぞれの授業時間の課題を分担し、その授業時間のリーダーシップをとる。 ・各学生は教員と十分に事前の打ち合わせを行い、授業が効果的に進むよう準備する。 |
| <p>④授業外学習</p> | <p>④地域保健活動評価論特講で学んだ知識を毎回の授業進行に合わせて再学習すること。</p> <p>普段の保健活動(種専門職としての実践活動を含む)において本学習内容と関連のある事柄に積極的に目を向け、授業で身につけた演習内容を適用する習慣を身につけること。</p> |
| <p>⑤テキスト・参考書等</p> | <p>⑤なし</p> |
| <p>⑥成績評価方法</p> | <p>⑥授業の準備状況(40%)、討論参加程度(40%)、試験(レポートの提出、20%)によって評価する。</p> |
| <p>⑦質問受付方法 (オフィスアワー)</p> | <p>⑦オフィスアワーは特に設けませんが、メールによる質問や連絡を随時受け付けます。連絡先は nekoda@tmu.ac.jp まで。</p> |

科目一覧（ヘルスプロモーションサイエンス学域 博士後期課程）

| 授業科目名 | 配当年次 | 開講期 | 単位数 | 備考 |
|-------------------------|------|-------|-----|-----------|
| ヘルスプロモーションサイエンス特別研究 a | 最終学年 | 前期・後期 | 4 | |
| ヘルスプロモーションサイエンス特別研究 b | 最終学年 | 後期・前期 | 4 | |
| ヘルスプロモーションサイエンス特講 I | 1年 | 前期 | 2 | |
| ヘルスプロモーションサイエンス特講 II | 1年 | 前期 | 2 | |
| ヘルスプロモーションサイエンス特講 III | 1年 | 前期 | 2 | |
| ヘルスプロモーションサイエンス特別講義 I | 1～3年 | 集中 | 1 | |
| ヘルスプロモーションサイエンス特別講義 II | 1～3年 | 集中 | 1 | |
| ヘルスプロモーションサイエンス特別講義 III | 1～3年 | 集中 | 1 | 2019年度不開講 |
| ヘルスプロモーションサイエンス演習 I | 1年 | 前期 | 1 | |
| ヘルスプロモーションサイエンス演習 II | 1年 | 後期 | 1 | |
| ヘルスプロモーションサイエンス演習 III | 2年 | 前期 | 1 | |
| ヘルスプロモーションサイエンス演習 IV | 2年 | 後期 | 1 | |
| ヘルスプロモーションサイエンス演習 V | 3年 | 前期 | 1 | |
| ヘルスプロモーションサイエンス演習 VI | 3年 | 後期 | 1 | |

＜博士後期課程＞

| 区分 | 授業科目名 | 単位数 | 適応科学分野 | 行動科学分野 | 栄養・食品科学分野 |
|----------------|-----------------------|--------|--------|--------|-----------|
| 分野 共通 科目 | ヘルスプロモーションサイエンス特別研究 a | 4 | ◎ | ◎ | ◎ |
| | ヘルスプロモーションサイエンス特別研究 b | 4 | ◎ | ◎ | ◎ |
| | ヘルスプロモーションサイエンス特講Ⅰ | 2 | ○ | □ | □ |
| | ヘルスプロモーションサイエンス特講Ⅱ | 2 | □ | ○ | □ |
| | ヘルスプロモーションサイエンス特講Ⅲ | 2 | □ | □ | ○ |
| | ヘルスプロモーションサイエンス特別講義Ⅰ | 1 | ○ | ○ | ○ |
| | ヘルスプロモーションサイエンス特別講義Ⅱ | 1 | ○ | ○ | ○ |
| | ヘルスプロモーションサイエンス特別講義Ⅲ | 1 | ○ | ○ | ○ |
| | ヘルスプロモーションサイエンス演習Ⅰ～Ⅵ | 各1 | ◎ | ◎ | ◎ |
| 必修 | | 14単位 | | | |
| 選択必修 | | 2単位以上 | | | |
| 計 | | 14単位以上 | | | |

凡例： ◎必修 ○選択必修 □選択

博士後期課程・ヘルスプロモーションサイエンス学域

| | | | | | |
|--|--|-----------|------|-----|-------|
| 授業科目名 | ヘルスプロモーションサイエンス特別研究 a | 配当年次 | 最終学年 | 単位数 | 4 単位 |
| (科目英名) | Advanced Study in Health Promotion Science a | 前期で履修する場合 | | | U0635 |
| 担当教員 | 各教員 | 後期で履修する場合 | | | U0652 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスパワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①博士論文の完成を目指し研究室ごとに指導教員のもとで実施する。 ②ヘルスプロモーションサイエンスに関する研究課題を設定し、研究計画の立案、データの収集と分析を通して博士論文を作成する。 ③(1)研究ミーティング:各自の実験計画や実験の進行状況、実験・測定結果の発表や解釈について議論する。 (2)論文抄読会:国内外の研究論文を中心に発表し、内容について議論する。 (3)投稿論文作成:論文の投稿、査読報告書の取り扱いやそれに対する回答の仕方など、論文掲載に至るまでを指導する。 (4)学会発表などの資料作成:関連学会、学域内の発表会の準備。 (5)研究計画書の作成。 (6)博士論文の作成。 ④授業に必要な作業が授業外学習にあたる。 ⑤必要な際は随時配布する。 ⑥教育目標の達成度をもとに各教員が評価する。 ⑦特別研究の開始時に、担当教員のオフィスパワーを確認すること。その際に、連絡用の電子メールアドレスを連絡する。 ⑧【他の授業との関連性】特別講義は、外部から各分野のトップランナーを講師として招き行う集中講義であり、特別講義Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの全てを受講することが望ましい。 前期・後期、どちらでも履修可能。 曜日・時限等の詳細は、学生から教員に相談・調整すること。 履修登録期間に、自身で登録すること。 | | | | |

| | | | | | |
|--|--|-----------|------|-----|-------|
| 授業科目名 | ヘルスプロモーションサイエンス特別研究 b | 配当年次 | 最終学年 | 単位数 | 4 単位 |
| (科目英名) | Advanced Study in Health Promotion Science b | 前期で履修する場合 | | | U0653 |
| 担当教員 | 各教員 | 後期で履修する場合 | | | U0654 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスパワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①博士論文の完成を目指し研究室ごとに指導教員のもとで実施する。 ②ヘルスプロモーションサイエンスに関する研究課題を設定し、研究計画の立案、データの収集と分析を通して博士論文を作成する。 ③(1)研究ミーティング:各自の実験計画や実験の進行状況、実験・測定結果の発表や解釈について議論する。 (2)論文抄読会:国内外の研究論文を中心に発表し、内容について議論する。 (3)投稿論文作成:論文の投稿、査読報告書の取り扱いやそれに対する回答の仕方など、論文掲載に至るまでを指導する。 (4)学会発表などの資料作成:関連学会、学域内の発表会の準備。 (5)研究計画書の作成。 (6)博士論文の作成。 ④授業に必要な作業が授業外学習にあたる。 ⑤必要な際は随時配布する。 ⑥教育目標の達成度をもとに各教員が評価する。 ⑦特別研究の開始時に、担当教員のオフィスパワーを確認すること。その際に、連絡用の電子メールアドレスを連絡する。 ⑧特別講義は、外部から各分野のトップランナーを講師として招き行う集中講義であり、特別講義Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの全てを受講することが望ましい。 ヘルスプロモーションサイエンス特別研究 a の単位を取得した者が履修できる。 前期・後期、どちらでも履修可能。 曜日・時限等の詳細は、学生から教員に相談・調整すること。 履修登録は、論文提出を以て事務で一括で行う。(※履修登録期間の自身による履修登録は不要。) | | | | |

博士後期課程・ヘルスプロモーションサイエンス学域

| | | | | | |
|--|--|------|----|-----|-------|
| 授業科目名 | ヘルスプロモーションサイエンス特講Ⅰ | 配当年次 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Health Promotion ScienceⅠ | 前期 | 木曜 | 6限 | U0636 |
| 担当教員 | 北一郎、藤井宣晴、山内潤一郎、眞鍋康子 | | | | |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | <p>①運動の生理・生化学・分子細胞生物学に関する最新のトピックを知る。</p> <p>②運動や環境の刺激に生体がさらされた際の内部環境の適応機構を知ることは、「運動の本質」に迫る重要な手掛かりとなる。本講義では、運動による生体のさまざまな適応変化について、運動分子生物学、神経科学、生理生化学、バイオメカニクス・トレーニング学の立場から研究された最新の研究成果もとに理解する。</p> <p>③講義および最新の論文の輪読。 【授業方法】講義にはパワーポイントを用い、適宜質問を投げかけながらディスカッションする。また、最新の論文について学生自身が調べ発表形式で輪読を行う。</p> <p>④授業中に与えられる課題および文献の内容について調べ、発表準備をする。</p> <p>⑤適宜資料を配布。</p> <p>⑥レポートおよび課題の発表内容により評価する。</p> <p>⑦オフィスアワーは特に設定しませんが、直接質問したい場合は随時受付しますので、事前にメールでアポイントメントをとってください。</p> <p>⑧【関連科目】ヘルスプロモーションサイエンス特別講義Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ。 ヘルスプロモーションサイエンス特別講義Ⅰ・Ⅱ・Ⅲは、外部から各分野のトップランナーを講師として招き行う集中講義であり、特別講義Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの全てを受講することが望ましい。 受講生の人数や社会人学生の在籍状況などを考慮し、定時開講を集中授業に振り替えることもある。</p> | | | | |

| | | | | | |
|--|--|------|----|-----|-------|
| 授業科目名 | ヘルスプロモーションサイエンス特講Ⅱ | 配当年次 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Health Promotion ScienceⅡ | 前期 | 木曜 | 6限 | U0637 |
| 担当教員 | 樋口貴広、西島壮 | | | | |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力 や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | <p>①知覚運動制御、認知と行動の情報処理、行動神経科学の幅広い研究領域における最新の知見に言及しながら、領域横断的・融合的・学際的に応用・実践を視野に入れた運動行動論を展開する。</p> <p>②人間の運動行動における行動的側面とそのメカニズムについて、知覚運動制御、認知と行動の情報処理、行動神経科学の側面から理解し、人間と健康に関する運動行動の諸側面について洞察を深めることができる。 ・社会的関心の高いトピックについて、その背後にある脳の情報処理について考察する能力を身につけることができる。 ・レポート作成作業を通して、論理的思考力や表現力を身につけることができる。</p> <p>③以下の内容で実施する。 1. 知覚運動制御・認知と行動の情報処理(樋口) 2. 行動神経科学(西島) 【授業方法】講義形式で行う。授業毎にレポートを提出してもらう。優れたレポートについては、名前を伏せた形で随時授業内でも紹介し、論理的思考力や表現力を身につけるサポートをする。</p> <p>④授業で扱った内容を復習するとともに、図書館やインターネット等を積極的に活用し、授業内で関心を持った話題のさらなる理解に取り組む。</p> <p>⑤各教員が授業中に指示する。</p> <p>⑥出席情報(30%、但し5回欠席の時点で単位を認めない)、授業内レポート(40%)、授業に対する積極的態(30%)で評価する。 ・レポートについては、内容の理解度に加え、論理的思考や表現ができていないかの観点から評価する。</p> <p>⑦授業時あるいは電子メールに事前に日時を設定したうえで、研究室(樋口:13-107、西島:13-218)にて相談を受ける。</p> <p>⑧【他の授業との関連性】特別講義は、外部から各分野のトップランナーを講師として招き行う集中講義であり、特別講義Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの全てを受講することが望ましい。 受講生の人数や社会人学生の在籍状況などを考慮し、定時開講を集中授業に振り替えることもある。</p> | | | | |

博士後期課程・ヘルスプロモーションサイエンス学域

| | | | | | |
|--|---|------|----|-----|-------|
| 授業科目名 | ヘルスプロモーションサイエンス特講Ⅲ | 配当年次 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| (科目英名) | Health Promotion Science Ⅲ | 前期 | 木曜 | 6限 | U0638 |
| 担当教員 | 篠田 粧子 | | | | |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①ヘルスプロモーションサイエンス領域のうち、栄養および食品科学分野の最新の研究を紹介し、健康の維持・増進および生活習慣病予防におけるその重要性を理解する。 ②栄養素の生体利用性と栄養状態への生体適応、食品の機能性について理解できる。また、生活習慣病を予防することにおける食生活の重要性や公衆栄養領域の取り組みを理解し、その成果について議論できる。 ③1. 食品の機能性と健康増進・生活習慣病予防。 2. 栄養素の消化吸収と、その摂取量や栄養状態に対する生体の応答。 3. 地域での健康増進活動における公衆栄養領域の研究成果。 【授業方法】パワーポイントやプリントを用いて、講義する。授業中のディスカッションを重視する。 ④毎回、講義の内容の理解をすすめるための情報や資料を提示する。復習をしておくこと。 ⑤必要に応じて資料を配布する。参考図書は、講義内で紹介する。 ⑥出席およびレポート、または課題に関する内容の発表により評価する。 ⑦オフィスアワーは特に設定しませんが、直接質問したい場合は随時受付しますので、事前にメールでアポイントメントをとってください。 ⑧【他の授業との関連性】特別講義は、外部から各分野のトップランナーを講師として招き行う集中講義であり、特別講義Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの全てを受講することが望ましい。 | | | | |

| | | | | | |
|--|--|------|------|-------|-----|
| 授業科目名 | ヘルスプロモーションサイエンス特別講義Ⅰ | 配当年次 | 1～3年 | 単位数 | 1単位 |
| (科目英名) | Special Lecture in Health Promotion Science Ⅰ | 前期 | 集中 | U0639 | |
| 担当教員 | 宮崎均(筑波大学大学院生命環境科学研究科) | | | | |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 | ①人は生活の豊かさと共に、食の過剰摂取、運動不足、日常の精神的ストレス等により、生活習慣病という疾病をも手にしてしまった。この対処法として、単に医薬を用いた治療法には限界が来ており、これに代わり新たな食や運動の位置付けが重視されつつある。本講義のテーマは、「食由来機能性成分による健康維持・疾病予防の重要性」である。まず、生活習慣病の社会的背景を講義し理解させると共に、食の機能性、またそれらを用いた健康維持・疾病予防とその作用機序について、分子・細胞・個体レベルの観点から講義を行う。更に、担当教員の上記に関する最近の知見についても随所で紹介する。 ②・食を単なる食欲の対象として捉えるのではなく、健康維持・疾病予防など健康長寿のための重要な日常的要素として認識できる知識・能力を身につける。 ・食の機能性を概念的に理解するだけでなく、身近な具体例を知ることで、より実践的な知識として習得する。 ③【授業計画・内容】講義は以下の項目に分けて行う。 第1回 オリエンテーション 第2回 社会問題としての生活習慣病と食の関係1 第3回 社会問題としての生活習慣病と食の関係2 第4回 社会問題としての生活習慣病と食の関係3 第5回 生活習慣病の発症機序と食の関係1 第6回 生活習慣病の発症機序と食の関係2 第7回 生活習慣病の発症機序と食の関係3 第8回 食の本質的機能1 第9回 食の本質的機能2 第10回 食の本質的機能3 第11回 食由来機能性成分を用いた健康維持・疾病予防の具体例1 第12回 食由来機能性成分を用いた健康維持・疾病予防の具体例2 第13回 食由来機能性成分を用いた健康維持・疾病予防の具体例3 第14回 最終試験 第15回 解説 【授業方法】講義形式で進めるが、随所に双方向の質疑応答の時間を設け、学生が自ら食に対する積極的な考えを持つ姿勢を養う。 ④本授業のキーワードの一つと言える生活習慣病について予め調べる。また、レポート課題への対応を通して自ら学習する。 ⑤授業で用いるパワーポイントの重要な箇所をコピーし配布する。 ⑥●レポート及び授業中の双方向の質疑応答により評価。 ●レポート(50%)、質疑応答(50%) | | | | |

博士後期課程・ヘルスプロモーションサイエンス学域

| | |
|--|---|
| ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ●レポートに関しては、授業で習得したことを元に食機能の重要性に関する自らの意見を重視。質疑応答に関しては、授業への取り組みの姿勢を重視。 ⑦学生からの連絡方法: メールアドレスを第1回ガイダンスで連絡する。 ⑧特別講義は、外部から各分野のトップランナーを講師として招き行う集中講義であり、特別講義Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの全てを受講することが望ましい。 |
|--|---|

| | | | | | |
|--------|---|------|------|-------|-----|
| 授業科目名 | ヘルスプロモーションサイエンス特別講義Ⅱ | 配当年次 | 1～3年 | 単位数 | 1単位 |
| (科目英名) | Special Lecture in Health Promotion Science Ⅱ | 前期 | 集中 | U0640 | |
| 担当教員 | 樋口貴広、中本浩揮(鹿屋体育大学体育学部) | | | | |

| | |
|--|--|
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①アスリートが示す卓越した運動のメカニズムやその獲得過程を理解することは、ヒトの運動の究極の適応状態・過程を理解することである。本講義では、運動をキーワードとするスポーツとリハビリテーションの接点を考慮しつつ、スポーツ分野における長期的な運動習得と短期的な運動学習に関する基礎的知見を概観する。特に、動機づけや能力観といった心理要因が運動の獲得過程に強く影響することを示し、マクロな視点から運動の習得・学習過程を支援することの重要性を考究する。また、身体運動と知覚・認知機能の相互影響に関する神経科学的なエビデンスに基づき、運動指導および介護指導の新たな視座について説明する。 ②運動の習得過程に関わる心理プロセスを学ぶことで、運動指導をマクロな視点から捉える重要性を理解する。また、知覚・認知と身体運動の相互影響を生み出す神経メカニズムについて学び、メカニズムベースの具体的な運動指導方法を理解・考究する。 ③第1回 一流はなぜ一流か? ～Deliberate practice theory～ 第2回 “やる運動学習”と“やらされる運動学習”～自己調整学習の効果～ 第3回 Active learner の育成に向けて～マインドセットと自律性支援～ 第4回 アスリートが心でみる世界～スポーツにおける知覚スキル～ 第5回 “みる”≡“する”～知覚と運動の双方結合～ 第6回 “みる”≡“感じる”～運動指導とオノマトペ～ 第7回 身体と脳の不思議な関係～認知的加齢に及ぼす運動の効果～ 第8回 総括・レポート作成 注意: 授業内容の詳細については進行状況等により変更の可能性がある。 【授業方法】 授業ではパワーポイントや簡易実験装置を用い、適宜、学生とのディスカッションを行いながら進める。 ④授業で扱った内容を復習するとともに、図書館やインターネット等を積極的に活用し、授業内で関心を持った話題のさらなる理解に取り組む。 ⑤授業時に指定する。 ⑥授業内レポート(50%)、授業に対する理解度と積極的態(50%)で評価する。 ・レポートについては、内容の理解度に加え、論理的思考や表現ができてきているかの観点から評価する。 ⑦担当世話人(樋口:higuchi_at_tmu.ac.jp, _at_を@に変更)に質問内容をメールにて送付。後日回答内容を転送する形式をとる。 ⑧【他の授業との関連性】分野共通科目は、特論、演習、特別講義から構成されている。選択必修科目であるが、分野内の科目をできるだけ多く受講することが望ましい。 受講生の人数や社会人学生の在籍状況などを考慮し、定時開講を集中授業に振り替えることがある。 |
|--|--|

| | | | | | |
|--------|---|------|------|-------|-----|
| 授業科目名 | ヘルスプロモーションサイエンス特別講義Ⅲ | 配当年次 | 1～3年 | 単位数 | 1単位 |
| (科目英名) | Special Lecture in Health Promotion Science Ⅲ | 通年 | 集中 | U0641 | |
| 担当教員 | 朝倉富子(東京大学大学院農学生命科学研究科) | | | | |

| | |
|---|--|
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 | ①食事の重要性と健康について、味覚という視点から、最新の研究・開発について解説する。 ②私達は、食事から生命活動に必要なエネルギーや栄養素を摂取している。食品摂取の最も重要な機能は、栄養素摂取であるが、二次機能である嗜好性が、栄養機能や、生理機能の調節に密接に関わっていることが近年明らかになりつつある。原著論文、総説などを読み、この分野の研究を理解することを目指す。 ③(1)味の伝わる仕組み (2)味の制御機構 (3)味覚受容体の発見など 味覚に関わる研究について、上記の内容を含めて解説する。 スライドを用いた講義形式とする。 |
|---|--|

博士後期課程・ヘルスプロモーションサイエンス学域

| | |
|---|---|
| ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ④次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。 ⑤特に定めない。講義時に適宜紹介する。 ⑥平常点(20%)、レポートの提出(80%)を課す。課題は講義時に示す。 ⑦質問等については、メールで受け付けます。担当世話人の篠田(sshinoda@tmu.ac.jp)へ質問等を送って下さい。 ⑧【他の授業との関連性】特別講義は、外部から各分野のトップランナーを講師として招き行う集中講義であり、特別講義Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの全てを受講することが望ましい。 2019年度不開講。 |
|---|---|

| 授業科目名 | ヘルスプロモーションサイエンス演習Ⅰ～Ⅵ | | 配当年次 | 1年 | 単位数 | 1単位 | |
|--|---|--|----------------|----|-----|-----|-------|
| (科目英名) | Seminar in Health Promotion Science Ⅰ～Ⅵ | | I III V | 前期 | 土曜 | 2限 | U0642 |
| | | | II IV VI | | | | 後期 |
| 担当教員 | 各教員 | | | | | | U0646 |
| | | | | | | | U0643 |
| | | | | | | | U0645 |
| | | | | | | | U0647 |
| ①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法 (オフィスアワー) ⑧特記事項 (他の授業科目との関連性) | ①ヘルスプロモーションサイエンスに関する研究を進める上で基礎なる研究方法について学び、博士論文作成のための演習を行う。 ②ヘルスプロモーションサイエンスに必要な研究法の基礎知識、実験計画法、統計解析法、実験手技、データ分析法を修得する。ヘルスプロモーションサイエンス分野の文献検索方法と収集・整理方法を学び、研究課題に関する文献研究を行う。 ③研究室ごとに指導教員を中心として以下の内容についてセミナー形式で実施する。 第1回。ヘルスプロモーションサイエンスの基礎、2. 研究テーマの選択・決定、3. 実験計画法、4. 統計解析法、5. 実験手技の概要、6. データ分析法、7. 文献検索方法とその実践、8. データ収集整理の方法と実践、9. 各自テーマに関連する論文の抄読 第1回 オリエンテーション 第2回 ヘルスプロモーションサイエンスの基礎 第3回 研究テーマの選択・決定 第4回 実験計画法 第5回 統計解析法 第6回 実験手技の概要 第7回 データ分析法 第8回 文献検索方法とその実践 第9回 データ収集整理の方法と実践1 第10回 データ収集整理の方法と実践2 第11回 各自テーマに関連する論文の抄読1 第12回 各自テーマに関連する論文の抄読2 第13回 成果発表1 第14回 成果発表2 第15回 レポートと解説 ④演習形式で行われた授業を通して得た知識を、自らの研究にどのように応用するかについて、深く考える時間を取ること。 ⑤講義内で配布する。 ⑥演習内容への参加度と、議論のアクティビティおよびクオリティで評価。 ⑦初回の演習時に、担当教員のオフィスアワーを確認すること。その際に、連絡用の電子メールアドレスを連絡する。 ⑧ヘルスプロモーションサイエンス演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ | | | | | | |

IV 教員一覽

2019年度 教員一覧 (博士前期課程 看護科学域)

(人間健康科学研究科 人間健康科学専攻 博士前期課程)

| 専任・兼任 の別 | 職名 | フリガナ 氏名 | 担当授業科目名 | 備考 (兼任講師所属) |
|-------------|----|--------------------|---|----------------|
| 専任 | 教授 | アダチクミ 安達 久美子 | 看護科学特別研究 I a, I b 助産学特論 助産学特論実践演習 助産活動論 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 教授 | オイケキコ 織井 優貴子 | 看護科学特別研究 I a, I b 看護研究方法論 I 高齢者看護学特論 高齢者看護学特論実践演習 家族発達看護学特論 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 教授 | カワハラ カコ 河原 加代子 | 看護科学特別研究 I a, I b 課題研究 a, b 在宅看護学特論演習 在宅看護学特論 在宅看護実践論 在宅看護学実践演習 I 在宅看護学実践演習 II 地域ケアシステム看護論 家族発達看護学特論 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 教授 | サイウ エミコ 斉藤 恵美子 | 看護科学特別研究 I a, I b 看護研究方法論 I 公衆衛生看護学特論 公衆衛生看護管理論 公衆衛生看護学特論演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 教授 | シュウダ アキヒロ 習田 明裕 | 看護科学特別研究 I a, I b 看護研究方法論 II 看護倫理学特論 看護倫理学特論演習 I 看護倫理学特論演習 II 看護倫理学特論演習 III 看護管理学特論 看護管理学特論演習 I 看護管理学特論演習 II 看護管理学特論演習 III | 健康福祉学部 |
| 専任 | 教授 | ニシムラ エミ 西村 ユミ | 看護科学特別研究 I a, I b 看護理論 成人看護学特論 成人看護学特論演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 教授 | ヤマムラ モトエ 山村 礎 | 休職中 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 教授 | ヤマモト ミチヨ 山本 美智代 | 看護科学特別研究 I a, I b 課題研究 a, b 看護研究方法論 II 小児看護保健行動科学 I 小児看護保健行動科学 II 小児看護保健行動科学 III 小児看護対象論 小児看護援助論 I 小児看護援助論 II 小児看護保健行動科学実践演習 | 健康福祉学部 |

(人間健康科学研究科 人間健康科学専攻 博士前期課程)

| 専任・兼任 の別 | 職名 | フリガナ 氏名 | 担当授業科目名 | 備考 (兼任講師所属) |
|-------------|------|-------------------|--|----------------|
| 専任 | 特任教授 | タケイ アサコ 武井 麻子 | 看護科学特別研究 I a, I b コンサルテーション論 地域精神看護学特論 地域精神看護学特論演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 准教授 | イツカ ヒロコ 飯塚 哲子 | 成人看護学特論 成人看護学特論演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 准教授 | イシカワ ヨウコ 石川 陽子 | 看護科学特別研究 I a, I b 保健医療管理学特論 国際看護活動論 在宅看護実践論 看護法制度論 看護管理学特論 看護管理学特論演習 I 看護管理学特論演習 II 看護管理学特論演習 III 国際看護/医療人類学特論演習 I 国際看護/医療人類学特論演習 II | 健康福祉学部 |
| 専任 | 准教授 | オカモト ユウコ 岡本 有子 | 看護科学特別研究 I a, I b 課題研究 a, b 在宅看護学特論 在宅看護実践論 在宅看護学実践演習 I 在宅看護学実践演習 II 在宅看護学特論演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 准教授 | キムラ チサト 木村 千里 | 看護科学特別研究 I a, I b リプロダクティブヘルス看護学特論 リプロダクティブヘルス看護学特論演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 准教授 | シマダ メグミ 島田 恵 | 看護科学特別研究 I a, I b 課題研究 a, b 家族発達看護学特論 在宅看護学特論演習 在宅看護学特論 地域ケアシステム看護論 在宅看護学実践演習 I 在宅看護学実践演習 II | 健康福祉学部 |
| 専任 | 准教授 | ソハベ マミ 園部 真美 | 看護科学特別研究 I a, I b リプロダクティブヘルス看護学特論 リプロダクティブヘルス看護学特論演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 准教授 | タネヨシ ケイコ 種吉 啓子 | 看護科学特別研究 I a, I b 課題研究 a, b 小児看護保健行動科学 I 小児看護保健行動科学 II 小児看護保健行動科学 III 小児看護対象論 小児看護援助論 I 小児看護援助論 II 小児看護保健行動科学実践演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 准教授 | ノムラ アユミ 野村 亜由美 | 看護科学特別研究 I a, I b 国際看護活動論 国際看護/医療人類学特論 国際看護/医療人類学特論演習 I 国際看護/医療人類学特論演習 II 国際看護/医療人類学特論演習 III | 健康福祉学部 |

(人間健康科学研究科 人間健康科学専攻 博士前期課程)

| 専任・兼任 の別 | 職名 | フリガナ 氏名 | 担当授業科目名 | 備考 (兼任講師所属) |
|-------------|-----|-------------------|--|----------------|
| 専任 | 准教授 | ヒシヌマ ユリ 菱沼 由梨 | 看護科学特別研究 I a, I b 助産学特論 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 准教授 | ヒロカワ セイコ 廣川 聖子 | 看護科学特別研究 I a, I b 地域精神看護学特論 地域精神看護学特論実践演習 在宅看護実践論 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 准教授 | フクイ サトミ 福井 里美 | 看護科学特別研究 I a, I b コンサルテーション論 成人看護学特論 成人看護学特論演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 准教授 | マシヤ ジュンコ 増谷 順子 | 看護科学特別研究 I a, I b 看護研究方法論 I 高齢者看護学特論実践演習 | 健康福祉学部 |

2019年度 教員一覧（博士前期課程 理学療法科学域）

（人間健康科学研究科 人間健康科学専攻 博士前期課程）

| 専任・兼任 の別 | 職名 | フリガナ 氏名 | 担当授業科目名 | 備考 (兼任講師所属) |
|-------------|-----|--------------------|--|----------------|
| 専任 | 教授 | アサカ ヤスヨシ 浅川 康吉 | 理学療法科学特別研究a,b 理学療法管理学特論 地域理学療法学特論 地域理学療法学特論演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 教授 | アミモト カズ 網本 和 | 理学療法科学特別研究a,b 神経系障害理学療法学特論 神経系障害理学療法学特論演習 脳機能障害作業療法科特論演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 教授 | イケダ エミ 池田 由美 | 理学療法科学特別研究a,b 認知運動科学理学療法学特論 認知運動科学理学療法学特論演習 行動科学・慢性疼痛特論 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 教授 | タケイ ヒトシ 竹井 仁 | | 健康福祉学部 |
| 専任 | 教授 | ニッタ オサム 新田 収 | 理学療法科学特別研究a,b 理学療法学研究法特論 発達障害理学療法学特論 発達障害理学療法学特論演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 教授 | ヤマダ タクミ 山田 拓実 | 理学療法科学特別研究a,b 障害予防理学療法学特論 障害予防理学療法学特論演習 神経筋骨格系医学評価特論 クリニカルリーズニング特論 徒手理学療法特論-1,2 徒手理学療法特論演習-1,3,4 統合徒手理学療法演習-2 臨床実習 I, II | 健康福祉学部 |
| 専任 | 教授 | イツム 易 勤 | 解剖学・生理学特論 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 教授 | ワタナベ マサル 渡邊 賢 | 解剖学・生理学特論 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 准教授 | ウサ ヒデユキ 宇佐 英幸 | 理学療法科学特別研究a,b 徒手理学療法特論演習-1,3,4,5 高度徒手理学療法特論演習-1 統合徒手理学療法演習-1~2 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 准教授 | フルカワ ヨリミツ 古川 順光 | 理学療法科学特別研究a,b 内部障害理学療法学特論 内部障害理学療法学特論演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 准教授 | クルマ ヒロノブ 来間 弘展 | 理学療法科学特別研究a,b 筋骨格系理学療法学特論 筋骨格系理学療法学特論演習 徒手理学療法特論-2 徒手理学療法特論演習-2 高度徒手理学療法特論演習-1,2 | 健康福祉学部 |

(人間健康科学研究科 人間健康科学専攻 博士前期課程)

| 専任・兼任 の別 | 職名 | フリガナ 氏名 | 担当授業科目名 | 備考 (兼任講師所属) |
|-------------|-------|-------------------------------|---|--|
| 専任 | 准教授 | シダ ナミ 信太 奈美 | 理学療法科学特別研究a,b 筋骨格系理学療法学特論 筋骨格系理学療法学特論演習 高度徒手理学療法特論演習-1 | 健康福祉学部 |
| 兼任 | 特任准教授 | ヤマウチ マサオ 山内 正雄 | 神経筋骨格系医学評価特論 クリニカルリーゼニング特論 徒手理学療法特論-1 高度徒手理学療法特論 徒手理学療法特論演習-1,4,5 高度徒手理学療法特論演習-2 統合徒手理学療法演習-1~2 | 人間健康科学研究科 |
| 兼任 | 名誉教授 | イケダ マコト 池田 誠 | 理学療法管理学特論 | 首都大学東京 |
| 兼任 | 客員教授 | イトウ マサアキ 伊藤 正明 | 解剖学・生理学特論 | 帝京平成大学大学院 健康科学研究科 帝京大学 整形外科 |
| 兼任 | 客員教授 | オサダ ヒサオ 長田 久雄 | 行動科学・慢性疼痛特論 | 桜美林大学大学院 老年学研究科老年学専攻 |
| 兼任 | 客員教授 | スズキ マサト 鈴木 政登 | 障害予防理学療法学特論 障害予防理学療法学特論演習 | 東京慈恵会医科大学 |
| 兼任 | 客員教授 | モリオカ シュウ 森岡 周 | 認知運動科学理学療法学特論演習 行動科学・慢性疼痛特論 | 畿央大学健康科学研究科 |
| 兼任 | 客員教授 | ムラキ タカユキ 村木 孝行 | 筋骨格系理学療法学特論 高度徒手理学療法特論演習-1 | 東北大学病院リハビリテーション部 |
| 兼任 | 客員准教授 | アイサワ ジュンヤ 相澤 純也 | 筋骨格系理学療法学特論 筋骨格系理学療法学特論演習 高度徒手理学療法特論演習-1 | 東京医科歯科大学医学部附属病院ス ポーツ医学診療センター アスレティッ クリハビリテーション部門 |
| 兼任 | 客員准教授 | エンドウ マサル 遠藤 優 | 解剖学・生理学特論 | 西小岩歯科クリニック |
| 兼任 | 客員准教授 | オオイシ アツシ 大石 敦史 | クリニカルリーゼニング特論 徒手理学療法特論演習-5 | 船橋整形外科病院 理学診療部 |
| 兼任 | 客員准教授 | ツシマ エイキ 對馬 栄輝 | 高度徒手理学療法特論 | 弘前大学 医学部 保健学科 理学療法学専攻 |
| 兼任 | 客員准教授 | クレア シー フランク Clare C. Frank | 筋骨格系理学療法学特論演習 徒手理学療法特論-2 | Azusa Pacific University |
| 兼任 | 講師 | コジマ ハジメ 小島 肇 | 障害予防理学療法学特論 障害予防理学療法学特論演習 | 社会医学技術学院 |
| 兼任 | 講師 | タカクラ ヤスユキ 高倉 保幸 | 理学療法学研究法特論 | 埼玉医科大学 保健医療学部 |
| 兼任 | 講師 | マツダ タダミツ 松田 雅弘 | 発達障害理学療法学特論 | 順天堂大学 保健医療学部 |
| 兼任 | 客員教授 | スキモト カズタカ 杉本 和隆 | 障害予防理学療法学特論 | 苑田会人工関節センター病院 病院長 |

2019年度 教員一覧（博士前期課程 作業療法科学域）

（人間健康科学研究科 人間健康科学専攻 博士前期課程）

| 専任・兼任 の別 | 職名 | フリガナ 氏名 | 担当授業科目名 | 備考 (兼任講師所属) |
|-------------|-----|--------------------------|--|----------------|
| 専任 | 教授 | イイヨシカズ 石井 良和 | 作業療法科学特別研究a,b 作業行動科学特論 作業行動学特論 作業行動学特論演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 教授 | オシマノブオ 大嶋 伸雄 | 作業療法科学特別研究a,b 心身機能作業療法科学特論 認知作業療法学特論 認知作業療法学特論演習 臨床医療福祉連携システム特論 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 教授 | コバヤシノリカズ 小林 法一 | 作業療法科学特別研究a,b 作業療法学研究法特論 作業療法学研究法特論演習 老年地域参加支援学特論 老年地域参加支援学特論演習 作業行動科学特論 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 教授 | コバヤシリュウジ 小林 隆司 | 作業療法科学特別研究a,b 医療教育特論Ⅱ 作業生活環境科学特論 作業生活支援学特論 作業生活支援学特論演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 教授 | シオジリエコ 塩路 理恵子 | 作業療法科学特別研究a,b 心身機能作業療法科学特論 精神神経機能障害学特論 精神神経機能障害学特論演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 教授 | ボンジェペーター Bontje Peter | 作業療法科学特別研究a,b 作業行動科学特論 Advanced Occupational Therapy 作業科学特論 作業科学特論演習 臨床医療福祉連携システム特論 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 准教授 | ハシトミメ 橋本 美芽 | 作業療法科学特別研究a,b 生活環境分析学特論 生活環境分析学特論演習 作業生活環境科学特論 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 准教授 | イムタヒロミ 蘭牟田 洋美 | 作業療法科学特別研究a,b 老年心理行動分析学特論 老年心理行動分析学特論演習 心身機能作業療法科学特論 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 准教授 | イノウエカオル 井上 薫 | 作業療法科学特別研究a,b 医療教育特論Ⅰ 福祉機器関連適用学特論 福祉機器関連適用学特論演習 作業生活環境科学特論 福祉用具適応技術特論a,b,c,d | 健康福祉学部 |
| 専任 | 准教授 | イトウユウコ 伊藤 祐子 | 作業療法科学特別研究a,b 医療教育特論Ⅰ 児童青年発達期作業療法学特論 児童青年発達期作業療法学特論演習 心身機能作業療法科学特論 | 健康福祉学部 |

(人間健康科学研究科 人間健康科学専攻 博士前期課程)

| 専任・兼任 の別 | 職名 | フリガナ 氏名 | 担当授業科目名 | 備考 (兼任講師所属) |
|-------------|-----|---------------------|---|-------------------------|
| 専任 | 准教授 | タニムラ アツコ 谷村 厚子 | 作業療法科学特別研究a,b 医療教育特論 I 精神作業療法学特論 精神作業療法学特論演習 作業行動科学特論 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 准教授 | ミヤモト レイコ 宮本 礼子 | 作業療法科学特別研究a,b 脳機能障害支援学特論 脳機能障害支援学特論演習 心身機能作業療法科学特論 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 准教授 | イシバシ ユウ 石橋 裕 | 作業療法科学特別研究a,b 健康増進作業療法学特論 健康増進作業療法学特論演習 作業生活環境科学特論 | 健康福祉学部 |
| 兼任 | 准教授 | スヤマ ナツカ 須山夏加 | 医療福祉制度概論 医療福祉制度概論演習 | 人間健康科学研究科 |
| 兼任 | 講師 | アイダ タミ 曾田 玉美 | 作業行動科学特論 | 目白大学大学院 リハビリテーション研究科 |
| 兼任 | 講師 | ヤトウゴ タケシ 八頭後 猛 | 生活環境分析学特論演習 | 日本大学 理工学部 |
| 兼任 | 講師 | アサハ エリック 浅羽 エリック | Advanced Occupational Therapy | Karolinska Institutet |

2019年度 教員一覧 (博士前期課程 放射線科学域)

(人間健康科学研究科 人間健康科学専攻 博士前期課程)

| 専任・兼任 の別 | 職名 | フリガナ 氏名 | 担当授業科目名 | 備考 (兼任講師所属) |
|-------------|-----|---------------------|--|----------------|
| 専任 | 教授 | オグライミ 小倉 泉 | 放射線科学特別研究a 放射線科学特別研究b 放射線科学特論 医用計測システム学特論 医用計測システム学特論演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 教授 | カウヨウ 加藤 洋 | 放射線科学特別研究a 放射線科学特別研究b 放射線科学特論 放射線計測学特論 放射線計測学特論演習 放射線医学物理学特論 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 教授 | サイウ ヒデトシ 齋藤 秀敏 | 放射線科学特別研究a 放射線科学特別研究b 放射線科学特論 放射線科学臨床実習 放射線治療物理学特論 I 放射線治療物理学特論演習 放射線治療物理学特論 II 計算放射線物理学 先端放射線治療物理特論 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 教授 | シラカワ タカ 白川 崇子 | 放射線科学特別研究a 放射線科学特別研究b 放射線科学特論 医用画像診断学特論 医用画像診断学特論演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 教授 | セノオ アツシ 妹尾 淳史 | 放射線科学特別研究a 放射線科学特別研究b 放射線科学特論 画像診断システム学特論 画像診断システム学特論演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 教授 | フクシ マサヒロ 福士 政広 | 放射線科学特別研究a 放射線科学特別研究b 放射線科学特論 放射線科学臨床実習 核医学物理学・保健物理学特論 核医学物理学・保健物理学特論演習 がん医療のコミュニケーション論 放射線防護特論 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 教授 | フルカワ アキラ 古川 顕 | 放射線科学特別研究a 放射線科学特別研究b 放射線科学特論 医用画像診断学特論 医用画像診断学特論演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 准教授 | イノウエ カズマサ 井上 一雅 | 放射線科学特別研究a 放射線科学特別研究b 放射線科学特論 核医学物理学・保健物理学特論 核医学物理学・保健物理学特論演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 准教授 | シンショウ キヨミツ 眞正 浄光 | 放射線科学特別研究a 放射線科学特別研究b 放射線科学特論 医用計測システム学特論 医用計測システム学特論演習 | 健康福祉学部 |

(人間健康科学研究科 人間健康科学専攻 博士前期課程)

| 専任・兼任 の別 | 職名 | フリガナ 氏名 | 担当授業科目名 | 備考 (兼任講師所属) |
|-------------|------|-----------------------|--|-------------------------------------|
| 専任 | 准教授 | セキネ ノオ 関根 紀夫 | 放射線科学特別研究a 放射線科学特別研究b 放射線科学特論 医用画像情報学特論 医用画像情報学特論演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 准教授 | ニウイ ヨシユキ 乳井 嘉之 | 放射線科学特別研究a 放射線科学特別研究b 放射線科学特論 医用画像情報学特論 医用画像情報学特論演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 准教授 | スマノトモカス 沼野 智一 | 放射線科学特別研究a 放射線科学特別研究b 放射線科学特論 放射線科学臨床実習 放射線診断物理学特論 放射線診断物理学特論演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 准教授 | ネギシ トオル 根岸 徹 | 放射線科学特別研究a 放射線科学特別研究b 放射線科学特論 画像診断システム学特論 画像診断システム学特論演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 准教授 | ミウジ ヨウヤマ アツシ 明上山 温 | 放射線科学特別研究a 放射線科学特別研究b 放射線科学特論 放射線治療物理学特論演習 計算放射線物理学 放射線治療物理学特論Ⅱ | 健康福祉学部 |
| 兼任 | 名誉教授 | フクダ ケンイチ 福田 賢一 | 放射線治療物理学Ⅱ 医療統計学特論 | 前首都大学東京 |
| 兼任 | 講師 | アベ シンジ 安部 真治 | 画像診断システム学特論 画像診断システム学特論演習 | 前首都大学東京 |
| 兼任 | 講師 | アベ シンジ 阿部 慎司 | 医用画像情報学特論 力学特論 電磁気学特論 | 茨城県立医療大学 保健医療学部 |
| 兼任 | 講師 | アボ マサヒロ 安保 雅博 | 画像診断システム学特論 画像診断システム学特論演習 | 東京慈恵会医科大学 リハビリテーション医学講座 |
| 兼任 | 講師 | イシ ケンジ 石井 賢二 | ポジトロン科学特論 | 東京都健康長寿医療センター研 究所附属診療所 |
| 兼任 | 講師 | イシカワ テツオ 石川 徹夫 | 放射線影響科学特論 | 福島県立医科大学医学部 |
| 兼任 | 講師 | イマオカ タツヒコ 今岡 達彦 | 放射線影響科学特論 | 国立研究開発法人量子科学技術研究開発 機構 放射線医学総合研究所 |
| 兼任 | 講師 | イワセ ヒロシ 岩瀬 広 | 計算放射線物理学 | 高エネルギー加速器研究機構 |
| 兼任 | 講師 | オオタニ ヒロキ 大谷 浩樹 | 放射線計測学特論 放射線計測学特論演習 | 帝京大学 |

(人間健康科学研究科 人間健康科学専攻 博士前期課程)

| 専任・兼任 の別 | 職名 | フリガナ 氏名 | 担当授業科目名 | 備考 (兼任講師所属) |
|-------------|------|-----------------------------------|------------------------------------|-------------------------------------|
| 兼任 | 講師 | カワサリ カツユキ 唐澤 克之 | 放射線治療物理学特論 I 放射線治療技術学特論演習 | 東京都立駒込病院 放射線診療科 |
| 兼任 | 講師 | カワチトオル 河内 徹 | 放射線治療物理学特論演習 | 千葉県がんセンター 放射線治療部物理室 |
| 兼任 | 講師 | コジマトオル 小島 徹 | 放射線治療物理学特論演習 | 埼玉県立がんセンター 放射線治療科 |
| 兼任 | 講師 | コタマタカシ 小玉 卓史 | 放射線治療物理学特論演習 | 東京ベイ先端医療・ 幕張クリニック |
| 兼任 | 講師 | コハヤシトモヤ 小林 智哉 | 放射線診断物理学特論 | 筑波メディカルセンター病院 |
| 兼任 | 講師 | コバユウスケ 古場 祐介 | 放射線影響科学特論 | 国立研究開発法人量子科学技術研究開発 機構 放射線医学総合研究所 |
| 兼任 | 講師 | サカナムネコキ 坂田 宗之 | ポジトロン科学特論 | 東京都健康長寿医療センター 神経画像研究チーム |
| 兼任 | 講師 | サラタクマール サフー Sarata Kumar Sahoo | 放射線影響科学特論 | 国立研究開発法人量子科学技術研究開発 機構 放射線医学総合研究所 |
| 兼任 | 講師 | シマダヨシヤ 島田 義也 | 放射線影響科学特論 | 国立研究開発法人量子科学 技術研究開発機構 |
| 兼任 | 講師 | セキモトミチハル 関本道治 | 放射線医学物理学特論 | 筑波大学医学医療系 |
| 兼任 | 講師 | ダイイサキヒロシツ 大崎 洋光 | ポジトロン科学特論 | 日本メジフィジックス |
| 兼任 | 講師 | タカバタケマサル 高島 賢 | 放射線影響科学特論 | 国立研究開発法人量子科学技術研究開発 機構 放射線医学総合研究所 |
| 兼任 | 講師 | トオヤマナオキ 遠山 尚紀 | 放射線治療物理学特論演習 | 東京ベイ先端医療・ 幕張クリニック |
| 兼任 | 講師 | トコナミシンジ 床次 眞司 | 放射線影響科学特論 | 弘前大学被ばく医療 総合研究所 |
| 兼任 | 講師 | トヨハラジュン 豊原 潤 | ポジトロン科学特論 | 東京都健康長寿医療センター 神経画像研究チーム |
| 兼任 | 講師 | ナトヨシヒト 波戸 芳仁 | 計算放射線物理学 | 高エネルギー加速器研究機構 放射線科学センター |
| 兼任 | 講師 | ハセカワスミタカ 長谷川 純崇 | 核医学物理学・保健物理学特論 | 国立研究開発法人量子科学技術研究開発 機構 放射線医学総合研究所 |
| 兼任 | 講師 | フクキタヒロシ 福喜多 博義 | 核医学物理学・保健物理学特論 核医学物理学・保健物理学特論演習 | 前・国際医療福祉大学 |
| 兼任 | 講師 | フクムラアキフミ 福村 明史 | 放射線治療物理学特論 II | 国立研究開発法人量子科学技術 研究開発機構 経営企画部 |
| 兼任 | 名誉教授 | ヤギカズオ 八木 一夫 | 放射線診断物理学特論 | 前首都大学東京 |
| 兼任 | 講師 | ヨシナガノブハル 吉永 信治 | 放射線影響科学特論 | 国立研究開発法人量子科学技術研究開発 機構 放射線医学総合研究所 |

2019年度 教員一覧(博士前期課程 フロンティアヘルスサイエンス学域)

(人間健康科学研究科 人間健康科学専攻 博士前期課程)

| 専任・兼任 の別 | 職名 | フリガナ 氏名 | 担当授業科目名 | 備考 (兼任講師所属) |
|-------------|-----|--------------------------------|---|------------------------------------|
| 専任 | 教授 | キクチ ヨシアキ 菊池 吉晃 | フロンティアヘルスサイエンス特別研究a,b 認知神経科学特論 認知神経科学特論演習Ⅰ、Ⅱ 脳機能画像解析科学特論 フロンティアヘルスサイエンス特論演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 教授 | ワタナベ マサル 渡辺 賢 | フロンティアヘルスサイエンス特別研究a,b 生体運動学特論Ⅰ、Ⅱ 生体運動学特論演習Ⅰ、Ⅱ フロンティアヘルスサイエンス特論演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 教授 | イツム 易 勤 | フロンティアヘルスサイエンス特別研究a,b 機能形態学特論Ⅰ、Ⅱ 機能形態学特論演習Ⅰ、Ⅱ フロンティアヘルスサイエンス特論演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 教授 | ネコダ ヤストシ 猫田 泰敏 | フロンティアヘルスサイエンス特別研究a,b 地域保健活動評価論特論 保健情報管理論 地域保健活動評価論特論演習Ⅰ、Ⅱ フロンティアヘルスサイエンス特論演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 准教授 | セノ オアツシ 妹尾 淳史 | 脳機能画像解析科学特論 | 放射線科学域専任 健康福祉学部 |
| 兼任 | 講師 | オカド ハルオ 岡戸 晴生 | 認知神経科学特論 | 東京都医学総合研究所 副参事研究員 首都大学東京客員教授 |
| 兼任 | 講師 | カケヒ シンジ 寛 慎治 | 認知神経科学特論 | 東京都医学総合研究所 副参事研究員 首都大学東京客員教授 |
| 兼任 | 講師 | ジェームズ ホールトウイン James Baldwin | 医科学英語プレゼンテーションスキルⅠ、Ⅱ | |
| 兼任 | 講師 | ツキモト ヒロシ 月本 洋 | 脳機能画像解析科学特論 | 東京電機大学工学部教授 首都大学東京客員教授 |
| 兼任 | 講師 | ノウチ マドカ 則内 まどか | 認知神経科学特論 認知神経科学特論演習Ⅰ、Ⅱ 脳機能画像解析科学特論 | 首都大学東京客員教授 |
| 兼任 | 講師 | ハシモト マコト 橋本 款 | 認知神経科学特論 | 東京都医学総合研究所 副参事研究員 首都大学東京客員教授 |
| 兼任 | 講師 | モトムラ ユウキ 元村 祐貴 | 脳機能画像解析科学特論 | 九州大学大学院 芸術工学研究院助教 |
| 兼任 | 講師 | リ ショウコウ 李 小康 | 機能形態学特論Ⅱ 機能形態学特論演習Ⅱ | 国立成育医療研究センター |
| 兼任 | 講師 | イトウ マサアキ 伊藤 正明 | 機能形態学特論Ⅱ 機能形態学特論演習Ⅱ | 帝京大学 帝京平成大学 |
| 兼任 | 講師 | モテギ ノブオ 茂木 伸夫 | 生体運動学特論Ⅱ | 前職:駒込病院歯科口腔外科部長 |
| 兼任 | 講師 | キムラ ナオフミ 木村 直史 | 生体運動学特論Ⅱ | 東京慈恵会医科大学医学部教授 |
| 兼任 | 講師 | エトウ マスミ 江藤 真澄 | 生体運動学特論Ⅱ | 岡山理科大学獣医学部教授 |

(人間健康科学研究科 人間健康科学専攻 博士前期課程)

| 専任・兼任 の別 | 職名 | フリガナ 氏名 | 担当授業科目名 | 備考 (兼任講師所属) |
|-------------|----|------------------|----------|----------------|
| 兼任 | 講師 | イウ マサヒロ 伊藤 正裕 | 機能形態学特論Ⅱ | 東京医科大学教授 |

2019年度 教員一覧 (博士前期課程 ヘルスポモーションサイエンス学域)

(人間健康科学研究科 人間健康科学専攻 博士前期課程)

| 専任・兼任 の別 | 職名 | フリガナ 氏 名 | 担当授業科目名 | 備 考 (兼任講師所属) |
|-------------|-----|------------------------|---|-----------------|
| 専任 | 教授 | キタイチロウ 北 一郎 | ヘルスポモーションサイエンス特別研究a,b ヘルスポモーションサイエンス研究法Ⅰ ヘルスポモーションサイエンス研究法Ⅱ ヘルスポモーションサイエンス実験・調査Ⅰ ヘルスポモーションサイエンス実験・調査Ⅱ 行動生理学特論 神経科学特論 適応科学演習Ⅰ 適応科学演習Ⅱ 適応科学演習Ⅲ 適応科学演習Ⅳ 分野横断プログラム生体工学インターンシップ | 大学教育センター |
| 専任 | 教授 | フジイ ノブハル 藤井 宣晴 | ヘルスポモーションサイエンス特別研究a,b ヘルスポモーションサイエンス研究法Ⅰ ヘルスポモーションサイエンス研究法Ⅱ ヘルスポモーションサイエンス実験・調査Ⅰ ヘルスポモーションサイエンス実験・調査Ⅱ 運動分子生物学特論 適応科学演習Ⅰ 適応科学演習Ⅱ 適応科学演習Ⅲ 適応科学演習Ⅳ 分野横断プログラム生体工学ゼミナール 分野横断プログラム生体工学インターンシップ | 大学教育センター |
| 専任 | 教授 | シノダ ショウコ 篠田 粧子 | ヘルスポモーションサイエンス特別研究a,b ヘルスポモーションサイエンス研究法Ⅰ ヘルスポモーションサイエンス研究法Ⅱ ヘルスポモーションサイエンス実験・調査Ⅰ ヘルスポモーションサイエンス実験・調査Ⅱ 栄養生化学特論 栄養・食品科学演習Ⅰ 栄養・食品科学演習Ⅱ 栄養・食品科学演習Ⅲ 栄養・食品科学演習Ⅳ | オープンユニバーシティ |
| 専任 | 教授 | ヒグチ タカヒロ 樋口 貴広 | ヘルスポモーションサイエンス特別研究a,b ヘルスポモーションサイエンス研究法Ⅰ ヘルスポモーションサイエンス研究法Ⅱ ヘルスポモーションサイエンス実験・調査Ⅰ ヘルスポモーションサイエンス実験・調査Ⅱ 認知行動学特論 行動科学演習Ⅰ 行動科学演習Ⅱ 行動科学演習Ⅲ 行動科学演習Ⅳ 分野横断プログラム生体工学インターンシップ | 大学教育センター |
| 専任 | 准教授 | ヤマウチ ジュンイチロウ 山内 潤一郎 | ヘルスポモーションサイエンス特別研究a,b ヘルスポモーションサイエンス研究法Ⅰ ヘルスポモーションサイエンス研究法Ⅱ ヘルスポモーションサイエンス実験・調査Ⅰ ヘルスポモーションサイエンス実験・調査Ⅱ 身体運動学特論 適応科学演習Ⅰ 適応科学演習Ⅱ 適応科学演習Ⅲ 適応科学演習Ⅳ | 大学教育センター |

(人間健康科学研究科 人間健康科学専攻 博士前期課程)

| 専任・兼任 の別 | 職名 | フリガナ 氏名 | 担当授業科目名 | 備考 (兼任講師所属) |
|-------------|-----|--------------------|--|-----------------------|
| 専任 | 准教授 | マナヘ ヤスコ 眞鍋 康子 | ヘルスプロモーションサイエンス特別研究a,b ヘルスプロモーションサイエンス研究法Ⅰ ヘルスプロモーションサイエンス研究法Ⅱ ヘルスプロモーションサイエンス実験・調査Ⅰ ヘルスプロモーションサイエンス実験・調査Ⅱ 細胞生物学特論 適応科学演習Ⅰ 適応科学演習Ⅱ 適応科学演習Ⅲ 適応科学演習Ⅳ 分野横断プログラム生理学工ゼミナール 分野横断プログラム生理学工インターンシップ | 大学教育センター |
| 専任 | 准教授 | ニシジマ タケシ 西島 壮 | ヘルスプロモーションサイエンス特別研究a,b ヘルスプロモーションサイエンス研究法Ⅰ ヘルスプロモーションサイエンス研究法Ⅱ ヘルスプロモーションサイエンス実験・調査Ⅰ ヘルスプロモーションサイエンス実験・調査Ⅱ スポーツ神経科学特論 行動科学演習Ⅰ 行動科学演習Ⅱ 行動科学演習Ⅲ 行動科学演習Ⅳ 分野横断プログラム生理学工インターンシップ | 大学教育センター |
| 兼任 | 講師 | ナカザワ キミタカ 中澤 公孝 | 行動科学特別講義 | 東京大学大学院 総合文化研究科 教授 |
| 兼任 | 講師 | タカセ ケンキチ 高瀬 堅吉 | 行動科学特別講義 | 自治医科大学 医学研究科 教授 |
| 兼任 | 講師 | フケ ヨウコ 福家 洋子 | 食品生物活性特論 | 首都大学東京 名誉教授 |
| 兼任 | 講師 | ミチカワ ユウイチ 道川 祐市 | 適応科学特別講義 | 内閣府 室長補佐 |
| 兼任 | 講師 | ミウラ シンジ 三浦 進司 | 運動生理学特論 | 静岡県立大学 食品栄養科学部 教授 |

2019年度 教員一覧 (博士後期課程 看護科学域)

(人間健康科学研究科 人間健康科学専攻 博士後期課程)

| 専任・兼任 の別 | 職名 | フリガナ 氏名 | 担当授業科目名 | 備考 (兼任講師所属) |
|-------------|------|--------------------|---|----------------|
| 専任 | 教授 | アダチ クミ 安達 久美子 | 看護科学特別研究Ⅱa,Ⅱb 看護研究方法論Ⅲ 助産学特講 助産学特講演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 教授 | オリユキコ 織井 優貴子 | 看護科学特別研究Ⅱa,Ⅱb 高齢者看護学特講 高齢者看護学特講演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 教授 | カワハラ カヨコ 河原 加代子 | 看護科学特別研究Ⅱa,Ⅱb 看護研究方法論Ⅲ 地域・在宅看護学特講 地域・在宅看護学特講演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 教授 | サイトウ エミコ 斉藤 恵美子 | 看護科学特別研究Ⅱa,Ⅱb 公衆衛生看護学特講 公衆衛生看護学特講演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 教授 | シュウダ アキヒロ 習田 明裕 | 看護科学特別研究Ⅱa,Ⅱb 看護倫理・管理学特講 看護倫理・管理学特講演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 教授 | ニシムラ ユミ 西村 ユミ | 看護科学特別研究Ⅱa,Ⅱb 看護研究方法論Ⅲ 看護哲学Ⅰ 看護哲学Ⅱ 成人看護学特講 成人看護学特講演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 教授 | ヤマムラ モトエ 山村 礎 | 休職中 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 教授 | ヤマモト ミチヨ 山本 美智代 | 看護科学特別研究Ⅱa,Ⅱb 小児看護学特講 小児看護学特講演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 特任教授 | タケイ アサコ 武井 麻子 | 看護科学特別研究Ⅱa,Ⅱb 地域精神看護学特講 地域精神看護学特講演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 准教授 | タネヨシ ケイコ 種吉 啓子 | 小児看護学特講 小児看護学特講演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 准教授 | ヒロカワ セイコ 廣川 聖子 | 地域精神看護学特講 地域精神看護学特講演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 准教授 | フクイ サトミ 福井 里美 | 成人看護学特講 成人看護学特講演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 准教授 | シマダ メグミ 島田 恵 | 地域・在宅看護学特講演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 准教授 | マサヤ ジュンコ 増谷 順子 | 高齢者看護学特講演習 | 健康福祉学部 |

2019年度 教員一覧 (博士後期課程 理学療法科学域)

(人間健康科学研究科 人間健康科学専攻 博士後期課程)

| 専任・兼任 の別 | 職名 | フリガナ 氏名 | 担当授業科目名 | 備考 (兼任講師所属) |
|-------------|------|--------------------|---|----------------|
| 専任 | 教授 | アサカワ ヤスヨシ 浅川 康吉 | 理学療法科学特別研究a,b 地域理学療法学特講 地域理学療法学特講演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 教授 | アミト カズ 網本 和 | 理学療法科学特別研究a,b 神経系障害理学療法学特講 神経系障害理学療法学特講演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 教授 | アライ ミツオ 新井 光男 | 理学療法科学特別研究a,b 固有受容性神経筋促通学特講 固有受容性神経筋促通学特講演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 教授 | タケイ ヒトシ 竹井 仁 | 理学療法科学特別研究a,b 徒手理学療法学特講 徒手理学療法学特講演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 教授 | ニッタ オサム 新田 収 | 理学療法科学特別研究a,b 発達障害理学療法学特講 発達障害理学療法学特講演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 教授 | ヤマダ タカ 山田 拓実 | 理学療法科学特別研究a,b 障害予防理学療法学特講 障害予防理学療法学特講演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 准教授 | イケダ ユミ 池田 由美 | 理学療法科学特別研究a,b 認知運動科学理学療法学特講 認知運動科学理学療法学特講演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 准教授 | フルカワ ヨシツ 古川 順光 | 理学療法科学特別研究a,b 内部障害理学療法学特講 内部障害理学療法学特講演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 准教授 | クルマ ヒロノブ 来間 弘展 | 筋骨格系理学療法学特講 筋骨格系理学療法学特講演習 | 健康福祉学部 |
| 兼任 | 客員教授 | スズキ マサト 鈴木 政登 | 障害予防理学療法学特講 障害予防理学療法学特講演習 | 東京慈恵会医科大学 |
| 兼任 | 講師 | コジマ ハシメ 小島 肇 | 障害予防理学療法学特講 | 社会医学技術学院 |
| 兼任 | 講師 | シラタニ トモコ 白谷 智子 | 固有受容性神経筋促通学特講 固有受容性神経筋促通学特講演習 | 苑田第二リハビリテーション部 |

2019年度 教員一覧（博士後期課程 作業療法科学域）

（人間健康科学研究科 人間健康科学専攻 博士後期課程）

| 専任・兼任 の別 | 職名 | フリガナ 氏名 | 担当授業科目名 | 備考 (兼任講師所属) |
|-------------|-----|---------------------------|---|----------------|
| 専任 | 教授 | イシイ ヨシカズ 石井良和 | 作業療法科学特別研究a,b 作業行動学特講 作業行動学特講演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 教授 | オオシマ ノブオ 大嶋 伸雄 | 作業療法科学特別研究a,b 認知作業療法学特講 認知作業療法学特講演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 教授 | コバヤシ リカズ 小林 法一 | 作業療法科学特別研究a,b 老年地域参加支援学特講 老年地域参加支援学特講演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 教授 | コバヤシ リュウジ 小林 隆司 | 作業療法科学特別研究a,b 作業生活支援学特講 作業生活支援学特講演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 教授 | シオジ リエコ 塩路 理恵子 | 作業療法科学特別研究a,b 精神神経機能障害学特論 精神神経機能障害学特論演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 教授 | ボンジェ ペーター Bontje Peter | 作業療法科学特別研究a,b 作業科学特講 作業科学特講演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 准教授 | ハシモト ミメ 橋本 美芽 | 作業療法科学特別研究a,b 生活環境分析学特講 生活環境分析学特講演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 准教授 | イムタ ヒロミ 蘭牟田 洋美 | 作業療法科学特別研究a,b 老年心理行動分析学特講 老年心理行動分析学特講演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 准教授 | イノウエ カオル 井上 薫 | 作業療法科学特別研究a,b 福祉機器関連適用学特講 福祉機器関連適用学特講演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 准教授 | イトウ ユウコ 伊藤 祐子 | 作業療法科学特別研究a,b 児童青年発達期作業療法学特講 児童青年発達期作業療法学特講演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 准教授 | タニムラ アツコ 谷村 厚子 | 作業行動学特講 作業行動学特講演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 准教授 | ミヤモト レイコ 宮本 礼子 | 老年地域参加支援学特講 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 准教授 | イシハシ ユウ 石橋 裕 | 作業生活支援学特講 | 健康福祉学部 |

2019年度 教員一覧 (博士後期課程 放射線科学域)

(人間健康科学研究科 人間健康科学専攻 博士後期課程)

| 専任・兼任 の別 | 職名 | フリガナ 氏名 | 担当授業科目名 | 備考 (兼任講師所属) |
|-------------|-----|---------------------|--|----------------|
| 専任 | 教授 | オグラ イズミ 小倉 泉 | 放射線科学特別研究a 放射線科学特別研究b 放射線科学特講 医用計測システム学特講 医用計測システム学特講演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 教授 | カトウ ヨウ 加藤 洋 | 放射線科学特別研究a 放射線科学特別研究b 放射線科学特講 放射線計測学特講 放射線計測学特講演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 教授 | サイトウ ヒデトシ 齋藤 秀敏 | 放射線科学特別研究a 放射線科学特別研究b 放射線科学特講 放射線治療物理学特講 放射線治療物理学特講演習 特別臨床研修 I、II | 健康福祉学部 |
| 専任 | 教授 | シラカワ タカコ 白川 崇子 | 放射線科学特別研究a 放射線科学特別研究b 放射線科学特講 医用画像診断学特講 医用画像診断学特講演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 教授 | セノオ アツシ 妹尾 淳史 | 放射線科学特別研究a 放射線科学特別研究b 放射線科学特講 画像診断システム学特講 画像診断システム学特講演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 教授 | フクシ マサヒロ 福士 政広 | 放射線科学特別研究a 放射線科学特別研究b 放射線科学特講 核医学物理学・保健物理学特講 核医学物理学・保健物理学特講演習 特別臨床研修 I、II | 健康福祉学部 |
| 専任 | 教授 | フルカワ アキラ 古川 顕 | 放射線科学特別研究a 放射線科学特別研究b 放射線科学特講 医用画像診断学特講 医用画像診断学特講演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 准教授 | イノウエ カズマサ 井上 一雅 | 放射線科学特別研究a 放射線科学特別研究b 放射線科学特講 核医学物理学・保健物理学特講 核医学物理学・保健物理学特講演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 准教授 | シンショウ キヨミツ 眞正 浄光 | 放射線科学特別研究a 放射線科学特別研究b 放射線科学特講 医用計測システム学特講 医用計測システム学特講演習 | 健康福祉学部 |

(人間健康科学研究科 人間健康科学専攻 博士後期課程)

| 専任・兼任 の別 | 職名 | フリガナ 氏 名 | 担当授業科目名 | 備 考 (兼任講師所属) |
|-------------|-----|----------------------|--|-----------------|
| 専任 | 准教授 | セキネ リオ 関根 紀夫 | 放射線科学特別研究a 放射線科学特別研究b 放射線科学特講 医用画像情報学特講 医用画像情報学特講演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 准教授 | ニューイ ヨシユキ 乳井 嘉之 | 放射線科学特別研究a 放射線科学特別研究b 放射線科学特講 医用画像情報学特講 医用画像情報学特講演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 准教授 | ヌmano トモカズ 沼野 智一 | 放射線科学特別研究a 放射線科学特別研究b 放射線科学特講 放射線診断物理学特講 放射線診断物理学特講演習 特別臨床研修 I、II | 健康福祉学部 |
| 専任 | 准教授 | ネギシ トオル 根岸 徹 | 放射線科学特別研究a 放射線科学特別研究b 放射線科学特講 画像診断システム学特講 画像診断システム学特講演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 准教授 | ミウジヨウヤマ アツシ 明上山 温 | 放射線科学特別研究a 放射線科学特別研究b 放射線科学特講 放射線治療物理学特講 放射線治療物理学特講演習 | 健康福祉学部 |

2019年度 教員一覧（博士後期課程 フロンティアヘルスサイエンス学域）

（人間健康科学研究科 人間健康科学専攻 博士後期課程）

| 専任・兼任 の別 | 職名 | フリガナ 氏名 | 担当授業科目名 | 備考 (兼任講師所属) |
|-------------|----|-------------------|---|--|
| 専任 | 教授 | キクチ ヨシアキ 菊池 吉晃 | フロンティアヘルスサイエンス特別研究a,b 脳機能解析科学特講 脳機能解析科学特講演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 教授 | ワタナベ マサル 渡辺 賢 | フロンティアヘルスサイエンス特別研究a,b 生体運動解析学特講 生体運動解析学特講演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 教授 | イツム 易 勤 | フロンティアヘルスサイエンス特別研究a,b 機能形態解析科学特講 機能形態解析科学特講演習 | 健康福祉学部 |
| 専任 | 教授 | ネコタ ヤストシ 猫田 泰敏 | フロンティアヘルスサイエンス特別研究a,b 地域保健活動評価論特講 地域保健活動評価論特講演習 | 健康福祉学部 |
| 兼任 | 講師 | コハヤカワ タツ 小早川 達 | 脳機能解析科学特講演習 | 産業技術総合研究所 ヒューマンライフテクノロジー研究 部門主任研究員 |
| 兼任 | 講師 | スズキ マサト 鈴木 政登 | 生体運動解析学特講 | 東京慈恵会医科大学 客員教授 首都大学東京客員教授 |
| 兼任 | 講師 | リウチ マドカ 則内 まどか | 脳機能解析科学特講演習 | 首都大学東京客員教授 |

2019年度 教員一覧 (博士後期課程 ヘルスプロモーションサイエンス学域)

(人間健康科学研究科 人間健康科学専攻 博士後期課程)

| 専任・兼任 の別 | 職名 | フリガナ 氏名 | 担当授業科目名 | 備考 (兼任講師所属) |
|-------------|-----|------------------------|--|-------------------------|
| 専任 | 教授 | キタ イチロウ 北 一郎 | ヘルスプロモーションサイエンス特別研究a,b ヘルスプロモーションサイエンス演習 I ヘルスプロモーションサイエンス演習 II ヘルスプロモーションサイエンス演習 III ヘルスプロモーションサイエンス演習 IV ヘルスプロモーションサイエンス演習 V ヘルスプロモーションサイエンス演習 VI ヘルスプロモーションサイエンス特講 I | 大学教育センター |
| 専任 | 教授 | フジイ ノブハル 藤井 宣晴 | ヘルスプロモーションサイエンス特別研究a,b ヘルスプロモーションサイエンス演習 I ヘルスプロモーションサイエンス演習 II ヘルスプロモーションサイエンス演習 III ヘルスプロモーションサイエンス演習 IV ヘルスプロモーションサイエンス演習 V ヘルスプロモーションサイエンス演習 VI ヘルスプロモーションサイエンス特講 I | 大学教育センター |
| 専任 | 教授 | シノダ ショウコ 篠田 粧子 | ヘルスプロモーションサイエンス特別研究a,b ヘルスプロモーションサイエンス演習 I ヘルスプロモーションサイエンス演習 II ヘルスプロモーションサイエンス演習 III ヘルスプロモーションサイエンス演習 IV ヘルスプロモーションサイエンス演習 V ヘルスプロモーションサイエンス演習 VI ヘルスプロモーションサイエンス特講 III | オープンユニバーシティ |
| 専任 | 教授 | ヒグチ タカヒロ 樋口 貴広 | ヘルスプロモーションサイエンス特別研究a,b ヘルスプロモーションサイエンス演習 I ヘルスプロモーションサイエンス演習 II ヘルスプロモーションサイエンス演習 III ヘルスプロモーションサイエンス演習 IV ヘルスプロモーションサイエンス演習 V ヘルスプロモーションサイエンス演習 VI ヘルスプロモーションサイエンス特講 II | 大学教育センター |
| 専任 | 准教授 | ヤマウチ ジュンイチロウ 山内 潤一郎 | ヘルスプロモーションサイエンス演習 I ヘルスプロモーションサイエンス演習 II ヘルスプロモーションサイエンス演習 III ヘルスプロモーションサイエンス演習 IV ヘルスプロモーションサイエンス演習 V ヘルスプロモーションサイエンス演習 VI ヘルスプロモーションサイエンス特講 I | 大学教育センター |
| 専任 | 准教授 | マナベ ヤスコ 眞鍋 康子 | ヘルスプロモーションサイエンス特別研究a,b ヘルスプロモーションサイエンス演習 I ヘルスプロモーションサイエンス演習 II ヘルスプロモーションサイエンス演習 III ヘルスプロモーションサイエンス演習 IV ヘルスプロモーションサイエンス演習 V ヘルスプロモーションサイエンス演習 VI ヘルスプロモーションサイエンス特講 I | 大学教育センター |
| 専任 | 准教授 | ニシジマ タケシ 西島 壮 | ヘルスプロモーションサイエンス演習 I ヘルスプロモーションサイエンス演習 II ヘルスプロモーションサイエンス演習 III ヘルスプロモーションサイエンス演習 IV ヘルスプロモーションサイエンス演習 V ヘルスプロモーションサイエンス演習 VI ヘルスプロモーションサイエンス特講 II | 大学教育センター |
| 兼任 | 講師 | ミヤサキ ヒロシ 宮崎 均 | ヘルスプロモーションサイエンス特別講義 I | 筑波大学大学院 生命環境科学研究科 教授 |

(人間健康科学研究科 人間健康科学専攻 博士後期課程)

| 専任・兼任 の別 | 職名 | フリガナ 氏名 | 担当授業科目名 | 備考 (兼任講師所属) |
|-------------|----|-------------------|-----------------------|--------------------|
| 兼任 | 講師 | ナカモト ヒロキ 中本 浩揮 | ヘルスプロモーションサイエンス特別講義II | 鹿屋体育大学 体育学部 准教授 |

V 關係諸機關

連携大学院

本学は、4つの医学系研究所と、教育研究協力に関する協定（連携大学院協定）を締結している。大学院生は、同センターの研究者である客員教員からの研究指導を受けることができる。

- 1 地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター
〒173-0015 東京都板橋区栄町 35 番 2 号
電話：03(3964)3241（代）



※東武東上線「大山」駅下車、南口・北口より徒歩4分（80m/分）
都営地下鉄三田線「板橋区役所前」駅下車、A3出口から徒歩11分（80m/分）

- 2 公益財団法人 東京都医学総合研究所
〒156-8506 東京都世田谷区上北沢 2-1-6
電話：03-5316-3100（代表）



※京王線「上北沢」駅から徒歩12分 京王線「八幡山」駅から徒歩18分

3 国立研究開発法人 国立がん研究センター
築地キャンパス

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1
中央病院、研究所、社会と健康研究センター、
がん対策情報センター、管理棟、国際研究交流会館



- ・都営地下鉄 大江戸線 築地市場駅A3番出口から徒歩1分
- ・東京メトロ 日比谷線 築地駅2番出口から徒歩5分
- ・東京メトロ 日比谷線 又は 都営地下鉄 浅草線 東銀座駅6番出口から徒歩5分
- ・東京メトロ 有楽町線 新富町駅4番出口から徒歩10分

柏キャンパス

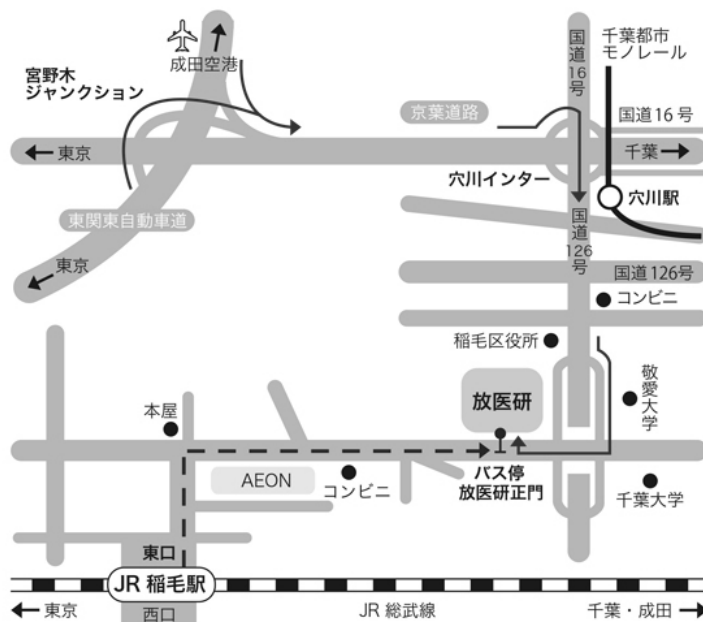
〒277-8577 千葉県柏市柏の葉 6-5-1
東病院



- ・つくばエクスプレス 柏の葉キャンパス駅西口から、東武バス（国立がん研究センター経由）江戸川台駅東口行きまたは流山おおたかの森駅東口行き6分 国立がん研究センター下車またはタクシー4分
- ・JR 常磐線・東京メトロ千代田線・東武野田線 柏駅西口から、東武バス国立がん研究センター行き 30分またはタクシー20分

4 国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所

〒263-8555 千葉県千葉市稲毛区穴川 4丁目9番1号
電話 043-251-2111（代表）



※JR 稲毛駅東口より徒歩 10分

JR 稲毛駅東口バスターミナル（2番乗り場）より乗車→放医研正門下車

2019 年度（平成 31 年度）
履 修 の 手 引 き
授 業 概 要（シラバス）

首都大学東京 大学院 人間健康科学研究科
（博士前期課程・博士後期課程）

平成 3 1 年 4 月 1 日発行

発 行 首都大学東京 荒川キャンパス管理部学務課
〒116-8551 東京都荒川区東尾久 7 丁目 2 番 10 号
TEL 03 (3819) 1211(代)

印 刷 三幸かわさき株式会社
